驗トシ第一次試驗ノ際體格檢査ヲ行フ

第一次試驗ニ合格シタル者ニ非サレハ第二次試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第十條　第一次試驗ハ左ノ科目ニ就キ之ヲ行フ

一　讀書　漢字交リ文
二　作文　書牘、記事若ハ論說文
二　筆蹟　楷書、行書

第十一條　第二次試驗ハ左ノ科目ニ就キ之ヲ行フ

一　算術　筆算(比例)、珠算(四則)
二　地理　本邦及外國地理ノ大要
三　歷史　本邦歷史ノ大要

以上ノ科目ハ悉ク之ヲ課ス

一　郵便、郵便爲替及貯金ニ關スル法令ノ大要
二　電信及電話ニ關スル法令ノ大要
三　會計法規ノ大要

以上ノ科目ハ受驗者ヲシテ其ノ一ヲ選擇セシム

一　綴記　官用簿記
二　朝鮮語　讀方、譯文、會話

但シ朝鮮人志願者ニ對シテハ之ヲ課セス

三　外國語

以上ノ科目ハ受驗者ノ希望ニ依リ之ヲ課ス

第十二條　試驗ハ各科目百點ヲ以テ滿點トシ一科目四十點未滿又ハ各科目平均六十點未滿ノ者ハ不合格トス

第十三條　試驗合格者ハ朝鮮總督府文官普通試驗委員之ヲ査定ス

第十四條　合格證書ハ朝鮮總督府文官普通試驗委員之ヲ作成シ試驗合格者ニ交付ス

合格證書ノ有效期間ハ其ノ日附ヨリ滿二箇年トス

第十五條　試驗合格者ノ氏名ハ朝鮮總督府官報ヲ以テ之ヲ公示ス

第十六條　試驗委員長ハ遞信局長官ヲ以テ之ニ充テ試驗委員ハ若干名トシ遞信局長官之ヲ命免ス

第十七條　受驗者ノ體格檢査ハ試驗施行地ノ鐵道醫ヲシテ又ハ醫師ニ囑託シテ之ヲ行フヘシ

第十八條　試驗ニ關スル必要ノ手續ハ試驗委員長之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年一月統監府令第二號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

別紙書式(用紙美濃、宇體楷書)

遞信書記補志願
私儀遞信書記補志願ニ付御試驗被成下度別紙履歷書相添此段相願候也
但シ選擇科目何何
希望科目何何
年　月　日
族籍住所
氏　名㊞

試驗委員長宛

履歷書

本籍　族籍
氏　名
一　道廳府縣何市何郡區何町村何番地戶主又ハ何某何男兄弟伯叔父等
現住所
一　何何(何某方)
住所ノ移轉
一　何年何月何地ニ生レ何年何月マテ居住
一　何年何月何地ニ移轉シ何年何月マテ居住
右ハ居住ヲ移轉スル毎ニ之ヲ記スヘシ

學事

一　何年何月ヨリ何地何某ニ就キ又ハ官公私立何學校ニ於テ何學ヲ修メ何年何月ニ至ル所修ノ科目大略何何
一　何年何月ヨリ何地官公私立何學校ニ入リ何學科ヲ修業シ何年何月卒業ス其ノ證書ノ寫別紙ノ如シ
修業何年何月間ニシテ其ノ科目ハ何何
一　何年何月何地何學校若ハ何地ニ於テ何何ノ試驗ヲ受ケ及第ス其ノ證書若ハ免許狀ノ寫別紙ノ如シ
受驗ノ科目ハ何何

職業

一　何年何月何地何某ニ就キ又ハ官公私立何學校何科教員
一　何年何月ヨリ何地官公私立何學校何科教員トナリ教授ニ從事シ何年何月解職其ノ間何何ヲ兼勤シ何何ノ事務ニ從事ス其ノ辭令左ノ如シ

此所ニ辭令ノ全文ヲ各通トモ揭クヘシ又私立學校等ニテ辭令ナキモノハ其ノ俸給等ヲ本文ニ記スヘシ

一　何年何月何官廳ニ於テ何何拜命何年何月マテ何何ノ事務ニ從事シ何年何月辭職其ノ辭令左ノ如シ

此所ニ官記辭令各其ノ全文ヲ揭クヘシ

一　何年何月ヨリ何年何會社ニ傭ハレ給料何圓何ノ業務ニ從事シ何年何月解傭其ノ間給料ノ增減
一　何年何月ヨリ何年何月マテ何業ニ從事ス

賞罰

一　何年何月何地ニ於テ何何ノ事由ノ爲賞ヲ受ク

辭令全文ヲ揭クヘシ辭令ナキモノハ本文中ニ受賞ノ事由ヲ記スヘシ

一　何年何月何地ニ於テ何何ノ事由ノ爲罰ヲ受ク

辭令アルモノハ各其ノ全文ヲ揭ケ辭令ナキモノハ本文中ニ其ノ事由ヲ記シ又裁判所ノ宣告書ハ其ノ要ヲ記スヘシ總テ罰ハ其ノ受罰ノ日數科料罰金ノ額等ヲ記スヘシ

一　何年何月何地ニ於テ身代限ノ處分ヲ受ケ何年何月負債ノ辨濟ヲ爲シタルコト又ハ破產若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ何年何月復權シタルコト

裁判所ノ申渡ヲ記スヘシ

一　破產若ハ家資分散ノ宣告又ハ身代限ノ處分ヲ受ケタルコトナシ

右之通相違無之候也

右
氏　名㊞

●朝鮮總督府道警部及道警部補特別任用ニ關スル考試規程

大正九年十二月
總令第百九十六號

朝鮮總督府道警部及道警部補特別任用ニ關スル考試規程左ノ通定ム

朝鮮總督府道警部及道警部補特別任用ニ關スル考試規程

第一條　朝鮮總督府道警部及道警部補特別任用ニ關スル學術試驗及實務考査ハ本規程ニ依ル

第二條　考試委員長ハ警務局長ノ申請ニ依リ朝鮮總督府道警部及道警部補特別任用ノ學術試驗及實務考査ニ合格シタルコトヲ證ス

考試委員長
官位勳功　氏名㊞

(別記)

第何號(番號ハ成績順トス)

考試合格證書

朝鮮總督府道巡査

生年月日

用紙鳥ノ子(縱八寸橫一尺)

判任文官特別任用令ニ依リ朝鮮總督府道警部及道警部補特別任用ノ學術試驗及實務考査ニ合格シタルコトヲ證ス

大正　年　月　日

考試委員長
官位勳功　氏名㊞

第七條　學術試驗ノ道第三部勤務ノ者及警察署所在地在勤者ニ對シテハ半數宛勤務當日交代時間前ニ之ヲ行ヒ其ノ他ノ者ニ對シテハ每月一回以上所屬警察署ニ召集シテ之ヲ行フヘシ

第五條　巡視訓授ハ巡視ノ際警察官駐在所及警察官出張所其ノ他遠隔ノ地ニ勤務ノ者ニ對シテ之ヲ行フヘシ

第六條　道第三部、警察署、警察官派出所、警察官駐在所及警察官出張所ニハ別紙第一號樣式ノ訓授簿ヲ備ヘ置キ訓授月日訓授者官氏名及訓授事項ヲ詳細記載シ置クヘシ

監督者巡視ノ際注意シタル事項ハ訓授ノ形式ニ依ラサルモノト雖受訓者ハ總テ之ヲ訓授簿ニ記載スヘシ

第七條　警察署長ハ訓授シタル事項ニシテ受訓者以外ノ者ニモ周知セシムル必要アリト認ムルトキハ之ヲ謄寫シ警察署、警察官派出所、警察官駐在所及警察官出張所ニ配付スヘシ

前項ノ配付ヲ受ケタルトキハ關係道巡査ニ回覽ノ後別ニ之ヲ編綴シ置クモノトス

第八條　警察署長ハ每月十日迄ニ別紙第二號樣式ニ依リ前月中ニ於ケル訓示ノ狀況ヲ道知事ニ報告スヘシ

(第一號樣式)

月日	訓授件名	訓授者官氏名	訓授事項概要	受訓者員數

(第二號樣式)

月日	件	名	受訓者員數
		內地人巡査　名	
		朝鮮人巡査　名	

●朝鮮總督府道巡査點檢規則

大正九年十一月
總訓第六十一號

朝鮮總督府道巡査點檢規則左ノ通定ム

朝鮮總督府道巡査點檢規則

第一章　總則

第一條　點檢ヲ別チテ通常點檢及物品點檢トス

第二條　通常點檢ハ人員、規律ノ弛張、委勢、

服裝、日常ノ携帶品及禮式ヲ檢査ス

第三條　物品點檢ハ給與品及貸與品ノ保存竝代料ヲ以テ給與スル物品ノ適否ヲ檢査スルモノトス

第四條　點檢ハ道警察部ニ在リテハ第三部長又ハ警務課長、警察署ニ在リテハ警察署長點檢官トナル次席者指揮官タルヘシ但シ第三部長點檢ヲ行フトキハ警務課長又ハ警察署長指揮官タルヘシ

點檢官又ハ指揮官事故アルトキハ次席者ニ於テ順次之ヲ代理スヘシ

第八條　第二項ニ依リ警察官駐在所又ハ警察官出張所ニ於テ點檢ヲ行フトキハ上席者指揮官タルヘシ

第五條　點檢官點檢ヲ行フトキハ指揮官ハ之ニ附隨スヘシ

第六條　點檢ヲ行フニ際シ指揮官ノ動作竝受檢者ノ姿勢、整頓、行進其ノ他ノ動作及其ノ呼稱ハ特ニ規定スルモノノ外警察官操典ニ依ル

第七條　點檢官點檢ヲ終リタルトキハ其ノ成績ヲ講評シ將來注意スヘキ事項ヲ訓示スヘシ

第二章　通常點檢

第八條　通常點檢ハ道警察部及警察署ニ勤務スル者ニ付テハ半數宛勤務當日交代時間前ニ於テ之ヲ行フ但シ禮式及刀身ノ點檢ハ一週一回迄ニ減シ尚其ノ一部ヲ省略スルコトヲ得

警察官駐在所、警察官出張所其ノ他遠隔ノ地ニ勤務スル者ニ對シテハ召集ノ際又ハ監督者巡視ノ際ニ於テ之ヲ行フ但シ警察官駐在所及警察官出張所ニ勤務スル首席者ハ其ノ所員ニ對シ本條第一項ニ準シ點檢ヲ行フヘシ

第九條　通常點檢ノ順序左ノ如シ

一　人員
二　委勢服裝
三　刀身
四　手帖、名刺、非常準備金
五　捕繩
六　警笛
七　禮式

前項ノ點檢ヲ行フニ當リテハ當ニ規律ノ弛張ニ注意スヘシ

第十條　點檢ノ隊形ハ通常二列横隊ヲ作ルモノトス但シ人員ノ多寡及地形ニ依リ適宜斟酌シテ之ヲ行フコトヲ得

第十一條　防寒又ハ降雨ノ際ニハ外套ヲ著用セシムルコトヲ得但シ各員一定ナル要ス

第十二條　手帖及非常準備金ハ上衣ノ左上隱ニ警笛ハ長サ口ニ達スル革ヲ度トスル黒色紐（夏服ヲ著スルトキハ白色紐）ヲ附シ同右隱ニ納メ紐ノ一端ヲ其ノ上端ニ結著ケ捕繩ハ袴ノ右隱ニ納ムルモノトス

外套ヲ著スルトキハ警笛及捕繩ハ其ノ右下隱ニ納ムルモノトス

第十三條　名刺ハ常ニ五枚以上ヲ手帖ノ物入ニ納メ非常準備金ハ三圓以上ヲ所持スヘシ

第十四條　點檢ヲ始ムルニハ指揮官ハ警笛ノ一長聲又ハ「集レー」ノ號令ヲ下シ身幹順ニ集合整列セシムヘシ

若シ二列横隊ニ非サル隊形ヲ作ル必要アルトキハ「何何ニ集レー」ノ號令ヲ下スヘシ

此ノ集合命令ニテ各員ハ速ニ指揮官ノ許ニ集リ之ニ面シ凡六歩ヲ隔テ整列スヘシ

第十五條　集合終レハ指揮官ハ朝鮮總督府警察操典第四十五ニ依リ整頓セシメ左ノ號令ヲ下ス

前列六歩前ヘー進メ

第十六條　前條ノ動作終レハ點檢官第一列ノ右翼前面ヨリ左翼ヲ通過シ背後ニ回リ（第二列ニ及ホシ）委勢服裝及刀ヲ檢査スヘシ

第十七條　前條ノ檢査ヲ終リ刀身ノ檢査ヲ爲ス場合ハ左ノ號令ヲ下シ各員ノ距離間隔ヲ取ラシメ拔刀セシム但シ人員少數ナルカ又ハ土地ノ狀況ニ依リテハ適宜ノ號令ヲ以テ間隔ヲ取ラシムルコトヲ得

一　奇（偶）數員三歩前ヘー進メ

二　拔ケ刀

前項ノ場合兩翼嚮導ハ奇（偶）數員ト共ニ前進シ所要ノ間隔ヲ取ルモノトス

拔刀動作終レハ點檢官ハ第一列右翼ヨリ刀身及刀ノ把持法ヲ檢査スヘシ

刀身ノ檢査終レハ指揮官ハ左ノ號令ヲ以テ刀ヲ納メシムヘシ

納メ刀

第十八條　前條ノ動作ヲ終リタル後指揮官ハ左ノ號令ヲ下シ舊形ニ復サシムヘシ

偶（奇）數員三歩前ヘー進メ

第十九條　刀身ノ檢査終リタルトキハ指揮官ハ手套ヲ取ラシメ左ノ號令ヲ下シ順次手帖、名刺、捕繩及警笛ヲ一員毎ニ第一列右翼ヨリ檢査スヘシ

一　手帖

列員ハ右手ニ左手ヲ添ヘ手帖ヲ取出シ塵印ヲ押捺シアル部分ヲ開キ名刺ヲ其ノ對面ノ所ニ置キ氏名ヲ前方ニ向ケ之ヲ右手ニ保持シ拇指ヲ以テ其ノ中央ヲ押ヘ肘ヲ體ニ接シ臂ヲ水平ニ前方ニ出シ左手ハ直ニ垂下ス

二　納メ

速ニ左手ヲ添ヘテ手帖ヲ閉チ左手ニテ隱ノ蓋ヲ開キ右手ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

非常準備金ハ必要アル場合之ヲ檢査スヘシ

三　捕繩

列員ハ右手ヲ以テ捕繩ヲ取出シ解口ヲ前方上部ニ向ケ（一）ノ要領ニ依リ之ヲ保持スヘシ

四　解繩

左手ヲ添ヘ迅速ニ解繩シ之ヲ前方ニ伸ハシ拇指ヲ上ニシテ其ノ一端蛇口ノ部ヲ約二寸餘シテ之ヲ握リ直ニ左手ヲ垂下ス

五　納メ

左手ヲ添ヘ假ニ捕繩ヲ繰纏メ之ヲ納ム解繩セサルトキハ右手ニテ速ニ之ヲ納ム

六　警笛

列員ハ右手ヲ以テ警笛ヲ出シ口ヲ前方トシ横穴ヲ下方ニ向ケ拇指ト食指ヲ以テ（一）ノ要領ニ依リ之ヲ保持ス

七　發聲

列員ハ前列右翼ヨリ順次吹鳴スヘシ

八　納メ

列員ハ速ニ警笛ヲ納ムヘシ

前項ノ檢査ヲ終リタルトキハ手套ヲ著セシ

ムヘシ

第二十條　禮式ノ點檢ヲ行ハムトスルトキハ

先ツ前列後列ヲ分チ相當ノ間隔チ以テ相對向セシメ點檢官指揮官ハ相對向シ兩側面ニ立チ適宜ノ號令又ハ指示ヲ以テ之ヲ行フ

停止間ノ敬禮ハ指揮官ヲ以テ受禮者ニ擬シ行進間ノ敬禮ハ其ノ一方ヲ行禮者他方ヲ受禮者ニ擬シ列員ノ各右翼ヨリ順次ニ之ヲ行ハシム但シ書類物件ヲ受ケ又ハ之ヲ呈スル場合ノ敬禮ハ適宜奇數員ヲ拜受者偶數員ヲ捧呈者ニ擬シ之ヲ行ハシムヘシ

停止間ノ敬禮終リタルモノハ其ノ舊位置ニ復シ行進間ノ敬禮終リタル者ハ其ノ對面ノ列員ノ背後ニ立ツ

第三章　物品點檢

第二十一條　物品點檢ハ道警察部及警察署勤務ノ者ハ毎月一回各其ノ所屬廳ニ於テ之ヲ行フ

警察官駐在所、警察官出張所其ノ他遠隔ノ地ニ勤務スル者ニ對シテハ前項ニ準シ監督者巡視ノ際之ヲ行フ

第二十二條　物品ノ點檢ヲ行ハムトスルトキハ受檢者ハ其ノ現ニ著裝セルモノヲ除クノ外左ノ順序ニ依リ之ヲ豫定ノ場所ニ整頓シ之ニ名刺ヲ添附シ各自其ノ傍ニ在ルヘシ

一　衣、袴、襟、肩章、手套、外套、綿革

二　下著、靴下、脚絆

三　長靴、短靴

四　提燈及其ノ附屬品

五　通常點檢ニ供セサル物品及銃ノ附屬品竝彈藥

第二十三條　物品ノ整頓終レハ指揮官ハ點檢官ノ臨場ヲ請ヒ其ノ物品ヲ一廠毎ニ披展シ若ハ受檢者ヲシテ之ヲ披展セシメ點檢スヘシ

點檢官ハ物品ノ員數、使用保管修理洗濯ノ適否及代料渡ノモノニ在リテハ其ノ品質ノ良否ヲ詳細ニ點檢シ不都合ト認ムルモノハ期日ヲ定メ之ヲ補塡修理其ノ他ノ處置ヲ爲サシムヘシ

附　則

警部補ノ點檢ニ付テハ本則ニ準シ適宜之ヲ斟

酌シ所屬上官ニ於テ之ヲ行フヘシ

警察官操典

大正十三年三月
總訓第四號

改正　大正十二年九月第二九號

警察官操典左ノ通改正ス

朝鮮總督府警察官操典目次

第一章　總則
第二章　各個教練
第一節　徒手教練
第一款　不動ノ委勢
第二款　轉廻
第三款　行進
第二節　執銃教練
第一款　立銃ニ於ケル不動ノ委勢
第二款　銃ノ操法
第三款　起劍及伏劍
第四款　裝塡及抽出
第五款　射撃
第六款　轉廻及行進
第三章　小隊教練
第一節　總則
第二節　編成
第三節　整頓
第四節　行進及行進間ノ動作
第五節　叉銃、解銃、裝塡及抽出
第六節　解散及集合
第七節　射撃
第八節　散開教練
第四章　中隊教練
第一節　總則
第二節　密集教練
第三節　散開教練
第五章　刀ノ操法
第六章　拳銃ノ操法
第七章　銃及刀ノ操法
朝鮮總督府警察官操典

第一章　總則

第一　警察官吏ノ操練ハ本令ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第二　操練ハ警察官吏ニ必要ナル規律的訓練ヲ施シ兼ネテ諸制式ニ習熟セシムルヲ以テ目的トス

第三　操練ハ順序ヲ逐ヒ節ヲ繁ニ入リ其ノ經過ヲ急遽ナラシメサルト共ニ特ニ基礎的訓練ヲ重シ良習慣ヲ馴致セシムルコトヲ努ムヘシ

第四　操練ノ時間及方法ハ警察官吏ノ體力ヲ斟酌シテ之ヲ定ムヘシ但シ實際ニ臨ミテハ過激ノ運動ヲ要求スルコトアルヲ以テ常ニ之ニ應スルノ訓練ヲ忘レヘカラス

第五　指揮官ノ意圖ハ號令ニ依リテ告達スルヲ例トス

號令ハ堅確ノ決意、厳肅ノ態度、明確ノ音調ヲ以テ發唱スヘシ號令ニシテ其ノ意ヲ盡ササルニ至リ初テ命令ヲ用ウヘシ命令簡明剴切ニシテ下達迅速ナルヲ要ス

號令ハ狀況ニ依リ號音又ハ記號ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第六　號令ヲ豫令及動令ニ分ツ場合ニ於テハ豫令ハ明瞭ニ長ク動令ハ活潑ニ短ク發唱シ其ノ間ニ適當ノ時間ヲ存スヘシ

本令中豫令ハ「ヲ附シテ動令ト區別ス

第七　指揮官ハ拔刀シテ號令ヲ下スモノトス

第八　執銃教練ニ在リテハ帶刀セシメサルコトヲ得帶刀セサル場合ニ於テハ必要ニ應シ銃劍ヲ著裝セシムルコトヲ得

第二章　各個教練

第一節　徒手教練

第一款　不動ノ委勢

第九　不動ノ委勢ヲ取ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

氣ヲ著ケ

兩踵ヲ一線上ニ揃ヘテ之ヲ著ケ兩足ハ約六十度ニ開キテ齊シク外側ニ向ケ兩膝ハ凝ラスシテ之ヲ伸シ上體ハ正シク腰ノ上ニ落チ著ケ且少シク前ニ傾ケ兩肩ヲ稍後方ニ引キ一樣ニ之ヲ下ケ兩臂ハ自然ニ之ヲ竝ヘ中指ヲ褲縫ノ縫目ニ當テ頸及頭ヲ眞直ニ保チ口ヲ閉チ兩眼ハ正シク之ヲ開キ前方ヲ直視ス（氣ヲ著ケノ記號ハ武器又ハ右（左）手ヲ其ノ方向ニ水平ニ出スモノトス

第十　休憩ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

休メ

先ツ左足ヲ出シ其ノ場ニ立チテ休憩ス右足ヲ出サムトスルトキハ左足ヲ舊位ニ復シ次ニ右足ヲ出シテ休憩ス休憩中ト雖濫ニ談話スルコトヲ得ス

第二款　轉廻

第十一　右（左）向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「右（左）向ケー（右（左））

カガト

踵ヲ屈スルコトナク左足尖ト右足トヲ少シク上ケ左踵ニテ九十度（右（左））ニ向ク

半右（左）向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「半右（左）向ケー（右（左））

右（左）向ヲ爲ス方法ニ依リ四十五度右（左）ニ向ク

第十二　後向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「廻レ」右

右足ヲ其ノ方向ニ引キ足尖ヲ僅ニ左踵ヨリ離シ兩足尖ヲ少シク上ケ膕ヲ屈スルコトナク兩踵ニテ後ニ廻リ次ニ右踵ヲ左踵ニ引キ著ク

第三款　行進

第十三　行進ハ勇往邁進ノ氣慨アルヲ要ス

速歩ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「前ヘ」進メ

左股ヲ少シク上ケ腿ヲ前ニ出シ右足ヨリ七十五センチメートルノ所ニ脚ヲ伸シツツ踏ミ著ケ同時ニ右足ヲ地ヨリ離シ左脚ノ場合ト同シク右腿ヲ前ニ出シテ踏ミ著ケ行進ヲ續ケ頭ヲ眞直ニ保チ兩臂ヲ自然ニ振ル帶刀ノトキハ拇令ニテ左手ヲ以テ刀柄ヲ握ル

一歩ノ長サハ踵ヨリ踵マテ七十五センチメートルトシ速度ハ一分時間百十四歩ヲ以テ基準トス

行進ノ記號ハ武器又ハ右（左）手ヲ高ク擧ク閉チ兩眼ハ正シク之ヲ開キ前方ヲ直視ス（氣ヲ著ケノ記號ハ武器又ハ右（左）手ヲ其ノ方向ニ水平ニ出スモノトス

第十四　停止セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「分隊」止レ

後ノ足ヲ一歩前ニ踏ミ出シ次ノ足ヲ引キ著ケテ止リ帶刀ノトキハ左手ヲ下ス

停止ノ記號ハ武器又ハ右（左）手ヲ高ク擧ケ直ニ下スモノトス

第十五　速歩ニテ行進中行進ヲ容易ナラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

歩調止メ

正規ノ歩法ヲ守ルコトナク速歩ノ歩長ト速度トニテ委勢ヲ崩サシテ行進ス

再ヒ正規ノ歩法ヲ取ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

歩調取レ

第十六　足踏ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「足踏ミ」進メ

進ムコトナク少シク膝ヲ屈メ交互兩足ヲ踏ミ著ケテ調子ヲ取ル

再ヒ行進セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス動令ハ通常左足ノ地ニ著カムトスルトキ下スモノトス

「前ヘ」進メ

左足ヨリ踏ミ出シ續キテ行進ス

第十七　行進間右（左）向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス動令ハ通常右（左）足ノ地ニ著カムトスルトキ下スモノトス

「右（左）向ケ前ヘ」進メ

左（右）足ヲ約半歩前ニ足尖ヲ内ニシテ踏ミ著ケ體ヲ右（左）方ニ向ケ右（左）足ヨリ新方向ニ行進ス

第十八　行進間斜行進ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス動令ハ通常右（左）足ノ地ニ著カムトスルトキ下スモノトス

「斜ニ右（左）ヘ」進メ

左（右）足ヲ約半歩前ニ足尖ヲ内ニシテ踏ミ著ケ體ヲ半右（左）方ニ向ケ右（左）足ヨリ新方向ニ行進ス

直行進ニ復セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「斜ニ左（右）ヘ」進メ

斜行進ヲ爲スト同法ヲ以テ直行進ニ復ス

第十九　行進間後向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「廻レ右前ヘ」進メ（「廻レ右ヘ」止レ）

左足ヲ約半歩前ニ足尖ヲ内ニシテ踏ミ出シ兩足尖ニテ百八十度右方ニ旋廻シ引續キ行進ス（旋廻シタル後左足ヲ引キ著ケテ止ル）

第二十　駈歩行進ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「駈歩」進メ

豫令ニテ兩手ヲ握リ腰ノ高サニ上ケ肘ヲ後ニス帶刀ノトキハ左手ヲ以テ刀柄ヲ握ル動令ニテ左足ヲ前ニ出ス兩脚ヲ少シク屈メテ僅ニ左股ヲ上ケ右足ヨリ約八十五センチメートルノ所ニ踏ミ著ケ次ニ左足ト同法ヲ以テ右足ヲ前ニ出シ常ニ體ノ重ヲ踏ミ著ケタル足ニ移シ兩肘ヲ自然ニ振リ續キテ行進ス

一歩ノ長サハ踵ヨリ踵マテ約八十五センチメートルトシ速度ハ一分時間約百七十歩ヲ以テ基準トス

駈歩行進ヨリ停止スルニハ二歩前進シタル後後ノ足ヲ一歩前ニ踏ミ出シ次ノ足ヲ引キ著ケテ止リ兩手ヲ下ス

駈歩行進ヨリ速歩行進ニ移ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「速歩」進メ

二歩前進シタル後速歩ニ移リ兩手ヲ下シ續キテ行進ス

第二十一　駈歩行進間ノ諸動作ハ速歩行進間ニ於ケル方法ニ準シテ之ヲ行フ但シ後向ヲ爲スニハ二歩前進シタル後行ヒ足踏、右（左）向又ハ斜行進ニ在リテハ通常速歩ニ於ケルヨリモ一歩前ニ動令ヲ下スモノトス

第二節　執銃教練

第一款　立銃ニ於ケル不動ノ姿勢

第二十二　立銃ニ於ケル不動ノ姿勢ヲ取ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

氣ヲ著ケ

不動ノ姿勢ヲ取リ右手ヲ以テ確實ニ銃ヲ握ル其ノ法腕關節（テクビ）ヲ稍前ニ出シ銃身ヲ拇指ト食指トノ間ニ置キ其ノ他ノ指ハ食指ト共ニ閉チ輕ク屈メテ銃床ニ添フ銃口ハ右臂ヨリ一握程（約十センチメートル）ヲ隔テ銃身ヲ後ニシ床尾踵ヲ右足尖ノ傍ニ置キ銃身ヲ垂直ニ保ツ

立銃ニ於ケル休憩ハ徒手ノ場合ニ於ケル休憩ノ方法ニ準シ照星ヲ擦ラサル如ク銃ヲ保持ス

第二款　銃ノ操法

第二十三　立銃ヨリ擔銃ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

擔ヘ銃

右手ヲ以テ銃ヲ上ケ概ネ銃身ヲ右ニ且之ヲ垂直ニシ拳ヲ略肩ノ高サニスルト同時ニ左手ヲ以テ照尺ノ下ヲ握リ次ニ銃身ヲ半前ノ方ニ向ケ少シク銃ヲ上クルト同時ニ右手ヲ伸シテ食指ト中指トノ間ニ床尾踵ヲ置ク如ク床尾ヲ握リタル後右手ヲ以テ銃ヲ右肩ニ擔ヒ銃身ヲ上ニスルト同時ニ左手ヲ遊底ノ上ニ置キ右上膊ハ輕ク體ニ接シ用心鐵ト床嘴トノ中央ヲ體ヨリ一握程離シ銃ハ上衣ノ釦ノ線ト平行セシメ槓桿ノ高サヲ概ネ其ノ第一釦（歩兵銃ニ在リテハ第一釦ト第二釦トノ中央）ノ高サニシ左手ヲ下ス

第二十四　擔銃ヨリ立銃ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

立テ銃

右手ヲ伸シテ銃ヲ下ケ銃身ヲ半右方ニ向ケ概ネ之ヲ垂直ニスルト同時ニ左手ヲ以テ照尺ノ下ヲ握リ銃ヲ下ケ銃身ヲ右ニスルト同時ニ右手ヲ以テ木被ノ所ヲ握リ其ノ拳ヲ概ネ肩ノ高サニシ銃身ヲ後ニシ之ヲ下ケ腰ニ支ヘ同時ニ左手ヲ下シ靜ニ銃ヲ地ニ著ク

第二十五　立銃ヨリ負銃ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

負ヘ銃

右手ヲ以テ銃ヲ上ケ拳ヲ略肩ノ高サニシ（歩兵銃ニ在リテハ銃身ヲ右ニシ）左手ヲ以テ負革ノ半ヲ握リ之ヲ開キ頭ヲ入レ次ニ左手ヲ離シテ銃把ヲ負革ノ外ヨリ握リ右手ヲ通シテ床尾ヲ後ニ送リ負革ノ位置ヲ正シ手ヲ下ス

第二十六　負銃ヨリ立銃ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

立テ銃

右手ヲ以テ床尾ヲ後ヨリ握リ之ヲ前ニ引キ概ネ負銃ト反對ノ順序ヲ以テ立銃ヲ爲ス

第三款　起剣（タテケン）及伏剣（フセケン）

第二十七　起剣及伏剣（著剣（ツケケン）及脱剣（トレケン））ハ停止及行進間如何ナル姿勢ニ在リテモ之ヲ行フ

起剣及伏剣（著剣及脱剣）ハ注目シテ之ヲ行フモノトス

第二十八　起剣（著剣）ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

起テ剣（著ケ剣）

立銃ニ在ルトキ起剣ヲ爲スニハ銃ノ位置ヲ變スルコトナク左手ノ拇指ニテ駐筍（トメビヨウ）ヲ押シ左手ニテ剣ヲ起シ左手ヲ下ス

立銃ニ在ルトキ著剣ヲ爲スニハ右手ヲ以テ銃ヲ左ニ傾ケ銃身ヲ少シク右ニシ銃口ヲ概ネ體ノ中央ニシ左手ヲ以テ逆ニ銃剣ノ柄ヲ握リ銃剣ヲ拔キテ確ニ銃口ノ所ニ著ケ兩手ヲ以テ銃ヲ起シ立銃ノ姿勢ニ復ス

第二十九　伏剣（脱剣）ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

伏セ剣（脱レ剣）

立銃ニ在ルトキ伏剣ヲ爲スニハ銃ノ位置ヲ變スルコトナク左手ノ甲ヲ後ニシ其ノ拇指ニテ駐筍ヲ押シ左手ニテ剣ヲ伏セ左手ヲ下ス。

立銃ニ在ルトキ脱剣ヲ爲スニハ右手ヲ以テ著剣ニ於ケル如ク銃ヲ左ニ傾ケ左手ニテ銃剣ノ柄ヲ握リ右手ヲ上ケ其ノ拇指ニテ駐筍ヲ押シ左手ニテ銃剣ヲ脱シ之ヲ右ニ倒シテ剣尖ヲ下ニシ右手ノ食指及中指ト拇指トニテ刄ヲ挾ミテ持チ其ノ他ノ指ニテ銃ヲ保チ左手ヲ翻シテ柄ヲ握リ銃剣ヲ全ク鞘ニ納メ左手ヲ以テ右手ノ下ヲ握リ右手ヲ下ケテ木被ノ所ヲ握リ兩手ヲ以テ銃ヲ起シ立銃ノ姿勢ニ復ス

第四款　裝塡及抽出

第三十　裝塡ハ通常停止間ニ於テ行フモノトス

裝塡ハ屢練習セシメ如何ナル姿勢ト場合トヲ問ハス確實迅速ニ行ハシムルヲ要ス

地上ニ落チタル彈藥ヲ使用スルニハ必ス清拭スルコトニ注意スヘシ

第三十一　裝塡ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

彈藥（タマ）ヲ込メ

立銃ニ在ルトキハ頭ヲ正面ニ保チタル儘右足尖ヲ以テ半右ニ向キツツ左足ヲ約半歩左前ニ踏ミ出シ同時ニ右手ヲ以テ銃ヲ上ケツツ前ニ倒シ左手ヲ以テ概ネ銃ノ重點ノ所ヲ握リ其ノ臂ヲ體ニ著ケ指ハ銃床ノ溝ニ置キ銃口ハ概ネ眼ノ高サニシ床鼻ヲ右乳ヨリ少シク下ニシ床尾ヲ體ニ接ス

注目シテ右手ヲ以テ下ヨリ槓桿ヲ握リ之ヲ起シツツ十分後方ニ引キ彈藥盒ノ蓋ヲ開キ彈藥ヲ撮ミ出シ彈頭ヲ前ニシ挿彈子溝ニ嵌メ拇指ノ頭ヲ彈藥ノ後部ニ當テ彈倉内ニ押入シ次ニ槓桿ヲ握リ遊底ヲ閉チ右掌ヲ以テ擊茎駐胛（ウチガネドメ）ヲ押シ右ニ廻シ（三十年式銃ニ在リテハ食指ヲ以テ副鐵鉤ヲ後ニ引キ九十度右ニ廻シ）銃ヲ安全裝置ニシ彈藥盒ノ蓋ヲ閉チタル後前方ヲ直視シ木被ノ所ヲ握リ左踵ニテ舊方向ニ向キツツ右足ヲ左足ニ引キ著ケ立銃ヲ爲ス

第三十二　彈藥ヲ抽出セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

彈藥ヲ抽ケ

立銃ニ在ルトキハ裝塡ト同一ノ姿勢ヲ取リ注目シテ右手ヲ以テ彈藥盒ノ蓋ヲ開キ右掌ヲ以テ擊茎駐胛ヲ押シ左ニ廻シ（三十年式銃ニ在リテハ食指ヲ以テ副鐵鉤ヲ後ニ引キ九十度左ニ廻シ）銃ヲ擊發裝置ニシ左手ヲ尾筒ノ所ニ持チ來リ其ノ四指ヲ伸シテ方窓部ニ當ツルカ如クシ徐ニ遊底ヲ進退シテ彈藥ヲ出シ彈藥盒ニ收ム彈藥ヲ出シ盡セハ殘彈ナキコトヲ確メタル後左手ノ指ヲ以テ受筒鈑ヲ壓シテ遊底ヲ閉チ徐ニ引鐵ヲ引キ彈藥盒ノ蓋ヲ閉チタル後前方ヲ直視シ裝塡ノ場合ト同法ニ依リ立銃ヲ爲ス

第五款　射擊

第三十三　射擊ノ姿勢ヲ取ラシムルニハ目標ヲ示シタル後左ノ號令ヲ下ス

「立射（膝射、伏射）ノ構ヘ」銃

立銃ニ在ルトキ立射ノ姿勢ヲ取ルニハ先ツ示サレタル目標ニ正對シ頭ヲ其ノ方向ニ保チタル儘裝塡ノ場合ト同法ニ依リ銃ヲ構ヘ裝塡シタル後右手ヲ以テ銃把ヲ握リ目標ニ注目ス

立銃ニ在ルトキ膝射ノ姿勢ヲ取ルニハ先ツ示サレタル目標ニ正對シ頭ヲ其ノ方向ニ保チタル儘左足ヲ約半歩右足尖ノ前ニ足尖ヲ僅ニ内ニシテ踏ミ出スト同時ニ上體ヲ半右ニ向ケ左手ヲ以テ劍鞘（帶刀ノトキハ刀鞘）ヲ前ニ拂ヒ右脚ヲ曲ケ其ノ股ヲ目標ノ方向ト殆ト直角ナル如ク平ニ地ニ著ケ臀ヲ右足ノ後方ニ於テ地ニ著ケ左脚ヲ立テ同時ニ右手ヲ以テ銃ヲ前ニ倒シ左手ヲ以テ立射ノ如ク之ヲ保チ其ノ前臂ヲ左膝ノ上ニ置キ床尾鈑ヲ右股ノ内部ニ當テ裝塡シタル後右手ヲ以テ銃把ヲ握リ目標ニ注目シ上體ヲ自然ノ方向ニ眞直ニ保ツ

立銃ニ在ルトキ伏射ノ姿勢ヲ取ルニハ先ツ示サレタル目標ニ正對シ頭ヲ其ノ方向ニ保チタル儘左手ヲ以テ彈藥盒ヲ後ニシ（歩兵銃ニ在リテハ左右ニ開キ）左足ヲ膝射ニ於ケル如ク踏ミ出スト同時ニ上體ヲ半右ニ向ケ右膝ヨリ逐次ニ地ニ著ケ刀鞘ヲ後ニ拂ヒ左手ヲ體ノ前ニ出シ地ニ著ケ體ヲ射擊方向ニ對シ約三十度ニシテ伏臥シ左手ヲ以テ立射ノ如ク銃ヲ保持シ裝塡シタル後右手ヲ以テ銃把ヲ握リ目標ニ注目シ銃把ヲ腮ノ稍前方ニ在ル如クシ兩肘ヲ地ニ支フ

何レノ姿勢ニ在リテモ銃口ヲ概ネ眼ノ高サニシ右手ノ食指ヲ用心鐵ノ内ニ入レテ伸シ裝塡シアルトキハ銃ヲ擊發裝置ニスルモノトス

射擊ノ姿勢ヲ取リタル後不具合ヲ感スルトキハ其ノ姿勢ノ儘速ニ修正シ膝射ノ姿勢ニ在リテハ體格ニ依リ臂ヲ右足ノ上ニ載スルコトヲ得

第三十四　射擊ヲ爲サシムルニハ照尺ヲ示シタル後左ノ號令ヲ下ス

各個ニ擊テ

据銃、照準及擊發ヲ爲シ要スレハ彈藥ヲ裝塡シ爾後之ヲ連續ス

第三十五　射擊ヲ中止セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

擊方待テ

銃ヲ構ヘ次發ノ用意ヲ爲ス

第三十六　射擊ヲ止メシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

擊方止メ

注目シテ銃ヲ安全裝置ニシ照尺ヲ舊位ニ復シ頭ヲ目標ノ方向ニシ立射ニ在リテハ裝塡ノ場合ト同法ニ依リテ、膝射ニ在リテハ臀ヲ地ヨリ離シ右手ヲ以テ木被ノ所ヲ握リテ立チ目標ノ方向ニ向キツツ右足ヲ左足ニ引キ著ケテ、伏射ニ在リテハ其ノ姿勢ヲ取リタルトキ概ネ反對ノ順序ヲ以テ上體ヲ起シ左足ヲ約一歩前ニ踏ミ出シ右足ヲ左足ニ引キ著ケテ立銃ヲ爲ス

第六款　轉廻及行進

第三十七　立銃ニ在ルトキ速歩行進ヲ行フニハ號令ニ依リ擔銃ヲ爲サシメタル後（「前ヘ」進メ、「駈歩」（進メ）ノ號令ニテ發進セシムルモノトス但シ帶刀ノトキハ豫令ニテ刀柄ヲ握ル

（止レ）ノ動令ニテ停止シタルトキハ（立テ銃）ノ號令ヲ下ス

第三十八　停止間立銃ニ在ルトキ轉廻及銃ヲ擔ハサル行進ヲ行フニハ右手ヲ以テ少シク銃ヲ上ケ腰ニ支ヘ運動終レハ直ニ立銃ヲ爲ス但シ帶刀ノトキハ轉廻ニ在リテハ刀鞘ヲ押ヘ行進ニ在リテハ豫令ニテ刀柄ヲ握ル

第三十九　折敷（伏臥）ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

折敷ケ（伏セ）

行進間ニ在リテ折敷ヲ爲スニハ概ネ膝射ト同一ノ姿勢ヲ取リ立銃ノトキニ於ケル如ク銃ヲ下シ之ヲ右膝ノ前ニ立テ銃身ヲ後ニシ右手ニテ木被ノ所ヲ握リ左前臂ヲ膝射ノ姿勢ニ於ケル如ク左膝ノ上ニ置ク

行進間ニ在リテ伏臥ヲ爲スニハ銃ヲ下シツツ概ネ伏射ト同一ノ姿勢ヲ取リ銃ノ木被ノ所ヲ左前臂ニ載セ槓桿ヲ上ニス

停止間ニ在リテモ亦之ニ準ス

第四十　折敷（伏臥）ニ在ルトキ起立セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

起テ

膝射（伏射）ニ在リテ射擊ヲ止ムル場合ト同法ニ依ル

第三章　小隊教練

第一節　總則

第四十一　小隊教練ハ小隊ヲシテ如何ナル場合ニ於テモ小隊長ノ號令又ハ命令ニ從ヒ擧止恰モ一體ノ如ク整正確實ニ規定ノ運動ヲ實行シ得セシムルヲ主眼トス

第四十二　小隊教練ヲ準備スル爲伍及分隊（一列又ハ二列）ヲ以テ本章ノ規定ニ從ヒ教練ヲ行フヘシ但シ號令中小隊ノ語ヲ分隊ニ換フ

第二節　編成

第四十三　小隊ハ身幹ノ順序ニ從ヒ前後二列ニ配列シテ横隊ヲ作ル其ノ前後ニ立チタル二人ヲ伍ト謂フ列員奇數ナルトキハ左翼ノ第二列ヲ缺ク之ヲ缺伍ト謂フ後列員ハ前列員ノ脊ヨリ胸迄ニ八十五センチメートルノ距離ヲ取リテ正シク前列員ニ重リ同方向ニ位置ス各列員ノ間隔ハ左手ヲ腰ニ當テ肘ヲ側方ニ張リタルトキ輕ク左隣員ノ右臂ニ觸ルルヲ度トス

小隊ノ各伍ハ第一列ニ於テ右ヨリ左ニ番號ヲ附ス之ヲ小隊ノ正面トス

小隊ハ場合ニ依リ若干ノ分隊ニ分ケ警部補巡査部長又ハ先任巡査ヲ以テ分隊長ト爲シ右翼ヨリ順序ニ番號ヲ附ス一分隊ハ四乃至八伍トス

小隊ノ兩翼前列ニ各一名ノ嚮導ヲ置ク右ニ在ル者ヲ右翼嚮導ト謂ヒ左ニ在ル者ヲ左翼嚮導ト謂フ分隊ニ分チタルトキハ兩翼ノ分隊長ハ嚮導ト爲リ其ノ他ノ分隊長ハ各分隊ノ中央伍ニ重リ後列ヨリ二歩ノ所ニ位置ス之ヲ押伍ト謂フ

第三節　整頓

第四十四　整頓完成スルトキハ各列員整頓線上ニ就キ足ノ位置ヲ正シクシ頭、肩又ハ上體ヲ前後ニ出スコトナク正シキ姿勢ヲ取リ頭ヲ右（左）ニ廻ストキ右（左）ノ眼ヲ以テ右（左）隣員ヲ視他ノ眼ヲ以テ全線ヲ視通スコトヲ得ルモノトス足ノ位置正シカラサル者アルトキハ之カ爲兩肩整頓線ニ在ラスシテ其ノ害自己ニ止ラス必ス隣員ニ及ホスモノトス

第四十五　小隊ヲ整頓セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

嚮導（何）歩前ヘ

兩翼嚮導ハ銃ヲ擔ハスシテ前進シ小隊長ハ其ノ位置ヲ正ス

次ニ左ノ號令ヲ下ス

「右（左）ヘ」準ヘ

直レ

（準ヘ）ノ動令ニテ小隊ハ銃ヲ擔ハスシテ前進シ最後ノ一歩ヲ縮メテ少シク整頓線ノ後方ニ止リ次ニ頭ヲ右（左）ニ廻シ胴ヲ屈スルコトナク小歩ニテ靜ニ整頓線ニ就キ銃ヲ下ス但シ翼嚮導及列員ハ左手ヲ腰ニ當テ肘ヲ側方ニ張リ後列及押伍列ニ在ル者ハ正シク前方ノ列員ニ重リテ距離ヲ取リ右（左）ノ方ニ整頓ス

整頓翼ノ嚮導ハ速ニ整頓ノ基礎ヲ定ムル爲反對翼ノ嚮導ヲ目標トシ己ニ近キ二三列員ノ位置ヲ正シ要スレハ逐次ニ整頓ヲ正ス反對翼ノ嚮導ハ要スレハ己ニ近キ二三列員ノ位置ヲ正シ以テ整頓ヲ補助ス

其ノ位置ニ於テ整頓セシムルニハ單ニ（「右（左）ヘ」準ヘ）（直レ）ノ號令ヲ下ス

第四十六　小隊右（左）向ヲ爲スニハ偶數員（奇數員）ハ奇數員（偶數員）ノ右（左）ニ出テ伍ヲ組ミ四員相併ヒ側面向トナリ兩翼嚮導及押伍ハ各其ノ位置ニ在リテ右（左）向ヲ爲ス

側面向ニ在リテ左（右）向ヲ爲スニハ伍ヲ解キ正面向トナル

第四十七　小隊後向ヲ爲ストキハ兩翼嚮導及缺伍ハ前列ニ就ク

第四節　行進及行進間ノ動作

第四十八　直行進ハ常ニ右方ニ嚮導ヲ取ル若左方ニ取ルトキハ特ニ之ヲ示スヘシ

小隊長ハ通常號令ヲ下スニ先チ行進目標ヲ嚮導ニ示スモノトス

小隊ハ一齊ニ行進ヲ起シ嚮導ニ準ヒテ行進シ嚮導ハ列員ニ關スルコトナク正規ノ歩長ト速度トヲ保チ目標ニ向ヒ若ハ正面ト直角ニ行進ス

各列員ハ嚮導ニ準ヒテ整頓スル爲頭ヲ廻スコトナク常ニ隣員ニ注意スヘシ然レトモ一般ニ整頓ハ歩長及速度ノ齊一ト間隔ノ保存トニ依リテ保持シ得ルモノトス

行進中擔導ヲ他翼ニ取トキハ（擔導左（右）ノ號令ヲ下ス

第四十九　行進間列員ノ遵守スヘキ要項左ノ如シ

一　頭ハ擔導何レノ方ニ在ルモ常ニ正シク保ツヘキコト

一　整頓翼ノ方ヨリ押シ來ルトキハ之ニ從ヒ反對ノ方ヨリ押シ來ルトキハ之ヲ支フルコト

一　整頓線ヨリ進ミ若ハ後レ又ハ間隔ヲ失ヒタルトキハ徐徐ニ恢復スルコト

一　歩ノ遅ヒタルトキハ踏ミ替ヲ爲シ速ニ整頓翼ノ方ナル隣員ノ歩ニ準スヘキコト

第五十　行進間ニ於テ右（左）向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「右（左）向ケ前（ヘ）進メ」

小隊ハ第十七ニ準シテ行進ス

行進間ニ於テ後向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「廻レ右前（ヘ）進メ（「廻レ右ヘ」止レ）

小隊ハ第十九ニ準シテ行進又ハ停止ス

第五十一　斜行進ニ在リテハ各列員ノ位置正シキトキハ其ノ肩五ニ並行シ右（左）斜行進ニ在リテハ各列員ノ右（左）肩其ノ右（左）隣員ノ左（右）肩ノ後方ニ在ルモノトス各列員ハ常ニ斜行スル方ニ整頓スヘキモノトス

第五十二　停止又ハ行進中二列ヨリ一列ニ移ラシムルニハ基準伍ヲ示シテ左ノ號令ヲ下ス

「一列ニ」進メ

基準伍ハ動カサルカ又ハ續キテ行進シ其ノ他ノ伍ハ停止間ニ在リテハ其ノ儘左（右）向ヲ爲シ行進間ニ在リテハ歩度ヲ伸シテ斜行シ所要ノ間隔ヲ取リ後列員ハ左ニ出テ一列ヲ作ル各列員ハ基準ノ方ニ整頓シ又ハ之ニ準ヒテ行進ス

第五十三　二列ニ復セシムルニハ基準員ヲ示シテ左ノ號令ヲ下ス

「二列ニ」進メ

一列ニ移ルト反對ノ順序ヲ以テ二列ニ復ス

第五十四　小隊ヲ止メタルトキハ兩翼擔導、押伍及後列員ハ舊位ニ復ス

第八節　散開教練

第六十九　散開教練ハ各員ヲシテ地形ヲ利用シテ行進、停止、射撃又ハ突撃スルコトニ熟セシメ且攻撃精神ヲ養成スルヲ目的トス

各員略執銃教練ヲ會得シタルトキハ散開教練ヲ始ムヘシ而シテ最初平易ナル地形ニ於テ散開シテ戰鬪スル要領ヲ會得セシムルヲ可トス

第七十　散開ニ於テハ位置、姿勢及銃ノ使用ニ關シ自由ヲ與フルモノトス是レ地形地物ヲ利用シテ射撃ノ效力ヲ發揚スルヲ主眼トシ次テ進ミ又ハ僅ニ位置ヲ偏シ若ハ身體ヲ屈シ地物ヲ利用スルコトニ熟セシムルヲ要ス然レトモ多クノ場合ニ於テハ敵ニ直進セシテ之ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「小隊ノ止レ」

小隊停止セハ號令ニ依リ立銃ヲ爲サシム

第五十五　方向ヲ換ヘシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「右（左）ニ方向ヲ換ヘ」進メ

停止間ニ在リテハ右（左）向ヲ爲シ列員ハ半右（左）向ヲ爲シ捷路ヲ經テ逐次新線ニ到リ停止シ右（左）擔導ノ方ニ整頓ス行進間ニ在リテハ其ノ右（左）翼擔導ハ右（左）向ヲ爲シ續キテ行進シ各列員ハ停止間ニ於ケル方法ニ準シ右（左）翼擔導ノ方ニ準ヒテ行進ス

停止間ニ在リテハ銃ヲ擔フコトナク行進間ニ在リテハ常ニ駈歩ヲ用ウ

少シク方向ヲ換ヘシムルニハ豫メ新目標（方向）ヲ示スヘシ

第五十六　側面向ノ行進ニ在リテハ各列員ハ常ニ舊正面ノ方ニ整頓シ擔導ノ後ニ在ル列員ハ擔導ノ進ミタル線ヲ踏ミテ行進シ其ノ他ノ列員ハ其ノ前方ノ列員ニ重リテ行進ス

第五十七　側面縦隊ノ方向ヲ換ヘシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「伍伍左（右）ヘ（「進メ」

旋廻軸ニアル列員ハ最初ノ數歩ヲ縮メ外翼ニアル列員ハ正規ノ歩長ヲ以テ行進シ常ニ旋廻軸ノ方ニ整頓シツツ先頭伍ハ小ナル環形ヲ歩ミ左（右）ニ方向ヲ換ヘ各伍ハ其ノ前ノ伍ノ旋廻シタル所ニ到リ同法ヲ以テ方向ヲ換フ

少シク方向ヲ換ヘシムルニハ豫メ新目標（方向）ヲ示スヘシ

第五十八　側面縦隊ヨリ同方向ニ横隊ヲ作ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「左（右）ヘ竝ヒ（並）進メ」

先頭ニアル擔導ハ動カサルカ又ハ續キテ行進シ列員ハ伍ヲ解キ捷路ヲ經テ横隊ヲ作リ右（左）擔導ノ方ニ整頓シ又ハ之ニ準ヒテ行進ス

第五十九　縦隊ヲ横隊ニ變換スルニハ左ノ號令ヲ下ス

「伍伍左（右）ヘ（「進メ」

旋廻軸ニアル列員ハ最初ノ數歩ヲ縮メ外翼ニアル列員ハ正規ノ歩長ヲ以テ行進シ常ニ旋廻軸ノ方ニ整頓シツツ先頭伍ハ小ナル環形ヲ歩ミ左（右）ニ方向ヲ換ヘ各伍ハ其ノ前ノ伍ノ旋廻シタル所ニ到リ同法ヲ以テ方向ヲ換フ

少シク方向ヲ換ヘシムルニハ豫メ新目標（方向）ヲ示スヘシ

第六十　側面向ノ行進ニ在リテハ各列員ハ常ニ舊正面ノ方ニ整頓シ擔導ノ後ニ在ル列員ハ擔導ノ進ミタル線ヲ踏ミテ行進シ其ノ他ノ列員ハ其ノ前方ノ列員ニ重リテ行進ス

第六十一　側面縦隊ノ方向ヲ換ヘシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「伍伍左（右）ヘ（「進メ」

旋廻軸ニアル列員ハ最初ノ數歩ヲ縮メ外翼ニアル列員ハ正規ノ歩長ヲ以テ行進シ常ニ旋廻軸ノ方ニ整頓シツツ先頭伍ハ小ナル環形ヲ歩ミ左（右）ニ方向ヲ換ヘ各伍ハ其ノ前ノ伍ノ旋廻シタル所ニ到リ同法ヲ以テ方向ヲ換フ

少シク方向ヲ換ヘシムルニハ豫メ新目標（方向）ヲ示スヘシ

第六十二　側面縦隊ヨリ同方向ニ横隊ヲ作ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「左（右）ヘ竝ヒ（並）進メ」

先頭ニアル擔導ハ動カサルカ又ハ續キテ行進シ列員ハ伍ヲ解キ捷路ヲ經テ横隊ヲ作リ右（左）擔導ノ方ニ整頓シ又ハ之ニ準ヒテ行進ス

第六十三　横隊ヲ縦隊ニ變換スルニハ左ノ號令ヲ下ス

「伍伍左（右）ヘ（「進メ」

旋廻軸ニアル列員ハ最初ノ數歩ヲ縮メ外翼ニアル列員ハ正規ノ歩長ヲ以テ行進シ常ニ旋廻軸ノ方ニ整頓シツツ先頭伍ハ小ナル環形ヲ歩ミ左（右）ニ方向ヲ換ヘ各伍ハ其ノ前ノ伍ノ旋廻シタル所ニ到リ同法ヲ以テ方向ヲ換フ

少シク方向ヲ換ヘシムルニハ豫メ新目標（方向）ヲ示スヘシ

第六十四　小隊ヲ解散セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「解ケ（ツヅ）銃」

偶數伍ノ後列員ハ左足ヲ踏ミ出シ右手（歩兵銃ニ在リテハ兩手）ヲ以テ其ノ銃ヲ取リ其ノ他ノ三名（奇數伍ノ後列員ハ右足ヲ踏ミ出シ）左手ヲ以テ上帶ノ下、右手ヲ以テ下帶ノ上ヲ握リ銃ヲ上ケ靜ニ組ミ合セ解キ立銃ヲ爲ス

擔導、押伍及共ニ又銃ヲ爲シタル奇數ノ左翼伍ハ（集レ）ノ號令ニテ其ノ銃ヲ取ル

第六十三　裝塡スルニハ後列員ハ約一歩左前ニ距離ヲ縮メ動作終レハ舊位ニ復ス彈藥ヲ抽出スルトキ亦同シ

第六節　解散及集合

第六十四　小隊ヲ解散セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「解レ（ツヅレ）」

又銃シアルトキハ列員ハ之ニ關ルコトナク解散スヘシ

第六十五　小隊ヲ集合セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「集レ」

右翼擔導ハ速ニ小隊長ノ許ニ集リ之ニ面シ凡六歩ノ距離ヲ取リ各列員ハ其ノ左ノ方ニ番號ノ順序ニ從ヒ二列トナリ整頓ス

又銃ヲ爲シ解散シアルトキハ各員ハ直ニ又銃ノ所ニ集リ靜ニ己ノ位置ニ就ク

第七節　射撃

第六十六　射撃ヲ行フニハ豫メ方向、目標、姿勢及照尺要スレハ照準點ヲ令スルモノトス

正面ハ目標ニ對スル方向ト成ルヘク直角ナルヲ可トス故ニ要スレハ豫メ方向ヲ換フヘシ

兩翼擔導及押伍ハ豫令ニテ列員ノ後方ニ移リ立射ニ在リテハ動作スルコトナク膝射（伏射）ニ在リテハ折敷（伏臥）ノ姿勢ヲ取リ銃ヲ構フルコトナシ

伏射ハ通常一列ニテ行フモノトス

第六十七　射撃ヲ爲サシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス

前方ノ森ノ右ニ現ハレタル敵

「立射（膝射・伏射）ノ構ヘ」銃（ヨン・ナナ）

四百・七十・九百（千百・千二百）

各箇ニ射テ

「立射（膝射・伏射）ノ構ヘ」ノ豫令ニテ後列員ハ裝塡ニ於ケル如ク距離ヲ縮メ動令ニテ前後列員共ニ射撃ノ姿勢ヲ取ル

（各箇ニ撃テ）ノ號令ニテ各列員ハ各箇ニ射撃ヲ連續ス

第六十八　射撃ヲ止メタルトキハ兩翼擔導、押伍及後列員ハ舊位ニ復ス

第八節　散開教練

第六十九　散開教練ハ各員ヲシテ地形ヲ利用シテ行進、停止、射撃又ハ突撃スルコトニ熟セシメ且攻撃精神ヲ養成スルヲ目的トス

各員略執銃教練ヲ會得シタルトキハ散開教練ヲ始ムヘシ而シテ最初平易ナル地形ニ於テ散開シテ戰鬪スル要領ヲ會得セシムルヲ可トス

第七十　散開ニ於テハ位置、姿勢及銃ノ使用ニ關シ自由ヲ與フルモノトス是レ地形地物ヲ利用シテ射撃ノ效力ヲ發揚スルヲ主眼トシ次テ進ミ又ハ僅ニ位置ヲ偏シ若ハ身體ヲ屈シ地物ヲ利用スルコトニ熟セシムルヲ要ス然レトモ多クノ場合ニ於テハ敵ニ直進セシテ之ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「一列ニ」進メ

基準伍ハ動カサルカ又ハ續キテ行進シ其ノ他ノ伍ハ停止間ニ在リテハ其ノ儘左（右）向ヲ爲シ行進間ニ在リテハ歩度ヲ伸シテ斜行シ所要ノ間隔ヲ取リ後列員ハ左ニ出テ一列ヲ作ル各列員ハ基準ノ方ニ整頓シ又ハ之ニ準ヒテ行進ス

第七十一　散開行進ノ歩度ハ駈歩ヲ用ウルヲ通常トシ狀況ニ依リ早駈ヲ用ウルモノトス然レトモ敵ノ有效射撃ヲ被ラサル場合ニ於テハ速歩ヲ用ウルコトアリ

散開ニ於テハ銃ヲ安全裝置ニシ照尺ヲ倒シ彈藥盒ノ蓋ヲ閉チ銃ハ銃口ヲ上ニシ右手ヲ以テ木被ノ所ヲ確實ニ握リテ之ヲ提ケ運動セシムルモノトス

第七十二　散開ニ於テハ障碍物ヲ超エ若ハ遮蔽シテ進ミ又ハ僅ニ位置ヲ偏シ若ハ身體ヲ屈シ地物ヲ利用スルコトニ熟セシムルヲ要ス然レトモ多クノ場合ニ於テハ敵ニ直進セシテ之ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「小隊ノ止レ」

小隊停止セハ號令ニ依リ立銃ヲ爲サシム

第七十三　散開ニ於テハ各員ヲシテ地形ヲ利用シ且敵火ニ暴露スル時間ヲ減シ得ルモノナレハナリ

第七十三　散開ニ於テハ各員停止スルトキハ地物ヲ利用シ銃ノ最大威力ヲ現ハシ得ヘキ位置ヲ選ミ次テ身體ノ遮蔽ニ注意シ適宜ノ姿勢ヲ取ルヘシト雖之カ爲停止ニ際シ躊躇スルコトアルヘカラス據ヘキ地物存セサルトキハ概ネ伏臥スルモノトス但シ演習ニ在リテハ適宜ノ姿勢ヲ取ラシムルコトヲ得此ノ場合ニ在リテハ豫メ其ノ姿勢ヲ告知スヘシ

散開ニ於テ各員停止セハ射撃ノ構チ爲シ銃ヲ擊發裝置ニス裝塡スヘシ

第七十四　散開ハ順序正シク靜肅且迅速ニ諸方向ニ行ヒ得ルヲ要ス

散開スルトキ各員ノ間隔ハ狀況ニ依リ之ヲ定ムヘキモノトス別命ナケレハ約二歩トス

第七十五　各員ヲシテ地物ヲ利用セシムルコトハ指揮官ノ殊ニ注意スヘキ所ニシテ停止及行進間ニ於テハ其ノ隣員ヲ顧慮シテ全員一致ノ運動ヲ妨クルコトナキヲ要ス

第七十六　停止又ハ行進中ノ小隊ヲ前方ニ散開セシムルニハ基準員ヲ示シタル後左ノ號令ヲ下ス

散レ

基準員ハ速歩ノ速度ヲ以テ眞直ニ行進ヲ起スカ又ハ續キテ行進シ其ノ他ノ者ハ駈歩ヲ以テ右又ハ左ニ斜行シ後列員ハ其ノ前列員ノ左側ニ出テ間隔ヲ取リツツ新線ニ就ク

其ノ場ニ散レ

基準員ハ其ノ場ニ位置ヲ占メ其ノ他ノ者ハ右又ハ左向ヲ爲シ駈歩ヲ以テ間隔ヲ取ル

第七十七　側面縦隊ニテ停止又ハ行進中ノ小隊ヲ前方ニ散開セシムルニハ散開ノ爲必要ナル指示ヲ與ヘタル後左ノ號令ヲ下ス

散レ

基準員ハ速歩ノ速度ヲ以テ眞直ニ行進ヲ起スカ又ハ續キテ行進シ其ノ他ノ者ハ駈歩ヲ以テ右又ハ左ニ斜行シ後列員ハ其ノ前列員ノ左側ニ出テ間隔ヲ取リツツ新線ニ就ク

其ノ場ニ散レ

基準員ハ其ノ場ニ位置ヲ占メ其ノ他ノ者ハ右又ハ左向ヲ爲シ駈歩ヲ以テ間隔ヲ取ル

第七十八　側面縦隊ニテ停止又ハ行進中ノ小隊ヲ前方ニ散開セシムルニハ散開ノ爲必要ナル指示ヲ與ヘタル後左ノ號令ヲ下ス

散レ

基準員ハ速歩ノ速度ヲ以テ眞直ニ行進ヲ起スカ又ハ續キテ行進シ其ノ他ノ者ハ駈歩ヲ以テ右又ハ左ニ斜行シ後列員ハ其ノ前列員ノ左側ニ出テ間隔ヲ取リツツ新線ニ就ク

其ノ場ニ散レ

基準員ハ其ノ場ニ位置ヲ占メ其ノ他ノ者ハ右又ハ左向ヲ爲シ駈歩ヲ以テ間隔ヲ取ル

第八十　停止又ハ行進間散開セル小隊ノ方向ヲ換ヘシムルニハ新目標（方向）ヲ示シ左ノ號令ヲ下ス

右（左）ニ方向ヲ換ヘ

斜行進ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

斜行右（左）ヘ

直行進ニ復セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

斜ニ左（右）ヘ

速ニ前進セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

駈歩、前ヘ

行進間歩度ヲ變換セシムルニハ單ニ（駈歩）又ハ（速歩）ノ號令ヲ下ス

各員ヲ止ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

止レ

各員ハ分隊長ノ誘導ニ從ヒ適當ノ位置ヲ選ヒ敵方ニ面シ停止ス

第八十一　停止又ハ行進間散開セル小隊ノ方向ヲ換ヘシムルニハ新目標（方向）ヲ示シ左ノ號令ヲ下ス

右（左）ニ方向ヲ換ヘ

斜行進ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

斜右（左）ヘ

直行進ニ復セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

速ニ前進セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

駈歩、前ヘ

行進間歩度ヲ變換セシムルニハ單ニ（駈歩）又ハ（速歩）ノ號令ヲ下ス

各員ヲ止ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

止レ

各員ハ分隊長ノ誘導ニ從ヒ適當ノ位置ヲ選ヒ敵方ニ面シ停止ス

第八十一　停止又ハ行進間散開セル小隊ノ方向ヲ換ヘシムルニハ新目標（方向）ヲ示シ左ノ號令ヲ下ス

右（左）ニ方向ヲ換ヘ

斜行進ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

斜右（左）ヘ

直行進ニ復セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

速ニ前進セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

駈歩、前ヘ

行進間歩度ヲ變換セシムルニハ單ニ（駈歩）又ハ（速歩）ノ號令ヲ下ス

各員ヲ止ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

止レ

各員ハ分隊長ノ誘導ニ從ヒ適當ノ位置ヲ選ヒ敵方ニ面シ停止ス

第八十二　依托射撃ニハ左手ノ拇指ヲ銃ノ床

クコトナク各伍ノ關係位置ヲ保チタル儘駈歩ヲ以テ斜行シ先頭ニ近キ者ヨリ逐次間隔ヲ取ラツツ新線ニ就キ續キテ行進ス

其ノ場ニ散開セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

其ノ場ニ散レ

先頭伍ノ右翼員ハ其ノ場ニ位置ヲ占メ其ノ他ノ者ハ前方ニ散開スル場合ト同法ニ依リ新線ニ就ク

一翼ニ散開セシムルニハ（左（右））ヘ散レ）又ハ（其ノ場ニ左（右）ヘ散レ）ノ號令ヲ下ス此ノ場合右ヘ散開スルニハ先頭伍ノ右翼員ヲ基準トス

第七十八　二歩ニ非サル間隔ニ散開セシムルニハ（散レ）ノ號令ノ前ニ（何歩ニ）ヲ加フヘシ

斜方向ニ散開セシムルニハ號令ノ前ニ目標（方向）ヲ示スヘシ

第七十九　各員ヲ前進（背進）セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

前（後）ヘ

斜行進ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

斜右（左）ヘ

直行進ニ復セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

斜ニ左（右）ヘ

速ニ前進セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

駈歩、前ヘ

行進間歩度ヲ變換セシムルニハ單ニ（駈歩）又ハ（速歩）ノ號令ヲ下ス

各員ヲ止ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

止レ

各員ハ分隊長ノ誘導ニ從ヒ適當ノ位置ヲ選ヒ敵方ニ面シ停止ス

第八十　停止又ハ行進間散開セル小隊ノ方向ヲ換ヘシムルニハ新目標（方向）ヲ示シ左ノ號令ヲ下ス

右（左）ニ方向ヲ換ヘ

斜行進ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

斜右（左）ヘ

直行進ニ復セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

速ニ前進セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

駈歩、前ヘ

行進間歩度ヲ變換セシムルニハ單ニ（駈歩）又ハ（速歩）ノ號令ヲ下ス

各員ヲ止ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

止レ

各員ハ分隊長ノ誘導ニ從ヒ適當ノ位置ヲ選ヒ敵方ニ面シ停止ス

第八十一　停止又ハ行進間散開セル小隊ノ方向ヲ換ヘシムルニハ新目標（方向）ヲ示シ左ノ號令ヲ下ス

右（左）ニ方向ヲ換ヘ

斜行進ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

斜右（左）ヘ

直行進ニ復セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

速ニ前進セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

駈歩、前ヘ

行進間歩度ヲ變換セシムルニハ單ニ（駈歩）又ハ（速歩）ノ號令ヲ下ス

各員ヲ止ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

止レ

各員ハ分隊長ノ誘導ニ從ヒ適當ノ位置ヲ選ヒ敵方ニ面シ停止ス

第八十二　依托射撃ニハ左手ノ拇指ヲ銃ノ床

尾ノ内側ニ他ノ四指ヲ外側ニ當テ之ヲ握リ銃ノ肩ニ引キ著ケ右手ヲ以テ强ク銃把ヲ握リ射撃スルコトヲ得

第八十三　樹木ノ後方ニ在リテ立射若ハ膝射ヲ爲ストキハ左手ノ前臂ヲ樹木ニ托スヘシ然レトモ樹木ハ僅ニ前面ヲ遮蔽スルコトヲ得ルノミニシテ自由ナル射撃界ヲ有セサルトキハ此ノ射撃ヲ施行スルモノトス

低キ姿勢ニテ適當ナル射界ヲ得サルトキハ發射ノ際ニノミ必要ナル姿勢ヲ取ルヲ可トス

第八十四　胸檣ニ據ル射撃ハ身體ノ左側又ハ前部ヲ胸檣ノ内斜面ニ接シ左肘又ハ肩肘ヲ胸檣ニ置キ銃ヲ胸檣ニ托ス

第八十五　地物應用ノ要旨ハ射撃ノ效力ヲ主トシテ決ニ遮蔽ノ效用ヲ細慮スルニアリ

第八十六　射撃演習ヲ同時ニ距離目測及音響測量ノ演習ヲ行フヘシ音響ノ速度ハ通常ノ狀況ニ於テ三秒時間ニ一千メートルトス

第八十七　凡ソ射撃ハ精密ニ照準シ好機會ヲ待テテ發射シ最大ノ效力ヲ收メサルヘカラス

第八十八　射撃ハ目標ノ狀況、彈藥ノ現數、氣象ノ關係竝射手ノ精神、體力及技倆ニ依リ自ラ其ノ速度ニ緩急ヲ生スルモノトス指揮官其ノ速度ヲ增減スルノ必要ヲ認ムルトキハ（倒早クノ又ハ（倒遅クノ注意ヲ與フヘシ

第八十九　射撃スヘキ目標ノ全正面ニ射撃ヲ分配スルコトハ特ニ緊要ナリ故ニ目標ノ全部ヲ射撃シ得ル場合ニ在リテハ其ノ示サレタル幅員中已ニ對向セル部ニ射撃ヲ向クルモノトス

第九十　射撃ハ必ス充分ナル效果ヲ豫期シ得ヘキトキニ至リ確實ニ目標ヲ認メタル後之ヲ開始スヘシ苟モ我カ射撃效力ヲ現ハス能ハサルトキハ自若トシテ妄ニ射撃スヘカラス

第九十一　彈藥ヲ節約シ緊要ノ時ニ臨ミ效果ヲ收ムルニ必要ナル彈藥ニ不足ナカラシムルハ特ニ注意スヘキコトトス

射撃效力ノ觀測ハ最必要ナリ是レ絕エス彈著ヲ注視シ且敵ノ狀態ヲ視察スル

第九十二　

トキハ之ニヨリテ射撃指揮ヲ適當ナラシムルコトヲ得ルヲ以テナリ

第九十三　小隊散開シアルト密集シアルト又何レノ姿勢ニアルトヲ問ハス突撃ニ移ルニハ起銃(著銃)ノ後左ノ號令ヲ下ス

「突撃ニ」進メ

右手ヲ以テ銃ヲ提ケ駈歩ニテ前進シ突入ノ稍前ニ於テ兩手ヲ以テ銃ヲ保持シテ刺突ノ準備ヲ爲ス(斬撃ノトキニ在リテハ負ヘ銃ヲ爲シ拔刀ス)此ノ場合指揮官ハ列員ノ前方ニ在リテ誘導ス

適當ノ距離ニ至レハ指揮官ハ左ノ號令ヲ下ス

突込メ(斬込メ)

吶喊シツヽ猛烈ニ敵ニ向ツテ突進シ演習ニ在リテハ(止レ)ノ號令ニテ列員ハ停止シ刺突(斬撃)ノ構ヲ爲ス

第四章　中隊教練

第一節　總則

第九十四　第三章ノ規定ハ中隊教練ニ之ヲ準用ス

第九十五　中隊ハ三箇小隊ヲ以テ編成シ警部又ハ警部補ヲ以テ小隊長トス人員三等分スヘカラサルトキハ第三小隊ニ一人ヲ減シ第二小隊ニ一人ヲ減ス

小隊長ハ中隊縦隊又ハ横隊ニ在リテハ中央前二歩ニ、併立縦隊又ハ側面縦隊ニ在リテハ先頭嚮導ノ外側ニ接シテ位置ス

第二節　密集教練

第九十六　密集隊形ハ左ノ如シ

一　中隊縦隊

二　併立縦隊

三　横隊

四　側面縦隊

第九十七　中隊縦隊ハ三箇小隊互ニ八歩ノ距離ヲ存シテ前後ニ重疊シ先頭ヨリ第一小隊第二小隊第三小隊ノ名稱ヲ附ス但シ人員少キトキハ距離八歩ヲ六歩ニ減スルコトヲ得

併立縦隊ハ中隊縦隊ヲ側面向ト爲シタルモノトス

横隊ハ三小隊ヲ一線ニ併列シタルモノトス

側面縦隊ハ側面向ニ在ル小隊ヲ重疊シタルモノトス

第九十八　中隊ノ集合ハ通常中隊縦隊ニ集合スヘキモノトス

第九十九　中隊縦隊ヲ整頓セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

嚮導(何)歩前ヘ

先頭小隊ノ兩翼嚮導ハ前進シ中隊長其ノ位置ヲ正ス

次ニ左ノ號令ヲ下ス

「右(左)ヘ」準ヘ

直レ

(準ヘ)ノ號令ニテ中隊ハ前進シ整頓ス後方小隊ノ整頓翼ノ嚮導ハ正シク距離ヲ取リ前方小隊整頓翼ノ嚮導ニ重ルモノトス

第百　中隊縦隊ヲ行進セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「前ヘ」進メ

中隊ハ一齊ニ行進ヲ起シ後方小隊ノ嚮導ハ其ノ前方小隊ノ嚮導ノ進ミタル線ヲ踏ミ常ニ距離ヲ保存ス

第百一　併立縦隊ノ行進ニ在リテハ通常基準小隊ヲ示スモノトス

第百二　併立縦隊ヨリ側面縦隊ノ行進ヲ爲サシムルニハ小隊ノ順序ヲ示シ次ニ「前ヘ」進メ)ノ號令ヲ下ス(進メ)ノ號令ニテ最先ノ順序ニ在ル小隊ハ其ノ小隊長ノ號令ヲ以テ之ヲ續行ス

行進間ニ在リテハ小隊ノ順序ヲ示シ側面縦隊作レノ命令ヲ下ス最先ノ順序ニ在ル小隊ハ行進ヲ續行シ他ノ小隊ハ足踏ヲ爲シ其ノ小隊長ノ號令ヲ以テ行進ヲ起スモノトス

第百三　中隊縦隊ノ方向ヲ換ヘシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「右(左)ニ方向ヲ換ヘ」進メ

停止間ニ在リテハ先頭小隊ハ小隊教練ニ於ケル如ク動作シ後方小隊ハ列員各自ニ己ノ占ムヘキ位置ニ到リ右(左)ノ方ニ整頓ス行進間ニ在リテハ先頭小隊ハ方向ヲ換ヘツヽ新方向ニ行進シ後方小隊ハ先頭小隊ト同所ニ到リ號令ヲ用ウルコトナク方向ヲ換ヘ先頭小隊ニ續行ス此ノ場合ニ於テ中隊長ハ必要ニ應シ嚮導ヲ示ス

第百四　併立縦隊ノ方向ヲ換ヘシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「右(左)ニ方向ヲ換ヘ」進メ

停止間ニ在リテハ軸翼ニ在ル小隊ハ伍伍右(左)ニ方向ヲ換ヘ小隊ノ深サタケ新方向ニ進ミテ停止シ他ノ小隊ハ逐次其ノ齊頭面ニ到リテ停止ス

行進間ニ在リテハ軸翼ニ在ル小隊ハ前ト同法ヲ以テ方向ヲ換ヘツヽ行進シ其ノ他ノ小隊ハ逐次其ノ齊頭面ニ到リ續キテ行進ス

齊頭面トハ其ノ小隊ノ先頭カ基準小隊ノ先頭ト同一線ニナリタルヲ謂フ

第百五　横隊ノ方向ヲ換ヘシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「右(左)ニ方向ヲ換ヘ」進メ

小隊教練ニ於ケル如ク之ヲ行フ但シ行進間ニ在リテハ軸翼ノ者ハ足踏ヲ爲シ其ノ他ノ者ハ駈歩ヲ以テ逐次新線ニ就キ足踏ヲ爲シ中隊長ハ全中隊方向ヲ換ヘタルトキ(「前ヘ」進メ)ノ號令ヲ下ス

第百六　中隊縦隊ヨリ横隊ヲ作ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「横隊作レ」進メ

先頭小隊ハ動カサルカ又ハ續キテ行進ス中央及後尾ノ小隊ハ小隊長ノ指揮ニ從ヒ右(左)ヘ斜ニ行進シ先頭小隊ノ線ニ出テ之ニ整頓ス

一側ニ横隊ヲ作ラシムルニハ「右(左)ヘ」横隊作レ」進メ)ノ號令ヲ下ス

第百七　併立縦隊ヨリ中隊縦隊ヲ作ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「左(右)向ケ」左(右)

中隊ハ左(右)向ヘ(右)向ヲ爲シ小隊長ハ定位置ニ就ク

第百八　横隊ヨリ中隊縦隊ヲ作ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「中隊縦隊作レ」進メ

中央小隊ハ動カサルカ又ハ續キテ行進ス右(左)小隊ハ捷路ヲ經テ中央(後尾)トナリ中隊縦隊ノ定位ニ到ル

翼小隊ヲ其準トシテ中隊縦隊ヲ作ラシムル

長ハ爲シ得レハ新ニ其ノ部下ヲ區分スヘシ

第百十八　散開ニ於テ各員ノ行進及停止ハ中隊長ノ命令ニ依リ小隊長ノ號令ヲ以テス

散開ニ於テ各員ノ停止ハ小隊長ノ號令ヲ以テタル儘左足尖ヲ以テ半左ニ向キツツ右足ヲ約半歩右前ニ踏ミ出ス

第百十九　散開セル各員ハ分隊長ヲ、分隊長ハ小隊長ヲ、小隊長ハ中隊ノ中央ヲ基準トシテ中隊長ノ指示スル目標ニ向ヒ行進シ分隊長及小隊長ハ通常中央前ニ在リテ其ノ部下ヲ誘導ス此ノ場合ニ於テ中隊長ハ必要ニ應シ基準小隊ヲ示ス

第五章　刀ノ操法

第百二十　拔刀ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

拔ケ刀

左手ヲ以テ鞘ノ第一鐶上部ヲ握ルト同時ニ右手ヲ以テ刀柄ヲ握リ刀身ヲ鞘ヨリ拔キ右足尖ノ方向ニ高ク伸シ刃ヲ右斜下ニシ恰モ鼓ニ一節ヲ示スカ如クシ肩刀ヲ爲シ同時ニ左手ヲ下ス

肩刀ノ法ハ刀柄ヲ右手ノ拇指及中指トノ間ニ把持シ他ノ二指ヲ刀柄ノ後ニ當テツツ之ヲ下ケ右臆骨ノ稍下方ニ接着シ肘ヲ稍後ニ引キ刀身ヲ眞直ニシ刀背ヲ肩ノ縫目ニ接ス

停止間拔刀ノ儘休憩スルニハ刀柄ヲ體ノ前ニ致シ左手ヲ以テ右手ヲ支ヘ刀身ヲ臂ニ托ス

第百二十一　納刀ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

納メ刀

左手ニテ鞘ノ第一鐶上部ヲ握ルト同時ニ右手拇指ヲ刀柄ニ添ヘテ伸シ右手ノ無名指ト小指トヲ他ノ二指ニ併セ刀柄ヲ握リツツ垂直ニ上ケ其ノ刀面ヲ額ノ中央ニ對セシメ鍔ヲ口ノ高サニ齊シクシ肘ハ自然ニ體ニ接シ刀身ヲ左方ニ倒シ右手ヲ高ク上ケ眼ヲ鍔口ニ注キ刀身ヲ靜ニ鞘ニ納メ遂ニ兩手ヲ垂下シ頭ヲ正面ニ復ス

第百二十二　拔刀ノ儘行進スルニハ警部補以上ニ在リテハ右手ノ甲ヲ前ニシ鍔ヲ握リ臂ヲ垂レ刀背ヲ肩ニ托シ鞘ハ銅ニ懸ケタル儘左手ヲ以テ之ヲ握リ兩手ヲ自然ニ振リ巡査ニ在リテハ肩刀ノ儘兩手ヲ自然ニ振ルモノトス

第六章　拳銃ノ操法

第百二十三　裝塡シタル拳銃ノ取扱及射撃ニ際シテハ不慮ノ危害ヲ生セサルコトニ注意スヘシ

第百二十四　二十六年式拳銃ハ本章ノ規定ニ依リテ操作シ其ノ他ノ拳銃ニ在リテハ之ニ準ス

第百二十五　揚銃ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

揚ケ銃

右手チ以テ拳銃嚢ヲ開キ銃把ヲ握リ拳銃ヲ嚢ヨリ出シ拳ヲ左肩ノ前方一握ノ所ニテ之ト同シ高サニ上ケ銃口ヲ上ニ向ケ用心鐵ヲ前ニシ食指ヲ之ニ沿フテ伸ス

第百二十六　納銃ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

納メ銃

揚銃ト概ネ反對ノ順序ヲ以テ動作シテ拳銃ヲ嚢ニ納ム

第百二十七　裝塡及抽出ハ揚銃ヨリ行ヒ注目シテ動作スルモノトス裝塡ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

彈藥ヲ込メ

拳銃ノ體ノ正面ニ下ケ銃口ヲ左前ノ下ニ向ケ左手ヲ以テ銃身ヲ上ヨリ握リ其ノ拇指ト食指トヲ以テ鐶鉤ヲ摑ミテ之ヲ上ケ彈巢ヲ開キ右手ヲ以テ裝塡シ次ニ銃把ヲ握リテ彈巢ヲ閉チ揚銃ヲ爲ス

第百二十八　彈藥ヲ抽出セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

彈藥ヲ抽ケ

拳銃ノ體ノ正面ニ下ケ銃口ヲ左前ノ下ニシ左手ヲ以テ前ヨリ銃身ヲ握リ右手ノ拇指ト食指トヲ以テ鐶鉤ヲ摑ミテ之ヲ上ケ右手ヲ以テ銃把ヲ握リ彈巢ヲ開キ左手ノ拇指ノ頭ヲ以テ游鈑ヲ强ク壓シテ排筒桿ヲ下シ全ク彈巢ヲ開キ右手ヲ以テ彈藥ヲ抽出之ヲ盤ニ納メ次ニ銃把ヲ握リテ彈巢ヲ閉チ揚銃

第百二十九　射撃ノ姿勢ヲ取ルニハ先ツ示サレタル目標ニ正對シ頭ヲ其ノ方向ニ保チタル儘左足尖ヲ以テ半左ニ向キツツ右足ヲ約半歩右前ニ踏ミ出ス

第百三十　射撃ノ姿勢ヲ止ムルニハ目標ノ方向ニ向キツツ左足ヲ右足ニ引キ著ケ揚銃ノ姿勢ニ復ス

第七章　銃及刀ノ禮

第百三十一　立銃ヨリ捧銃ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「捧ケ」銃

右手ヲ以テ銃ヲ上ケ體ノ中央前ニ持チ來リ銃身ヲ後ニシ之ヲ垂直ニス同時ニ左手ヲ以テ概ネ木被ノ下ニ接シテ銃ヲ握リ拇指ヲ銃床ニ沿フテ伸シ前臂ヲ殆ト水平ニシ兩上膊ハ輕ク體ニ接ス

第百三十二　捧銃ヨリ立銃ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「立テ」銃

右手ヲ以テ銃ヲ下ケ腰ニ支ヘ同時ニ左手ヲ下シ靜ニ銃ヲ地ニ著ク

第百三十三　刀ノ禮ハ肩刀ヨリ行フモノトス

第百二十一ニ準シテ刀ヲ垂直ニ上ケ其ノ刀面ヲ額ノ中央ニ對セシメ鐺口ノ高サニ等シクシ肘ハ自然ニ體ニ接ス(之ヲ捧刀ト謂フ)

右臂ヲ全ク伸シ刀ヲ斜ニ下ケ爪ヲ上ニシテ拳ヲ右腋ヨリ少シク離シ頭ヲ向ケテ受禮者ノ眼又ハ敬禮スヘキモノニ注目ス

敬禮終レハ肩刀ニ復ス

巡査ニ在リテハ捧刀ノミニテ受禮者又ハ敬禮スヘキモノニ對シテ注目シ敬禮終レハ肩刀ニ復ス

●朝鮮總督府警察官教養規程

大正九年十二月

總訓第六十九號

朝鮮總督府警察官教養規程左ノ通定ム

朝鮮總督府警察官教養規程

第一條　道第三部長及警察署長ハ本則ニ依リ部下ノ警察官ヲ教養スヘシ

第二條　警察官吏ノ教養ハ精神ノ修養及紀律ノ肅整ニ基礎ヲ置キ其ノ品性ヲ向上シ且職務上必要ナル智能ヲ啓發スルヲ以テ目的トス

第三條　教養科目概ネ左ノ如シ

一　學科

法令、普通學、語學、實務講習、修養訓話

二　術科

操練、劍道、柔道、捕縄術、體操

前項ノ外沿岸又ハ河川ニ接スル地ニ在勤スル警察官ニハ必要ニ應シ水泳、船舶信號法、艦船ノ識別方及操船術ヲ學ハシムルモノトス

第四條　學科ノ教養ハ警察ニ關スル實用ヲ主トシ理論ヲ避ケ各階級ニ應シ職務執行上適切ナルモノヲ選擇スヘシ

術科ハ職務上必要ナル武技ニ慣熟セシメ兼テ精神鍛錬ニ資シ且體力ノ養成ニ努ムヘシ

第五條　教養時間ハ學科術科ヲ通シテ一週四回四時間以上トシ非番日又ハ勤務ニ差支ナキ時間ヲ選ヒ之ヲ行フヘシ

第六條　教養時間割教習方法ハ道知事之ヲ定ム

第七條　道巡查ノ教養ハ巡查部長以上ノ監督員ヲシテ之ニ當ラシメ巡查部長以上ノ監督員ニ對スル教養ハ道第三部長、警察署長又ハ其ノ代理者ヲシテ之ニ當ラシムヘシ

第八條　警察官駐在所及警察官出張所勤務ノ巡查ニ對スル教養ハ道第三部長及警察署長ヲシテ之ニ當ラシムヘシ

第九條　教養ニ關スル計畫ヲ立テ道知事ニ報告スヘシ

第十條　道第三部長及警察署長ハ毎年一月十五日迄ニ前年度ニ於ケル部下警察官ノ教養實施狀況ヲ道知事ニ報告スヘシ

第十一條　道知事ハ毎年一月末日迄ニ部下警察官ノ教養成績ヲ朝鮮總督ニ報告スヘシ

第十二條　本令ニ依リ二箇年以上教習ヲ受ケ成績優良ナル者ニ對シテハ學科ノ一部ノ教

養ヲ省略スルコトヲ得

●小學校及普通學校教員試驗規則

大正五年十月
總令第八十八號
改正　大正七年七月第二百二十一號、八年四月第六九號
一二年四月第六八號、一二年四月第六七號、一四年一二月第一二三號

小學校及普通學校教員試驗規則左ノ通定ム

第一條　小學校及普通學校教員試驗ハ之ヲ分チテ第一種、第二種及第三種トス

第二條　前條ノ試驗ヲ施行スル爲各道ニ小學校及普通學校教員試驗委員ヲ置ク

朝鮮總督府及各道ノ委員中各委員長一人ヲ置キ試驗ニ關スル事務ヲ掌理セシム

委員長及委員ハ各道又ハ公立學校ノ職員中ヨリ之ヲ命ス

第三條　試驗ハ毎年少クトモ一回之ヲ行ヒ其ノ期日、場所及出願期限ハ試驗委員長ニ於テ之ヲ公告ス

第四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

一　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二　破產又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者

三　懲戒ニ依リ免官又ハ免職ニ處セラレ二年ヲ經過セサル者

四　教員免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケ三年ヲ經過セサル者

第五條　試驗ヲ受ケムトスル者ハ願書（第一號書式）ニ左ノ書類ヲ添ヘ受驗地ノ屬スル道ノ小學校及普通學校教員試驗委員長ニ差出スヘシ

一　履歷書（第二號書式）、教員免許狀又ハ卒業證書ヲ有スル者ハ其ノ寫

二　戶籍謄本又ハ民籍謄本

三　前條第一號第二號ニ該當セサルコトニ付相當官署ノ證明書

第六條　受驗出願者ハ手數料トシテ一圓ヲ收入印紙ヲ用ヰ願書ニ貼付シテ納付スヘシ

既ニ納付シタル手數料ハ之ヲ還付セス

第七條　試驗ニ關シ不正ノ行爲アリタル者ハ受驗ヲ停止シ又ハ其ノ試驗ヲ無效トシ尙期間ヲ定メテ試驗ヲ受クルコトヲ許ササルコトアルヘシ

第八條　第一種試驗ノ試驗科目及其ノ程度ハ男子ニ在リテハ師範學校ノ男生徒、女子ニ在リテハ師範學校ノ女生徒ニ課スル學科目及其ノ程度ニ準ス但シ小學校教員ノ資格ヲ得ムトスル者ニ在リテハ朝鮮語ハ之ヲ缺クコトヲ得農業、商業ハ其ノ一科目ヲ選擇スルコトヲ得

第九條　第二種試驗ノ試驗科目及其ノ程度ハ男子ニ在リテハ師範學校特科ノ男生徒、女子ニ在リテハ師範學校特科ノ女生徒ニ課スル學科目及其ノ程度ニ準ス但シ小學校教員ノ資格ヲ得ムトスル者ニ在リテハ朝鮮語ハ之ヲ缺クコトヲ得農業、商業ハ其ノ一科目ヲ選擇スルコトヲ得

第十條　第三種試驗ノ試驗科目及其ノ程度ハ左ノ如シ

修身	修身ノ要旨
教育	教育學及教授法、朝鮮教育法規ノ大要並教育實習
國語	讀方、解釋、書取、作文、會話、習字
朝鮮語及漢文	讀方、解釋、作文
歷史	本邦歷史
地理	本邦地理、外國地理
算術	筆算、珠算
理科	植物、動物、物理及化學（鑛物ヲ含ム）、生理衞生ノ大要並實驗
體操	體操、教練、遊戲
圖畫	自在畫
唱歌	單音唱歌
手工	諸種ノ細工
實業	農業又ハ商業ノ初步
裁縫	普通衣類ノ裁縫

實業ハ農業及商業ノ內一科目ヲ選擇スルコトヲ得

實業ハ男子ニ限リ、裁縫及手藝ハ女子ニ限ル

第十一條　第三種ノ試驗ハ國語ヲ常用サセル者ニ限リ之ヲ受クルコトヲ得

第十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ付試驗ヲ行フ場合ニ於テ第八條乃至第十條ニ規定シタル試驗科目ニ關シ其ノ試驗ノ程度以上ノ學力アリト認メタルトキハ其ノ試驗ヲ省略スルコトヲ得

一　中學校ヲ卒業シタル者

二　高等女學校ヲ卒業シタル者

三　高等普通學校ヲ卒業シタル者

四　女子高等普通學校ヲ卒業シタル者

五　前各號ノ外之ト同等以上ト認メタル學校ヲ卒業シタル者

六　小學校本科正教員又ハ尋常小學校本科正教員ノ免許狀ヲ有スル者

七　教員免許令ニ依リ授與セラレタル教員免許狀ヲ有スル者

八　第三種ノ試驗ニ及第シタル者ニシテ第二種ノ試驗ヲ受クル者又ハ第二種ノ試驗ニ及第シタル者ニシテ第一種ノ試驗ヲ受クル者

第十三條　試驗ニ及第シタル者ニハ證明書ヲ授與ス

試驗ニ及第シタル者ノ氏名ハ朝鮮總督府官報ニ之ヲ公告ス

第十四條　試驗ヲ受ケタル者ニシテ其ノ試驗ニ合格セサルモ一科目又ハ數科目ニ付成績佳良ナルトキハ其ノ科目ノ成績ニ關シ證明書ヲ授與スルコトアルヘシ

前項ノ證明書ヲ受ケタル者ニシテ更ニ試驗ヲ出願スルトキハ其ノ證明書ニ記載シタル科目ノ試驗ヲ缺クコトヲ得

第十五條　削除

附　則

本令ハ大正五年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十四年十二月第百十三號）

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式（用紙美濃紙）

小學校及普通學校教員試驗願

敎入印紙	本籍 住所

第一種（第二種、第三種）試驗選擇科目（何）

私儀前記願書ノ試驗相受度別紙履歷書、戶籍謄本（民籍謄本）等相添此段相願候也

年　月　日　右　氏　名㊞

小學校及普通學校教員試驗委員長宛

第二號書式（用紙美濃紙）

履歷書

氏名	生年月日
學業	
一年　月　日	何學校ニ入學何年何月何日卒業（第何學年修了）
（證書寫別紙ノ通）	
一年　月　日	何免許狀ヲ受ク（免許狀寫別紙ノ通）
一年　月　日	何處何某ニ就キ何學科學修
職業	
一年　月　日	何道（府縣）何郡何學校（普通學校）奉職
同　月　日	何級俸（俸給ノ場合ニハ必ス）給與
一年　月　日	何ニ依リ休職、退職（事由ノ詳記ヲ要ス）（又ハ賞罰ヲ記ス）
賞罰	
一年　月　日	何處ニ於テ何ニ付何賞又ハ何譴ヲ受ク

右ノ通相違無之候也

年　月　日　右　氏　名㊞

㊟遞信業務傳習生養成規則

大正二年十月
總訓第五十四號
改正　大正四年三月一號、六年一月一四九號、一年一〇第二六號、九年三第一七號

遞信官署

遞信業務傳習生養成規則左ノ通改正ス

第一條　遞信業務傳習生養成規則

遞信業務傳習生（以下單ニ傳習生ト稱ス）ハ遞信官署ノ通信業務、航路標識業務又ハ電信電話ノ工務ニ從事セシムル目的ヲ以テ養成スルモノトス

第二條　傳習生養成ニ關スル事務ハ遞信局長官之ヲ管理ス

第三條　傳習生ハ左ノ各號ニ該當スル者ノ中ヨリ採用ス

一　通信業務ノ甲種傳習生（以下單ニ通信甲種傳習生ト稱ス）ハ年齡十七歲以上二十三歲以下ノ男子、通信業務ノ乙種傳習生（以下單ニ通信乙種傳習生ト稱ス）ハ年齡十四歲以上十九歲以下ノ男子又ハ女子、航路標識業務ノ傳習生（以下單ニ航路標識傳習生ト稱ス）ハ年齡二十歲以上三十五歲以下ノ男子、電信電話工務ノ傳習生（以下單ニ工務傳習生ト稱ス）ハ年齡十七歲以上二十五歲以下ノ男子

二　養成期間中陸海軍ノ現役ニ關係ナキ者、女子ニ在リテハ夫ナキ者

三　品行方正身元確實ニシテ將來永ク第一條ニ揭ケタル業務ニ從事スヘキ志望堅固ナル者

四　體格檢查ニ合格シタル者

第四條　採用試驗ニ及第シタル者

中學校又ハ高等女學校ノ第二學年以上ヲ修業シタル者及高等小學校卒業者ニシテ通信乙種傳習生タラムトスル者、中學校卒業者ニシテ通信甲種傳習生又ハ工務傳習生タラムトスル者竝海軍下士卒ノ經歷アル者ニシテ航路標識傳習生タラムトスル者ニ對シテハ採用試驗ノ全部又ハ一部ヲ省略スルコトヲ得

第四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ傳習生タルコトヲ得ス

一　故意ヲ以テ通信又ハ航路標識ニ關スル罪ヲ犯シタル者

二　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

三　破產又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者

四　懲戒ニ依リ免官又ハ免職ト爲リ二年ヲ經過セサル者

第五條　採用試驗ヲ分チテ筆記試驗及口述試驗ノ二種トス

通信乙種傳習生及航路標識傳習生筆記試驗ハ中學校卒業ノ程度ニ依リ左ノ科目ニ付之ヲ行フ但シ第七號ノ科目ハ之ヲ省略スルコトアルヘシ

一　讀書（漢字交リ文）

二　作文（往復文、記事文）

三　筆寫（楷書、行書）

四　算術

五　地理

六　理科（物理化學ノ初步）

七　英語（讀書、譯解）

通信甲種傳習生及工務傳習生筆記試驗ハ中學校卒業ノ程度ニ依リ左ノ科目ニ付之ヲ行フ

一　讀書（漢字交リ文）

二　作文（往復文、記事文）

三　筆寫（楷書、行書）

四　數學

五　物理

六　化學

七　地理歷史

八　通信甲種傳習生ニ課ス

九　英語（讀書、譯解、作文）

口述試驗ハ筆記試驗科目中ノ一科目ニ付之ヲ行フ

第六條　傳習生ニ採用セラレタル者ハ保證人ト連署シタル誓約書（第一號ヲ差出スヘシ

傳習生ノ保證人タルヘキ者ハ成年ノ男子ニシテ遞信局長官ニ於テ適當ト認メタル者ニ限ル

第七條　傳習生ノ養成期間ハ十二月以內ニ於テ遞信局長官之ヲ定ム

第八條　通信甲乙兩種傳習生ノ教科目左ノ如シ但シ第六號及第七號ノ科目ハ之ヲ省略スルコトアルヘシ

一　電氣通信術

二　電信法規

三　電話法規

四　電信學（通信甲種傳習生ニ用ウ）

五　電機取扱方法（通信乙種傳習生ニ用ウ）

六　前各號ノ外郵便局ニ於ケル現業事務一般

七　會計事務

八　服務心得

九　國語（朝鮮人ニ用ウ）

十　朝鮮語（內地人ニ用ウ）

十一　英語

十二　佛語（通信甲種傳習生ニ用ウ）

十三　體操

第九條　航路標識傳習生ノ教科目左ノ如シ

一　燈器取扱方法

二　霧笛號取扱方法

三　氣象觀測方法

四　信號方法

五　營造物ノ保存及修理方法

六　庶務及會計事務

七　服務心得

八　國語（朝鮮人ニ用ウ）

九　朝鮮語（內地人ニ用ウ）

十　體操

第十條　工務傳習生ノ教科目左ノ如シ

一　電氣磁氣學

二　電信學

三　電話學

四　電鐵路建築學

五　電氣通信術

六　數學

七　電信、電話及其ノ工事ニ關スル法規

七ノ二　會計事務

服務心得

八　國語（朝鮮人ニ用ウ）

九　朝鮮語（內地人ニ用ウ）

十　朝鮮語（內地人ニ用ウ）

十一　體操

第十一條　傳習生左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ直ニ之ヲ免ス

一　第四條ニ該當シタルトキ

二　品行不良又ハ怠惰ニシテ改悛ノ見込ナキトキ

三　傷痍疾病ニ因リ若ハ成績不良ニシテ卒業ノ見込ナキトキ

第十二條　傳習生ニハ養成期間中手當金ヲ給與スルコトヲ得其ノ金額ハ遞信局長官之ヲ定ム

前項ノ手當金ノ給與ハ日給雇員給料支給ノ例ニ依ル

傳習生ニ旅行ヲ命シタルトキハ朝鮮總督府旅費規則第四條ノ日給雇員旅費支給ノ例ニ依ル

第十三條　傳習生ノ授業ニ要スル器具機械類及式紙類ハ官品ヲ使用セシム

第十四條　傳習生卒業試驗ニ及第シタルトキハ卒業證書（第二號書式）其ノ成績優等ナル者ニハ優等卒業證書（第二號書式ノ二）ヲ授與ス

第十五條　傳習生ニシテ第十二條ノ手當金ヲ受ケタル者ハ卒業ノ日ヨリ起算シ三年間、之ヲ受ケサル者ハ同二年間各其ノ養成セラレタル業務ニ從事スル義務アルモノトス但シ卒業ノ日ヨリ起算シ六月ヲ經ルモ其ノ業務ニ從事スヘキ官職ニ採用セラレサル者ニ限リ之ヲ免除ス

第十六條　傳習生左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ採用ノ日ヨリ傳習生ノ罷免又ハ卒業ノ日迄ノ養成費用ヲ一月ノ二倍ノ割合ヲ以テ養成期間ニ應シ算定シタル金額及第十二條ニ依リ給與シタル手當金額ヲ償還スヘシ但シ一月未滿ノ端數ニ對スル養成費ハ日割ヲ以テ計算スルモノトス

一　養成期間又ハ第十五條ノ義務年限中自己ノ便宜ニ依リ傳習生ヲ辭シ又ハ辭職シタルトキ但シ遞信局長官ニ於テ已ムヲ得サル事情アリト認ムル場合ヲ除ク

二　第十五條ノ義務年限中懲戒ニ依リ官職ヲ免セラレ又ハ刑事裁判ニ因リ官職ヲ失ヒタルトキ

三　第十一條第一號又ハ第二號ニ該當シ傳習生ヲ免セラレタルトキ

四　第十五條ノ義務年限中徵兵又ハ志願兵トシテ入營ノ爲辭職シタル場合ニ於テ其ノ義務年限內ニ辭職ノ原因タル事實消滅シタルニ拘ラス自己ノ便宜ニ依リ其ノ殘期間奉職セサルトキ

第十六條ノ二　郵便所ノ通信業務ニ從事セシムル爲遞信局ニ於テ必要ニ應シ通信別科傳習生ヲ養成スル但シ遞信局長官ニ於テ必要ト

認ムルトキハ特ニ郵便局ヲ指定シテ通信別科傳習生ヲ養成セシムルコトヲ得

通信別科傳習生ハ年齢十四歳以上二十五歳以下ノ男子又ハ女子ノ中ヨリ採用ス

本規則中通信乙種傳習生ニ關スル規定ハ通信別科傳習生ニ準用ス但シ教科目中ノ體操ヲ省ク

第十七條　本令ニ定ムルモノノ外必要ナル事項ハ遞信局長官之ヲ定ム

（第一號書式）

誓約書

原籍
現住所
華（貴）士族平民何某子弟
何　某
生年月日

右者今般遞信業務傳習生ニ採用セラレ候ニ付テハ御規則堅ク相守リ可申ハ勿論卒業ノ上ハ朝鮮總督府遞信官署ノ通信業務（航路標識業務、電信電話工務）ニ從事シ何レノ地方ヘ在勤被命候トモ異議申出間敷又萬一遞信業務傳習生養成規則第十六條ニ該當シタルトキハ保證人ト連帶ニテ御指定ニ從ヒ養成費用及養成期間ノ手當金額償還可致仍テ保證人連署此段誓約仕候也

年　月　日

右　何　某　印
原籍
現住所
華（貴）士族平民戶主（又ハ戶主ノ關係）
保證人　何　某　印

朝鮮總督府遞信局長官何某殿

（第二號書式）

第　號

（優等）卒業證書

族籍
何　某
生年月日

遞信業務傳習生養成規則ニ依リ（通信業務甲種乙種別科）（航路標識業務）（電信電話工務）ノ科目ヲ修メ（優等ノ成績ヲ以テ）卒業シタルコトヲ證ス

年　月　日

朝鮮總督府遞信局長官　何某

朝鮮總督府遞信局海員養成所規程

大正八年七月
總令第百二十二號
改正　大正一〇年一（第一四九號

朝鮮總督府遞信局海員養成所規程左ノ通定ム

第一條　本所ハ船舶職員其ノ他ノ海員タルヘキ者ヲ養成スルヲ以テ目的トス

第二條　本所ニ本科及別科ヲ置キ各航海科及機關科ニ分ツ

第三條　修業期間ハ左ノ如シ

本科　三年
別科　三月

第四條　生徒定員ハ本科百五十名、別科二十名トス但シ別科ニ在リテハ必要ニ應シ定員ヲ增加スルコトヲ得

第五條　本科ノ教科目、教科課程及每週教授時數ハ別表ニ依ル

別科ノ教科目、教科課程及每週教授時數ハ朝鮮總督府遞信局長之ヲ定ム

第六條　本科ノ學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第七條　本科ノ學年ヲ分テテ左ノ三學期トス

第一學期　四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル
第二學期　九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル
第三學期　一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第八條　別科ノ始業ノ期日ハ募集ノ都度朝鮮總督府遞信局長官之ヲ定ム

第九條　休業日ハ左ノ如シ但シ別科ニ在リテハ夏期休業ヲ行ハス

元始祭
新年宴會
紀元節
春季皇靈祭
神武天皇祭
明治天皇祭
天長節
秋季皇靈祭
神嘗祭
天長節祝日
新嘗祭
日曜日
朝鮮總督府始政記念日
夏季休業　七月二十一日ヨリ八月三十一日ニ至ル
冬季休業　十二月二十九日ヨリ翌年一月四日ニ至ル
學年末休業　三月二十六日ヨリ三月三十一日ニ至ル

前項ノ休業日ノ外臨時休業ヲ爲サムトスルトキハ朝鮮總督府遞信局長ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

第十條　入學期ハ本科ニ在リテハ每學年ノ始別科ニ在リテハ每始業ノ期日トス

第十一條　入學ヲ許可スヘキ者ハ身體健全、品行方正ニシテ左ノ資格ヲ具備スルコトヲ要ス

本科　年齢十四年以上ニシテ高等小學校ヲ卒業シタル者若ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者又ハ高等普通學校第二學年ノ課程ヲ修了シタル者若ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者

別科　年齢十五年以上ニシテ尋常小學校ヲ卒業シタル者若ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者又ハ普通學校ヲ卒業シタル者若ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者

本科入學志願者ニシテ高等小學校ヲ卒業セス又ハ中學校第二學年若ハ高等普通學校第二學年ノ課程ヲ修了セサル者ニ對シテハ高等小學校卒業又ハ高等普通學校第二學年修業ノ程度、別科入學志願者ニシテ小學校ヲ卒業セス又ハ普通學校ヲ卒業セサル者ニ對シテハ尋常小學校又ハ普通學校卒業ノ程度ニ依リ試驗ヲ行ヒ學力ヲ檢定ス

第十二條　入學志願者ハ第一號樣式ノ入學願書ニ第二號樣式ノ履歷書及戶籍謄本ヲ添附シ朝鮮總督府遞信局長ニ之ヲ提出スヘシ

保證人ハ獨立ノ生計ヲ營ム二十五年以上ノ男子ニシテ生徒ニ關スル一切ノ責任ヲ負擔スルニ足ルヘキ者二人トス但シ其ノ一人ハ仁川府內ニ居住スル者タルコトヲ要ス

保證人死亡シタルトキ又ハ前項ニ規定スル資格ヲ失ヒタルトキハ更ニ保證人ヲ定メ在學證書又ハ誓約書ヲ提出スヘシ

第十四條　入學志願者入學ヲ許可スヘキ人員ヲ超過シタルトキハ讀書、作文及算術ニ就キ選拔試驗ヲ行フ

第十五條　疾病其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ退學セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ保證人ノ連署ヲ以テ出願スヘシ但シ疾病ニ因ル者ハ醫師ノ診斷書ヲ添附スヘシ

第十六條　生徒ニシテ左記各號ノ一ニ該當スルトキハ退學ヲ命スルコトアルヘシ

一　性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認ムル者
二　成績不良ニシテ成業ノ見込ナシト認ムル者
三　正當ノ理由ナク本科ニ在リテハ一月以上、別科ニ在リテハ十日以上繼續缺席シタル者又ハ出席常ナラサル者

第十七條　敎育上必要アリト認ムルトキハ生徒ニ對シ左ノ懲戒ヲ行フコトヲ得

一　戒飭
二　停學

第十八條　各學年ノ課程ノ修了又ハ全敎科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ成績及試驗ノ成績ヲ考査シテ之ヲ定ム

第十九條　本科ノ試驗ハ之ヲ分チテ學期試驗及學年試驗トシ學期試驗ハ第一學期及第二學期ノ終、學年試驗ハ學年ノ終ニ之ヲ行フ

第二十條　別科ノ試驗ハ修業期ノ終ニ之ヲ行フ

第二十一條　本科ヲ卒業シタル者ニハ卒業證書、別科ヲ修業シタル者ニハ修業證書ヲ授スヘシ

與ス

第二十二條　別科生徒ニハ手當ヲ給與ス

前項ノ手當給與額及支給方法ハ朝鮮總督府遞信局長之ヲ定ム

第二十三條　別科生徒ハ修業後一年間朝鮮總督府遞信局長ノ指定スル職務又ハ業務ニ從事スル義務ヲ負フ

第二十四條　別科生徒自己ノ便宜ニ依リ退學シタルトキ又ハ第十六條ニ依リ退學ヲ命セラレタルトキハ給與シタル手當ヲ償還セシムル別科ヲ修業シタル者前條ノ義務ヲ履行セサルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ已ムヲ得サル事由ニ因ルモノト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトアルヘシ

第二十五條　本科卒業後實習ニ從事セムトスル者ノ爲ニ練習科ヲ置ク

練習科ノ修業期間ハ航海科ニ在リテハ三年機關科ニ在リテハ三年六月トス但シ成績不良ノ者ニ對シテハ修業期間ヲ延長スルコトアルヘシ

第二十六條　朝鮮總督府遞信局長ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ船舶職員試驗ニ應セムトスル者又ハ船舶職員ニ必要ナル學科ノ一部ヲ專修セムトスル者ノ爲ニ專修科ヲ置クコトヲ得

第二十七條　練習科及專修科ニ關スル規定ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ朝鮮總督府遞信局長之ヲ定ム

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式

入學願書

本籍
現住所
戶主トノ續柄
氏　名
年月日生

右貴局海員養成所本科（別科）航海科（機關科）ニ入學御許可相成度別紙履歷書、戶籍（民籍）謄本相添此段相願候也

年　月　日

右　氏　名　印

住所
右何某父若ハ兄又ハ何何
氏　名　印

第二號樣式

履歷書

本籍
現住所
氏　名
年月日生

一　學業
何年何月何日何學校卒業又ハ修業（證書寫ヲ添附ノコト）
何年何月ヨリ何年何月迄何處何某ニ就キ何學科修業等

一　職業
何年何月ヨリ何年何月迄何職ニ從事

一　賞罰
何年何月何ニ付受賞、受罰

右之通相違無之候也

年　月　日　右　氏　名　印

第三號樣式

在學證書

本籍
現住所
戶主トノ續柄
氏　名
年月日生

私儀今般貴局海員養成所ニ入學許可相成候ニ付テハ規則命令ヲ遵守スルハ勿論本人身上ニ關スル事件ハ保證人ニ於テ一切處理可致依テ連署ヲ以テ在學證書差出候也

年　月　日

右　氏　名　印
保證人　氏　名　印
住所職業
保證人　氏　名　印

朝鮮總督府遞信局長氏名殿

第四號樣式

誓約書

本籍
現住所
戶主トノ續柄
氏　名
年月日生

任シ速ニ償還可致依テ連署ヲ以テ誓約書差出候也

年　月　日

右　氏　名　印
住所職業
保證人　氏　名　印
住所職業
保證人　氏　名　印

朝鮮總督府遞信局長氏名殿

（別表）

航海科

學年	第一學年		第二學年		第三學年	
教科目＼時數	時數課程	時數課程	時數課程	時數課程	時數課程	時數課程
修身	一　人倫道德ノ要旨	一	同上	一	同上	
國語	四　講讀、作文、文法、書取	三	同上	二	同上	
數學	五　算術、代數、幾何	四	代數、幾何、三角			
英語	四　綴字、譯讀、習字、書取	四	譯讀、作文、文法、會話	三	同上	
地理	一　外國地理	一	地文、地誌（港灣、水路）			
物理	一　物性、運動、力、音、光	一	熱、電氣、磁氣			
圖畫	一　用器畫					
運用術	三　船體名稱、帆船操縱法	四	帆船操縱法、萬國信號法、貨物積載法	四	海上衝突豫防法、汽船操縱法、諸應急處理法	
航海術	四　術語ノ解明、航海用諸器原理及使用法、推測法	五	航海用諸器原理及使用法天文航法	五	同上	
機關術大意				一	機關術大意	
造船學大意				一	鐵木船構造、復原力、乾船法	
海上氣象學大意				一	氣象觀測用諸器ノ解明、海氣狀態	
衛生及醫術				一	船內衛生、急救醫術	
法規				一	海事ニ關スル諸法規、國際法大意	

學年 / 教科目 / 時數、課程	第一學年 時數	第一學年 課程	第二學年 時數	第二學年 課程	第三學年 時數	第三學年 課程
體操	二	普通體操 海軍銃隊操式（小隊教練迄）	二	普通體操 海軍銃隊操式（小隊教練迄）	二	普通體操 海軍銃隊操式（小隊教練迄）
技業	二	結索、船具取扱、漕艇、信號、水泳	同上	銃ノ分解及結合方 海軍諸例則大要	同上	小銃射法大意 海軍諸例則大要
計	二六		二六		二六	

備考　技業ハ八時間乃至十時間之ヲ課ス

機關科

學年 / 教科目 / 時數、課程	第一學年 時數	第一學年 課程	第二學年 時數	第二學年 課程	第三學年 時數	第三學年 課程
修身	一	人倫道德ノ要旨	一	同上	一	同上
國語	四	講讀、作文、文法、書取	三	同上	二	同上
數學	五	算術、代數、幾何	四	代數、幾何、三角	四	代數、幾何、三角
英語	四	綴字、譯讀、習字、書取	四	譯讀、作文、文法、會話	三	同上
地理	一	外國地理				
物理	一	物性、運動、力、音、光	一	熱、電氣、磁氣		
化學	一	化學ノ大意				
機關術	四	汽機、汽鑵各部ノ名稱、作製材料及働作	四	汽機、汽鑵及附屬具ノ構造、能率竝取扱法、機關及取扱法	五	主機關補助機關及附屬具ノ構造、能率竝取扱法、機關消耗品ノ保存及使用法
機關算法	二	用器畫、見取圖	二	機關部製圖	二	同上
圖畫及機械製圖	二	用器畫、見取圖	二	機關部製圖	二	同上
力學及應用力學	二	力學	二	力學	一	應用力學
電氣學大意	一	電氣學大意	二	同上		
造船學大意	一	船體名稱及要部構造				
衛生及醫術			一	船內衛生、救急醫術		
法規					一	海事ニ關スル諸法規

備考　技業ハ八時間乃至十時間之ヲ課ス

◉朝鮮總督府鐵道從事員養成所規程

大正十四年四月
總令第二十七號

朝鮮總督府鐵道從事員養成所規程左ノ通定ム

朝鮮總督府鐵道從事員養成所規程

第一條　朝鮮總督府鐵道從事員養成所ハ鐵道從事員タルニ必要ナル知識技能ヲ授ケ身體ヲ鍛錬シ德性ヲ涵養スル所トス

第二條　本所ニ本科、工作科、電信科及講習科ヲ置ク

本科ヲ分テテ業務科、運轉科及土木科トシ業務科ハ主トシテ鐵道ノ運輸業務ニ關スル事項、運轉科ハ主トシテ機關車ノ運轉ニ關スル事項、土木科ハ主トシテ鐵道線路ノ建設及保存ノ技術ニ關スル事項ヲ授ク

工作科ハ鐵道工場ノ技術ニ關スル事項ヲ授ク

電信科ハ鐵道ノ電氣通信技術ニ關スル事項ヲ授ク

講習科ハ鐵道業務上必要ナル事項ヲ講習ス

第三條　修業期間左ノ如シ

本科　三年
工作科　四年
電信科　三十週
講習科ノ修業期間ハ朝鮮總督府鐵道局長之ヲ定ム

第四條　生徒ノ定員左ノ如シ

本科　四百五十人以内
工作科　二百人以内
電信科及講習科ノ募集人員ハ鐵道局長之ヲ定ム

第五條　本科、工作科及電信科ノ學科課程及每週教授時數ハ別表ニ依ル

講習科ノ學科課程及每週教授時數ハ鐵道局長之ヲ定ム

第六條　所長ハ鐵道局長ノ認可ヲ受ケ夏季ニ於テ四十日以内ハ每週教授時數ヲ減少シ又ハ實習ノミヲ課スルコトヲ得

第七條　本科及工作科ノ學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

本科及工作科ノ學年ヲ分テテ左ノ二期トス

第一學期　四月一日ヨリ九月三十日ニ至ル
第二學期　十月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル

第八條　電信科及講習科ノ始業ノ期日ハ鐵道局長之ヲ定ム

第九條　休業日左ノ如シ

祭日
祝日
日曜日
朝鮮總督府始政記念日
冬季休業　十二月二十六日ヨリ翌年一月七日ニ至ル

學期末休業　學期試驗終了後若干日

工作科、電信科及講習科ノ休業日ニ付テハ鐵道局長ニ於テ特例ヲ設クルコトヲ得

第十條　傳染病豫防其ノ他非常變災ノ爲必要アルトキハ所長ハ鐵道局長ノ認可ヲ受ケ臨時休業ヲ爲スヘシ

第十一條　入學期ハ本科及工作科ニ在リテハ每學年ノ始トシ電信科及講習科ニ在リテハ

每始業ノ始トス

第十二條　本科ニ入學ヲ許可スヘキ者ハ左ノ各號ニ該當スル者タルコトヲ要ス

一　年齡十四年以上十八年未滿ノ男子
二　身體ノ發達順當ニシテ本所所定ノ身體檢査ニ合格シタル者
三　心性ノ發達順正ニシテ本所所定ノ試問ニ合格シタル者
四　高等小學校第二學年ノ課程ヲ修了シタル者又ハ所長ニ於テ之ト同等以上ノ學力ヲ有スト認メタル者

第十三條　工作科ニ入學ヲ許可スヘキ者ハ左ノ各號ニ該當スル者タルコトヲ要ス

一　年齡十二年以上十六年未滿ノ男子
二　身體ノ發達順當ニシテ本所所定ノ身體檢査ニ合格シタル者
三　心性ノ發達順正ニシテ本所所定ノ試問ニ合格シタル者
四　尋常小學校若ハ普通學校第六學年ノ課程ヲ修了シタル者又ハ所長ニ於テ之ト同等以上ノ學力有スト認メタル者

工作科ノ入學ニ付テハ鐵道局長ノ定ムル所ニ依リ鐵道工場ノ從事員タル者ノ子弟ヲシテ他ノ入學者ニ對シ優先セシムルコトヲ得

第十四條　入學志願者ノ數入學セシムヘキ人員ヲ超過スルトキハ選拔試驗ヲ行フヘシ

前項ノ試驗科目ハ鐵道局長ノ認可ヲ受ケ所長之ヲ定ム

第十五條　本科及工作科ノ入學志願者ハ入學願書（第一號樣式）ニ履歷書（第二號樣式）、戶籍謄本及受驗料一圓ヲ添ヘ所長ニ之ヲ差出スヘシ

第十六條　本科及工作科ニ入學ヲ許可セラレタル者ハ保證人二人ヲ定メ始業期日迄ニ保證書（第三號樣式）ヲ所長ニ差出スヘシ

保證人ニ關スル事項ハ前項ニ規定スルモノノ外鐵道局長之ヲ定ム

第十七條　第十一條及第十四條ニ規定スルモノノ外電信科及講習科ノ入學ニ關スル事項ハ鐵道局長之ヲ定ム

第十八條　所長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル生徒及講習員ニ退學ヲ命スルコトヲ得

一　性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
二　學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者
三　引續キ一年以上缺席シタル者
四　正當ノ事由ナクシテ引續キ一月以上缺席シタル者
五　出席常ナラサル者
六　入學ノ際氏名（姓名）年齡、履歷ヲ僞リ又ハ不正行爲アリタル者

第十九條　生徒及講習員退學セムトスルトキハ所長ノ許可ヲ受クヘシ

第二十條　前條ノ規定ニ依リ退學シタル者再ヒ入學ヲ願出テタルトキハ退學當時ノ學年以下ニ入學セシムルコトヲ得

第二十一條　本科及工作科ハ每學年末ニ於テ學科及出席ノ狀況ヲ考査シテ修業ヲ認定ス

成績ノ考査ハ平素ノ學習及各學期ノ試驗ニ依ルモノトス

第二十二條　本科及工作科ハ修業年限ノ終ニ於テ各學年ノ修業成績ニ依リ卒業ヲ認定シ卒業證書（第四號樣式）ヲ授與ス

第二十三條　電信科ハ平素ノ學習及試驗ニ依リ卒業ヲ認定シ卒業證書（第四號樣式）ヲ授與ス

第二十四條　講習科ハ試驗ニ依リ成績ヲ考査シ講習證書（第五號樣式）ヲ授與ス

第二十五條　本所ヲ卒業シタル者ハ左ノ期間鐵道局ニ勤務スル義務ヲ負フモノトス

本科　五年
工作科　四年
電信科　三年

第二十六條　生徒及講習員ニ對シテハ授業料ヲ徵收セサルモノトス

第二十七條　退學ヲ命セラレタル者、第十九條ノ規定ニ依リ退學シタル者又ハ第二十五條ニ規定スル義務年限內ニ於テ退職シ若ハ退職ヲ命セラレタル者ニ對シテハ鐵道局長ノ定ムル所ニ依リ在學中ノ費用ヲ辨償セシム

前項ノ場合ニ於テ鐵道局長必要アリト認ムルトキハ辨償ヲ免除シ又ハ辨償額ヲ減少スルコトヲ得

第二十八條　本科生徒ニハ鐵道局長ノ定ムル所ニ依リ學費ヲ貸與スルコトヲ得

第二十九條　工作科ニ入學シタル者ハ鐵道局從事員ニ採用シ鐵道局長ノ定ムル所ニ依リ手當ヲ支給ス

第三十條　電信科生徒ニハ鐵道局長ノ定ムル所ニ依リ被服及技術練習ニ必要ナル機械類ヲ貸與ス

第三十一條　電信科生徒ニシテ鐵道局從事員以外ヨリ入學セシメタル者ハ鐵道局從事員ニ採用シ鐵道局長ノ定ムル所ニヨリ手當ヲ支給ス

第三十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル生徒及講習員ハ所長之ヲ褒賞スヘシ

一　學術優良ニシテ品行方正ナル者
二　精勤篤學ノ者
三　善行アリタル者

第三十三條　教育上必要アリト認ムルトキハ所長ハ生徒及講習員ニ對シ左ノ懲戒ヲ行フコトヲ得

一　戒飭
二　謹愼
三　停學

第三十四條　本所ニ寄宿舍ヲ附設ス

生徒ハ寄宿舍ニ入ルヲ本則トス

保證人若ハ保護者ト同居スル者又ハ特別ノ事由ニ依リ入舍シ難キ者ハ所長ノ許可ヲ受ケ入舍セサルコトヲ得

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際京城鐵道學校ニ在學スル者ハ本所ノ相當科及學年ニ之ヲ編入ス但シ本科關務科ハ本科業務科、徒弟科ハ工作科、夜學部ハ講習科トス

（別表）

本科業務科學科課程及每週教授時數表

課程及學科目 / 時數	第一學年 第一學期 時數	第一學年 第一學期 教授事項	第一學年 第二學期 時數	第一學年 第二學期 教授事項	第二學年 第一學期 時數	第二學年 第一學期 教授事項	第二學年 第二學期 時數	第二學年 第二學期 教授事項	第三學年 第一學期 時數	第三學年 第一學期 教授事項	第三學年 第二學期 時數	第三學年 第二學期 教授事項
修身	一	道德要旨	一	同上	一	同上	一	同上	一	同上	一	同上
讀書	四	國語漢文	四	同上	三	同上	三	同上	二	同上	二	同上
作文	一	普通文往復文	一	同上	一	普通文業務用文	一	同上				
數學	六	筆算珠算	六	同上 代數	四	同上 珠算 代數	四	同上 珠算 商業算術	一	同上 商業算術		
地歷	二	內外商業地理	二	內外商業史	二	同上	二	同上				
英語	七	讀方、譯解、作文、會話	七	同上	五	同上	六	同上	六	同上	六	同上
朝鮮語	三	會話	三	同上	二	同上	二	同上				
商事要項	二	通論	二	各論								
商品									二	內外重要商品	一	同上

本科運轉科學科課程及每週教授時數表

課程及時數 / 學科目	第一學年 第一學期 時數	第一學年 第一學期 教授事項	第一學年 第二學期 時數	第一學年 第二學期 教授事項	第二學年 第一學期 時數	第二學年 第一學期 教授事項	第二學年 第二學期 時數	第二學年 第二學期 教授事項	第三學年 第一學期 時數	第三學年 第一學期 教授事項	第三學年 第二學期 時數	第三學年 第二學期 教授事項
修身	一	道德ノ要旨	一	同上	一	同上	一	同上	一	同上	一	同上
讀書	四	國語漢文	四	同上	三	同上	三	同上	二	同上	二	同上
作文	一	普通文往復文	一	同上								
英語	六	讀方譯解	六	同上	五	同上	五	同上	二	同上	二	同上
數學	八	算術代數	七	代數幾何	四	同上	四	同上	三	幾何三角法	三	同上
物理學	一				二	物理	二	同上	二	同上化學	二	同上
地理	二	內外交通地理										
圖畫	二	自在畫用器畫	二	同上								
製圖	三	見取圖	四	同上	三	機械製圖	三	同上				
鐵道	三	概論										
車輛							五	客貨車機關車	五	同上	一	特種裝 機關車
發動機									二	汽罐	二	汽機
應用力學											二	大意
機構學											一	大意

本科土木科學科課程及每週教授時數表

課程及時數 / 學科目	第一學年 第一學期 時數	第一學年 第一學期 教授事項	第一學年 第二學期 時數	第一學年 第二學期 教授事項	第二學年 第一學期 時數	第二學年 第一學期 教授事項	第二學年 第二學期 時數	第二學年 第二學期 教授事項	第三學年 第一學期 時數	第三學年 第一學期 教授事項	第三學年 第二學期 時數	第三學年 第二學期 教授事項
修身	一	修身要旨	一	同上	一	同上	一	同上	一	同上	一	同上
讀書	三	國語及漢文	三	同上	二	同上	二	同上	二	同上	二	同上
作文	一	往復文記事文	一	同上	一	同上						
英語	五	讀方譯解	四	同上	四	同上	四	同上	四	同上	四	同上
實用數學	七	算術代數幾何大意	七	同上	六	代數幾何大意	四	三角法大意				
物理及化學	三	物理及化學大意	三	同上								
圖畫	二	用器畫	二	同上								
應用力學									二	原理及應用	三	同上
製圖	一	製圖又ハトレーシング	一	同上	二	測量及橋梁製圖	二	同上	三	各種製圖	三	同上
材料强弱施工法	二	材料及施工法一般	一	同上	二	同上及强弱	二	同上	二	同上	二	同上
測量	一	測量大意	一	同上	一	同上	一	同上	二	測量學	二	同上
鐵道									四	線路	四	同上
									四	停車場保安裝置	四	同上
隧道											一	大意
橋梁									二	木桁	二	鐵桁
									二	アーチ	二	コンクリート
電氣保線											二	電氣工學大意
運轉規程											二	運轉法燃料
體操	三	普通體操、教練	三	同上	三	同上	三	同上	三	同上	三	同上
實習					六	檢車區作業、機關區作業	六	同上	一八	同上	一八	同上
計	三〇		三〇		三六		三六		三六		三六	

課程及時數 / 學科目	第一學年 時數	第一學年 教授事項	第二學年 時數	第二學年 教授事項	第三學年 時數	第三學年 教授事項
簿記	三	商業簿記	三	同上		
經理						
鐵道	二	交通概論旅客	二	旅客	八	旅客貨物電氣通信運轉信號
					八	同上
					八	貨物車輛保線帳表
					八	同上統計
法規						
經濟			二	經濟大意	二	同上法學通論
					二	法學通論
體操	三	普通體操教練	三	同上	三	同上
					三	同上
					三	同上
實習					四	通信術
					四	同上
					一〇	同上驛務練習
					一〇	同上驛務練習
計	三四		三四		三四	
	三四		三四		三四	
	三四		三四		三四	

工作科學科課程及每週教授時數表

課程及時數 / 學科目	第一學年 時數	第一學年 教授事項	第二學年 時數	第二學年 教授事項	第三學年 時數	第三學年 教授事項	第四學年 時數	第四學年 教授事項
修身	一	道德ノ要旨	一	同上	一	同上	一	同上
國語	六	讀書、作文、習字	四	讀書、作文				
英語	三	譯讀、作文、會話	二	同上	二	同上	二	同上
數學	六	算術	四	算術、代數初步	二	代數、初步、幾何初步	二	同上
理科	二	物理上ノ現象	一	同上、力學初步				
工作法	二	工具使用法	二	同上	二	職場作業法	二	同上
圖畫及製圖	二	自在畫、用器畫	六	機械、製圖				
車輛			二	貨車、客車機關車				
材料	一	金屬、非金屬	一	同上				
體操	一	體操、教練	一	同上	一	同上	一	同上
合計	二四		二四		八		八	
實習	一	每週二日						

道路及上下水道

課程及時數 / 學科目	第一學年 時數	第一學年 教授事項	第二學年 時數	第二學年 教授事項	第三學年 時數	第三學年 教授事項	第四學年 時數	第四學年 教授事項
河港							三	大意
川灣							三	大意
建築							二	大意
土木機械							二	大意
電氣	二	大意						
地質	二	大意						
體操	三	體操教練	三	同上	三	同上	三	同上
計	三〇		三〇		三〇		三〇	

備考　第三學年七、八、九月ハ實習トス

電信科學科課程及每週教授時數表

課程及時數 / 學科目	第一期十週 時數	第一期十週 教授事項	第二期二十週 時數	第二期二十週 教授事項
修身	一	修身ノ要旨	一	同上
通信術	一二	和歐文電報送受	三〇	同上
法規	三	和歐文電報取扱法	三	同上
電氣	三	電信及電話機大要		
英語	四	讀方、緩方、會話		
朝鮮語	四	讀方、緩方、會話		
鐵道概論	二	性質、組織		
運輸	五	貨物、旅客		
體操	二	體操、教練	二	同上
計	三六		三六	

第一號樣式

入學願書

志望科
本籍族籍
現住所
戶主ノ姓名職業

右入學御許可相成度履歷書、戶籍抄本及受驗料相添へ此段相願候也

年　月　日　　右　姓　名印

現住所
右何某父若ハ兄又ハ何何　姓　名印

朝鮮總督府鐵道從事員養成所長殿

第二號樣式

履歷書

本籍
現住所

姓　名
年　月　日生

一學業

何年何月何日何學校卒業（證書寫ヲ添附ノコト）

何年何月ヨリ何月迄何處何某ニ就キ何學科修業等

一　職業

何年何月ヨリ何年何月迄何職ニ從事

一　賞罰

何年何月何何ニ付受賞、受罰

右相違無之候也

年　月　日　　右　姓　　名印

第三號樣式　保證書

本籍
現住所
職業及生徒トノ關係
保證人　姓　　名印

年　月　日生

右者今般御所へ入學御許可相成候ニ付テハ御規則ヲ相守ラセ候ハ勿論本人ニ關スル一切ノ事件ハ拙者共ニ於テ引受ケ處辨可致候也

年　月　日

本籍
現住所
職業及生徒トノ關係
保證人　姓　　名印

朝鮮總督府鐵道從事員養成所長殿

第四號樣式　卒業證書

姓　　名

本所何科ノ課程ヲ履修シ其ノ業ヲ卒ヘタルコトヲ證ス

年　月　日生

年　月　日　朝鮮總督府鐵道從事員養成所長　姓　　名印

第　號

第五號樣式　講習證書

姓　　名

本所何何講習科（又ハ講習科何何）ノ課程ヲ修了シタルコトヲ證ス

年　月　日生

年　月　日　朝鮮總督府鐵道從事員養成所長　姓　　名印

第　號

●朝鮮總督府刑務官練習所規程

大正七年五月
總訓第二十三號
改正　大正一四年四月第九號

朝鮮總督府監獄ノ刑務官練習所規程左ノ通改ム

朝鮮總督府刑務官練習所規程

第一條　新ニ採用シタル看守ニハ教習生ヲ命シ學科及實務ノ教習ヲ受ケシム但シ監獄事務ニ從事シタル經歷ヲ有スル者又ハ學術ノ素養アル者ニ對シテハ教習期間ヲ短縮シ若ハ教習科目ノ一部ヲ省略シ又ハ教習生ヲ命セサルコトヲ得

第二條　教習ハ刑務官練習所ニ於テ之ヲ行フ但シ實務ノ教習ハ先任看守ノ部伍ニ加ヘテ之ヲ行フコトヲ得

第三條　特別ノ事情アルトキハ前二條ノ規定ニ拘ラス新任看守ヲシテ直ニ本務ニ服セシム

前項ノ場合ニ於テハ其ノ所屬監獄ノ長ハ本規程ニ準シ適當ノ教習ヲ行フヘシ

第四條　刑務官練習所ハ之ヲ西大門刑務所ニ置ク

第五條　刑務官練習所ニ教官二人以上主事一人ヲ置キ西大門刑務所職員中ヨリ西大門刑務所長之ヲ命ス但シ教官ハ西大門刑務所職員以外ノ者ニ囑託スルコトヲ得

第六條　教習ハ左ノ科目ニ就キ之ヲ行ヒ其ノ期間ハ四月トス

一　監獄學ノ大要
二　朝鮮監獄令及朝鮮監獄令施行規則
三　朝鮮刑事令ノ大要
四　會計法規ノ大要
五　紀律ニ關スル事項
六　行政諸法規ノ大要
七　個人識別法ノ大要
八　朝鮮語（朝鮮人ニ在リテハ國語）
九　武術
十　操練
十一　戒具及銃器ノ使用法
十二　火災其ノ他ノ非常事變ニ處スル心得

西大門刑務所長ハ朝鮮總督ノ認可ヲ得テ教習期間ヲ伸縮シ又ハ科目ノ一部ヲ變更スルコトヲ得

第七條　教習期ノ終ニ於テ終末試驗ヲ行フヘシ

前項ノ試驗ニ合格セサル者ニ對シテハ相當ノ期間修習セシメ再試驗ヲ受ケシムルコトヲ得

試驗ノ成績ハ西大門刑務所長之ヲ朝鮮總督ニ報告スヘシ

第八條　教習ヲ受ケタル看守ト雖前條ノ試驗ニ合格シタル後ニ非サレハ本務ニ服セシムルコトヲ得ス

前條ノ試驗ニ合格シタル者ト雖事務ノ都合ニ依リ必要アルトキハ仍ホ教習生トシテ監獄ニ配屬シ實務ヲ修習セシム

第九條　監獄勤務ノ看守ニ對シ必要アリト認ムルトキハ刑務官練習所ニ於テ臨時特別ノ訓練ヲ行フ

第十條　本規程ニ定ムルモノヲ除クノ外必要ナル事項ハ西大門刑務所長之ヲ定メ朝鮮總督ニ報告スヘシ

第五章　待遇　分限　服務

第一款　待遇

●宮內奏任官及同判任官ノ優遇ニ關スル件

大正十年五月
皇室令第五號

宮內奏任官及同判任官ノ優遇ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　宮內奏任官ニシテ引續キ五年以上高等官三等ニ在職シ功績顯著ナル者ハ特ニ之ヲ勅任官ノ待遇ニ爲スコトヲ得但シ帝國大學敎授、官立大學敎授、行政裁判所評定官及高等官四等ヲ最高官等トスル奏任文官ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二條　判任文官ニシテ引續キ五年以上一級俸ヲ受ケテ在職シ事務練熟優等ナル者ハ特ニ之ヲ奏任官ノ待遇ニ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ奏任官ノ待遇ヲ受クル者ノ待遇相當官等ハ高等官六等以下トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●奏任文官及判任文官ノ優遇ニ關スル件

大正十年五月
勅令第二百二十三號

左ノ奏任文官及判任文官ノ優遇ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　高等官官等俸給令別表第一表第一號、第三表及第五表ニ依ル奏任文官ニシテ引續キ五年以上高等官三等ニ在職シ功績顯著ナル者ハ特ニ之ヲ勅任官ノ待遇ト爲スコトヲ得但シ帝國大學敎授、官立大學敎授、行政裁判所評定官及高等官四等ヲ最高官等トスル奏任文官ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二條　判任文官ニシテ引續キ五年以上一級俸ヲ受ケテ在職シ事務練熟優等ナル者ハ特ニ之ヲ奏任官ノ待遇ト爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ奏任官ノ待遇ヲ受クル者ノ待遇相當官等ハ高等官六等以下トス

第一項ノ規定ニ依リ奏任官ノ待遇ヲ受クル者ハ之ヲ主事ト稱ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二款　分限

●文官分限令

明治三十二年三月
勅令第六十二號
改正　明治三六年一一第一五六號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ文官分限令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

文官分限令

第一條　本令ハ親任式ヲ以テ敍任スル官、公使、祕書官及法令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外一般ノ文官ニ適用ス

第二條　官吏ハ刑法ノ宣告、懲戒ノ處分又ハ本令ニ依ルニ非サレハ其ノ官ヲ免セラルルコトナシ

第三條　官吏左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ官ヲ免スルコトヲ得

一　不具、癈疾ニ因リ又ハ身體若ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルニ堪ヘサルトキ

二　傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ其ノ職ニ堪ヘサルニ因リ又ハ自己ノ便宜ニ因リ免官ヲ願出タルトキ

三　官制又ハ定員ノ改正ニ因リ過員ヲ生シタルトキ

前項第一號ニ依リ其ノ官ヲ免スルトキハ高等官ニ在テハ文官高等懲戒委員會、判任官ニ在テハ文官普通懲戒委員會ノ審査ニ付ス

第四條　官吏ハ廳官若ハ靡爛ノ場合ニ於テハ當然退官者トス

第五條　第十一條第一項第三號及第四號ニ依リ休職ヲ命セラレ滿期ニ至リタルトキハ當然退官者トス

第六條　官吏ハ其ノ意ニ反シテ同等官以下ニ轉官セラルルコトナシ

第七條　文官高等懲戒委員會ニ顧問醫二人ヲ置ク

審査上必要ノ場合ニ於テハ臨時顧問醫ヲ加フルコトヲ得

第八條　文官普通懲戒委員會ニ臨時顧問醫ヲ置ク

第九條　懲戒委員會ハ本令ニ依ル審査ヲ爲ス前豫メ顧問醫ノ意見ヲ徵スヘシ

第十條　第三條第二項ニ依ル懲戒委員會ノ審査ニ關シテハ文官懲戒令第十二條、第十三條、第二十四條、第二十五條、第二十九條乃至第三十四條ノ規定ヲ準用ス

第十一條　官吏左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ休職ヲ命スルコトヲ得

一　懲戒令ノ規定ニヨリ懲戒委員會ノ審査ニ付セラレタルトキ

二　刑事事件ニ關シ告訴若ハ告發セラレタルトキ

三　官制又ハ定員ノ改正ニ因リ過員ヲ生シタルトキ

四　官廳事務ノ都合ニ依リ必要ナルトキ

前項休職ノ期間ハ第一號及第二號ノ場合ニ在テハ其ノ事件ノ懲戒委員會又ハ裁判所ニ繫屬中ト第三號及第四號ノ場合ニ在テハ高等官ニ付テハ滿二年、判任官ニ付テハ滿一年トス

第十二條　休職者ハ其ノ本官ヲ奉シテ職務ニ從事セス其ノ他總テ在職官吏ト異ナルコトナシ

前條第一項第三號及第四號ニ依リ休職ヲ命セラレタル者ニハ本屬長官ハ事務ノ都合ニ依リ何時ニテモ復職ヲ命スルコトヲ得

第十三條　第十一條ニ依リ休職ヲ命セラレタル者ニハ其ノ休職中俸給ノ三分ノ二ヲ給ス

第十四條　免官ハ勅任官ニ在テハ內閣總理大臣、奏任官ニ在テハ內閣總理大臣ヲ經テ本屬長官奏請シ裁可ニ依リ之ヲ行フ

休職ハ勅任官ニ在テハ內閣總理大臣奏請シ裁可ニ依リ之ヲ行ヒ奏任官ニ在テハ內閣總理大臣ノ認可ヲ經テ本屬長官之ヲ命ス其ノ復職ヲ命スルトキ亦同シ

附　則

第十五條　本令ハ明治三十二年四月十日ヨリ施行ス

官吏非職條例、明治二十三年勅令第二百八十六號其ノ他從前ノ命令ニシテ本令ノ規定ニ抵觸スルモノハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第十六條　本令施行前官吏非職條例又ハ明治二十三年勅令第二百八十六號ニ依リ非職又ハ休職ヲ命セラレ未タ滿期ニ至ラサル者ハ本令第十一條第一項第四號ノ休職者ニ關スル規定ヲ適用ス但シ本令第十三條ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條　本令中休職トアルハ他ノ法令ニ於テ規定スル非職ト看做ス

●官吏ノ勤續ニ關スル件

明治二十六年十月
勅令第百九十八號

朕官吏ノ勤續ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

廢官廢廳若クハ官名改定ノ際其ノ廢改ニ係ル官職ニ在ル者即日他官ニ任セラルルトキハ勤續者トス

●陸海軍武官ニシテ朝鮮總督又ハ臺灣總督ノ官職ニ在ル者ノ分限ニ關スル件

大正八年八月
勅令第四百二號

朕陸海軍武官ニシテ朝鮮總督又ハ臺灣總督ノ官職ニ在ル者ノ分限ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

陸海軍武官ニシテ朝鮮總督又ハ臺灣總督ノ官職ニ在ル者ハ現役トス但シ豫備役、後備役又ハ退役ノ武官ニシテ其ノ官職ニ在ル者ハ此ノ限ニ在ラス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮總督府監獄官制施行ノ際監醫等任用ノ件

明治四十三年十月
總令第十三號

朝鮮總督府監獄官制施行ノ際統監府監獄醫、統監府敎誨師、統監府藥劑師、統監府看守又ハ統監府女監取締ノ職ニ在ル者ニシテ別ニ辭令ヲ交付セラレサル者ハ同待遇俸給ヲ以テ朝鮮總督府監獄醫、朝鮮總督府敎誨師、朝鮮總督府藥劑師、朝鮮總督府看守又ハ朝鮮總督府女監取締ニ命セラレタルモノトス

前項ノ規定ニ依リ監獄醫、敎誨師、藥劑師、看守又ハ女監取締ヲ命セラレタル者ハ勤續者トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●統監府巡查及巡查補ノ勤續ニ關スル件

明治四十三年十月
總令第十六號

朝鮮總督府警察官署官制施行ノ際統監府巡查ノ職ニ在ル內地人ハ現ニ受クル俸給及手當ノ半額（第四項及第五項ニ揭ケタル手當ヲ除ク）ニ相當スル額ヲ以テ本俸トシ朝鮮總督府巡查ニ統監府巡查及統監府巡查補ノ職ニ在ル朝鮮人ハ現ニ受クル俸給額ヲ以

テ朝鮮總督府巡査又ハ巡査補ニ採用セラレタルモノトス
前項ニ依リ採用セラレタル者ハ勤續者ト看做ス

●聘用セラレタル官吏及官吏待遇者ニ關スル件

大正九年九月
勅令第三百六十七號
改正　大正一〇年八第三六七號・一二年四第一二五號・一四年四第二〇五號

第一條　在職ノ官吏又ハ官吏待遇者許可ヲ受ケ外國政府ニ聘用セラレタルトキハ聘用中及聘用ノ終リタル後ニ於テモ在職者ニ關スル規定ヲ適用スルコトヲ得

第二條　在職ノ現役軍人又ハ判事檢事若ハ之ニ準スヘキ者許可ヲ受ケ外國政府ニ聘用セラレタルトキハ聘用中及聘用ノ終リタル後ニ於テモ在職者ニ關スル規定ヲ適用スルコトヲ得

第三條　前二條ノ場合ニ於テ外國政府聘用中ハ俸給ハ之ヲ停止シ其ノ他ノ給與ハ之ヲ給セス

第四條　前三條ノ規定ハ在職ノ官吏又ハ官吏待遇者ニシテ許可ヲ受ケ獨逸國等トノ平和條約ニ依ル常設國際聯盟事務局、國際勞働事務局其ノ他ノ國際機關ノ職員ニ任命セラレタル者ニ付之ヲ準用ス

第五條　陸軍現役將校若ハ同相當官又ハ海軍現役士官ニシテ帝國大學、文部省直轄商船專門學校、航空局、朝鮮總督府所管醫院平壤鑛業所道立惠醫醫院ノ職員又ハ臺灣總督府警視ニ任命セラレタル者ハ陸軍又ハ海軍ニ於テ之ヲ定員外ト爲シ在職者ニ關スル規定ヲ適用ス

第六條　第三條及前條ノ規定ハ陸軍現役衛生部將校相當官又ハ海軍軍醫科士官ニシテ日本赤十字社本社病院ノ院長又ハ副院長ニ任命セラレタル者ニ付之ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

明治三十七年勅令第百九十五號
明治三十七年勅令第二百三十七號
明治四十年勅令第百八十一號
明治四十年勅令第百九十四號
明治四十一年勅令第二百七十七號
明治四十三年勅令第二百六十二號
明治四十三年勅令第三百八十一號
大正九年勅令第百六號
大正九年勅令第二百二十號

在職ノ官吏又ハ官吏待遇者ニシテ本令施行ノ際舊令ニ依リ現ニ外國政府ニ聘用中ノ者又ハ國際機關ノ職員タル者ニ付テハ本令ニ依リタル者ト看做ス

附　則（大正十二年四月勅令第百二十五號）

本令ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●舊韓國軍人ニ關スル件

明治四十三年八月
勅令第三百二十三號

朝鮮ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

朝鮮總督府設置ノ際ニ於ケル韓國軍人ノ取扱ハ陸軍軍人ニ準シ其ノ【官等階級】任免分限及【給與】等ニ關シテハ當分ノ內從前ノ規程ニ依ル

前項ノ軍人中現職ニ在ル者ハ駐劄軍司令部附又ハ駐劄憲兵隊司令部附トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●陸海軍將校分限令

光武八年九月
勅詔

第一條　將校ハ終身其ノ官ヲ保有シ其ノ章服ヲ著シ其ノ官ニ對スル禮遇ヲ享ク之ヲ將校ノ分限トイフ

第二條　將校ハ左ニ揭クル一事項ニ因ラサレハ其ノ官ヲ免スルコトヲ得

一　不具癈疾ニ因リ又ハ身體若ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルニ堪ヘサルトキ

第一　聖旨ヲ以テ現役ヲ退キタルトキ
第二　休職ニ在リ五年ニ至ルモ就職トナラサルトキ但シ第四條第二項ノ第八第九ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス
第三　停職ニ在リ二年ニ至ルモ就職トナラサルトキ
第四　陸軍各部ノ文官ニ專任シタルトキ
第五　一年志願兵ニシテ士官ニ任セラレタルトキ
第六　預備準士官下士ニシテ尉官ニ任セラレタルトキ

第六條　後備ハ左ニ揭クル一事項ニ當ル者ヲ稱ス

第一　年期滿限トナリ現役ヲ退キタルトキ
第二　預備滿期トナリタルトキ
第三　後備準士官下士ニシテ尉官ニ陞任シタルトキ
第七條　退役ハ後備滿期ニ至リタル者及傷痍或ハ疾病ニシテ永久服役ニ堪ヘス現役若ハ預備又ハ後備ニ退キタル者ヲ稱ス
第八條　預備後備ハ總テ招集ニ應ス
第九條　本令ハ將校相當官ニモ適用ス

●宮內官分限令

明治四十年十月
皇室令第十五號
改正　明治四二年第一一號・四三年第三八號、大正元年第四號・第一五號・三年第一八號、六年一一第七號・九年七第六號・一三年一第二號

朕宮內官分限令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

宮內官分限令

第一條　宮內官ハ法律ノ規定ニ依ルニ非サレハ其ノ官ヲ失ヒ又ハ之ヲ免セラルルコトナシ

第二條　宮內官左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ官ヲ免スルコトヲ得

一　不具癈疾ニ因リ又ハ身體若ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルニ堪ヘサルトキ

二　傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ其ノ職ニ堪ヘサルニ因リ又ハ自己ノ便宜ニ因リ免官ヲ願出タルトキ

三　官制又ハ定員ノ改正ニ因リ過員ヲ生シタルトキ

前項第一號ニ依リ其ノ官ヲ免スルトキハ宮內官考査委員ノ審査ニ付ス

第三條　宮內官ハ廢官若ハ廢廳ノ場合ニ於テハ當然退官者トス

第四條　第六條第三號第四號ニ依リ休職ヲ命セラレ滿期ニ至リタル者ハ當然退官者トス

第五條　宮內官ハ其ノ意ニ反シテ同等官以下ニ轉官セラルルコトナシ

第六條　宮內官左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ休職ヲ命スルコトヲ得

一　宮內官懲戒令ノ規定ニ依リ宮內官考查委員ノ審査ニ付セラレタルトキ

二　刑事事件ニ關シ告訴若ハ告發セラレタルトキ

三　官制又ハ定員ノ改正ニ因リ過員ヲ生シタルトキ

四　事務ノ都合ニ依リ心要ナルトキ

前項休職ノ期間ハ第一號第二號ノ場合ニ在リテハ其ノ宮內官考查委員ノ審查中又ハ裁判所ニ繫屬中ニシテ第三號第四號ノ場合ニ在リテハ高等官ニ付テハ滿二年、判任官ニ付テハ滿一年トス

第七條　休職者ハ其ノ本官ヲ奉シテ職務ニ從事セス其ノ他總テ在職宮內官ト異ナルコトナシ

前條第一項第三號第四號ニ依リ休職ヲ命セラレタル者ニハ事務ノ都合ニ依リ何時ニテモ復職ヲ命スルコトヲ得

第八條　本令ハ親任式ヲ以テ任スル官ニ在ルモノ名義ヲ以テスルモ直接ト間接トヲ問ハス

總テ他人ノ贈遺ヲ受クルコトヲ得

官吏ノ職務ニ關シ慰勞又ハ謝儀又ハ何等

宮吏ノ職務ニ關シ直接ト間接トヲ問ハス

官吏外國ノ君主又ハ政府ヨリ授與セムトスルコトヲ得

第九條　左ニ揭ケタル者ト直接ニ關係ノ職務ニ居ルノ官吏ハ其ノ親族ヲ受クルコトヲ得ス

一　官廳ノ工事ヲ受負フ者

一　官廳ノ爲替方又ハ出納ヲ引受クル者

一　官廳ノ補助金ヲ受クル起業者

一　官廳ノ用品ヲ調達スル者

官廳ト諸般ノ契約ヲ結フ者

第十條　凡ソ上官タル者ハ職務ノ內外ヲ問ハス所屬官吏ヨリ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス

第十一條　官吏竝ニ其ノ家族ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ直接ト間接トヲ問ハス商業ヲ營ムコトヲ得ス

第十二條　官吏ハ取引相場會社ノ社員タルコトヲ得ス及間接ニ相場商業ニ關係スルコトヲ得ス

第十三條　官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ本職ノ外ニ給料ヲ得テ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ス

第十四條　浪費シテ產ヲ破リ其ノ分ニ應セサル負債ヲ爲ス者ハ過失ノ一タルヘシ

第十五條　官吏ハ私立郵船會社又ハ私立鐵道會社ヨリ無賃乘船無賃乘車切符ヲ受クルコトヲ得ス

第十六條　凡ソ局長、所長其ノ他一部ノ長ハ各所屬官吏ヲ監督ス過失若シ懲戒處分ヲ行フノ區域ノ內ニ在ラサル者ハ之ヲ訓告スルコトヲ務ムヘシ若シ懲戒處分ヲ要スト認ムルトキハ事情ヲ具ヘテ之ヲ本屬長官ニ稟告スヘシ其ノ情ヲ知リ隱蔽シテ稟告セサル者亦過失タルコトヲ免レス

第十七條　本紀律ハ高等官判任官及俸給ヲ得テ公務ヲ奉スル者ニ適用ス

第三款　服務

●官吏服務紀律

明治二十年七月
勅令第三十九號

朕官吏服務紀律ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ施行セシム

官吏服務紀律

第一條　凡ソ官吏ハ　天皇陛下及　天皇陛下ノ政府ニ對シ忠順勤勞ヲ主トシ法律命令ニ從ヒ各其ノ職務ヲ盡スヘシ

第二條　官吏ハ其ノ職務ニ付本屬長官ノ命令ヲ遵守スヘシ但シ其ノ命令ニ對シ意見ヲ述ルコトヲ得

第三條　官吏ハ職務ノ內外ヲ問ハス廉恥ヲ重シ貪汚ノ所爲アルヘカラス

官吏ハ職務ノ內外ヲ問ハス威權ヲ濫用セス謹愼懇切ナルコトヲ務ムヘシ

第四條　官吏ハ己ノ職務ニ關スルト又ハ他ノ官吏ヨリ聞知シタルトヲ問ハス官ノ機密ヲ漏洩スルコトヲ禁ス其ノ職ヲ退ク後ニ於テモ亦同樣トス

裁判所ノ召喚ニ依リ證人又ハ鑑定人トナリ職務上ノ祕密ニ就キ訊問ヲ受クルトキハ本屬長官ノ許可ヲ得タル件ニ限リ供述スルコトヲ得

第五條　官吏ハ私ニ職務上未發ノ文書ヲ關係者、事務員又ハ同居ノ親族、雇人、隣佑ニシテ成年ニ達シタル者ヲシテ之ニ立會ハシムヘシ

前項ニ揭クル者其ノ地ニ在ラサルトキ又ハ立會ヲ拒ミタルトキハ其ノ地ノ警察官吏又ハ而長、統首、洞長又ハ之ニ該當スル者ヲシテ之ニ立會ハシムヘシ

第六條　官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ本屬ノ內外ヲ問ハス官ノ用ニ非サル物品等公ケノ入札法ヲ以テ拂下候節其官廳ニ屬スル官員ニ限リ本人ハ勿論其代理人ト雖モ投票ヲ致候儀不相成候條此旨相達候事

●官吏職務外ニ公衆ニ對シ演說又ハ敍述スルヲ得

明治二十二年一月
內閣訓令

凡ソ官吏タル者ハ爾今其職務外ト雖モ公衆ニ對シ政治上又ハ學術上ノ意見ヲ演說シ又ハ之ヲ敍述スルコトヲ得但シ各長官ノ監督ニ從屬スヘシ

法律規則ヲ以テ特ニ制限セラレタル官吏ハ前項ノ限ニ在ラス

●財務官吏職務執行ノ際注意ノ件

明治二十二年十二月
總訓第六十二號

財務官吏職務執行ノ際注意ノ件左ノ通之ヲ定ム

第一條　財務官吏秘務ニ關シ出張スルトキハ必ス【制服ヲ著用シ且ツ】證票ヲ携帶スヘシ

第二條　財務官吏法令ノ規定ニ依リ臨檢、搜索、差押又ハ訊問ヲ爲ストキハ豫メ證票ヲ立會人ニ示スヘシ

第三條　財務官吏搜索ヲ爲ストキハ搜索スヘキ家宅、倉庫、船車其ノ他ノ場所ノ所有主、借主、管理者、事務員又ハ同居ノ親族、雇人、隣佑ニシテ成年ニ達シタル者ヲシテ之ニ立會ハシムヘシ

第四條　財務官吏ハ日沒ヨリ日出迄ノ間臨檢、搜索又ハ差押ヲ爲スコトヲ得但シ現行犯ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

日沒前ヨリ開始シタル臨檢、搜索、又ハ差押ニシテ必要アル場合ハ日沒後迄之ヲ繼續スルコトヲ得

第五條　財務官吏臨檢、搜索、差押又ハ訊問ヲ爲シタルトキハ其ノ場所及時竝供述ノ要領ヲ記載シタル調書ヲ作リ立會人又ハ訊問ヲ受ケタル者ニ示シ共ニ署名捺印スヘシ立會人又ハ訊問ヲ受ケタル者署名捺印セス又ハ

署名捺印スルコト能ハサルトキハ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第六條　證票ノ樣式左ノ如シ

用紙（厚質模造紙）

第　號

何府（郡）在勤

何府官吏證票

（郡ノ印）

二寸

三寸

附則

本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

隆熙三年度支部訓令第十四號財務官吏檢查規程ハ之ヲ廢止ス

●官立學校長職務規程

明治四十四年十月
總訓第八十三號

改正　大正一〇年一〇第五四號

官立學校長職務規程左ノ通定ム

官立學校長

第一條　學校長ハ左ノ事項ヲ專行スヘシ

一　部下職員ノ勤務ノ指定

二　部下職員ノ例規請暇及休暇中旅行ノ許否

三　部下職員ノ官吏服務規律ニ依ル屬出ノ許否

四　部下職員ノ除服出仕

五　部下職員ノ出張但シ鴨綠江、豆滿江、對岸以外ノ外國出張ヲ除ク

六　宿泊ヲ要セサル修學旅行

七　其ノ他輕微ナル事項

專門學校長ハ前項ノ外部下判任官、同待遇職員及囑託員ノ進退、賞與竝部下職員ノ死傷及退官ニ關スル賜金、手當及諸給與ヲ專行スヘシ

第一項第三號ノ事項及前項ノ事項中進退ニ關スルモノハ處理ノ後遲滯ナク朝鮮總督ニ報告スヘシ

第二條　學校長ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ左ノ事項ヲ處理スルコトヲ得

一　部下職員ノ勤務規程竝學校細則ノ制定及改廢

二　制服

三　寄宿ヲ要スル修學旅行

四　生徒募集

五　其ノ他異例又ハ重要事項

第三條　專門學校長ハ部下職員ノ懲罰其ノ他ノ學校長ハ部下職員ノ進退及賞罰ニ關シ其ノ意見ヲ朝鮮總督ニ具申スヘシ

學校長ハ當該學校諸規則ノ制定改廢ニ關シ意見ヲ具申スルコトヲ得

第四條　學校長事故アルトキハ特ニ代理ヲ命シタル場合ヲ除クノ外上席敎官其ノ職務ヲ代理ス

第五條　學校長ハ別ニ定ムル報告例ノ外特ニ必要ト認ムル場合ニ於テハ其ノ事項ヲ朝鮮總督ニ報告スヘシ

附則

本令ハ明治四十四年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●看守及女監取締勤務規程

大正三年五月
總內訓第十號

朝鮮總督府監獄

看守及女監取締勤務規程左ノ通定ム

第一條　看守ノ勤務ハ其ノ種類ニ依リ外勤及內勤ノ二種ニ區別ス

第二條　外勤ノ看守ハ典獄ノ定ムル所ニ從ヒ左記各號ニ從ヒ勤務スヘシ

一　每日勤務晝間八時間乃至十五時間

二　隔日勤務晝間八時間乃至十五時間晝夜二十時間乃至二十六時間

內勤ノ看守ハ一般官吏ノ例ニ依リ勤務スヘシ

第三條　外勤ノ看守ニハ典獄ノ定ムル所ニ從ヒ左記各號ニ從ヒ勤務スヘシ

一　看守及女監取締勤務規程

二　朝鮮總督府監獄

第一條　看守ノ勤務ハ其ノ種類ニ依リ外勤及內勤ノ二種ニ區別ス

第二條　外勤ノ看守ハ典獄ノ定ムル所ニ從ヒ左記各號ニ從ヒ勤務スヘシ

一　每日勤務晝間八時間乃至十五時間

二　隔日勤務晝間八時間乃至十五時間晝夜二十時間乃至二十六時間內勤ノ看守ハ一般官吏ノ例ニ依リ勤務スヘシ

第三條　外勤ノ看守ニハ典獄ノ定ムル所ニ從ヒ左記各號ニ從ヒ勤務スヘシ

一　在監者ノ護送、非常事變其ノ他ノ事由ニ因リ本章ノ規定ニ依リ難キ場合ニ於ケル看守及女監取締ノ勤務ニ關シテハ典獄之ヲ定ム

第四條　外勤ノ看守ニ在リテハ勤務時間外ハ非番トス

第五條　每日勤務スル外勤ノ看守十日以上勤續シタルトキハ配置ヲ要セサル人員ニ限リ一日以內之ヲ非番トス

第六條　外勤ノ看守ハ在監者ヲ就業セシメサル日ニ於テハ配置ヲ要セサル人員ニ限リ一日以內之ヲ非番トスコトヲ得

第七條　非番トス雖勤務セシムルトキハ典獄ニ於テ必要アリト認ムルトキハ女監取締ノ勤務ニ關シテハ外勤ノ看守ノ例ニ依ル

第八條　在監者ノ護送、非常事變其ノ他ノ事由ニ因リ本章ノ規定ニ依リ難キ場合ニ於ケル看守及女監取締ノ勤務ニ關シテハ典獄之ヲ定ム

第九條　在監者ノ護送、非常事變其ノ他ノ事由ニ因リ本章ノ規定ニ依リ難キ場合ニ於ケル看守及女監取締ノ勤務ニ關シテハ典獄之ヲ定ム

●監獄醫、敎誨師、敎師、藥劑師、看守及女監取締職務規程

大正三年五月
總內訓第十一號

朝鮮總督府監獄

監獄醫、敎誨師、敎師、藥劑師、看守及女監取締職務規程左ノ通定ム

監獄醫、敎誨師、敎師、藥劑師、看守及女監取締職務規程

第一章　監獄醫ノ職務

第一條　監獄醫ハ上官ノ指揮ヲ承ケ在監者ノ檢診、治療及監獄衞生ニ關スル事務ヲ掌理ス

第二條　流行病患者發生シ又ハ發生ノ兆アルトキハ直ニ典獄ニ稟議シ豫防消毒ヲ施行スヘシ

第三條　傳染病ノ豫防及消毒竝清潔方法ノ施行其ノ他衞生上必要アルトキハ當該看守及女監取締ヲ指揮スルコトヲ得

第四條　病者ヲ診察シタルトキハ其ノ氏名、病性、微候、既往症及處方等ヲ在監者診療簿ニ記載シ典獄ノ檢閱ニ供スヘシ

第五條　急發病者アリタル場合ニ於テハ何時ニテモ直ニ診察治療スヘシ

第六條　危險ノ虞アル手術ヲ施スノ必要アリト認メタルトキハ豫メ其ノ旨ヲ典獄ニ具申シ許可ヲ受クヘシ

第七條　每日一回以上病監ニ臨ミ清潔、溫度、換氣等ノ實況ニ注意スヘシ

第八條　死亡シタル者アルトキハ檢屍ノ上其ノ死亡ノ原因及病症、死狀等ヲ詳記シタル死亡證書又ハ檢案書ヲ作成スヘシ

第九條　死後ノ解剖ヲ請フ者アルトキハ其ノ旨ヲ典獄ニ具申スヘシ

第十條　看護夫ニ對シテハ常ニ看護心得及救急療法等ヲ講說シ且看護上必要ナル事項ヲ練習セシムヘシ

第十一條　監獄ノ敷地、建物及在監者ノ使用スル物品其ノ他一切ノ設備ニ付テハ常ニ衞生上ノ關係ヲ視察シ意見ヲ典獄ニ具申スヘシ

第十二條　左ノ場合ニ於テハ其ノ狀況及意見ヲ具シテ速ニ典獄ニ申報スヘシ

一　作業ノ種類、就業ノ方法、運動ノ方法、糧食其ノ他ノ給與品ニ付在監者ノ保健ニ適セサルモノアルトキ

二　新入監者又ハ在監者中精神異常ノ疑アルモノ、刑事訴訟法第三百十九條第二項各號ニ該當スル者、癈篤疾若ハ危篤ニ陷リタル者アルトキ

三　新入監者又ハ在監者ノ體質、病症其ノ他健康狀態ニ因リ拘禁、作業、給養其ノ他處遇ノ方法ヲ殊ニシ若ハ之ヲ變更スルノ必要アルトキ

四　疾病ニ因リ懲罰ノ執行又ハ釋放ニ妨アル疾病ヲ隱蔽、虛構又ハ作爲シタル者アルトキ

五　他人ノ所爲ニ基因シ疾病ニ罹リタル者アルトキ

六　病者ヲ病監ニ收容スル必要アルトキ

七　病者ヲ病院ニ移送シ又ハ監獄醫ニ非サル醫師ヲシテ其ノ治療ヲ補助セシムル必要アルトキ

八　前各號ノ外主管事務ニ關シ特ニ異例ニ渉ル事故アルトキ

九　前各號ノ外主管事務ニ關シ特ニ異例ニ渉ル事故アルトキ

第十三條　敎誨師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ在監者

ノ敎誨及文書圖畫ノ閱讀ニ關スル事務ヲ掌理ス

第十四條　職務ノ執行ニ付必要アルトキハ當該看守及女監取締ヲ指揮スルコトヲ得

第十五條　罪質、犯數、性情、敎育、職業、年齡、境遇等在監者ノ身上ニ關スル諸般ノ情況ヲ觀察シ常ニ適切ナル個人敎誨ヲ行フヘシ

第十六條　分房者及在病監者ニ對シテハ一週一回以上其ノ監房ニ就キ個人敎誨ヲ行フヘシ

第十七條　新入監者又ハ釋放スヘキ者ニ對シテハ個人敎誨ヲ行フヘシ

第十八條　死刑ノ宣告ヲ受ケタル者ニ對シテハ特ニ敎誨ヲ行ヒ精神ノ慰安ヲ圖ルヘシ

第十九條　在監者ヲ他監ニ移送スル場合ニ於テハ敎誨上特ニ注意スヘキ事項ヲ到著監獄ニ通報スヘシ

第二十條　左ノ場合ニ於テハ其ノ狀況及意見ヲ具シ速ニ典獄ニ申報スヘシ

一　在監者ノ性行、境遇等ノ關係ニ因リ拘禁及處遇ノ方法ヲ變更スルノ必要アルトキ

二　在監者ノ心意上ニ異例ノ現象ヲ認メタルトキ

三　監獄ノ處置ニ對シ不服ヲ訴ヘタル者アルトキ

四　寄宿ヲ爲シタル者アルトキ

五　釋放スヘキ者ニ付特ニ保護ヲ必要トスルトキ

六　前各號ノ外主管事務ニ關シ特ニ異例ニ渉ル事故アルトキ

第三章　敎師ノ職務

第二十一條　敎師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ在監者ノ敎育ヲ掌ル

第二十二條　就學者ニ對シテハ年齡、智能、性情、境遇等ヲ斟酌シテ各人ニ適當ナル敎育ヲ施スヘシ

第二十三條　左ノ場合ニ於テハ其ノ狀況及意見ヲ具シテ典獄ニ申報スヘシ

一　十八歲以上ノ受刑者ニシテ特ニ就學ヲ繼續シ若ハ新ニ就學セシムルノ必要アリト認ムルモノ又ハ就學者ニシテ敎誨ノ

ヲ要セサルニ至リタルモノアルトキ

二　就學者ノ狀態ニ因リ敎科目、敎授ノ程度及時數竝處遇ノ方法等ヲ變更スルノ必要アルトキ

三　前二號ノ外主管事務ニ關シ特ニ異例ニ渉ル事故アルトキ

第二十四條　敎師ヲ置カサル監獄ニ在リテハ其ノ職務ハ敎誨師之ヲ行フ

第四章　藥劑師ノ職務

第二十五條　藥劑師ノ上官ノ指揮ヲ承ケ調劑飲食物ノ分析鑑識及藥品其ノ他ノ醫療用品ノ保管ニ關スル事務ヲ掌理ス

第二十六條　監獄衞生ニ關シテハ監獄醫ヲ補助スヘシ

第二十七條　主管事務ニ關シ特ニ異例ニ渉ル事故アルトキハ其ノ狀況ヲ具シテ典獄ニ申報スヘシ

第二十八條　藥劑師ヲ置カサル監獄ニ在リテハ其ノ職務ハ監獄醫之ヲ行フ

第五章　看守ノ職務

第二十九條　看守ハ上官ノ指揮ヲ承ケ監獄ノ警戒、在監者ノ戒護其ノ他ノ監獄事務ニ服スヘシ

第三十條　監門ヲ守衞シ出入者ニ注意スヘシ

第三十一條　在監人員ハ每日一回以上之ヲ點檢スヘシ

第三十二條　消防器具ハ少クモ每月一回之ヲ檢查シ時時消防演習ヲ行フヘシ

第三十三條　戒具、鎗又ハ銃ノ使用法ヲ練習シ不時ノ使用ニ支障ナカラシムヘシ

第三十四條　鎗又ハ銃ヲ使用シタルトキハ速ニ上官ニ申告スヘシ

第三十五條　在監者逃走シタルトキハ非常ノ合圖ヲ爲シ逮捕ノ手段ヲ講シ且上官ニ申告シテ其ノ指揮ヲ承ケヘシ若逮捕ノ機ヲ失スル虞アルトキハ直ニ之ヲ追跡スヘシ

在監者騷擾ノ爲シタルトキハ非常ノ合圖ヲ爲シ鎭壓ノ手段ヲ講シ且上官ニ申告シテ其ノ指揮ヲ承ケヘシ

第三十六條　天災事變ノ際又ハ非常召集ノ命ニ接シタルトキハ直ニ昇廳シテ上官ノ指揮ヲ承ケヘシ

第三十七條　在監者情願ヲ爲サムコトヲ申出タルトキハ速ニ上官ニ申告スヘシ

第三十八條　在監者ノ暴行、脅迫、陰謀、變死、創傷、建物ノ破損其ノ他總テ拘禁ニ關スル異狀ヲ見聞シタルトキハ速ニ上官ニ申告スヘシ

第四十條　受持在監者ノ住所、氏名、罪名、犯數、刑名、刑期其ノ他行刑上必要ナル事項ハ努メテ之ヲ記憶シ每日其ノ行狀ヲ視察シ其ノ事故ノ概要ヲ錄取シ上官ノ檢閱ニ供スヘシ

第四十一條　每日終業ノ際作業ノ成績ヲ檢查シ且作業ニ使用シタル器具、器械、器械其ノ他ノ物ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其ノ事由ヲ具シテ上官ニ申告スヘシ

第四十二條　在監者器具、器械其ノ他ノ物ニ檢查ヲ加ヘタルトキハ其ノ事由ヲ具シテ上官ニ申告スヘシ

第四十三條　衣類、臥具及雜具ニ注意シ汚染又ハ破損シタルモノアルヲ認メタルトキハ上官ニ申告シ其ノ指揮ヲ承ケ交換、補綴、滌濯若ハ消毒ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十四條　勤務時間ノ終了、休憩其ノ他ノ事由ニ因リ勤務ノ場所ヲ離ルルトキハ交代者ニ對シ事務ヲ引繼クヘシ

第四十五條　擔任ノ事務ニ付テハ勤務終了ノトキ執務ノ狀況及觀察シタル事項ヲ上官ニ申告スヘシ

第四十六條　上官ノ指揮ヲ承ケ死刑及笞刑ノ執行ヲ爲スヘシ

第四十七條　左ノ場合ニ於テハ直ニ上官ニ申告シ其ノ指揮ヲ承クヘシ

一　事務上ニ付背規又ハ錯誤アリタルトキ

二　在監者ニ反則行爲アリタルトキ

三　在監者ノ身上ニ異變アリタルトキ

四　在監者ヨリ密告ヲ受ケタルトキ

五　前各號ノ外擔任事務ニ關シ特ニ異例ニ渉ル事故アリタルトキ

第六章　女監取締ノ職務

第四十八條　女監取締ノ職務ハ上官ノ指揮ヲ承ケ在監婦女ノ戒護其ノ他ノ監獄事務ニ服スヘシ

第四十九條　第二十九條、第三十條、第三十二條、第三十三條第二項、第三十四條及第四十六條ヲ除クノ外前章ノ規定ハ女監取締ニ之ヲ準用ス

●朝鮮總督府郵便所長服務規程

大正二年三月
總訓第八號

朝鮮總督府郵便所長服務規程左ノ通改正ス

第一條　郵便所長ハ自己ノ負擔ヲ以テ所要ノ廳舍ヲ設備シ朝鮮總督府所屬官署經費渡切規則ニ依リ給與スル經費額ヲ以テ其ノ所屬雇員傭人ノ給料其ノ他業務ニ關スル一切ノ費用ヲ支辨シ法規及命令ニ依ル各般ノ事務ヲ執行スヘシ

第二條　郵便所長自己ノ行爲ニ因リ政府ノ損害ヲ惹起シタルトキハ直ニ其ノ損害額ヲ辨償スヘシ但シ不可抗力ニ基因スル場合ハ此限ニ在ラス

所屬雇員又ハ傭人ノ行爲ニ因リ政府ノ損害ヲ惹起シタルトキハ郵便所長ニ於テ直ニ其ノ損害ヲ辨償スヘシ但シ不可抗力ニ基因スル場合及郵便所長休職、廢官、退官又ハ在職中死亡ノ日ヨリ五年ヲ過キテ發覺シタル事件ニ付テハ此ノ限ニアラス

第三條　郵便所長ハ官價三百圓以上ノ不動產又ハ記名國債證券若ハ之ト同額以上ノ確實ナル資產ヲ常ニ所有スルコトヲ要ス但シ郵便所長任用規則第一條但書ニ依ルモノハ此ノ限ニ在ラス

郵便所長非戶主ニシテ前項ノ資產ヲ有セサ

ル爲戶主ヲシテ身元保證ヲ爲サシメタルトキハ其ノ戶主ハ前項ノ資產ヲ常ニ所有スルコトヲ要ス

第四條　郵便所長ハ身元保證ヲ爲シタル戶主（以下身元保證人ト稱ス）ニ關シ左記各號ノ事實發生シタルトキハ直ニ之ヲ所轄管理事務分掌郵便局長（以後本章ニ於テ單ニ局長ト稱ス）ニ届出ツヘシ

一　第三條第二項ノ資產ヲ失ヒタルトキ

二　第八條第三號乃至第六號ノ一ニ該當スル事件發生シタルトキ

三　戶主權ヲ喪失シタルトキ

第五條　郵便所長ハ第六條乃至第八條ニ定ムル資格ヲ有スル者ヲ以テ身元引受人ト爲スヘシ

第六條　身元引受人ハ實價一千圓以上ニ不動產若ハ記名國債證券ヲ常ニ所有スルコトヲ要ス但シ一人ノ有スル不動產若ハ記名國債證券ノ實價一千圓ニ滿タサルトキハ其ノ實價額合計一千圓以上ヲ有スル三人以内ノ身元引受人ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第七條　身元引受人ハ當該郵便所在地又ハ分掌局長ノ特ニ承認シタル地ニ居住スル者ナルコトヲ要ス但シ身元引受人二人以上ノ場合ニ於テハ一人ヲ除クノ外ハ本文ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第八條　左記各號ノ一ニ該當スル者ハ身元引受人ト爲スコトヲ得ス

一　官吏

二　女子

三　無能力者

四　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

五　通信ニ關スル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル者

六　破產若ハ家產分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者

七　懲戒處分ニ依リ官職ヲ免セラレ二年ヲ經過セサル者

八　現ニ還信官署ニ對シ身元引受ノ責任ヲ負フ者但シ郵便所長任用規則第三條ニ依リ嗣子又ハ相續人ヲ後任郵便所長ニ任用シタルトキ前任所長ノ身元引受人後任所長ノ身元引受人ト爲ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九條　郵便所長ハ身元引受人左記各號ノ一ニ該當スルトキハ直ニ分掌局長ニ届出テ且之ヲ變更スヘシ

一　第六條ノ資格ヲ失ヒタルトキ

二　第七條ニ定ムル地以外ニ住所ヲ移轉シタルトキ

三　第八條第三號乃至第六號ノ一ニ該當スル事實發生シタルトキ

四　所在不明ト爲リ又ハ死亡シタルトキ

五　辭任ヲ申出テタルトキ

第十條　朝鮮總督府還信局長官ニ於テ身元引受人ヲ不適當ナリト認ムルトキハ其ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第十一條　郵便所長ハ身元保證人若ハ身元引受人ニ於テ住所氏名ヲ變更シ又ハ其ノ資產ニ著シキ異動ヲ生シタルトキハ直ニ之ヲ分掌局長ニ届出ツヘシ

第十二條　郵便所長ハ身元保證人ヨリ身元保證書（第二號樣式）ヲ徵シ分掌局長ニ之ヲ提出スヘシ

第十三條　郵便所長及其ノ家族ハ左ニ掲クルモノヲ除クノ外營業ヲ爲スコトヲ得但シ郵便所長會社又ハ營利ヲ目的トスル組合ノ役員ト爲ラムトスルトキハ分掌局長ノ許可ヲ受クヘシ

一　新聞紙又ハ雜誌ノ發行ニ關スルコト

二　投機關係ノ商業ヲ營ムコト

三　郵便所ト同一ノ家屋内ニ於テ爲替貯金又ハ兩替ノ業ヲ營ムコト

四　貸座敷、料理店又ハ之ニ類似ノ業ヲ營ミ若ハ其ノ營業ニ關スルコト

五　運輸又ハ運輸類似ノ業ヲ營ムコト

六　自己ノ勞働ヲ直接他人ニ供給シ又ハ戶主ニ就キ若ハ道路ニ於テ物ヲ賣買スルノ營業ニ關スルコト

七　工事受負業ニ關スルコト

郵便所長又ハ其ノ家族營業ヲ爲ストキ又ハ轉業廢業シタルトキハ十日以内ニ其ノ營業ノ種類ヲ分掌局長ニ届出ツヘシ郵便所長會社又ハ營利ヲ目的トスル組合ノ役員ト爲ラムトキ亦同シ

第十四條　郵便所長營業以外ノ職務ヲ兼ネムトスルトキハ其ノ職務ノ何タルヲ問ハス事由ヲ具シ分掌局長ノ許可ヲ受クヘシ

第十五條　郵便所長旅行スルトキハ發著ノ都度分掌局長ニ届出ツヘシ但シ旅行日數十五日以上ニ渉ルヘキ場合ハ豫メ分掌局長ノ許可ヲ受クヘシ

（第一號樣式）

朝鮮總督府郵便所長身元保證書

原籍
現住所
族籍　氏　名

右者今般朝鮮總督府郵便所長ニ任用相成候ニ付テハ拙者身元保證人ニ相立チ左記條件ヲ格守シ誠實ニ其ノ責任ヲ盡シ可申候

年　月　日

原籍
現住所
族籍職業　氏　名

朝鮮總督府還信局長官宛

記

第一條　身元保證人ハ郵便所長損害辨償ノ責任ヲ生シ其ノ辨償ヲ爲ササルトキハ之ニ代リテ辨償ノ責ニ任スルモノトス

第二條　身元保證人ハ郵便所長ノ職務ニシテ其ノ保證ヲ爲シタル後增加シタル場合ハ其ノ增加ノ部分ニ對シテモ亦前條ノ責任ヲ負フモノトス

第三條　身元保證人ハ郵便所長休職、廢官、退官又ハ在職中死亡ノ後ト雖其ノ在職中ニ係ル事件ニ就テハ其ノ休職、廢官、退官又ハ在職中死亡ノ日ヨリ五年ヲ經過スルニ非サレハ前二條ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

（第二號樣式）

朝鮮總督府郵便所長身元引受證書

原籍
現住所
族籍　氏　名

（連署）

朝鮮總督府還信局長官宛

朝鮮總督府郵便所長身元引受人規約

第一條　身元引受人ハ郵便所長損害辨償ノ責任ヲ生シ同人又ハ身元保證人ニ於テ其ノ辨償ヲ爲ササルトキハ之ニ代リテ辨償ノ責任スルモノトス

身元引受人變更ノ場合ニ於ケル新引受人ハ其ノ引受人ト爲ル前ニ於ケル當該郵便所長ノ責任ニ對シテ亦前項ニ同シ

第二條　身元引受人ハ郵便所長ノ職務ニシテ其ノ引受ヲ爲シタル後增加シタル場合ハ其ノ增加ノ部分ニ對シテモ亦前條ノ責任ヲ負フモノトス

第三條　身元引受人ハ郵便所長休職、廢官、退官又ハ在職中死亡ノ後ト雖其ノ在職中ニ係ル事件ニ就テハ其ノ休職、廢官、退官、又ハ在職中死亡ノ日ヨリ五年ヲ經過スルニ非サレハ前二條ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

第四條　身元引受人ハ郵便所長左記各號ノ一ニ該當スル事實發生シタルトキハ直ニ之ヲ所轄管理事務分掌郵便局長ニ届出ツヘシ

一　郵便所長服務規程ニ違背シタルトキ

二　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三　所在不明ト爲リ若ハ死亡シ又ハ無能力者ト爲リタルトキ

第五條　身元引受人ハ郵便所長ニ於テ更ニ身元引受人ヲ選定スル迄ハ其ノ責任ヲ辭スルコトヲ得ス

第六條　身元引受人ハ其ノ引受ヲ爲ス郵便所長所在不明ト爲リ、死亡シ又ハ無能力者、休職、失官ト爲リ又ハ服務停止ヲ命セラレタル場合ニ於テ後任者任用又ハ服務停止解除迄ノ間ハ當然郵便所長ノ心得ヲ以テ總テ當該郵便所長同樣職務上ノ責ニ任スルモノトス

第七條　身元引受人第四條ノ届出ヲ怠リタルトキハ十圓以内ノ過怠金ヲ命セラルルコトアルヘシ

公醫執務心得

大正三年六月
警訓甲第二十八號

警務部
警察署
警察分署
（警務部ノ事務ヲ取扱フ憲兵分隊所在地ニ限ル）
同憲兵分遣所
公醫

公醫執務心得左ノ通定ム

公醫執務心得

第一條　公醫ハ品行ヲ愼ミ親切丁寧ヲ旨トシ又地方醫師、醫生ノ模範タルノ覺悟アルヲ要ス

第二條　公醫ハ配置セラレタル地ニ於テ診察治療ニ必要ナル藥品器具其ノ他ノ設備ヲ爲スヘシ

第三條　公醫ハ常ニ緩急ニ應スル準備ヲ爲シ事故アルトキハ遲滯ナク其ノ事務ニ從事スヘシ

第四條　公醫病氣其ノ他ノ事由ニ依リ一時公務ニ從事シ難キ場合ハ所轄隊署所長ニ届出ツヘシ

第五條　公醫本務以外ニ於テ囑託其ノ他ノ常務的行爲ヲ目的トスル契約ヲ爲サムトスルトキハ所屬隊署務部長ノ承認ヲ受クヘシ

第六條　公醫規則第十一條ニ依ル認可ノ申請ハ所屬隊署所長ニ之ヲ爲スヘシ

第七條　公醫衛生及醫事ニ關シ新聞、雜誌等ニ意見ヲ發表セムトスルトキハ所屬隊署所長ノ承認ヲ受クヘシ

第八條　公醫衛生及醫事ニ關シ意見アルトキハ所轄隊署所長ヲ經テ警務部長又ハ警務總長ニ開申スヘシ

第九條　公醫ハ衛生及醫事ニ關スル上司ノ諮問ニ應スヘシ

第十條　公醫規則第七條ニ依ル報告ハ所轄隊署所長ヲ經テ警務部長ニ提出スヘシ

前項ノ報告ハ緊急ヲ要スルモノ及記述スヘキモノハ別記樣式ニ據ルヘシ

大正三年三月二十日當部訓令甲第九號ハ之ヲ廢止ス

大正　年　月　日取扱事項報告表

道郡配置
公醫　何某　印

（第一）

種別	内地人	朝鮮人	外國人	計
種痘施行人員				
健康診斷ヲ行ヒタル藝妓、娼妓、酌婦延人員				
診斷、檢案ヲ行ヒタル傳染病患者數				
診斷ヲ行ヒタル行旅病者數				

（第一）　一般公務關係

記載例

一　本表ハ官命ニ依リ施行シタル藝妓、娼妓、酌婦等ノ健康診斷狀況ヲ記載スルモノトス

二　「治療ヲ命シタル延人員」ノ欄ニハ其ノ月間每回ノ當該數ヲ積算掲記スヘシ

三　治療狀況例ヘハ入院治療ナルカ又ハ自宅治療ナルカ等ハ健康診斷場所每ニ備考ニ記述スヘシ

四　健康診斷及治療上ニ關スル一般狀況ハ備考ニ記述スヘシ

（第二）　診療患者病類別

同上貧民患者數												
檢案ヲ行ヒタル傳染病以外ノ死體數												

備考

記載例

一　本表ニハ公務卽チ官命ニ依リテ取扱ヒタル事項ノミヲ掲クルモノトス

二　「健康診斷ヲ行ヒタル藝妓、娼妓、酌婦延人員」ノ欄ニハ當月中定期又ハ臨時ニ診斷ヲ行ヒタル人員ヲ延數ニテ掲クヘシ例ヘハ同一人ニ對シ當月中三回診斷ヲ行ヒタルトキハ三ト計上スルカ如シ

三　「診斷、檢案ヲ行ヒタル傳染病患者、死體數」ノ欄ニハ診斷セシ患者數ハ右側ニ還書シ檢案セシ死體數ハ左側ニ朱書スヘシ

四　「診療ヲ行ヒタル行旅病者數」ノ欄及同上「貧民患者數」ノ欄ニハ當月中診療ヲ行ヒタル人員ヲ計上スヘシ故ニ同一人ニ對シ二回以上診療ヲ爲スモ其ノ間繼續ノ事實アルモノハ最初ノ診療ノミヲ計上スルヲ要ス而シテ前月ヨリ繼續診療セシ患者ハ其ノ數ヲ左側ニ朱書スヘシ

五　地方病ノ調查、學校衛生、工場衛生及特命ニ依リ取扱ヒタル事項其ノ他特ニ參考トナルヘキ事項ハ備考ニ概記スヘシ

（第二）

藝妓、娼妓、酌婦等ノ健康診斷成績

健康診斷場所（地名）	種別	檢診回數	受診人員	徵毒淋疾	軟性下疳	横痃	其他	計	治療ヲ命シタル延人員	一回平均受診人員	藝妓、娼妓、酌婦月末現員
	内地人										
	朝鮮人										
	外國人										
	内地人										
	朝鮮人										
	外國人										
	内地人										
	朝鮮人										
	外國人										
	内地人										
	朝鮮人										
	外國人										
計											

備考

一　本表ハ官命ニ依リ施行シタル藝妓、娼妓、酌婦等ノ健康診斷狀況ヲ記載スルモノトス

二　「治療ヲ命シタル延人員」ノ欄ニハ其ノ月間每回ノ當該數ヲ積算掲記スヘシ

三　治療狀況例ヘハ入院治療ナルカ又ハ自宅治療ナルカ等ハ健康診斷場所每ニ備考ニ記述スヘシ

四　健康診斷及治療上ニ關スル一般狀況ハ備考ニ記述スヘシ

病類別	内地人			朝鮮人			外國人			計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
計												

備考　記載例

一　本表ハ開業醫トシテ診療シタル患者ノミニ就キ計上スルモノトス

二　人員ハ延人員ニ非スシテ實際ノ患者數ヲ記載スヘシ

三　前月ヨリノ繼續診療患者ハ左側ニ其ノ數ヲ朱書スヘシ

四　本表中ノ病類別ハ警察報告例末尾參照ニ據ルヘシ

●警察官署獸醫務囑託服務心得

大正七年二月
警訓甲第二號

警察官署獸醫務囑託服務心得左ノ通定ム

警察官署獸醫務囑託（以下單ニ警察官署獸醫務囑託ト稱ス）ハ特別ノ勤務ニ服スル者ノ外所屬官署長ノ指揮ヲ承ケ左ノ事務ニ從事スヘシ

一、獸疫其ノ他ノ獸畜傳染病豫防

二、屠獸屠肉ノ檢査

三、乳牛及牛乳ニ關スル事項

四、鷄獸及病獸ノ病性鑑定

五、其ノ他警察獸醫務ニ關スル事項

第一條　警察獸醫ハ所屬官署長ノ認可ヲ受クルニ非サレハ他ノ官公署又ハ會社等ノ囑託ヲ受クルコトヲ得ス

第二條　警察獸醫ハ所屬官署長ノ承認ヲ受クルニ非サレハ其ノ事務ニ關シ新聞又ハ雜誌等ニ寄書スルコトヲ得ス

第三條　警察獸醫ハ所屬官署長ノ命ニ依リ一時服務シ難キトキハ所屬官署長ニ屆出ツヘシ

第四條　警察獸醫ハ其ノ事務ニ關シ上司ノ諮問ニ應スヘシ

第五條　警察獸醫ハ其ノ事務ニ關シ意見アルトキハ所屬官署長ヲ經テ警務部長又ハ警務總長ニ上申スルコトヲ得

第六條　警察獸醫病氣其ノ他ノ事故ニ依リ一時服務シ難キトキハ所屬官署長ニ屆出ツヘシ

第七條　警察獸醫私事ノ爲旅行セムトスルトキハ所屬官署長ノ認可ヲ受クヘシ

第八條　第二條第六條及第七條ハ專務ノ警察獸醫ニ非サル者ニハ之ヲ適用セス但シ第二條及第七條ノ場合ニ於テハ本屬長ニ手續ヲ了シタル後其ノ旨所屬官署長ニ屆出ツヘシ

●朝鮮總督府巡査及朝鮮總督府道巡査配置及勤務規程

大正七年三月
總訓第十五號

改正　大正八年八月第二三號、一三年一一月第二九號

朝鮮總督府巡査及朝鮮總督府道巡査配置及勤務規程左ノ通定ム

朝鮮總督府巡査及朝鮮總督府道巡査配置及勤務規程

第一條　巡査ノ勤務ハ左ノ區別ニ依ル

內勤　庶務ニ從事ス

外勤　警備、警衛、巡察、留置場看守、戶口調査、營業監査其ノ他ノ執行事務ニ從事ス

刑事　犯罪其ノ他ノ搜査、查察及視察ニ從事ス

特務　特種勤務ニ從事ス

教習　警察官講習所又ハ道ニ於テ教習ヲ受ク

上官ハ前項ノ區別ニ拘ラス勤務ヲ指示スルコトヲ得

第二條　警察署管內ヲ區畫シ其ノ區畫內ノ事務ニ從事セシムルヲ爲警察官派出所又ハ警察官駐在所ヲ設ケ外勤ノ巡査ヲ配置スルコトヲ得

警察官派出所ハ警察署所在地ニ警察官駐在所ハ其ノ他ノ地ニ之ヲ設ク

警察官駐在所ノ巡査配置定員ハ一駐在所ニ付三人以上トス但シ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條　削除

第四條　巡査ノ配置ヲ請願スル者アルトキハ請願者ノ費用ヲ以テ其ノ出張所ヲ設クルコトヲ得

第五條　外勤及特務ノ巡査ノ勤務ハ土地ノ狀況ニ依リ隔日トスルコトヲ得

前項ノ場合ニ在リテハ其ノ勤務時間ハ事務繁劇ノ場合ヲ除ク外十四時間乃至十八時間トス

第六條　道知事ハ本令施行ニ關シ必要ナル細則ヲ定ムルコトヲ得

●朝鮮ニ於ケル憲兵ノ行政警察及司法警察ニ關スル服務規程

大正十四年一月
總訓第一號

朝鮮ニ於ケル憲兵ノ行政警察及司法警察ニ關スル服務規程左ノ通定ム

第一條　朝鮮ニ於ケル憲兵ノ行政警察及司法警察ニ關スル服務ハ別段ノ定アル場合ノ外本令ニ依ルヘシ

第二條　憲兵ハ常ニ管內ノ治安ノ狀況ヲ審ニスヘシ

第三條　憲兵ハ其ノ職務ノ執行ニ關シテハ常ニ警察官吏ト密接ヲ保持シ特ニ匪徒ノ鎭定、搜索及逮捕竝軍人軍屬ニ關スル司法警察ニ關シテハ警察官吏ト協力スヘシ

第四條　憲兵ハ水火震災其ノ他天災事變等猶豫スヘカラサル事件發生ニ當リテハ速ニ人命財產ノ救護其ノ他警察上必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第五條　憲兵ハ行政警察又ハ司法警察ニ關シ道知事、警察署長其ノ他正當權限アル者ヨリ要求アルトキハ直ニ之ニ應シ必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第六條　前四條ノ規定ニ依リ取扱ヒタル事項ニシテ必要ト認ムルモノハ朝鮮憲兵隊司令官及憲兵隊長ニ在リテハ直ニ之ヲ總督ニ報告シ憲兵分隊長及憲兵分遣所長ニ在リテハ直ニ之ヲ道知事ニ報告シ且警察署長其ノ他關係官署ニ通報スヘシ

第七條　憲兵行政警察事務ヲ行フニ當リ他ノ事務官吏其ノ場ニ臨ミタルトキハ之ニ其ノ措置ヲ讓ルヘシ

第八條　憲兵ハ軍事其ノ他軍人軍屬ニ關スル司法警察ニ關スル場合ヲ除ク外特別ノ指揮アル場合ニ於テ犯罪搜査ニ從事スルヲ常例トス

第九條　朝鮮憲兵隊司令官、憲兵隊長又ハ憲兵分隊長補助憲兵ヲシテ行政警察又ハ司法警察ニ關スル憲兵ノ職務ヲ補助セシメタル場合ニ於テハ憲兵隊司令官ニ在リテハ朝鮮總督ニ、憲兵隊長又ハ憲兵分隊長ニ在リテハ道知事ニ直ニ之ヲ通報スヘシ

●京畿道消防手配置及勤務規程

大正十四年四月
總訓第二十二號

京畿道消防手配置及勤務規程左ノ通定ム

京畿道消防手配置及勤務規程

第一條　消防手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ水火災其ノ他ノ災害ノ警戒防禦及水火災場ニ於ケル人命ノ救護ニ從事スヘシ

第二條　消防手ノ勤務ハ左ノ區別ニ依ル

機關勤務　喞筒其ノ他消防機關ノ運轉及整理保存ニ從事ス

警戒防禦勤務　警戒防禦、人命救護及消防器械器具ノ整理保存ニ從事ス

信號勤務　喇叭手、傳令及旗手ノ勤務ニ從事ス

教習　學科實科ノ教習ヲ受ク

第三條　消防手ノ勤務ハ隔日トス但シ特別ノ必要アルトキハ此ノ限ニ在ラス

消防手ノ勤務時間ハ隔日勤務ノ者ニ在リテハ十四時間乃至十八時間トス

第四條　消防署管內ニ消防手派出所ヲ設置シ消防手ヲ配置スルコトヲ得

第五條　消防手ノ配置ヲ請願スル者アルトキハ請願者ノ費用ヲ以テ其ノ出張所ヲ設クルコトヲ得

第六條　道知事必要アリト認ムルトキハ消防署ヲシテ其ノ管轄區域外ノ水火災ニ警戒防禦ニ應援セシムルコトヲ得

第七條　消防署長ハ管轄區域外ノ水火災ニシテ警戒防禦スル必要アリト認ムルトキハ道知事ニ具狀スヘシ但シ緊急ノ場合ニ於テハ直ニ出動スルコトヲ得

第八條　消防署長ハ消防手ニ對シ點檢、訓授、職務上緊要ナル教養訓練及機關器械器具ノ整理保存ニ關スル檢查ヲ行フヘシ

第九條　道知事ハ道警察部長ヲシテ毎年一回以上消防署ニ於ケル紀律ノ弛張、職務ノ勤怠、事務ノ整否、教養訓練機關器械器具ノ整理保存其ノ他水火災上注意ヲ要スル事項ニ付檢閱セシムヘシ

前項ノ規定ニ依ル檢閱ノ狀況ハ道知事之ヲ朝鮮總督ニ報告スヘシ

第十條　非常召集、出場、應援、派出所ノ設置其ノ他本令施行ニ關スル事項ハ道知事之ヲ定ム

附　則

消防手勤務規程ハ之ヲ廢止ス

第四款　休職

●戰時事變ノ際巡查看守休職ニ關スル件

明治三十七年二月
勅令第三十三號

朕明治二十七年勅令第八十八號改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

明治二十七年勅令第八十八號左ノ通改正ス

戰時又ハ事變ニ際シ陸海軍ニ召集セラレタル巡查看守ニハ其ノ間休職ヲ命スルコトヲ得

前項休職中ノ日數ハ在職年數ニ算入ス

●監獄醫敎誨師及敎師ノ休職ニ關スル件

大正七年十月
勅令第三百六十六號

朕監獄醫敎誨師及敎師ノ休職ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

戰時又ハ事變ニ際シ陸軍又ハ海軍ニ召集セラレタル監獄醫、敎誨師及敎師ニハ其ノ間休職ヲ命スルコトヲ得

前項休職中ノ日數ハ在職年數ニ算入ス

第一項ノ規定ニ依リ休職ヲ命セラレタル者ノ陸軍又ハ海軍ニ於テ受ケル俸給又ハ給料ノ額ニ滿ツルマテ休職ヲ命セラレタル者ニハ其ノ不足額ニ相當スル金額以內ノ休職給ヲ給スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●官公立學校職員ノ休職ニ關スル件

大正四年五月
勅令第七十二號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ朝鮮ニ於ケル官立公立學校ノ訓導又ハ副訓導ノ休職ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

朝鮮ニ於ケル官立公立學校ノ訓導又ハ副訓導敎員養成ヲ目的トスル官立公立學校ニ入學スルトキハ休職ヲ命スルコトヲ得

休職ノ期間ハ其ノ事故止ミタル後尙三月トス

休職中ハ俸給ノ三分ノ一以下ヲ給シ又ハ全ク之ヲ給セサルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●神宮神部署職員及神宮衛士長衛士副長衛士竝官國幣社以下神社職員ノ休職ニ關スル件

大正四年二月
勅令第十三號

改正　大正六年三第二九號

朕神宮神部署職員及神宮衛士長衛士副長衛士竝官國幣社職員ノ休職ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　神宮神部署職員及神宮衛士長、衛士副長、衛士竝官國幣社以下神社職員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ休職ヲ命スルコトヲ得

一　懲戒事件ニ關シ懲戒委員會ノ審査ニ付セラレタルトキ

二　刑事事件ニ關シ告訴又ハ告發セラレタルトキ

三　事務ノ都合ニ依リ必要ナルトキ

四　定員ノ改正ニ依リ過員ヲ生シタルトキ

五　戰時又ハ事變ニ際シ陸海軍ニ召集セラレタルトキ

前項休職ノ期間ハ第一號及第二號ノ場合ニ在リテハ其ノ事件ノ懲戒委員會又ハ裁判所ニ繫屬中ト雖第三號及第四號ノ場合ニ在リテハ其ノ不在ノ間ト雖之ヲ休職ノ期間ニ算入ス

第二條　休職者ニハ其ノ休職中俸給ノ三分ノ一以內ヲ給スルコトヲ得

第三條　休職者ハ其ノ休職中俸給ノ三分ノ一以內ヲ給スルコトヲ得

第四條　休職者ニハ其ノ休職中俸給ノ三分ノ一以內ヲ給スルコトヲ得

第五條　休職ハ奏任官ノ待遇ヲ受クル者ニ在リテハ內閣總理大臣ノ認可ヲ經テ內務大臣、判任官ノ待遇ヲ受クル者ニ在リテハ內務大臣樺太廳長官北海道廳長官又ハ府縣知事之ヲ命ス其ノ復職ニ付亦同シ

前項ノ規程ニ依リ內務大臣ニ屬スル職權ハ別格官幣社靖國神社ニ付テハ陸軍大臣及海軍大臣、朝鮮ニ於テハ朝鮮總督、臺灣總督之ヲ行フ

テハ奏任官ノ待遇ヲ受クル者ニ付テハ二年判任官ノ待遇ヲ受クル者ニ付テハ一年トシ第五號ノ場合ニ在リテハ其ノ事故止ミタル後尙三月トス

第二條　前條第一項第三號、第四號又ハ第五號ノ規定ニ依リ休職ヲ命セラレ滿期ニ至リタルトキハ當然退職者トス

第三條　休職者ハ其ノ本職ヲ奏シテ職務ニ從事セス其ノ他總テ在職者ト異ナルコトナシ

第一條第一項第三號、第四號、又ハ第五號ノ規定ニ依リ休職ヲ命セラレタル者ニハ事務ノ都合ニ依リ何時ニテモ復職ヲ命スルコトヲ得

第四條　休職者ニハ其ノ休職中俸給ノ三分ノ一以內ヲ給スルコトヲ得

第五條　休職ハ奏任官ノ待遇ヲ受クル者ニ在リテハ內閣總理大臣ノ認可ヲ經テ內務大臣、判任官ノ待遇ヲ受クル者ニ在リテハ內務大臣樺太廳長官北海道廳長官又ハ府縣知事故止ミタル後尙三月トス

第二條　前條第一項第三號、第四號又ハ第五號ノ規定ニ依リ休職ヲ命セラレ滿期ニ至リタルトキハ當然退職者トス

第三條　休職者ハ其ノ本職ヲ奏シテ職務ニ從事セス其ノ他總テ在職者ト異ナルコトナシ

第一條第一項第三號、第四號、又ハ第五號ノ規定ニ依リ休職ヲ命セラレタル者ニハ事務ノ都合ニ依リ何時ニテモ復職ヲ命スルコトヲ得

第五款　賞罰

●朝鮮總督府看守及朝鮮總督府女監取締精勤證書授與規則

明治四十四年六月
總訓第五十一號

朝鮮總督府看守及朝鮮總督府女監取締精勤證書授與規則左ノ通定ム

朝鮮總督府看守及朝鮮總督府女監取締精勤證書授與規則

第一條　精勤證書ハ看守及女監取締ノ精勤ヲ證シ其ノ名譽ヲ表彰スルモノトス

第二條　精勤證書ハ左ノ事項ニ該當スル者ニ之ヲ授與ス

一　品行方正

二　職務勉勵

三　事務熟達

四　滿三年間勤續

第三條　左ニ記載シタル者ニ付テハ前條第四號ニ揭クル期間ノ處分ノ翌月ヨリ之ヲ起算ス

一　懲戒處分ニ因リ月俸百分ノ二十以上ニ相當スル減俸ニ處セラレタル者又ハ一年內ニ二回以上月俸百分ノ二十未滿ニ相當スル減俸ニ處セラレタル者

二　奏職中處刑セラレタル者

第四條　精勤證書ヲ有スル者懲戒處分ニ因リ免職セラレタルトキ、奏職中處刑セラレタルトキ又ハ退職後禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ精勤證書ヲ無效トス

第五條　精勤證書ハ別記雛形ニ依リ調製スヘシ

附　則

第六條　第二條第四號ノ期間ハ當分ノ內二年ニ之ヲ減縮スルコトヲ得

第七條　明治四十三年朝鮮總督府訓令第二十號ハ之ヲ廢止ス

（雛形）

六寸

第　號

朝鮮總督府（警務部長、道長官、事務官）精勤證書

朝鮮總督府（警務部、道）（警視、道書記官）氏　名

右品行方正ニシテ職務ニ勉勵シ事務ニ熟達ス因テ此證ヲ附與スル者也

明治　年　月　日

朝鮮總督府典獄位勳氏名印

八寸

朝鮮總督府道巡査精勤證書授與規則

大正八年十一月
總訓第四十七號

朝鮮總督府道巡査精勤證書授與規則左ノ通定ム

第一條　朝鮮總督府道巡査精勤證書ハ道巡査ノ精勤ヲ證シ其ノ名譽ヲ表彰スルモノトス

第二條　精勤證書ハ左ノ事項ニ該當スル者ニ對シ道知事之ヲ授與ス

一　品行方正
二　職務勉勵
三　事務及語學熟達
四　滿三年間勤續

第三條　前條第四號ニ揭クル期間ハ左ニ記載シタル者ニ在リテハ處分ノ翌月ヨリ之ヲ起算ス

一　懲戒處分ニ因リ月俸百分ノ二十以上ニ相當スル減俸ニ處セラレタル者又ハ一年內ニ一回以上月俸百分ノ二十未滿ニ相當スル減俸ニ處セラレタル者
二　奏任中處刑セラレタル者
三　懲戒處分ニ依リ免職セラレ又ハ第三條各號ノ一ニ該當シタルトキハ其ノ證書ヲ沒收スルコトアルヘシ

別紙

六寸

第　號

朝鮮總督府道巡査精勤證書

朝鮮總督府道巡査　氏　名

右品行方正ニシテ職務ニ勉勵シ事務及語學ニ熟達ス因テ此證ヲ附與ス

大正　年　月　日

朝鮮總督府何道知事位勳功爵　氏　名印

一尺八寸

備考　用紙ハ「鳥ノ子」、日章及輪廓ハ金色トス

第四條　第五條　水火災若ハ盜難等ニ罹リ精勤證書ヲ亡失シタルトキハ再ヒ之ヲ授與スヘシ

第六條　精勤證書ヲ別紙雛形ニ依リ調製スヘシ

附　則

明治四十四年朝鮮總督府訓令第七十二號朝鮮總督府道巡査及巡査補精勤證書授與規則ニ依リ授與シタル精勤證書ハ本令ニ依リ授與シタルモノト看做ス

朝鮮總督府稅關監吏ノ賞罰ニ關スル件

大正六年七月
勅令第七十號

朝鮮總督府稅關監吏ノ賞罰ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

朝鮮總督府稅關監吏賞罰規則ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其ノ所轄官廳ニ文官普通懲戒委員會ヲ置クコトヲ得

第二十三條　委員長ハ各官廳ノ長官ヲ以テ之ニ充ツ但シ內閣ニ在リテハ法制局長官、樞密院ニ在リテハ書記官長、各省ニ在リテハ次官、朝鮮總督府ニ在リテハ政務總監、臺灣總督府ニ在リテハ總務長官關東廳ニ在リテハ內務局長之ニ充ツ

委員ハ二人乃至六人トシ當該官廳高等官ノ中ヨリ本屬長官之ヲ命ス但シ內閣ニ在リテハ賞勳局、法制局及內閣所屬高等官ノ中ヨリ之ヲ命ス

特別ノ事情アルトキハ上級官廳ノ高等官ヲ以テ下級官廳ノ委員ニ充ツルコトヲ得

第二十四條　委員會ハ委員長及委員二名以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第二十五條　委員長事故アルトキハ上席ノ委員之ヲ代理ス

委員中事故アルトキ又ハ闕員アルトキハ委員長ハ豫備委員ノ中ヨリ代理ヲ命ス

第二十六條　委員會ニ書記二人ヲ置ク

第二十七條　書記ハ委員長所屬官廳ノ判任官ノ中ヨリ內閣總理大臣、其ノ他ハ各官廳ノ長官之ヲ命ス

第二十八條　書記ハ上官ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

東賞罰規則ニ依リ但シ同規則中大藏大臣トアルハ朝鮮總督トス

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

稅關監吏賞罰規則

明治二十三年十月九日
勅令第二百十八號

朝鮮總督府道巡査精勤證書授與規則

明治三十二年四月第一六六號
改正　明治三十三年五月第二二號、三四年一一第二一六號、三七年二七九號、四〇年四第一〇七號、四二年二第五號、四三年九第四〇四號、一一年三第二〇〇號、一三年一二第四六四號

第一條　朝鮮總督府道巡査精勤證書授與規則ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

文官懲戒令

明治三十二年三月
勅令第六十三號

改正　明治三三年五第二二號、三四年一一第二一六號、三七年二七九號、四〇年四第一〇七號、四二年二第五號、四三年九第四〇四號、一一年三第二〇〇號、一三年一二第四六四號

第一條　親任式ヲ以テ敍任スル官及法令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外官吏ハ本令ニ依ルニ非サレハ懲戒ヲ受クルコトナシ

第二條　官吏ノ懲戒ヲ受クヘキ場合左ノ如シ

一　職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ
二　職務ノ內外ヲ問ハス官職上ノ威嚴又ハ信用ヲ失フヘキ所爲アリタルトキ

第三條　懲戒ハ左ノ如シ

一　免官
二　減俸
三　譴責

第四條　免官ノ處分ヲ受ケタル者ハ其ノ官職ヲ失ヒタル日ヨリ二年間官職ニ就クコトヲ得ス

免官ノ處分ヲ受ケ其ノ情重キ者ハ位記ヲ返上セシム

第五條　減俸ハ一月以上一年以下俸月割額若ハ月俸ノ三分ノ一以下ヲ減ス

第六條　勅任官ノ免官及減俸ハ懲戒委員會ノ議決ヲ具シ內閣總理大臣之ヲ奏請シ奏任官ノ免官ハ懲戒委員會ノ議決ヲ具シ內閣總理大臣ヨリ經テ本屬長官之ヲ奏請シ裁可ニ依リ之ヲ行フ

奏任官ノ減俸及判任官ノ免官及減俸ハ懲戒委員會ノ議決ニ依リ本屬長官之ヲ行フ

譴責ハ本屬長官之ヲ行フ

第七條　懲戒ニ付セラルヘキ事件刑事裁判所ニ繫屬スル間ハ同一事件ニ對シ懲戒委員會ヲ開クコトヲ得ス

懲戒委員會ノ議決前懲戒ニ付スヘキ者ニ對シ刑事訴追ノ始マリタルトキハ事件ノ判決ヲ終ハルマテ懲戒委員會ノ開會ヲ停止ス

第二章　懲戒委員會

第一款　總則

第八條　懲戒委員會ヲ分テ文官高等懲戒委員會及文官普通懲戒委員會トス

第九條　文官高等懲戒委員會ハ高等官ノ懲戒ヲ議決シ文官普通懲戒委員會ハ判任官ノ懲戒ヲ議決ス

第二款　文官高等懲戒委員會

第十條　文官高等懲戒委員會ハ委員長一人委員六人ヲ以テ組織ス

第十一條　委員長ハ樞密顧問官ノ中ヨリ委員ハ行政裁判所長官、勅任行政裁判所評定官、勅任判事及其ノ他ノ勅任文官ノ中ヨリ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ命ス

委員會ニ必要ト認ムル場合ニ於テハ本人ノ出頭ヲ命スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ本人所屬官廳ヨリ本官相當ノ旅費ヲ給スヘシ

第十二條　委員會ニ於テ議決ヲナサシムルトキハ其ノ理由ヲ具シ本屬長官ニ覆申スヘシ

第十三條　委員長事故アルトキハ上席ノ委員之ヲ代理ス

委員中事故アルトキ又ハ闕員アルトキハ委員長ハ豫備委員ノ中ヨリ代理ヲ命ス

第十四條　委員及豫備委員ノ任期ハ三年トス

委員及豫備委員中闕員アリテ結闕ノ爲任命セラレタル者ハ前任者ノ殘任期間在任ス

第十五條　委員長及委員ハ左ノ事項ニ該當スルトキハ之ヲ免ス

一　其ノ官職ヲ失ヒタルトキ
二　委員會所在地以外ニ住所ヲ遷シタルトキ

第十六條　委員會ニ幹事一人ヲ置ク

幹事ハ高等官ノ中ヨリ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ命ス

第十七條　幹事ハ委員長ノ命ヲ承ケ委員會ノ議事ヲ準備シ庶務ヲ統理ス

第十八條　委員會ニ書記三人ヲ置ク

第十九條　書記ハ判任官ノ中ヨリ委員長之ヲ命ス

第二十條　書記ハ幹事ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三款　文官普通懲戒委員會

第二十一條　文官普通懲戒委員會ハ左ノ各官廳ニ之ヲ置ク

一　內閣
一　樞密院
一　各省
一　朝鮮總督府
一　臺灣總督府
一　關東廳
一　樺太廳
一　南洋廳
一　會計檢查院
一　行政裁判所
一　警視廳
一　北海道廳
一　府縣
一　朝鮮總督府道
一　臺灣總督府州
一　貴族院事務局
一　衆議院事務局

第二十二條　文官普通懲戒委員會ハ左ノ各官廳ニ之ヲ置ク

一　內閣
一　樞密院
一　各省
一　朝鮮總督府
一　臺灣總督府
一　關東廳
一　樺太廳
一　南洋廳
一　會計檢查院
一　行政裁判所
一　警視廳
一　北海道廳
一　府縣
一　朝鮮總督府道
一　臺灣總督府州
一　貴族院事務局
一　衆議院事務局

第二十三條　委員長ハ各官廳ノ長官ヲ以テ之ニ充ツ但シ內閣ニ在リテハ法制局長官、樞密院ニ在リテハ書記官長、各省ニ在リテハ次官、朝鮮總督府ニ在リテハ總務長官、臺灣總督府ニ在リテハ內務局長之ニ充ツ

委員ハ二人乃至六人トシ當該官廳高等官ノ中ヨリ本屬長官之ヲ命ス但シ內閣ニ在リテハ賞勳局、法制局及內閣所屬高等官ノ中ヨリ之ヲ命ス

特別ノ事情アルトキハ上級官廳ノ高等官ヲ以テ下級官廳ノ委員ニ充ツルコトヲ得

第二十四條　委員會ハ委員長及委員二名以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第二十五條　委員長事故アルトキハ上席ノ委員之ヲ代理ス

第二十六條　委員會ニ書記二人ヲ置ク

第二十七條　書記ハ委員長所屬官廳ノ判任官ノ中ヨリ委員長之ヲ命ス

第二十八條　書記ハ上官ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三章　懲戒手續

第二十九條　本屬長官ハ所部ノ官吏ニシテ懲戒ニ當ルヘキ所爲アリト思料スルトキハ證憑ヲ具ヘ書面ヲ以テ懲戒委員會ノ審査ヲ要求スヘシ

第三十條　前條ノ要求アリタルトキハ委員長ハ期日ヲ定メテ委員會ヲ招集スヘシ

委員會ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ本人ノ出頭ヲ命スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ本人所屬官廳ヨリ本官相當ノ旅費ヲ給スヘシ

第三十一條　委員會ニ於テ議決ヲナサシムルトキハ其ノ理由ヲ具シ本屬長官ニ覆申スヘシ

第三十二條　委員長及委員ハ自己又ハ其ノ親族ニ關スル事件ノ會議ニ參與スルコトヲ得ス

第三十三條　委員會ノ審査手續ハ委員會之ヲ定ム

附　則

第三十四條　高等官試補ハ高等官ニ準シ判任官見習ハ判任官ニ準シ本令ヲ適用ス

第三十五條　本令ハ明治三十二年四月十日ヨリ施行ス

官吏懲戒例ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

◉朝鮮總督府判事懲戒令

明治四十四年五月　制令第五號

朝鮮總督府判事懲戒令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

朝鮮總督府判事懲戒令

第一條　朝鮮總督府判事ニシテ職務上ノ義務ニ違背シタルトキ又ハ官職上ノ威信ヲ失フヘキ所爲アリタルトキハ之ヲ懲戒ス

懲戒ハ朝鮮總督府判事懲戒委員會ノ議決ニ依リテ之ヲ爲ス

第二條　懲戒罰ハ左ノ如シ

一　譴責

二　減俸

三　停職

四　免官

第三條　懲戒委員會ハ平生ノ行狀ヲ斟酌シ所犯ノ輕重ニ從ヒ何レノ罰ヲ適用スヘキヤヲ定ム

第四條　減俸ハ一月以上一年以下年俸月割額ノ三分ノ一以下ヲ減ス

第五條　停職ハ三月以上一年以下職務ノ執行ヲ停止ス

停職中ハ俸給ヲ給セス

第六條　免官及勅任官ノ停職又ハ減俸ハ懲戒委員會ノ議決ヲ具シ內閣總理大臣ヲ經テ朝鮮總督之ヲ奏請シ謹責及奏任官ノ停職又ハ減俸ハ朝鮮總督之ヲ行フ

第七條　懲戒委員會ハ委員長一人及委員四人ヲ以テ組織ス

懲戒委員會ニ豫備委員四人ヲ置ク

第八條　委員長ハ高等法院長ヲ以テ之ニ充ツ

第九條　朝鮮總督ハ每年豫メ朝鮮總督府判事ノ中ニ就キ委員及豫備委員ヲ命ス

本令ハ本令施行前ノ行爲ニモ之ヲ適用ス

◉官吏待遇者ノ懲戒ニ關スル件

明治四十年四月　勅令第百七十七號

脫稿密顯問ノ諮詢ヲ經テ官吏待遇者ノ懲戒ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

官吏待遇者ノ懲戒ニ關シテハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外高等官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ニハ文官懲戒令高等官中ニ關スル規定ヲ準用シ判任官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ニハ同令中判任官ニ關スル規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

神職懲戒令及明治三十二年勅令第三百四十九號ハ之ヲ廢止ス

◉朝鮮總督府監獄所屬職員中奏任待遇者ノ懲戒ニ關スル件

明治四十四年五月　總令第六十三號

朝鮮總督府監獄所屬ノ職員中奏任待遇者ノ懲戒ニハ文官懲戒令中高等官ニ關スル規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉臺灣總督府、朝鮮總督府及關東廳ノ巡査及判任待遇監獄職員ノ懲戒ニ關スル件

大正九年八月　勅令第三百六十二號

改正　大正一一年三月第二一號

脫明治四十年勅令第二百九十三號臺灣總督府朝鮮總督府及關東廳ノ巡査及判任待遇監獄職員ノ懲戒ニ關スル件改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

朝鮮總督府監獄所屬ノ職員中奏任待遇者ノ懲戒ニハ文官懲戒令中高等官ニ關スル規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉臺灣總督府、朝鮮總督府及關東廳ノ巡査及判任待遇監獄職員ノ懲戒ニ關スル件

大正九年八月　勅令第三百六十二號

改正　大正一一年三月第二一號

脫明治四十年勅令第二百九十三號臺灣總督府朝鮮總督府及關東廳ノ巡査及判任待遇監獄職員ノ懲戒ニ關スル件改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

朝鮮總督府監獄所屬ノ職員中奏任待遇者ノ懲戒ニハ文官懲戒令中高等官ニ關スル規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉監獄判任待遇職員懲戒規程

明治三十六年三月　司法省令第七號

改正　大正二年七月第三〇號

監獄官制第十條第一項ニ依リ監獄判任待遇職員ノ懲戒規程左ノ通相定ム

監獄判任待遇職員懲戒規程

第一條　監獄判任待遇職員ノ懲戒ヲ受クヘキ場合ハ左ノ如シ

一　職務上ノ義務ニ違背シタルトキ

二　職務ノ怠慢ノ所爲アリタルトキ

三　職務ノ內外ヲ問ハス監獄官吏タルノ威信ヲ失フヘキ所爲アリタルトキ

第二條　懲戒ハ左ノ如シ

一　免職

二　減俸　一箇月以上五箇月以下月俸百分ノ二十以下ヲ減ス

三　譴責

第三條　懲戒ハ懲戒委員會ノ決議ニ依リ之ヲ行フ

但譴責ハ典獄之ヲ專行ス

第四條　懲戒委員會ニハ委員長一名委員二名乃至四名書記一名ヲ置ク

第五條　委員長ハ典獄トス

委員ハ典獄補又ハ看守長ノ中ヨリ典獄之ヲ命シ司法大臣ニ報告スヘシ

書記ハ委員長之ヲ命ス

委員長事故アルトキハ上席ノ委員之ヲ代理ス

第六條　委員會ハ委員長委員二名以上出席スルニアラサレハ之ヲ開クコトヲ得ス

委員會ノ議事ハ多數決トシ可否同數ナルトキハ委員長之ヲ決ス

委員長又ハ委員中自己ノ親屬ニ關スル事件ニハ議決ニ加ハルコトヲ得ス

第七條　書記ハ委員長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條　典獄ハ判任待遇職員ニシテ懲戒ニ當ルヘキ所爲アリト認メタルトキハ證憑ヲ具シ前項ノ要求スヘシ

前項ノ要求アリタルトキ委員長ハ臨時委員會ヲ開キ其決議ノ事由ヲ典獄ニ報告スヘシ

委員會ハ必要ト認ムルトキハ本人ヲ召喚シ取調ヲ爲スコトヲ得

第九條　懲戒ハ辭令書ヲ作リ之ヲ本人ニ達スヘシ

書面ヲ以テ懲戒委員會ノ審査ヲ要求スヘシ

◉判任官ノ待遇ヲ受クル朝鮮總督府道消防手ノ懲戒ニ關スル件

大正十一年八月　總令第百十九號

判任官ノ待遇ヲ受クル朝鮮總督府道消防手ノ懲戒ニ關シテハ朝鮮總督府巡査及朝鮮總督府巡査懲戒規程ヲ準用ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉懲戒又ハ懲罰ノ免除ニ關スル件

大正元年十月　勅令第三十號

脫懲戒又ハ懲罰ノ免除ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

官吏又ハ官吏待遇者ニシテ大正元年七月三十日前ノ所爲ニ付懲戒又ハ懲罰ノ處分ヲ受ケタル者ニ對シテハ將來ニ向テ其ノ懲戒又ハ懲罰ヲ免除ス未タ處分ヲ受ケサル者ニ對シテハ懲戒又ハ懲罰ヲ行ハス

陸軍懲罰令又ハ海軍懲罰令ノ適用ヲ受クル者亦前項ニ同シ

懲戒又ハ懲罰ニ基ク既成ノ效果ハ免除ニ因リ變更セラルルコトナシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉宮內官懲戒令

明治四十年十一月　皇室令第十六號

脫宮內官懲戒令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

宮內官懲戒令

第一條　宮內官ハ本令ニ依ルニ非サレハ懲戒ヲ受クルコトナシ

第二條　宮內官ノ懲戒ヲ受クヘキ場合左ノ如シ

一　職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ

二　職務ノ內外ヲ問ハス官職上ノ威嚴又ハ信用ヲ失フヘキ所爲アリタルトキ

第三條　懲戒ハ左ノ如シ

一　免官

二　減俸

三　譴責

第四條　減俸ハ一月以上一年以下トシ高等官ニ在リテハ年俸月割額ノ三分ノ一以下判任官ニ在リテハ月俸ノ三分ノ一以下ヲ減ス

第五條　宮內大臣ハ宮內官ニシテ免官又ハ減俸ニ當ルヘキ所爲アリト思料スルトキハ證憑ヲ具ヘ書面ヲ以テ宮內官考査委員ノ審査ニ付スヘシ

第六條　高等官ノ免官及減俸ハ宮內官考査委員ノ議決ヲ具シ宮內大臣之ヲ上奏ス

判任官ノ免官及減俸ハ宮內官考査委員ノ議決ニ依リ宮內大臣之ヲ行フ

第七條　譴責ハ宮內大臣之ヲ專行ス

第八條　本令ハ親任式ヲ以テ任スル官ニ在ル者及女官ニ之ヲ適用セス

附　則

本令ハ明治四十一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

◉勅任待遇奏任待遇宮內職員ノ懲戒ニ關スル件

大正三年七月　宮內省令第十六號

動任待遇奏任待遇宮內職員ノ懲戒ニ關スル件動裁ヲ經テ左ノ通定ム

動任待遇奏任待遇宮內職員ノ懲戒ニハ宮內官懲戒令中高等官ニ關スル規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉宮內職員ノ懲戒免除ニ關スル件

大正元年十月　勅令第三十號

脫懲戒又ハ懲罰ノ免除ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

官吏又ハ官吏待遇者ニシテ大正元年七月三十日前ノ所爲ニ付懲戒又ハ懲罰ノ處分ヲ受ケタル者ニ對シテハ將來ニ向テ其ノ懲戒又ハ懲罰ヲ免除ス未タ處分ヲ受ケサル者ニ對シテハ懲戒又ハ懲罰ヲ行ハス

懲戒又ハ懲罰ニ基ク既成ノ效果ハ免除ニ因リ變更セラルルコトナシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉判任待遇宮內職員ノ懲戒ニ關スル件

大正元年十月　皇室令第十六號

脫宮內職員ノ懲戒免除ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

宮內職員ニシテ大正元年七月三十日前ノ所爲ニ付懲戒ノ處分ヲ受ケタル者ニ對シテハ將來ニ向テ其ノ懲戒又ハ懲罰ヲ免除ス未タ處分ヲ受ケサル者ニ對シテハ懲戒又ハ懲罰ヲ行ハス

陸軍懲罰令又ハ海軍懲罰令ノ適用ヲ受クル者亦前項ニ同シ

懲戒又ハ懲罰ニ基ク既成ノ效果ハ免除ニ因リ變更セラルルコトナシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉判任官待遇宮內職員ノ懲戒ニ關スル件

大正三年七月　宮內省令第十七號

判任官待遇宮內職員ノ懲戒ニ關スル件左ノ通定ム

判任待遇宮內職員ノ懲戒ニハ宮內官懲戒令中判任官ニ關スル規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉勅任待遇奏任待遇宮內職員ノ懲戒ニ關スル件

大正三年七月　宮內省令第十六號

動任待遇奏任待遇宮內職員ノ懲戒ニ關スル件動裁ヲ經テ左ノ通定ム

動任待遇奏任待遇宮內職員ノ懲戒ニハ宮內官懲戒令中高等官ニ關スル規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉官吏懲戒例

明治二十二年勅令第百十二號

改正　大正二年勅令第三百八十一號

官吏懲戒例ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

◉朝鮮總督府判事懲戒令

明治四十四年五月　制令第五號

朝鮮總督府判事懲戒令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

朝鮮總督府判事懲戒令

第一條　朝鮮總督府判事ニシテ職務上ノ義務ニ違背シタルトキ又ハ官職上ノ威信ヲ失フヘキ所爲アリタルトキハ之ヲ懲戒ス

懲戒ハ朝鮮總督府判事懲戒委員會ノ議決ニ依リテ之ヲ爲ス

第二條　懲戒罰ハ左ノ如シ

一　譴責

二　減俸

三　停職

四　免官

第三條　懲戒委員會ハ平生ノ行狀ヲ斟酌シ所犯ノ輕重ニ從ヒ何レノ罰ヲ適用スヘキヤヲ定ム

第四條　減俸ハ一月以上一年以下年俸月割額ノ三分ノ一以下ヲ減ス

第五條　停職ハ三月以上一年以下職務ノ執行ヲ停止ス

停職中ハ俸給ヲ給セス

第六條　免官及勅任官ノ停職又ハ減俸ハ懲戒委員會ノ議決ヲ具シ內閣總理大臣ヲ經テ朝鮮總督之ヲ奏請シ謹責及奏任官ノ停職又ハ減俸ハ朝鮮總督之ヲ行フ

第七條　懲戒委員會ハ委員長一人及委員四人ヲ以テ組織ス

懲戒委員會ニ豫備委員四人ヲ置ク

第八條　委員長ハ高等法院長ヲ以テ之ニ充ツ

第九條　朝鮮總督ハ每年豫メ朝鮮總督府判事ノ中ニ就キ委員及豫備委員ヲ命ス

本令ハ本令施行前ノ行爲ニモ之ヲ適用ス

◉官吏待遇者ノ懲戒ニ關スル件

明治四十年四月　勅令第百七十七號

脫稿密顯問ノ諮詢ヲ經テ官吏待遇者ノ懲戒ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

官吏待遇者ノ懲戒ニ關シテハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外高等官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ニハ文官懲戒令高等官中ニ關スル規定ヲ準用シ判任官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ニハ同令中判任官ニ關スル規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

神職懲戒令及明治三十二年勅令第三百四十九號ハ之ヲ廢止ス

◉朝鮮總督府監獄所屬職員中奏任待遇者ノ懲戒ニ關スル件

明治四十四年五月　總令第六十三號

朝鮮總督府監獄所屬ノ職員中奏任待遇者ノ懲戒ニハ文官懲戒令中高等官ニ關スル規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉臺灣總督府、朝鮮總督府及關東廳ノ巡査及判任待遇監獄職員ノ懲戒ニ關スル件

大正九年八月　勅令第三百六十二號

改正　大正一一年三月第二一號

脫明治四十年勅令第二百九十三號臺灣總督府朝鮮總督府及關東廳ノ巡査及判任待遇監獄職員ノ懲戒ニ關スル件改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

朝鮮總督府監獄所屬ノ職員中奏任待遇者ノ懲戒ニハ文官懲戒令中高等官ニ關スル規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉臺灣總督府、朝鮮總督府及關東廳ノ巡査及判任待遇監獄職員ノ懲戒ニ關スル件

大正九年八月　勅令第三百六十二號

改正　大正一一年三月第二一號

脫明治四十年勅令第二百九十三號臺灣總督府朝鮮總督府及關東廳ノ巡査及判任待遇監獄職員ノ懲戒ニ關スル件改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

朝鮮總督府監獄所屬ノ職員中奏任待遇者ノ懲戒ニハ文官懲戒令中高等官ニ關スル規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉監獄判任待遇職員懲戒規程

明治三十六年三月　司法省令第七號

改正　大正二年七月第三〇號

監獄官制第十條第一項ニ依リ監獄判任待遇職員ノ懲戒規程左ノ通相定ム

監獄判任待遇職員懲戒規程

第一條　監獄判任待遇職員ノ懲戒ヲ受クヘキ場合ハ左ノ如シ

一　職務上ノ義務ニ違背シタルトキ

二　職務ノ怠慢ノ所爲アリタルトキ

三　職務ノ內外ヲ問ハス監獄官吏タルノ威信ヲ失フヘキ所爲アリタルトキ

第二條　懲戒ハ左ノ如シ

一　免職

二　減俸　一箇月以上五箇月以下月俸百分ノ二十以下ヲ減ス

三　譴責

第三條　懲戒ハ辭令書ヲ作リ之ヲ本人ニ達スヘシ

書面ヲ以テ懲戒委員會ノ審査ヲ要求スヘシ

前項ノ要求アリタルトキ委員長ハ臨時委員會ヲ開キ其決議ノ事由ヲ典獄ニ報告スヘシ

委員會ハ必要ト認ムルトキハ本人ヲ召喚シ取調ヲ爲スコトヲ得

第九條　懲戒ハ辭令書ヲ作リ之ヲ本人ニ達スヘシ

◉判任官ノ待遇ヲ受クル朝鮮總督府道消防手ノ懲戒ニ關スル件

大正十一年八月　總令第百十九號

判任官ノ待遇ヲ受クル朝鮮總督府道消防手ノ懲戒ニ關シテハ朝鮮總督府巡査及朝鮮總督府巡査懲戒規程ヲ準用ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉懲戒又ハ懲罰ノ免除ニ關スル件

大正元年十月　勅令第三十號

脫懲戒又ハ懲罰ノ免除ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

官吏又ハ官吏待遇者ニシテ大正元年七月三十日前ノ所爲ニ付懲戒又ハ懲罰ノ處分ヲ受ケタル者ニ對シテハ將來ニ向テ其ノ懲戒又ハ懲罰ヲ免除ス未タ處分ヲ受ケサル者ニ對シテハ懲戒又ハ懲罰ヲ行ハス

陸軍懲罰令又ハ海軍懲罰令ノ適用ヲ受クル者亦前項ニ同シ

懲戒又ハ懲罰ニ基ク既成ノ效果ハ免除ニ因リ變更セラルルコトナシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉宮內官懲戒令

明治四十年十一月　皇室令第十六號

脫宮內官懲戒令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

宮內官懲戒令

第一條　宮內官ハ本令ニ依ルニ非サレハ懲戒ヲ受クルコトナシ

第二條　宮內官ノ懲戒ヲ受クヘキ場合左ノ如シ

一　職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ

二　職務ノ內外ヲ問ハス官職上ノ威嚴又ハ信用ヲ失フヘキ所爲アリタルトキ

第三條　懲戒ハ左ノ如シ

一　免官

二　減俸

三　譴責

第四條　減俸ハ一月以上一年以下トシ高等官ニ在リテハ年俸月割額ノ三分ノ一以下判任官ニ在リテハ月俸ノ三分ノ一以下ヲ減ス

第五條　宮內大臣ハ宮內官ニシテ免官又ハ減俸ニ當ルヘキ所爲アリト思料スルトキハ證憑ヲ具ヘ書面ヲ以テ宮內官考査委員ノ審査ニ付スヘシ

第六條　高等官ノ免官及減俸ハ宮內官考査委員ノ議決ヲ具シ宮內大臣之ヲ上奏ス

判任官ノ免官及減俸ハ宮內官考査委員ノ議決ニ依リ宮內大臣之ヲ行フ

第七條　譴責ハ宮內大臣之ヲ專行ス

第八條　本令ハ親任式ヲ以テ任スル官ニ在ル者及女官ニ之ヲ適用セス

附　則

本令ハ明治四十一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

◉勅任待遇奏任待遇宮內職員ノ懲戒ニ關スル件

大正三年七月　宮內省令第十六號

動任待遇奏任待遇宮內職員ノ懲戒ニ關スル件動裁ヲ經テ左ノ通定ム

動任待遇奏任待遇宮內職員ノ懲戒ニハ宮內官懲戒令中高等官ニ關スル規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉宮內職員ノ懲戒免除ニ關スル件

大正元年十月　勅令第三十號

脫懲戒又ハ懲罰ノ免除ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

官吏又ハ官吏待遇者ニシテ大正元年七月三十日前ノ所爲ニ付懲戒又ハ懲罰ノ處分ヲ受ケタル者ニ對シテハ將來ニ向テ其ノ懲戒又ハ懲罰ヲ免除ス未タ處分ヲ受ケサル者ニ對シテハ懲戒又ハ懲罰ヲ行ハス

陸軍懲罰令又ハ海軍懲罰令ノ適用ヲ受クル者亦前項ニ同シ

懲戒又ハ懲罰ニ基ク既成ノ效果ハ免除ニ因リ變更セラルルコトナシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉判任待遇宮內職員ノ懲戒ニ關スル件

大正三年七月　宮內省令第十七號

判任待遇宮內職員ノ懲戒ニ關スル件左ノ通定ム

判任待遇宮內職員ノ懲戒ニハ宮內官懲戒令中判任官ニ關スル規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉勅任待遇奏任待遇宮內職員ノ懲戒ニ關スル件

大正三年七月　宮內省令第十六號

動任待遇奏任待遇宮內職員ノ懲戒ニ關スル件動裁ヲ經テ左ノ通定ム

動任待遇奏任待遇宮內職員ノ懲戒ニハ宮內官懲戒令中高等官ニ關スル規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

停職中ノ陸海軍軍人ニシテ其ノ停職ヲ免除セラレタル者ハ待命トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●宮内職員ノ懲戒免除ニ關スル件

大正四年十一月
皇室令第十一號

朕宮内職員ノ懲戒免除ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

宮内職員ニシテ大正四年十一月十日前ノ所爲ニ付キ懲戒ノ處分ヲ受ケタル者ニ對シテハ將來ニ向テ其ノ懲戒ヲ免除シ未タ處分ヲ受ケサル者ニ對シテハ懲戒ヲ行ハス

懲戒ニ基ツク既成ノ效果ハ免除ニ因リ變更セラルルコトナシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六款　執務時間　休暇

●朝鮮總督府及其所屬官廳ノ執務時間ニ關スル件

明治四十三年十二月
閣令第十六號

朝鮮總督府及其ノ所屬官廳ノ執務時間ハ朝鮮總督ニ於テ適宜之ヲ定メ施行スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ施行ス

●朝鮮總督府及所屬官署執務時間

大正十三年六月
總令第三十七號

朝鮮總督府及所屬官署ノ執務時間左ノ通定ム

朝鮮總督府及所屬官署執務時間

一　九月一日ヨリ九月三十日迄
午前八時ヨリ午後四時ニ至ル但シ土曜日ハ正午十二時迄トス

十月一日ヨリ十一月三十日迄
午前九時ヨリ午後四時ニ至ル但シ土曜日ハ正午十二時迄トス

十二月一日ヨリ翌年三月二十日迄
午前十時ヨリ午後四時ニ至ル但シ土曜日ハ正午十二時迄トス

三月二十一日ヨリ四月三十日迄
午前九時ヨリ午後四時ニ至ル但シ土曜日ハ正午十二時迄トス

五月一日ヨリ七月二十日迄
午前八時ヨリ午後四時ニ至ル但シ土曜日ハ正午十二時迄トス

七月二十一日ヨリ八月三十一日迄
午前八時ヨリ正午十二時ニ至ル

二　土地ノ狀況ニ依リ又ハ事務ノ性質上必要アル場合ニ於テハ當該官署ノ長官ハ朝鮮總督ノ認可ヲ得テ前項ノ執務時間ノ變更、繰替又ハ延長ヲ爲スコトヲ得

三　事務ノ狀況ニ依リ必要アルトキハ執務時間外ト雖執務スヘキモノトス

四　本屬長官ハ所屬職員ニ對シ七月二十一日ヨリ八月三十一日迄ノ間ニ於テ事務繁閑ヲ計リ二十日以内ノ休暇ヲ與フルコトヲ得但シ事務ノ都合ニ依リ當該期間内ニ於テ休暇ヲ與フルコトヲ得サル場合ニ於テハ他ノ期間ニ於テ之ヲ與フルコトヲ妨ケス

五　現業ニ從業スル者ノ執務時間ハ當該官署ノ長官之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十一年朝鮮總督府令第百三號ハ之ヲ廢止ス

●休暇日

明治　六年一月
太政官告示第二號
改正　明治六年太政官第二一二號

自今休暇左ノ通被定候事

一月一日ヨリ三日迄
十二月二十九日ヨリ三十一日迄

●日曜日休暇

本令ハ大正十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治六年太政官第二一二號ハ之ヲ廢止ス

●官員父母祭日休暇

明治　六年　九月
太政官達第三百十八號
省（使）府縣

自今諸官員父母ノ祭日ニハ休暇ヲ賜リ候此旨相達候事

●休日ニ關スル件

大正元年九月
勅令第十九號
改正　大正二年七第二五九號

朕休日ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

休日ノ祭日及祝日ヲ休日トス

元始祭　一月三日
新年宴會　一月五日
紀元節　二月十一日
神武天皇祭　四月三日
明治天皇祭　七月三十日
天長節　八月三十一日
天長節祝日　十月三十一日
神嘗祭　十月十七日
新嘗祭　十一月二十三日
春季皇靈祭　春分日
秋季皇靈祭　秋分日

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治九年三月
太政官達第二十七號ハ廢止ス

從前一六日休暇ノ處來ル四月ヨリ日曜日ヲ以テ休暇ト被定候條此旨相達候事

●官員父母祭日休暇

明治　六年　九月
太政官達第三百十八號
省（使）府縣

自今諸官員父母ノ祭日ニハ休暇ヲ賜リ候此旨相達候事

●休日ニ關スル件

大正元年九月
勅令第十九號
改正　大正二年七第二五九號

朕休日ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

休日ノ祭日及祝日ヲ休日トス

元始祭　一月三日
新年宴會　一月五日
紀元節　二月十一日
神武天皇祭　四月三日
明治天皇祭　七月三十日
天長節　八月三十一日
天長節祝日　十月三十一日
神嘗祭　十一月二十三日
春季皇靈祭　春分日
秋季皇靈祭　秋分日

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治六年太政官布告第三百四十四號ハ之ヲ廢止ス

●宮内職員ノ休日

大正二年七月
宮内省令第六號

宮内職員ノ休日勤務ヲ經テ左ノ通定ム

元始祭　一月三日
新年宴會　一月五日
紀元節　二月十一日
神武天皇祭　四月三日
明治天皇祭　七月三十日
天長節　八月三十一日
天長節祝日　十月三十一日
神嘗祭　十一月二十三日
春季皇靈祭　春分日
秋季皇靈祭　秋分日

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ施行ス

朝鮮總督府及所屬官署ノ執務時間左ノ通定ム

朝鮮總督府及所屬官署執務時間

一　九月一日ヨリ九月三十日迄
午前八時ヨリ午後四時ニ至ル但シ土曜日ハ正午十二時迄トス

十月一日ヨリ十一月三十日迄
午前九時ヨリ午後四時ニ至ル但シ土曜日ハ正午十二時迄トス

十二月一日ヨリ翌年三月二十日迄
午前十時ヨリ午後四時ニ至ル但シ土曜日ハ正午十二時迄トス

三月二十一日ヨリ四月三十日迄
午前九時ヨリ午後四時ニ至ル但シ土曜日ハ正午十二時迄トス

五月一日ヨリ七月二十日迄
午前八時ヨリ午後四時ニ至ル但シ土曜日ハ正午十二時迄トス

七月二十一日ヨリ八月三十一日迄
午前八時ヨリ正午十二時ニ至ル

二　土地ノ狀況ニ依リ又ハ事務ノ性質上必要アル場合ニ於テハ當該官署ノ長官ハ朝鮮總督ノ認可ヲ得テ前項ノ執務時間ノ變更、繰替又ハ延長ヲ爲スコトヲ得

三　事務ノ狀況ニ依リ必要アルトキハ執務時間外ト雖執務スヘキモノトス

四　本屬長官ハ所屬職員ニ對シ七月二十一日ヨリ八月三十一日迄ノ間ニ於テ事務繁閑ヲ計リ二十日以内ノ休暇ヲ與フルコトヲ得但シ事務ノ都合ニ依リ當該期間内ニ於テ休暇ヲ與フルコトヲ得サル場合ニ於テハ他ノ期間ニ於テ之ヲ與フルコトヲ妨ケス

五　現業ニ從業スル者ノ執務時間ハ當該官署ノ長官之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十一年朝鮮總督府令第百三號ハ之ヲ廢止ス

●休暇日

明治　六年一月
太政官告示第二號
改正　明治六年太政官第二一二號

自今休暇左ノ通被定候事

一月一日ヨリ三日迄
十二月二十九日ヨリ三十一日迄

●日曜日休暇

本令ハ大正十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治六年太政官第二一二號ハ之ヲ廢止ス

●官員父母祭日休暇

明治　六年　九月
太政官達第三百十八號
省（使）府縣

自今諸官員父母ノ祭日ニハ休暇ヲ賜リ候此旨相達候事

●休日ニ關スル件

大正元年九月
勅令第十九號
改正　大正二年七第二五九號

朕休日ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

休日ノ祭日及祝日ヲ休日トス

元始祭　一月三日
新年宴會　一月五日
紀元節　二月十一日
神武天皇祭　四月三日
明治天皇祭　七月三十日
天長節　八月三十一日
天長節祝日　十月三十一日
神嘗祭　十一月二十三日
春季皇靈祭　春分日
秋季皇靈祭　秋分日

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ施行ス

朝鮮總督府及其ノ所屬官廳ノ執務時間ニ關スル件

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ施行ス

●朝鮮總督府及所屬官署執務時間

大正十三年六月
總令第三十七號

朝鮮總督府及所屬官署ノ執務時間左ノ通定ム

朝鮮總督府及所屬官署執務時間

一　九月一日ヨリ九月三十日迄
午前八時ヨリ午後四時ニ至ル但シ土曜日ハ正午十二時迄トス

十月一日ヨリ十一月三十日迄
午前九時ヨリ午後四時ニ至ル但シ土曜日ハ正午十二時迄トス

十二月一日ヨリ翌年三月二十日迄
午前十時ヨリ午後四時ニ至ル但シ土曜日ハ正午十二時迄トス

三月二十一日ヨリ四月三十日迄
午前九時ヨリ午後四時ニ至ル但シ土曜日ハ正午十二時迄トス

五月一日ヨリ七月二十日迄
午前八時ヨリ午後四時ニ至ル但シ土曜日ハ正午十二時迄トス

七月二十一日ヨリ八月三十一日迄
午前八時ヨリ正午十二時ニ至ル

二　土地ノ狀況ニ依リ又ハ事務ノ性質上必要アル場合ニ於テハ當該官署ノ長官ハ朝鮮總督ノ認可ヲ得テ前項ノ執務時間ノ變更、繰替又ハ延長ヲ爲スコトヲ得

三　事務ノ狀況ニ依リ必要アルトキハ執務時間外ト雖執務スヘキモノトス

四　本屬長官ハ所屬職員ニ對シ七月二十一日ヨリ八月三十一日迄ノ間ニ於テ事務繁閑ヲ計リ二十日以内ノ休暇ヲ與フルコトヲ得但シ事務ノ都合ニ依リ當該期間内ニ於テ休暇ヲ與フルコトヲ得サル場合ニ於テハ他ノ期間ニ於テ之ヲ與フルコトヲ妨ケス

五　現業ニ從業スル者ノ執務時間ハ當該官署ノ長官之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十一年朝鮮總督府令第百三號ハ之ヲ廢止ス

●休暇日

明治　六年一月
太政官告示第二號
改正　明治六年太政官第二一二號

自今休暇左ノ通被定候事

一月一日ヨリ三日迄
十二月二十九日ヨリ三十一日迄

●日曜日休暇

クノ外之ヲ併與スルコトヲ得

第五條　第一條第一項各號及第二項ニ該當スル皆勤者アルトキハ警務總監部ニ在リテハ警務課長、其ノ他ニ在リテハ所屬部署長（警務部ニ於テハ警務課長、警察署ニ於テハ警察署長、警察分署ニ於テハ警察分署長以下同シ）別記第一號樣式ノ休暇證書ヲ付與スヘシ

滿六月皆勤ノ爲一週間ノ休暇證書ヲ與ヘラレタル者ニシテ證書ノ有效期間内ニ休暇セス又ハ事務ノ都合ニ依リ休暇ヲ許ササル爲皆勤滿一年ニ達シタルトキハ前ニ付與シタル證書ヲ返納セシメ更ニ三週間ノ休暇證書ヲ付與ス

第六條　休暇證書ハ左ノ期間ヲ經過シタルトキハ其ノ效力ヲ失フ

一　第一條第一項ニ依ルモノ　一年
二　同條第二項ニ依ルモノ　三年

第七條　休暇ヲ爲サムトスル者ハ其ノ旨ヲ記載シタル書面ニ休暇證書ヲ添ヘ警務總監部ニ在リテハ警務課長其ノ他ニ在リテハ所屬部署長ニ提出シ承認ヲ受クヘシ

休暇ハ事務ノ都合ニ依リ之ヲ取消シ又ハ其ノ日數ヲ減縮スルコトヲ得

第八條　警務總監部、警務部、警察署、警察分署ニハ別記第二號樣式ノ休暇原簿ヲ備置キ巡査（及巡査補）ノ休暇ニ關スル事項ヲ記載シテ整理スヘシ

附　則

本令ハ舊規程ニ依リ受クヘキ休暇ニ之ヲ準用ス

第一號樣式（用紙半紙）

表

五　寸

休暇證書

朝鮮總督府「巡査（及巡査補）」氏　名

明治四十三年十月一日ヨリ明治四十四年「四月」「七」日迄「滿六月」皆勤ニ付「一週」間休暇ノ證トシテ之ヲ付與ス但シ本證書ハ明治「四十四年」「四月」「八」日ヨリ滿「一年」間有效トス

明治「何」年「何」月「何」日

官氏名印

七　寸

裏

休暇月日	承認印	摘要
「四」月「十五」日「一」日間	㊞	
「五」月「十」日「一」日間	㊞	傳染病ノ爲五日間交通ヲ遮斷セラル　六

記事　何

第二號樣式（用紙厚紙）

休暇原簿

官氏名

明治四十三年	十月	一日	以前ヨリ勤務（新任者ニ在リテハ實務ニ服シ缺勤者ニ在リテハ出勤ノ旨ヲ記スヘシ）
同四十四年	一月	十五日	十六日ヨリ忌引
同四十四年	一月	十六日	除算スヘキ事由ヲ記載ス
同四十四年	一月	二十二日	計皆勤滿六月

同四十四年	一月	二十三日	忌引中ノ處出勤引續キ勤務
同四十四年	四月	七日	此休暇七日間

年	月	日	休暇日數	同殘日數	摘要
明治四十四年	四月	十五日	一	六	
同年	五月	三十日			傳染病ノ爲五日間交通ヲ遮斷セラル

備考

轉勤シタルトキハ轉勤先ノ部署長ニ引繼クヘキモノトス

第六章　禮式　忌服

第一款　禮式

●朝鮮總督府及所屬官署文官禮式

明治四十四年十一月
總訓第八十七號
改正　大正二年六第三四號

朝鮮總督府及所屬官署文官禮式左ノ通定ム

文官禮式

第一條　本禮式ニ於テ文官ト稱スルハ朝鮮總督府及所屬官署高等文官判任文官並其ノ待遇者ヲ謂ヒ上官ト稱スルハ官等等級又ハ待遇ノ上ナル者ヲ謂フ

第二條　文官ニシテ制服ヲ著用シタル者ハ特ニ規定アルモノヲ除クノ外本禮式ニ依リ上官ニ對シ敬禮ヲ行ヒ上官ハ之ニ答禮スヘシ上官タルコトヲ識別シ能ハサルトキ又ハ官等等級ノ相同シキ者ハ互ニ敬禮ヲ行フヘシ

第三條　敬禮ヲ分チテ室内ノ敬禮及室外ノ敬禮ノ二トス

第四條　室内ノ敬禮ハ敬禮スヘキ人ニ對シテ正面シ奏變ヲ正シ左右ノ手ヲ垂下シ其ノ眼ニ注目シテ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾ク帽ヲ持ツトキハ右手ニテ其ノ庇ヲ摘ミ内部ヲ右腋ニ接シテ之ヲ提ケ刀ヲ佩フルトキハ柄ヲ後ニシ左手ニテ兩鐺ノ間ヲ握ルモノトス

但シ監獄官吏ハ刀ノ柄ヲ前ニシ左手ニテ其ノ鞘ヲ押ヘ敬禮ヲ爲スヘシ

第五條　上官ノ居室ニ入ルトキハ其ノ席ヲ離ルルコト五六歩ノ所ニ於テ敬禮ヲ行フヘシ上官數人アルトキハ先ツ其ノ最高級ノ人ニ敬禮シ次テ他ノ一同ニ敬禮スルモノトス其ノ居室ヲ去ルトキ亦同シ

第六條　室外ニ於テハ舉手注目ノ敬禮ヲ行フヘシ但シ右手ヲ擧クルコト能ハサルトキハ其ノ儘ニ受禮者ニ注目シ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾クヘシ

舉手注目ノ敬禮ハ姿勢ヲ正シ右手ヲ擧ケ其ノ指ヲ接シテ伸ヘシ食指ト中指トヲ帽ノ庇ノ右側ニ當テ掌ヲ稍外方ニ向ケ肘ヲ肩ノ方向ニテ略其ノ高ニ齊シク頭ヲ向ケテ受禮者ノ眼ニ注目ス

●警察官稱呼例

大正四年一月
警訓甲第五號

各
警務部
警察署
警察分署
警察官

警察官稱呼例左ノ通定ム
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

警察官稱呼例

第一條　警察官ノ稱呼ニハ直接ト間接トヲ問ハス左ノ階級ニ依リ敬稱ヲ用ヰ氏ト官若ハ職名ヲ併用シ又ハ單ニ官若ハ職名ノミヲ使用スヘシ但シ上官ノ訓令及命令等ヲ通達スル場合ハ敬稱ヲ用ヰサルヲ例トス

一　奏任官以下ヨリ奏任官ニ對シテハ殿
二　判任官以下ヨリ奏任官ニ對シテハ殿
三　巡査、巡査補ヨリ判任官ニ對シテハ殿
四　巡査部長ヨリ判任官ニ對スル場合亦同シ

巡査、巡査補ヨリ巡査部長ニ對シ又ハ巡査補ヨリ巡査ニ對シテハ殿

第二條　同格中先任ノ者ヨリ後任者ニ對シテハ敬稱ヲ用ヰ先任者ヨリ後任者ニ對シテハ職名ヲ併用スヘシ

同格者中指揮監督ノ職權ヲ有スル官吏ニ對シテハ敬稱ヲ用ウヘシ

第三條　上階級者ヨリ下階級者ヲ呼フニハ氏ト官若ハ職名ヲ併用ス但シ警部以上ヨリ巡査、巡査補ノ總員ニ對シ代名詞ヲ以テ呼フトキハ「諸子」ノ語ヲ用ウルモノトス

第四條　教習、訓練其ノ他各般ノ講習ヲ受クル者其ノ教師、講師、幹事又ハ助教ヲ呼フニハ殿ノ敬稱ヲ用ウヘシ

第五條　所屬長ニ對シテ自稱ノ場合ハ氏ヲ稱スルモノトス

第六條　本例ノ稱呼ハ勤務中ト否トニ拘ラス又何人ニ對シテモ之ヲ用ウルモノトス

第七條　本例ハ警察官以外ノ警察官署職員ニ之ヲ準用ス

●朝鮮總督府警察禮式ニ關スル件

大正十三年一月
總訓第一號

道　知　事
警察官講習所長
朝鮮總督府警察官

朝鮮總督府警察禮式ニ關スル件左ノ通定ム

朝鮮總督府警察禮式

第一章　總則

第一條　警察官吏制服ヲ著用シタルトキノ禮式ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　本令ニ於テ上官ト稱スルハ指揮監督ノ職權ヲ有スル官吏ヲ謂フ

上級官職ニ在ル警察官吏及監督ノ任務ヲ行フ上級官吏ハ上官ニ準ス

第三條　皇族、王族、公族又ハ正式勅使ニ對スル敬禮ハ特別ノ式アル場合ヲ除クノ外天皇ニ對スル敬禮ニ準ス但シ皇族、王族又ハ公族軍職ヲ奉シテ部隊ヲ統率シ又ハ隊伍ニ在ルトキハ此ノ限ニ在ラス

外國ノ君主、攝政、大統領又ハ皇族ニ對スル敬禮ハ公式ノ場合ニ限リ前項ノ敬禮ニ準ス

第四條　內閣總理大臣、各省大臣、大臣ノ禮遇ヲ受クル者又ハ外國ノ使節ニ對スル敬禮ハ上官ニ對スル敬禮ニ準ス外國ノ君主、攝政、大統領又ハ皇族ニ對スル敬禮ニ準シ敬禮ニ代フルニ脫帽ヲ以テスル場合ニ於テモ適宜本令ニ規定スル敬禮ニ準シ敬禮ヲ行フヘシ

第五條　職務執行ノ爲止ムヲ得サル場合ヲ除クノ外上官ニ對シテハ敬禮ヲ行フヘシ上官數人アルトキハ先ツ其ノ最高級ノ人ニ敬禮シ次テ他ノ一同ニ敬禮スルモノトス其ノ居室ヲ去ルトキ亦同シ

第六條　室外ニ於テハ舉手注目ノ敬禮ヲ行フヘシ但シ右手ヲ擧クルコト能ハサルトキハ其ノ儘ニ受禮者ニ注目シ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾クヘシ

舉手注目ノ敬禮ハ姿勢ヲ正シ右手ヲ擧ケ其ノ指ヲ接シテ伸ヘシ食指ト中指トヲ帽ノ庇ノ右側ニ當テ掌ヲ稍外方ニ向ケ肘ヲ肩ノ方向ニテ略其ノ高ニ齊シク頭ヲ向ケテ受禮者ノ眼ニ注目ス

●警察官稱呼例

大正四年一月
警訓甲第五號

各
警務部
警察署
警察分署
警察官

警察官稱呼例左ノ通定ム
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

警察官稱呼例

第一條　警察官ノ稱呼ニハ直接ト間接トヲ問ハス左ノ階級ニ依リ敬稱ヲ用ヰ氏ト官若ハ職名ヲ併用シ又ハ單ニ官若ハ職名ノミヲ使用スヘシ但シ上官ノ訓令及命令等ヲ通達スル場合ハ敬稱ヲ用ヰサルヲ例トス

一　奏任官以下ヨリ奏任官ニ對シテハ殿
二　判任官以下ヨリ勅任官以上ニ對シテハ閣下
三　巡査、巡査補ヨリ判任官ニ對シテハ殿
四　巡査部長ヨリ判任官ニ對スル場合亦同シ

巡査、巡査補ヨリ巡査部長ニ對シ又ハ巡査補ヨリ巡査ニ對シテハ殿

第二條　同格中先任ノ者ヨリ後任者ニ對シテハ敬稱ヲ用ヰ先任者ヨリ後任者ニ對シテハ氏ト官若ハ職名ヲ併用スヘシ

同格者中指揮監督ノ職權ヲ有スル官吏ニ對シテハ敬稱ヲ用ウヘシ

第三條　上階級者ヨリ下階級者ヲ呼フニハ氏ト官若ハ職名ヲ併用ス但シ警部以上ヨリ巡査、巡査補ノ總員ニ對シ代名詞ヲ以テ呼フトキハ「諸子」ノ語ヲ用ウルモノトス

第四條　教習、訓練其ノ他各般ノ講習ヲ受クル者其ノ教師、講師、幹事又ハ助教ヲ呼フニハ殿ノ敬稱ヲ用ウヘシ

第五條　所屬長ニ對シテ自稱ノ場合ハ氏ヲ稱スルモノトス

第六條　本例ノ稱呼ハ勤務中ト否トニ拘ラス又何人ニ對シテモ之ヲ用ウルモノトス

第七條　本例ハ警察官以外ノ警察官署職員ニ之ヲ準用ス

●朝鮮總督府警察禮式ニ關スル件

大正十三年一月
總訓第一號

道　知　事
警察官講習所長
朝鮮總督府警察官

朝鮮總督府警察禮式ニ關スル件左ノ通定ム

朝鮮總督府警察禮式

第一章　總則

第一條　警察官吏制服ヲ著用シタルトキノ禮式ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　本令ニ於テ上官ト稱スルハ指揮監督ノ職權ヲ有スル官吏ヲ謂フ

上級官職ニ在ル警察官吏及監督ノ任務ヲ行フ上級官吏ハ上官ニ準ス

第三條　皇族、王族、公族又ハ正式勅使ニ對スル敬禮ハ特別ノ式アル場合ヲ除クノ外天皇ニ對スル敬禮ニ準ス但シ皇族、王族又ハ公族軍職ヲ奉シテ部隊ヲ統率シ又ハ隊伍ニ在ルトキハ此ノ限ニ在ラス

外國ノ君主、攝政、大統領又ハ皇族ニ對スル敬禮ハ公式ノ場合ニ限リ前項ノ敬禮ニ準ス

第四條　內閣總理大臣、各省大臣、大臣ノ禮遇ヲ受クル者又ハ外國ノ使節ニ對スル敬禮ハ上官ニ對スル敬禮ニ準ス外國ノ君主、攝政、大統領又ハ皇族ニ對スル敬禮ニ準シ敬禮ニ代フルニ脫帽ヲ以テスル場合ニ於テモ適宜本令ニ規定スル敬禮ニ準シ敬禮ヲ行フヘシ

第十三條　消防官吏制服ヲ著用シタルトキ

ノ禮式ニ付テハ本令ヲ準用ス

第二章　室內ノ敬禮

第二十四條　室內ニ入ルトキハ室外ニ於テ帽ヲ脫スヘシ

第二十五條　室內ノ敬禮ハ受禮者ヲ距ル通常約三歩ノ所ニ於テ之ニ面シテ直立シ姿勢ヲ正シ其ノ眼ニ注目シ體ノ上部ヲ約十五度前ニ傾ケ頭ヲ正シク上體ノ方向ニ保ツモノトス

帽ヲ手ニスルトキハ右手ニテ其ノ前庇ヲ摘ミ之ヲ垂直ニ提ケ帽ノ內部ヲ右股ニ對セシメ佩刀スルトキハ左手ニテ兩鐺ノ間ヲ輕ク押フルモノトス

物品ヲ兩手ニ携フルトキハ其ノ儘姿勢ヲ正スモノトス

第二十六條　天皇ニ拜謁スルトキハ先ツ御室ノ外ニ於テ敬禮シタル後御室ニ入リ直ニ敬禮シ更ニ進ミテ玉座ヲ距ル約六歩ノ所ニ於テ最敬禮ヲ爲シ畢リテ退歩シ御室ノ出口ニ於テ敬禮シ御室ヲ出テ更ニ敬禮ヲ行ヒタル後退去スヘシ但シ宮中等ニ於テ特ニ規定アル場合ニ於テハ之ニ從フモノトス

最敬禮ハ不動ノ姿勢ヲ執リ先ツ天皇ニ注目シ次ニ體ノ上部ヲ約四十五度前ニ傾ケ頭ヲ正シク上體ノ方向ニ保ツ外前條ノ敬禮ニ同シ

第二十七條　御眞影ヲ拜スルトキハ前條ノ規定ニ準ス

賢所參拜其ノ他拜神ノトキハ拜禮ヲ行フヘシ拜禮ハ神靈ニ對シ最敬禮ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ行フモノトス

第二十八條　官記、位記、勳記、辭令書等ヲ受クルトキハ授與者ノ席ヲ距ルコト約三歩ノ所ニ於テ敬禮ヲ行ヒタル後適宜ニ前進シ帽ヘテ左脇ニ挾ミ右手ヲ以テ之ヲ受ケ左手ヲ副ヘテ披見シ直ニ之ヲ收メ左手ニセシ帽ヲ右手ニ移シ原位ニ復シテ再ヒ敬禮ヲ行ヒ退去スヘシ

第二十九條　上官ヨリ書類其ノ他ノ物件ヲ受ケ又ハ之ヲ上官ニ呈スルトキハ前條ノ規定ニ準シ右手ヲ以テ之ヲ受ケ又ハ呈スヘシ但シ披見ヲ要スルトキハ左手ヲ副ヘテ披見ス

第三十條　室外ノ敬禮ハ擧手注目トシ受禮者ニ面シ行進ハ停止シ乘馬ノトキハ下乘シテ敬禮スヘシ

第三十一條　歩調ハ通常約六歩ノ所ニ於テ之ヲ行フモノトス

第三十二條　敬禮ハ受禮者ヲ距ル通常約六歩ノ所ニ於テ之ヲ行フモノトス

第三十三條　敬禮ハ受禮者ヲ距ル約六歩ノ所ニ於テ最敬禮ヲ爲シ畢リテ退歩シ御室ノ出口ニ於テ敬禮シ御室ヲ出テ更ニ敬禮ヲ行ヒタル後退去スヘシ但シ宮中等ニ於テ特ニ規定アル場合ニ於テハ之ニ從フモノトス

最敬禮ハ不動ノ姿勢ヲ執リ先ツ天皇ニ注目シ次ニ體ノ上部ヲ約四十五度前ニ傾ケ頭ヲ正シク上體ノ方向ニ保ツ外前條ノ敬禮ニ同シ

第三十四條　廉アル宴會等ニ招カレ其ノ參著及退散ノトキハ佩刀ヲ挾揷スルヲ禮トス

第三十五條　警備、臨檢、搜索其ノ他取締ノ職務ニ從事スルトキ又ハ銃ヲ携フルトキハ室外ノ敬禮ヲ行フモノトス

第三章　室外ノ敬禮

第三十六條　室外ノ敬禮ハ擧手注目トシ受禮者ニ面シ行進ハ停止シ乘馬ノトキハ下乘シテ敬禮スヘシ

第三十七條　室外ノ敬禮ハ步調ヲ取ルコトナク速歩ニテ之ヲ行フモノトス但シ至急ノ用務ヲ帶フルトキハ其ノ旨ヲ告ケ駈歩（乘馬ノトキハ駈歩又ハ速歩）ニテ敬禮ヲ行フモノトス

第三十八條　第二十八條乃至第三十條ニ規定スル場合ニ於テハ室外ノ敬禮ヲ行フノ外其ノ動作ハ各其ノ規定ニ準ス

前項ノ場合ニ於テ乘馬者徒歩ノ上官ニ對スルトキハ敬禮ヲ行ヒタル後下馬スヘシ但シ上官ノ許可アリタルトキ又ハ至急ノ用務ヲ帶ヒタルトキハ此ノ限ニ非ラス

第三十九條　天皇ニ拜謁スルトキハ先ツ御室ノ外ニ於テ之ヲ行フモノトス

第三十九條　天皇ニ拜謁スルトキハ玉座ヲ距ル約六歩ノ所ニ於テ敬禮ヲ爲シ畢リテ退歩シ御室ノ出口ニ於テ敬禮シ御室ヲ出テ更ニ敬禮ヲ行ヒタル後退去スヘシ但シ宮中等ニ於テ特ニ規定アル場合ニ於テハ之ニ從フモノトス

第四十條　行幸ニ遇フトキハ前驅ノ稍前ヨリ道路ノ一側ニ於テ車駕ノ通路ニ面シテ停止シ車駕約六歩前ニ近ツクトキ敬禮ヲ行ヒ約六歩過去迄其ノ姿勢ヲ保チ且迎且送又ハ注目スヘシ但シ乘馬ノトキハ其ノ儘、乘車ノトキハ下車シテ敬禮スヘシ

第四十一條　勅使ニ遇フトキハ行進ノ儘敬禮スヘシ

第四十二條　第二十八條乃至第三十條ニ規定スル場合ニ於テハ室外ノ敬禮ヲ行フノ外其ノ動作ハ各其ノ規定ニ準ス

前項ノ場合ニ於テ乘馬者徒歩ノ上官ニ對スルトキハ敬禮ヲ行ヒタル後下馬スヘシ但シ上官ノ許可アリタルトキ又ハ至急ノ用務ヲ帶ヒタルトキハ此ノ限ニ非ラス

第四十三條　行進間ノ敬禮ハ步調ヲ取ルコトナク速歩ニテ之ヲ行フモノトス但シ至急ノ用務ヲ帶フルトキハ其ノ旨ヲ告ケ駈歩（乘馬ノトキハ駈歩又ハ速歩）ニテ敬禮ヲ行フモノトス

第四十四條　隊伍ニ於ケル行進間ノ敬禮ハ指揮者ニ於テ先ツ隊伍ヲ遮歩行進ニ移シ其ノ先頭受禮者ヲ距ルコト約六歩ノ所ニ於テ「頭右（左）」又ハ「注目」ノ號令ヲ發シ次テ受禮者ノ眼ニ注目セシメ指揮者ハ相當ノ敬禮ヲ行ヒ受禮者除列ヲ行過キタルトキ「直レ」ノ號令ニテ頭ヲ正面ニ復セシムヘシ

第四十五條　乘車乘船ノトキハ其ノ儘姿勢ヲ正シ敬禮スルモ妨ケナシ但シ自轉車ニ乘リタルトキハ單ニ注目ヲ以テ敬禮ニ代フルコトヲ得

第四十六條　狹隘ナル通路、橋梁、廊下、階段等ニ於テ上官ニ出會シタルトキハ停止シテ敬禮シ上官ノ通過ヲ待ツヘシ

第四十七條　本令ニ依リ敬禮ヲ行フヘキ者ノ葬列ニ對シテハ其ノ柩ニ敬禮ヲ行ヒ其ノ他ノ葬列ニ對シテモナルヘク柩ニ敬禮ヲ行フヘシ

第四章　水上ノ敬禮

第四十八條　警察ノ船舶ニ於ケル敬禮ハ本章ニ規定スルモノヲ除クノ外前二章ノ規定ニ依ル

第四十九條　天皇ニ對スル敬禮ハ短艇ニ在リテハ橈手一齊ニ橈ヲ立テ（備ノ手面ヲ左右ニ向ケ垂直ニ立テケ號ノ令ニテ以テ直ニ持ス）手ノ外總員起立シテ敬禮ヲ行ヒ帆走中ノ船ニ在リテハ總帆ヲ下シ總員起立シテ敬禮ヲ行ヒ機舟ニ在リテハ進行ヲ止メ總員起立シテ敬禮ヲ行ヒ汽船ニ在リテハ進行ヲ止メ船員ハ甲板ノ適宜ノ場所ニ整列シ隊伍ノ敬禮ヲ行フヘシ但シ短艇ニ於テ一人ニシテ二挺ノ橈ヲ操ルトキハ天皇ニ面セサル方ノ橈ヲ取メテ他方ノ橈ヲ立ツルモノトス

「クラッチ手」ヲ具備スル短艇ニ於テハ橈ヲ上ケ短艇ヲ保チ機手ノ外總員起立シテ敬禮ヲ行フモノトス

第五十條　天皇乘御ノ船舶又ハ車駕ニ遇フトキハ其ノ船舶又ハ車駕ヲ距ル約三十「メートル」ノ所ニ於テ敬禮ヲ始メ約十「メートル」過ギ迄其ノ姿勢ヲ保ツモノトス

第五十一條　受禮者ニ對シテハ指揮者ノミ起立シテ敬禮ヲ行フヘシ

第五十二條　廉アル場合汽艦ニ上官出入スルトキハ船員ハ甲板ノ適宜ノ場所ニ整列シ姿

迎スルヲ例トス

第五十三條　舷梯ヲ昇ルトキ又ハ短艇ヨリ上陸スルトキハ上官ヲ先ニシ舷梯ヲ下ルトキ又ハ短艇ニ乘込ムトキハ下官ヲ先ニスルモノトス

第五十四條　至急ノ用務ヲ帶ヒ若ハ風雨等ノ爲敬禮スルコト能ハサルトキ又ハ貨物ヲ積載シタル船舶若ハ他ノ船舶ニ曳カレタル船舶ニ乘込ミ敬禮スルコト能ハサルトキハ敬禮ヲ略スルコトヲ得

第五十五條　第四十九條乃至第五十一條ニ規定スル敬禮ハ特ニ命アル場合ヲ除クノ外夜間ハ之ヲ行ハサルモノトス

第五十六條　短艇又ハ帆船ニ於テ敬禮ヲ行フトキ指揮者ハ左ノ號令ヲ用ウヘシ

	短艇	帆船
第一動	櫂立テ（カイタテ）	檣上ゲ（アゲ）方用意
第二動	立テ（タテ）	帆下シ（ホオロシ）方用意
第三動	下セ（オロセ）ー	下セ（オロセ）ー
同上（クラッテ）ヲ具備シタル場合	上ケ（アゲ）ー	上ケ（アゲ）ー

一人ニシテ二艇ノ櫂ヲ操ルトキハ前項ノ第一動ノ號令ノ前ニ「左（右）舷貯（サ（ウ）グンナサ）メ」ノ號令ヲ加フヘシ

第五十七條　前條ニ於テ指揮者ト稱スルハ短艇ニ在リテハ艇ノ掌ル者、帆船ニ在リテハ船長ヲ謂フ

第二款　忌服

●服忌令京家ノ制及產穢混穢廢止

明治七年十月太政官布告第百八號

服忌ノ儀追テ被仰出ノ品モ可有之候得共差向京家ノ制武家ノ制兩樣ニ相成居候テハ法律上不都合有之ニ付自今京家ノ制被廢候條此旨布告候事

明治五年二月
太政官布告

自今產穢不及憚候事

明治六年二月
太政官布告

自今混穢ノ制被廢候事

【參考】
明治七年十一月十八日（京都府伺）

服忌令ノ儀ハ追テ被仰出ノ品モ可有之云云本年第百八號ヲ以テ御布告相成右武家制服忌令ノ儀ハ元祿年中改正元文年中增補ノ別册相用ヒ可然哉爲念伺

（別册）

服忌令

一父母　忌五十日　服十三月【閏月ヲ加フヘス】
一養父母　忌三十日　服百五十日
遺跡相續【或ハ分地配當】ノ養子ハ實父母ノ如シ同姓ニテモ異姓ニテモ養方ノ親類實ノ如ク相互ニ服忌可受之實方ノ親類ハ父母ハ定式ノ服忌可受之祖父母伯叔父姑ハ半減ノ服忌可受之兄弟姉妹ハ相互ニ半減ノ服忌可受之此外ノ親類服忌無之實方ノ親類ハ定式ノ通相互ニ服忌可受之
一嫡母　忌十日　服三十日
對面無之候ハハ不可受服忌通路致シ候ハハ對面無之共服忌可受之父死去ノ後他ヘ嫁シ或ハ父離別スルニ於テハ【妾ノ子】不可受服忌但シ嫡母ノ親類ハ服忌無之
一末孫　忌三日　服七日
女子ハ最初ニ生レテモ末孫ニ准ス娘方ノ孫服忌同前
一曾孫玄孫　忌三日　服七日
娘方ニハ曾孫玄孫共ニ服忌無之
一從父兄弟姉妹　忌三日　服七日
父ノ姉妹ノ子並母方ノ伯叔父姑兄弟姉妹ト有之ハ母方ノ祖父母伯叔父姑異父兄弟姉妹モ同例
一嫡子ヲ人ノ養子ニ遣ハス時ハ服忌末子ノ如シ
一甥姪　忌三日　服七日
姉妹ノ子モ服忌同前
異父兄弟姉妹ノ子ハ半減ノ忌服可受之
一七歲未滿ノ小兒ハ無服忌
父母ハ三日遠慮其外ノ親類ハ同姓ニテモ異姓ニテモ一日遠慮ト日數過承候ハハ追テ不及遠慮但シ八歲ヨリ定式ノ服忌可受之
附七歲未滿ノ小兒ノ方ヘモ服忌無之父母死去ノ時ハ五十日遠慮其外ノ親類ハ一日遠慮父母ハ年月ヲ經テ承候共閏付ル日ヨリ五十日遠慮スヘシ
一閏忌之事
遠國ニオキテ死去年月ヲ經テ告來ルトイフトモ父母ハ閏付ル日ヨリ忌五十日服十三月外ノ親類ハ閏付ル日ヨリ服忌殘ル日數可受之忌ノ日數過テ告來ラハ一日遠慮服明候トモ同前
一重ル服忌之事
父ノ服忌イマタ不明內母ノ服忌有之ハ母ノ死去ノ日ヨリ五十日十三月ノ服忌可受之オモキ服忌ノ內カロキ服忌アリテ日數終ラハ追テ不及受服忌日數アマラハ殘ル服忌ノ日數可受之

【穢之事】

【一產穢】【夫七日】【婦三十五日】
【遠國ヨリ告來七日過キ候ハハ穢無之七日ノ內承リ候ハハ殘ル日數ノ穢タル可シ血荒流產同斷尤モ妾ノ產穢ノ時モ同例】
【一血荒】【夫七日】【婦十日】
【一流產】【夫五日】【婦十日】
【形體有之ハ可爲流產形體無之ハ可爲血荒】
【一死穢】【一日】
【家ノ內ニテ人死候時一間ニ居合候ハハ死穢可受之數居ヲ隔候ヘハ穢無之一間ニ居合候トモ不存候ヘハ穢無之二階ニテモ揚リ口數居ノ外ニ有之候ヘハ穢無之候家ナキ所ニ死人有之時ハ其骸有之地計リ穢候家主死去候テモ死穢ノ儀差別無之死後其所ヘ參リ候者ハ骸有之候共路合ノ穢也】
【一路合】【行水次第】
【一改葬】【遠慮一日】
【子ハ不殘遠慮但シ不承候ハハ追テ不及

船ニ乘込ミ敬禮スルコト能ハサルトキハ敬

初メヨリ同居セサレハ無服忌
父死去ノ後繼母他ヘ嫁シ或ハ父離別スルニ於テハ不可受服忌但シ繼父母ノ親類ニハ服忌無之
一離別之母　忌五十日　服十三月【閏月ヲ加フヘス】
一夫之父母　忌三十日　服十三月【閏月ヲ加フヘス】
一妻　忌二十日　服九十日
一嫡子　忌二十日　服九十日
家督ト定メサル時ハ末子ノ服忌可受之女子ハ最初ニ生レテモ末子ニ准ス
一末子　忌十日　服三十日
養子ニ遣シ候テモ服忌差別ナシ家督ト定ムル時ハ嫡子ノ服忌可受之
一養子　忌十日　服三十日
家督ト定ムル時ハ嫡子ノ服忌可受之
一夫之父母　忌三十日　服百五十日
一祖父母　忌三十日　服九十日
母方　忌二十日　服九十日
離別セラレ候祖母モ服忌無別儀
一曾祖父母　忌二十日　服九十日
母方ニハ服忌無之但シ遠慮一日
一高祖父母　忌十日　服三十日
母方ニハ服忌無之但シ遠慮一日
一伯叔父姑　忌二十日　服九十日
母方　忌十日　服三十日
父母種替リノ兄弟姉妹ハ半減ノ服忌可受之
一兄弟姉妹　忌二十日　服九十日
別腹タリトイフトモ服忌ニ無差別
一異父兄弟姉妹　忌十日　服三十日
一嫡孫　忌十日　服三十日
嫡孫承祖タル時ハ嫡子ノ服忌可受之祖父母死去ノ時モ嫡孫ノ方ヘモ五十日十三月ノ服忌可受之此外ノ親類服忌差別ナシ曾孫玄孫タリトイフトモ同例也
一末孫　忌三日　服七日
女子ハ最初ニ生レテモ末孫ニ准ス娘方ノ孫服忌同前
一曾孫玄孫　忌三日　服七日
娘方ニハ曾孫玄孫共ニ服忌無之
一從父兄弟姉妹　忌三日　服七日
父ノ姉妹ノ子並母方ノ伯叔父姑兄弟姉妹ト有之ハ母方ノ祖父母伯叔父姑異父兄弟姉妹モ同例
一甥姪　忌三日　服七日
姉妹ノ子モ服忌同前
異父兄弟姉妹ノ子ハ半減ノ忌服可受之
一七歲未滿ノ小兒ハ無服忌
父母ハ三日遠慮其外ノ親類ハ同姓ニテモ異姓ニテモ一日遠慮ト日數過承候ハハ追テ不及遠慮但シ八歲ヨリ定式ノ服忌可受之
附七歲未滿ノ小兒ノ方ヘモ服忌無之父母死去ノ時ハ五十日遠慮其外ノ親類ハ一日遠慮父母ハ年月ヲ經テ承候共閏付ル日ヨリ五十日遠慮スヘシ
一閏忌之事
遠國ニオキテ死去年月ヲ經テ告來ルトイフトモ父母ハ閏付ル日ヨリ忌五十日服十三月外ノ親類ハ閏付ル日ヨリ服忌殘ル日數可受之忌ノ日數過テ告來ラハ一日遠慮服明候トモ同前
一重ル服忌之事
父ノ服忌イマタ不明內母ノ服忌有之ハ母ノ死去ノ日ヨリ五十日十三月ノ服忌可受之オモキ服忌ノ內カロキ服忌アリテ日數終ラハ追テ不及受服忌日數アマラハ殘ル服忌ノ日數可受之

【穢之事】

【一產穢】【夫七日】【婦三十五日】
【遠國ヨリ告來七日過キ候ハハ穢無之七日ノ內承リ候ハハ殘ル日數ノ穢タル可シ血荒流產同斷尤モ妾ノ產穢ノ時モ同例】
【一血荒】【夫七日】【婦十日】
【一流產】【夫五日】【婦十日】
【形體有之ハ可爲流產形體無之ハ可爲血荒】
【一死穢】【一日】
【家ノ內ニテ人死候時一間ニ居合候ハハ死穢可受之數居ヲ隔候ヘハ穢無之一間ニ居合候トモ不存候ヘハ穢無之二階ニテモ揚リ口數居ノ外ニ有之候ヘハ穢無之候家ナキ所ニ死人有之時ハ其骸有之地計リ穢候家主死去候テモ死穢ノ儀差別無之死後其所ヘ參リ候者ハ骸有之候共路合ノ穢也】
【一路合】【行水次第】
【一改葬】【遠慮一日】
【子ハ不殘遠慮但シ不承候ハハ追テ不及

遠慮候忌掛リ候親類改葬ノ場ヘ出候者ハ遠慮スヘシ忌不掛親類ハ其場ヘ出候共不及遠慮候改葬ノ主ニナリ候ハハ他人ニテモ一日遠慮スヘシ

【附堀起シ候日ヨリ葬候迄月數有之候ハハ子ハ不殘堀オコシ候日ト葬候日ト二日ノ遠慮ナリ他人ニテモ改葬ノ主ニナリ候者ハ同斷但シ堀起シ候翌日ヨリ葬リ候前日マテハ幾日ニテモ不及遠慮候】

【改葬ノ儀遠所ニテ申付日限存候ハハ其日遠慮スヘシ日限不存相濟候後承候ハハ追テ不及遠慮候】

元祿六年十二月二十一日

追加

一養父死去以後養母同居セストイフトモ他ヘ不嫁候ヘハ服忌可受之他ヘ嫁スルニ於テハ服忌無之

一養父ノ妻養ハレサル以前ニ死去候ハハ嫡母ニ准シ共親類服忌無之

一父ノ後妻ト通路イタシ候ハハ對面無之トモ繼母ノ服忌可受之

一義絕ノ嫡子ノ服忌ハ末子ニ可准之此外ノ親類義絕トイフトモ服忌別儀ナシ

一女子婚儀以前ヨリ養ハレ或ハ入聟ヲ取家督相續ノ時ハ養方ノ親類實ノ如ク相互ニ服忌可受之

一婚儀イマタ相調ハサル內ニテモ祝儀取カハシ候ヘハ夫婦相互ニ定式ノ忌ノ日數可遠慮但シ服無之

【一父ノ妾服忌無之】

【一妾ハ服忌無之　但シ子出生ニオイテハ三日遠慮血荒流產有之計リニテハ妾死去ノ時遠慮無之】

一遺跡相續セ【ス或ハ分地配當セ】サル養子養方ノ兄弟姉妹他家ヘ養ハルル者ニハ相互ニ服忌無之

一同姓ニテモ異姓ニテモ一人ヘ兩樣ノ續有之ハ重キ方ノ服忌可受之

一名字ヲ授候計ニテハ相互ニ服忌無之本姓ノ方ノ親類定式ノ通服忌可受之

一離別ノ女ハタトヒ實子有之他ヘ不嫁候トモ夫婦ノ緣キレ候故相互ニ服忌無之

一子無之死去候者名跡相續ノタメ新規ニ家督相續ノ時ハ養父ノ如ク服忌可受之死去候者ノ妻ハ養母ニ可准之死去候者七歲未滿ニ候ハハ服忌無之五十日遠慮死去候者ノ親類ハ相互ニ定式ノ服忌可受之實方ノ親類ハ父母ハ定式ノ服忌可受之祖父母伯叔父姑ハ半減ノ服忌可受之兄弟姉妹ハ相互ニ半減ノ服忌可受之此外ノ親類服忌無之

一養子願書差出之【老中】請取之其以後死去候ハハ家督不定內ニテモ養父母計リ五十日十三月ノ服忌可受之

一半減ノ日數三十日ハ十五日ナリ餘ハ准之

但シ七日ハ四日也三日ハ二日也

一一日ト有之ハ當夜ノ【九ツ時】ヨリ明夜ノ【九ツ時】マテ也【九ツ前】ニ候ヘハタトヒ【四ツ半】過ニテモ一日ノ積也

右十六箇條元祿六年追加ノ內也

今般聊省略而書載之

【妾腹ノ子】其父嫡母繼母ヲ以テ養母ニ定ムル時ハ忌五十日服十三月可受之母方ノ親類ノ服忌養實ノ差別家督相續ノ養子ノ加ク當リ候ヘハ勝手ニ出仕可致事

【但忌濟當日御神事中ニ候得ハ可相憚於重服者御神事並吉日トモ可相憚事】

●各省奏任官除服出仕達シ

明治六年二月太政官布告第五十二號　諸省

奏任官ノ輩御用ノ都合ニ付除服出仕ノ儀ハ是迄宣下相成候處自今其管轄長官ニテ相達シ【其時時可屆出事】

●遠地出張在勤官吏忌服中出仕方

明治六年十月太政官布告第三百四十七號　省【使】府縣

遠地出張在勤ノ勤奏官吏忌服ヲ受ケ御用差支已ムヲ得サル ノ節ハ除服宣下又ハ該長官差圖ニ及ヒ候迄忌服ノ儘出仕被差許候條此旨相達候事

但判任官員之レニ准シ候場合ニ於テハ勿論

クタル可シ

右七箇條更增補之

元文元年九月十五日

（太政官指令）明治八年一月七日

伺之通

但産穢及ヒ混穢不及憚候ハ明治五年第五十六號同六年第六十一號布告之通可相心得事

●僧尼服忌ノ制

明治五年六月太政官布告第百七十六號

僧尼服忌ノ儀ハ是迄御制度モ無之候處自今人民一般ノ服忌ヲ可受事

●忌濟ノ節除服出仕宣下ヲ止メ忌服屆出及忌濟日出仕方

明治三年正月太政官布告

從來著服之輩忌濟之節除服出仕宣下有之候處自今前以忌服何日迄ト相屆置忌濟之日ニ相當リ候ヘハ勝手ニ出仕可致事

【但忌濟當日御神事中ニ候得ハ可相憚於重服者御神事並吉日トモ可相憚事】

●各省奏任官除服出仕達シ

明治六年二月太政官布告第五十二號　諸省

奏任官ノ輩御用ノ都合ニ付除服出仕ノ儀ハ是迄宣下相成候處自今其管轄長官ニテ相達シ【其時時可屆出事】

●遠地出張在勤官吏忌服中出仕方

明治六年十月太政官布告第三百四十七號　省【使】府縣

遠地出張在勤ノ勤奏官吏忌服ヲ受ケ御用差支已ムヲ得サル ノ節ハ除服宣下又ハ該長官差圖ニ及ヒ候迄忌服ノ儘出仕被差許候條此旨相達候事

但判任官員之レニ准シ候場合ニ於テハ勿論

同樣ノ儀ト可相心得事

●地方官除服出仕方

明治八年一月太政官達第十號

【使】府縣

地方官員除服出仕ノ儀辛未十二月中相達候趣モ有之候處自今左ノ通相定候條此旨相達候事

一奏任以上ノ官員忌服中事務差支有之節ハ其長官ヨリ忌日數半減ニテ除服出仕相達長官同樣ノ節ハ代理ノ者ヨリ相達【其旨屆出ヘシ】

但差縣リタル事務有之不得止節ハ半減內ト雖トモ本文ノ通取計苦シカラス

【同上在東京ノ節ハ【出張所】ヨリ【正院】ヘ申立ヘシ】

一同上出張ノ節ハ明治六年第三百四十七號達ノ通タルヘシ

明治三十一年八月閣令第四號

明治八年太政官第十號達ニ依リ除服出仕ヲ命タルトキハ自今屆出ニ及ハス

第三輯

服制　徽章

第三輯　服制　徽章

第一章　服制

○服制ノ地質ニ關スル件〔明治三八、二、勅令三一〕……一
○朝鮮總督府及所屬官署職員服制廢止ノ件〔大正八、八、勅令四〇三〕……一
○道森林主事ノ服制〔大正八、八、總令一三八〕……一
○朝鮮總督府稅關職員服制〔大正一〇、五、勅令二四三〕……一
○稅關官吏ノ檢査服〔大正三、一、總訓二〕……二
○朝鮮總督府道港務官等ノ服制ニ關スル件〔大正八、一一、勅令四六九〕……二
○朝鮮總督府警察官服制〔大正七、七、勅令二九五〕……二
○朝鮮總督府警察官服裝規則〔大正七、一〇、總訓五七〕……五
○朝鮮總督府道巡査ノ服制ニ關スル件〔大正八、八、總令一三九〕……五
○朝鮮總督府船舶乘組員、鐵道郵便係員、通信監視員及間接國稅ノ檢査ニ從事スル官吏ノ服制〔大正八、一一、總令一七六〕……六
○朝鮮總督府監獄職員服制〔大正一〇、三、勅令四〇〕……六
○朝鮮總督府監獄職員服裝規則〔大正一一、一、總訓二〕……七
○朝鮮總督府看守防寒外套制式〔大正四、二、總令一二八〕……八
○朝鮮總督府道消防手服制〔大正一二、三、總令三〇〕……八
○常備消防手服制〔明治四四、三、警訓甲八〕……九
○朝鮮貴族タル有爵者大禮服制〔明治四三、一二、皇令二二〕……九
○朝鮮總督府營林廠森林主事ノ服制ニ關スル件〔大正九、一〇、勅令五〇九〕……九
○朝鮮總督府裁判所職員服制〔大正九、七、勅令二二二〕……九
○判事檢事及裁判所書記制服〔明治二三、一〇、勅令二六〇〕……一〇
○辯護士職服規程〔大正九、六、總令八三〕……一〇
○辯護士職服〔明治二六、四、司令四〕……一〇
○官幣大社朝鮮神宮神職服裝規則〔大正一四、一〇、總令九九〕……一〇

第二章　徽章　旗章

○朝鮮總督府遞信官署徽章、遞信日付印及郵便切手類模造取締規則〔明治四三、一〇、總令一八〕……一〇
○朝鮮總督府遞信官署徽章〔明治四三、一〇、總告一二〕……一一
○警察旗章及警察門燈並提灯徽章ノ件〔明治四四、八、總告二六六〕……一一
○交通取締ノ勤務ニ服スル警察官吏ノ腕章〔大正九、九、總令一四四〕……一二
○朝鮮總督府稅關所屬船ノ旗章〔明治四三、一、總告四五〕……一二

第三輯　服制　徽章

第一章　服制

●服制ノ地質ニ關スル件

明治三十八年二月
勅令第三十一號

朕服制ノ地質ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

諸服制中地質ニ絨ヲ用ウヘキモノハ當分ノ內適宜ノ地質ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ地質、給與員數、使用期限等ニ關シ特別ノ規定ヲ要スルモノハ主務大臣之ヲ定ム

●朝鮮總督府及所屬官署職員服制廢止ノ件

大正八年八月
勅令第四百三號
改正　大正一〇年五第二四三號、一〇年三第四〇號

朕朝鮮總督府及所屬官署職員服制廢止ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

朝鮮總督府及所屬官署職員服制ハ大正八年八月三十一日限リ之ヲ廢止ス

附　則

朝鮮總督府道森林主事ニ付テハ當分ノ內朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ從前ノ制服ヲ用ヰシムルコトヲ得

朝鮮總督府及所屬官署職員ハ當分ノ內從前ノ制服ヲ從前ノ例ニ依リ大禮服又ハ通常禮服ニ代用スルコトヲ得

●道森林主事ノ服制

大正八年八月
總令第百三十八號

朝鮮總督府〔稅關、監獄ノ職員及〕道森林主事ノ服制左ノ通定ム

第一條　稅關監視官、稅關鑑定官、稅關技師、稅關鑑定官補、稅關技手、稅關監吏、典獄、看守長及道森林主事ハ從前ノ制服ヲ使用スヘシ

第二條　道森林主事ハ短刀ヲ佩用スルモノトス

●朝鮮總督府稅關職員服制

大正十年五月
勅令第二百四十三號
改正　大正一一年一〇第四五七號、一二年五第二八四號、一四年二第九號

朕朝鮮總督府稅關職員服制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

朝鮮總督府稅關職員服制別表ノ通定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正八年勅令第四百三號附則第一項中「稅關職員（稅關長、事務官及書記ヲ除ク）」ヲ削ル

從前ノ制服ハ當分ノ內仍之ヲ用ヰルコトヲ得

（別表）

朝鮮總督府稅關職員服制

	上衣 地質	上衣 製式	衣 袖章	衣 肩章	衣 鈕釦	衣 領章	袴 地質	袴 製式	帽 製式	帽 徽章	劍
鑑査官	黑又ハ濃紺絨但シ夏ハ白布ヲ用キルコトヲ得	立襟長ジヤケツト、前部一行五箇ノ鈕釦ヲ附ス長ハ臏骨ヨリ下ルコト六寸、袖長腕關節ニ止ル腰部ノ左右ニ各一箇ノ物入ヲ附ス形狀圖ノ如シ	幅五分ノ黑線二條ヲ半面ニ纏フ各線ノ間隔ハ二分トス但シ夏衣ニハ白線トス形狀圖ノ如シ	長四寸三分幅一寸七分兩緣及上端緣ハ幅一分五厘ノ圈套金線繩目繡ヲ施シ其ノ中間ニ幅四分ノ縞織金線二條ヲ附シ徑四分ノ金色鈕一箇及縱横六分ノ金色桐章二箇ヲ附ス肩章差込座ハ幅四分ノ黑無地線一條トス形狀圖ノ如シ	徑六分五厘ノ金色金屬ニ桐章ヲ彫刻ス形狀圖ノ如シ	縱八分横七分ノ金色錨形ニ深紫色桐章ヲ附ス形狀圖ノ如シ	上衣ニ同シ	普通長袴兩股ニ各一箇ノ物入ヲ附ス形狀圖ノ如シ	圓形、黑革製前庇及幅四分ノ黑革製頤紐ヲ附シ頤紐ノ兩端ハ帽ノ兩側ニ於テ徑四分ノ圓形內桐章入金色鈕各一箇ヲ以テ留ム天上喰出ハ幅一分トス帽ノ周圍ニ幅五分ノ縞織金線二條ヲ纏フ形狀圖ノ如シ	縱一寸五分、横一寸七分、金モールヲ以テ櫻葉七枚蕾三箇ヲ抱合セ中央ニ金色桐章ヲ附シタル錨形ヲ包擁ス形狀圖ノ如シ	柄ハ白鮫、長三寸五分、金撚線ニテ捲キ桐章一箇ヲ附ス鞘ハ黑革包、長一尺、胴輪及鐺金具ニハ葉附桐花各一箇ヲ附ス金具ハ金色トス形狀圖ノ如シ
技師	同上	同上	同上	同上	同上	桐章ヲ淡藍色トス餘ハ同上	同上	同上	同上	同上	同上
監視	同上	同上	幅五分及幅二分ノ黑線各一條ヲ半面ニ纏フ餘ハ同上	縞織金線一條ヲ附シ金色桐章一箇ヲ附ス餘ハ同上	同上	桐章ヲ銀色トス餘ハ同上	同上	同上	帽ノ周圍ニ幅六分ノ縞織金線一條ヲ纏フ餘ハ同上	同上	柄ニ桐章、胴輪及鐺金具ニ葉附桐花ヲ附セス餘ハ同上
鑑査官補	同上	同上	同上	同上	同上	鑑査官ニ同シ	同上	同上	同上	同上	同上
船舶乗組ノ技手	同上	同上	同上	同上	同上	技師ニ同シ	同上	同上	同上	同上	同上
監吏	同上	同上	幅五分ノ黑線一條ヲ半面ニ纏フ餘ハ同上	同上	同上	監視ニ同シ	同上	同上	同上	同上	同上

		外套			雨衣	
	劍帶	地質	製式	袖章	地質	製式
警察部長	黒革製、幅一寸二分、釣革ハ幅五分五厘、其ノ前革長五寸後革一尺ト	黒又ハ濃紺絨	折襟胸二重、前面ニ桐章ヲ彫刻シタル径七分五厘ノ金色鈕釦ヲ六箇二行、腰部ニ帶ヲ設ケ同鈕釦ヲ以テ左右腰部ニ物入ヲ各一箇ヲ附シ物入ニハ蓋ヲ附ス	縦横六分ノ金色桐章二箇ヲ附ス形狀圖ノ如シ	黒又ハ茶褐色護謨布	長マント形折襟前釦、長膝ノ膝ルトヲ度シ胸部ニ径五分五厘ノ黒角釦四箇ヲ附ス
警視	葉ハ附櫻唐草模様ヲ附シ中央ニ縦横七分ノ金色桐章ヲ附ス形狀圖ノ如シ	同上	後面ハ裾ヲ裂キ径五分五厘ノ金色鈕釦四箇ヲ附シ襟部ニ径五分五厘ノ黒角鈕釦五箇ヲ附ス	同上	同上	同上
警部		同上	同上	同上	同上	同上
警部補		同上	同上	桐章一箇ヲ附ス餘ハ同上	同上	同上
巡査部長		同上	同上	同上	同上	同上
巡査		同上	同上	同上	同上	同上
形狀		如圖	如圖	如圖	如圖	如圖

備考

一　此ノ制服ハ黒又ハ濃紺地ノモノニ限リ通常禮服ニ代用スルコトヲ得

二　平常勤務ノ場合ニハ肩章ヲ附セス

三　夏衣ヲ用ヰル場合ニハ幅ニ白布ノ日覆ヲ附ス

四　夏衣ヲ用ヰル場合ニハヘルメツト形帽ヲ代用スルコトヲ得

（圖略）

●稅關官吏ノ檢査服

大正三年一月
總訓第二號

稅關官吏ハ檢査事務ニ從事ノ場合ニ限リ別表ノ檢査服ヲ著用スルコトヲ得

（別表）

	稅關
長上衣	地質	適宜但シ色ハ黒又ハ濃紺
	製式	外套形、折返襟、前釦鈕釦、袖口鈕釦ノ、襟ニ稅關職員ノ襟章ヲ附ス樣式如圖

（圖略）

●朝鮮總督府道港務官等ノ服制ニ關スル件

大正七年十一月
勅令第三百六十九號

朕朝鮮總督府道港務官等ノ服制ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

朝鮮總督府道港務官、道港務醫官、道獸醫官、道港吏、道港務醫官補又ハ道獸醫官補ノ服制ハ各港務部職員中港務官、港務醫官、港務獸醫官、港吏、港務醫官補又ハ港務獸醫官補ノ服制ノ例ニ依ル但シ上衣ノ襟章ハ縦六分五厘横七分ノ金色桐章ヲ形狀圖ノ如シ

襟章

桐章

附　則

本令ハ大正八年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮總督府警察官服制

大正七年七月
勅令第二百九十五號

改正　大正八年八月勅令四號、九年七月三三號、一〇年九月四〇號、一三年四月九五號

朕朝鮮總督府警察官服制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

朝鮮總督府警察官服制別表ノ通定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ制服ハ當分ノ內仍之ヲ用ヰルコトヲ得

附　則（大正十三年四月勅令第九十五號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮總督府ハ巡査部長及巡査ニ當分ノ內仍從前ノ刀ヲ使用セシムルコトヲ得

（別表）

警察官服制表

	上衣					袴		
	地質	製式	袖章	肩章	釦鈕	地質	製式	側章
警察部長	黒又ハ濃紺絨夏ハ白布	立襟一行釦長ジヤケツト、袖長脱關節ニ止マル長腰骨ヨリ下ルコト二ハ寸、胸部ノ左右ニ各一箇及腰物入ノ蓋ヲ附シ	径六分金色一略日章四箇ヲ附シ蛇腹金線二條及幅五分黒色線一條ヲ、夏ハ白色線二條ヲ附ス	径六分金色略日章二箇ヲ附シ幅三分黒色線二條ヲ附ス	略日章三箇ヲ附シ	黒又ハ濃紺絨夏ハ白布	普通長袴、兩脇ニ各一箇ノ物入ヲ附ス	側面中央ニ幅五分緋絨線一條ヲ縦ニ附ス
警視	同上	同上	同上	同上	略日章二箇ヲ附シ	同上	同上	同上
警部	同上	同上	同上	同上	略日章一箇ヲ附ス	同上	同上	緋絨線一條ヲ縦ニ附ス
警部補	同上	同上	同上	同上	径六分金色略日章二箇ヲ附シ	同上	同上	同上
巡査部長	同上	同上	同上	同上	径六分金色略日章二箇ヲ附シ	同上	同上	同上
巡査	同上	同上	同上	同上	略日章一箇ヲ附ス	同上	同上	同上
形狀	如圖	如圖	如圖	如圖	如圖	如圖	如圖	如圖

	帽			短袴		刀	短刀
	製式	徽章	地質	製式	側章		
警察部長	圓形黒革製前庇及幅四分黒革製顎紐ヲ附シ側面ニ於テ径四分ノ金色鈕釦各四箇ヲ附シ兩脇ニ各一箇ノ物入ヲ附シ	前章ハ径八分金色略日章、帽ノ周圍ニ幅七分五厘緋絨線二條及其ノ中間ニ幅一分緋絨線一條ヲ附シ各線ノ間隔五厘トス	黒又ハ濃紺絨	長踝上ニ止ム裾口ヲ裂ケ下ルコト五寸之ニ鈕釦各四箇ヲ附シ兩脇ニ各一箇ノ物入ヲ附シ	同上	柄ハ黒革、眞鍮線ヲ纏フ背面ヲ覆ヒタルモ金具ハ眞鍮長五寸、略日章一箇ヲ鋲ニ附ス鞘ハ眞鍮トス尺二寸六寸乃至二尺ノ鈎ハ日本刀中身ハ鍊鐵同上	柄ハ長三寸三分、鞘ハ長一尺一寸、鈎ハ本刀中身ハ鍊鐵同上
警視	同上	幅一分緋絨線ヲ附セス餘ハ同上	同上	同上	同上	同上	同上
警部	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
警部補	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
巡査部長	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
巡査	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
形狀	如圖	如圖	如圖	如圖	如圖	如圖	如圖

	刀帶	短刀帶	刀 正緒	緒 常緒	外 地質	外 製式
表ハ黒護謨革、裏ハ藍革ト黒象皮、長適宜、幅一寸二分、長第一ノ金具ハ長サ二寸二分八厘、幅一寸、第二ノ金具ハ長サ二寸二分、幅六分二厘、第三ノ金具ハ長サ二寸二分、幅五分五厘、其ノ周圍ニ櫻唐草ヲ附ス	同上	釣革ノ長サ八寸トス餘ハ刀帶ニ同シ	總ハ金線精圓壺形、長一寸五分、徑九分ト一分五厘長サ三寸二分ノ丸組ニシテ兩端ヲ合セ金線ヲ以テ附ス總ハ金線ヲ打紐ニシ緒締ハ金具ノ幅三分五厘トス	總ハ黒絹絲壺形、長一寸三分、徑八分トス緒及緒締ハ黒絲トス	黒漆革、長適宜、幅一寸二分、長サ二寸二分八厘、幅一寸二分二厘、第一ノ金具ハ長サ二寸二分、幅六分二厘、第二ノ金具ハ長サ二寸二分、幅五分五厘、第三ノ金具ハ長サ二寸二分、幅五分五厘、中央ニ日章ヲ附ス	同上
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
同上	同上	同上	總ハ長サ一寸三分、徑八分トス餘ハ同上	同上	同上	同上
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
如圖	如圖	如圖	如圖	如圖	如圖	如圖

	雨覆		ヘルメット形帽		防寒帽		套	
	地質	製式	地質	徽章	地質	製式	地質	袖章
コトヲ得	外套ニ同シ	長マント形、折襟、前隠角鈕ヲ附ス			表ハ黒又ハ茶褐色ノ雲斎、裏ハ毛革	兜形、垂布及鼻覆ヲ附シホック止トス	附ケ外シ絆ヲ附ス	袖口ヨリ約六寸ノ上部ニ幅一分五厘蛇腹組金線一條ヲ纏ヒ徑六分金色略日章一箇ヲ表半面ニ附ス
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
略日章一箇ヲ附ス餘ハ同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
徑六分金色略日章一箇ヲ附ス餘ハ同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
如圖	如圖	如圖	如圖	帽ニ同シ	同上	同上	如圖	如圖

	防寒帽		防寒	
	地質	徽章	地質	製式
第一條　朝鮮總督府警察官服裝規則ヲ定ム	茶褐絨	帽ニ同シ	同上	長ハ靴ノ踵ノ上際ヨリ距ルコト約八寸、袖口ヨリ延ヘルコト約六寸、折襟胸ニ重ネ前面ニ略日章ヲ附シ金釦七箇ヲ附ス
第二條　朝鮮總督府警察官ノ服裝ハ正裝及常裝ノ二種トス	同上	同上	同上	同上
第三條　正裝ハ帽、衣、袴、肩章、刀、正緒、手套、下襟及短靴ヲ著ケ常裝ハ帽、衣、袴又ハ短袴、刀、常緒、手套、下襟及靴ヲ著ケ	同上	同上	同上	同上
第四條　常裝ハ平常勤務ノ際著用スルモノトス	同上	同上	同上	同上
第五條　道警務部長、道警視、道警部及道警部補ハ六月一日ヨリ九月三十日迄平常勤務ノ際ニ限リ白地服又ハ黒若ハ濃紺地ノ衣ニ白地ノ袴又ハ短袴ヲ著用スルコトヲ得	同上	同上	同上	同上
第六條　道巡査部長及道巡査ハ六月一日ヨリ九月三十日迄平常勤務ノ際ニ於テハ白地服ヲ著用スルモノトス但シ道知事ハ寒暑ノ更始期ニ於テハ地方ノ狀況ニ應シ適宜黒若ハ濃紺地ノ衣ニ白地ノ袴又ハ短袴ヲ著用セシムルコトヲ得	同上	同上	同上	同上
第七條　外套ハ何レノ服裝ヲ問ハス雨雪ノ際又ハ防寒ノ爲室外ニ於テ著用スルモノトス但シ酷寒ノ際ニハ室内ニ於テモ亦著用スルコトヲ得	同上	同上	同上	同上
第八條　雨覆ハ雨雪ノ際又ハ防寒ノ爲室外ニ於テ外套ノ上ニ著用スルモノトス但シ時宜ニ依リ雨覆ノミヲ著用スルコトヲ得	同上	同上	同上	同上
第九條　防寒外套及防寒帽ハ左ノ各道ニ於テ酷寒ノ際ニ限リ之ヲ著用スルコトヲ得	同上	同上	同上	同上
京畿道、黄海道、平安南道、平安北道、江原道、咸鏡南道、咸鏡北道	同上	同上	同上	同上
第十條　儀式、祭典ノ場所又ハ上官ノ居室内ニ於テハ外套、防寒外套又ハ雨覆ヲ著用スルコトヲ得ス但シ上官ノ許可ヲ得ダルトキハ此ノ限リニ在ラス	同上	同上	同上	同上
第十一條　頭巾ハ室外ニ於テ雨雪ノ際又ハ防寒ノ爲外套又ハ防寒外套ニ附著シテ用ウルモノトス但シ外套ノ上ニ雨覆ヲ用ウルトキハ外套ニハ之ヲ附著セス	同上	同上	同上	同上
第十二條　醋寒ノ際ニハ防寒ノ爲覆面ヲ著用スルコトヲ得	同上	同上	同上	同上
第十三條　白地ノ袴又ハ短袴ヲ著用スル際ニ於テハ帽ニ日覆ヲ附スヘシ	同上	同上	同上	同上
第十四條　刀ハ刀柄ヲ前面ニ向ケ刀帶ニ釣金アルモノニ在リテハ刀ノ上部ノ環ヲ其ノ釣金ニ掛クヘシ但シ乘馬ノ際ハ此ノ限ニ在ラス	同上	同上	同上	同上
第十五條　刀帶ハ衣ノ下ニ締ムルモノトス但シ必要ニ應シ衣ノ上ニ締ムルコトヲ得	同上	同上	同上	同上
第十六條　正緒、常緒ハ刀柄ニ裝著スルモノトス	如圖	如圖	如圖	如圖
第十七條　手套ハ白色ノモノヲ用ウルモノトス但シ常裝ニ在リテハ有色（鼠、茶若ハ茶褐色）ノモノヲ用ウルコトヲ得				
第十八條　下襟ハ白色トシ立襟ヲ用ウルモノトス但シ巡査【及巡査補】ニ在リテハ襟布ヲ用ウルコトヲ得				
第十九條　靴ハ長短二種トシ黒色革製トス長靴ハ袴ノ上ニ短靴ハ袴ノ下ニ穿ツモノトス				
長靴ハ乘馬勤務ノトキ又ハ雨雪及道路泥濘等ノ際短靴ハ其ノ他ノ場合ニ用ウルモノトス				
長途ノ旅行又ハ職務執行上必要アルトキハ常裝ノ場合ニ限リ短靴ニ茶若ハ茶褐色ノ卷脚絆又ハ鞋ニ脚絆ヲ用ウルコトヲ得				
乘馬勤務ノ者ニ在リテハ長靴、短靴共ニ必ス拍車ヲ附著シ短靴ヲ用ウルトキハ袴ニ留革「スーピラ」ヲ附著スヘシ				
第二十條　勳章其ノ他ノ記章ハ何レノ服裝ヲ問ハス之ヲ佩用スルコトヲ得其ノ佩用方ハ明治二十一年勅令第七十六號勳章佩用式及明治二十二年賞勳局告示第一號勳章、記章佩用心得ニ依ルヘシ				
第二十一條　奏送、奏迎、正式勅使警衛其ノ他儀式上除伍ヲ爲ス場合ニ於テハ齊一ノ服裝ヲ爲スヘシ				
第二十二條　外套ヲ携帶スルトキハ附屬品ヲ内ニ納メ適宜捲收シ兩端ヲ結束シ左肩ヨリ斜ニ右腋下ニ掛クルモノトス				
第二十三條　服裝ハ常ニ清潔端正ナラシムヘシ				

●朝鮮總督府警察官服裝規則

大正七年十月
總訓第五十七號
敕正　大正八年八第三四號、一三年七第一五號

朝鮮總督府警察官服裝規則左ノ通定ム

第一條　朝鮮總督府警察官服裝規則ニ於テ警察官ト稱スルハ警務官、警部、警部補、巡査部長及巡査ヲ謂フ

第二條　警務官ハ警務部長、警務部ニ勤務スル警視及警部ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　警察官ハ其ノ官等ニ從ヒ左ノ徽章ヲ帽ニ附ス

警務部長	桐葉形ノ徽章ニ桐花ヲ附ス
警視	桐葉形ノ徽章ニ桐花ヲ附ス
警部	桐葉形ノ徽章ニ桐花ヲ附ス
警部補	桐葉形ノ徽章ニ桐花ヲ附ス
巡査部長	桐葉形ノ徽章ニ桐花ヲ附ス
巡査	桐葉形ノ徽章ニ桐花ヲ附ス

第四條　警務官ハ正裝ニ在リテハ帽、衣、袴、肩章、刀、正緒、手套、下襟及短靴ヲ著ケ常裝ニ在リテハ帽、衣、袴又ハ短袴、刀、常緒、手套、下襟及靴ヲ著ケ

第五條　警務官ハ正裝ニ在リテハ帽、衣、袴、肩章、刀、手套、下襟及短靴ヲ著ケ常裝ニ在リテハ帽、衣、袴又ハ短袴、刀、手套、下襟及靴ヲ著ケ

第六條　警務官ハ外套ヲ著用スルコトヲ得

第七條　警務官ハ防寒ノ爲室外ニ於テ外套ヲ著用スルコトヲ得

第八條　警務官ハ雨雪ノ際又ハ防寒ノ爲室外ニ於テ外套ノ上ニ著用スルコトヲ得

第九條　警務官ハ防寒外套及防寒帽ヲ著用スルコトヲ得

第十條　警務官ハ儀式、祭典ノ場所又ハ上官ノ居室内ニ於テハ外套、防寒外套又ハ雨覆ヲ著用スルコトヲ得ス但シ上官ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限リニ在ラス

第十一條　頭巾ハ室外ニ於テ雨雪ノ際又ハ防寒ノ爲外套又ハ防寒外套ニ附著シテ用ウルモノトス但シ外套ノ上ニ雨覆ヲ用ウルトキハ外套ニハ之ヲ附著セス

第十二條　醋寒ノ際ニハ防寒ノ爲覆面ヲ著用スルコトヲ得

第十三條　白地ノ袴又ハ短袴ヲ著用スル際ニ於テハ帽ニ日覆ヲ附スヘシ

第十四條　刀ハ刀柄ヲ前面ニ向ケ刀帶ニ釣金アルモノニ在リテハ刀ノ上部ノ環ヲ其ノ釣金ニ掛クヘシ但シ乘馬ノ際ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　刀帶ハ衣ノ下ニ締ムルモノトス但シ必要ニ應シ衣ノ上ニ締ムルコトヲ得

第十六條　正緒、常緒ハ刀柄ニ裝著スルモノトス

第十七條　手套ハ白色ノモノヲ用ウルモノトス但シ常裝ニ在リテハ有色（鼠、茶若ハ茶褐色）ノモノヲ用ウルコトヲ得

第十八條　下襟ハ白色トシ立襟ヲ用ウルモノトス但シ巡査【及巡査補】ニ在リテハ襟布ヲ用ウルコトヲ得

第十九條　靴ハ長短二種トシ黒色革製トス長靴ハ袴ノ上ニ短靴ハ袴ノ下ニ穿ツモノトス

長靴ハ乘馬勤務ノトキ又ハ雨雪及道路泥濘等ノ際短靴ハ其ノ他ノ場合ニ用ウルモノトス

長途ノ旅行又ハ職務執行上必要アルトキハ常裝ノ場合ニ限リ短靴ニ茶若ハ茶褐色ノ卷脚絆又ハ鞋ニ脚絆ヲ用ウルコトヲ得

乘馬勤務ノ者ニ在リテハ長靴、短靴共ニ必ス拍車ヲ附著シ短靴ヲ用ウルトキハ袴ニ留革「スーピラ」ヲ附著スヘシ

第二十條　勳章其ノ他ノ記章ハ何レノ服裝ヲ問ハス之ヲ佩用スルコトヲ得其ノ佩用方ハ明治二十一年勅令第七十六號勳章佩用式及明治二十二年賞勳局告示第一號勳章、記章佩用心得ニ依ルヘシ

第二十一條　奏送、奏迎、正式勅使警衛其ノ他儀式上除伍ヲ爲ス場合ニ於テハ齊一ノ服裝ヲ爲スヘシ

第二十二條　外套ヲ携帶スルトキハ附屬品ヲ内ニ納メ適宜捲收シ兩端ヲ結束シ左肩ヨリ斜ニ右腋下ニ掛クルモノトス

第二十三條　服裝ハ常ニ清潔端正ナラシムヘシ

●朝鮮總督府道巡査ノ服制ニ關スル件

大正八年八月
總令第百三十九號

朝鮮總督府道巡査ハ當分ノ内茶褐色ノ制服ヲ使用スルコトヲ得但シ上衣及外套ノ釦ハ赫銅トシ夏衣ヲ除ク外上衣ノ袖章袴及短袴ノ側

	外套		外 製式
	毛皮襟	附ケ外シ絆ヲ附ス	二重、前面ニ徑七分五厘金色釦五箇、二重、後面ニ徑七分金色釦五箇ヲ附ス
備考			
一　道第三部長、道警視及道警部ハ第一種制服ヲ著用スヘキトキ	同上	同上	同上
前項ノ外自家親族其ノ他ノ賀儀葬祭ノトキニ於テモ正裝ヲ著用スルコトヲ得	同上	同上	同上
二　平常勤務ノ場合ニハ肩章ヲ附セス	同上	同上	同上
三　短袴ハ乘馬ノトキ又ハ長靴若ハ脚絆ヲ用キルトキ之ヲ著用ス	同上	同上	同上
四　夏衣ヲ用キル場合ニ於テハ帽ニ白布ノ日覆ヲ附ス	同上	同上	同上
五　短刀ハ交通取締、水上警察又ハ消防ノ勤務ノ者其ノ他土地ノ狀況又ハ勤務ノ性質ニ依リ朝鮮總督ノ指定スル者之ヲ佩用ス	同上	同上	同上
六　ヘルメット形帽ハ交通取締、乘馬又ハ水上警察ノ勤務ノ者之ヲ佩用ス	同上	同上	同上
七　防寒帽又ハ防寒外套ノ著用區域ハ朝鮮總督之ヲ定ム	同上	同上	同上
八　勤務ノ性質ニ依リ當時附著スル必要アル腕章ハ朝鮮總督之ヲ定ム	同上	同上	同上
（圖略）	如圖	如圖	如圖

ハ蛇腹組緋毛絲トス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮總督府船舶乘組員、鐵道郵便係員、通信監視員及間接國稅ノ檢查ニ從事スル官吏ノ服制

大正八年十一月
總令第百七十六號

朝鮮總督府船舶乘組員、鐵道郵便係員、通信監視員及間接國稅ノ檢查ニ從事スル官吏ノ服制別表ノ通定ム

附　則

本令ハ大正八年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮總督府船舶乘組雇員ハ當分ノ間從前ノ制服ヲ著用スルコトヲ得

●朝鮮總督府監獄職員服制

大正十年三月
勅令第四十號

改正　大正一二年一勅第一八號

朝鮮總督府監獄職員服制別表ノ通定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年勅令第二百四十六號ハ之ヲ廢止ス

大正八年勅令第四百三號附則第一項中「監獄職員」ヲ「朝鮮總督府監獄職員」ニ改メ從前ノ制服ハ當分ノ內仍之ヲ用ヰルコトヲ得

（別表）

朝鮮總督府監獄職員服制

典獄	典獄補	看守長	看守部長	看守
帽 正 地質	黒又ハ濃紺絨	同上	同上	同上
帽 正 製式	圓形黒革製前庇及幅四分ノ黒革製頤紐ヲ附シ頤ニ於テ兩端ハ帽ノ兩側ニ紐ノ圓形ヲ以テ留ム天ハ各一箇ヲ內側ニ向ケ縫附ス	同上	帽ノ周圍ニ幅五分ノ縞織金線一條ヲ纏フ	同上
帽 徽章	前章ハ徑七分ノ黒天鵞絨ノ臺ニ徑六分ノ銀色略日章ヲ附シ臺ノ周圍ハ金色繩線二條ヲ以テ纏ヒ其ノ周圍ハモール製金色（當ハ銀色）ノ櫻花ヲ以テ包擁ス其ノ縱徑一寸八分橫徑一寸三分ノ形狀圖ノ如シ	同上	前章ハ徑六分ノ銀色略日章ヲ以テ包擁シ其ノ縱徑一寸橫徑一寸五分ノ形狀圖ノ如シ	同上
帽 外套 地質	黒又ハ濃紺絨但シ夏ハ白布ヲ用ヰルコト	同上	同上	同上
帽 外套 製式	縱橫六分金色桐二箇ヲ附シ幅一分五厘ノ金色桐章ヲ附シ夏衣ニハ幅二分ノ白色縞織線三條ヲ附シ袖口ニハ幅五分ノ黒縞織線及各一分ノ白色縞織線ヲ附シ但シ夏衣ニハ白色縞織線一條ヲ纏フ	同上	縱橫六分金色桐二箇ヲ附シ幅一分五厘ノ金色桐章ヲ附シ夏衣ニハ幅二分ノ白色縞織線三條ヲ附シ但シ夏衣ニハ白色縞織線一條ヲ纏フ	同上
帽 外套 徽章	前章ハ徑六分ノ金色桐章ニ徑四分ノ銀色略日章ヲ附シ臺ノ周圍ニ幅五分ノ縞織金線ヲ纏フ	同上	前章ハ徑六分ノ金色桐章ニ徑四分ノ銀色略日章ヲ附シ臺ノ周圍ニ幅五分ノ縞織金線ヲ纏フ	同上
帽 夏衣 地質	白麻布	同上	同上	同上
帽 夏衣 製式	圓形黒革製前庇及幅四分ノ黒革製頤紐ヲ附シ頤ニ於テ兩端ハ帽ノ兩側ニ紐ノ圓形ヲ以テ留ム天ハ各一箇ヲ內側ニ向ケ縫附ス	同上	帽ノ周圍ニ幅五分ノ縞織金線一條ヲ纏フ	同上
帽 夏衣 徽章	前章ハ徑六分ノ金色桐章ニ徑四分ノ銀色略日章ヲ附シ臺ノ周圍ニ幅五分ノ縞織金線ヲ纏フ	同上	前章ハ徑六分ノ金色桐章ニ徑四分ノ銀色略日章ヲ附シ臺ノ周圍ニ幅五分ノ縞織金線ヲ纏フ	同上
上衣 製式	縱橫六分金色桐章ニ蛇腹組金線ニ條ヲ附シ幅一分五厘ノ金色桐章ニ蛇腹組金線一條ヲ纏フ但シ夏衣ニハ幅二分ノ白色縞織線一條ヲ纏フ	同上	縱橫六分金色桐章一箇ヲ附シ幅一分五厘ノ金色桐章ニ蛇腹組金線一條ヲ纏フ但シ夏衣ニハ白色縞織線一條ヲ纏フ	同上
上衣 地質	黒又ハ濃紺絨但シ夏ハ白布ヲ用ヰルコト	同上	同上	同上
上衣 帽章 略 帽ノ周圍ニ幅八分ノ隆起線二條ヲ縫出シタル黒縞織ヲ纏フ	同上	同上	同上	同上
上衣 帽章 略 製式	帽ノ周圍ニ幅四分ノ隆起線一條ヲ縫出シタル黒縞織ヲ纏フ	同上	帽ノ周圍ニ幅四分ノ隆起線一條ヲ縫出シタル黒縞織ヲ纏フ	同上
上衣 帽章 略 徽章	徑六分五厘ノ金色鈕ニ桐章ヲ彫刻ス	同上	同上	同上
上衣 肩章	長四寸三分幅一寸七分ノ縞織金線二條ヲ附シ地質黒又ハ濃紺絨兩端及上縁ニハ幅一分ノ黒又ハ濃紺絨兩縁ヲ附ス餘ハ同上	同上	長四寸幅一寸七分ノ縞織金線一條ヲ附ス餘ハ同上	同上
上衣 袖章	縱橫六分ノ金桐章一箇ヲ附シ幅一分五厘ノ蛇腹組金線二條ヲ纏フ餘ハ同上	同上	縱橫六分ノ金桐章二箇ヲ附シ幅一分五厘ノ蛇腹組金線二條ヲ纏フ餘ハ同上	同上
上衣 鈕釦	徑六分五厘ノ金色鈕ニ桐章ヲ彫刻ス	同上	同上	同上
上衣 襟	胸部左右ノ各一箇ノ物入ニハ附ス鈕釦ハ徑五分ノ金色鈕釦トス	同上	胸部左右ノ各一箇ノ物入ニハ附ス鈕釦ハ徑五分ノ金色鈕釦トス	同上
上衣 袖口	中間ニ平織銀線ヲ附セス餘ハ同上	同上	中間ニ平織銀線ヲ附セス餘ハ同上	同上

領章	袴 地質	袴 製式	刀 帶	刀 緒 正緒	刀 緒 略緒	外套 甲 地質
縱五分橫五分五厘ノ金色桐章トス形狀圖ノ如シ	黒又ハ濃紺絨但シ夏ハ白布ヲ用ヰルコト	普通長袴兩股ニ各一箇ノ物入ヲ附ス形狀圖ノ如シ	柄ハ藍鮫、絲金線ヲ纏フ背面ヲ覆ヒタル金具ハ金色、地ハ石目、櫻唐草ヲ置キ略日章一箇ヲ附ス鍔ハ金色、櫻唐草ヲ附ス鞘ハニッケル鍍鐵長一尺六寸乃至二尺八二箇ノ鍔ヲ附ス中身ハ鍊鐵又ハ日本刀ノ形狀圖ノ如シ	表ハ黒護謨革、裏ハ赤革トス長適宜幅一寸二分、釣革ハ幅一寸分其ノ前後ニ各一箇ヲ附シ革ハ幅七分長八寸前革ハ長二寸後革ハ長三寸尺二寸其ノ下端ハ幅五分ノ前金具ハ徑一寸三分周圍ニ葉附櫻唐草模様ヲ附シ中央ニ縱橫七分ノ桐章ヲ附ス形狀圖ノ如シ	黒絹絲製餘ハ正緒ニ同シ	黒又ハ濃紺絨	同上	同上	同上
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
縱五分橫五分五厘ノ金色桐章トス餘ハ同上	同上	同上	柄ハ黒革眞鍮線卷、背面ヲ覆ヒタル金具ハ眞鍮長四寸乃至八寸、鍔ハ眞鍮、鞘ハ一箇ノ鈎ヲ附ス餘ハ同上形狀圖ノ如シ	裏ハ藍革トス餘ハ同上	同上	同上
同上	同上	同上	柄ハ黒革眞鍮線卷、背面ヲ覆ヒタル金具ハ眞鍮長四寸乃至八寸、鍔ハ眞鍮、鞘ハ一箇ノ鈎ヲ附ス餘ハ同上形狀圖ノ如シ	黒象皮、長適宜幅一寸二分、釣革ハ幅一寸六分、長八寸二分、締輪ハ幅五分、前後ニ各一箇ヲ附ス左右ニ各一箇ヲ附ス前金具ハ徑一寸四分眞鍮製ニシテ中央ニ縱橫六分ノ金桐章一箇ヲ附ス餘ハ同上形狀圖ノ如シ	同上	同上	同上
同上	同上	同上	同上	通常マント形折襟前立、襟幅二寸、長前面襟下ヨリ約一尺八寸背面約一尺五分、胸部ノ釦ハ三箇トス餘ハ同上	同上	同上
同上	同上	同上	同上	長マント形折襟前隠ルル隠ルル長ノ胸部ニ徑五分ノ黒角釦五箇、襟部ニ同釦五箇ヲ附ス頭巾ハ甲種外套ニ同シ形狀圖ノ如シ	同上	同上

套 種	乙	地質	製式
種 袖章	縱橫六分ノ金桐章二箇ヲ附シ幅一分五厘ノ蛇組金線二條ヲ纏フ其ノ間隔ハ一分トス形狀圖ノ如シ	甲種外套ニ同シ	同腰釦二箇ヲ附ス左右ニ各一箇ヲ附シ後裾ヲ裂キ同釦四箇ヲ附ス冬ハ毛皮ノ施ヲ附ス頭巾ハ毛皮ノ取外シ得ルコトヲ得
種 袖章	縱橫六分ノ金桐章二箇ヲ附シ幅一分五厘ノ蛇組金線二條ヲ纏フ餘ハ同上	同上	同上
種 袖章	縱橫六分ノ金桐章一箇ヲ附シ幅一分五厘ノ蛇組金線二條ヲ纏フ餘ハ同上	同上	同上

備考

一　典獄、典獄補及看守長ノ制服ハ黒又ハ濃紺地ノモノニ限リ大禮服又ハ通常禮服ニ代用スルコトヲ得

二　平常勤務ノ場合ニハ略帽、略緒ヲ用ヰ肩章ヲ附セス

三　夏衣ヲ用ヰル場合ニハ帽ニ白布ノ日覆ヲ附ス

四　土地ノ狀況ニ依リ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ必要アルトキハ防寒具ヲ用ヰルコトヲ得

五　特設監獄ニ勤務スル典獄、典獄補、看守長及看守ニ付テハ本令ノ規定ニ拘ラス朝鮮總督ニ於テ別段ノ服制ヲ定ムルコトヲ得

（圖略）

●朝鮮總督府監獄職員服裝規則

大正十一年一月
總訓第二號

朝鮮總督府監獄職員服裝規則左ノ通定ム

朝鮮總督府監獄職員服裝規則

第一條　朝鮮總督府典獄、典獄補、看守長及看守ノ服裝ヲ分チテ正裝及常裝ノ二種トス

第二條　典獄、典獄補及看守長ノ正裝トハ正帽、衣、袴、肩章、刀、正緒、手套、下袖、下襟及短靴ヲ著裝スルヲ謂フ

看守ノ正裝トハ帽、衣、袴、肩章、刀、刀緒、手套、下袖、下襟及短靴ヲ著裝スルヲ謂フ

第三條　典獄、典獄補及看守長ノ常裝トハ略帽、衣、袴、刀、略緒、手套、下襟及短靴ヲ著裝スルヲ謂フ

看守ノ常裝トハ帽、衣、袴、刀、刀緒、手套、下袖、下襟及短靴ヲ著裝スルヲ謂フ

第四條　正裝ハ大禮服又ハ通常禮服ヲ著用スヘキ場合ニ用ヰルモノトス

常裝ハ平常勤務ノ際用ヰルモノトス

第五條　典獄、典獄補及看守長ハ六月一日ヨリ九月三十日迄常裝ニ限リ白地服又ハ白地ノ袴ヲ著用スルコトヲ得

看守ハ前項ノ期間白地服ヲ著用ス但シ典獄ハ土地ノ狀況其ノ他必要アリト認ムルトキハ六月一日及九月三十日ノ前後各十五日以内黒若ハ濃紺地ノ衣ニ白地ノ袴ヲ著用セシムルコトヲ得

第六條　甲種外套ハ雨雪ノ際又ハ防寒ノ爲著用ス

乙種外套ハ雨雪ノ際又ハ防寒ノ爲甲種外套ノ上ニ用ヰルモノトス但シ時宜ニ依リ乙種外套ノミヲ著用スルコトヲ得

防寒外套ハ嚴寒ノ際甲種外套ノ上ニ用ヰルモノトス

第七條　儀式祭典ノ場所及室内ニ在リテハ外套ヲ著用スルコトヲ得ス但シ許可アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條　外套ヲ携帶スルニハ附屬品ヲ内ニ收メ適宜捲收シ兩端ヲ締革ニテ結束シ左肩ヨリ斜ニ右腋下ニ掛ク

第九條　頭巾ハ室外ニ於テ雨雪又ハ嚴寒ノ際外套ニ附著シテ使用ス

第十條　手套、下袖及下襟ハ白色トス但シ常裝ニ在リテハ白地服ヲ著用スル場合ヲ除ク

ノ外鼠又ハ茶褐色ノ手套ヲ用ヰルコトヲ得

第十一條　靴ハ黒色革製トス但シ典獄、典獄補及看守長ハ白地服著用ノ場合ニ限リ黒色革製ニ非サル短靴ヲ用ヰルコトヲ得

第十二條　雨雪泥濘ノ際又ハ乘馬ノ場合ニ於テハ常裝ノ場合ニ限リ長靴又ハ「ゲートル」ヲ用ヰルコトヲ得

職務上必要アル場合又ハ疾病其ノ他已ムヲ得サル場合ニ於テハ監獄ノ長ノ許可ヲ得テ短靴、草鞋又ハ地下足袋ヲ「ゲートル」ト共ニ使用スルコトヲ得

「ゲートル」ハ茶又ハ茶褐色トシ袴ノ上ニ用ウ

第十三條　刀ハ刀柄ヲ前ニシ刀帶ヲ以テ衣ノ下ニ佩フ但シ防寒外套ヲ著用スル場合ハ其ノ上ニ佩フ

典獄、典獄補及看守長ハ乘馬ノ場合ヲ除クノ外刀ノ第一鐶ヲ刀帶ノ釣金ニ掛ク

第十四條　拳銃ハ帶革ヲ衣又ハ甲種外套若ハ防寒外套ノ上ニ締メ肩革ヲ以テ左肩ヨリ右腋下ニ掛ク

第十五條　手帖ハ廳印ヲ押捺セル部分ニ名刺五枚以上ヲ挟ミ衣ノ左上部物入ニ、呼子笛ハ其ノ右下部物入ニ、捕繩ハ袴ノ右物入ニ納メ甲種外套ヲ著用スルトキハ手帖及呼子笛ハ其ノ右物入ニ納ム

◉朝鮮總督府看守防寒外套制式

大正四年十二月
總令第百二十八號

朝鮮總督府看守防寒外套制式左ノ通定ム

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

地質	制
製式	式
前章	章

黒又ハ濃紺絨

圓形黒革製前庇及幅四分ノ黒革頤紐ヲ附シ頤紐ノ兩端ハ帽ノ兩側ニ於テ徑四分ノ略日章ヲ打出シタル金色釦各一箇ヲ以テ留ム天井喰出ハ幅一分トス形狀圖ノ如シ

前章ハ輪廓内篆書消防ノ二字ヲ縹ヲ以テ包壓シ共ニ眞鍮製打出トス其ノ縦徑一寸二分横徑一寸五分トス形狀圖ノ如シ

地質	外
製式	套
袖章	
釦釦	
雨覆	

黒又ハ濃紺絨

立襟胸二重後面ノ裾ヲ割キ後面腰部ニ帶緒ヲ附シ之ニ徑六分金色鉦釦三箇ヲ附ス形狀圖ノ如シ

上衣ニ同シ

徑六分金色製地鉦釦六箇宛ヲ二行ニ附ス

黒又ハ濃紺絨形狀圖ノ如シ

地質	制
製式	式
袖章	章

折襟胸一重後面ノ裾ヲ割キ左右腰部ニ物入各一箇ヲ設ケ襟ノ内面ニハ毛皮ヲ附シ釦ハ茶色角製トシ一行五箇ヲ附ス形圖ノ如シ

外套甲種ノ例ニ準ス

地質	
茶褐絨	

地質	草
製式	帶

象皮、色茶褐

幅一寸七分銀色製金具及圓環ヲ附ス形狀圖ノ如シ

地質	脚
製式	絆

生麻、色茶褐

裏附、釦止上部及下部ニ革條及金具ヲ附ス形狀圖ノ如シ

地質	短
製式	靴

革製黒色
紐止式トス

地質	出
製式	火
	場
	用
前章	帽

革製黒明珍塗

兜形ニシテ前庇幅一寸五分後庇幅三寸トシ兩側ノ外方ニ徑一寸ノ金色金屬製圓形ノ座金ヲ重ネ之ニ左右各本幅八分末端幅三分長六寸ニシテ左方先端ニ金色金屬製ノ尾錠ヲ附セル黒革製ノ頤紐ヲ附シ之ヲ徑八分ノ金色金屬製ノ櫻花形ノ座金ヲ以テ止メ頂部ニ徑四寸ノ金色金屬製五瓣櫻花一箇ヲ附シ其ノ頂部ヨリ後方ニ廻リ金屬製如意形ヲ突出ス内面後部七箇所ニ鑿止金具ヲ附ス形狀圖ノ如シ

前庇ノ上部ニ常用帽章ト同樣ノ前章ヲ附ス

地質	出
製式	火
	場
	用
外套	帽

紺木綿刺子

被布仕立立襟後面ノ裾ヲ割キ腰部ニ帶緒ヲ附シ尾錠ヲ備フ形狀圖ノ如シ

（圖ハ略ス）

◉常備消防手服制

明治四十四年三月
警訓甲第八號

常備消防手服制圖例

本令ハ卽日ヨリ施行ス但シ本令施行ノ際既ニ給與シタル現品ハ其ノ保存期限中使用セシム

◉朝鮮總督府道消防手服制

大正十二年三月
總令第三十號

朝鮮總督府道消防手服制別表ノ通定ム

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ制服ハ當分ノ内仍之ヲ用ヰルコトヲ得

（別表）　朝鮮總督府道消防手服制表

上衣	地質
	製式
	袖章
	釦釦
袴	地質
	製式

黒又ハ濃紺絨、夏ハ紺小倉織又ハ雲斎織

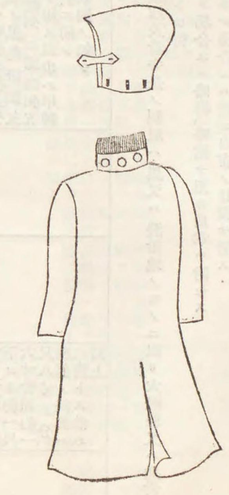
立襟一行鉦釦長「ジヤケツト」胸部及腰部ノ左右ニ各一箇ノ物入ヲ附シ胸部物入ニ蓋ヲ附ス形狀圖ノ如シ

幅五分黒色縞織線一條部長タル者ニハ二條ヲ附ス形狀圖ノ如シ

徑六分金色製地鉦釦五箇ヲ前部ニ同徑五分金色製地鉦釦各一箇ヲ胸部物入ニ附ス

上衣ニ同シ

普通ノ長袴ニシテ股廻リヲ稍廣クシ兩股ニ各一箇ノ物入ヲ附ス



朝鮮總督府看守防寒外套制式圖例

地質	制
製式	式
帽章	章

黒又ハ濃紺絨

圓形黒革製前庇及幅四分ノ黒革頤紐ヲ附シ頤紐ノ兩端ハ帽ノ兩側ニ於テ徑四分ノ略日章ヲ打出シタル金色釦各一箇ヲ以テ留ム天井喰出ハ幅一分トス形狀圖ノ如シ

前章ハ輪廓内篆書消防ノ二字ヲ縹ヲ以テ包壓シ共ニ眞鍮製打出トス其ノ縦徑一寸二分横徑一寸五分トス形狀圖ノ如シ

地質	外
製式	套
袖章	
釦釦	
雨覆	

黒又ハ濃紺絨

立襟胸二重後面ノ裾ヲ割キ後面腰部ニ帶緒ヲ附シ之ニ徑六分金色鉦釦三箇ヲ附ス形狀圖ノ如シ

上衣ニ同シ

徑六分金色製地鉦釦六箇宛ヲ二行ニ附ス

黒又ハ濃紺絨形狀圖ノ如シ

地質	草
製式	帶

象皮、色茶褐

幅一寸七分銀色製金具及圓環ヲ附ス形狀圖ノ如シ

地質	脚
製式	絆

生麻、色茶褐

裏附、釦止上部及下部ニ革條及金具ヲ附ス形狀圖ノ如シ

地質	短
製式	靴

革製黒色
紐止式トス

地質	出
製式	火
	場
	用
前章	帽

革製黒明珍塗

兜形ニシテ前庇幅一寸五分後庇幅三寸トシ兩側ノ外方ニ徑一寸ノ金色金屬製圓形ノ座金ヲ重ネ之ニ左右各本幅八分末端幅三分長六寸ニシテ左方先端ニ金色金屬製ノ尾錠ヲ附セル黒革製ノ頤紐ヲ附シ之ヲ徑八分ノ金色金屬製ノ櫻花形ノ座金ヲ以テ止メ頂部ニ徑四寸ノ金色金屬製五瓣櫻花一箇ヲ附シ其ノ頂部ヨリ後方ニ廻リ金屬製如意形ヲ突出ス内面後部七箇所ニ鑿止金具ヲ附ス形狀圖ノ如シ

前庇ノ上部ニ常用帽章ト同樣ノ前章ヲ附ス

地質	出
製式	火
	場
	用
外套	帽

紺木綿刺子

被布仕立立襟後面ノ裾ヲ割キ腰部ニ帶緒ヲ附シ尾錠ヲ備フ形狀圖ノ如シ

（圖ハ略ス）

◉常備消防手服制

明治四十四年三月
警訓甲第八號

常備消防手服制圖例

本令ハ卽日ヨリ施行ス但シ本令施行ノ際既ニ給與シタル現品ハ其ノ保存期限中使用セシム

◉朝鮮貴族タル有爵者大禮服制

明治四十三年十二月
皇室令第二十二號

改正　大正九年一〇第一一號

朕朝鮮貴族タル有爵者大禮服制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

朝鮮貴族タル有爵者ノ大禮服ノ制式ニ付テハ其ノ爵ニ應シ明治十七年宮内省達乙第八號ノ規定ヲ準用ス

附　則（大正九年十月皇室令第十一號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依ル制服ハ宮内大臣ノ許可ヲ得テ當分ノ内仍之ヲ用ウルコトヲ得

◉朝鮮總督府營林廠森林主事ノ服制ニ關スル件

大正九年十月
勅令第五百九號

朕朝鮮總督府營林廠森林主事ノ服制ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

朝鮮總督府營林廠森林主事ノ服制ハ朝鮮總督府道森林主事ノ服制ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉朝鮮總督府裁判所職員服制

大正九年七月
勅令第二百二十二號

朕朝鮮總督府裁判所職員ノ服制ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　朝鮮總督府判事檢事及朝鮮總督府裁判所書記ハ公開シタル法廷ニ於テハ一定ノ制服ヲ著ス

第二條　朝鮮總督府判事檢事及朝鮮總督府裁判所書記ノ服制ハ明治二十三年勅令第二百

上衣	地質
	製式
	袖章
袴	地質
	製式

紺小倉（冬服ハ裏モンパ）内地人冬服ハ黒羅紗

立襟一行釦脊廣、物入前面左右及左胸部内面各一箇、釦ハ徑七分金色五箇加圖

赤色絨幅三分横線一條、部長ハ幅一分ノ横線一條ヲ加（内地人ハ更ニ幅一分ノ白線一條ヲ附ス加圖

紺小倉（冬服ハ裏モンパ）内地人冬服ハ黒羅紗

短袴、物入兩股各一箇加圖

外套	地質
	製式
	袖章

紺又ハ黒絨

立襟一行黒釦五箇、物入前面左右及胸部内面各一箇、雨襲ヲ附ス内地人ハ釦ヲ金色トス加圖

部長ハ赤色絨幅三分ノ横線一條ヲ附ス

帽	地質
	製式
	徽章

紺又ハ黒絨

大黒形赤色絨大線一條加圖

徑一寸一分地質銀色略日章ノ中央ニ菅鎗ニ手鳶ヲ交叉セル金色ヲ附ス加圖

脚絆	地質
	製式

生麻

加圖

（圖略）

朕朝鮮總督府營林廠森林主事ノ服制ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

朝鮮總督府營林廠森林主事ノ服制ハ朝鮮總督府道森林主事ノ服制ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉朝鮮總督府裁判所職員服制

大正九年七月
勅令第二百二十二號

朕朝鮮總督府裁判所職員ノ服制ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　朝鮮總督府判事檢事及朝鮮總督府裁判所書記ハ公開シタル法廷ニ於テハ一定ノ制服ヲ著ス

第二條　朝鮮總督府判事檢事及朝鮮總督府裁判所書記ノ服制ハ明治二十三年勅令第二百

六十號ニ依ル但シ同令中大審院判事、控訴院判事、地方裁判所判事、大審院檢事、控訴院檢事及區裁判所檢事トアルハ各高等法院判事、區裁判所檢事、地方法院支廳判事、高等法院檢事、覆審法院檢事及地方法院支廳檢事トス

附　則

本令ハ大正九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●判事檢事及裁判所書記制服

明治二十三年十月
勅令第二百六十號
改正　大正三年第五六號

判事檢事裁判所書記及執達吏制服ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

判事、檢事及裁判所書記制服左ノ圖表ノ通定ム

但明治二十三年十二月三十一日迄ハ「フロツクコート」又ハ羽織袴ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

（圖略）

判事制服表

種目	裁判所別	大審院判事	控訴院判事	地方裁判所區裁判所判事
上衣	地質	黑	同	同
	飾	桐花七箇及唐草	桐花三箇及唐草	桐花三箇及唐草
	製	深紫	深紫	深紫
	式	雛形第一圖	雛形第三圖	雛形第五圖
帽	地質	黑	同	同
	飾	雲	紋同	同
	製	上	上	上
	式	雛形第二圖	雛形第四圖	雛形第六圖

檢事制服表

種目	裁判所別	大審院檢事	控訴院檢事	地方裁判所區裁判所檢事
上衣	地質	黑	同	同
	飾	桐花十箇及唐草	桐花五箇及唐草	桐花三箇及唐草
	製	深緋	深緋	深緋
	式	雛形第一圖	雛形第三圖	雛形第五圖
帽	地質	黑	同	同
	飾	雲	紋同	同
	製	上	上	上
	式	雛形第二圖	雛形第四圖	雛形第六圖

●辯護士職服規程

大正九年六月
總令第八十三號

辯護士職服規程左ノ通定ム

第一條　辯護士職服ハ公開シタル法廷ニ於テハ一定ノ職服ヲ著スヘシ

第二條　辯護士ノ職服ハ明治二十六年四月司法省令第四號ニ準據ス

附　則

本令ハ大正九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●辯護士職服

明治二十六年四月
司法省令第四號

辯護士職服左ノ圖表ノ通定ム

（圖略）

辯護士職服表

帽	地色	黑
	飾	雲紋
	製式	雛形第一圖
上衣	地色	黑
	飾	唐草
	製	縫著ス
	式	雛形第二圖

黑絲ヲ以テ

白絲ヲ以テ

可ヲ受ケタル場合ノ外之ヲ製造、販賣、頒布又ハ使用スルコトヲ得ス

第三條　未使用又ハ使用濟ノ帝國政府及郵便聯合條約國政府ノ發行ニ係ル現行郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモノハ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケタル場合ノ外之ヲ印刷製造販賣頒布又ハ使用スルコトヲ得ス

第四條　第一條ニ違反シタル者ハ二十圓以下ノ科料ニ處ス第二條及第三條ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本規則ハ明治四十三年十月一日ヨリ施行ス

●朝鮮總督府遞信官署徽章

明治四十三年十月
總告第十二號
改正　明治四五年三第一四六號

朝鮮總督府遞信官署ノ徽章ハ桐章内ニ(丁)字形ヲ表ハシタルモノヲ用ウ但シ航路標識用船ノ旗章ハ左ノ通トス

汽船光濟丸ハ前項遞信官署一般ノ徽章旗ヲ掲クルノ外航路標識視察船ノ任務ニ服スル場合ハ航路標識用船ノ徽章旗ヲ掲ク又稅關監視船ノ任務ニ服スル場合ハ別ニ定ムル稅關旗ヲ掲クヘシ

遞信官署徽章ノ形狀左ノ如シ（圖略）

航路標識用船ノ旗章

一　地質　旗布

二　適宜

一　幅員

一　徽章　白地ニ赤色ヲ以テ「光字」ヲ表示ス

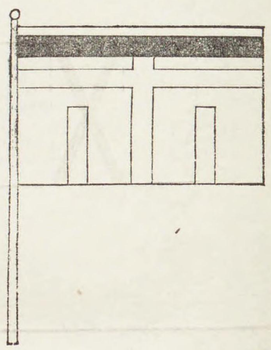
其ノ形狀圖ノ如シ（圖略）

●警察旗章及警察門燈竝提灯徽章ノ件

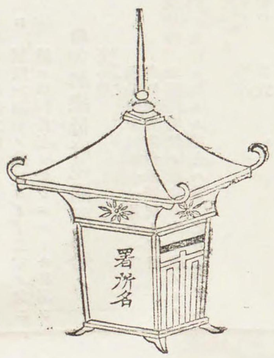
明治四十四年八月
總告第二百六十六號
改正　明治四四年一二第三九一號、大正八年一一第三〇五號

警察旗章及警察門燈竝提灯徽章ノ件左ノ通定ム

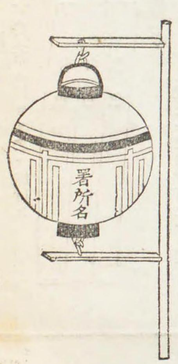
警察旗章



警察門燈徽章



警察提灯徽章



製式

一　地　白

二　縦二尺五寸横三尺五寸

三　最上ノ横線ハ黒トシ其ノ他ノ線ヲ赤トス

四　最上黒線ノ上位ニ一寸ノ白地ヲ保タシム

五　線ノ幅及線ト線トノ間隔ハ二寸五分トス

六　縦短線ノ長サハ六寸トシ中央縦線トノ間隔ハ六寸五分トス

七　水上用其ノ他特別ノ必要アル場合ハ道知事之ヲ伸縮スルコトヲ得

一　縦一尺横上部九寸

二　竪線赤色幅一寸三條

三　横線赤色黑色幅七分一條

四　徽章ハ左右兩面ニ附スルモノトス

五　特別ノ必要アル場合ハ道知事之ヲ伸縮スルコトヲ得

竪線赤色幅一寸五分三條

横線赤色黑色幅一寸二條

一寸一條

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二章　徽章　旗章

●朝鮮總督府遞信官署徽章、遞信日付印及郵便切手類模造取締規則

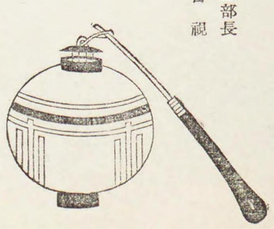
明治四十三年十月
總令第十八號
改正　明治四五年三第六三號

朝鮮總督府遞信官署徽章、遞信日付印及郵便切手類模造取締規則左ノ通定ム

朝鮮總督府遞信官署徽章、遞信日付印及郵便切手類模造取締規則

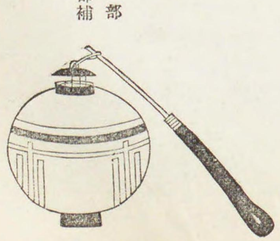
第一條　朝鮮總督府遞信官署徽章ハ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケタル場合ノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス

第二條　遞信官署ニ於テ使用スル遞信日付印ニ紛ハシキ印影ヲ描出スヘキモノ又ハ之ニ紛ハシキ印影ヲ有スルモノハ朝鮮總督ノ許



道第三部長
道警視

竪線赤色幅一寸三條
横線赤色黑色幅六分二條
道第三部長及課長タル道警視ハ上部總赤色其ノ他ノ道警視ハ上部半赤色

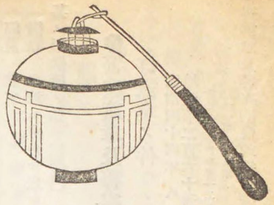


道警部
道警部補

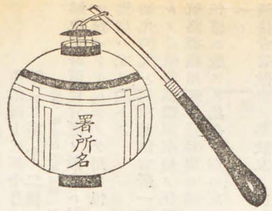
竪線赤色幅一寸三條
横線赤色黑色幅六分二條
一寸三條
六分一條

第四輯

勳記褒賞救恤恩給



道巡査部長
竪線赤色
幅一寸三條
横線赤色黒
色幅六分各
一條



騎馬巡査
竪線幅一寸
横線赤、黒
色共幅一寸

道巡査
竪線幅一寸
横線赤、黒
色共幅一寸

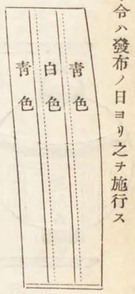
●交通取締ノ勤務ニ服スル警察官吏ノ腕章

大正九年九月朝鮮總督府令第百四十四號

交通取締ノ勤務ニ服スル警察官吏ノ腕章左圖ノ通定ム

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



備考

イ　地質絨長一尺四寸幅二寸五分ニシテ中央幅五分ノ白色線一條兩端幅一寸ノ青色線二條トス

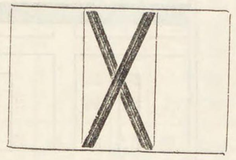
ロ　制服左袖肩ノ縫目ヨリ下三寸ノ處ニ附ス甲種外套ヲ著シタルトキ亦同シ

●朝鮮總督府稅關所屬船ノ旗章

明治四十三年十一月十一日朝鮮總督府告示第四十五號

朝鮮總督府稅關所屬船ノ旗章ハ左ノ通ノモノヲ用ヒ任務ニ服スル場合ハ常ニ之ヲ掲クヘシ

一　地質　旗布
一　幅員　適宜
一　徽章　旗面ヲ三等分シ左右ハ各紅色トシ中間ハ白地ニシテ黒線ヲ交叉スル圖ノ如シ
一　形狀



第四輯　勳記　褒賞、救恤　恩給

第一章　勳記　褒賞

第一款　位階　勳章　記章

○叙位條例〔明治二〇、五、勅令一〇〕……一
○叙位條例施行細則〔大正九、一二、閣令一八〕……一
○有位者改姓名轉貫轉居死亡等宮内省ヘ届出方〔明治二四、六、宮達乙一〕……一
○朝鮮貴族ノ叙位ニ關スル件〔明治四三、八、皇令一六〕……一
○勳章等級製式及大勳位菊花章頸飾製式〔明治二一、一、勅令一〕……一
○大勳位菊花章頸飾略章圖式及佩用方〔明治三五、四、内告二〕……一
○勳章年金支給細則〔明治二七、一二、閣令九〕……一
○金鵄勳章年金令〔明治二七、一〇、勅令一七三〕……二
○大勳位菊花大綬章以下各種略綬圖式〔明治一〇、一二、太達九七〕……二
○黄綬褒賞臨時制定〔明治二〇、五、勅令一六〕……三
○金鵄勳章等級製式及佩用式〔明治二三、二、勅令一一〕……三
○勳章及大勳位菊花章頸飾圖樣〔明治二一、一、閣令二一〕……四
○勳章記章褒章ノ佩用取締ニ關スル件〔明治四一、二、勅令二九二〕……五
○英韓國勳章及記章ノ佩用ニ關スル件〔明治四三、八、勅令三三四〕……五
○韓國併合記念章制定ノ件〔明治四五、四、勅令五六〕……五
○勳章褫奪令〔明治四一、一二、勅令二九一〕……六
○勳章褫奪令施行細則〔明治四一、一二、閣令二〕……六
○勳章、勳記、功記、年金證書又ハ外國勳章佩用免許證沒收ノ場合ニ於テ犯人ノ本籍戸籍吏ニ通知ノ件〔明治四三、三、訓一〕……七
○叙勳者等族籍氏名變更届出方〔大正三、一二、内閣告六〕……七
○勳章佩用式〔明治二一、一、勅令七六〕……七
○勳章記章佩用心得〔明治二二、二、賞勳局告一〕……七
○略章略綬佩用心得〔明治二二、二、賞勳局告二〕……八
○外國勳章佩用願規則〔明治一八、一一、太政官布告三五〕……八
○勳等遞叙ノ節同種下級ノ勳章還納方〔明治二二、三、閣令九〕……九
○勳章還納手續〔明治二二、三、閣令三八〕……九
○勳章記章褒章等受領者諸届出手續〔明治一、一〇、賞勳局告一〕……九
○婦人ノ勳勞アル者ニ瑞寶章ヲ賜フノ件〔大正八、五、勅令二三二〕……九
○勳章記章又ハ褒章ヲ有スル者制服著用ノ節略綬佩用方〔大正七、九、内閣告四〕……九
○勳章及記章褒章ノ佩用ニ關スル件〔大正八、九、内閣告一四〕……九
○實冠章略綬付與ノ件〔大正八、九、内閣告一四〕……九
○朝鮮總督府、臺灣總督府及關東廳ノ監獄官吏ノ功勞記章ニ關スル件〔大正一二、五、勅令二〇八〕……九
○監獄官吏ノ功勞記章ニ關スル件〔大正一二、一〇、勅令四四〇〕……九

第二款　褒章　賞賜

○褒章條例〔明治一四、一二、太政官布告六三〕……九
○褒章條例取扱手續〔明治二七、一、閣令一〕……一〇
○警察官吏及消防官吏ノ功勞記章ニ關スル件〔明治四三、一二、勅令四〕……一一
○朝鮮ニ於テ警察上特ニ功勞アリト認ムル者ニ對シ賞與ヲ爲スノ件〔明治四四、三、勅令二三〕……一一
○警察賞與規則〔明治三二、一〇、勅令四〇二〕……一一
○朝鮮警察賞與規程〔明治四四、六、總令七六〕……一一
○戰役又ハ事變ニ際シ功勞アル者ニ一時賜金又ハ金銀木杯若ハ錦地ヲ賜與スルノ件〔大正八、一二、勅令四九二〕……一一

第二章　救恤

第一款　疾病死傷手當

○官吏療治料給與ノ件〔明治二五、九、勅令八〇〕……一一
○各廳技術工藝ノ者就業上死傷手當内規〔明治一二、二、太政官達四〕……一一
○巡査看守療治料、給助料及弔祭料給與令ヲ警部補ニ準用ノ件〔明治四三、三、勅令一二六〕……一二
○巡査看守療治料、給助料及弔祭料給與令準用ニ關スル件〔明治四四、四、總令五二〕……一二
○巡査看守療治料、給助料及弔祭料給與令〔明治三四、七、勅令一四九〕……一二
○朝鮮總督府巡査、巡査補療治料、給助料及弔祭料給與ニ關スル取扱手續〔明治四五、三、警訓甲九〕……一三
○朝鮮陸接國境地方ヲ警備スル朝鮮總督府及所屬官署ノ職員又ハ其ノ遺族ニ一時金ヲ給スルノ件〔大正一四、八、勅令二六五〕……一三
○國境地方警備職員及遺族一時金給與規程〔大正一四、九、總令八七〕……一三
○朝鮮總督府看守及朝鮮總督府女監取締ノ療治料給助料及弔祭料給與ニ關スル件〔明治四四、七、勅令二〇二〕……一四
○明治三十三年法律第十五號及同年法律第三十號ノ一部ヲ朝鮮ニ施行スルノ件〔明治四四、一〇、勅令二七二〕……一四
○傳染病豫防救治ニ從事スル者ノ手當金ニ關スル件〔明治三三、三、法律三〇〕……一四
○明治三十三年法律第三十號第五條ノ療治料ノ件〔大正五、一二、總令一〇四〕……一四
○傳染病患者其ノ他救助料給與ノ件〔大正四、三、總訓一五〕……一四

第二款　共濟組合

○朝鮮總督府遞信官署現業員共濟組合ニ關スル件〔大正九、一二、勅令五七四〕……一五
○朝鮮總督府遞信官署現業員共濟組合規則〔大正九、一二、總令二〇〇〕……一五
○朝鮮總督府遞信官署現業員共濟組合財產管理規程〔大正一三、七、總訓一八〕……一九

○朝鮮總督府鐵道局現業員ノ共濟組合ニ關スル件〔大正一四、四、勅令一一六〕……一九
○朝鮮總督府鐵道局現業員共濟組合規則〔大正一四、四、總令四〇〕……一九
○朝鮮總督府鐵道局現業員共濟組合規則第三條第四項ノ規定ニ依ル現業員ノ範圍〔大正一四、四、總訓三〇〕……二一
○朝鮮總督府專賣局現業員共濟組合員ニ關スル件〔大正一〇、五、勅令二三六〕……二二
○朝鮮總督府專賣局現業員共濟組合規則〔大正一一、三、總令二六〕……二二

第三款　恤救

○軍事救護法ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行ノ件〔大正六、一〇、勅令二〇五〕……二三
○軍事救護法〔大正六、七、法律一〕……二三
○軍事救護法施行期日〔大正六、一〇、勅令二〇四〕……二四
○軍事救護法施行令〔大正六、一〇、勅令二〇六〕……二四
○軍事救護法施行細則〔大正六、一二、總令一〇〕……二四
○軍事救護法實施ニ關シ通報方〔大正六、一二、陸達四八〕……二五
○軍事救護法實施ニ關シ報告通報手續〔大正六、一二、海達一四六〕……二六
○恤兵金品取扱規程〔明治三七、二、陸告四〕……二六
○恤兵ノ主意ニ因リ海軍ニ寄贈スル物品ノ取扱規程〔大正七、九、海告五〕……二八
○恤兵品無賃運送取扱手續〔大正七、一〇、海告七〕……二九
○恩賜賑恤資金管理規則〔大正五、一、總令一〕……二九
○恩賜賑恤資金窮民救助規程〔大正五、一、總訓一〕……三〇

第四款　罹災救助

○恩賜罹災救助基金管理規則〔大正三、三、總令三五〕……三〇

第五款　水難救護

○朝鮮水難救護令〔大正三、四、制令一二〕……三〇
○水難救護法〔明治三二、三、法律九五〕……三〇
○水難救護法施行期日〔明治三二、七、勅令三五七〕……三一
○朝鮮水難救護令施行規則〔大正三、八、三〕……三一
○朝鮮水難救護令取扱手續〔大正三、五、總訓二四〕……三一
○鴨綠江及豆滿江ノ漂流材木ニ關スル件〔大正七、六、總令六八〕……三四

第六款　行旅病人死亡人取扱

○行旅病人救護資金管理規則〔大正六、四、總令二四〕……三四
○行旅病人行旅死亡人及其ノ同伴者ノ救護又ハ取扱ニ關スル費用繰替支辨ニ關スル件〔大正八、一二、總令二〇三〕……三五

第三章　恩給　退隱料及扶助料

第一款　公務員

○恩給法〔大正一二、四、法律四八〕……三五
○恩給法施行令〔大正一二、八、勅令三六七〕……三五
○恩給給與規則〔大正一二、八、勅令三六九〕……五一
○恩給ノ支辨ニ屬スル恩給中內閣恩給局長ノ管掌ニ係ルモノノ給與細則〔大正一二、一〇、閣令七〕……五三
○朝鮮總督ノ管掌ニ係ル恩給給與細則〔大正一二、一〇、總令一二五〕……五九
○恩給法施行令第十六條等ノ加算ヲ爲スヘキ者ノ取扱方ノ件〔大正一三、六、總訓九〕……六一
○增額恩給中內閣恩給局長ノ管掌ニ係ルモノノ更正手續〔大正一二、八、閣令五〕……六二
○定年ニ因ル退職判事檢事ノ恩給ニ關スル件〔大正一〇、五、法律一〇二〕……六四
○恩給法附則ニ依ル增額恩給更正規則〔大正一二、一〇、勅令四三九〕……六四
○恩給法第百一條又ハ第百二條ノ規定ニ依リ增額スヘキ恩給中朝鮮總督又ハ道知事ノ管掌ニ係ルモノノ更正手續〔大正一二、九、總令一一〇〕……六五
○恩給法第百三條ノ規定ニ依リ裁定又ハ改定スヘキ恩給中朝鮮總督又ハ道知事ノ管掌ニ係ルモノノ裁定又ハ改定手續〔大正一二、九、總令一一一〕……六五
○恩給法第九十二條第一項ノ規定ニ依ル加算ノ地域及期間〔大正一二、一二、內閣告二〕……六五
○恩給法施行令第十七條第一項第一號ニ規定スル勤務〔大正一三、四、內閣告二〕……六八

第二款　宮內職員

○宮內省恩給令〔大正一二、九、皇令一六〕……七〇
○宮內省恩給令施行規則〔大正一二、九、宮令一二〕……七四
○宮內省恩給給與規則〔大正一二、一〇、宮令一四〕……七六
○宮內省恩給令第七十條乃至第七十五條ノ規定ニ依リ增額スヘキ恩給ノ更正手續〔大正一二、一〇、宮令一五〕……七八

第三款　文官

○恩給扶助料等ノ增額ニ關スル件〔大正九、七、法律一〇〕……七八
○大正九年法律第十號ニ依ル恩給扶助料等ノ增額及明治二十三年勅令第二百五十四號ニ依ル休職給ノ增額ニ關スル件〔大正九、八、勅令二七八〕……七八
○大正九年法律第十號施行手續〔大正九、九、總令一四八〕……七九
○同　上〔大正九、八閣令八〕……七九
○同　上〔大正九、八、文令二〇〕……七九
○大正九年法律第十號ニ依リ更正ニ係ル恩給等支給規則〔大正九、九、遞令八〇〕……八〇
○恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則〔大正一二、一〇、勅令四三九〕……八〇

第四款　軍人軍屬

○朝鮮軍人及朝鮮軍人遺族扶助令〔大正七、七、勅令二九九〕……八一
○朝鮮軍人及朝鮮軍人遺族扶助令施行規則〔大正七、八、總令七八〕……八二
○憲兵補ノ恩給ニ關スル件〔大正一〇、四、法律三三〕……八三
○憲兵補ノ等級ニ關スル件〔大正一〇、四、勅令七〇〕……八三
○隆熙三年勅令第六十八號ニ依ル恩給ノ增給ニ關スル件〔大正一〇、三、勅令四三〕……八三
○軍部廢止、親衞府新設及之ニ附帶ノ件〔隆熙三、七、勅令六八〕……八四
○隆熙三年勅令第六十八號ニ依リ恩給ヲ受クル者ノ恩給增給及隆熙三年勅令第六十八號施行ノ際休職ト爲リタル舊韓國將校同相當官ニシテ休職期間滿了ニ因リ現役ヲ退キタル者ノ扶助金給與ニ關スル件〔大正一五、三、勅令二八〕……八四
○武官恩給ニ關スル件〔隆熙三、七、布達九〕……八四

第五款　傭人

○傭人扶助令〔大正七、一一、勅令三八二〕……八四

第六款　年金恩給支給

○郵便官署ヲシテ年金、恩給等ノ支給事務ヲ取扱ハシムル件〔明治四三、三、勅令二五〕……八五
○年金恩給支給規則〔大正一二、一一、遞令九二〕……八五

第四輯　勳記　褒賞　救恤　恩給

第一章　勳記　褒賞

第一款　位階　勳章　記章

●敍位條例

敍位條例

明治二十年五月六日
勅令　第十　號
改正　明治三三年四第一四七號、大正八年一
第五號

第一條　凡ソ位ハ華族勳奏任官及國家ニ勳功アル者又ハ表彰スヘキ效績アル者ヲ敍ス

第二條　凡ソ位ハ正一位ヨリ從八位ニ至ル十六階トス

第三條　凡ソ位ハ從四位以上ハ勅授トシ宮內大臣之ヲ奏ス正五位以下ハ奏授トシ宮內大臣之ヲ宣ス

第四條　有位者死刑、懲役又ハ無期若ハ三年以上ノ禁錮ニ處セラレタルトキハ其ノ位ヲ失フ

有位者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ情狀ニ依リ其ノ位ヲ失ハシム

一　刑ノ執行ヲ猶豫セラレタルトキ

二　三年未滿ノ禁錮ニ處セラレタルトキ

三　懲戒ノ裁判又ハ處分ニ依リ免官又ハ免職セラレタルトキ

四　素行修ラス有位者タルノ面目ヲ汚シタルトキ

前二項ノ規定ニ依リ位ヲ失ヒタル者ハ位記ヲ返上スヘシ

第四條ノ二　有位者法令ニ因リ拘禁セラレ又ハ勞役場ニ留置セラレタルトキハ其ノ期間位ニ屬スル禮遇、特權ヲ享クルコトヲ得ス保釋、責付、假出獄又ハ刑ノ執行猶豫ノ期間亦同シ

第五條　凡ソ位ハ從四位以上ハ爵ニ准シ禮遇ヲ享ク其准例左ノ如シ

公爵	侯爵	伯爵	子爵	男爵
從一位	正二位	從二位	正從三位	正從四位

第六條　爵位ヲ併有スル者ハ高キニ從テ禮遇ヲ享ク

●敍位條例施行細則

大正九年十二月
閣令　第十八號

敍位條例施行細則左ノ通定ム

第一條　敍位條例第四條第一項ノ場合ニ於テハ確定裁判ヲ爲シタル官廳ノ長官又ハ檢察官ハ別記書式ニ依リ內閣總理大臣ニ申牒スヘシ

第二條　敍位條例第四條第二項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ確定裁判ヲ爲シタル官廳ノ長官若ハ檢察官又ハ懲戒ノ判決若ハ處分ヲ爲シタル官廳若ハ行政廳ハ判決ノ謄本若ハ證據說明ノ部分ヲ省略シタル抄本又ハ懲戒事由明細書ヲ添ヘ別記書式ニ準シ內閣總理大臣ニ申牒スヘシ

前項ノ申牒ヲ爲シタル後失位ニ關スル決定未濟ノ者ニ對シ大赦、刑ノ言渡ノ效力ヲ失ハシムル特赦又ハ懲戒ノ免除アリタルトキハ其ノ旨內閣總理大臣ニ申牒スヘシ

第三條　前二條ノ場合ニ於テ有位者華族又ハ宮內職員ナルトキハ宮內大臣ニ申牒スヘシ

第四條　返上ヲ命セラレタル位記ハ宮內大臣ノ囑託アリタルモノト看做シ敍位條例第四條第一項及第二項第二號ノ場合ニ於テハ確定裁判ヲ爲シタル官廳ノ長官又ハ檢察官、同條第二項第一號第三號及第四號ノ場合ニ於テハ所轄長官又ハ地方長官之ヲ回收シ宗秩寮總裁ニ送付スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別記）

書式

申牒書

本籍
住所

一罪名
一刑名
一刑期
一裁判確定ノ年月日
一犯罪ノ情狀其ノ他參考ト爲ルヘキ事項
一位ヲ賜リタル當時ノ職業及年月日
一記章、褒章又ハ外國ノ勳章若ハ記章ヲ有スル者ナルトキハ其ノ種類

右敍位條例施行細則ニ依リ申牒候也

年　月　日

官職　氏名　印

內閣總理大臣（宮內大臣）宛

●有位者改姓名轉貫轉居死亡等宮內省へ屆出方

明治二十四年六月
宮內省達乙第一號

有位者一般（華族ヲ除ク）

自今改姓名貫屬換及轉居ハ其都度本人ヨリ死亡ハ相續人又ハ親屬ヨリ直ニ當省【爵位局】ヘ屆出ツヘシ

●朝鮮貴族ノ敍位ニ關スル件

明治四十三年八月
皇室令　第十六號

朝鮮貴族ノ敍位ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

敍位條例ハ朝鮮貴族ノ敍位ニ關シ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●勳章等級製式及大勳位菊花章頸飾製式

明治二十一年一月四日
勅令　第一　號
改正　明治二九年四第一三六號

朝各種ノ勳章等級製式及ヒ大勳位菊花章頸飾ノ製式ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

一　寶冠章

勳一等ヨリ勳八等ニ至ル婦人ノ勳勞アル者ニ賜フ

章　寶冠ト竹櫻ノ形ヲ以テ飾ル

緩　地黃色雙線紅色

勳一等旭日桐花大綬章

旭日大綬章ノ上級トス勳勞アル者ニ賜フ

章　旭日ト桐花ノ形ヲ以テ飾ル

緩　地紅色雙線白色

一　瑞寶章

勳一等ヨリ勳八等ニ至ル勳勞アル者ニ賜フ

章　鏡珠ノ形ヲ以テ飾ル

緩　地淡藍色雙線橙黃色

一　大勳位菊花章頸飾

頸飾ハ大勳位ニ敍セシ者ニ特別之ヲ賜フ

菊花菊葉ノ形ト明治二字古篆文ヲ以テ飾ル

●大勳位菊花章頸飾略章圖式及佩用方

明治三十五年四月十七日
內閣告示　第二號

大勳位菊花章頸飾ヲ有スル者ハ略鎖ヲ以テ略章ヲ喉下ニ佩フルコトヲ得

略鎖略章ヲ佩フルハ陸海軍ニ在リテハ正裝正服以外ノ制服著用ノ時其ノ他ニ在リテハ通常禮服著用ノ時トス

略鎖略章ノ圖式左ノ如シ

（圖ハ略ス）

●勳章年金支給細則

明治二十七年十二月
閣令　第九　號
改正　明治四一年一二第三號、四三第三號ニ
號、大正二年七第三號、九年一〇第四號

勳章年金支給細則左ノ通定ム

第一條　勳章年金支給細則

勳章年金ヲ賜フ者ニハ賞勳局總裁年金證書ヲ作リ之ヲ授與スヘシ

第二條　賞勳局總裁年金證書ヲ授與シタルトキハ受領者ノ官職、氏名、功級若ハ勳等、年金額、證書ノ番號、授與ノ年月日ヲ爲替貯金局ニ通知スヘシ

第三條　年金支給ノ初年ニ於テハ其ノ證書ノ

日附六月三十日以前ニ在ルモノハ全額ヲ給シ七月一日以後ニ在ルモノハ半額ヲ給ス年金受領者死亡ノ年ニ於テハ其ノ六月三十日以前ニ在ルモノハ半額ヲ給シ七月一日以後ニ在ルモノハ全額ヲ給ス

第四條　年金ハ年額ヲ毎年六月十二月ノ兩同ニ支給ス

年金支給ニ關スル手續ハ遞信大臣ノ定ムル所ニ依ル

第五條　金鵄勳章年金令ニ依リ遺族ニ賜フ年金ノ支給ハ年金受領者ノ死亡六月三十日以前ニ在ルモノハ七月一日、其ノ死亡七月一日以後ニ在ルモノハ翌年一月一日ニ始ル

第六條乃至第八條　〔削除〕

第九條　年金受領者カ死亡、離籍若クハ婚姻シ又ハ成年ニ達シタル爲年金受領ノ資格ヲ失ヒタルトキハ遺族、親戚又ハ本人ヨリ最寄郵便局ヲ經テ爲替貯金局ニ屆出ヘシ

郵便局ニ於テ最終期ノ年金支給ノトキハ其ノ證書ヲ收メ爲替貯金局ヲ經テ之ヲ賞勳局ニ還納スヘシ

金鵄勳章年金令ニ依リ年金ヲ繼受スヘキ遺族アルトキハ其ノ賜期滿限ノ後還納スルモノトス

第十條　遺族ニ年金ヲ賜フトキハ其ノ順序左ノ如シ

一　寡婦　二　孤兒　三　父　四　母　五　祖父　六　祖母　七　家督相續人又ハ戶主

孤兒數人アルトキハ家督相續人ニ賜フ其ノ他ハ男子ヲ先ニシ女子ヲ後ニシ順次年長者ニ賜フ

第十一條　此ノ規則ニ於テ孤兒トハ年齡二十歲未滿ノ男女子ニシテ未タ結婚セサル者ヲ云フ

第十二條　年金ヲ繼受又ハ遞受シタル者其ノ受領期日前ニ死亡シ戶籍ヲ去リ又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ年金ハ次ノ順位者ニ之ヲ賜フ

年金ヲ繼受シタル寡婦再婚シタルトキ亦前項ニ同シ

第十三條　年金ヲ繼受又ハ遞受シタル者禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ確定裁判ヲ爲シタル官廳ノ長官又ハ檢察官ヨリ賞勳局及爲替貯金局ニ之ヲ通知スヘシ

第十四條　年金ヲ繼受セントスル遺族ハ受領者最終期ノ年金支給濟ノ後署名捺印シタル願書（孤兒ハ親權者又ハ後見人ヨリ願出テ準禁治產者ハ保佐人ノ連署ヲ要ス）ニ市區町村長（市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ之ニ準スヘキ者以下之ニ倣フ）ノ證印ヲ受ケ戶籍謄本及年金證書ヲ添附シ住所地ノ地方廳ニ差出スヘシ

地方長官前項ノ書面ヲ受ケタルトキハ之ヲ査覈シ賞勳局總裁ニ申牒スヘシ

第十五條　賞勳局總裁ハ前條ノ願書ヲ審査シ許可スヘキモノト認メタルトキハ年金證書ノ裏面ニ其ノ事由ヲ記載シ住所地ノ地方廳ヲ經テ本人ニ下付シ其ノ旨ヲ爲替貯金局ニ通知スヘシ

第十六條　遺族間年金ヲ遞受セントスルトキモ亦前二條ノ例ニ依ル

第十七條　年金ノ支給ヲ廢止シ又ハ停止若ハ解除スヘキ場合ニ於テハ賞勳局ハ之ヲ爲替貯金局ニ通知シ爲替貯金局ハ之ヲ年金支給郵便局ニ通知スヘシ

第十七條ノ二　年金ノ支給ヲ停止セラレタルトキハ停止以前ノ年金ハ解除後ノ支給期月ニ之ヲ支給シ其ノ廢止セラレタルトキハ廢止以前ノ年金ハ支給期月ニ拘ラス之ヲ支給ス

第十八條　勳章褫奪令第四條但書及同第五條但書ニ該當スルトキハ遡リテ受クヘキ年金ハ當期ノ年金ト同時ニ之ヲ支給ス

年金受領者行方不明ノ場合ニハ其ノ所在分明トナリタル後行方不明中ニ受取ルヘキ年金ヲ支給ス

地方長官ニ於テ年金受領者行方不明中年金ノ支給ヲ停止セラルヘキ所爲アリト認定スルトキハ其ノ旨ヲ賞勳局ニ申牒シ且年金ノ支給ヲ猶豫セシムル爲爲替貯金局ヘ通知スヘシ

第十九條　年金ノ支給ヲ廢止若ハ停止スヘキ場合ニハ其ノ支給額ハ各日割ヲ以テ之ヲ計算ス

第二十條　水火災盜難等ニ由リ年金證書ヲ亡失シタルトキハ年金ノ種類、證書ノ番號、年金額及亡失ノ事由ヲ具シ年金支給郵便局ヲ經テ爲替貯金局ニ屆出スヘシ

爲替貯金局前項ノ屆出ヲ受ケタルトキハ其ノ事實ヲ調査シ賞勳局ニ申牒スヘシ賞勳局總裁ハ新ニ年金證書ヲ作リ其ノ裏面ニ再度授與ノ旨ヲ記載シ爲替貯金局ヲ經由シ年金支給郵便局ヲシテ之ヲ本人ニ下付セシム但亡失シタル年金證書ヲ發見シタルトキハ直ニ年金支給郵便局ヲ經テ賞勳局ニ還納スヘシ

年金證書亡失ノ爲メ年金ヲ受取ルコト能ハサル者ニハ新年金證書ヲ授與シタル次ノ年金支給期月ニ其ノ年金ヲ併セ支給ス

第二十一條　年金受領者氏名ヲ改メタルトキハ其ノ屆書ニ年金證書及戶籍謄本ヲ添ヘ年金支給郵便局ヲ經テ爲替貯金局ニ差出スヘシ

爲替貯金局長ハ年金證書ノ裏面ニ其ノ事由ヲ記載シ署名捺印ノ上年金支給郵便局ヲ經テ本人ニ下付シ其ノ旨ヲ賞勳局ニ通知スヘシ

附　錄

年金繼受願

府(縣)郡(市)町(村)番地華士族平民

故官位功勳爵氏名寡婦(孤兒)(父母)(祖父母)

氏　名

何年何月生

功何級金鵄勳章年金證第何號

歲額何百何圓

右ハ夫(父等)氏名何年何月何日死亡候ニ付金鵄勳章年金令第三條ニ依リ何年一月(七月)ヨリ何年十二月(六月)迄何年(何年六月)間私拜受仕度別紙年金證竝戶籍謄本相添此段奉願候也

年　號　月　日

右寡婦(孤兒)(父母)(祖父母)

氏　名印

賞勳局總裁爵氏名殿

(遺族間年金遞受願書モ此ノ書式ニ準シテ作ルヘシ)

附　則（大正九年七月閣令第四號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前年金繼受又ハ遞受ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ金鵄勳章年金令第三條第二項ノ規定ニ依リ支給期間ヲ延長セラレタルモノハ勳章年金支給細則第十四條ノ規定及附錄書式ニ準シ更ニ其ノ延長期間ノ年金ノ繼受又ハ遞受ヲ願出ツヘシ

●金鵄勳章年金令

明治二十七年十月三日
勅令第百七十三號

改正　明治二八年七第一一〇號、三九年八第二〇八號、大正九年六第一八五號

朕金鵄勳章年金令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

金鵄勳章年金令

第一條　金鵄勳章ヲ賜フ者ニハ功級ニ應シ終身年金ヲ加賜ス

第二條　金鵄勳章年金ノ定額ハ左ノ如シ

功一級	千五百圓
功二級	千圓
功三級	七百圓
功四級	五百圓
功五級	三百圓
功六級	二百圓
功七級	百圓

第三條　本令ノ年金受領者死亡シタルトキハ仍一年間遺族ニ其ノ年金ヲ賜フ

前項ノ場合ニ於テ年金受領期間本人及遺族ヲ通シテ五年ニ滿タサルトキハ五年ニ滿ツ迄遺族ニ其ノ年金ヲ賜フ

第四條　前條ノ遺族トハ寡婦孤兒父母及祖父母ニシテ年金受領者生存中ヨリ戶籍簿ニ登記シタル者竝家督相續人及戶主ヲ云フ

第五條　本令ノ年金ハ他ノ勳等年金又ハ恩給ヲ受クルニ妨ケナキモノトス

第六條　本令施行ニ關スル細則ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則（大正九年六月勅令第百八十五號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ大正五年以後金鵄勳章ヲ賜ハリタル者ニ之ヲ適用ス

●大勳位菊花大綬章以下各種略綬圖式

明治十年十二月二十五日
太政官達第九十七號

改正　大正一〇年四第一四六號

【官】院省【使】府縣

明治九年中欽定ノ大勳位菊花大綬章大勳位菊花章圖式別冊ノ通ニ候事

從前各種ノ略綬ヲ廢シ更ニ大勳章以下略綬別紙ノ通被定候事

右相達候事

(別冊)

【大勳章佩用式】

【一菊花大綬章ハ旭日大綬章(勳一等)ヲ佩帶スルニ同シ菊花章ハ旭日重光章(勳二等)ヲ佩帶スルニ同シ】

	大勳位菊花大綬章	大勳位菊花章
章	金日章徑二寸五分　日赤佛琺瑯　光線白佛琺瑯　菊花黃佛琺瑯　葉綠佛琺瑯	金銀日章徑三寸　日赤佛琺瑯　光線二重白佛琺瑯　菊花黃佛琺瑯　葉綠佛琺瑯
鈕	金菊花黃佛琺瑯	無鈕
環	金圓形	無環佩針銀
綬	幅三寸八分紅紫織	無綬

(圖ハ略ス)

●黃綬褒章臨時制定

明治二十年五月二十四日
勅令第十六號

改正　大正一〇年四第一四八號

朕黃綬褒章臨時制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　私財ヲ獻納シ防海ノ事業ヲ贊成スルモノニ授與スル爲メ黃綬褒章ヲ制定シ分テ金章銀章ノ二種トス

第二條　黃綬褒章ヲ佩用シ又ハ沒收スルノ事項ハ明治十四年十二月第六十三號褒章條例ニ據ル

第三條　黃綬褒章ノ圖式左ノ如シ

章	金及銀圓形表面ニ菊ノ徽章褒章ノ二字大砲ノ圖裏面ニ贊成防海事業ノ六字ヲ鑄出ス
綬	橙黃色

(圖ハ略ス)

●金鵄勳章等級製式及佩用式

明治二十三年二月十一日
勅令第十一號

改正　明治二八年八第一二〇號、大正一〇年四第一四九號

朕金鵄勳章ノ等級製式佩用式ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

一　金鵄勳章

功一級ヨリ功七級ニ至ル武功拔群ナル者ニ賜フ

金鵄勳章製式

功一級章

章	金徑二寸五分　鵄金地劍緣紫白淡藍色佛琺瑯楯濃藍色佛琺瑯矛銀地黃紅色佛琺瑯光線紅色佛琺瑯
綬	幅二寸六分　織地綠雙線白

同副章

章	金徑三寸　鵄金地劍緣紫白淡藍色佛琺瑯楯濃藍色佛琺瑯矛銀地黃紅色佛琺瑯光線紅黃色佛琺瑯

功二級章

章	金徑三寸　鵄金地劍緣紫白淡藍色佛琺瑯楯濃藍色佛琺瑯矛銀地黃紅色佛琺瑯光線紅黃色佛琺瑯

同副章

章	金徑一寸八分　鵄金地劍緣紫白淡藍色佛琺瑯楯濃藍色佛琺瑯矛銀地黃紅色佛琺瑯光線紅色佛琺瑯

功三級章

綬	幅一寸二分　織地綠雙線白
章	金徑一寸八分　鵄金地劍緣紫白淡藍色佛琺瑯楯濃藍色佛琺瑯矛銀地黃紅色佛琺瑯光線紅色佛琺瑯

功四級章

綬	幅一寸二分　織地綠雙線白
章	金徑一寸五分　鵄金地劍緣紫白淡藍色佛琺瑯楯濃藍色佛琺瑯矛銀地黃紅色佛琺瑯光線紅色佛琺瑯

功五級章

綬	幅一寸二分　織地綠雙線白
章	銀徑一寸五分　鵄金地劍緣紫白淡藍色佛琺瑯楯濃藍色佛琺瑯矛銀地黃紅色佛琺瑯光線紅色佛琺瑯

功七級章

綬　幅一寸二分　織地絲雙線白

章　銀長徑一寸七分　鴛金地劒楯矛銀地

綬　幅　一寸二分　織地絲雙線白

功六級章

綬　幅一寸二分　織地絲雙線白

章　金長徑一寸七分　鴛劒楯矛金地

綬　幅　一寸二分　織地絲雙線白

（圖ハ略ス）

金鵄勳章佩用式

一　功一級章ハ大綬ヲ以テ左肩ヨリ右脇ニ垂レ其ノ副章ヲ左肋ニ佩フ

二　功二級章ハ右肋ニ佩ヒ其ノ副章ヲ中綬ヲ以テ喉下ニ佩フ

三　功三級章ハ中綬ヲ以テ喉下ニ佩フ

四　功四級以下ハ小綬ヲ以テ左肋ニ佩フ

附　則（大正十年四月勅令第百四十九號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前授與セラレタル略綬ハ本令ニ規定スルモノト異ルモ當分ノ內仍之ヲ佩用スルコトヲ得

勳章及大勳位菊花章頸飾圖樣

明治二十一年十一月二十六日閣令第二十一號

改正　明治二十九年四月第四號、大正八年五月勅令第一〇四號

明治二十一年勅令第一號各種ノ勳章及大勳位菊花章頸飾ノ圖樣左ノ如シ

勳一等寶冠章

章　金桐圓長徑一寸二分　寶冠金地藍色佛絲筬　佛絲筬竹枝綠色佛絲筬　筬櫻花紅色佛絲筬葉　綠色佛絲筬

鈕　桐　花紫色佛絲筬葉綠色佛絲筬

綬　幅二寸六分　織地黃雙線紅

勳二等寶冠章

章　金桐圓長徑一寸二分　寶冠金地藍色佛絲筬　重廓眞珠其間濃紅色佛絲筬竹枝綠色佛絲筬　筬櫻花紅色佛絲筬葉　綠色佛絲筬

鈕　牡丹　花白色佛絲筬葉綠色佛絲筬

綬　幅一寸二分　織地黃雙線紅

勳三等寶冠章

章　金桐圓長徑一寸一分　寶冠金地藍色佛絲筬　重廓眞珠其間濃紅色佛絲筬竹枝綠色佛絲筬　筬櫻花紅色佛絲筬葉　綠色佛絲筬

鈕　蝶　羽白色佛絲筬

綬　幅一寸二分　織地黃雙線紅

同副章

章　金徑二寸二分　鳳金地藍色佛絲筬　重廓眞珠其間濃紅色佛絲筬　五條光線眞珠櫻花紅色佛絲筬葉　綠色佛絲筬

勳四等寶冠章

章　金桐圓長徑一寸　寶冠金地藍色佛絲筬　重廓眞珠其間濃紅色佛絲筬竹枝綠色佛絲筬　筬櫻花紅色佛絲筬葉　綠色佛絲筬

鈕　藤　花紫色佛絲筬

綬　幅一寸二分　織地黃雙線紅

勳五等寶冠章

章　銀桐圓長徑一寸　寶冠金地藍色佛絲筬　重廓眞珠其間濃紅色佛絲筬竹枝綠色佛絲筬　筬櫻花紅色佛絲筬葉　綠色佛絲筬

鈕　杏　葉綠色佛絲筬

綬　幅一寸二分　織地黃雙線紅

勳六等寶冠章

章　銀桐圓長徑九分　寶冠金重廓內紅色佛絲筬櫻葉綠色佛絲筬

鈕　波紋　淡藍色佛絲筬

綬　幅一寸二分　織地黃雙線紅

勳七等寶冠章

章　銀桐圓長徑九分　寶冠金櫻葉金

綬　幅一寸二分　織地黃雙線紅

勳八等寶冠章

章　銀桐圓長徑九分　寶冠金

綬　幅一寸二分　織地黃雙線紅

勳一等旭日桐花大綬章

章　金日章徑二寸五分　日赤色佛絲筬光線二　重紅白色佛絲筬桐花　紫色佛絲筬

鈕　金五七桐　花紫色佛絲筬葉綠色

綬　幅三寸五分　織地紅雙線白

同副章

章　金日章徑三寸　日赤色佛絲筬光線二　重紅白色佛絲筬桐花　紫色佛絲筬

勳一等瑞寶章

章　金徑二寸二分　鏡銀地藍色佛絲筬連　珠紅色佛絲筬金四條　光線白色佛絲筬

綬　幅三寸三分　織人二踢フ綬　實筆ニ在リテハ幅二寸六分　織地淡藍雙線橙黃

勳二等瑞寶章

章　金徑二寸五分　鏡銀地藍色佛絲筬連　珠紅色佛絲筬金銀八條　光線白色佛絲筬光線間藍色佛絲筬

勳三等瑞寶章

章　金徑一寸八分　鏡銀地藍色佛絲筬連　珠紅色佛絲筬金四條　光線白色佛絲筬

綬　幅一寸二分　織地淡藍雙線橙黃

勳四等瑞寶章

章　金徑一寸五分　鏡銀地藍色佛絲筬連　珠紅色佛絲筬金四條　光線白色佛絲筬

綬　幅一寸二分　織地淡藍雙線橙黃

勳五等瑞寶章

章　銀徑一寸三分　鏡銀地藍色佛絲筬連　珠紅色佛絲筬銀四條　光線白色佛絲筬

綬　幅一寸二分　織地淡藍雙線橙黃

勳六等瑞寶章

章　銀徑一寸一分　鏡銀連珠銀

綬　幅一寸二分　織地淡藍雙線橙黃

勳七等瑞寶章

章　金徑一寸二分　鏡銀連珠金

綬　幅一寸二分　織地淡藍雙線橙黃

勳八等瑞寶章

章　銀徑一寸五分　鏡銀地藍色佛絲筬連　珠紅色佛絲筬金銀四條　光線白色佛絲筬

綬　幅一寸二分　織地淡藍雙線橙黃

大勳位菊花章頸飾

中央　圓形徑一寸三分　花金葉綠色佛絲筬

菊　連環　楕圓長徑九分　一ハ古篆明ノ字一ハ治ノ字各金一ハ菊花金葉綠色佛絲筬

（圖ハ略ス）

附　則（大正十年四月閣令第四號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前授與セラレタル略綬ハ本令ニ規定スルモノト異ルモ當分ノ內仍之ヲ佩用スルコトヲ得

勳章記章褒章ノ佩用取締ニ關スル件

明治四十一年十二月勅令第二百九十二號

改正　明治四十二年五月勅令第一二〇號

陞襯密顧問ノ諮詢ヲ經テ勳章記章褒章ノ佩用取締ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　勳章又ハ布告、勅令ニ依リ制定セラレタル各種ノ記章、褒章ヲ僭用シタル者又ハ其ノ佩用ノ停止ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金、拘留又ハ科料ニ處ス外國勳章記章ノ佩用禁止若ハ停止ニ違反シタル者又ハ佩用免許狀ナクシテ佩用シタル者亦同シ

第二條　勳章又ハ布告、勅令ニ依リ制定セラレタル各種ノ記章、褒章ニ類似シタル標章ヲ佩用シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス外國勳章ニ類似シタル標章ヲ佩用シタル者亦同シ

附　則

明治二十八年勅令第百十八號ハ之ヲ廢止ス

日本赤十字社ノ記章ノ佩用ニ關スル例規ハ本令ニ依リ變更ヲ受クルコトナシ

舊韓國勳章及記章ノ佩用ニ關スル件

明治四十三年八月勅令第三百三十四號

舊韓國ノ勳章及記章ハ當分ノ內之ヲ佩用スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

韓國併合記念章制定ノ件

明治四十五年四月勅令第五十六號

陞韓國併合記念章制定ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　韓國併合記念ノ表章トシテ特ニ記念章ヲ設ク

第二條　記念章ノ國式左ノ如シ

章　黃銅圓形徑一寸輪廓內表面上部ニ菊御紋、兩側緣ニ桐樹及李樹ノ花枝ノ圖、裏面上部ニ明治四十三年下部ニ八月二十九日、中央ニ韓國併合記念章ノ文字ヲ識ス

環　銀圓形

綬　織地幅一寸二分、中央紅色、其ノ左右黃色、兩緣白色

綬

白色　黃色

紅色

黃色　白色

表

裏

記念章ハ綬ヲ以テ左肋ニ佩フ

第三條　記念章ハ左ニ揭クル者ニ之ヲ授與ス

一　韓國併合ノ事業ニ直接關與シタル者及韓國併合ノ事業ニ伴フ要務ニ關與シタル者

二　韓國併合ノ際朝鮮ニ在勤シタル官吏及官吏待遇者竝韓國併合ノ際ニ於ケル韓國政府ノ官吏及官吏待遇者

三　從前日韓關係ニ於テ功績アリタル者

第四條　左ニ揭クル事項ノ一ニ該當スル者ニハ記念章ヲ授與セス但シ處刑、免官又ハ免職ノ後前條ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス

一　禁錮又ハ禁獄以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二　懲戒處分ニ依リ免官又ハ免職セラレタルトキ

第五條　記念章ハ本人ニ限リ終身之ヲ佩用シ子孫之ヲ保存スルコトヲ得

第六條　記念章ヲ授與セラルヘキ者其ノ授與前死亡シタルトキハ之ヲ其ノ遺族ニ交付シテ保存セシム

第七條　記念章ヲ授與セラレタル者ノ名簿ハ賞勳局ニ於テ之ヲ保存ス前條ノ規定ニ依リ記念章ヲ交付セラレタル者ノ名簿亦同シ

勳章褫奪令

明治四十一年十二月勅令第二百九十一號

改正　明治四十二年五月第一二〇號

陞勳章綬奪令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

勳章褫奪令

第一條　勳章ヲ有スル者死刑、懲役又ハ無期若ハ三年以上ノ禁錮ニ處セラレタルトキハ其ノ勳等、功級又ハ年金ノ之ヲ褫奪セラレタルモノトシ外國勳章ハ其ノ佩用ヲ禁止セラレタルモノトス但シ第二條第一項第一號ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テハ勳章、勳記、功記、年金證書又ハ外國勳章佩用免許證ハ之ヲ沒取ス

前級ノ勳記又ハ功記ニ付亦同シ

第二條　勳章ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ情狀ニ依リ其ノ勳等、功級又ハ年金ヲ褫奪シ外國勳章ハ其ノ佩用ヲ禁止ス

一　刑ノ執行ヲ猶豫セラレタルトキ

二　三年未滿ノ禁錮ニ處セラレタルトキ

三　懲戒ノ裁判又ハ處分ニ依リ免官又ハ免職セラレタルトキ

四　素行修ラス帶勳者タルノ面目ヲ汚シタルトキ

前項ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ適用ス

第三條　勳章ヲ有スル者法令ニ因リ拘禁セラレ又ハ勞役場ニ留置セラレタルトキハ其ノ期間勳章ヲ佩用シ又ハ之ニ屬スル禮遇、特權ヲ享クルコトヲ得ス外國勳章ハ其ノ佩用ヲ停止ス保釋、責付、假出獄又ハ刑ノ執行猶豫ノ期間亦同シ

第四條　勳章年金ヲ有スル者法令ニ因リ拘禁セラレ又ハ禁錮以上ノ刑ニ因リ拘禁セラレタルトキハ其ノ期間年金ヲ受クルコトヲ得ス保釋、責付、假出獄又ハ刑ノ執行猶豫ノ期間亦同シ但シ處刑セラルルコトナクシテ釋放若ハ放免セラレ又ハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サルルコトナクシテ猶豫ノ期間ヲ經過シ且其ノ期間勳章ヲ褫奪セラレサル者ハ拘留ノ日

ニ遇リ年金ヲ受ク

第五條　三年未滿ノ禁錮ニ處セラレ刑ノ執行ヲ了リタルトキ又ハ懲戒ノ裁判若ハ處分ニ因リ免官若ハ免職セラレタルトキハ勳章褫奪ニ關スル決定アル迄勳章ヲ佩用シ及之ニ屬スル禮遇、特權又ハ年金ヲ享受スルコトヲ得ス外國勳章ハ其ノ佩用ヲ停止ス但シ勳章褫奪ノ處分ニ及ハサルトキハ停止ノ始ニ遡リテ年金ヲ受ク

第六條　本令ハ記章、褒章ノ褫奪又ハ其ノ佩用停止及外國記章ノ佩用禁止又ハ停止ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治十六年太政官布告第二十二號及明治三十二年勅令第三百九號ハ之ヲ廢止ス

本令ハ本令施行前ヨリ引續キ法令ニ因リ拘禁セラレタル者及保釋、責付、假出獄又ハ刑ノ執行猶豫中ノ者ニ之ヲ準用ス

勳章褫奪令施行細則

明治四十一年十二月閣令第二號

改正　大正二年二月第一號、八年八月第九號

勳章褫奪令施行細則左ノ通定ム

第一條　勳章褫奪令第二條第一項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ確定裁判ヲ爲シタル官廳ノ長官若ハ檢察官又ハ懲戒處分ヲ爲シタル官廳若ハ行政廳ヨリ判決ノ謄本若ハ懲戒事由明細書ヲ添ヘ第一號書式ニ依リ賞勳局總裁ニ申牒スヘシ

前項判決ノ謄本ハ證據說明ノ部分ヲ省略シタル判決ノ抄本ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第一項ノ申牒ヲ爲シタル後褫奪又ハ佩用禁止ニ關スル決定未濟ノ者ニ對シ刑ノ言渡ノ效力ヲ失ハシムル特赦又ハ特旨ニ依ル懲戒ノ免除アリタルトキハ其ノ旨賞勳局總裁ニ申牒スヘシ

第二條　第一項第四號ノ場合ニ於テハ所轄長官又ハ地方長官ヨリ素行明細書ヲ添ヘ賞勳局總裁ニ申牒スヘシ

第二條　勳章褫奪令第四條ニ揭クル事由生シタルトキハ當該官廳又ハ行政廳ハ第二號書式ニ依リ賞勳局總裁ニ申牒スヘシ但シ拘留後ノ保釋、責付及假出獄ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三條　勳章褫奪令第一條第二項ノ處分ハ賞勳局總裁ノ囑託アリタルモノト看做シ當該裁判所ノ長官若ハ檢察官之ヲ行ヒ同第二條第二項ノ處分ハ賞勳局總裁當該裁判所ノ長官若ハ檢察官又ハ申牒ヲ爲シタル官廳若ハ行政廳ニ囑託シテ之ヲ行フ

勳章褫奪令第一條第二項ノ處分ヲ爲シタルトキハ第三號書式ニ依リ賞勳局總裁ニ申牒スヘシ

第四條　勳章褫奪令第二條第一項第二號及第三號ノ場合ニ於テ勳章褫奪ノ處分ニ及ハサルモノト決定シタルトキハ賞勳局總裁ハ當該官廳又ハ行政廳ヲシテ其ノ旨ヲ本人ニ通知セシムヘシ

第五條　本令ハ記章、褒章ノ沒取及外國勳章記章ノ佩用免許證ノ沒取ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治十九年閣令第十九號ハ之ヲ廢止ス但シ本令施行前已ニ手續中ノモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第一號書式

申牒書

位勳功氏名

一罪名

一刑期

一裁判確定年月日

本人ノ氏名

勾留、拘禁、釋放又ハ放免ノ日

刑ノ執行猶豫ノ言渡アリタルトキハ裁判確定ノ日及執行猶豫ノ期間

刑ノ執行猶豫ヲ受ケ勳章ヲ褫奪セラレサル者執行猶豫ノ言渡ヲ取消サルルコトナクシテ猶豫ノ期間ヲ經過シタルトキハ其ノ旨

調査事項	年金ノ種類	年金證書ノ番號	年金額

第二號書式

申牒書

位勳功氏名

一裁判確定年月日

調査事項	勳等、年金、記章又ハ褒章ノ種類
勳記、功記、年金證書、記章證狀、褒章證狀、外國勳章佩用免許證又ハ外國記章佩用免許證ノ番號	
明治三十七八年戰役ニ關スルモノハ發表官報年月日及頁數	

右勳章褫奪令施行細則第一項（第四項）ノ規定ニ依リ及申牒候也

年　月　日

官職　氏　名　印

賞勳局總裁

年金賜與ノ年月日	賜與當時ノ官職	賜與當時ノ所屬廳又ハ部隊

調査事項	勳等、年金、記章又ハ褒章ノ種類
勳記、功記、年金證書、記章證狀、褒章證狀、外國勳章佩用免許證又ハ外國記章佩用免許證ノ番號	
明治三十七八年戰役ニ關スルモノハ發表官報年月日及頁數	

右勳章褫奪令施行細則第二條ノ規定ニ依リ及申牒候也

年　月　日

賞勳局總裁　官職　氏　名　印

備考

年金證書ノ番號ヲ記載スルコト能ハサルトキハ勳記又ハ功記ノ番號ヲ記載スヘシ

年金證書ノ番號又ハ勳記若ハ功記ノ番號ヲ記載シタルトキハ他ノ調査事項ヲ記載スルコトヲ要セス

第三號書式

申牒書

位勳功氏名

一罪名

一刑期

一裁判確定年月日

調査事項	勳等、年金、記章又ハ褒章ノ種類
勳記、功記、年金證書、記章證狀、外國勳章佩用免許證又ハ外國記章佩用免許證ノ番號	
明治三十七八年戰役ニ關スルモノハ發表官報年月日及頁數	

右勳章褫奪令施行細則第三條第二項ノ規定ニ依リ及申牒候也

年　月　日

賞勳局總裁　官職　氏　名　印

備考

勳章、年金、記章又ハ褒章ノ種類ノ項ニハ左ノ順序ニ依リ記載スヘシ

一　勳章

二　勳章年金

三　記章

四　褒章

五　外國勳章

六　外國記章

勳記、功記、年金證書、記章證狀、褒章證狀、外國勳章佩用免許證又ハ外國記章佩用免許證ノ番號ヲ記載シタルトキハ他ノ調査事項ヲ記載スルコトヲ要セス

● 勳章、勳記、功記、年金證書又ハ外國勳章佩用免許證ノ沒收ノ場合ニ於テ犯人ノ本籍戶籍吏ニ通知ノ件

明治四十三年三月統訓第一號

勳章褫奪令施行細則第三條ノ規定ニ依リ勳章勳記、功記、年金證書又ハ外國勳章佩用免許證ヲ沒收シタルトキハ犯人ノ本籍地戶籍吏ニ其ノ旨通知スヘシ

● 敍勳者等族籍氏名變更屆

出方

大正三年十二月二十九日

內閣告示第六號

勳等、功級ニ敍セラレ又ハ記章、褒章ヲ授與セラレタル者族籍、氏名ヲ變更シタルトキハ其ノ旨速ニ賞勳局ニ屆出ヘシ變更後未タ屆出サル者亦同シ

前項ノ者死亡シタルトキハ家督相續人、戶主又ハ親族ヨリ屆出ヘシ死亡後未タ屆出サル者亦同シ

屆書ニハ勳等、功級ニ敍セラレ又ハ記章、褒章ヲ授與セラレタル者ノ氏名、勳等功級、勳章、記章、褒章ノ名稱、勳記功記年金證書記章記ノ番號ヲ明記スヘシ

勳章佩用式

明治二十一年十一月十七日

勅令第七十六號

改正　明治二二年一〇月第二〇八號、大正八年五第二三三號

脫勳章佩用式ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

勳章佩用式

第一條　大勳位菊花章

菊花章ハ頸飾ヲ以テ喉下ニ佩ヒ其副章ヲ左肋ニ佩フ大綬ヲ以テ佩フルト時ハ右肩ヨリ左脇ヘ垂レ其副章ハ左肋ニ佩フ但菊花章ヲ賜ヒタル者ハ旭日桐花大綬章瑞寶一等章ヲ併セ佩ルコトヲ得

第二條　寶冠章

一　勳一等寶冠章ハ大綬ヲ以テ右肩ヨリ左脇ヘ垂レ其副章ヲ左肋ニ佩フ

二　勳二等寶冠章以下ハ結蝶狀ノ綬ヲ以テ左肋ニ佩フ

第三條　旭日章

一　勳一等旭日桐花章並旭日章ハ大綬ヲ以テ右肩ヨリ左脇ヘ垂レ其副章ヲ左肋ニ佩フ

二　勳二等旭日章ハ右肋ニ佩ヒ其副章ヲ中綬ヲ以テ喉下ニ佩フ

三　勳三等旭日章ハ中綬ヲ以テ喉下ニ佩フ

四　勳四等勳五等勳六等旭日章勳七等勳八等桐葉章ハ小綬ヲ以テ左肋ニ佩フ

第四條　瑞寶章

一　勳一等瑞寶章ハ大綬ヲ以テ右肩ヨリ左脇ヘ垂レ其副章ヲ左肋ニ佩フ

二　勳二等瑞寶章ハ右肋ニ佩フ

三　勳三等瑞寶章ハ中綬ヲ以テ喉下ニ佩フ

四　勳四等瑞寶章以下ハ小綬ヲ以テ左肋ニ佩フ

五　郷人ニ賜フ勳三等瑞寶章以下ハ結蝶狀ノ綬ヲ以テ左肋ニ佩フ

第五條　別種ノ勳章ハ之ヲ併佩ス其大綬章ハ之ヲ併佩セス

明治二十一年十一月十九日

賞勳局告示第一號

明治二十一年勅令第七十六號勳章佩用式第三條第二項ニアル勳二等旭日章ノ副章ハ其製式勳三等旭日章ニ異ナルコトシ

勳章記章佩用心得

明治二十二年二月七日

賞勳局告示第一號

改正　大正五年三月第四號告示第一號

勳章記章佩用心得

第一款　一等勳章ヲ有スル者更ニ別種ノ一等勳章ヲ受ケタル時ハ旭日桐花章ト旭日章トハ同種ナリト雖モ後ニ受ケタル一等勳章ノ正章並ニ其副章ト前ニ受ケタル一等勳章ノ副章トヲ併佩スヘシ

第二款　二等以下ノ勳章ヲ有スル者更ニ同種上級ノ勳章ヲ受ケタル時ハ其下級ノ勳章ヲ佩フルコトヲ止ム別種ノ同級若クハ上級ノ勳章ヲ受ケタル時ハ之ヲ併佩スヘシ

第三款　二等勳章若クハ一等ノ副章兩箇以上ヲ併佩スル時ハ後ニ受ケタルモノヲ前ニ受ケタルモノノ上ニ列佩スヘシ

第四款　三等勳章兩箇以上ヲ併佩スル時ハ後ニ受ケタルモノヲ前ニ受ケタルモノノ位置ノ上ニ佩フヘシ

第五款　四等勳章以下兩箇以上ヲ併佩スル時ハ後ニ受ケタルモノヲ前ニ受ケタルモノノ位置ノ右ニ佩ヒ其記章若クハ褒章ヲ有スル者ハ之ヲ勳章ノ位置ノ左ニ列佩スヘシ

第六款　勳章ハ男子ハ大禮服及ヒ通常禮服（燕尾服）着用ノ時佩フヘシ記章及ヒ褒章ヲ一勳一等瑞寶章ハ大綬ヲ以テ右肩ヨリ左脇ヘ垂レ其副章ヲ左肋ニ佩フ

二　勳二等瑞寶章ハ右肋ニ佩フ

三　勳三等瑞寶章ハ中綬ヲ以テ喉下ニ佩フ

四　勳四等瑞寶章以下ハ小綬ヲ以テ左肋ニ佩フ

五　郷人ニ賜フ勳三等瑞寶章以下ハ結蝶狀ノ綬ヲ以テ左肋ニ佩フ

有スル者亦同シ

通常禮服著用ノ時ハ大綬章ヲ上衣ノ下ニ佩ヒ其副章ヲ上衣ノ上ヘ其位置ニ佩フ又大綬章ヲ胴衣ノ下襯衣ノ上ニ佩ヒ副章ヲ上衣ノ上ヘ其位置ニ佩フルコトアリ時宜ニ依リ大綬章ヲ省キ其副章ノミヲ佩フルコトアルヘシ

旭日二等章ヲ有スル者通常禮服著用ノ節ハ其副章ヲ省クコトアルヘシ

第七款　勳章ハ婦人ハ大中小禮服著用ノ時佩フヘシ

一等勳章ヲ有スル者大禮服ニハ大綬章及ヒ副章ヲ佩フ中小禮服ニハ時宜ニ依リ大綬章ヲ省キ副章ノミ佩フルコトアルヘシ又通常禮服ニハ時宜ニ依リ副章ノミ佩フルコトアルヘシ

二等以下ノ勳章ヲ有スル者ハ通常禮服著用ノ時ニ於テモ時宜ニ依リ之ヲ佩フルコトアルヘシ

外國勳章記章

第八款　外國勳章佩用方ハ各彼ノ規則ニ依ル

第九款　我勳章ヲ有スル者我勳章ヲ佩ヒシテ彼ノ勳章ノミヲ佩フヘカラス

第十款　彼我ノ大綬章ヲ有スル者ハ彼ノ大綬章ヲ佩ヒス之ニ屬スル副章ノミヲ我副章ノ位置ノ下若クハ次ニ列佩スヘシ

但外交ノ時宜ニ依リ彼ノ大綬章及ヒ其副章ヲ佩フル時ハ我大綬章ヲ省キ我副章ハ併佩スヘシ

第十一款　彼我ノ綬ヲ用ヒサル勳章ヲ併佩スル時ハ彼ノ勳章ヲ我勳章ノ位置ノ下若クハ次ニ列佩スヘシ

第十二款　彼我ノ喉下ニ佩フル勳章ヲ併佩スル時ハ彼ノ勳章ヲ我勳章ノ位置ノ下ニ佩フヘシ

第十三款　彼我ノ左肋ニ佩フル勳章ヲ併佩スル時ハ彼ノ勳章ヲ我勳章ノ位置ノ左ニ列佩スヘシ

第十四款　彼ノ左肋ニ佩フル勳章ヲ我記章及ヒ褒章ト併佩スル時ハ我記章及ヒ褒章ヲ彼ノ勳章ノ位置ノ左ニ列佩スヘシ

第十五款　彼ノ記章ト我記章及ヒ褒章ト併佩スル時ハ之ヲ我記章及ヒ褒章ノ位置ノ左ニ列佩スヘシ

● 略章略綬佩用心得

明治二十二年二月十二日　賞勳局告示第二號

（改正　大正八年五月閣令第五號、一〇年四號五號）

略章略綬佩用心得

一　各種勳章ノ略章（凡ソ褒章ノ略章ハ其ノ形ト色トヲ勳章ノ大サ（略小勳）ヲ縮小シタルモノトス）ハ通常禮服著用ノ時或ル場合ニ於テ鏈鎖或ハ小綬ヲ以テ左肋ニ佩用スルヲ得外國勳章ノ略章モ亦同シ

二　勳章又ハ褒章ノ略綬ハ通常禮服又ハ通常服著用ノ節左襟見返シノ釦孔ニ掛ケ佩フヘシ婦人ニ在リテハ左肋ニ佩フヘシ但シ時宜ニ依リ男子ニ在リテハ紋付羽織袴又ハ「モーニングコート」婦人ニ在リテハ白襟紋服著用ノ節ニモ佩フルコトヲ得

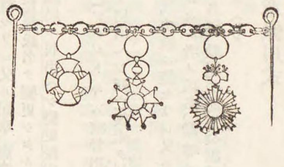
三　略綬ハ別種二箇以上ノ勳章ヲ有スル者其綬ト同色ナル絹ヲ以テ二箇若クハ數箇合併ノモノヲ製シ之ヲ佩用スルヲ得又內外數種ノ勳章ヲ有スル者ハ內外數箇合併ノ略綬ヲ製シ之ヲ佩用スルコトヲ得二箇以上ノ褒章ヲ有スル者ニ付亦同シ但シ勳章ノ略綬ト合併スルコトナシ

四　褒章ノ略綬ハ勳章ノ略綬ノ左ニ佩フヘシ

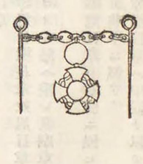
五　勳章ト褒章トヲ有スル者勳章ノ略綬ヲ佩ヒシテ褒章ノ略綬ヲ佩フルコトナシ

六　略綬ハ勳章、記章、褒章又ハ略章ト同時ニ佩フルコトナシ外國ノ勳章、記章、褒章又ハ略章ニ付亦同シ

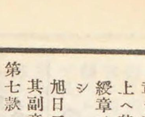
略章ヲ小綬ニテ佩用スル圖



略章ヲ鏈鎖ニテ佩用スル圖

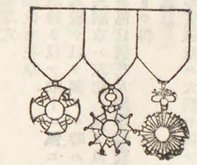


略章ヲ鏈鎖ニテ佩ル圖



略章略綬佩用心得圖ノ一部

略章ヲ小綬ニテ佩用スル圖



略章ヲ鏈鎖ニテ佩用スル圖

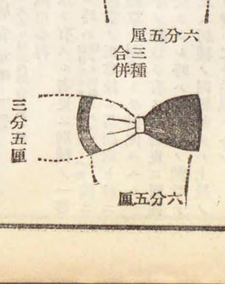
一種以上ノ勳章ノ略綬ヲ合併シタル圖

二種合併

三種合併

四種合併

褒章ノ略綬ヲ合併シタル圖



三分五厘

六分五厘

二種合併

三分五厘

六分五厘

三種合併

三分五厘

六分五厘

四種合併

三分五厘

六分五厘

附　則（大正十年四月閣令第五號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前褒章ヲ授與セラレタル者其ノ略綬ヲ佩用セムトスルトキハ制式ニ從ヒ各自之ヲ調製スヘシ

● 外國勳章佩用願規則

明治十八年十一月二十一日　太政官布告第三十五號

（改正　明治二十二年二閣令第三九號）

第一條　監獄官吏ニシテ功勞拔群一般ノ龜鑑ト爲ルヘキ者ニ對シテハ記章ヲ付與シテ之ヲ制服ニ佩用セシム

第二條　記章ノ制式及形狀ハ附圖ニ依ル

第三條　記章ヲ有スル者禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ懲戒處分ニ依リ其ノ官職ヲ免セラレタルトキハ記章ノ返納ヲ命スヘシ其ノ他ノ懲戒處分ヲ受ケタル者ニ對シテハ其ノ返納ヲ命スルコトヲ得

第四條　記章ノ付與及返納ハ所屬監獄ノ長ノ具申ニ依リ司法大臣之ヲ行フ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二款　褒章　賞賜

● 褒章條例

明治十四年十二月七日　太政官布告第六十三號

（改正　明治二七年一閣第一號、大正七年九第三四九號、九年一第二閣號、一〇年四第一四七號）

褒章條例別紙ノ通相定來明治十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

右布告ス

（別紙）

褒章條例

第一條　凡ソ自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救助シタル者又ハ孝子順孫節婦義僕ノ類ニシテ德行卓絕ナル者又ハ學術技藝上ノ發明改良著述、教育衞生慈善防疫ノ事業、學校病院ノ建設、道路河渠堤防橋梁、修築、田野ノ墾闢、森林ノ栽培、水產ノ繁殖、農商工業ノ發達ニ關シ公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナル者又ハ公同ノ事務ニ勤勉シ勞效顯著ナル者又ハ公益ノ爲私財ヲ寄附シ功績顯著ナル者ヲ表彰スル爲メ左ノ四種ノ褒章ヲ定ム

紅綬褒章

右自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救助シタル者ニ賜フモノトス

綠綬褒章

右孝子順孫節婦義僕ノ類ニシテ德行卓絕ナル者又ハ實業ニ精勵シ衆民ノ模範タルヘキ者ニ賜フモノトス

綬長　曲尺三分

綬幅ニ同シ

● 勳章及記章褒章ノ佩用ニ關スル件

大正八年　二月　內閣告示第一號

功六級勳七等以下ノ勳章及記章褒章ハ時宜ニ依リ男子ハ紋付羽織袴、婦人ハ白襟紋服（朝鮮人及之ニ相當スル服裝ニ在リテハ）著用ノ節衣服ノ左肋ニ之ヲ佩用スルコトヲ妨ケス

● 寶冠章略綬付與ノ件

大正八年九月　內閣告示第十四號

大正八年五月二十二日前ニ寶冠章ヲ敍賜セラレタル者ニ對シ今般制定ノ同章略綬ヲ付與セラルヘキニ付右ノ者ハ所屬廳、地方廳又ハ在外公館ヲ經由シテ賞勳局ニ其ノ付與方ヲ申請スヘシ

前項ノ申請書ニハ族籍、現住所、勳等及勳記番號ヲ記載スヘシ

● 朝鮮總督府、臺灣總督府及關東廳ノ功勞記章ニ關スル件

大正十二年五月　勅令第二百八號

（改正　大正一三年七第一五四號）

朝鮮總督府、臺灣總督府及關東廳ノ監獄官吏ノ功勞記章ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

朝鮮總督府、臺灣總督府及關東廳ノ監獄官吏ノ功勞記章ニ付テハ大正十一年勅令第四百四十號官廳ヲ經テ受領シタル者ハ其官廳ヘ差出シ官廳ハ之ヲ賞勳局ヘ送付スヘシ

第三條　外國人ノ勳等進級シ同種ノ上級勳章ヲ受ケタル者ハ其下級ノ勳章ヲ賞勳局ヘ還納スヘシ

但勳記ハ還納スルノ限ニアラス

● 勳章還納手續

明治二十二年三月二十二日　閣令第九號

勳章還納手續ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條　同種上級ノ勳章ヲ賞勳局ノ送達ニヨリ受領シタル者ハ直ニ其領票ト共ニ下級ノ勳章ヲ同局ヘ差出スヘシ

官廳ヲ經テ受領シタル者ハ其官廳ヘ差出シ官廳ハ之ヲ賞勳局ヘ送付スヘシ

第二條　同種上級ノ勳章ヲ賞勳局ノ送達ニヨリ受領シタル者ハ直ニ其領票ト共ニ下級ノ勳章ヲ同局ヘ差出スヘシ

官廳ヲ經テ受領シタル者ハ其官廳ヘ差出シ官廳ハ之ヲ賞勳局ヘ送付スヘシ

第三條　外國人ノ勳等進級シ同種上級勳章ヲ受ケタル者モ亦此手續ニ從ヒ下級ノ勳章ヲ還納スヘシ其外國ニ在ル者ハ最寄我公使館又ハ領事館ヘ差出スヘシ

明治十一年六第拾五號布告外國勳章佩用免許願手續左ノ通改正ス

外國勳章佩用願規則

第一條　外國ノ勳章ヲ受領シ之ヲ佩用セムトスル者ハ賞勳局總裁ヘ願出免許狀ヲ受クヘシ

第二條　佩用願書ニハ勳章勳記其他關係書類ヲ添ヘ賞勳局總裁ヘ差出スヘシ

第三條　外國ノ勳章ヲ佩用スル者死亡シタルトキハ三十日以內ニ其旨ヲ遺族又ハ親戚ヨリ賞勳局ヘ屆出ツヘシ

第四條　外國ノ記章（従軍記章及人命救助記章博愛記章ノ類）ヲ佩用セムトスル者ハ總テ此規則ニ準據スヘシ

右奉　勅旨布告候事

● 勳等進敍ノ節同種下級ノ勳章還納方

明治二十二年三月二十二日　勅令第三十八號

陞勳章還納ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

勳等進敍シ同種ノ上級勳章ヲ受ケタル者ハ其下級ノ勳章ヲ賞勳局ヘ還納スヘシ

但勳記ハ還納スルノ限ニアラス

● 勳章還納手續

明治二十二年三月二十二日　閣令第九號

勳章還納手續ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條　同種上級ノ勳章ヲ授與セラレタル者ハ一週間以內ニ其下級ノ勳章ヲ賞勳局ヘ還納スヘシ

第二條　同種上級ノ勳章ヲ賞勳局ノ送達ニヨリ受領シタル者ハ直ニ其領票ト共ニ下級ノ勳章ヲ同局ヘ差出スヘシ

官廳ヲ經テ受領シタル者ハ其官廳ヘ差出シ官廳ハ之ヲ賞勳局ヘ送付スヘシ

第三條　外國人ノ勳等進級シ同種上級勳章ヲ受ケタル者モ亦此手續ニ從ヒ下級ノ勳章ヲ還納スヘシ其外國ニ在ル者ハ最寄我公使館又ハ領事館ヘ差出スヘシ

第四條　公使館又ハ領事館ニ於テ前條勳章ヲ領收シタルトキハ外務省ヘ送付シ同省ハ之ヲ賞勳局ヘ送付スヘシ

第五條　勳章還納ニ關シ費用ハ受章者ノ自辨トス又官廳ヨリ賞勳局ヘ送付スルモノハ其官廳ニ於テ支辨スヘシ

附　則

一從前同種勳章ニ進敍シタル者ハ東京ハ二週間以內各地方ハ三十日以內ニ下級ノ勳章ヲ還納スヘシ我國在留ノ外國人亦同シ其外國ニ在ル者ハ手續第五條ニ依ルヘシ

但進級者貶ニ死亡シタルトキハ本文ノ限ニアラス

● 勳章記章褒章等受領者諸屆出手續

明治三十一年十月十日　賞勳局告示第一號

從來勳章記章褒章等受領者諸屆出ノ節地方廳ヲ經由シタルモノ自今共儀ニ及ハス直ニ賞勳局總裁ヘ差出スヘシ

● 婦人ノ勳勞アル者ニ瑞寶章ヲ賜フノ件

大正八年五月　勅令第二百三十二號

陞婦人ノ勳勞アル者ニ瑞寶章ヲ賜フノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

瑞寶章ハ婦人ノ勳勞アル者ニ亦之ヲ賜フ

● 勳章記章又ハ褒章ヲ有スル者制服著用ノ節略綬佩用方

大正七年九月　內閣告示第四號

勳章記章又ハ褒章ヲ有スル者ハ大禮服及正裝ヲ除クノ外制服著用ノ節各自左ノ制式ノ略綬ヲ製シ之ヲ左肋ニ佩用スルコトヲ得略綬二種以上ニ及フトキハ本章佩用ノ順序ニ從ヒ聯結佩用スルモノトス

一　綬色　木綬ニ同シ

一　綬幅　木綬ニ同シ但シ無綬又ハ大綬ノ勳章ニ在リテハ功三級勳三等ノ綬幅ニ同シ

曲尺三分

● 監獄官吏ノ功勞記章ニ關スル件

大正十一年十月　勅令第四百四十號

陞監獄官吏ノ功勞記章ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

藍綬褒章

右學術技藝上ノ發明改良著述、教育衞生慈善防疫ノ事業、學校病院ノ建設、道路河渠堤防橋梁ノ修築、田野ノ墾闢、森林ノ栽培、水產ノ繁殖、農商工業ノ發達ニ關シ公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナル者又ハ公同ノ事務ニ勤勉シ勞效顯著ナル者ニ賜フモノトス

紺綬褒章

右公益ノ爲私財ヲ寄附シ功績顯著ナル者ニ賜フモノトス

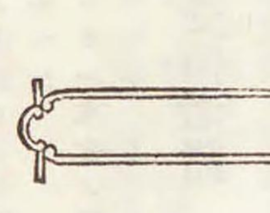
第二條　本條例ニ依リ表彰セラルヘキ者團體ナルトキハ褒狀ヲ賜フ

第三條　已ニ褒章ヲ賜ハリタルモノ再度以上同樣ノ實行アリテ褒章ヲ賜フヘキトキハ其都度飾版一箇ヲ賜與シ其章ノ綬ニ附加セシメ以テ標識トス

第四條　褒章ハ本人ニ限リ終身之ヲ佩用スルコトヲ得

第五條　第一條ノ規定ニ依リ褒章ヲ賜フヘキ者ニハ褒章ト金銀木杯又ハ金圓トヲ併セ賜フコトアルヘシ

第六條　第一條ノ規定ニ準スヘキ奇特ノ行爲アリタル者ニハ金銀木杯、金圓又ハ褒狀ヲ賜フコトアルヘシ



備考、紺綬褒章ノ裏面ニハ文字ヲ記セス

略

褒章ノ種類ニ依リ紅綠藍紺四色ノ別アリ

第七條　本條例ニ依リ表彰セラルヘキ者死亡シタルトキハ金銀木杯、金圓又ハ褒狀ヲ其遺族ニ賜ヒ之ヲ追賞ス

第八條　第六條ニ依ル行賞ニシテ金銀杯ノ賜與、二十圓ヲ超ユル金圓ノ賜與及千圓以上ノ寄附ニ對スル褒狀ノ賜與ハ賞勳局總裁之ヲ專行ス

第六條ニ依ル行賞ニシテ木杯ノ賜與、二十圓以下ノ金圓ノ賜與及千圓未滿ノ寄附ニ對スル褒狀ノ賜與ハ地方長官之ヲ專行ス

第九條　本條例中地方長官ニ屬スル職務ハ朝鮮、臺灣、關東州及南滿洲鐵道附屬地、樺太竝外國ニ於テハ各朝鮮總督、臺灣總督、關東長官、樺太廳長官、領事官之ヲ行フ

附　則（大正九年一月勅令第二十四號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治十六年太政官布告第一號ハ之ヲ廢止ス

褒章ノ圖

章	銀櫻花紋圓形徑九分
鈕 飾版	銀
綬	幅一寸種類ニヨリ紅綠藍紺四色ノ別アリ

佩用式

一　褒章ハ左肋ノ邊ヘ佩フヘシ

但シ勳章及從軍記章ヲ有スル者ハ其ノ章左ヘ列シ帶フヘシ

●褒章條例取扱手續

明治二十七年一月六日
閣令第一號

明治十四年第百三號達褒章條例取扱手續左ノ通改正ス

改正　大正九年一第一號

褒章條例取扱手續

第一條　褒章條例ニ依リ褒章ヲ賜フヘキ者アルトキハ地方長官主務大臣ニ具申シ主務大臣ハ其ノ當否ヲ審査シ賞勳局總裁ヘ申牒スヘシ

第二條　賞勳局總裁ハ申牒書ヲ覆覈シ褒章ヲ賜フヘキモノト認ムルトキハ奏請裁可ヲ得在東京ノ者ニハ之ヲ直授シ其ノ他ノ者ニハ主務大臣ヲ經由シテ之ヲ傳達スヘシ

第三條　外國人ニ褒章ヲ賜フヘキトキハ主務大臣外務大臣ト連署シテ之ヲ申牒スヘシ授與ノトキハ外務大臣ヲ經由シテ之ヲ傳達ス

其ノ公私傭ニ係ル者ハ第二條ニ依ル

第四條　褒章條例第八條第一項ニ依リ賞勳局總裁ノ專行ニ屬スル行賞ニ該ル者アルトキハ地方長官主務大臣ニ具申シ主務大臣其ノ當否ヲ審査シ賞勳局總裁ヘ申牒スヘシ授與ノトキハ主務大臣ヲ經由シテ之ヲ傳達ス

第五條　行賞ニ關シ二以上ノ地方長官具申又ハ專行スヘキ場合ニ於テハ關係地方長官ノ協議ニ依リ其ノ一地方長官之ヲ行フコトヲ得

第六條　外國人ニ對スル金銀木杯、金圓又ハ褒狀ノ賜與ハ內國人ノ例ニ依ル但シ帝室ノ貴賓又ハ外國使臣ニ對スル賜與ハ外務大臣ヨリ賞勳局總裁ヘ申牒スヘシ授與ノトキハ外務大臣ヲ經由シテ之ヲ傳達ス

第七條　褒章條例ニ依リ表彰セラルヘキ者具申後行賞前ニ於テ死亡シ又ハ罰金以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者ナルコトヲ知リタルトキハ地方長官ハ速ニ其ノ旨主務大臣ニ申報シ主務大臣ハ之ヲ賞勳局總裁ニ通知スヘシ

第八條　本令中主務大臣ノ職務ハ朝鮮、臺灣、關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ在リテハ各朝鮮總督、臺灣總督、關東長官之ヲ行ヒ地方長官ノ職務ハ朝鮮、臺灣、關東州及南滿洲鐵道附屬地、樺太竝外國ニ在リテハ各朝鮮總督、臺灣總督、關東長官、樺太廳長官、領事官之ヲ行フ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治十六年太政官達第十七號金銀木杯金圓賜與手續及明治四十四年閣令第十三號ハ之ヲ廢止ス

●警察官吏及消防官吏ノ功勞記章ニ關スル件

明治四十三年十二月十四日
勅令第四百三十八號

改正　明治四四年四第一一九號、大正四年九第一六〇號、一一年三第一二七號

朕警察官吏及消防官吏ノ功勞記章ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　警察賞與規則ニ依リ賞與ヲ受ケタル警察官吏又ハ消防官吏ニシテ功勞拔群一般ノ龜鑑ト爲ルヘキ者ニ對シテハ記章ヲ付與シテ之ヲ制服ニ佩用セシム

記章ノ制式及形狀ハ附圖ニ依ル

第二條　記章ハ所屬長官ノ具申ニ依リ內務大臣之ヲ付與ス

第三條　記章ハ制服ノ上衣右胸部乳下ニ之ヲ佩用スルモノトス

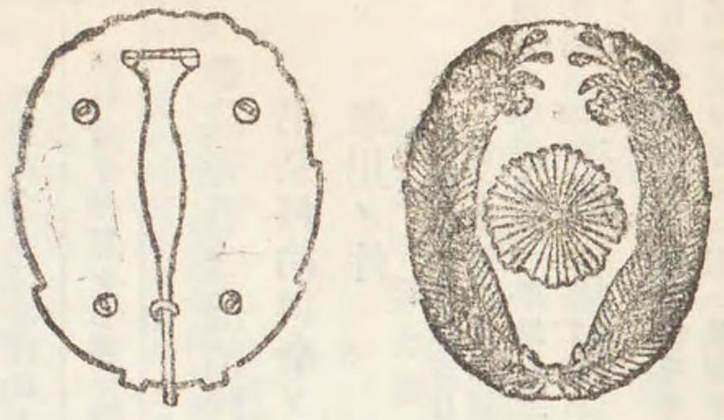
第四條　記章ヲ有スル者禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ懲戒處分ニ依リ其ノ官職ヲ免セラレタルトキハ記章ノ返納ヲ命スヘシ其ノ他ノ懲戒處分ヲ受ケタル者ニ對シテハ其ノ返納ヲ命スルコトヲ得

第五條　本令中內務大臣ノ職務ハ外務部內ノ者ニ付テハ外務大臣、朝鮮總督府部內ノ者ニ付テハ朝鮮總督、臺灣總督府部內ノ者ニ付テハ臺灣總督、樺太廳部內ノ者ニ付テハ樺太廳長官、關東廳部內ノ者ニ付テハ關東長官、南洋廳部內ノ者ニ付テハ南洋廳長官之ヲ行フ

〔朝〕

附圖

正面　裏面



縱一寸六分
横一寸二分
地及櫻葉、櫻花、結紐銀色
日章金色

●朝鮮ニ於テ警察上特ニ功勞アリト認ムル者ニ對シ賞與ヲ爲スノ件

明治四十四年三月
勅令第二十三號

朕朝鮮ニ於テ警察上特ニ功勞アリト認ムル者ニ對シ賞與ヲ爲スノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

朝鮮ニ於テ警察上特ニ功勞アリト認ムル者ニ對シテハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ賞與ヲ爲スコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●警察賞與規則

明治三十二年十月十日
勅令第四百二號

改正　明治三四年第一二號、四三年第二〇號、四四年第一一八號、大正一一年第一二八號

朕警察賞與規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム　（內務大臣副署）

警察賞與規則

第一條　警察賞與ハ內務大臣ノ定ムル規程ニ從ヒ警察上特ニ功勞アリト認ムル者ニ對シテ行フモノトス

第二條　北海道地方費警察費又ハ府縣警察費ヨリ給與ヲ受クル警部補、巡査其ノ他ノ吏員ニ行フヘキ賞與ニ要スル費用ハ北海道地方費警察費又ハ府縣警察費ヲ以テ支辨シ其ノ他ノ賞與ニ要スル費用ハ國庫ノ負擔トシ賞與ヲ行フ廳府縣ニ屬スル經費ヲ以テ支辨スヘシ

第二條ノ二　本令中內務大臣ノ職務ハ領事館ノ管轄區域內ニ在リテハ外務大臣、朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ在リテハ關東長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ行フ

第三條　本令ハ明治三十二年十月十五日ヨリ施行ス

●朝鮮警察賞與規程

明治四十四年六月
總令第七十六號

改正　大正七年四第三三號、八年八第一三五號

朝鮮警察賞與規程左ノ通定ム

朝鮮警察賞與規程

第一條　警察賞與ハ左ノ各號ノ一ニ關シ特ニ功勞アリト認ムル者ニ對シ之ヲ行フ

一　逃走囚人又ハ刑事被告人ノ搜索及逮捕
二　匪賊ノ討伐、搜索及警戒
三　人命救護
四　水火災、惡疫流行其ノ他天災事變ニ對スル防禦救濟
五　急遽ノ際警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ノ請求ニ應シテ爲シタル補助
六　豺ノ捕殺

第二條　警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ對シテハ其ノ功勞特ニ顯著ナルトキニ限リ賞與ヲ行フモノトス

第三條　警察賞與ヲ分チテ左ノ三種トス

一　五十圓以上五百圓以下ノ特別賞與
二　五十圓以下ノ賞與
三　賞狀

第四條　第一條第一號ノ賞與ハ犯罪ノ事實明白ナリト認ムヘキトキハ確定判決ニ至ラサル場合ト雖之ヲ行フコトヲ得

第五條　功勞者賞與ヲ受クルニ至ラスシテ死亡シ又ハ所在不明ナルトキハ賞與物件ハ左ノ順序ニ從ヒ之ヲ最近親族ニ給ス但シ同順位ノ者二人以上アルトキハ男ハ女ニ先チ長ハ幼ニ先ツ

一　配偶者
二　同一ノ家ニ在ル直系卑屬
三　同一ノ家ニ在ル直系尊屬
四　同一ノ家ニ在ル兄弟姉妹

第六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ賞與ヲ行ハス

一　功勞者賞與前ニ於テ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ警察官若ハ其ノ職務ヲ行フ者懲戒處分ニ依リ官職ヲ免セラレタルトキ
二　警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者其ノ看守中又ハ押送中逃走シタル犯罪人ヲ逮捕シタルトキ

第七條　警察賞與ハ道知事之ヲ施行ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ本令施行前ノ行爲ニ付亦之ヲ適用ス

●戰役又ハ事變ニ際シ功勞アル者ニ一時賜金又ハ金銀木杯若ハ錦地ヲ賜與スルノ件

大正八年十二月
勅令第四百九十二號

朕明治二十八年勅令第百十五號戰役若ハ事變ニ際シ功勞アル者ニ一時限リ金圓ヲ賜與スルノ件改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

戰役又ハ事變ニ際シ功勞アル者ニハ一時賜金又ハ金銀木杯若ハ錦地ヲ賜與スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二章　救恤

第一款　疾病死傷手當

●官吏療治料給與ノ件

明治二十五年九月
勅令第八十號

朕官吏療治料給與ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官吏ニシテ職務ノ爲メ傷痍ヲ受ケタル者ハ特別ノ規定アルモノヲ除ク外療治料實費ヲ以テ給與ス

但府縣ノ收入ヨリ給料ヲ受クル者ノ療治料ハ其府縣ノ負擔トス

●各廳技術工藝ノ者就業上死傷手當內規

明治十二年二月一日
太政官達第四號　【官】省院府縣

各廳技術工藝ノ者就業上死傷ノ節手當內規別紙ノ通相定候條自今右ニ照準施行可致此旨相達候事

但一般官員ト雖モ技術上死傷ノ節ハ本文ニ準シ候儀ト可相心得事

各廳技術工藝ノ者就業上死傷手當內規

第一條　凡技術工藝ノ者就業上死傷ニ罹ル時ハ其原由竝傷痍ノ輕重ヲ檢察シ醫員ノ診斷證書ヲ審査シ表面ニ照シテ手當金ヲ給スヘシ

第二條　傷痍ノ輕重ヲ分テ左ノ五等トス

一等　重傷死ニ至ル者
二等　重傷死ニ至ラスト雖モ終身不具トナリ自用ヲ辨スルコト能ハサル者
三等　自用ヲ辨シ得ルト雖モ終身事業ヲ營ムコト能ハサル者
四等　事業ヲ營ムコトヲ得ルト雖モ身體ヲ毀傷シ舊ニ復スルコトヲ得サル者
五等　身體ヲ毀傷スト雖モ一時治療ヲ施シ止タ其瘢痕ヲ存スル迄ニテ其運用全ク舊ニ復スル者

第三條　手當金ヲ分ツテ療養埋葬及扶助料ノ三種トス一等傷ニ罹ル者ハ療養料埋葬料ヲ給シ遺族ニ扶助料ヲ給ス尤遺族ハ死者ニヨリ生計ヲ營ミ來リタルモノ（一戸籍內ニ在ル者）ニ限ルヘシ

但即死シテ療治ヲ施サヽル者ハ療養料ヲ給セス且療養中他病ノタメニ死スル者ヘハ扶助料ヲ給セス

埋葬料ハ親戚ニ給ス親戚ナキトキハ同僚又ハ其所在戸長ニ下付シテ埋葬セシム

二等三等四等ノ傷痍ニ罹ル者ハ療養料扶助料ヲ給ス

五等ノ傷痍ニ罹ル者ハ療養料ノミヲ給ス

但身體ヲ毀傷シ舊ニ復スルノ見込アリト雖モ治療數月ニ渉リ職務ヲ免スル者ハ四等傷ニ準シ扶助料ヲ給ス尤療養料ハ免職翌日ヨリ之ヲ給セス

各廳技術工藝者就業上死傷手當內規表

給與事項		奏任	判任	【等外】
一等	埋葬料	金百圓	金五拾圓	金貳拾五圓
	遺族扶助料	金三百五拾圓	金百七十五圓	金九拾圓
二等	扶助料	金三百五拾圓	金百七拾五圓	金九拾圓
三等	同上	金貳百五拾圓	金百貳拾五圓	金六拾五圓
四等	同上	金百五拾圓	金七拾五圓	金四拾圓
五等				

一右ノ金高ハ表面ノ額ヲ最上限トシ實際ノ情狀ヲ酌量シテ支給ス

一療養料ハ總テ現費トス

一傭名義ヲ以テ【等內外】官吏ノ事務ヲ取扱フ者ハ月俸三百五拾圓以上ハ奏任ニ三百五拾圓未滿三拾圓以上ハ判任ニ三拾圓未滿ハ【等外】ニ準シ日給ノ者ハ其給三十日分ヲ積算シ月俸ニ看做シ本文ノ割合ヲ以テ給ス

●巡査看守療治料給助料及弔祭料給與令ヲ警部補ニ準用ノ件

明治四十三年三月
勅令第百二十六號

朕巡査看守療治料、給助料及弔祭料給與令ヲ警部補ニ準用スルノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

巡査看守療治料、給助料及弔祭料給與令ハ警部補ニ之ヲ準用ス但シ勤續年數ノ計算ニ關シテハ明治四十三年法律第三十號ノ例ニ依ル

附　則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●巡査看守療治料、給助料及弔祭料給與令準用ニ關スル件

明治四十四年四月
總令第五十二號
改正　大正一一年四第七三號

巡査看守療治料、給助料及弔祭料給與令ハ朝鮮總督府巡査及巡査補ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ノ規定ハ本令施行前ニ於ケル朝鮮總督府巡査、朝鮮總督府道巡査及判任官ノ待遇ヲ受クル消防手ニ亦之ヲ適用ス

●巡査看守療治料、給助料及弔祭料給與令

明治三十四年七月
勅令第百四十九號
改正　明治三八年二第三九號、大正四年三第三五號、七年二第一九號

朕巡査看守療治料、給助料及弔祭料給與令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

巡査看守療治料、給助料及弔祭料給與令

第一條　巡査又ハ看守職務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ職務ニ依リ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ顧ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲ニ疾病ニ罹リ本屬長官ニ於テ治療ヲ要スルモノト認ムルトキハ其ノ治療中療治料ヲ給ス

療治料ハ一日二圓以內トス但シ治療費一日平均二圓ヲ超過シタルトキハ適當ト認ムヘキ實費ヲ精算シテ之ヲ追給スルコトアルヘシ

第二條　療治料ヲ受クル者左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ給助料ヲ給ス

一　治療二十日以上ニ渉リ引續在職シ治療ヲ要セサルニ至リタルトキ

二　療治料給與ニ係ル傷痍疾病ニ因リ職ニ堪ヘス退職シ治療ヲ要セサルニ至リタルトキ

前項ノ給助料ハ第一號ニ當ル者ニ在リテハ治療ヲ要セサルニ至リタル當時ノ月俸一箇月分トシ第二號ニ當ル者ニ在リテハ退職當時ノ月俸三箇月分トス

療治料ヲ受クル治療者二十日以上ニ渉ラスト雖引續在職シ本屬長官必要ト認ムルトキハ治療ヲ要セサルニ至リタル當時ノ月俸一箇月分以內ノ範圍ニ於テ給助料ヲ給スルコトアルヘシ但シ治療七日ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三條　巡査又ハ看守在職中死亡シタルトキハ左ノ順位ニ從ヒ其ノ家ニ在ル親族ニ弔祭料ヲ給ス但シ同順位間ニ在リテハ其ノ親等ノ最モ近キ者ヲ先ニシ同親等間ニ在リテハ男ハ女ニ先チ同性間ニ在リテハ長ハ幼ニ先ツ

一配偶者　二直系卑屬　三直系尊屬　四兄弟姉妹

前項家族ニシテ公權剝奪若ハ停止中ニ係リ又ハ行方不明ナルトキハ弔祭料ヲ給スル限ニ在ラス但シ次位者アルトキハ之ヲ轉給ス

弔祭料ハ死亡當時ニ於ケル月俸一箇月分トシ勤續一年以上九年ニ至ル迄一年ヲ加フル毎ニ死亡當時ニ於ケル月俸額三分ノ二ヲ增加ス但シ職務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ職務ニ依リ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ顧ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲ニ疾病ニ罹リ因テ死亡シタル者ニハ更ニ死亡當時ニ於ケル月俸六箇月分ヲ增加ス

勤續年數ノ計算ニ關シテハ巡査看守退隱料及遺族扶助料法ノ例ニ依ル

第四條　前條ニ依リ弔祭料ヲ受クヘキ者ナキトキハ死亡者ノ爲葬祭ヲ行フヘキ者ニ前條ニ定ムル金額ノ三分ノ一以內ヲ給スルコトアルヘシ

第五條　休職者ハ在職者ニ準シ休職ヲ命セラレタル當時ノ月俸額ニ依リ本令ニ依ル給與ヲ行フ

第六條　本令ニ依ル給與ハ之ヲ行フヘキ事由ノ生シタル當時ニ於テ俸給ヲ受ケタル經濟ノ負擔トス但シ休職者ニ在リテハ休職ヲ命セラレタル際俸給ヲ受ケタル經濟ノ負擔トス

第七條　本令ハ陸軍監獄看守、海軍監獄看守、陸軍警守、海軍警査、貴族院守衛、衆議院守衛、判任官ノ待遇ヲ受クル消防手及女監取締ニ之ヲ適用ス

附　則

本令ハ明治三十四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（明治三十八年二月勅令第三十九號）

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

女監取締ノ明治三十六年三月三十一日以前ニ於ケル勤續年數ハ巡査看守療治料、給助料及弔祭料給與令第三條ニ規定スル勤續年數ニ非

サルモノト看做ス

●朝鮮總督府巡査、巡査補療治料、給助料及弔祭料給與ニ關スル取扱手續

明治四十五年三月
警訓甲第九號

各　課
警　務　部
直轄警察署同分署

朝鮮總督府巡査、巡査補療治料、給助料及弔祭料給與ニ關スル取扱手續左ノ通定ム

朝鮮總督府巡査、巡査補療治料、給助料及弔祭料給與ニ關スル取扱手續

第一條　巡査、看守療治料、給助料及弔祭料給與令第一條ニ該當スル者療治料ヲ請求セムトスルトキハ治療日數（何年何月何日ヨリ何年何月何日迄何日間以下同シ）金額事由ヲ記シ證憑書類竝主治醫ノ診斷書ヲ添ヘ所屬長（警務總監部ニ在リテハ警務部長、警務部ニ在リテハ警察署長、警察分署ニ在リテハ警察分署長以下同シ）ヲ經朝鮮總督宛ニテ之ヲ爲スヘシ

傷痍又ハ疾病ニ因リ職ニ堪ヘス退職シ仍引續キ治療ヲ要シタル者ニ對シテハ退職當時ノ所屬長ニ於テ前項ニ依リ之ヲ請求セシムヘシ

第二條　傷痍又ハ疾病ニ因リ療治料ヲ支給スヘキ事實發生シタルトキハ所屬長ハ其ノ都度警務總長ニ報告スヘシ但シ特別ノ規定アルモノハ之ニ從フ

第三條　療治料ヲ受クル者其ノ傷痍又ハ疾病ニ著シキ異狀ヲ生シタルトキハ所屬長ハ主治醫ノ診斷書ヲ提出セシメ隨時其ノ症狀ヲ警務總長ニ報告スヘシ

第四條　所屬長ハ療治料ヲ受ケ又ハ受クヘキ者ニ對シ必要アリト認ムルトキハ警察醫又ハ特ニ指定シタル醫師ヲシテ診斷セシムルコトヲ得

第五條　給與令第二條第一項ニ依リ給助料ヲ支給スヘキトキハ其ノ請求ヲ待タス所屬長ニ於テ療治料請求ノ際傷痍又ハ疾病當時ノ月俸、治療日數竝相當給與額ヲ記シ上申スヘシ

給與令第二條第三項ニ依リ給助料ヲ支給スル必要アリト思料シタルトキ亦同シ

第六條　給與令第三條第一項ニ依リ弔祭料ヲ支給スヘキトキハ死亡當時ノ所屬長ニ於テ給與令第三條ノ順位ニ從ヒ其ノ權利者ヲシテ死亡ノ事由及當時ノ月俸ヲ記シタル書面ニ死亡當時ノ戶籍謄本ヲ添ヘ朝鮮總督宛ニテ之ヲ請求セシムヘシ但シ弔祭料ヲ受クヘキ者ナキトキハ戶籍謄本ヲ添附セシムルヲ要セス死亡者ノ爲メ葬祭ヲ行フヘキ者ノ住所氏名、死亡者トノ關係ヲ詳記スヘシ

第七條　所屬長ハ療治料及弔祭料請求ノ書類ヲ受理シタルトキハ之ヲ審查シ正當ト認ムルモノハ速ニ進達スヘシ治療實費一日二圓以上ヲ超過スルモノニ在リテハ其ノ事由ヲ詳記スヘシ

第八條　療治料及弔祭料ハ所屬長ニ於テ其ノ給與ヲ受クヘキ事實ノ發生シタル日ヨリ三月內ニ之ヲ請求セシムヘシ但シ治療數月ニ渉ル者ノ療治料ハ月末每ニ打切リ之ヲ請求セシムルコトヲ得

第九條　本令ニ依リ警察署長又ハ警察分署長（京城ヲ除ク）ヨリ進達スル書類ハ警務部長ヲ經由スヘシ

●朝鮮陸接國境地方ヲ警備スル朝鮮總督府及其ノ所屬官署ノ職員又ハ其ノ遺族ニ一時金ヲ給スルノ件

大正十四年八月
勅令第二百六十五號

朕朝鮮陸接國境地方ヲ警備スル朝鮮總督府及其ノ所屬官署ノ職員又ハ其ノ遺族ニ一時金ヲ給スルノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　朝鮮陸接國境地方ヲ警備スル朝鮮總督府及其ノ所屬官署ノ職員ニシテ奏任官以下ノ者警備ニ關スル職務ノ爲傷痍ヲ受ケ之ニ起因シテ三年內ニ死亡シタルトキハ其ノ遺族ニ一時金ヲ給ス

前項ニ規定スル職員警備ニ關スル職務ノ爲傷痍ヲ受ケ之ニ起因シテ三年內ニ不具癈疾ト爲リタルトキ又ハ健康上ノ危險ヲ顧ミルコト能ハスシテ警備ニ關スル職務ニ從事シ爲ニ疾病ニ罹リ之ニ起因シテ二年內ニ死亡シタルトキハ本人又ハ其ノ遺族ニ一時金ヲ給スルコトヲ得

第二條　前條ノ一時金ハ同條第一項ニ該當スル者ニ在リテハ二千圓以內、同條第二項ニ該當スル者ニ在リテハ千二百圓以內ニ於テ傷痍疾病又ハ死亡ノ原因、不具癈疾ノ程度、功績其ノ他ノ事情ヲ斟酌シテ朝鮮總督之ヲ定ム

前條第二項ノ規定ニ依リ不具癈疾ニ因ル一時金ヲ受ケタル者其ノ傷痍ニ起因シテ前條第一項ノ規定ニ該當スルニ至リタル場合ニ於テハ其ノ遺族ニ給スヘキ一時金ノ額ハ前條第一項ノ規定ニ依ル金額ヨリ既ニ受ケタル金額ヲ控除シタルモノトス

第三條　本令ニ依リ一時金ヲ給スル場合ニ於テハ巡査看守療治料、給助料及弔祭料給與令第三條第三項但書ノ規定ニ依ル弔祭料ハ之ヲ給セス

第四條　本令施行ニ關シ必要ナル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正十四年七月一日以後傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者ヨリ之ヲ適用ス

●國境地方警備職員及遺族一時金給與規程

大正十四年九月
總令第八十七號

國境地方警備職員及遺族一時金給與規程左ノ通定ム

國境地方警備職員及遺族一時金給與規程

第一條　大正十四年勅令第二百六十五號第一條第一項ニ規定スル朝鮮陸接國境地方ハ左ノ地域トス

平安北道
咸鏡南道咸興郡ノ內下岐川面、上岐川面、下朝陽面
定平郡ノ內高山面
永興郡ノ內宣興面、耀德面、橫川面
高原郡ノ內水洞面、山谷面、雲谷面
北青郡
利原郡
端川郡
新興郡
長津郡
豐山郡
三水郡
甲山郡
咸鏡北道
平安南道（鎭南浦府、中和郡及龍岡郡ヲ除ク）

第二條　大正十四年勅令第二百六十五號第二條ニ規定スル一時金ハ別表ニ依ル但シ傷痍疾病又ハ死亡ノ原因、功績其ノ他ノ事情ヲ斟酌シ勅令ノ範圍內ニ於テ之ヲ增額支給スルコトアルヘシ

第三條　大正十四年勅令第二百六十五號ノ遺族トハ職員ノ配偶者、子、父、母、祖父、祖母及兄弟姉妹ニシテ職員死亡ノ當時之ト同一戶籍內ニ在ルモノヲ謂フ

第四條　死亡一時金ハ配偶者、子、父、母、祖父、祖母ノ順位ニ依リ之ヲ支給ス

同順位間ニ在リテハ恩給法第七十三條第二項及第三項ノ規定ヲ準用ス

第一項ノ遺族行衞不明ナルトキハ一時金ハ其ノ次順位ニ在ル者ニ之ヲ轉給ス

第一項ノ遺族ナキ場合ニ於テ職員ト同一戶籍內ニ二十歲未滿ノ兄弟姉妹又ハ不具癈疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキ兄弟姉妹アルトキハ之ニ一時金ヲ給ス

前項ノ一時金ハ兄弟姉妹ノ人員ニ拘ラス一時金ノ三分ノ二以內ノ額トス

第五條　一時金ヲ受ケムトスル者ハ傷痍一時金ニ係ルモノハ醫師ノ診斷書及症狀ノ經過ヲ記載シタル書類ヲ、死亡一時金ニ係ルモノハ戶籍謄本及原因ヲ明ニシタル死亡證明書ヲ添ヘ所屬長官ヲ經テ朝鮮總督ニ請求スヘシ

所屬長官前項ノ請求書ヲ受ケタルトキハ事實調查書、履歷書、傷痍疾病又ハ死亡ノ原因

傷痍ノ程度ヲ證スヘキ明細書ヲ添附シ之ヲ朝鮮總督ニ進達スヘシ

第六條　一時金ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル日ヨリ七年内ニ請求スルニ非サレハ之ヲ給セス

附　則

本令ハ大正十四年七月一日以後傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者ニ付之ヲ適用ス

（別表）

死亡者	不具癈疾者
勅令第一條第一項ニ該當スルモノ	勅令第一條第二項ニ該當スルモノ
一、五〇〇	特別第一項症　九〇〇
一、四〇〇	第二項症　八〇〇
一、三〇〇	第三項症　七〇〇
一、二〇〇	第四項症　六〇〇
一、一〇〇	第五項症　五〇〇
一、〇〇〇	第六項症　四〇〇
九〇〇	第七項症　三五〇
八〇〇	第八項症　三〇〇
七五〇	第九項症　二五〇
六五〇	第十項症　二〇〇
六〇〇	第十一項症　一五〇
五五〇	第十二項症　一〇〇
五〇〇	第十三項症　七五
四五〇	
四〇〇	
三五〇	
三〇〇	
二五〇	
二〇〇	

備考　不具癈疾ノ程度ハ恩給法施行令第二十四條ノ例ニ依ル

●朝鮮總督府看守及朝鮮總督府女監取締ノ療治料給助料及弔祭料給與ニ關スル件

明治四十四年七月
勅令第二百二號

朕朝鮮總督府看守及朝鮮總督府女監取締ノ療治料、給助料及弔祭料給與ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

朝鮮總督府看守及朝鮮總督府女監取締ノ療治料、給助料及弔祭料給與令ハ朝鮮總督府看守及朝鮮總督府女監取締ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

統監府看守及統監府女監取締ハ本令ノ適用ニ關シテハ之ヲ朝鮮總督府看守及朝鮮總督府女監取締ト看做ス

●明治三十三年法律第十五號及同年法律第三十號ノ一部ヲ朝鮮ニ施行スルノ件

明治四十四年十月
勅令第二百七十二號

朕明治三十三年法律第十五號及同年法律第三十號ノ一部ヲ朝鮮ニ施行スルノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

明治三十三年法律第十五號竝同年法律第三十號中第一條乃至第五條及別表ハ之ヲ朝鮮ニ施行ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●傳染病豫防救治ニ從事スル者ノ手當金ニ關スル件

明治三十三年三月
法律第三十號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル傳染病豫防救治ニ從事スル者ノ手當金ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　判任以上ノ官吏ニ非スシテ傳染病ノ豫防救治ニ從事スル者公務ニ因リ病毒ニ感染シ又ハ之ニ原因シテ死亡シタルトキハ本法ノ規定ニ依リ手當金ヲ給ス

第二條　手當金ハ左ノ四種トス

一　療治料
二　給助料
三　弔祭料
四　遺族扶助料

第三條　病毒ニ感染シタル者ニハ療治料ヲ給ス感染者治癒シタルトキハ給助料ヲ給シ死亡シタルトキハ其ノ遺族ニ弔祭料及遺族扶助料ヲ給ス遺族ナキトキハ葬儀ヲ行フ者ニ弔祭料ヲ給ス

遺族中遺族扶助料ヲ受クヘキ者ノ順位ハ官吏遺族扶助法ノ例ニ依ル

第四條　遺族扶助料ハ死者ノ受ケタル給料ノ金額ニ應シ別表ニ依リ一時之ヲ給ス其ノ給料ヲ受ケサル者ニ在リテハ別表ノ範圍内ニ於テ本屬長官適宜之ヲ給ス

第五條　療治料ハ命令ノ定ムル區別ニ依リ一日三圓以内ヲ給ス

給助料ハ遺族扶助料ノ二分ノ一ニ相當スル金額ヲ給ス

弔祭料ハ月給一箇月分又ハ日給三十日分ニ相當スル金額ヲ給ス其ノ給料ヲ受ケサル者ニ在リテハ本屬長官適宜之ヲ給ス

第六條　手當金ハ國庫ノ負擔トシ府縣費支辨ノ事務ニ從事スル者ニ在リテハ國庫ノ負擔トシ府縣費支辨ノ事務ニ從事スル者ニ在リテハ府縣ノ負擔トス

第七條　地方長官ハ市區町村ニ指示シ本法ノ規定ニ準シ其ノ傳染病豫防救治ニ從事スル者ノ手當金支給ニ關スル規定ヲ設ケシムルコトヲ得

（別表）

等級	月給	遺族扶助料
一等	二百圓以上	一千圓
二等	百六十圓以上	九百圓
三等	百三十圓以上	八百圓
四等	百圓以上	七百圓
五等	八十圓以上	六百圓
六等	七十圓以上	五百圓
七等	六十圓以上	四百五十圓
八等	五十圓以上	四百圓
九等	四十圓以上	三百五十圓
十等	三十圓以上	三百圓
十等	二十圓以上	二百五十圓
十二等	十圓以上	二百圓
十三等	十圓未滿	百圓

●明治二十三年法律第三十號第五條ノ療治料ノ件

大正五年十二月
總令第百四號

明治三十三年法律第三十號第五條ノ療治料ノ件左ノ通定ム

明治三十三年法律第三十號第五條ノ療治料ハ給料ヲ受クル者ニ在リテハ其ノ給料額ニ依リ同法別表ノ等級ニ照シ一等乃至四等ノ者ニハ一日三圓、五等乃至十二等ノ者ニハ一日二圓十三等ノ者ニハ一日一圓トシ給料ヲ受ケサル者ニ在リテハ其ノ都度一日三圓以内ニ於テ其ノ額ヲ定ム

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●傳染病患者其ノ他救助料給與ノ件

大正四年三月
總訓第十五號
改正　大正七年七第三八號

警察官署

傳染病患者其ノ他救助料給與ノ件左ノ通定ム

第一條　傳染病患者タル行旅病人並傳染病流行ノ際自活スルコト能ハサル傳染病患者ニハ一人一日藥價トシテ二十錢以内金貳（錢壹特等）（用ヲ以テ含ム）トシテ内地人四十錢朝鮮人三十錢以内ノ救助料ヲ給與スルコトヲ得

第二條　傳染病患者タル行旅病人死亡人ノ同伴者ニハ隔離消毒中、傳染病流行ノ際交通遮斷中一人一日内地人四十錢朝鮮人三十錢以内ノ救助料ヲ給與スルコトヲ得

第三條　十錢未滿ノ小兒ニ給與スル救助料ハ前二條ノ金額ノ三分ノ二以内トス

第四條　第一條ノ行旅病人又ハ傳染病患者ニ付水代、棺代、火葬料、看護人料、借家料其ノ他ノ雜貨ノ支給ヲ要スルトキハ總テ最低度ノ實費ヲ支給スヘシ

第五條　一家數人ノ被救助者アルトキハ適宜其ノ金額ヲ減少スヘシ

第六條　警察分署長、警察分署長又ハ警察署ノ事務ヲ取扱フ憲兵分隊長、同憲兵分遣所長ハ救助ヲ爲スノ必要アリト認メタルトキハ前五條ノ範圍内ニ於テ其ノ給與額ヲ決定スヘシ

第七條　救助料ハ傳染病豫防費ヨリ之ヲ支辨ス

附　則

大正三年朝鮮總督府訓令第十九號ハ之ヲ廢止ス

第二款　共濟組合

●朝鮮總督府遞信官署現業員共濟組合ニ關スル件

大正九年十二月
勅令第五百七十四號

朕朝鮮總督府遞信官署現業員共濟組合ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　遞信局中電信電話ノ試驗修理ニ關スル事務ニ從事スル雇員及傭人

二　郵便爲替貯金管理所、郵便局、電信局、電話局及郵便所ノ雇員及傭人

乙種組合員ハ甲種組合員タル職員以外ノ遞信局（電氣課、海事課、海員養成所ヲ除ク）、郵便爲替貯金管理所、郵便局、電信局及電話局ノ職員ニシテ組合ニ加入シタル者又ハ第五條第一項第四號ノ場合ニ於テ加入繼續ノ意思表示ヲ爲シタル者

甲種組合員ハ左ニ掲ケル現業員ヲ謂フ

一　遞信局中電信電話ノ試驗修理ニ關スル事務ニ從事スル雇員及傭人

二　郵便爲替貯金管理所、郵便局、電信局、電話局及郵便所ノ雇員及傭人

乙種組合員ハ甲種組合員タル職員以外ノ遞信局（電氣課、海事課、海員養成所ヲ除ク）、郵便爲替貯金管理所、郵便局、電信局及電話局ノ職員ニシテ組合ニ加入シタル者又ハ第五條第一項第四號ノ場合ニ於テ加入繼續ノ意思表示ヲ爲シタル者

甲種組合員ハ第二項ノ職員ニ採用セラレタル時、乙種組合員ハ加入ヲ承認セラレタル時ヲ以テ組合ニ加入

第四條　臨時ニ使役スル者、豫備トシテ採用シタル者、給料（俸給ヲ含ム以下同シ）ヲ支給セサル者及外國人ハ組合員タルコトヲ得ス

第五條　組合員ハ左ノ場合ニ於テ組合ヲ脫退ス

一　死亡シタルトキ
二　退職（休職ヲ含ム以下同シ）シタルトキ
三　他ノ官廳及遞信局電氣課、海事課、海員養成所ニ轉勤シタルトキ
四　甲種組合員ニ在リテハ第三條第二項ニ依ル職員以外ノ遞信局（電氣課、海事課、海員養成所ヲ除ク）、郵便爲替貯金管理所、郵便局、電信局及電話局ノ職員トナリタルトキ但シ加入繼續ノ意思表示ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

乙種組合員ニ在リテハ加入後三年以上ヲ經過シタル者脫退ノ意思表示ヲ爲シタルトキ

六　第四條ニ該當スルニ至リタルトキ

廢廳、廢職其ノ他官署ノ都合ニ依リ又ハ兵役ニ服スル爲退職シタル者退職シ又ハ兵役ヲ終リタル日ヨリ三十日以内ニ再ヒ採用セラレタル場合ハ組合員ノ資格ニ付テハ前後繼續スルモノト看做ス但シ退職ノ際反對ノ意思表示ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

遞信局部外ニ於テ臨時遞信業務ニ從事スル爲轉職又ハ退職シタル者元所屬ノ遞信官署ニ歸還シタル後六十日以内ニ再ヒ採用セラレタル場合ハ組合員ノ資格ニ付テハ前後繼續スルモノト看做ス

第二項但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六條　組合員及組合員タリシ者ハ本令ニ依リ共濟金ノ給與ヲ受クルノ外組合ニ對シ何等ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第三章　掛金

第七條　組合員ハ掛金トシテ毎月左ノ金額ヲ拂込ムヘシ

甲種組合員　給料月額ノ千分ノ三十六
乙種組合員　給料月額ノ千分ノ六十

日給ヲ受クル者ニ在リテハ其ノ日給額ニ三十ヲ乘シタル額、乙種組合員ニシテ判任官以上ノ者ニ在リテハ月俸額ニ十分ノ六ノ加俸ヲ加算シタルモノニ付テハ前項ノ給料月額トス

特別ノ勞務又ハ缺勤其ノ他ノ事由ニ因リ給料ノ受領額カ給料月額ニ異ル場合ニ於テモ掛金ノ額ヲ增減セス

第八條　掛金ハ每月給料受領ノトキ之ヲ拂込ムヘシ

給料ヲ受ケサル月又ハ給料ヲ受クルモ其ノ受領額カ掛金額ニ滿タサル月ノ掛金ハ次回給料受領ノトキ之ヲ拂込ムヘシ

第九條　掛金額ニ異動ヲ生スヘキ事由アリタルトキハ組合ニ加入シタル月ニ應當スル月ニ於テ其ノ前月末ノ給料額ニ依リ掛金ノ額ヲ改定ス

第四章　共濟

第十條　共濟金ハ左ノ八種トス

一　殉職給與金

二　傷痍給與金
三　疾病給與金
四　療養給與金
五　死亡給與金
六　棄害給與金
七　脫退給與金
八　勤續給與金

第十一條　殉職給與金ハ組合員自己ノ重大ナル過失ニ因ルニ非スシテ職務上傷痍ヲ受ケ左ノ場合ニ該當シタルトキ其ノ種別ニ從ヒ之ヲ給與スルモノトス

第一種　兩眼ヲ盲シ若ハ二肢以上ノ用ヲ失ヒ終身自用ヲ辨スルコト能ハサルニ至リタルトキ又ハ之ニ準スルトキ　給料一年七月分乃至二年六月分ニ相當スル額

第二種　一肢ノ用ヲ失ヒ自用ヲ辨シ得ルト雖終身業務ニ就クコト能ハサルニ至リタルトキ又ハ之ニ準スルトキ　給料一年一月分乃至一年六月分ニ相當スル額

第三種　身體ヲ毀損シ舊ニ復スルコトヲ得ス固テ退職シタルトキ　給料七月分乃至一年分ニ相當スル額

第四種　身體ヲ毀損シ舊ニ復スルコトヲ得スト雖職務ニ堪ユルトキ　給料一月分乃至六月分ニ相當スル額

第十二條　傷痍給與金ハ組合員自己ノ重大ナル過失ニ因ルニ非スシテ職務上傷痍ヲ受ケ左ノ場合ニ該當シタルトキ其ノ種別ニ從ヒ之ヲ給與スルモノトス

第一種　兩眼ヲ盲シ若ハ二肢以上ノ用ヲ失ヒ終身自用ヲ辨スルコト能ハサルニ至リタルトキ又ハ之ニ準スルトキ　給料一年七月分乃至二年六月分ニ相當スル額

第二種　一肢ノ用ヲ失ヒ自用ヲ辨シ得ルト雖終身業務ニ就クコト能ハサルニ至リタルトキ又ハ之ニ準スルトキ　給料一年一月分乃至一年六月分ニ相當スル額

第三種　身體ヲ毀損シ舊ニ復スルコトヲ得ス固テ退職シタルトキ　給料七月分乃至一年分ニ相當スル額

第四種　身體ヲ毀損シ舊ニ復スルコトヲ得ス雖職務ニ堪ユルトキ　給料一月分乃至六月分ニ相當スル額

第十三條　疾病給與金ハ組合員自己ノ重大ナル過失ニ因ルニ非スシテ職務上疾病ニ罹リタルトキ前條ノ例ニ準シ之ヲ給與スルモノトス

第十四條　療養給與金ハ組合員自己ノ重大ナル過失ニ因ルニ非スシテ職務上傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ療養ニ必要ナル額ヲ給與スルモノトス

第十五條　死亡給與金ハ組合員自己ノ重大ナル過失ニ因ルニ非スシテ職務上傷痍ヲ受ケ其ノ療養ニ必要ナル額ヲ給與スルモノトス

第十六條　死亡給與金ハ組合員自己ノ重大ナル過失ニ因ルニ非スシテ職務上疾病ニ罹リタルトキ前條ノ例ニ準シ之ヲ給與スルモノトス

第十七條　棄害給與金ハ組合員カ水火震災其ノ他非常ノ災害ニ罹リタルトキ給料二月分ニ相當スル額以內ヲ給與スルモノトス

第十八條　脫退給與金ハ組合員ト爲リタル後六月以上ヲ經過シタル者脫退シタルトキ左ノ區別ニ依リ之ヲ給與スルモノトス

一　加入期間一年未滿ノ者　給料六月分ニ相當スル額

二　加入期間一年以上ノ者　前號ノ額ニ加入期間一年未滿ヲ增ス每ニ給料月額ノ二分ノ一（日給者ハ十五日分）ニ相當スル額ヲ加算シタル額

第十九條　傷痍給與金、疾病給與金、死亡給與金及棄害給與金ハ組合員自己ノ重大ナル過失ニ因ルニ非スシテ職務上傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル爲療養ヲ爲シタルトキ其ノ療養ニ必要ナル額ヲ給與スルモノトス

第二十條　第十一條乃至第十八條ニ規定スル共濟金給與ノ事由併發シタルトキハ當該各條ノ給與金ヲ併給ス

第二十一條　殉職給與金、傷痍給與金、疾病給與金、死亡給與金及災害給與金ハ共濟ノ事由發生ノ時ノ掛金ノ標準タル給料額ニ依リ之ヲ算定ス但シ第十九條ノ場合ニ於テハ脫退ノ時ノ掛金ノ標準タル給料額ニ依ル

第二十二條　脫退給與金及勤續給與金ハ掛金額ニ基キ之ヲ算定ス

掛金額ニ異動アリタルトキハ異動前ノ掛金額ニ基キ全加入年數ニ對スル給與金額ヲ算定シ之ニ異動後ノ加入年數ニ對シ掛金額ノ差額ニ基キ計算シタル給與金額ヲ併算ス二回以上掛金額ニ異動アリタル場合ハ前項ノ計算方法ニ準ス

乙種組合員ニ在リテハ第五條第一項第四號但書ノ規定ニ依リ加入ヲ繼續シタル者ノ甲種組合員タリシ期間ノ掛金ヲ除クノ外掛金ノ百分ノ六十ヲ以テ前各項ノ掛金額トス

脫退給與金ノ算定ハ加入又ハ掛金額異動ノ月ヨリ脫退ノ月迄ノ月數ニ依ルモノトス

第二十三條　共濟金給與ノ時過拂又ハ未拂ノ掛金アルトキハ給與金額ニ加ヘ又ハ之ヨリ減ス

第二十四條　組合員犯罪ニ因リ死亡シタルトキ又ハ懲戒處分若ハ刑事裁判ニ因リ解職セラレタルトキハ共濟金ヲ給與セス

刑事裁判ノ爲訴追セラレタル者ニ對シテハ其ノ裁判確定ニ至ル迄共濟金ノ支給ヲ停止シ有罪ノ判決確定シタルトキハ共濟金ヲ給與セス但シ既ニ支拂ヒタルモノニ付テハ之ヲ追徵セス

第二十五條　組合員第十一條乃至第十六條及第十九條ノ場合ニ該當シタルトキハ本人、戶主、家族又ハ代理人ヨリ直ニ之ヲ遞信局ニ在リテハ所屬課所長、其ノ他ニ在リテハ所屬局所長ニ申告スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ本人、戶主又ハ家族ハ組合ヨリ派遣シタル醫師ノ臨檢ヲ拒ムコトヲ得ス

前二項ノ規定ニ違反シタルトキハ共濟金ヲ給與セサルコトアルヘシ

第二十六條　共濟金ヲ受クヘキ者死亡シタル場合ニ於テ共濟金ヲ受領スヘキ者及其ノ順位左ノ如シ但シ組合員カ死亡前其ノ順位ニ付特別ノ意思表示ヲ爲シタルトキハ之ニ依ルコトアルヘシ

第一　配偶者
第二　直系卑屬
第三　直系尊屬
第四　兄弟姉妹
第五　戶主

第六　他家ニ在ル直系卑屬
第七　他家ニ在ル直系尊屬
第八　他家ニ在ル兄弟姉妹
第九　扶養ヲ受ケタル者

前項第二號、第四號、第六號及第八號ニ該當スル者數人アルトキ其ノ順位ニ付テハ民法第九百七十條ノ規定ヲ準用シ第三號及第七號ニ該當スル者數人アルトキ其ノ順位ニ付テハ民法第九百八十四條ノ規定ヲ準用ス

第一項第二號乃至第四號及第九號ニ該當スル者ハ共濟金ヲ受クヘキ者死亡ノトキ其ノ家ニ在ルコトヲ要ス

前各項ノ規定ハ第十一條及第十五條ニ依リ共濟金ヲ受クヘキ遺族ノ範圍及順位ニ付之ヲ準用ス

第二十七條　前條第一項第六號乃至第九號ノ者又ハ共濟金ヲ受クヘキ者死亡シタル後戶主ト爲リタル者ニ對シテハ共濟金ノ半額ヲ給與ス

第二十八條　第二十六條ニ依リ共濟金ヲ受領スル者ナキトキハ組合ハ共濟金ノ半額迄ヲ死亡者ノ爲ニ處分スルコトヲ得

第二十九條　第二十四條第二項ノ規定ハ故意ニ共濟金ヲ受クヘキ者又ハ共濟金ノ給與ニ付先順位ニ在ル者ヲ死ニ致シ又ハ死ニ致サムトシタル爲訴追セラレタル者ニ付之ヲ準用ス

第三十條　死亡給與金、脫退給與金及勤續給與金ニ關スル期間ノ計算ハ加入及脫退ノ日ヲ各一日トス

加入期間ハ月ヲ以テ計算ス

第三十一條　共濟金ハ給與ノ事由發生ノ日ヨリ一年以內ニ請求ヲ爲ササルトキハ之ヲ給與セス但シ療養給與金ハ醫療ヲ廢シタル日ヨリ一年以內ノ之ヲ請求スルコトヲ得

第五章　審査會

第三十二條　加入、脫退、共濟金額ノ決定其ノ他給與ニ關スル處分ニ付異議アル者ハ其ノ處分ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ朝鮮總督ニ申告シテ審査會ノ審査ヲ求ムルコトヲ得

第三十三條　審査會ハ議長一人、委員六人ヲ以テ組織ス

第三十四條　議長及委員ハ朝鮮總督府遞信官署ノ高等官中ヨリ朝鮮總督之ヲ命ス

第三十五條　議長ハ審査會ヲ招集シ議事ヲ整理ス

議長事故アルトキハ委員中ノ上席者之ヲ代理ス

第三十六條　審査會ハ委員半數以上出席シ出席員ノ過半數ヲ以テ決議ヲ爲ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第三十七條　議長又ハ委員ハ自己ニ關スル審査ニ與ルコトヲ得ス

第三十八條　審査會ノ決議ハ議長之ヲ朝鮮總督ニ具申シ且ツ之ヲ遞信局長及審査請求者ニ通知スヘシ

第三十九條　朝鮮總督ハ審査會ノ決議ヲ不當ト認メタルトキハ再審査ヲ命ス

第四十條　審査會ノ決議ハ組合ヲ覊束ス

第六章　會計

第四十一條　本組合ノ事業年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

第四十二條　本組合ノ財產ハ郵便貯金若ハ銀行預金ニ預入シ又ハ之ヲ以テ國債券若ハ地方債券ヲ購入スルコトヲ得

前項ニ依ルモノノ外組合財產ノ管理方法ハ朝鮮總督ノ認可ヲ經ルコトヲ要ス

第四十三條　組合ハ每事業年度ノ終ニ於テ脫退給與金及勤續給與金ノ給與ニ對スル責任準備金ヲ計算シ之ヲ積立ツルコトヲ要ス

第四十四條　組合ハ其ノ附屬事業トシテ組合員ノ保護共濟ニ必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得

第四十五條　本令ハ大正十年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四十六條　第三條第二項ノ現業員タル者ハ本令施行ト同時ニ組合ニ加入ス

第一號表（脫退給與金）

	加入又ハ掛金異動ノ時ヨリ脫退ノ時迄ノ年數	掛金每月一圓ニ對スル給與額	加入又ハ掛金異動ノ時ヨリ脫退ノ時迄ノ年數	掛金每月一圓ニ對スル給與額
一	一年	一二・四二三	九年	一三四・八二（圓）
二	二年	二五・〇七	十年	一五三・七八
三	三年	三八・五五	十一年	一七三・七〇
四	四年	五二・七〇	十二年	一九四・六一
五	五年	六七・五六	十三年	二一六・五七
六	六年	八三・一六	十四年	二三九・六二
七	七年	九九・五五	十五年	二六三・八三
八	八年	一一六・七五		

備考

一　十五年ヲ超ユルトキハ十五年ニ對スル金額ト其以後ノ掛金額トニ脫退ノ前月迄年五朱ノ複利ヲ附シタルモノヲ積算ス

二　年數ノ計算ニ於テ端數ノ月數ヲ生シタル場合ニハ其端數ヲ除キタル年數ニ對シテ受クヘキ金額ニ其金額ト其年數ヨリ一年ヲ經過シタルトキニ受クヘキ金額トノ差ヲ十二分シ之レニ端數ノ月數ヲ乘シタルモノヲ加ヘ給與ス

第二號表（勳績給與金）

脫退ノ時期	加入後同三年四年	同五年	同六年	同七年	同八年	同九年	同十年	同十一年	同十二年	同十三年	同十四年	同十五年
加入ノ時ノ掛金ニ對スルモノ	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓
加入後一年	二四・〇	三〇・九二	三七・九四	四五・四一	五三・〇七	六〇・八四	六八・六五	七六・三一	八四・四五	九二・三五	一〇一・七〇	一一〇・三八
同二年	一一・四	一七・三一	二三・六五	三〇・四〇	三七・二一	四四・三〇	五一・一六	五八・二一	六五・三〇	七二・六三	八〇・〇九	八七・八三
同三年	五・六二	一一・三八	一七・五一	二三・七八	三〇・〇九	三六・三六	四二・五六	四八・五五	五五・三五	六二・〇五	六八・九四	七五・八二
同四年	五・四八	一一・三	一七・七	二三・九六	三〇・一九	三六・三九	四二・五九	四八・五五	五五・三五	六二・〇三	六八・九四	七五・八二
同五年	五・三七	一一・二四	一七・九二	二四・一六	三〇・二九	三六・四二	四二・五九	四八・五五	五五・三五	六二・〇三	六八・九四	七五・八二
同六年	五・二九	一〇・九六	一七・九二	二四・一六	三〇・二九	三六・四二	四二・五九	四八・五五	五五・三五	六二・〇三	六八・九四	七五・八二
同七年	五・二	一〇・八九	一七・九二	二四・一六	三〇・二九	三六・四二	四二・五九	四八・五五	五五・三五	六二・〇三	六八・九四	七五・八二
同八年	四・九五	一〇・八二	一七・九二	二四・一六	三〇・二九	三六・四二	四二・五九	四八・五五	五五・三五	六二・〇三	六八・九四	七五・八二
同九年	四・八八	一〇・七五	一七・九二	二四・一六	三〇・二九	三六・四二	四二・五九	四八・五五	五五・三五	六二・〇三	六八・九四	七五・八二
同十年	四・八一	一〇・六八	一七・九二	二四・一六	三〇・二九	三六・四二	四二・五九	四八・五五	五五・三五	六二・〇三	六八・九四	七五・八二
同十一年	四・七四	一〇・六一	一七・九二	二四・一六	三〇・二九	三六・四二	四二・五九	四八・五五	五五・三五	六二・〇三	六八・九四	七五・八二
同十二年	四・六七	一〇・五四	一七・九二	二四・一六	三〇・二九	三六・四二	四二・五九	四八・五五	五五・三五	六二・〇三	六八・九四	七五・八二
同十三年	四・六〇	一〇・四七	一七・九二	二四・一六	三〇・二九	三六・四二	四二・五九	四八・五五	五五・三五	六二・〇三	六八・九四	七五・八二
同十四年	四・五三	一〇・四〇	一七・九二	二四・一六	三〇・二九	三六・四二	四二・五九	四八・五五	五五・三五	六二・〇三	六八・九四	七五・八二
同十五年	四・四六	一〇・三三	一七・九二	二四・一六	三〇・二九	三六・四二	四二・五九	四八・五五	五五・三五	六二・〇三	六八・九四	七五・八二
同十六年	四・三九	一〇・二六	一七・九二	二四・一六	三〇・二九	三六・四二	四二・五九	四八・五五	五五・三五	六二・〇三	六八・九四	七五・八二
同十七年	四・三二	一〇・一九	一七・九二	二四・一六	三〇・二九	三六・四二	四二・五九	四八・五五	五五・三五	六二・〇三	六八・九四	七五・八二
同十八年	四・二五	一〇・一二	一七・九二	二四・一六	三〇・二九	三六・四二	四二・五九	四八・五五	五五・三五	六二・〇三	六八・九四	七五・八二
同十九年	四・一八	一〇・〇五	一七・九二	二四・一六	三〇・二九	三六・四二	四二・五九	四八・五五	五五・三五	六二・〇三	六八・九四	七五・八二
同二十年	四・一一	九・九八	一七・九二	二四・一六	三〇・二九	三六・四二	四二・五九	四八・五五	五五・三五	六二・〇三	六八・九四	七五・八二
同二十一年	四・〇四	九・九一	一七・九二	二四・一六	三〇・二九	三六・四二	四二・五九	四八・五五	五五・三五	六二・〇三	六八・九四	七五・八二
同二十二年	三・九七	九・八四	一七・九二	二四・一六	三〇・二九	三六・四二	四二・五九	四八・五五	五五・三五	六二・〇三	六八・九四	七五・八二
同二十三年	三・九〇	九・七七	一七・九二	二四・一六	三〇・二九	三六・四二	四二・五九	四八・五五	五五・三五	六二・〇三	六八・九四	七五・八二
同二十四年	三・八三	九・七〇	一七・九二	二四・一六	三〇・二九	三六・四二	四二・五九	四八・五五	五五・三五	六二・〇三	六八・九四	七五・八二

備考

一　本表ハ掛金又ハ其異動差額金壹圓ニ對スル給與金額ヲ掲ク

二　二十五年以後ハ二十五年ニ對スル給與金額ニ年五朱ノ複利ヲ付シタルモノヲ積算ス

三　年數ノ計算ニ於テ端數ヲ生シタル場合ニハ其端數ヲ除キタル年數ニ於テ受クヘキ金額ヲ給與ス

●朝鮮總督府遞信官署現業員共濟組合財產管理規程

大正十三年七月
總訓第十八號

朝鮮總督府遞信官署現業員共濟組合財產管理規程左ノ通定ム

朝鮮總督府遞信官署現業員共濟組合財產管理規程

第一條　共濟組合財產ノ管理ニ關スル事務ヲ審査スル爲共濟組合財產管理委員ヲ置ク

第二條　共濟組合財產ノ管理ニ關スル事務ヲ審査スル爲共濟組合財產管理委員ヲ置ク

第三條　共濟組合財產管理委員ノ數ハ三人トシ朝鮮總督府遞信官署ノ高等官中ヨリ朝鮮總督之ヲ命ス

第四條　共濟組合財產ノ管理ニ關スル事項中左ニ揭クルモノハ共濟組合財產管理委員ノ審査ヲ經ルコトヲ要ス

一　共濟組合規則第四十二條ノ規定ニ依ル銀行預金及有價證券ノ保管ニ關スル銀行ノ決定及變更

二　共濟組合規則第四十二條第二項ノ規定ニ依ル組合財產ノ管理替

三　共濟組合規則第四十四條ノ規定ニ依ル施設ヲ爲ス爲財產ノ支出ヲ要スル場合

第五條　共濟組合財產管理委員ハ必要アルトキハ隨時組合ノ財產及其ノ運轉ニ關スル狀況ニ就テ審査スルコトヲ得

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮總督府鐵道局現業員ノ共濟組合ニ關スル件

大正十四年四月
勅令第十六號

朕朝鮮總督府鐵道局現業員ノ共濟組合ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

朝鮮總督府鐵道局ノ鐵道手及雇員以下ノ現業員ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ相互救濟ヲ目的トスル組合ヲ組織ス

前項ノ組合ニ關シテハ大正九年勅令第五百七十四號ヲ準用ス但シ同令第二條ニ規定スル政府ノ給與額ハ組合員ノ給料總額ノ千分ノ二十ニ當ル金額ヲ限度トス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮總督府鐵道局現業員共濟組合規則

大正十四年四月
總令第四十號

朝鮮總督府鐵道局現業員共濟組合規則左ノ通定ム

朝鮮總督府鐵道局現業員共濟組合規則

第一章　總則

第一條　本組合ハ朝鮮總督府鐵道局現業員共濟組合ト稱ス

第二條　本組合ノ事務ハ朝鮮總督府鐵道局長之ヲ管理ス

第二章　組合員

第三條　組合員ヲ分チテ甲種組合員及乙種組合員トス

甲種組合員トハ鐵道手及雇員以下ノ現業員ヲ謂フ

乙種組合員トハ前項現業員以外ノ職員ニシテ組合ニ加入シタル者又ハ第五條第五號ノ場合ニ於テ組合員タル資格ヲ繼續スル意思ヲ表示シタル者ヲ謂フ

鐵道手及雇員以下ノ現業員ノ範圍ハ別ニ之ヲ定ム

第四條　臨時ニ使用スル者、給料ヲ支給セサル者及外國人ハ組合員タルコトヲ得ス

第五條　組合員ハ左ノ場合ニ限リ脫退ス

一　死亡シタルトキ

二　退官又ハ退職シタルトキ

三　他ノ官廳ニ轉勤シタルトキ

四　休職トナリタルトキ

五　甲種組合員ニ在リテハ鐵道手及雇員以下ノ現業員以外ノ職員ニ轉シタルトキ但シ組合員タル資格ヲ繼續スルノ意思ヲ表示シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

六　乙種組合員ニ在リテハ加入後又ハ資格繼續後一年ヲ經過シタル者脫退ノ意思ヲ表示シタルトキ

第六條　組合員月ノ中途ニ於テ脫退シタルトキハ掛金ノ支拂及給付金額ノ算定ニ付テハ其ノ月ノ終ニ於テ脫退シタルモノト看做ス

第七條　組合員正當ノ事由ナクシテ二箇月分以上掛金ノ支拂ヲ遲延シタルトキハ最終ノ支拂ヲ爲シタル月ノ終ニ於テ脫退シタルモノト看做ス

第八條　組合員ノ年齡及加入年數ハ月ヲ以テ計算ス

第九條　組合員組合ヲ脫退シタルトキハ本令ニ依ル給付ヲ受クルノ外組合ニ對シテ何等ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第三章　掛金

第十條　組合員ハ毎月掛金トシテ左ノ金額ヲ支拂フヘシ

甲種組合員　給料月額百分ノ六

乙種組合員　給料月額百分ノ十一

乙種組合員ノ掛金ハ資格繼續ニ依リ組合員トナリタル者及新ニ組合ニ加入シ加入後五年ヲ經過シタル者ニ限リ給料月額百分ノ七ヲ選擇スルコトヲ得

第十一條　掛金額算出ノ標準トスヘキ給料月額ハ日給ヲ受クル者ニ在リテハ其ノ二十日分月給雇員ニ在リテハ月給額ノ十五分ノ十、判任官及同待遇者ニ在リテハ月俸額、高等官ニ在リテハ年俸額ノ十二分ノ一トス

掛金ハ錢位未滿ハ之ヲ四捨五入ス

特別ノ勞務又ハ臨時ノ事由ニ因リ給料ノ支給額ニ一時增減ヲ生スルコトアルモ掛金額ハ之ヲ增減セス

第十二條　掛金ハ毎月給料受領ノ時之ヲ支拂フモノトス

給料ヲ受ケサル月及給料ヲ受クルモノ其受領額カ掛金額ニ滿タサル月ノ掛金ハ次回給料受領額ヲ以テ之ヲ支拂フヘキ金額アルトキハ之ヲ表示シタルトキ

第四條　該當スルニ至リタルトキ

陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレ退官若ハ退職シ又ハ休職トナリタル者徵集又ハ召集ヲ解除セラレタル日ヨリ三十日內ニ再ヒ採用セラレタル場合ハ組合員ノ資格ニ付テハ前後繼續スルモノト看做ス但シ退官、退職又ハ休職ノ際反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

七

第四條ニ該當スルニ至リタルトキ

陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレ退官若ハ退職シ又ハ休職トナリタル者徵集又ハ召集ヲ解除セラレタル日ヨリ三十日內ニ再ヒ採用セラレタル場合ハ組合員ノ資格ニ付テハ前後繼續スルモノト看做ス但シ退官、退職又ハ休職ノ際反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條　組合員月ノ中途ニ於テ脫退シタルトキハ掛金ノ支拂及給付金額ノ算定ニ付テハ其ノ月ノ終ニ於テ脫退シタルモノト看做ス

第七條　組合員正當ノ事由ナクシテ二箇月分以上掛金ノ支拂ヲ遲延シタルトキハ最終ノ支拂ヲ爲シタル月ノ終ニ於テ脫退シタルモノト看做ス

第八條　組合員ノ年齡及加入年數ハ月ヲ以テ計算ス

第九條　組合員組合ヲ脫退シタルトキハ本令ニ依ル給付ヲ受クルノ外組合ニ對シテ何等ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第三章　掛金

第十條　組合員ハ毎月掛金トシテ左ノ金額ヲ支拂フヘシ

甲種組合員　給料月額百分ノ六

乙種組合員　給料月額百分ノ十一

乙種組合員ノ掛金ハ資格繼續ニ依リ組合員トナリタル者及新ニ組合ニ加入シ加入後五年ヲ經過シタル者ニ限リ給料月額百分ノ七ヲ選擇スルコトヲ得

第十一條　掛金額算出ノ標準トスヘキ給料月額ハ日給ヲ受クル者ニ在リテハ其ノ二十日分月給雇員ニ在リテハ月俸額、高等官ニ在リテハ年俸額ノ十二分ノ一トス

掛金ハ錢位未滿ハ之ヲ四捨五入ス

特別ノ勞務又ハ臨時ノ事由ニ因リ給料ノ支給額ニ一時增減ヲ生スルコトアルモ掛金額ハ之ヲ增減セス

第十二條　掛金ハ毎月給料受領ノ時之ヲ支拂フモノトス

給料ヲ受ケサル月及給料ヲ受クルモノ其受領額カ掛金額ニ滿タサル月ノ掛金ハ次回給料受領額ヲ以テ之ヲ支拂フヘキ金額アルトキハ之ヲ表示シタルトキ

第十三條　掛金ハ給付ノ事由發生當時ノ掛金ノ標準タル給料ニ依リ之ヲ算定ス

第十四條　戰時事變ノ爲陸海軍ニ召集又ハ配屬セラレタルトキハ其ノ間ノ掛金ヲ徵收セス

第四章　給付

第一節　總則

第十五條　給付ハ之ヲ左ノ六種トス

一　公傷給付
二　疑疾給付
三　療養給付
四　疾病給付
五　退職給付
六　遺族給付

第十六條　給付ノ事由併發シタルトキハ當該各條ノ給付ヲ併給ス但シ退職給付及疑疾年金ハ相互ニ之ヲ併給セス

公傷年金ト退職年金トヲ併給スル場合ニ於テ其ノ併給額給料年額ヲ超過スルトキハ該給料年額ヲ限リ公傷年金トシテ給ス

疑疾年金ノ額退職年金ノ額ニ達セサルトキハ退職年金ノ額ヲ疑疾年金トシテ給ス

第三十五條及第三十六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用セス

第十七條　第十條第二項ノ乙種組合員ニ對スル給付ハ之ヲ疑疾給付、退職給付及遺族一時金トス

第十八條　給付額ハ給付ノ事由發生當時ノ掛金ノ標準タル給料ニ依リ之ヲ算定ス

第十九條　給付額算定ノ標準トスヘキ給料ハ第十一條第一項ノ規定ニ依ル給料月額トシ其ノ三十分ノ一ヲ以テ一日分ノ額、其ノ十二倍ヲ以テ一年分ノ額トス

第二十條　第十一條第二項ノ規定ハ給付額算定ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ年金額算定ノ場合ニ於テ組合員カ組合ニ對シ支拂フヘキ金額アルトキハ之ヲ

ヲ支給額ヨリ控除ス

第二十二條 年金ノ支給ハ退官、退職、休職又ハ死亡ノ翌月ヨリ之ヲ開始ス

遺族年金ノ轉給ハ權利發生ノ翌月ヨリ之ヲ開始ス

第二十三條 年金ノ支給ヲ受クル者再ヒ鐵道局ニ在職スルニ至リタルトキハ其ノ間年金ヲ支給セス

第二十四條 年金ハ月割計算トス

前項ノ年金額ハ之ヲ四月、七月、十月及一月ニ於テ其ノ前三箇月分ヲ給ス但シ權利消滅ノ場合ハ期月ニ拘ラス之ヲ給ス

第二十五條 年金ヲ受ケ又ハ受クヘキ者國籍ヲ失ヒタルトキハ爾後年金ヲ受クルノ權利ヲ喪失ス

第二十六條 給付ノ請求ハ其ノ事由發生ノ日ヨリ三年内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十七條 組合員犯罪ニ因リ死亡シタルトキ又ハ懲戒處分若ハ刑事裁判ニ因リ其ノ官職ヲ免セラレタルトキハ給付ノ全部又ハ一部ヲ給セサルコトアルヘシ

第二節 公傷給付

第二十八條 公傷給付ハ組合員職務執行上傷痍ヲ受ケ左ノ場合ニ該當シタルトキ其ノ等級ニ應シ當該金額ヲ給ス

第一等 兩眼ヲ盲シ若ハ二肢以上ノ用ヲ失ヒ終身自用ヲ辨スルコト能ハサルトキ又ハ之ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケタルトキ
公傷年金 給料七箇月分乃至九箇月分

第二等 一肢ノ用ヲ失ヒ自用ヲ辨シ得ト雖終身業務ニ就クコト能ハサルトキ又ハ之ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケタルトキ
公傷年金 給料四箇月分乃至六箇月分

第三等 自用ヲ辨シ及業務ニ就クコトヲ得ト雖身體ヲ毀損シ舊ニ復スルコトヲ得ス因テ退官又ハ退職シタルトキ
公傷一時金 給料八箇月分乃至一年六箇月分

第四等 身體ヲ毀損シ舊ニ復スルコトヲ得スト雖引續キ職務ニ服スルトキ
公傷一時金 給料一箇月分乃至六箇月分

第二十九條 公傷年金ハ本人ノ終身之ヲ給ス

第三十條 組合員職務執行上傷痍ヲ受ケ第二十八條ノ給付ヲ受クルニ至ラサル者當該傷痍ニ基因シ同條ニ該當スルニ至リタルトキハ同條ノ給付ヲ爲ス

公傷給付ヲ受ケタル者ト雖當該傷痍ニ基因シ更ニ上級ノ給付ヲ受クヘキ事由アルニ至リタルトキハ其ノ差額ヲ給ス此ノ場合ニ於テ一時金ヲ年金ニ改定スルノ必要アルトキハ當該年金ノ支給額ハ退職ノ翌月ヨリ之ヲ積算シ該一時金ノ額ニ達スル迄其ノ支給ヲ停止ス

職務執行上傷痍ヲ受ケタル組合員脱退ノ日ヨリ一年内ニ前二項ニ該當スルニ至リタルトキハ前二項ノ規定ヲ準用ス

第三十一條 組合員職務執行上疾病ニ罹リタルトキハ前三條ニ準シ給付ヲ爲ス

第三節 癈疾給付

第三十二條 癈疾給付ハ組合員傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ因テ退官又ハ退職シタル場合ニ於テ左ノ種別ニ從ヒ之ヲ給ス但シ職務執行上傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 癈疾年金
二 特症金

第三十三條 癈疾年金ハ組合員自己ノ重大ナル過失ニ因ルニ非スシテ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ左ノ場合ニ該當シタルトキ加入後十年ヲ經過シタル者ニ限リ之ヲ給ス

第一等 兩眼ヲ盲シ若ハ二肢以上ノ用ヲ失ヒ又ハ之ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ又ハ鐵道局長ノ定ムル種類ノ疾病ニ罹リ恒久的癈疾ニ陷リ終身自用ヲ辨スルコト能ハサルトキ
癈疾年金 給料五箇月分乃至六箇月分

第二等 一肢ノ用ヲ失ヒ若ハ之ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ又ハ前號ノ恒久的癈疾ニ因リ自用ヲ辨シ得ト雖終身業務ニ就クコト能ハサルトキ
癈疾年金 給料三箇月分乃至四箇月分

第三十四條 癈疾年金ハ本人ノ終身之ヲ給ス

第三十五條 癈疾年金ヲ受クル者癈疾輕減シタルトキハ該年金ノ一部又ハ全部ノ支給ヲ停止スルコトアルヘシ

第三十六條 癈疾年金ヲ受クル者組合ヨリ要求アリタルトキハ組合指定ノ場所ニ於テ健康診斷ヲ受クルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ違反シタルトキハ癈疾年金ノ支給ヲ停止スルコトアルヘシ

第三十七條 特症金ハ職業的疾患又ハ肺結核ニ罹リ業務ニ堪ヘサル場合ニ於テ加入後一年ヲ經過シタルトキハ給料三箇月分、三年ヲ經過シタルトキハ給料六箇月分、五年ヲ經過シタルトキハ給料九箇月分、七年ヲ經過シタルトキハ給料一年分ニ相當スル金額ヲ給スルモノトス但シ癈疾年金ヲ受クル場合ハ此ノ限ニ在ラス

職業的疾患ノ種別ハ鐵道局長ノ定ムル所ニ依ル

第四節 療養給付

第三十八條 組合員ニシテ職務執行上傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ療養ヲ要スル者ニハ療養ニ必要ナル相當ノ給付ヲ爲ス

前項ノ療養ハ醫療ニ限ル

第五節 疾病給付

第三十九條 疾病給付ハ組合員傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル場合ニ於テ左ノ種別ニ從ヒ之ヲ給ス但シ職務執行上傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ療養ヲ受クル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 醫療金
二 休養金

第四十條 醫療金ハ組合員鐵道囑託醫又ハ官公立醫院ニ就キ醫療ヲ受ケ五日ヲ經過シタルトキ其ノ翌日ヨリ入院醫療ニ對シテハ一日一圓宛、入院ニ非サル醫療ニ對シテハ一日十錢宛ヲ給ス

特別ノ事情ニ因リ他ノ醫師ニ就キ醫療ヲ受ケタルトキ亦同シ

醫療ノ實費カ前項ノ金額ニ達セサルトキハ其ノ實費ヲ給ス

入院醫療ト入院ニ非サル醫療トカ相互ニ連續シタル場合ハ其ノ前後ニ拘ラス第一項ノ除外期間ハ入院醫療ニ付テノミ之ヲ除外ス

第四十一條 休養金ハ組合員傷病ノ爲醫療ヲ受クル者主治醫ノ指圖ニ依リ休業シ給料ノ支給ヲ受ケサルニ至リ四日ヲ經過シタルトキ其ノ翌日ヨリ支給ヲ受ケサル給料ノ半額ニ相當スル金額以内ヲ給ス

第六節 退職給付

第四十二條 退職給付ハ組合員第五條第二號乃至第七號ノ事由ニ因リ脱退シタルトキ左ノ種別ニ從ヒ之ヲ給ス

一 退職年金
二 退職一時金

第四十三條 退職年金ハ組合員組合加入後十五年ヲ經過シテ脱退シタルトキ終身之ヲ給ス

前項年金額ハ加入後十五年ヲ經過シテ脱退シタルトキ給料年額ノ四分ノ一トシ十五年經過後ハ加入一年ヲ經過スル毎ニ給料年額ノ百分ノ一ヲ加算ス

第四十四條 第二十三條ノ規定ノ適用ヲ受クル場合ニ於テハ前後ノ組合加入期間ハ之ヲ通算ス但シ其ノ年金額ニ付テハ既ニ給付セラレタル年金額ヲ下ルコトヲ得ス

第四十五條 退職一時金ハ組合員第四十三條ノ年金ヲ受クルニ至ラスシテ脱退シタルトキ之ヲ給ス

前項一時金ノ額ハ加入後一年ヲ經過シテ脱退シタル者ニ在リテハ給料二十日分トシ一年經過後ハ六箇月ヲ經過スル毎ニ之ニ給料十日分ヲ加算ス但シ其ノ額カ甲種組合員トシテノ掛金額ニ達セサルトキハ之ヲ甲種組合員トシテノ掛金額ニ切上ク

加入後一年ヲ經過シ自己ノ便宜ニ依リ脱退シタル者ニ在リテハ前項ノ規定ニ依リ算出シタル金額ノ十分ノ八ヲ給ス此ノ場合ニ於テハ前項但書ノ規定ハ之ヲ適用セス

加入後一年ヲ經過セスシテ脱退シタル者ニ在リテハ退官又ハ退職ノ原因カ自己ノ便宜ニ非サル場合ニ限リ甲種組合員トシテノ掛金額ニ相當スル一時金ヲ給スルコトヲ得

第七節 遺族給付

第四十六條 遺族給付ハ組合員死亡シタルトキ左ノ種別ニ從ヒ其ノ遺族ニ之ヲ給ス

一 遺族年金
二 遺族一時金
三 葬祭金

第四十七條 遺族年金ハ組合員職務執行上傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ死亡シタルトキ之ヲ給ス

遺族年金ノ額ハ給料四箇月分トス

組合員ニシテ加入後十五年ヲ經過シタル者ナルトキハ前項年金額ハ給料五箇月分トス

第四十八條 公傷一時金ヲ受ケ引續キ職務ニ服スルモノ當該傷病ニ基因シ死亡シタルトキハ前條ノ給付ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ第三十條第二項ノ規定ヲ準用ス

第四十九條 遺族年金ハ組合員ノ配偶者ニ終身之ヲ給ス

配偶者其ノ家ヲ去リ又ハ婚姻ヲ爲シタルトキハ前項年金ヲ受クルノ權利ヲ喪失ス

第五十條 配偶者ナキトキ、死亡シタルトキ又ハ其ノ權利ヲ喪失シタルトキハ年金ハ之ヲ組合員ノ遺子ニ給ス

前項ノ遺子トハ組合員死亡ノ當時ヨリ引續キ其ノ家ニ在ル年齡二十歳未滿ノ未婚者ヲ謂フ但シ組合員死亡ノ當時胎兒タル子出生シタルトキハ組合員死亡ノ當時ノ家ニ在リタルモノト看做ス

遺子數人アルトキハ民法第九百七十條ニ定ムル順位ニ依リ年金ヲ給ス

第五十一條 年金ヲ受クル遺子死亡シ又ハ其ノ權利ヲ喪失シタルトキハ前項ノ順位ニ依リ之ヲ給ス

年金ヲ受クヘキ遺子ナキトキ又ハナキニ至リタルトキハ組合員ノ死亡當時ヨリ引續キ其ノ家ニ在ル父、母、祖父、祖母ノ順位ニ依リ之ヲ給ス

前條第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十二條 遺族一時金ハ組合員死亡シタルトキ其ノ遺族ニ之ヲ給ス

前項一時金ノ額ハ組合員加入後一年ヲ經過セサルトキハ給料六箇月分、一年ヲ經過シタルトキハ給料九箇月分、三年ヲ經過シタルトキハ給料一年分、十年ヲ經過シタルトキハ給料一年六箇月分ニ相當スル金額トス

前二項ノ規定ニ依ル給付金ハ組合員職務執行上傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ死亡シタル場合ニハ之ヲ支給セス但シ第十條第二項ニ該當スル組合員ハ此ノ限ニ在ラス

第五十三條 公傷年金、癈疾年金、退職年金ヲ受クル者退職ノ日ヨリ公傷年金ヲ受クル者ニ在リテハ七年内、其ノ他ノ年金ヲ受クル者ニ在リテハ五年内ニ死亡シタルトキ其ノ遺族ニ一時金ヲ給ス

前項一時金ノ額ハ公傷年金ニ在リテハ該年金ノ七年分、其ノ他ニ在リテハ該年金ノ五年分ニ相當スル金額ヨリ既ニ給シタル年金額ヲ控除シタル金額トス

第五十四條 公傷年金又ハ退職年金ヲ受クル權利確定シ未タ年金ノ支給ヲ受クルニ至ラスシテ死亡シタルトキハ公傷年金ヲ受クル者ニ在リテハ該年金ノ七年分、退職年金ニ在リテハ該年金ノ五年分ヲ其ノ遺族ニ給ス

第五十五條 前三條ノ規定ニ依リ一時金ヲ受領スヘキ遺族及其ノ順位左ノ如シ但シ組合員カ死亡前特別ノ意思ヲ表示シタルトキハ之ニ依ルコトアルヘシ

一 直系卑屬
二 配偶者
三 直系尊屬

前項第一號ニ該當スル者數人アルトキハ其ノ順位ニ付テハ民法第九百七十條及第九百七十四條ノ規定ヲ準用シ同項第三號ニ該當スル者數人アルトキハ民法第九百八十四條ノ規定ヲ準用ス

第一項第三號ニ該當スル者給付決定前死亡シタルトキハ次順位者其ノ受領者トナル

第一項第一號及第三號ニ該當スル者ハ組合員死亡ノ當時其ノ家ニ在リタルコトヲ要ス

第五十六條 遺族年金又ハ遺族一時金ヲ受領スル者ナキトキハ組合ハ年金ニ在リテハ三年分、一時金ニ在リテハ其ノ三分ノ二ヲ死亡者ノ爲ニ處分スルコトヲ得

遺族年金ヲ受領スル者其ノ權利ヲ喪失シ爾後年金ヲ受領スル者ナキニ至リタルトキハ該年金ノ三年分ヨリ既ニ各權利者ニ支給シタル總額ヲ控除シ其ノ殘額ニ付前項ノ規定ヲ準用ス

第五十七條 葬祭金ハ組合員死亡シタル場合ニ於テ其ノ葬祭ヲ營ミタル者ニ左ノ區分ニ依リ之ヲ給ス

一 職務執行上傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ死亡シタルトキ 給料三箇月分
二 前號以外ノ原因ニ依リ死亡シタルトキ 給料一箇月分

第五章 會計

第五十八條 本組合ノ事業年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

第五十九條 組合財産ノ管理方法ハ鐵道局長ノ定ムル所ニ依ル

第六十條 組合ハ毎事業年度ノ終ニ於テ各年金、遺族一時金及退職一時金ニ對スル責任準備金ヲ計算シ之ヲ積立ツルコトヲ要ス

第六十一條 組合ハ其ノ附屬事業トシテ組合員ノ保護救濟ニ必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得

第六章 審査會

第六十二條 組合ニ審査會ヲ置ク

第六十三條 加入、脱退及給付ニ關スル處分ニ對シ異議アル者ハ其ノ處分ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日内ニ朝鮮總督ニ申告シ審査會ノ審査ヲ求ムルコトヲ得

第六十四條 審査會ハ議長一名及審査委員六名ヲ以テ之ヲ組織ス

第六十五條 議長及審査委員ハ朝鮮總督府部内高等官中ヨリ朝鮮總督之ヲ指定ス

第六十六條 議長ハ審査會ヲ招集シ議事ヲ整理ス

議長事故アルトキハ審査委員中ノ上席高等官其ノ職務ヲ代理ス

第六十七條 審査會ハ委員半數以上出席シ出席者ノ過半數ヲ以テ決議ヲ爲ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第六十八條 鐵道局長又ハ其ノ命ヲ受ケタル官吏ハ審査會ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得但シ決議ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第六十九條 審査會ハ何時ニテモ鐵道囑託醫又ハ關係醫師ノ出席ヲ求メ又ハ其ノ意見ヲ徵スルコトヲ得

第七十條 議長又ハ審査委員ハ特別ノ利害關係ヲ有スル事件ノ審査ニ與ルコトヲ得ス

第七十一條 審査會ノ決議ハ議長之ヲ朝鮮總督ニ具申シ鐵道局長及審査請求者ニ通知スヘシ

第七十二條 審査會ノ決議ハ組合ヲ羈束ス

第七十三條 朝鮮總督ハ審査會ノ決議ヲ不當ト認ムルトキハ再審査ヲ命スルコトヲ得

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮總督府鐵道局官制施行ノ際南滿洲鐵道株式會社ヨリ引續キ朝鮮總督府鐵道局ニ在職スル雇員及傭人ニシテ本組合員タル者ノ掛金又ハ給付額算出ノ標準トスヘキ給料ハ當分ノ間別ニ鐵道局長ノ定ムル所ニ依リ給料中本俸ト看做スヘキモノトス

〔朝〕

●朝鮮總督府鐵道局現業員共濟組合規則第三條第四項ノ規定ニ依ル現業員ノ範圍

大正十四年四月一日
總訓第三十號
改正 大正一五年四第七號

朝鮮總督府鐵道局現業員共濟組合規則第三條第四項ノ規定ニ依ル現業員ノ範圍左ノ通之ヲ定ム

一 驛(荷扱所及信號所ヲ含ム)、列車區、機關區、検車區、保線區、通信區、工事係、食堂車、ホテル、構内食堂及鐵道醫院勤務ノ鐵道手及雇員

二 出張所、運輸事務所、工務事務所及工場勤務ノ鐵道手及雇員

三 鐵道局本局勤務ノ鐵道手及雇員ニシテ守衞、自動車運轉手、電氣工長、土木工長ノ職ニ在ル者、專ラ運輸收入ノ審査統計ニ關スル事務又ハ現金出納事務ニ從事スル者、倉庫現品取扱員及共濟組合ノ現場事務ニ從事スル者

四 鐵道局傭人(鐵道從事員養成所工作科生徒、鐵道局從事員以外ヨリ入學セシメタル電信科生徒及看護婦見習ヲ除ク)

チ得ス

第六條　組合員ハ左ノ場合ニ於テ組合ヲ脫退スル

一　死亡シタルトキ

二　退職シタルトキ

三　解職セラレタルトキ

四　第四條ノ現業員以外ノ職ニ轉シタルトキ

五　陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレタルトキ但シ其ノ徵集又ハ召集期間六月内ノ者ニ限リ直ニ其ノ意思ヲ表示シテ脫退セサルコトヲ得

第七條　前條第五號但書ニ該當スル組合員ニシテ徵集又ハ召集ヲ解除セラレタルトキ復職セサル者ハ其ノ月ノ終ニ於テ脫退シタルモノト看做ス

第八條　組合員正當ノ事由ナクシテ二月以上掛金ノ支拂ヲ遲延シタルトキハ最後ノ支拂ヲ爲シタル月ノ終ニ於テ脫退シタルモノト看做ス

第九條　組合員及組合員タリシ者ハ本令ニ依リ共濟金ノ給付ヲ受クル外組合ニ對シ何等ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第十條　組合員ハ朝鮮總督府專賣局長ノ定ムル所ニ依リ掛金ヲ支拂フヘシ

正當ノ事由アリト認ムルトキハ職工ニ限リ給料ノ支拂ヲ受ケサル月又ハ支拂フヘキ給料方掛金額ニ滿タサル月ノ掛金支拂ヲ免除スルコトヲ得

第三章　共濟

第十一條　共濟金ハ左ノ九種トシ其ノ金額ハ朝鮮總督府專賣局長ノ定ムル所ニ依ル

一　殉職金

二　傷痍金

三　療養金

四　產婦金

五　疾病金

六　特症金

七　死亡金

八　脫退金

九　勤續金

第十二條　組合員自己ノ重大ナル過失ニ因ルニ非スシテ職務上傷痍又ハ疾病ニ因リ死亡シタルトキハ殉職金ヲ遺族ニ給付ス

第十三條　組合員自己ノ重大ナル過失ニ因ルニ非スシテ職務上傷痍ヲ受ケ左ノ場合ニ該當スルトキハ傷痍金ヲ給付ス

第一種　兩眼ヲ盲シ若ハ二肢以上ノ用ヲ失ヒ終身自用ヲ辨スルコト能ハサルニ至リタルトキ又ハ之ニ準スルトキ

第二種　一肢ノ用ヲ失ヒ自用ヲ辨シ得ルト雖終身業務ニ就クコト能ハサルニ至リタルトキ又ハ之ニ準スルトキ

第三種　身體ヲ毀損シ舊ニ復スルコトヲ得ス因テ退職シタルトキ

第四種　身體ヲ毀損シ舊ニ復スルコトヲ得スト雖職務ニ堪ユルトキ

第十四條　組合員自己ノ重大ナル過失ニ因ルニ非スシテ職務上傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル爲療養ヲ爲シタルトキハ療養金ヲ給付ス

第十五條　組合員分娩前後就業スルコト能ハサルトキハ組合ニ加入シタル後六月ヲ經過シタル者ニ限リ產婦金ヲ給付ス

第十六條　組合員職務ニ基因セサル傷痍又ハ疾病ニ因リ十一日以上就業スルコト能ハサルトキハ組合ニ加入シタル後一年ヲ經過シタル者ニ限リ疾病金ヲ給付ス

第十七條　組合員工場衞生上ノ必要ニ因リ解職セラレタルトキハ組合ニ加入シタル後一年ヲ經過シタル者ニ限リ特症金ヲ給付ス

第十八條　組合員死亡シタルトキハ死亡金ヲ遺族ニ給付ス

第十九條　組合員脫退シタルトキハ脫退金ヲ給付ス但シ組合ニ加入シタル後六月ヲ經過セスシテ脫退シタル者ハ此ノ限ニ在ラス但シ死亡若ハ職務上ノ傷痍、疾病、廢廳、廢職其ノ他官ノ都合（戒嚴令ノ適用ニ因リ解職シタル者ヲ除ク）ニ因リ又ハ兵役ニ服スル爲脫退シタル場合ヲ除クノ外組合ニ加入シタル後六月ヲ經過セシテ脫退シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

●朝鮮總督府專賣局現業員共濟組合ニ關スル件

大正十年五月勅令第二百三十六號

脫朝鮮總督府專賣局現業員共濟組合ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

朝鮮總督府專賣局ノ雇員以下ノ現業員ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ相互救濟ヲ目的トスル組合ヲ組織ス

前項ノ組合ニ關シテハ大正九年勅令第五百七十四號ヲ準用ス但シ同令第二條ニ規定スル政府ノ給與額ハ組合員ノ給料總額ノ千分ノ二十ニ當ル金額ヲ限度トス

附則

本令ハ大正十年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮總督府專賣局現業員共濟組合規則

大正十一年三月
總令第二十六號

改正　大正二年三月三二號

朝鮮總督府專賣局現業員共濟組合規則左ノ通定ム

朝鮮總督府專賣局現業員共濟組合規則

第一章　總則

第一條　本組合ハ朝鮮總督府專賣局現業員共濟組合ト稱ス

第二條　本組合ノ事務所ハ本部ヲ朝鮮總督府專賣局ニ支部ヲ專賣支局ニ置ク

第三條　本組合ノ事務ハ朝鮮總督府專賣局長之ヲ統轄シ專賣支局長之ヲ執行ス但シ本部直屬ノ事務ニ在リテハ專賣局長之ヲ執行ス

第二章　組合員

第四條　大正十年勅令第二百三十六號ニ依リ組合員タルヘキ者ハ煙草製造、煙草製造材料品及器具機械ノ製作竝機械ノ運轉ニ從事スル雇員、工師、職工及其ノ他ノ傭人トス

前項ノ現業員ハ其ノ就職ノ日ヲ以テ組合ニ加入ス但シ職工ハ其ノ就職ノ日ヨリ十日ヲ經過シタルトキニ於テ其ノ就職ノ日ヨリ組合ニ加入シタルモノト看做ス

第五條　臨時ニ使用スル者ハ組合員タルコトヲ得ス

第六條　組合員ハ左ノ場合ニ於テ組合ヲ脫退スル

一　死亡シタルトキ

二　退職シタルトキ

三　解職セラレタルトキ

四　第四條ノ現業員以外ノ職ニ轉シタルトキ

五　陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレタルトキ但シ其ノ徵集又ハ召集期間六月内ノ者ニ限リ直ニ其ノ意思ヲ表示シテ脫退セサルコトヲ得

第七條　前條第五號但書ニ該當スル組合員ニシテ徵集又ハ召集ヲ解除セラレタルトキ復職セサル者ハ其ノ月ノ終ニ於テ脫退シタルモノト看做ス

第八條　組合員正當ノ事由ナクシテ二月以上掛金ノ支拂ヲ遲延シタルトキハ最後ノ支拂ヲ爲シタル月ノ終ニ於テ脫退シタルモノト看做ス

第九條　組合員及組合員タリシ者ハ本令ニ依リ共濟金ノ給付ヲ受クル外組合ニ對シ何等ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第十條　組合員ハ朝鮮總督府專賣局長ノ定ムル所ニ依リ掛金ヲ支拂フヘシ

正當ノ事由アリト認ムルトキハ職工ニ限リ給料ノ支拂ヲ受ケサル月又ハ支拂フヘキ給料方掛金額ニ滿タサル月ノ掛金支拂ヲ免除スルコトヲ得

第三章　共濟

第十一條　共濟金ハ左ノ九種トシ其ノ金額ハ朝鮮總督府專賣局長ノ定ムル所ニ依ル

一　殉職金

二　傷痍金

三　療養金

四　產婦金

五　疾病金

六　特症金

七　死亡金

八　脫退金

九　勤續金

第十二條　組合員自己ノ重大ナル過失ニ因ルニ非スシテ職務上傷痍又ハ疾病ニ因リ死亡シタルトキハ殉職金ヲ遺族ニ給付ス

第十三條　組合員自己ノ重大ナル過失ニ因ルニ非スシテ職務上傷痍ヲ受ケ左ノ場合ニ該當スルトキハ傷痍金ヲ給付ス

第一種　兩眼ヲ盲シ若ハ二肢以上ノ用ヲ失ヒ終身自用ヲ辨スルコト能ハサルニ至リタルトキ又ハ之ニ準スルトキ

第二種　一肢ノ用ヲ失ヒ自用ヲ辨シ得ルト雖終身業務ニ就クコト能ハサルニ至リタルトキ又ハ之ニ準スルトキ

第三種　身體ヲ毀損シ舊ニ復スルコトヲ得ス因テ退職シタルトキ

第四種　身體ヲ毀損シ舊ニ復スルコトヲ得スト雖職務ニ堪ユルトキ

第十四條　組合員自己ノ重大ナル過失ニ因ルニ非スシテ職務上傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル爲療養ヲ爲シタルトキハ療養金ヲ給付ス

第十五條　組合員分娩前後就業スルコト能ハサルトキハ組合ニ加入シタル後六月ヲ經過シタル者ニ限リ產婦金ヲ給付ス

第十六條　組合員職務ニ基因セサル傷痍又ハ疾病ニ因リ十一日以上就業スルコト能ハサルトキハ組合ニ加入シタル後一年ヲ經過シタル者ニ限リ疾病金ヲ給付ス

第十七條　組合員工場衞生上ノ必要ニ因リ解職セラレタルトキハ組合ニ加入シタル後一年ヲ經過シタル者ニ限リ特症金ヲ給付ス

第十八條　組合員死亡シタルトキハ死亡金ヲ遺族ニ給付ス

第十九條　組合員脫退シタルトキハ脫退金ヲ給付ス但シ組合ニ加入シタル後六月ヲ經過セスシテ脫退シタル者ハ此ノ限ニ在ラス但シ死亡若ハ職務上ノ傷痍、疾病、廢廳、廢職其ノ他官ノ都合（戒嚴令ノ適用ニ因リ解職シタル者ヲ除ク）ニ因リ又ハ兵役ニ服スル爲脫退シタル場合ヲ除クノ外組合ニ加入シタル後六月ヲ經過セシテ脫退シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第八　他家ニ在ル直系尊屬

第九　他家ニ在ル兄弟姉妹

前項第二號、第四號、第七號及第九號ニ該當スル者數人アルトキハ其ノ順位ニ付テハ民法第九百七十條ノ規定ヲ準用シ第三號及第八號ニ該當スル者數人アルトキハ其ノ順位ニ付テハ民法第九百八十四條ノ規定ヲ準用シ第六號ニ該當スル者數人アルトキハ其ノ順位ニ付テハ專賣局長ノ認定ニ依ル

第一項第二號乃至第四號又ハ第六號ニ該當スル者ハ共濟金ヲ受クヘキ者死亡ノトキ其ノ家ニ在ルコトヲ要ス

第二十七條　前條第一項第七號乃至第九號ニ該當スル者ニ對シテハ共濟金ノ半額ヲ給付ス

第二十八條　第二十六條ノ規定ニ依リ共濟金ヲ受領スル者ナキトキハ組合ハ共濟金ノ半額ヲ死亡者ノ爲ニ處分スルコトヲ得

第二十九條　第二十四條第二項ノ規定ハ故意ニ共濟金ヲ受クヘキ者又ハ共濟金ノ給付ニ付先順位ニ在ル者ヲ死ニ致シ又ハ死ニ致サムトシタル爲訴追セラレタル者ニ付之ヲ準用ス

第三十條　共濟金ハ給付ノ事由發生ノ日ヨリ一年内ニ請求ヲ爲ササルトキハ之ヲ給付セス但シ療養金ハ醫療ヲ廢シタル日ヨリ一年内ハ之ヲ請求スルコトヲ得

第四章　審査會

第三十一條　加入、脫退共濟金額ノ決定其ノ他給付ニ關スル處分ニ付異議アル者ハ其ノ處分ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日内ニ朝鮮總督ニ申告シテ審査會ノ審査ヲ求ムルコトヲ得

第三十二條　審査會ハ議長一人委員六人ヲ以テ組織ス

第三十三條　議長及委員ハ朝鮮總督府專賣局高等官ノ中ヨリ朝鮮總督之ヲ命ス

第三十四條　議長ハ審査會ヲ召集シ議事ヲ整理ス議長事故アルトキハ委員中ノ上席者之ヲ代理ス

第三十五條　審査會ハ半數以上ノ委員出席ス

ルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

決議ハ出席員ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲シ可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第三十六條　審査會ノ決議ハ議長之ヲ朝鮮總督ニ具申シ且之ヲ審査請求者ニ通知スヘシ

第三十七條　朝鮮總督ハ審査會ノ決議ヲ不當ト認メタルトキハ再審査ヲ命ス

第三十八條　審査會ノ決議ハ組合ヲ羈束ス

第五章　會計

第三十九條　本組合ノ事業年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

第四十條　本組合ノ財產ハ郵便官署若ハ銀行ニ預入レ又ハ之ヲ以テ國債證券若ハ地方債證券ヲ購入スルコトヲ得

第四十一條　組合ハ其ノ附屬事業トシテ組合員ノ保護共濟ニ必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得

第四十二條　本組合ハ寄附ヲ受クルコトヲ得

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四條第四項ノ現業員タル者ハ本令施行ト同時ニ組合ニ加入ス但シ職工ニシテ就職後十日ヲ經過セサル者ニ付テハ就職後十日ヲ經過シタル日ヨリ之ヲ施行ス

第四條第六項ノ現業員タル者ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三款　恤救

●軍事救護法ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行ノ件

大正六年十月
勅令第二百五號

脫軍事救護法施行ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

軍事救護法ハ朝鮮、臺灣及樺太ニ之ヲ施行ス

第一條　傷病兵、其ノ家族若ハ遺族又ハ下士兵卒ノ家族若ハ遺族ハ本令ニ依リ之ヲ救護ス

第二條　本法ニ於テ傷病兵ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ

一　陸海軍下士兵卒ニシテ戰闘又ハ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ之カ爲兵役ヲ免セラレタル者

二　前號ニ揭クル者ヲ除クノ外陸海軍下士兵卒ニシテ故意又ハ重大ナル過失ニ因ルニ非スシテ戰地ニ於テ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ之カ爲兵役ヲ免セラレタル者

第三條　本法ニ於テ下士兵卒又ハ傷病兵ノ家族ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ

一　陸海軍現役兵、應召中ノ陸海軍下士兵卒又ハ傷病兵ノ配偶者又ハ子ニシテ現ニ之ト同一ノ家ニ在ル者但シ養子ハ家督相續人ニ限ル

二　前號ニ揭クル者ヲ除クノ外陸海軍現役兵、應召中ノ陸海軍下士兵卒又ハ傷病兵ニ依リ扶養ヲ受クヘキ者ニシテ現役兵ノ入營シタル時又ハ傷病兵ノ兵役ヲ免セラレタル時ヨリ引續キ之ト同一ノ家ニ在ル者

前項各號ノ陸海軍現役兵ニハ未入營現役兵及歸休兵ヲ包含セス

第四條　本法ニ於テ下士兵卒又ハ傷病兵ノ遺族ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ

一　戰死シタル陸海軍下士兵卒又ハ第二條各號ノ傷痍若ハ疾病ノ爲死歿シタル陸海軍下士兵卒若ハ傷病兵ノ配偶者又ハ子ニシテ現ニ下士兵卒又ハ傷病兵ノ家族ニ在ル者但シ養子ハ家督相續人ニ限ル

二　前號ニ揭クル者ヲ除クノ外戰死シタル陸海軍下士兵卒又ハ第二條各號ノ傷痍若ハ疾病ノ爲死歿シタル陸海軍下士兵卒ノ死亡ノ時又ハ傷病兵ニ依リ扶養ヲ受クヘキ者ニシテ下士兵卒ノ死亡ノ時又ハ傷病兵ノ兵役ヲ免セラレタル時ヨリ引續キ之ト同一ノ家ニ在ル者

第五條　救護ハ現役兵ノ入營、下士兵卒ノ應召傷病若ハ死亡又ハ傷病兵ノ死亡ノ爲生活スルコト能ハサル者ニ對シテノミ之ヲ爲ス

救護ハ生活ニ必要ナル限度ヲ超ユルコトヲ得ス

第六條　救護ノ種類ハ生業扶助、醫療、現品給與及現金給與トス

第七條　救護ノ程度及方法ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條　傷病兵六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ナル場合ニ於テハ其ノ者竝其ノ家族及遺族ニ對シ救護ヲ爲サス

第九條　下士兵卒又ハ傷病兵六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者ナル場合ニ於テハ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ間其ノ傷病兵及其ノ下士兵卒又ハ傷病兵ノ家族ニ對シ救護ヲ爲サス

第十條　下士兵卒又ハ傷病兵ノ家族又ハ遺族六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ナル場合ニ於テハ其ノ者ニ對シ救護ヲ爲サス六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者ナル場合ニ於テハ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ間亦同シ

第十一條　下士兵卒ニシテ逃亡シ又ハ陣軍懲治隊ニ收容セラレタル者ニ付テハ其ノ逃亡又ハ收容ノ間其ノ家族ニ對シ救護ヲ爲サス

第十二條　下士兵卒又ハ傷病兵ニシテ怠惰又ハ素行不良ナル者ニ付テハ其ノ傷病兵竝其ノ下士兵卒又ハ傷病兵ノ家族及遺族ニ對シ情狀ニ因リ救護ヲ爲サス又ハ救護ノ程度ヲ減少スルコトヲ得

下士兵卒又ハ傷病兵ノ家族又ハ遺族ニシテ怠惰又ハ素行不良ナル者ニ對シ亦前項ニ同

第一條　救護ハ救護ヲ受ケムトスル者ノ出願ニ因リ住所地地方長官ニ於テ其ノ許否ヲ決定ス

住所地地方長官前項ノ規定ニ依リ救護ヲ許可スル場合ニ於テハ其ノ程度及方法ヲ決定ス

第二條　現品給與又ハ現金給與ノ額ハ一人一日十五錢以内トス現品給與及現金給與ヲ併セ行フトキ其ノ合算額ニ付亦同シ

一家ニ於テ給與ヲ受クル者數人アルトキハ前項ノ規定ニ依ル金額ハ一家總額一日六十錢ヲ超エルコトヲ得ス

特別ノ必要アル場合ニ於テハ地方長官ハ内務大臣ノ許可ヲ受ケ第一項又ハ前項ノ規定ニ依ル金額ヲ增加スルコトヲ得

第三條　災害ニ因リ必要アル場合ニ於テハ地方長官ハ一家總額三十圓ヲ限リ臨時現品給與若ハ現金給與ヲ行ヒ又ハ之ヲ併セ行フコトヲ得

第四條　現品給與又ハ現金給與ヲ行フ場合ニ於テハ三月分ヲ限リ前渡スルコトヲ得

救護ノ廢止若ハ停止又ハ救護ノ程度減少ノ場合ニ於テ前渡シタル金品ハ之ヲ返還セシメサルコトヲ得其ノ返還セシムヘキモノニ付テハ之ニ相當スル額ヲ後ニ給與スヘキモノヨリ減額スルコトヲ妨ケス

第五條　特別ノ必要アル場合ニ於テハ地方長官ハ内務大臣ノ許可ヲ受ケ公共團體、公益法人其ノ他適當ト認ムル者ニ委囑シテ救護ヲ行フコトヲ得

第六條　救護ノ廢止若ハ停止又ハ救護ノ程度若ハ方法ノ變更ハ住所地地方長官之ヲ行フ

第七條　第一條第一項ノ規定ニ依リ救護ノ許可ヲ拒マレタル者又ハ前條ノ規定ニ依リ救護ヲ廢止若ハ停止セラレタル者ハ六十日内ニ内務大臣ニ對シ更ニ審査ヲ出願スルコトヲ得

内務大臣ハ審査ノ上必要ト認ムルトキハ地方長官ヲシテ救護ノ許可ヲ爲サシメ又ハ救護ノ廢止若ハ停止ノ處分ヲ取消サシムルコトヲ得

第八條　朝鮮臺灣樺太又ハ關東州ニ在リテハ本令中内務大臣ノ職務ハ朝鮮總督臺灣總督樺太廳長官又ハ關東都督、地方長官ノ職務ハ朝鮮總督府道長官臺灣總督府廳長樺太廳支廳長又ハ關東都督府民政署長之ヲ行フ

附　則

本令ハ軍事救護法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

下士兵卒家族救助令ハ之ヲ廢止ス

軍事救護法施行細則

大正六年十二月
總令第百號

軍事救護法施行細則左ノ通定ム

軍事救護法施行細則

第一條　軍事救護法ニ依リ救護ヲ受ケムトスル者ハ第一號樣式ノ願書ヲ作成シ其ノ住所地府尹、郡守又ハ島司ヲ經テ道長官ニ出願スヘシ

救護ヲ受ケムトスル者一家二人以上アルトキハ戸主又ハ一家經理ノ任ニ在ル者前項ニ依リ出願スヘシ

第二條　府尹、郡守又ハ島司前條ノ願書ヲ受理シタルトキハ第二號樣式ノ調書ヲ作成シ戸籍謄本其ノ他必要ナル書類ヲ添附シ道長官ニ進達スヘシ

第三條　救護ヲ受クル者願書記載ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキハ第一條ノ出願人又ハ之ニ代ル者ヨリ直ニ住所地府尹、郡守又ハ島司ヲ經テ道長官ニ届出ヘシ住所移轉ノ届出ハ舊住所地府尹、郡守又ハ島司ヲ經由スヘシ

第四條　府尹、郡守又ハ島司ハ救護ノ廢止、停止、程度減少又ハ方法變更ノ必要アリト認メタルトキハ其ノ理由及意見ヲ具シ直ニ之ヲ道長官ニ報告スヘシ

第五條　府尹、郡守又ハ島司ハ常ニ被救護者ノ生計其ノ他ノ狀況ニ注意シ每年六月、九月、十二月、三月ノ各末日ヲ期トシ其ノ狀況ヲ翌月十日迄ニ道長官ニ報告スヘシ

第六條　軍事救護法施行令第七條ニ依リ審査ヲ出願スル場合ニ於テハ救護ノ不許可廢止又ハ停止ノ指令ヲ交付シタル府尹、郡守又ハ島司ヲ經由スヘシ

第七條　救護ヲ受クル者道外ニ住所ヲ移轉シタルトキハ舊住所地道長官ハ救護ニ關スル一件書類ノ謄本ヲ新住所地道長官ニ送付シ朝鮮外ニ移轉シタルトキハ當該官廳ニ送付スヘシ

第八條　道長官救護ヲ許可シタルトキハ直ニ第三號樣式ノ報告書ヲ朝鮮總督ニ提出スヘシ

救護ヲ廢止シ、停止シ、若ハ救護ノ程度又ハ方法ヲ變更シタルトキハ其ノ理由又ハ變更ノ要領ヲ直ニ報告スヘシ

附　則

本令ハ大正七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式

軍事救護願

救護ヲ受ケムトスル者						
本籍						
住所						
氏名	生年月日	職業	被救護者資格	救護ノ種類ニ關スル希望		
何某	何	何				

シ

第十三條　傷病兵ニシテ日本ノ國籍ヲ失ヒタル者ニ對シテハ救護ヲ爲サス

第十四條　下士兵卒又ハ傷病兵ノ家族ニ對スル救護ハ下士兵卒又ハ傷病兵死亡後仍三月内之ヲ繼續スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ救護ヲ受クル者ニ對シテハ其ノ間下士兵卒又ハ傷病兵ノ遺族トシテノ救護ハ之ヲ爲サス

第十五條　下士兵卒ノ家族ニ對スル救護ハ下士兵卒ノ傷病兵トナリタル後仍三月内之ヲ繼續スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ救護ヲ受クル者ニ對シテハ其ノ間傷病兵ノ家族トシテノ救護ハ之ヲ爲サス

第十六條　本法ニ依ル救護ハ他ノ法令ノ適用ニ付テハ貧困ノ爲ニスル公費ノ救助ニ非サルモノト看做ス

第十七條　本法ニ依リ給與ヲ受ケタル救護金品ヲ標準トシテ租稅其ノ他ノ公課ヲ課セス

第十八條　本法ニ依ル救護金品ハ既ニ給與ヲ受ケタルト否トニ拘ラス之ヲ差押フルコトヲ得ス

第十九條　舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ本法ノ適用ニ付テハ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

軍事救護法施行期日

大正六年十月
勅令第二百四號

朕軍事救護法施行期日ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

軍事救護法ハ大正七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

軍事救護法施行令

大正六年十月
勅令第二百六號

朕軍事救護法施行令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

軍事救護法施行令

法第五條ノ下士兵卒又ハ傷病兵	氏名	兵種及官等級	所屬部隊又ハ鎭守府	入營、應召又ハ戰死年月日若ハ兵役免除又ハ死歿ノ原因及年月日

出願事由　（法第五條ニ記載スル原因ニ因リ生活スル能ハサル理由ヲ詳記スルコト）

右ノ通ニ付救護被成下度候也

年　月　日　　出願人　何　某　印

道長官宛

備考

一、一家二人以上救護ヲ受ケムトスルモノニシテ第一條第二項ニ依リ戸主又ハ一家經理ノ任ニ在ル者ヨリ出願スル場合ニ出願人ノ肩書ニ「戸主」又ハ「一家經理者」ト記スルモノトス

二、「被救護者資格」ノ欄ニハ傷病兵ニ在リテハ單ニ傷病兵ト記シ其ノ他ノ者ニ在リテハ下士兵卒又ハ傷病兵トノ續柄ヲ記スヘシ

三、「救護ノ種類ニ關スル希望」ノ欄ニハ法第六條ノ救護ノ種類ヲ記スルコト但シ生業扶助ニ付テハ其ノ方法ニ關スル希望ヲモ併セテ記スヘシ

四、「所屬部隊又ハ鎭守府」ノ欄ニハ戰死者死歿者又ハ傷病兵ニ在リテハ戰死、死歿又ハ兵役ヲ免除セラレタル當時ノ部隊又ハ鎭守府ヲ記スヘシ

第二號樣式

軍事救護調書

（一）　全家族ニ關スル調査

身分	氏名	職業	資産又ハ勞役ノ能力程度	納稅ノ種類金額	法第八條乃至第十二條ノ事項	其ノ他參考トナルヘキ事項
（戸主）						
（妻）						
（長男）						
（何）						

（二）　他家ニ在ル扶養義務者ノ扶養狀況

（他家ニ扶養義務者在ルトキハ其ノ住所、氏名、親族關係、扶養ノ能否及其ノ現ニ扶養セルモノハ扶養ノ種類程度方法等ヲ記ス）

（三）　團體又ハ個人ノ救護

（團體又ハ個人ノ救護ヲ受ケ居ル者ナルトキハ其ノ團體又ハ個人名及救護ノ種類、程度方法等ヲ記ス）

（四）　一家生活ノ狀況

（五）　救護ノ種類程度方法ニ關スル意見

右ノ通ニ候也

年　月　日

道長官宛

府尹（郡守、島司）　印

第三號樣式

軍事救護許可報告

被救護者	本籍					
	住所					
	氏名	生年月日	職業	被救護者資格	救護ノ種類ニ關スル希望	
	何某	何	何			

法第五條ノ下士兵卒又ハ傷病兵	救護ノ種類程度及方法竝程度決定ノ標準	指令年月日及救護ノ始期

右及報告候也

年　月　日

道長官

朝鮮總督府

軍事救護法實施ニ關シ通報方

大正六年十二月
陸達第四十八號

軍事救護法實施ニ關シ通報方左ノ通定ム

（他家ニ扶養義務者在ルトキハ其ノ住所、氏名、親族關係、扶養ノ能否及其ノ現ニ扶養セルモノハ扶養ノ種類程度方法等ヲ記ス）

（三）　團體又ハ個人ノ救護

（團體又ハ個人ノ救護ヲ受ケ居ル者ナルトキハ其ノ團體又ハ個人名及救護ノ種類、程度方法等ヲ記ス）

（四）　一家生活ノ狀況

（五）　救護ノ種類程度方法ニ關スル意見

右ノ通ニ候也

年　月　日

道長官宛

府尹（郡守、島司）　印

第三號樣式

軍事救護許可報告

被救護者	本籍					
	住所					
	氏名	生年月日	職業	被救護者資格	救護ノ種類ニ關スル希望	
	何某	何	何			

法第五條ノ下士兵卒又ハ傷病兵	救護ノ種類程度及方法竝程度決定ノ標準	指令年月日及救護ノ始期

右及報告候也

年　月　日

道長官

朝鮮總督府

軍事救護法實施ニ關シ通報方

大正六年十二月
陸達第四十八號

軍事救護法實施ニ關シ通報方左ノ通定ム

第一條　軍事救護法施行ニ關シ其ノ所管内ニ在籍スル傷病兵、傷病兵竝下士兵卒ノ家族及遺族カ軍事救護法第二條第四條第十一條又ハ第十二條ニ該當スル者ナルヤ否ノ調査方ニ付救護地地方長官ヨリ照會アリタルトキハ必要ノ事項ヲ速ニ通報スヘシ

部隊長ハ前項ノ調査ニ關シ聯隊區司令官ヨリ照會アリタルトキハ速ニ通報スヘシ

第二條　聯隊區司令官ハ其ノ所管内ニ在籍シ救護ヲ受クル家族ヲ有スル下士兵卒ニ付地方長官ヨリ通報ヲ受ケタルトキハ其ノ本籍、官等級及氏名ヲ本人所屬部隊長ニ通報スヘシ

第三條　部隊長前條ノ通報ヲ受ケタル者ニシテ歸休、現役免除、現役猶豫備役及後備役免除、兵役免除、現役滿期又ハ召集解除トナリタル者アルトキハ之ヲ本人本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ通報スヘシ

第四條　部隊長第二條ノ通報ヲ受ケタル者ニシテ他ノ部隊ニ轉屬シタル者アルトキハ之ヲ新所屬部隊長及本人本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ通報スヘシ

第五條　部隊長第二條ノ通報ヲ受ケタル者ニシテ入營中轉籍シタル者アルトキハ之ヲ舊本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ通報スヘシ舊本籍地所管ノ聯隊區司令官ハ之ヲ新本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ通報スヘシ

第六條　部隊長第二條ノ通報ヲ受ケタル者ニシテ軍事救護法第十一條第十二條第十四條又ハ第十五條ニ該當スルニ至リタル者アルトキハ其ノ本籍、官等級、氏名及事由ヲ速ニ本人本籍地所管ノ地方長官ニ通報スヘシ

第七條　聯隊區司令官ハ第三條ニ該當スル者竝前條ノ通報ヲ受ケタル者ノ本籍、官等級、氏名及事由ヲ速ニ本人本籍地所管ノ地方長官ニ通報スヘシ

第八條　聯隊區司令官第二條ノ通報ヲ爲シタル者ノ中軍事救護法第九條第十一條又ハ第十二條ニ依リ救護ヲ停止シ若ハ救護ノ程度ヲ減少セラレタル者ノ本籍、官等級、氏名及事由ノ通報ヲ受ケタルトキハ之ヲ本人所屬部隊長ニ通報スヘシ

附則

明治三十七年陸達第八十五號ハ之ヲ廢止ス

◉軍事救護法實施ニ關シ報告通報手續

大正六年十二月
海軍省達第百四十六號

軍事救護法實施ニ關シ報告通報手續左ノ通定ム

第一條　海軍人事部長ハ傷病兵、下士卒竝傷病兵ノ家族若ハ救護ニ關シ軍事救護法ノ規定ニ該當スル者ナリヤ否ノ調査ニ付救護地地方長官ヨリ照會ヲ受ケタルトキハ速ニ之ヲ審査シ該當條項ヲ決定シ之ヲ通報スヘシ

第二條　海軍人事部長ハ地方長官ヨリ傷病兵、下士卒竝傷病兵ノ家族若ハ遺族ニ對シ救護ノ開始シタルコトノ通報ヲ受ケタルトキハ之ヲ鎭守府司令長官ニ報告スヘシ

第三條　海軍人事部長ハ別紙樣式ニ依リ救護ヲ受クル者ノ簿册ヲ調製シ毎年四月一日十月一日調ヲ以テ所管内ニ於テ救護ヲ受クル者ノ異動ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第四條　海軍人事部長ハ現兵役竝召集中ノ下士卒ノ家族ニ對シ救護ヲ開始シタル者アルトキハ之ヲ所轄長ニ通報スヘシ

被救護家族ヲ有スル下士卒所屬ヲ變更シタルトキハ前項ニ準シ舊所轄長ヨリ之ヲ新所轄長ニ移牒スヘシ

第五條　海軍人事部長ハ被救護家族ヲ有スル下士卒ニシテ軍事救護法第九條第十一條第十二條第一項ニ該ル者又ハ歸休、現役滿期、兵役免除、召集解除若ハ死亡ノ者アルトキハ其ノ官職氏名及事由ヲ速ニ本籍地所管ノ地方長官ニ通報スヘシ

第六條　海軍人事部長被救護家族ヲ有スル下士卒ニシテ軍事救護法第九條第十一條第十二條第一項ニ依リ又ハ其ノ家族ニシテ同法第十條第十二條第二項ニ依リ救護ヲ停止シ若ハ救護ノ程度ヲ減少セラレタルノ通報ヲ地方長官ヨリ受ケタルトキハ之ヲ鎭守府司令長官ニ報告シ且所轄長ニ通報スヘシ

前項ノ場合ニ於テ軍事救護法第九條第十一條第十二條第一項ニ該ル者又ハ其ノ家族ニシテ同法第十條第十二條第二項ニ依リ又ハ其ノ家族ニシテ同法第十條第十二條第二項ニ依リ救護ヲ停止シ若ハ救護ノ程度ヲ減少セラレタルノ通報ヲ地方長官ヨリ受ケタルトキハ之ヲ鎭守府司令長官ニ報告シ且所轄長ニ通報スヘシ

前項ノ場合ニ於テ軍事救護法第九條第十一條第十二條第一項ニ該ル者又ハ其ノ家族ニシテ同法第十條第十二條第二項ニ依リ救護ヲ停止シ若ハ救護ノ程度ヲ減少セラレタルノ通報ヲ地方長官ヨリ受ケタルトキハ之ヲ鎭守府司令長官ニ報告シ且所轄長ニ通報スヘシ

第七條　海軍人事部長ハ被救護家族ヲ有スル下士卒ニシテ軍事救護法第九條第十一條第十二條第一項ニ該ル者又ハ歸休、現役滿期、兵役免除、召集解除若ハ死亡ノ者アルトキハ其ノ官職氏名及事由ヲ速ニ本籍地所管ノ地方長官ニ通報スヘシ

第八條　海軍人事部長被救護家族ヲ有スル下士卒ニシテ軍事救護法第九條第十一條第十二條第一項ニ該ル者又ハ其ノ家族ニシテ同法第十條第十二條第二項ニ依リ救護ヲ停止シ若ハ救護ノ程度ヲ減少セラレタルノ通報ヲ地方長官ヨリ受ケタルトキハ之ヲ鎭守府司令長官ニ報告シ且所轄長ニ通報スヘシ

第九條　海軍人事部長ハ傷病兵、下士卒竝傷病兵ノ家族若ハ遺族ニ對シ救護ヲ開始シタルコトノ通報ヲ受ケタルトキハ之ヲ鎭守府司令長官ニ報告スヘシ

第十條　海軍人事部長ハ別紙樣式ニ依リ救護ヲ受クル者ノ簿册ヲ調製シ毎年四月一日十月一日調ヲ以テ所管内ニ於テ救護ヲ受クル者ノ異動ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第十一條　海軍人事部長ハ現兵役竝召集中ノ下士卒ノ家族ニ對シ救護ヲ開始シタル者アルトキハ之ヲ所轄長ニ通報スヘシ

被救護家族ヲ有スル下士卒所屬ヲ變更シタルトキハ前項ニ準シ舊所轄長ヨリ之ヲ新所轄長ニ移牒スヘシ

第十二條　海軍人事部長ハ被救護家族ヲ有スル下士卒ニシテ軍事救護法第九條第十一條第十二條第一項ニ該ル者又ハ歸休、現役滿期、兵役免除、召集解除若ハ死亡ノ者アルトキハ其ノ官職氏名及事由ヲ速ニ本籍地所管ノ地方長官ニ通報スヘシ

第十三條　海軍大臣ニ於テ其種類及數量ヲ限定シ官報ニ之ヲ廣告ス

第二條　恤兵ノ爲金員ヲ寄附セムトスル者ハ

第一號書式ノ申出書ニ現金ヲ添ヘ陸軍恤兵部ニ差出スモノトス

但シ寄附申出人ノ便宜ニ依リ銀行爲替郵便爲替又ハ電信爲替ヲ以テ送付スルコトヲ得

前項郵便爲替電信爲替ハ東京市麴町郵便局指定トス

第三條　恤兵ノ爲物品ヲ寄贈セムトスル者ハ第二號書式ノ申出書ヲ居住地ノ市町村長（東京市區ニ在リテハ區長、關東州ニ在リテハ民政署長又ハ支廳長、樺太ニ在リテハ民政事務長官ヲ經テ陸軍恤兵部ニ差出シ其ノ承認ヲ受クルヲ要ス

第四條　寄附金又ハ寄贈品ハ個人ト數人連合又ハ團體等ノ名義タルトハ寄附者又ハ寄贈者ノ任意トス

連合又ハ團體等ニ在リテハ代表者ノ名義ヲ以テ寄附又ハ寄贈ノ申出ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ在リテハ第一號又ハ第二號書式ノ申出書ニ左ノ區分ニ從ヒ同書式ニ準シ其ノ出金額又ハ品種、數量及價格ヲ一頭書シタル内譯明細書ヲ添附スルモノトス但シ内譯明細書ヲ添附スル能ハサル場合ニ在リテハ其ノ事由ヲ記載スルヲ要ス

一　數人連合ノ場合ニ在リテハ各個人毎ニ數團體連合ノ場合ニ在リテハ各團體毎ニ

二　新聞社等ノ募集ニ係ル場合ニ在リテハ各應募者毎ニ

第五條　寄附金及寄贈品ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ之ヲ受理セス

一　個人又ハ某部隊ヲ指定シ其ノ他使用ノ方法ヲ特定シタルモノ

二　寄附金ノ申出書壹通ノ金額壹圓未滿ノモノ

但シ數人連合等ノ場合ニ在リテハ各一名ノ寄附金額拾錢未滿ノモノ

三　寄贈品ノ種類陸軍恤兵部ノ指定以外ノモノ

四　指定ノ品種ト雖申出書壹通ノ數量陸軍恤兵部ノ指定數量未滿ノモノ但シ數人連合等ノ場合ニ在リテハ各一名ノ寄贈品價格拾錢未滿ノモノ

第六條　陸軍恤兵部ニ於テ寄附金ヲ受領シタル者ニ對シテハ其ノ都度陸軍恤兵部ニ於テ寄附金ヲ受領シタルトキハ出納官ヨリ第三號書式ノ受領書ヲ寄附申出人ニ交付スヘシ

第七條　陸軍恤兵部ニ於テ寄贈品ノ申出ヲ承認シタルトキハ該品ヲ受領スヘキ官衙ヲ指定シ第四號書式ノ認可書ヲ寄贈申出人ニ交付シ指定ノ官衙及市町村長ニ通報スヘシ

寄贈申出人前項ノ認可書ヲ受ケタルトキハ市町村長ニ請求シテ寄贈品ノ點檢ヲ受ケ該品ノ荷造ヲ堅牢ニシ其ノ上面及側面ノ二箇所ニ左ノ如キ荷札（荷造ヲ容易ニ依リ直ヲ附著シ認可書記載ノ月日限リ指定ノ官衙ニ送付スヘキモノトス

何府何市何町何番地
縣何郡何町村
氏　名

○
某　地
某官衙行

第何號（認可書ノ號ヲ記ス）陸軍用寄贈品何品何程入

別項荷造ニ要スル費用及指定官衙ニ送付スル費用ハ寄贈申出人ノ負擔トス但シ無賃ヲ以テ鐵道運搬ヲ爲スヘキ寄贈物品ニ係ル兩鐵道線接續驛ニ於ケル貨物取扱費用ハ此ノ限ニ在ラス

指定官衙ニ於テ寄贈品ヲ受領シタルトキハ第五號書式ノ受領證ヲ寄贈申出人ニ交付シ且其旨ヲ市町村長ニ通知シ同時ニ其品目員數及寄贈申出人ノ住所氏名ヲ陸軍恤兵部ニ通報スヘシ

第八條　陸軍恤兵部ハ寄附金ヲ受領シ又ハ寄贈品ヲ受領濟ノ通報ヲ受ケタルトキハ其金額又ハ物品及寄附者又ハ寄贈者ノ住所氏名ヲ官報ニ廣告ス

第九條　寄附金及寄贈品ハ其ノ申出ヲ爲シタル後金額又ハ品種並日等ノ增減又ハ取消ヲ請求スルコトアルモ之ヲ採用セス

第十條　寄贈品ノ申出ヲ爲シタル者ニシテ族籍、住所又ハ氏名等ヲ變更シタルトキハ其ノ都度陸軍恤兵部ニ屆出ツルヲ要ス

第十一條　市町村長ハ第七條第一項ニ依リ認可書ヲ受ケタル者ニシテ寄贈ヲ了セサルトキハ其ノ事實ヲ調査シ之ヲ陸兵部ニ通知スヘシ

第十二條　市町村長ハ第七條第二項ニ依リ寄贈品點檢ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ニ應シ包裝又ハ荷札ニ（點檢濟）ノ證明ヲ爲シ若シ腐敗損傷等ニ依リ使用ニ堪ヘスト認メタルトキハ證明ヲ爲サス直ニ其狀況ヲ恤兵部ニ申出ヘシ

第十三條　寄贈品ハ時宜ニ依リ之ヲ檢査シ腐敗損傷等ノ爲軍隊ノ用ニ適セスト認ムルトキハ既ニ與ヘタル認可ヲ取消シ寄贈品ハ之ヲ差出人ニ還付スルコトアルヘシ其ノ荷造不完全ニシテ戰地ニ運搬途中散逸ノ虞アリト認ムルモノ亦同シ

（別紙）
樣式（用紙美濃紙）

大正「七年一月一日」ヨリ「二月末日」軍事救護法ニ依ル被救護者調

救護開始（再始）年月日	救護停止（再停止）年月日	事由	官（職）氏名	家族人員
開始「七」年「一」月「二十」日	停止「七」年「三」月「五」日	何年何月何日敷島乘組中戰闘（公務）負傷（戰地罹病）（公務罹病）「何年何月何日橫海兵團ニ入團」	何志（徽）	人
再始「七」年「三」月「二十」日		何年何月何日應召」	何一等水兵何某	
開始「七」年「二」月「一」日		何年何月何日明石乘組三四年「戰役出征中戰死」「何年何月何日公務負傷（罹病）（戰地罹病）ノ末死亡」	故二等兵曹何某何	人

記註例

一、救護ヲ開始シタル後該救護ヲ停止シ又ハ該停止後再始シタル者ニ在リテハ其ノ開始、停止、再始ノ年月日ヲ各欄ニ記入スルモノトス

二、事由欄ニハ戰闘負傷、公務負傷、戰地罹病、公務罹病、海兵團ニ入團、召集ニ應ス、戰死、公務死亡等ノコトヲ簡明ニ記入シ且罹病者ニ在リテハ其ノ病名ヲ記入スルモノトス

三、官（職）氏名欄ニハ其ノ死亡シタル者ニ在リテハ「故」ノ文字ヲ冠記シ又卒ニ在リテハ志願兵ト徵兵ノ別ヲ略記スルモノトス

◉恤兵金品取扱規程

明治三十七年二月
陸軍省告示第四號

改正　明治三十七年二第六號、三七年三第九號、第一一號、第一四號、大正三年九第八號、第一一號、七年八第二〇號

恤兵ノ爲軍隊ニ寄附スル金員及寄贈スル物品ノ取扱規程左ノ通定ム

恤兵金品取扱規程

第一條　戰時若ハ事變ニ際シ陸軍軍人ヲ慰恤スル爲寄附ノ金員ハ之ヲ其ノ目的ニ使用シ寄贈ノ物品ハ之ヲ配與ス

但シ受理スヘキ寄贈品ハ軍隊ノ需用ト運搬及配與上ノ必要ニ依リ陸軍恤兵部（陸軍大臣官房以下同シ）ニ於テ其種類及數量ヲ限定シ官報ニ之ヲ廣告ス

第二條　恤兵ノ爲金員ヲ寄附セムトスル者ハ

第一號書式ノ申出書ニ現金ヲ添ヘ陸軍恤兵部ニ差出スモノトス

但シ寄附申出人ノ便宜ニ依リ銀行爲替郵便爲替又ハ電信爲替ヲ以テ送付スルコトヲ得

前項郵便爲替電信爲替ハ東京市麴町郵便局指定トス

第三條　恤兵ノ爲物品ヲ寄贈セムトスル者ハ第二號書式ノ申出書ヲ居住地ノ市町村長（東京市區ニ在リテハ區長、關東州ニ在リテハ民政署長又ハ支廳長、樺太ニ在リテハ民政事務長官ヲ經テ陸軍恤兵部ニ差出シ其ノ承認ヲ受クルヲ要ス

第四條　寄附金又ハ寄贈品ハ個人ト數人連合又ハ團體等ノ名義タルトハ寄附者又ハ寄贈者ノ任意トス

連合又ハ團體等ニ在リテハ代表者ノ名義ヲ以テ寄附又ハ寄贈ノ申出ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ在リテハ第一號又ハ第二號書式ノ申出書ニ左ノ區分ニ從ヒ同書式ニ準シ其ノ出金額又ハ品種、數量及價格ヲ一頭書シタル内譯明細書ヲ添附スルモノトス但シ内譯明細書ヲ添附スル能ハサル場合ニ在リテハ其ノ事由ヲ記載スルヲ要ス

一　數人連合ノ場合ニ在リテハ各個人毎ニ數團體連合ノ場合ニ在リテハ各團體毎ニ

二　新聞社等ノ募集ニ係ル場合ニ在リテハ各應募者毎ニ

第五條　寄附金及寄贈品ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ之ヲ受理セス

一　個人又ハ某部隊ヲ指定シ其ノ他使用ノ方法ヲ特定シタルモノ

二　寄附金ノ申出書壹通ノ金額壹圓未滿ノモノ

但シ數人連合等ノ場合ニ在リテハ各一名ノ寄附金額拾錢未滿ノモノ

三　寄贈品ノ種類陸軍恤兵部ノ指定以外ノモノ

四　指定ノ品種ト雖申出書壹通ノ數量陸軍恤兵部ノ指定數量未滿ノモノ但シ數人連合等ノ場合ニ在リテハ各一名ノ寄贈品價格拾錢未滿ノモノ

第六條　陸軍恤兵部ニ於テ寄附金ヲ受領シタル者ニ對シテハ其ノ都度陸軍恤兵部ニ於テ寄附金ヲ受領シタルトキハ出納官ヨリ第三號書式ノ受領書ヲ寄附申出人ニ交付スヘシ

第七條　陸軍恤兵部ニ於テ寄贈品ノ申出ヲ承認シタルトキハ該品ヲ受領スヘキ官衙ヲ指定シ第四號書式ノ認可書ヲ寄贈申出人ニ交付シ指定ノ官衙及市町村長ニ通報スヘシ

寄贈申出人前項ノ認可書ヲ受ケタルトキハ市町村長ニ請求シテ寄贈品ノ點檢ヲ受ケ該品ノ荷造ヲ堅牢ニシ其ノ上面及側面ノ二箇所ニ左ノ如キ荷札（荷造ヲ容易ニ依リ直ヲ附著シ認可書記載ノ月日限リ指定ノ官衙ニ送付スヘキモノトス

何府何市何町何番地
縣何郡何町村
氏　名

○
某　地
某官衙行

第何號（認可書ノ號ヲ記ス）陸軍用寄贈品何品何程入

別項荷造ニ要スル費用及指定官衙ニ送付スル費用ハ寄贈申出人ノ負擔トス但シ無賃ヲ以テ鐵道運搬ヲ爲スヘキ寄贈物品ニ係ル兩鐵道線接續驛ニ於ケル貨物取扱費用ハ此ノ限ニ在ラス

指定官衙ニ於テ寄贈品ヲ受領シタルトキハ第五號書式ノ受領證ヲ寄贈申出人ニ交付シ且其旨ヲ市町村長ニ通知シ同時ニ其品目員數及寄贈申出人ノ住所氏名ヲ陸軍恤兵部ニ通報スヘシ

第八條　陸軍恤兵部ハ寄附金ヲ受領シ又ハ寄贈品ヲ受領濟ノ通報ヲ受ケタルトキハ其金額又ハ物品及寄附者又ハ寄贈者ノ住所氏名ヲ官報ニ廣告ス

第九條　寄附金及寄贈品ハ其ノ申出ヲ爲シタル後金額又ハ品種並日等ノ增減又ハ取消ヲ請求スルコトアルモ之ヲ採用セス

第十條　寄贈品ノ申出ヲ爲シタル者ニシテ族籍、住所又ハ氏名等ヲ變更シタルトキハ其ノ都度陸軍恤兵部ニ屆出ツルヲ要ス

第十一條　市町村長ハ第七條第一項ニ依リ寄贈品點檢ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ニ應シ包裝又ハ荷札ニ（點檢濟）ノ證明ヲ爲シ若シ腐敗損傷等ニ依リ使用ニ堪ヘスト認メタルトキハ證明ヲ爲サス直ニ其狀況ヲ恤兵部ニ申出ヘシ

第十三條　寄贈品ハ時宜ニ依リ之ヲ檢査シ腐敗損傷等ノ爲軍隊ノ用ニ適セスト認ムルトキハ既ニ與ヘタル認可ヲ取消シ寄贈品ハ之ヲ差出人ニ還付スルコトアルヘシ其ノ荷造不完全ニシテ戰地ニ運搬途中散逸ノ虞アリト認ムルモノ亦同シ

第一號書式

恤兵寄附金申出書

一金何圓也

右恤兵ノ爲寄附仕度候間御採用相成度候也

【明治】年　月　日

本　籍何府（縣）何郡（市）（區）何町（村）何番地
現住所何府（縣）何郡（市）（區）何町（村）何番地
華（士）族（平民）
官職（貴族院議員、衆議院議員）、
位階、勳等　氏　名　㊞
（某社（會）（團體）長（總代）氏名）

陸軍恤兵部
御中

第二號書式

恤兵寄贈品申出書

一何々　何程
此價格金何圓何十錢
一何々　何程
此價格金何圓何十錢
右ハ恤兵ノ爲寄贈仕度候間御採用相成度候也

【明治】年　月　日

本　籍何府（縣）何郡（市）（區）何町（村）何番地
現住所何府（縣）何郡（市）（區）何町（村）何番地
華（士）族（平民）
官職（貴族院議員、衆議院議員）、
位階、勳等　氏　名　㊞
（某社（會）（團體）長（總代）氏名）

陸軍恤兵部
御中

第三號書式

第　號	納
一金何圓	
原	

票

年　月　日

第　號

證

一金何圓
但恤兵寄附金

右正ニ領收候也

【明治】年　月　日

陸軍恤兵部恤兵金出納官
官　氏　名㊞

氏　名　殿

第四號書式

第　號

認可證

一何々　何程
一何々　何程

右恤兵ノ爲寄贈ノ趣承認候條【明治】何年何月何日限リ何地何所ヘ送付可有之候也

【明治】年　月　日

陸軍恤兵部長
（恤兵品ノ調達ヲサルトキハ陸軍省經理局長）
氏　名㊞

氏　名　殿

第五號書式

第　號

納

一何々　何程
一何々　何程

但寄贈品

年　月　日

……㊞

第　號

證

一何々　何程
一何々　何程

但恤兵寄贈品

右正ニ領收候也

【明治】年　月　日

某官衙長　氏
名　㊞

氏　名　殿

●恤兵ノ主意ニ因リ海軍ニ寄贈スル物品ノ取扱規程

大正七年九月
海軍省告示第五號

恤兵ノ主意ニ因リ海軍ニ寄贈スル物品ノ取扱規程左ノ通定ム

恤兵品取扱規程

第一條　海軍軍人ヲ慰恤スルノ目的ヲ以テ寄贈セラレタル物品ヲ恤兵品ト稱ス

第二條　恤兵品ヲ寄贈セントスル者ハ第一號書式ノ恤兵品寄贈申出書ヲ海軍省經理局長ニ差出スヘシ

第三條　恤兵品ノ寄贈ハ一個人タルト數人聯合又ハ會社團體タルトハ寄贈者ノ任意トス

第四條　救人聯合シ又ハ會社團體ヨリ恤兵品ヲ寄贈スルトキハ代表者ノ名義ヲ以テスヘシ此場合ニ於テハ各寄贈者ノ本籍地現住所族籍官位勳功學位爵氏名及品種數量等ヲ明記セル內譯書ヲ添付スヘシ

第五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル恤兵品ノ寄贈申出ハ之ヲ受理セス

一　個人又ハ艦船部隊ヲ指定シ其ノ他用途ヲ特定シタルモノ但シ特ニ認可ヲ經タルモノヲ除ク

二　第十二條ニ依リ海軍省經理局長ノ定ムル品目以外ノモノ及同品目數量以下ノモノ

第六條　海軍省經理局長恤兵品ノ寄贈申出ヲ受理シタルトキハ第二號書式ノ恤兵品寄贈申出受理書ヲ寄贈者ニ交付シ同時ニ該品ヲ受領スヘキ官衙ニ之ヲ通報スヘシ

第七條　恤兵品寄贈者前條ノ恤兵品寄贈申出受理者ヲ受ケタルトキハ該書ニ於テ指定セラレタル官衙ニ現品ヲ送付スヘシ但シ荷物ヲ送達スヘキ官衙ニ至ル迄ノ運搬費ハ寄贈者ノ負擔トス

第八條　恤兵品ノ荷造ハ堅牢ヲ旨トシ荷物ノ上面及側面ノ二箇所ニ左ノ如キ荷札ヲ附著スルモノトス但シ荷造ノ形狀ニ依リ荷札ヲ用ヒスシテ荷物ノ外皮ニ記載スルモ妨ケナシ

恤兵品寄贈申出書

一何々　何程
一何々　何程　何箇

此代價金何圓
此代價金何圓

右恤兵ノ主意ニ依リ寄贈仕度候條御採用相成度候也

大正　年　月　日

本籍地　何府縣郡市區町村番地
現住所　何府縣郡市區町村番地
華（士）族平民官位勳功學位爵　氏名㊞
「何々社（會）團體長（總代）　氏名」

備考

一　申出人ノ住所氏名ハ最モ判明ニ記載スルヲ要ス
一　代價ノミノ代價ニシテ運搬費等ハ算入セサルモノトス

何府縣郡市町村何番地
某　氏　名

何官衙行
海軍用恤兵品「何箇入」

第九條　恤兵品ヲ受領シタル官衙ハ第三號書式ノ恤兵品受領證ヲ寄贈者ニ交付シ同時ニ其ノ品目數量及寄贈者ノ氏名等ヲ海軍省經理局長ニ報告スヘシ

第十條　海軍省經理局長前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ官報ニ公告ス

第十一條　恤兵品ハ時宜ニ依リ之ヲ檢査シ腐敗損傷等ノ爲使用ニ適セスト認ムルトキハ既ニ交付セル恤兵品寄贈申出受理書ヲ取消シ寄贈品ハ之ヲ申出人ニ還付スルコトアルヘシ

第十二條　恤兵品ノ寄贈ヲ受クヘキ品種ハ概ネ左ノ三種トシ各其ノ品目及數量ハ海軍省經理局長之ヲ定メ官報ニ公告ス

糧食品類　繃帶用品類　雜品類

第一號書式

恤兵品寄贈申出書

一何々　何程
此代價金何圓
一何々　何程　何箇
此代價金何圓

右恤兵ノ主意ニ依リ寄贈仕度候條御採用相成度候也

大正　年　月　日

本籍地　何府縣郡市區町村番地
現住所　何府縣郡市區町村番地
華（士）族平民官位勳功學位爵　氏名㊞
「何々社（會）團體長（總代）　氏名」

清軍省經理局長宛

第二號書式

第　號

恤兵品寄贈申出受理書

一何々　何程
一何々　何程

右恤兵ノ主意ヲ以テ寄贈申出ノ趣受理致候條現品ハ「某官衙（艦隊）」ヘ送付可有之候也

大正　年　月　日

海軍省經理局長官　氏　名㊞

何　某　殿

第三號書式

第　號

恤兵品受領證

一何々　何程
一何々　何程

右恤兵ノ主意ヲ以テ寄贈相成受領候也

大正　年　月　日

某官衙（艦隊）長官　氏　名㊞

何　某　殿

●恤兵品無賃運送取扱手續

大正七年十月
海軍省告示第七號

恤兵品無賃運送取扱手續左ノ通定ム

恤兵品無賃運送取扱手續

第一條　恤兵品無賃運送取扱手續ハ恤兵品取扱規程ニ依リ受理セラレタル恤兵品ヲ鐵道又ハ船舶會社ニ託送スルトキハ本手續ニ依リ無賃運送ノ取扱ヲ受クルモノトス

第二條　恤兵品ノ無賃運送ハ國有鐵道、輕便鐵道及左記會社所屬船舶ノ航路區域ニ限ル

日本郵船株式會社
大阪商船株式會社
東洋汽船株式會社
東豫運輸株式會社
隱岐汽船株式會社
北洋商船株式會社
合同汽船株式會社
北日本汽船株式會社
朝鮮郵船株式會社
阿波國共同汽船株式會社
日清汽船株式會社
九州汽船株式會社
石崎汽船株式會社

第三條　恤兵品ノ無賃運送ハ左記様式ノ無賃證ニ依リ之ヲ證明ス

（用紙桃色）

第　號承認

鐵道無賃貨證

海軍省經理局長印

海軍省經理局

第　號承認

汽船無賃貨證

海軍省經理局長印

海軍省經理局

無賃證ハ海軍省經理局ヨリ恤兵品寄贈者ニ交付ス

第四條　恤兵品ヲ託送スルトキハ寄贈者ニ於テ左記様式ノ荷札（荷物ノ形狀ニ依リテハ荷札ヲ用ヒスシテ荷物ノ外皮ニ相當文字ヲ記載スルモ妨ケナシ）ニ無賃證ヲ貼付シ之ニ貨物託送書（船舶ナルトキハ出荷申込書）ヲ添ヘ發車驛（船舶ナルトキハ發船港ノ社店）ニ差出スモノトス

荷札様式

何府縣郡市町村何番地
某　地　氏　名

鐵道無賃貨證

何官衙行
海軍用恤兵品「何品何箇入」

第五條　鐵道驛ニ於テ恤兵品ノ託送ヲ受ケタルトキハ貨物託送書ニ連接スル無賃貨物運送ノ證ニ領收印ヲ押捺シ之ヲ託送者ニ交付シ指定驛迄運送ヲ取扱フモノトス

船舶會社店ニ於テ恤兵品ノ託送ヲ受ケタルトキハ託送貨物領收證ヲ請求スル者ニハ適宜ノ領收證ヲ交付シ指定港灣迄運送ヲ取扱フモノトス

第六條　鐵道驛ニ於テ恤兵品ノ送付ヲ受ケタルトキハ宛名官衙ニ通告シ發車驛ヨリ送付貨物託送書（受取人名）ノ下ニ受領者ノ捺印ヲ徵シ該品ノ引渡ヲ爲スモノトス

船舶社店ニ於テ恤兵品ヲ指定ノ港灣ニ送達シタルトキハ宛名官衙ニ通告シ該品交付ノ手續ヲ爲スモノトス

第七條　鐵道ト船舶トニ跨リ運送ヲ要スルモノニハ鐵道無賃證及船舶無賃證ヲ一列ニ荷札ニ貼付スルモノトス

第八條　恤兵品託送ノ申出ヲ受ケタル鐵道驛又ハ船舶社店ニ於テ貨物ノ荷造及荷札ノ取附等ヲ不充分ト認ムルトキハ託送者ヲシテ之ヲ改造セシムルコトアルヘシ

第九條　恤兵品ノ積込ハ託送者取卸及ヒ受領官衙迄ノ運搬ハ無賃ヲ以テ內國通運株式會社ニ於テ之ヲ爲スモノトス

第十條　前各條ノ外ハ鐵道ニ於ケル一般貨物取扱規程ニ據ルモノトス

第一號書式

鐵道貨物託送書様式

號記　日　月　年　大正

御中　送託所姓住名

記事	車數	重量	噸數	個數	品名	人名 受取 住所	名	驛	先	屆	知號 通番 物書	車號 貨番

人取受　人査檢

日　月　年　正　大　證ノ撥運物貨賃無

物印 貨者	驛 出	名	驛出	差	日	品	個數	名	人	氏	差出	驛	先	屆	車號 貨番
取扱															

（本用紙ハ海軍省經理局ヨリ恤兵品寄贈申出者ニ交付ス）

第二號書式

出荷申込書

揚　丸

要件	出荷人	同取扱人	受	同受人	品名	箇數	原價

右荷物船便ヲ以テ御送有之度候也

大正　年　月　日

船株式會社御中

海軍省經理局

●恩賜賑恤資金管理規則

大正五年一月
總令第一號

恩賜賑恤資金管理規則左ノ通定ム

恩賜賑恤資金管理規則

第一條　大正四年十月大禮ニ際シ賑恤ノ資トシテ朝鮮ニ下賜セラレタル金員ハ之ヲ恩賜賑恤資金トシ朝鮮總督之ヲ管理ス

第二條　恩賜賑恤資金ノ元本ニ之ヲ費消スルコトヲ得ス

第三條　恩賜賑恤資金ヨリ生スル收入ハ之ヲ孤獨其ノ他無告ノ窮民ヲ救助スルノ資ニ充ツ但シ當分ノ間其ノ收入ノ一部ヲ毎年度豫算ノ定ムル所ニ依リ資金ノ元本ニ編入スヘシ

第四條　前條ニ規定スルモノノ外恩賜賑恤資金收入ノ剩餘ハ之ヲ資金ノ元本ニ編入スヘシ但シ必要アルトキハ次年度ニ繰越使用スルコトヲ得

第五條　窮民救助ノ爲必要アルトキハ寄附又ハ補助ヲ爲シ若ハ救助ノ事務ヲ他ニ委託スルコトヲ得

第六條　恩賜賑恤資金ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

第七條　恩賜賑恤資金ニ關スル歲入出豫算ハ毎年度之ヲ調製スヘシ

決算ハ年度經過後三月以內ニ之ヲ調製スヘシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉恩賜賑恤資金窮民救助規程

大正五年一月
總訓第一號
道長官

恩賜賑恤資金窮民救助規程左ノ通定ム

恩賜賑恤資金窮民救助規程

第一條　獨身ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ生業ヲ營ム能ハス且他ニ額ルヘキ親族故舊ナキ者ハ恩賜賑恤資金ヲ以テ之ヲ救助ス

一　癈疾、不具又ハ重病ノ者

二　年齢六十年以上ニシテ老衰シタル者

獨身ニ非スト雖前項ニ該當シ其ノ餘ノ家族老幼疾病癈疾不具又ハ失踪逃亡在監等ニシテ給養ヲ受クルコト能ハサル者及其ノ家族ニシテ十三年未滿ノ者ハ特ニ之ヲ救助スルコトアルヘシ

第二條　救助ヲ要スル者ニハ左ノ標準ニ依リ救助米ヲ給與ス但シ地方ニ依リ麥又ハ粟ヲ以テ之ニ代ヘ若ハ代金ヲ以テ交付スルコトアルヘシ

一　癈疾、不具又ハ老衰ノ者

一年　米　一石八斗以内

二　重病ノ者

一年　米　男四合以内　女三合以内

三　年齢十三年未滿ノ者

一年　米　七斗二升以内

第三條　救助米ハ其ノ年額ヲ四分シ左ノ四期ニ於テ之ヲ交付ス但シ日額ヲ以テ給與スルモノノ支給期日ハ適宜之ヲ定ム

自四月至六月分　四月
自七月至九月分　七月
自十月至十二月分　十月
自一月至三月分　一月

第四條　府尹郡守島司ニ於テ救助ヲ要スト認ムル者アルトキハ其ノ事由ヲ具シ上申スヘシ

前項ノ上申書ニハ左ノ書類ヲ添ヘ道長官ヲ經テ之ヲ進達スヘシ

一　本人及家族ノ身狀調書
二　戸籍又ハ民籍謄本
三　親族故舊ノ有無及其ノ給與ヲ受クルコト能ハサル事由ノ調書
四　現時ノ生活狀況調書

第五條　道長官ハ前條ノ上申ニ付其ノ事實ヲ調査シ意見ヲ附シ之ヲ進達スヘシ

第六條　救助ヲ受クル者死亡シ若ハ救助ヲ要スル事由止ミタルトキハ府尹郡守島司ヨリ速ニ之ヲ報告スヘシ

第七條　道長官ハ毎年少クトモ一回被救助者ノ身狀、生計其ノ他ノ狀況ヲ調査シ之ヲ報告スヘシ

第四款　罹災救助

◉恩賜罹災救助基金管理規則

大正三年三月
總令第三十五號
改正　大正三年五第六二號

恩賜罹災救助基金管理規則左ノ通定ム

恩賜罹災救助基金管理規則

第一條　大正元年九月十三日及大正三年五月二十四日慈恵救濟ノ資トシテ朝鮮ニ下賜セラレタル金ハ之ヲ恩賜罹災救助基金トシ朝鮮總督之ヲ管理ス

第二條　恩賜罹災救助基金ハ非常災害ニ罹リタル者ヲ救助スル爲支出スルモノトス

第三條　罹災救助ノ爲恩賜罹災救助基金ヲ使用シ得ヘキ金額ハ其ノ年度恩賜罹災救助基金ヨリ生スル收入額ヲ限度トス

災害ノ狀況ニ依リ必要アルトキハ前項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得但シ第一條ノ元資金ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第四條　罹災救助ノ爲必要アリト認ムルトキハ寄附又ハ補助ヲ爲シ若ハ其ノ事務ヲ他ニ委託スルコトヲ得

第五款　水難救護

◉朝鮮水難救護令

大正三年四月
制令第十二號
改正　大正七年六第一五號

朝鮮水難救護令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

朝鮮水難救護令

第一條　水難救護ニ關シテハ本令ニ規定スルモノヲ除クノ外水難救護法ニ依ル但シ同法中市町村長トアルハ鴨綠江及豆滿江ノ漂流材木ニ關シテハ朝鮮總督府營林廠長其ノ他ニ關シテハ警察署長又ハ其ノ職務ヲ行フモノトス

第二條　面長ハ救護ノ事務ニ關シ警察官吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者ヲ助ケ警察官吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者現場ニ在ラサルトキハ之ニ代リ其ノ職務ヲ執行スヘシ

第三條　鴨綠江及豆滿江ノ漂流材木ノ拾得者ノ受クル報酬、其ノ所有者ノ納付スル金額及其ノ所有者引渡ヲ請求セサル場合又ハ引渡ヲ請求セサル意思ヲ表示シタル場合ニ於ケル材木ノ所有權ノ歸屬ニ關シテハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依ル

附　則

本令ハ大正三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

◉水難救護法

明治三十二年三月二十九日
法　律　第　九　十　五　號
改正　明治四三三年三第六六號

貶帝國議會ノ協賛ヲ經タル水難救護法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

水難救護法

第一章　遭難船舶救護

第一條　遭難船舶救護ノ事務ハ最初ニ事件ヲ認知シタル市町村長之ヲ行フ

第二條　遭難船舶アルコトヲ發見シタル者ハ遲滯ナク最近地ノ市町村長又ハ警察官吏ニ報告スヘシ

警察官吏ニ於テ報告ニ接シタルトキハ市町村長ニ通知スヘシ

第三條　遭難船舶アルコトヲ認知シタルトキハ市町村長ハ直ニ現場ニ臨ミ救護ニ必要ナル處分ヲ爲スヘシ

第四條　警察官吏ハ救護ノ事務ニ關シ市町村長ヲ助ケ市町村長現場ニ在ラサルトキハ之ニ代リ其ノ職務ヲ執行スヘシ

第五條　救護ハ船長ノ意ニ反シテ之ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ハ市町村長ニ於テ船長ノ人命ヲ保護スル手段ヲ不充分ナリト認メ又ハ船長ニ惡意アリト認メタル場合ニハ之ヲ適用セス

第六條　市町村長ハ救護ノ爲人手招集シ船舶車馬其ノ他ノ物件ヲ徵用シ又ハ他人ノ所有地ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ招集セラレタル者ハ市町村長ノ指揮ニ從ヒ救護ニ從事スヘシ

第七條　市町村長ハ救護ニ際シ必要ナラスト認ムル者、妨害ヲ爲シタル者又ハ不正ノ行爲ヲ爲シタル者ヲ退去セシムルコトヲ得

市町村長ハ救護ニ際シ纂行ヲ爲シタル者ノ身體ヲ拘束スルコトヲ得

市町村長前項ノ處分ヲ爲スニ當リ助力ヲ命セラレタル者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第八條　市町村長ハ救護ニ際シ遭難物件ヲ隱匿シタル者アリト認ムルトキハ其ノ物件ヲ搜索シ又ハ之ヲ差押フルコトヲ得

第九條　市町村長ハ遭難船舶其ノ他救上ケタル物件及前條ノ規定ニ依リ差押ヘタル物件ヲ保管スヘシ

前項ノ物件中ニ郵便物アルトキハ市町村長ハ遲滯ナク最近ノ郵便局ニ引渡スヘシ

第十條　船長ハ遭難後遲滯ナク船籍報告書ヲ作リ市町村長ニ差出スヘシ但シ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スルコトヲ要セサル船舶又ハ湖川港灣ノミヲ限リ航行スル船舶ノ遭難ニ付テハ此ノ限ニアラス

市町村長ハ報告書ノ事實ヲ審査シ相當ト認ムルトキハ船長ノ請求ニ依リ認證ヲ與フヘシ

市町村長ハ報告書ノ事實ヲ審査スル爲船內書類ノ提出ヲ命シ又ハ船員、旅客其ノ他船中ニ在リタル者ヲ呼出シ訊問ヲ爲スコトヲ得

第十一條　市町村長ハ救上ケタル物件左ニ揭クル事項ノ一ニ該當スト認メタルトキハ之ヲ公賣シ其ノ代金ヲ保管スヘシ

一　物件久ニ耐ヘ難キコト又ハ著シク其ノ價格ヲ減スル虞アルコト

二　爆發物、容易ニ燃燒スヘキ物又ハ其ノ他ノ物件ニシテ保管上危險ノ虞アルコト

三　保管ノ費用其ノ物件ノ價格ニ超過シ又ハ其ノ價格ニ比シ不相當ナルコト

前項ノ規定ニ依リ公賣ヲ爲サントスル場合ニ於テ船長其ノ他ニ在ルトキハ市町村長ハ期間內ニ市町村長ノ相當ト認ムル擔保ヲ供シテ物件ノ引渡ヲ請求セサルトキハ公賣ニ付スヘキ旨ヲ船長ニ告知スヘシ

遭難船舶ノ所在地船籍港ナルトキハ前項ノ告知ハ船舶所有者ニ之ヲ爲スヘシ

船長又ハ船舶所有者ニ之ヲ爲スモ前項ノ期間內ニ市町村長ニ於テ公賣ヲ爲サントスル場合ニ於テ船長其ノ他ニ在ルトキハ市町村長ハ期間內ニ市町村長ノ相當ト認ムル擔保ヲ供シテ物件ノ引渡ヲ請求セサルトキハ公賣ニ付スヘキ旨ヲ船長ニ告知スヘシ

遭難船舶ノ所在地船籍港ナルトキハ前項ノ告知ハ船舶所有者ニ之ヲ爲スモ

船長又ハ船舶所有者ニ於テ市町村長ノ定メタル期間內ニ救護費用ヲ納付セサルトキハ市町村長ハ保管ノ物件又ハ擔保トシテ差出シタル物件ヲ公賣シ其ノ代金ヲ保管スヘシ

前項ノ規定ハ市町村長ニ於テ公賣ヲ爲スモ其ノ代金ヲ以テ公賣ノ費用ヲ償フニ足ラスト認メタル物件ニハ之ヲ適用セス

第十二條　救護ニ關係シタル者ハ市町村長ヨリ救護費用ノ支給ヲ受クルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ支給ヲ受クルコトヲ得ル者ニハ之ヲ適用セス

一　救護セラレタル船舶ノ所有者又ハ其ノ船舶ノ船員

二　故意、懈怠又ハ過失ニ因リ遭難ヲ惹起シタル者

三　第五條ノ規定ニ違反シテ救護シタル者

四　救護ニ際シ妨害ヲ爲シ又ハ不正ノ行爲ヲ爲シタル者

五　遭難物件ヲ持去リ又ハ其ノ引渡ヲ拒ミタル者

第十三條　左ニ揭クルモノヲ以テ救護費用トス

一　救護ニ關係シタル者ノ勞務ノ報酬

二　第六條ノ規定ニ依ル土地ノ使用又ハ物件ノ徵用ニ對スル補償

三　救上ケタル物件ノ運搬、保管又ハ公賣ニ要シタル費用

第十四條　救護費用ノ支給ヲ受ケントスル者ハ市町村長ノ指定スル期間內ニ其ノ金額ヲ申立ツヘシ

前項ノ手續ヲ爲ササル者ハ救護費用ノ支給ヲ受クルコトヲ得ス

第十五條　救護費用ノ金額ハ命令ノ規定ニ依リ市町村長之ヲ定ム

市町村長ハ救護費用ノ金額ヲ船長ニ告知シ期間ヲ定メテ之ヲ納付セシムヘシ

遭難船舶ノ所在地船籍港ナルトキ又ハ船長在ラサルトキハ前項ノ告知ハ船舶所有者ニ之ヲ爲スヘシ

第十六條　船長又ハ船舶所有者ハ救護費用ヲ納付シテ市町村長ノ保管ニ係ル金錢其ノ他ノ物件ノ引渡ヲ受クルヘシ

船長又ハ船舶所有者ニハ左ニ揭クル物件ヲ控除シテ其ノ金額ヲ定ム

一　船員及旅客ノ食料

二　運送賃ヲ支拂フコトナクシテ船中ニ携帶スル旅客ノ手荷物

四　第十七條第二項ニ揭クル物件

第十七條　前條ノ規定ハ市町村長ノ定メタル期間內ニ所有者物件ノ引渡ヲ請求セサルトキ又ハ物件ノ價格ノ十分ノ一、沈沒品ニ在リテハ其ノ價格ノ三分ノ一ニ相當スル金額ヲ市町村長ニ納付シテ物件ノ引渡ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第十八條　第十五條第一項、第十六條第一項、第十七條ノ規定ニ依リ市町村長ノ定メタル期間內ニ所有者物件ノ引渡ヲ請求セサルトキ又ハ物件ノ價格ノ十分ノ一、沈沒品ニ在リテハ其ノ價格ノ三分ノ一ニ相當スル金額ヲ納付シテ物件ノ引渡ヲ受ケタル場合ニ於テ市町村長ハ拾得者ニ河川ニ漂流スル材木ニ在リテハ其ノ價格ノ十五分ノ一、其ノ他ノ漂流物ニ在リテハ其ノ物件ノ價格ノ十分ノ一ニ相當スル金額ヲ拾得者ニ交付スヘシ但シ其ノ物件ノ所有者ニ引渡スヘシ但シ其ノ所有者ノ遲滯ナク之ヲ市町村長ニ引渡スヘシ但シ拾得ノ日ヨリ七日以內ニ限リ直ニ其ノ所有者ニ引渡スコトヲ得

前項但書ノ場合ニ於テハ拾得者ハ所有者ヨリ河川ニ漂流スル材木ニ在リテハ其ノ價格ノ十五分ノ一、其ノ他ノ漂流物ニ在リテハ其ノ物件ノ價格ノ十分ノ一、沈沒品ニ在リテハ其ノ物件ノ價額ノ三分ノ一ニ相當スル金額以內ノ報酬ヲ受クルコトヲ得

第十八條　市町村長ハ引渡ヲ受クタル物件ニ保管スヘシ

市町村長ハ前項ノ物件ヲ所有者ニ引渡スヘキコトヲ公告スヘシ但シ其ノ物件ノ所有者知レタルトキハ公告スヘキ事項ヲ直ニ其ノ所有者ニ告知スヘシ此ノ場合ニ於テハ公告ヲ須サルコトヲ得

第十九條　第十一條第一項ノ規定ハ漂流物及沈沒品ニ之ヲ準用ス

第二十條　市町村長ハ前項ノ物件ヲ所有者ニ引渡スヘキコトヲ公告スヘシ但シ其ノ所有者知レタルトキハ公告スヘキ事項ヲ直ニ其ノ所有者ニ告知スヘシ此ノ場合ニ於テハ公告ヲ須サルコトヲ得

第二十一條　第十一條第一項ノ規定ハ漂流物及沈沒品ニ之ヲ準用ス

第二十二條　第一條乃至第四條、第五條第一項第六條乃至第九條、第十二條乃至第十四條、第十五條第一項第二項、第十八條、第十九條第一項、第二十條及第二十一條ノ規定ハ海軍艦船其ノ他官廳ノ所有スル船舶ニ亦之ヲ準用ス

第二十三條　本章ノ規定ハ條約ニ別段ノ定アル場合ニハ之ヲ適用セス

第二章　漂流物及沈沒品

拾得者ハ前項ノ期間内ニ公告、保管、公賣又ハ評價ニ要シタル費用ヲ市町村長ニ納付シ物件ノ引渡ヲ受クルニ因リテ其ノ所有權ヲ取得ス

拾得者ニ於テ前項ノ期間内ニ物件ノ引渡ヲ受ケサルトキハ市町村長ハ其ノ物件ヲ公賣シ其ノ代金ヨリ前項ノ費用ヲ控除スヘシ此ノ場合ニ於テ殘餘アルトキハ國庫ヨリ之ヲ補給ス

第二十九條　警察官吏ニ於テ航路、錨地又ハ建造物ニ障害ヲ爲スト認メタル漂流物又ハ沈沒品ヲ取除キタル場合ニ於テハ警察官吏ハ其ノ物件ヲ市町村長ニ引渡スヘシ

前項ニ依リ市町村長ニ於テ引渡ヲ受ケタル物件ニ付テハ第十一條第一項及第二十五條第二項ノ規定ヲ適用ス

第三十條　前條ニ依リ公告若ハ告知ヲ爲シタル日ヨリ一箇年以内ニ所有者物件ノ引渡ヲ請求シタルトキハ市町村長ハ所有者ヲシテ取除、保管及公告ニ要シタル費用ヲ納付セシメ之ニ其ノ物件ヲ引渡スヘシ

前項ノ期間内ニ物件ノ引渡ヲ請求スル者ナキトキハ市町村長ハ其ノ物件ヲ公賣シ其ノ代金ヲ以テ取除、保管、公告及公賣ニ要シタル費用ヲ支辨スヘシ此ノ場合ニ於テ殘餘アルトキハ國庫ノ取得トシ不足アルトキハ之ヲ補給ス

第三章　罰則

第三十一條　遭難船舶救護ノ場合ニ於テ各號ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

一　正當ノ理由ナクシテ市町村長ノ招集ニ應セス又ハ物件ノ徵用若ハ土地ノ使用ヲ拒ミタル者

二　第六條第二項ノ規定ニ違反シタル者

三　第七條第三項ノ規定ニ違反シタル者

第三十二條　遭難船舶救護ノ場合ニ於テ妨害ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ【重禁錮】ニ處シ二十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三十三條　第十條第一項ノ手續ヲ爲スコトヲ怠リタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條　詐僞ノ所爲ヲ以テ船難報告書ニ認證ヲ受ケタル者ハ十一日以上六月以下ノ【重禁錮】ニ處シ又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十五條ノ一　刑法第三百八十五條及第三百八十七條ノ規定ハ沈沒品ニ亦之ヲ適用ス

第三十五條ノ二　漂流ノ物件ニ對シ現存スル記號ヲ塗抹毀損シ若ハ新ニ附記押捺シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

第三十六條　此ノ法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十七條　明治三年二月二十九日（不開港場規則遭難船救助心得方條目、明治四年四月二十二日外國船漂著ノ節取扱方、明治八年第六十六號布告及明治十年第五十五號布告ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第三十八條　此ノ法律施行ノ際明治八年第六十六號布告ニ依リ處分中ノ事件ニ付テハ其ノ處分ヲ終ルマテ該布告ノ規定ヲ適用ス

第三十九條　此ノ法律ニ於ケル市町村長ノ事務ハ東京市、京都市及大阪市ニ於テハ區長之ヲ行ヒ市制町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ戸長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フ

◉水難救護法施行期日

明治三十二年七月二十九日
勅令第三百五十七號

脫水難救護法施行ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

水難救護法ハ明治三十二年八月四日ヨリ施行ス

◉朝鮮水難救護令施行規則

大正三年五月
總令第八十三號
改正　大正七年八月第四三號

朝鮮水難救護令施行規則左ノ通定ム

朝鮮水難救護令施行規則

第一章　遭難船舶

第一條　水難救護法施行ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

水難救護法ハ明治三十二年八月四日ヨリ施行ス

◉朝鮮水難救護令施行規則

大正三年五月
總令第八十三號
改正　大正七年八月第四三號

朝鮮水難救護令施行規則左ノ通定ム

朝鮮水難救護令施行規則

第一章　遭難船舶

第一條　水難救護法第十條ニ定メタル船難報告書ニハ左ノ事項ヲ記載シ船長之ニ署名捺印スヘシ

一　船舶ノ種類及名稱
二　總噸數又ハ積石數
三　船籍港
四　船舶所有者ノ氏名又ハ名稱
五　發航港、寄航港、到達港及遭難ノ場所
六　遭難及救護ノ顚末
七　船舶ノ損害
八　死傷者ノ氏名
九　滅失又ハ毀損シタル積荷ノ種類、重量又ハ容積、其ノ荷造ノ種類、個數、記號及傭船者又ハ荷送人ノ氏名若ハ名稱

第二條　船難報告書ヲ記載スルニ當リ文字ヲ訂正、挿入又ハ削除シタルトキハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ船長之ニ認印シ訂正又ハ削除シタル文字ハ之ヲ讀ミ得ヘキ樣字體ヲ存スヘシ

第三條　船長ハ船難報告書ニ認證ヲ受ケムトスルトキハ該報告書二通ヲ提出スヘシ

第四條　警察署長（其ノ職務ヲ行フ者ヲ含ム以下同シ）ハ其ノ管轄區域内ニ於テ船舶ノ遭難アリタルトキハ遲滯ナク其ノ事實ヲ調査シ船長ニ對シ必要ナル事項ヲ質問シ且遭難ノ狀況ヲ檢シ又ハ遭難ノ現場ニ臨ミ其ノ實況ヲ檢スヘシ

第五條　警察署長ハ前條ノ調査ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク其ノ調書ヲ作リ之ニ船長ヲシテ署名捺印セシムヘシ

第六條　警察署長ハ前條ノ調書ヲ作リタルトキハ遲滯ナク其ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ管轄地方廳ヲ經由シテ朝鮮總督ニ報告スヘシ

第七條　警察署長ハ前條ノ調書ヲ作リタルトキハ遲滯ナク其ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ管轄地方廳ヲ經由シテ朝鮮總督ニ報告スヘシ

第八條　警察署長ハ第六條ノ報告書ニ意見ヲ附スルコトヲ得

第九條　船長、船舶所有者其ノ他利害關係人ハ救護費用ノ算定ニ關シ警察署長ノ調製シタル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第二章　漂流物又ハ沈沒品

第十條　漂流物又ハ沈沒品ハ之ヲ拾得シタル地ヲ管轄スル警察署長ニ引渡シ航海中拾得シタル場合ニ在リテハ其ノ後最初ニ到著シタル地ノ警察署長ニ引渡スヘシ

第十一條　水難救護法第二十五條第二項ニ定メタル公告ハ物件ノ品質及價格ニ準シ揭示又ハ新聞紙揭載其ノ他管林廳長又ハ警察署長ノ適當ト認ムル方法ニ依リ品名、數量、拾得ノ日時及場所ヲ明示スヘシ

第十二條　水難救護法第二十七條第一項ノ規定ニ依リ所有者ニ於テ物件ノ引渡ヲ申請スルトキハ其ノ物件ニ對スル自己ノ權利ヲ管林廳長又ハ警察署長ニ疏明スヘシ

第三章　公賣

第十三條　水難救護法第十一條第一項、第十七條第一項、第二十八條第三項及第三十條第二項ニ規定スル公賣ハ入札ノ方法ヲ以テ之ヲ行フヘシ

第十四條　管林廳長又ハ警察署長公賣ヲ爲サムトスルトキハ豫メ左ノ事項ヲ公告スヘシ

一　物件ノ種類、數量及品質
二　公賣ノ場所及年月日時

公告ノ方法ニ付テハ第十一條ノ規定ニ依ル

第十五條　水難救護法第十七條第一項ノ規定ニ依リ公賣ヲ爲ス場合ニ於テハ遭難船舶ノ船長又ハ所有者ハ公賣ニ立會フコトヲ得

附　則

本令ハ朝鮮水難救護令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉朝鮮水難救護令取扱手續

大正三年五月
總訓第二十四號
改正　大正七年八月第四三號

管林廳長
警察官署ノ長
西

朝鮮水難救護令取扱手續左ノ通定ム大正三年

六月一日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮水難救護令取扱手續

第一章　遭難船舶

第一條　遭難船舶救護ノ場合ニ於テ人ノ召集物件ノ徵用其ノ他一般ノ處分ニ付テハ救護ノ目的ヲ達スルニ必要ナル程度ヲ限トシ救護費用ノ增加セサル樣注意スヘシ

第二條　救護ノ人命ヲ先ニシ逐次郵便物船内書類其ノ他ノ物件ニ及ホスヘシ

第三條　警察署長（其ノ職務ヲ行フ者ヲ含ム以下同シ）ハ救護ニ關係シタル者ノ勞務ノ種類、危險ノ程度及救護ニ從事シタル時間ノ長短ニ留意スヘシ

第四條　遭難船舶外國ノ國籍ノ屬スルモノナルトキハ警察署長ハ事件ヲ認知シタル後遲滯ナク警務部長ニ左ノ事項ヲ報告スヘシ

一　船舶ノ國籍及名稱
二　遭難ノ事由、場所及年月日

第五條　警察署長ニ於テ水難救護法第十四條第一項ノ期間ヲ指定スルニハ救護ニ關係シタル者カ其ノ金額ヲ申立テ得ヘキ時間ヲ標準トスヘシ

第六條　救護ヲ爲シタル警察署長ハ左ノ事項ヲ記載シタル救護始末書ヲ調製スヘシ

一　遭難船舶ノ種類、名稱及積量並外國ノ船舶ナルトキハ其ノ國籍
二　船舶所有者ノ住所氏名若ハ名稱
三　船長ノ氏名竝海技免狀ヲ有スルモノナルトキハ其ノ種類及番號
四　遭難ノ事由、年月日時及場所
五　救護ノ狀況
六　救護ニ關係シタル者ノ氏名、勞務ノ種類時間
七　水難救護法第十四條及警察署長ノ定メタル救護費用水難救護法第十二條各號ニ揭ケタル者アルトキハ其ノ事項
八　徵用シタル物件及使用シタル土地ノ種類、所有者ノ有無及程度、水難救護法第十四條第一項ノ規定ニ依リ申立テタル金額
警察署長ノ救護費用ノ算定ニ關シ必要ト認ムル事項

第二章　漂流物及沈沒品

第七條　警察署長ハ漂流物又ハ沈沒品ノ拾得ノ日時、場所竝物件ノ存在セシ狀況ヲ訊問スヘシ

第十四條　警察署長ハ漂流物又ハ沈沒品ノ拾得者ノ住所氏名ヲ書ヲ作リ之ニ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　物件ノ名稱、數量、品質其ノ他必要ナル表示
二　拾得ノ日時及場所
三　物件ノ引渡ヲ受ケタル日時
四　拾得者ノ住所氏名
五　公告ノ方法、公告又ハ告知ヲ爲シタル年月日
六　物件ノ評價額
七　公告、保管、公賣又ハ評價ニ要シタル費用
八　拾得者ニ支給スヘキ分一金額
九　所有者ノ住所氏名
十　水難救護法第二十八條第三項ノ場合ニ於ケル國庫ノ取得額又ハ補給金額

管林廳長ハ漂流材木ノ件名書ヲ作リ前項第一號乃至第六號、第九號ノ事項及引渡ヲ受ケタル場所ヲ記載スヘシ

第十五條　管林廳長又ハ警察署長所有者又ハ拾得者ニ物件ヲ引渡シタルトキハ件名書中其ノ氏名ノ項ニ何年何月何日引渡ト附記シ氏名ノ下ニ捺印セシメ又ハ捺印ニ代ヘ受領證ヲ徵スヘシ

第十六條　水難救護法第二十八條第三項又ハ第三十條第二項ノ場合ニ於テ國庫ノ取得トスヘキ殘餘ヲ生シ又ハ國庫ノ補給ヲ受クヘキ不足ヲ生シタルトキハ警察署長ハ左ノ事項ヲ記載シタル漂流物又ハ沈沒品計算書ヲ調製シ警務部長ヲ經由シテ朝鮮總督ニ之ヲ提出スヘシ

一　物件ノ名稱、數量及品質
二　公賣代金
三　公告、保管及公賣ノ費用
四　殘餘又ハ不足ノ金額

水難救護法第三十條第二項ノ場合ニ於テハ管林廳長ハ前項ノ規定ニ準シ漂流物又ハ沈沒品ノ引渡ヲ受ケタルトキハ

船員及旅客ノ員數、死傷者ノ氏名及住所

救上ケタル物件ノ種類及數量

十一　公賣ヲ爲シタル物件ノ種類、數量及公賣代金

十二　物件ノ運搬保管又ハ公賣ニ要シタル費用

第七條　警察署長ニ於テ水難救護法第十五條第二項ノ期間ヲ指定スルニハ船長又ハ船舶所有者カ救護費用ヲ納付シ得ヘキ時間ヲ標準トスヘシ

第八條　遭難船舶外國ノ國籍ニ屬スル場合ニ於テ警察署長ハ水難救護法第十五條第二項及第三項ノ手續ヲ爲サムトスルモ船長、船舶所有者又ハ其ノ代理人朝鮮ニ在ラサルトキハ警察署長ハ救護費用ノ金額及之ヲ納付スヘキ期間ヲ警務部長ニ申立ツヘシ

警務部長ハ前項ノ金額及期間ヲ最近地ニ駐在スル當該國ノ領事官ニ通知スヘシ

第九條　船長又ハ船舶所有者ニ於テ救護費用ヲ納付シ又ハ擔保ヲ供シタルトキハ警察署長ハ之ニ領收書ヲ交付スヘシ

警察署長ハ船長又ハ船舶所有者ニ對シ保管ニ係ル金錢又ハ物件ヲ引渡ヲ爲シタルトキハ領收書ヲ徵スヘシ

第十條　警察署長救護費用ヲ支辨セムトスルトキハ之ヲ領收スヘキ者ヲ呼出シテ其ノ金額ヲ交付シ又ハ便宜ニ依リ直ニ其ノ金額ヲ送付スヘシ

第十一條　警察署長水難救護法第十九條ノ規定ニ依リ國庫ヨリ救護費用ノ全部又ハ一部ノ支給ヲ受クムトスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル漂流物又ハ沈沒品計算書ヲ調製シ警務部長ヲ經由シテ朝鮮總督ニ之ヲ提出スヘシ

第十二條　警察署長ハ救護事務終了シタルトキハ一月内ニ救護始末書ノ謄本ヲ當該警務部長ニ提出スヘシ

第三章　漂流物及沈沒品

第十三條　管林廳長又ハ警察署長拾得者ヨリ漂流物又ハ沈沒品ノ引渡ヲ受ケタルトキハ

（朝）

書ヲ調製シ朝鮮總督ニ提出スヘシ

第十七條　警察署長ニ非サル者朝鮮水難救護令ノ規定ニ依リ其ノ職務ヲ執行シタルトキハ朝鮮水難救護令施行規則第四條ノ船難報告書同第八條ノ救護費用計算書同第十一條又第十四條ノ新聞紙揭載公告等ニ關スル書類又ハ本令第八條第十一條第十二條及第十六條ノ書類ハ遲滯ナク所轄警察署長ニ之ヲ提出シ警察署長ハ所定ノ手續ヲ爲スヘシ

第十八條　警察署長ハ毎年一回附錄第一號書式ニ從ヒ漂流物及沈沒品件數表ヲ調製シ二月末日迄ニ警務部長ニ之ヲ提出スヘシ

警務部長ハ警察署長ヨリ提出シタル件數表ヲ統計シ同一ノ書式ニ依リテ更ニ漂流物及沈沒品件數表ヲ調製シ其ノ年三月末日迄ニ警務總長ヲ經由シ之ヲ朝鮮總督ニ提出スヘシ

警務部長ハ警察署長ヨリ提出シタル救護始末書ノ謄本ニ依リテ毎年一回附錄第二號書式ニ從ヒ遭難船舶取扱表ヲ調製シ翌年二月末日迄ニ警務總長ヲ經由シ之ヲ朝鮮總督ニ提出スヘシ

管林廳長ハ毎年一回附錄第三號書式ニ從ヒ漂流材木整理表ヲ調製シ五月末日迄ニ之ヲ朝鮮總督ニ提出スヘシ

第十九條　管林廳長又ハ警察署長朝鮮水難救護令ノ規定ニ依リ保管スル物件ヲ公賣シ又ハ拾得者ニ引渡シタル場合ニ於テ該物件關稅未納ノ貨物ナルトキハ其ノ種類數量及公賣又ハ引渡ノ場所竝期日ヲ稅關官吏、稅關官吏現場ニ在ラサルトキハ收稅官吏ニ通知シ且稅關手續未濟ノ物件ナルコトヲ入札者又ハ拾得者ニ告知スヘシ

大正七年朝鮮總督府令第六十八號ノ規定ニ依リ國庫ニ於テ取得セル關稅未納ノ漂流材木ヲ引取ラムトスルトキハ管林廳長ハ輸入手續ヲ爲スヘシ

第一號書式

漂流物沈沒品件數表　（何年分）

種別	單位	受入 前年ノ越高	受入 本年ノ受高	受入 計	拂出 拾得後返還高 採木公司ヨリ渡高	拂出 拾得後返還高 引計	殘高	備考
取扱件數								
物件ノ價格	圓							

第二號書式

遭難船舶救護取扱表　（何年分）

被救護船數	救護費	公賣代金	國庫補給金
汽船	隻	圓	圓
噸數帆船			
石數帆船			
計			

備考　救護費トハ水難救護法第十三條ニ規定スル費用ヲ謂フ

第三號書式

漂流材木整理表　（何年度）

朝鮮總督府營林廠長

●鴨綠江及豆滿江ノ漂流材木ニ關スル件

大正七年六月
總令第六十八號

鴨綠江及豆滿江ノ漂流材木ニ關スル件左ノ通定ム

鴨綠江及豆滿江ノ漂流材木ノ拾得者ノ受クル報酬ハ其ノ價格ノ百分ノ十五、其ノ所有者ノ納付スル金額ハ其ノ價格ノ百分ノ二十五トス

前項ノ漂流材木ハ水難救護法第二十五條第二項ノ公告又ハ告知ヲ爲シタル日ヨリ一年內ニ返還ノ請求ナキトキ又ハ返還ノ請求ヲ爲ササル意思ヲ表示シタルトキハ國庫ニ歸屬ス但シ特別ノ協定アル場合ニ於テハ其ノ協定ニ依ル

附　則

本令ハ大正七年制令第十五號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六款　行旅病人死亡人取扱

●行旅病人救護資金管理規則

大正六年四月
總令第二十四號

行旅病人救護資金管理規則左ノ通定ム

行旅病人救護資金管理規則

第一條　行旅病人救護資金ハ朝鮮總督之ヲ管理ス

第二條　行旅病人救護資金ノ元本ハ之ヲ費消スルコトヲ得ス

第三條　行旅病人救護資金ヨリ生スル收入ハ之ヲ行旅病人、行旅死亡人及其ノ同伴者ノ救護取扱ヲ爲スニ充ツ

第四條　行旅病人救護資金ヨリ生スル收入ニシテ剩餘ヲ生シタルトキハ之ヲ資金ノ元本ニ繰入スヘシ但シ必要アルトキハ次年度ニ繰越使用スルコトヲ得

第五條　第三條ニ規定スル救護取扱ニ關シ必要アリト認ムルトキハ寄附若ハ補助ヲ爲シ又ハ救助ノ事務ヲ他ニ委託スルコトヲ得

第六條　行旅病人救護資金ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

第七條　行旅病人救護資金ニ關スル歲入出豫算ハ每年度之ヲ調製スヘシ決算ハ年度經過後三月以內ニ之ヲ調製スヘシ

其ノ一

種別	單位	收入 受入 前年ノ越高	收入 受入 本年ノ受高	收入 受入 計	支出 拂出 拾得後返還高 採木公司ヨリ渡高	支出 拂出 拾得後返還高 引計	支出 差引殘高	支出 備考
取扱件數								
物件ノ價格	圓							

其ノ二

收入 所有者ヨリ納付セル金額	支出 拾得者ニ支給シタル報酬	支出 運搬、保管、告示其ノ他ニ要シタル費用	支出 計	差引殘額	備考
圓					

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●行旅病人行旅死亡人及其ノ同伴者ノ救護又ハ取扱ニ關スル費用繰替支辨ニ關スル件

大正八年十二月
總令第二百三號

行旅病人行旅死亡人及其ノ同伴者ノ救護又ハ取扱ニ關スル費用ハ面費ヲ以テ一時繰替支辨スルコトヲ得

第三章　恩給、退隱料及扶助料

第一款　公務員

●恩給法

大正十二年四月
法律第四十八號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル恩給法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

恩給法

第一章　總則

第一條　公務員及之ニ準スヘキ者竝其ノ遺族ハ本法ノ定ムル所ニ依リ恩給ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第二條　本法ニ於テ恩給トハ普通恩給、增加恩給、一時恩給、傷病賜金、扶助料及一時扶助料ヲ謂フ

普通恩給、增加恩給及扶助料ハ年金トシ一時恩給、傷病賜金及一時扶助料ハ一時金トス

第三條　年金タル恩給ノ給與ハ之ヲ給スヘキ事由ノ生シタル月ノ翌月ヨリ之ヲ始メ權利消滅ノ月ヲ以テ終ル

第四條　恩給年額竝一時恩給及一時扶助料ノ額ノ圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

第五條　恩給ヲ受クルノ權利ハ之ヲ給スヘキ事由ノ生シタル日ヨリ七年間請求セサルトキハ時效ニ因リ消滅ス

第六條　普通恩給又ハ增加恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル者退職後一年內ニ再就職スルトキハ前條ノ期間ハ再就職ニ係ル官職ノ退職ノ日ヨリ進行ス

前項ノ規定ハ普通恩給又ハ增加恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル者退職後一年內ニ第四十二條第一項第一號ニ規定スル官內職員トシテ就職シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第七條　時效期間滿了前二十日內ニ於テ天災其ノ他避クヘカラサル事變ノ爲請求ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ妨碍ノ止ミタル日ヨリ二十日內ハ時效完成セス

時效期間滿了前六月內ニ於テ前權利者生死若ハ所在不明ノ爲又ハ未成年者若ハ禁治產者法定代理人ヲ有セサル爲請求ヲ爲スコト能ハサルトキハ請求ヲ爲スコトヲ得ルニ至リタル日ヨリ六月內ハ時效完成セス

時效期間滿了前ニ適法ニ請求書ヲ發シタルコトノ通信官署ノ公證アルトキハ時效期間內ニ權限アル官公署ニ到達セサルモ之ヲ時效期間內ニ到達シタルモノト看做ス

第八條　公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族互ニ通算セラレ得ヘキ在職年又ハ同一ノ傷病ノ傷病ヲ理由トシテ二以上ノ恩給ヲ併給セラルヘキ場合ニ於テハ其ノ者ノ選擇ニ依リ其ノ一ヲ給ス但シ特ニ併給スヘキコトヲ定メタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族互ニ通算セラレ得ヘキ在職年又ハ同一ノ傷病ヲ理由トシテ本法ニ依ル恩給ト宮內官ノ恩給規程ニ依ル恩給トヲ給セラルヘキ場合ニ於テ宮內官ノ恩給規程ニ依ル恩給ヲ給セラレタルトキハ本法ニ依ル恩給ハ之ヲ給セス

第九條　年金タル恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ權利消滅ス

一　死亡シタルトキ

二　死刑又ハ無期若ハ六年以上ノ懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキ

三　國籍ヲ失ヒタルトキ

第十條　恩給權者死亡シタルトキハ其ノ生存中ノ恩給ニシテ給與ヲ受ケサリシモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ當該公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ遺族ニ給シ遺族ナキトキハ死亡者ノ相續人ニ給ス

第十一條　恩給ヲ受クルノ權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ス

恩給ヲ受クルノ權利ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス但シ國稅徵收法又ハ國稅徵收ノ例ニ依ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　恩給ヲ受クルノ權利ハ勅令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外內閣恩給局長之ヲ裁定ス

第十三條　行政上ノ處分ニ因リ恩給ニ關スル權利ヲ侵害セラレタリトスル者ハ處分後一年內ニ內閣恩給局長ニ具申シ其ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ六月內ニ內閣總理大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ具申ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條　內閣總理大臣及內閣恩給局長ノ裁決ハ關係官廳ヲ羈束ス

第十五條　內閣總理大臣第十三條第二項ノ訴願ノ裁決ヲ爲ス場合ニ於テハ恩給審查會ニ諮問スヘシ

恩給審查會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條　恩給ノ負擔ノ左ノ區分ニ依リ之ヲ負擔ス但シ文官ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受ケサル者ノ一時恩給ハ最終ニ之ニ俸給ヲ給シタル者之ヲ負擔ス

一　文官及準文官竝其ノ遺族ノ恩給ハ國庫

二　軍人及準軍人竝其ノ遺族ノ恩給ハ國庫

三　朝鮮、臺灣及樺太ニ於ケルモノヲ除クノ外公立ノ小學校、實業補習學校、幼稚園及盲啞學校其ノ他ノ小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員及準教育職員竝其ノ遺族ノ恩給ハ其ノ學校又ハ之ニ準スヘキ地方經濟之ヲ負擔ス

四　前號ニ規定スル者以外ノ教育職員及準教育職員竝其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス但シ在外指定學校職員ノ一時恩給ヲ除クノ外一時恩給ハ最終ニ之ニ俸給又ハ給料ヲ給シタル者之ヲ負擔ス

五　警察監獄職員及其ノ遺族ノ恩給ハ最終ニ之ニ俸給又ハ給料ヲ給シタル者之ヲ負擔ス

六　待遇職員及其ノ遺族ノ恩給ハ最終ニ之ニ俸給又ハ給料ヲ給シタル者之ヲ負擔ス但シ官國幣社ノ神職及其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス

第十七條　前條第一號、第二號又ハ第四號ニ揭クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ在職年中ニ第三號ニ揭クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ在職年又ハ第五號若ハ第六號ニ揭クル公務員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受クルモノノ在職年ヲ通算シテ國庫ヨリ恩給ヲ給スル場合ニ於テハ國庫ニ對シ其ノ通算セラルヘキ在職年ニ應シ勅令ノ定ムル所ニ依リ恩給金額ノ分擔ヲ請求スルコトヲ得

前條第三號ニ揭クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族ニ恩給ヲ給スヘキ者ハ其ノ遺族ニ恩給ヲ給スヘキ者ハ其ノ恩給ノ基礎在職年中ニ他府縣又ハ之ニ準スヘキ經濟ノ管轄內ニ於テ在職シタル第三號ニ揭クル公務員又ハ之ニ準スヘキ者トシテノ在職年ヲ含ム場合ニ於テハ當該他府縣

又ハ之ニ準スヘキ經濟ニ對シ其ノ合算セラルル在職年ニ應シ勅令ノ定ムル所ニ依リ恩給金額ノ分擔ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ前條第四號若ハ第五號ニ揭クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族ノ恩給ノ分擔及同條第三號、第五號若ハ第六號ニ揭クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族ノ恩給相互ノ分擔ニ付之ヲ準用ス

第十八條　國庫ヨリ恩給ヲ給スルモ俸給ヲ給セサル公務員ニ俸給ヲ給スル者ハ其ノ俸給ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付スヘシ但シ府縣費ヨリ俸給ヲ給スル文官、在外指定學校及國庫ノ支辨ニ屬スル地方費ヲ以テ維持スル公立學校ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

國庫以外ノ經濟ヨリ恩給ヲ給スルモ俸給ヲ給セサル公務員ニ俸給ヲ給スル者ハ其ノ俸給ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ其ノ經濟ニ納付スヘシ

前項ノ經濟ニ對シテハ國庫ハ前項ニ規定スル納金額ノ二分ノ一ニ相當スル金額ヲ交付ス

第二章　公務員

第一節　通則

第十九條　本法ニ於テ公務員トハ文官、軍人、教育職員及警察監獄職員竝第二十四條ニ揭クル待遇職員ヲ謂フ

本法ニ於テ公務員ニ準スヘキ者トハ準文官、準軍人及準教育職員ヲ謂フ

第二十條　文官トハ武官又ハ宮内官以外ノ官ニ在ル者ヲ謂フ但シ勅令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外國庫ヨリ俸給ヲ給セサル官ニ在ル者ハ此ノ限ニ在ラス

準文官トハ高等文官ノ試補、判任官見習及國庫ヨリ俸給ヲ給セサル官ニ在ル者ニシテ前項但書ノ規定ニ基ク勅令ヲ以テ指定セラレサルモノヲ謂フ

第二十一條　軍人トハ左ニ揭クル者ヲ謂フ

一　陸軍又ハ海軍ノ現役、豫備役、後備役又ハ補充兵役ニ在ル者

二　國民兵役ニ在ル者ニシテ召集セラレタルモノ及志願ニ依リ國民軍ニ編入セラレタル者

準軍人トハ左ニ揭クル者ヲ謂フ

一　陸軍ノ見習士官及海軍ノ候補生

二　勅令ヲ以テ指定スル陸軍又ハ海軍ノ學生生徒

第二十二條　教育職員トハ左ニ揭クル者ヲ謂フ

一　公立ノ學校若ハ圖書館又ハ在外指定學校ノ職員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ給セサル官ニ在ルモノ及判任官以上ノ待遇ヲ受クルモノ

二　府縣立師範學校長

前項ノ在外指定學校トハ在外國本邦人ノ爲ニ設置シタル學校ニシテ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ指定シタルモノヲ謂フ

準教育職員トハ官立又ハ公立ノ學校ノ職員ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノヲ謂フ

第二十三條　警察監獄職員トハ左ニ揭クル者ヲ謂フ

一　警部補、巡査、陸軍警查、海軍警查、貴族院守衞及衆議院守衞

二　看守、女監取締、陸軍監獄看守及海軍監獄看守

三　判任官ノ待遇ヲ受クル消防手

第二十四條　待遇職員トハ左ニ揭クル者ヲ謂フ

一　判任官以上ノ待遇ヲ受クル神宮司廳職員、神宮神部署職員及官國幣社ノ神職

二　判任官以上ノ待遇ヲ受クル監獄ノ保健技師、保健技手、敎誨師、敎師、作業技手、感化院職員及矯正院職員

三　地方待遇職員令ニ依リ判任官以上ノ待遇ヲ受クル者ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ

四　前三號ニ揭クル者ヲ除クノ外國庫ヨリ俸給又ハ給料ヲ給スル待遇職員ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ

第二十五條　本法ニ於テ就職トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ謂フ

一　文官ニ在リテハ任官但シ終身官タル文官ニ在リテハ任官ノ外復職

二　現役軍人ニ在リテハ任官又ハ入營若ハ入團、非現役軍人ニ在リテハ召集ニ依ル部隊編入又ハ志願ニ依リ軍人タル勤務ニ就クコト

三　教育職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ任官、其ノ他ノモノニ在リテハ任命

四　警察監獄職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ任官、其ノ他ノモノニ在リテハ任命但シ巡査若ハ判任官ノ待遇ヲ受クル消防手警部補ニ任シ又ハ警部補巡査若ハ判任官ノ待遇ヲ受クル消防手ニ就職スルトキハ之ヲ轉任ト看做ス

五　待遇職員ニ在リテハ任命

第二十六條　本法ニ於テ退職トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ謂フ

一　文官ニ在リテハ免官、退官又ハ失官但シ終身官タル文官ニ在リテハ免官、退官、失官ノ外退職

二　現役軍人ニ在リテハ現役ヲ離ルルコト、非現役軍人ニ在リテハ召集解除志願ニ依リ軍人タル勤務ニ服スル者ニ付テハ解職

三　教育職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ免官、退官又ハ失官、其ノ他ノモノニ在リテハ免職、退職、解職又ハ失職

四　警察監獄職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ免官、退官又ハ失官、其ノ他ノモノニ在リテハ免職、退職又ハ失職但シ警部補他ノ官職ニ轉シ又ハ他ノ官ヨリ警部補ニ轉シタルトキハ之ヲ退職ト看做ス

五　待遇職員ニ在リテハ免職、退職又ハ失職

第二十七條　第二十五條第一號及前條第一號ノ規定ハ準文官ノ就職及退職ニ付之ヲ準用ス

第二十五條第三號及前條第三號ノ規定ハ準教育職員ノ就職及退職ニ付之ヲ準用ス

準軍人ノ就職トハ戰務、戒嚴地境内ノ勤務又ハ外國ノ鎭戍ニ服スルコトヲ謂ヒ退職トハ其ノ勤務ヲ終ルコトヲ謂フ

第二十八條　公務員ノ在職年ハ就職ノ月ヨリ之ヲ起算シ退職又ハ死亡ノ月ヲ以テ終ル

退職シタル後再就職シタルトキハ前後ノ在職年月數ハ之ヲ合算ス但シ一時恩給ノ基礎ト爲ルヘキ在職年ニ付テハ前ニ一時恩給ノ基礎ト爲リタル在職年ノ年月數ハ之ヲ合算セス

退職シタル月ニ於テ再就職シタルトキハ再在職ノ在職年ハ再就職ノ月ノ翌月ヨリ之ヲ起算ス

第二十九條　公務員二以上ノ官職ヲ併有スル場合ニ於テ其ノ重複スル在職年ニ付テハ年數計算ニ關シ利益ナル一官職ノ在職年ニ依ル

第三十條　軍人ノ恩給權ニ付其ノ在職年ヲ計算スル場合ニ於テハ十一年ニ達スル迄ハ軍人又ハ警察監獄職員以外ノ公務員トシテノ在職年ハ其ノ四分ノ三ニ當ル年月數ヲ以テ之ヲ計算ス

第三十一條　警察監獄職員ノ恩給權ニ付其ノ在職年ヲ計算スル場合ニ於テハ十年ニ達スル迄ハ警察監獄職員又ハ軍人以外ノ公務員トシテノ在職年ハ其ノ三分ノ二ニ當ル年月數ヲ以テ之ヲ計算ス

第三十二條　公務員其ノ職務ヲ以テ從軍シタルトキハ左記各號ノ規定ニ依リ加算ス

一　戰地ニ在リテ戰務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付三月

二　戰地外ニ在リテ戰務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月半

前項ノ規定ハ公務員其ノ職務ヲ以テ戰爭ニ準スヘキ事變ニ際シ戰務ニ服シタル場合ニ付之ヲ準用ス

戰爭ノ期間及地域、戰務ノ範圍竝戰爭ニ準スヘキ事變ハ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條　公務員外國ノ交戰又ハ擾亂ノ地域内ニ於テ危險ヲ顧ミス其ノ職務ヲ以テ勤務シタルトキハ在勤期間ノ一月ニ付二月ヲ加算ス

前項ノ外國ノ交戰又ハ擾亂ノ地域及期間ハ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條　公務員戒嚴地境内ニ於テ危險ヲ顧ミス其ノ職務ヲ以テ勤務シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付二月ヲ加算ス

〔朝〕

前項ノ場合ニ於テ其ノ勤務ノ場所カ内國ナルトキハ加算年ハ其ノ二分ノ一トス

第三十五條　公務員外國鎭戍ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月半ヲ加算ス

第三十六條　航空機乘員タル公務員其ノ職務ヲ以テ航空勤務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付二月以内ヲ加算ス

第三十七條　潛水艦乘員タル公務員其ノ職務ヲ以テ在役潛水艦ノ勤務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月ヲ加算ス

第三十八條　公務員其ノ職務ヲ以テ邊陬又ハ不健康ノ地域ニ引續キ一年以上在勤シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月以内ヲ加算ス不健康ナル業務ニ引續キ一年以上服務シタルトキ亦同シ

前項ノ地域相互間ノ轉勤ハ之ヲ引續キタル在勤ト看做ス

第一項ノ地域及業務ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十九條　海上勤務ニ服スル公務員其ノ職務ヲ以テ遠洋航海ヲ爲シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付半月ヲ加算ス

前項ノ遠洋航海ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十條　第三十二條乃至前條ノ規定ニ依リ附スヘキ加算年ハ在職年ノ計算ニ付勅令ノ定ムル所ニ依リ實在職年ニ從トシテ之ヲ算入ス

加算年ヲ附スヘキ基礎在職年ハ加算事由ノ生シタル月ヨリ之ヲ起算シ其ノ事由ノ止ミタル月ヲ以テ終ル

二種以上ノ加算年ヲ附セラルヘキ期間ニ對シテハ最モ利益ナルモノニ依リ其ノ一ヲ附ス

第四十一條　左ニ揭クル年月數ハ在職年ヨリ之ヲ除算ス

一　普通恩給又ハ增加恩給ヲ受クルノ權利消滅シタル場合ニ於テ其ノ恩給權ノ基礎ト爲リタル在職年

二　第五十一條ノ規定ニ依リ公務員カ恩給ヲ受クルノ資格ヲ失ヒタル在職年

三　在職中六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル場合ニ於テハ其ノ月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄ノ在職年月數但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄ノ在職年月數

四　公務員ノ不法ニ其ノ職務ヲ離レタル月ヨリ職務ニ復シタル月迄ノ在職年月數

五　宮内職員トシテノ在職年月數ニシテ宮内官ノ恩給規程ニ依リ除算セラルヘキモノ

第四十二條　左ニ揭クル年月數ハ之ヲ在職年ニ通算ス

一　宮内官ノ恩給規程ニ依リ宮内官恩給權ノ基礎ト爲ルヘキ宮内職員トシテノ在職年月數

二　準軍人ノ在職年月數

三　高等文官ノ試補又ハ判任官見習引續キ公務員ト爲リタルトキハ公務員トシテノ就職ニ接續スル其ノ勤續年月數ノ二分ノ一ニ相當スル年月數

四　準教育職員引續キ教育職員ト爲リタルトキハ教育職員トシテノ就職ニ接續スル其ノ勤續年月數ノ二分ノ一ニ相當スル年月數

第二十八條、第二十九條及第三十一條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ在職年ニ通算セラルヘキ年月數ノ計算ニ、第三十條ノ規定ハ前項第一號第三號又ハ第四號ノ規定ニ依リ在職年ニ通算セラルヘキ年月數ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第四十三條　第三十二條乃至第四十條ノ規定ハ準軍人ノ在職年ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第四十一條ノ規定ハ前條第一項第二號乃至第四號ノ規定ニ依リ在職年ニ通算セラルヘキ年月ニ付之ヲ準用ス

第四十四條　本法ニ於テ俸給トハ本俸及之ニ準スヘキモノヲ謂フ

本俸ニ準スヘキモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

公務員二以上ノ官職ヲ併有シ各官職ニ付俸給ヲ給セラルル場合ニ於テハ俸給額ヲ合算シタルモノヲ以テ其ノ者ノ俸給額トス

第四十五條　公務員所定ノ年數在職シ退職シタルトキハ之ニ普通恩給又ハ一時恩給ヲ給ス

第四十六條　公務員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癈疾ト爲リ失格原因ナクシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給及增加恩給ヲ給ス

公務員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ失格原因ナクシテ退職シタル後五年内ニ之カ爲不具癈疾ト爲リ又ハ其ノ程度增進シタル場合ニ於テ其ノ期間内ニ請求シタルトキハ新ニ普通恩給及增加恩給ヲ給シ又ハ現ニ受クル增加恩給ヲ不具癈疾ノ程度ニ相應スル增加恩給ニ改定ス

前項ノ期間ヲ經過シタルトキト雖恩給審査會ニ於テ不具癈疾カ公務ニ起因シタルコト顯著ナリト議決シタルトキハ決議後之ニ相當ノ恩給ヲ給シ又ハ改定ス

公務員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癈疾ト爲ルモ公務員ニ重大ナル過失アリタルトキハ前三項ニ規定スル恩給ヲ給セス

第四十七條　前條ノ規定ハ準文官、陸軍ノ見習士官海軍ノ候補生以外ノ準軍人又ハ準教育職員ニシテ在職中公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノ及陸軍ノ見習士官又ハ海軍ノ候補生ニシテ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノニ付之ヲ準用ス

第四十八條　公務員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノト看做ス

一　勅令ヲ以テ指定スル地域ニ在勤中其ノ地ニ於テ流行病ニ罹リタルトキ

二　戰地ニ於テ又ハ公務旅行中流行病ニ罹リタルトキ

三　公務員タル特別ノ事情ニ關聯シテ生シタル不慮ノ災厄ニ因リ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ恩給審査會ニ於テ公務ニ起因シタルモノト同視スヘキモノト議決セラレタルトキ

前項ノ流行病ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前二項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ付之ヲ準用ス

第四十九條　公務傷病ノ原因ヲ分ツテ戰鬪又ハ戰鬪ニ準スヘキ公務ト普通公務トス

戰鬪ニ準スヘキ公務ノ範圍及公務傷病ニ因ル不具癈疾ノ程度竝教育職員、警察監獄職員、待遇職員、準文官、準軍人及準教育職員ノ公務傷病ニ關スル規定ノ適用ニ付テノ階等ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十條　裁定官廳ハ增加恩給ノ裁定ヲ爲スニ當リ將來不具癈疾ノ回復シ又ハ其ノ程度低下スルコトアルヘキコトヲ認メタルトキハ五年間之ニ普通恩給及增加恩給ヲ給ス

前項ノ期間滿了ノ六月前迄傷痍疾病回復セサル者ハ再審査ヲ請求スルコトヲ得再審査ノ結果恩給ヲ給スヘキモノナルトキハ之ニ相當ノ恩給ヲ給ス

第五十一條　公務員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ引續キタル在職ニ付恩給ヲ受クルノ資格ヲ失フ

一　懲戒、懲罰又ハ教員免許狀褫奪ノ處分ニ因リ退職シタルトキ

二　在職中陸軍刑法若ハ海軍刑法ニ依リ死刑、懲役刑若ハ一年以上ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ其ノ他ノ法令ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

第二十六條第四號但書ノ規定ハ前項ノ規定ノ適用ニ關シテハ之ヲ適用セス

第五十二條　公務員ニシテ其ノ退職ノ當時仍他ノ公務員トシテ在職スルモノニ付テハ總テノ公務員ヲ退職スルニ非サレハ之ニ恩給ヲ給セス

公務員ニシテ退職ノ當日又ハ翌日他ノ公務員ニ就職シ之ヲ勤續ト看做サルルモノニ付テハ後ノ公務員ヲ退職スルニ非サレハ之ニ恩給ヲ給セス

公務員ニシテ恩給ヲ給セサル官職ニ轉シ退職シタルモノニ付テハ其ノ轉任ヲ退職ト看做シ之ニ恩給ヲ給ス

第五十三條　公務員ニシテ其ノ退職ノ當時仍第四十二條第一項第一號ニ規定スル宮內職員トシテ在職スルモノニ付テハ本法ニ依ル恩給ハ之ヲ給セス

第五十四條　普通恩給ヲ受クル者再就職シ失格原因ナクシテ退職シ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ恩給ヲ改定ス

一　再就職後在職一年以上ニシテ退職シタルトキ

二　再就職後公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癈疾ト爲リ退職シタルトキ

三　再就職後公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退職シタル後五年內ニ之カ爲不具癈疾ト爲リ又ハ其ノ程度增進シタル場合ニ於テ其ノ期間內ニ請求シタルトキ

前項第三號ノ場合ニ於テハ第四十六條第三項ノ規定ヲ準用ス

第五十五條　前條ノ規定ニ依リ普通恩給ヲ改定スルニハ前後ノ在職年ヲ合算シ其ノ年額ヲ定メ增加恩給ヲ改定スルニハ前後ノ傷痍又ハ疾病ヲ合シタルモノヲ以テ不具癈疾ノ程度トシ其ノ恩給年額ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テ前後ノ傷痍又ハ疾病カ原因ヲ異ニスルトキハ左ノ區別ニ依リ其ノ年額ヲ定ム

一　後ノ傷痍又ハ疾病カ戰闘又ハ戰闘ニ準スヘキ公務ニ基因スルトキハ別表第二號表甲號中前項ノ規定ニ依リ定メタル不具癈疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額ヨリ前ノ增加恩給年額ト別表第二號表甲號中其ノ不具癈疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額トノ差額ヲ控除シタルモノヲ以テ增加恩給ノ年額トス但シ後ノ傷痍又ハ疾病ノミニ因ル增加恩給年額カ前後ノ傷痍又ハ疾病ヲ合シタルモノニ依ル增加恩給年額ト同額ナルトキハ此ノ控除ヲ爲サス

二　後ノ傷痍又ハ疾病カ普通公務ニ起因スルトキハ別表第二號表乙號中前項ノ規定ニ依リ定メタル不具癈疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額ニ前ノ增加恩給年額ト別表第二號表乙號中其ノ不具癈疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額トノ差額ヲ加ヘタルモノヲ以テ增加恩給ノ年額トス

第五十六條　前二條ノ規定ニ依リ恩給ヲ改定スル場合ニ於テ其ノ年額從前ノ恩給年額ヨリ少キトキハ從前ノ恩給年額ヲ以テ改定恩給ノ年額トス

第五十七條　前三條ノ規定ハ宮內官ノ恩給規程ニ依ル恩給ヲ受クル者公務員ト爲リ退職シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第五十八條　普通恩給ハ之ヲ受クル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ間之ヲ停止ス

一　公務員又ハ第四十二條第一項第一號ニ規定スル宮內職員トシテ就職スルトキハ就職ノ月ノ翌月ヨリ退職ノ月迄但シ實在職期間一月未滿ナルトキ、軍人以外ノ公務員トシテ恩給ヲ受クル者陸軍若ハ海軍ノ兵卒トシテ就職スルトキ又ハ准士官以下ノ軍人若ハ準軍人トシテ恩給ヲ受クル者軍人以外ノ公務員トシテ就職スルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ月ノ翌月ヨリ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキハ恩給ハ之ヲ停止セス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ノ翌月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄之ヲ停止ス

前項第二號ノ規定ハ增加恩給ニ付之ヲ準用ス

第五十九條　文官ハ毎月其ノ俸給ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付スヘシ

教育職員ハ毎月其ノ俸給ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付スヘシ但シ朝鮮、臺灣又ハ樺太以外ノ地ニ於ケル公立ノ小學校、實業補習學校、幼稚園及盲啞學校其ノ他ノ小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員ハ此ノ限ニ在ラス

待遇職員ハ之ニ俸給ヲ給スル國庫、府縣其ノ他ノ經濟ニ對シ其ノ俸給又ハ給料ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

第二節　恩給金額

第六十條　文官在職年十五年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十五年以上十六年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トシ十五年以上一年ヲ增ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ外國實勤續在職年十五年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤續在職年中十五年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職當時ノ俸給年額三百分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

在職年四十年ヲ超ユル者ニ給スヘキ恩給年額ハ之ヲ在職年四十年トシテ計算ス

第一項ノ在職年ハ國務大臣トシテ退官スル者ニ付テハ國務大臣トシテノ在職年五年以上ナルヲ以テ足ル

第四十六條、第五十四條第一項第二號若ハ第三號又ハ前項ノ規定ニ依リ在職年十五年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十五年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

第四十七條ノ規定ニ依リ準文官ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トス

第六十一條　軍人在職年十一年以上ニシテ退職シタルトキハ普通恩給ヲ給ス

前項ノ規定ハ準軍人在職年十一年以上ニシテ退職シ且其ノ身分ヲ免セラレタル場合ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ普通恩給ノ年額ハ退職當時ノ階等及其ノ在職年數ニ依リ定メタル別表第一號表ノ金額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ外國實勤續在職年十五年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤續在職年中十五年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職當時ノ軍人ノ階等ニ應シ別表第一號表ノ十一年ノ額ト十二年ノ額トノ差額ノ二分ノ一ニ相當スル金額ヲ之ニ加給ス

在職年五十年ヲ超ユル者ニ給スヘキ恩給年額ハ之ヲ在職年五十年トシテ計算ス

陸海軍准士官ニシテ其ノ官ニ對スル最高ノ俸給ヲ受ケタル者ニハ高等官八等ノ額ヲ給ス

第四十六條、第四十七條又ハ第五十四條第一項第二號若ハ第三號ノ規定ニ依リ在職年十一年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十一年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

準軍人ノ階等ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十二條　教育職員在職年十五年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十五年以上十六年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額百五十分ノ五十ニ相當スル金額トシ十五年以上一年ヲ增ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ小學校、實業補習學校、幼稚園又ハ盲啞學校其ノ他ノ小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員トシテノ勤續在職年十五年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤續在職年中十五年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

第一項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ中學校又ハ之ト同等以下ノ程度ノ學校ノ教育職員トシテ勤續在職年十五年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤續在職年中十五年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職當時ノ俸給年額ノ三百分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

前項ノ中學校ト同等以下ノ程度ノ學校ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條又ハ第五十四條第一項第二號若ハ第三號ノ規定ニ依リ在職年十五年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十五年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

第六十條第三項及第四項ノ規定ハ教育職員

ニ付之ヲ準用ス

第四十七條ノ規定ニ依リ準教育職員ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トス

第六十三條　警察監獄職員在職年十年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十年以上十一年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トシ十年以上一年ヲ增ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ警察監獄職員トシテノ勤續在職年十年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤續在職年中十年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職當時ノ俸給年額ノ三百分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

第四十六條又ハ第五十四條第一項第二號若ハ第三號ノ規定ニ依リ在職年十年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

第六十條第三項及第四項ノ規定ハ警察監獄職員ニ付之ヲ準用ス

第六十四條　待遇職員在職年十五年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十五年以上十六年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トシ十五年以上一年ヲ增ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

第六十條第三項及第四項竝第六十二條第六項ノ規定ハ待遇職員ニ付之ヲ準用ス

第六十五條　公務員ノ增加恩給ノ年額ハ退職當時ノ階等、傷病ノ原因及不具癈疾ノ程度ニ依リ定メタル別表第二號表ノ金額トス

前項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ給スヘキ增加恩給ノ年額ニ付之ヲ準用ス

第六十六條　下士以下ノ軍人公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癈疾ノ程度ニ至ラサルモ之カ爲退職シ又ハ退職後一年內ニ之カ爲一種以上ノ兵役ヲ免セラレタルトキハ之ニ傷病賜金ヲ給ス

傷病賜金ハ之ヲ普通恩給又ハ一時恩給ト併給スルヲ妨ケス

傷病賜金ノ額ハ退職當時ノ階等竝傷病ノ原因及程度ニ依リ定メタル別表第三號表ノ金額トス

前項ノ傷病ノ程度ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十七條　文官在職年一年以上十五年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職當時ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第六十八條　下士以上ノ軍人在職年十一年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス下士以上トシテノ在職年一年未滿ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職當時ノ階等及在職年ノ年數ニ依リ定メタル別表第四號表ノ金額トス

第六十九條　教育職員在職年一年以上十五年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職當時ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第七十條　警察監獄職員在職年一年以上十年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職當時ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第七十一條　待遇職員在職年一年以上十五年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職當時ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第三章　遺族

第七十二條　本法ニ於テ遺族トハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ祖父、祖母、父、母、夫、妻、子及兄弟姉妹ニシテ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ當時之ト同一戶籍內ニ在ルモノヲ謂フ

公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ當時胎兒タル子出生シタルトキハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ當時其ノ戶籍內ニ在リタルモノト看做ス

第七十三條　公務員又ハ之ニ準スヘキ者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ遺族ニハ妻、未成年ノ子、夫、父、母、成年ノ子、祖父、祖母ノ順位ニ依リ之ニ扶助料ヲ給ス

一　在職中死亡シ其ノ死亡ヲ退職ト看做ストキハ之ニ普通恩給ヲ給スヘキトキ

二　普通恩給ヲ給セラルル者死亡シタルトキ

前項ノ規定ニ依ル同順位ノ子數人アルトキハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ヲ被相續人トシタル家督相續ノ順位ニ準シ之ヲ定ム

父母ニ付テハ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニス祖父母ニ付テハ養父母ノ父母ヲ先ニシ實父母ノ父母ヲ後ニシ父母ノ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニス

先順位者タルヘキ者後順位者タル者ヨリ後ニ生スルニ至リタルトキハ前三項ノ規定ハ當該後順位者失權シタル後ニ限リ之ヲ適用ス

第七十四條　未成年ノ子ハ未タ婚姻セサルトキニ限リ之ニ扶助料ヲ給ス

夫又ハ成年ノ子ハ不具癈疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキトキニ限リ之ニ扶助料ヲ給ス

養子ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ家督相續人タルトキ又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者カ家督相續人ニシテ之ヲ戶主ト看做ストキハ其ノ死亡ノ時ニ於テ其ノ家督相續人タルヘキ者ニ限リ之ニ扶助料ヲ給ス

前項ノ家督相續人ニハ之ニ準スヘキ者ヲ包含ス

第七十五條　扶助料ノ年額ハ左ノ各號ニ依ル

一　公務員又ハ之ニ準スヘキ者戰闘又ハ戰闘ニ準スヘキ公務ニ因ル傷痍疾病ノ爲死亡シタルトキハ其ノ普通恩給年額ノ全額

二　公務員又ハ之ニ準スヘキ者普通公務ニ因ル傷痍疾病ノ爲死亡シタルトキハ其ノ普通恩給年額ノ十分ノ八ニ相當スル金額

三　其ノ他ノ場合ニ於テハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ニ給セラルル普通恩給年額ノ十分ノ五ニ相當スル金額

第七十六條　公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡後遺族左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ扶助料ヲ受クルノ資格ヲ失フ

一　子婚姻シ又ハ其ノ家ヲ去リタルトキ但シ父ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ妻若ハ子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　公務員又ハ之ニ準スヘキ者女子ナル場合ニ於テ夫婚姻シ又ハ家ヲ去リタルトキ

三　父、母、祖父又ハ祖母其ノ家ヲ去リタルトキ

第七十七條　扶助料ヲ受クル者六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ月ノ翌月ヨリ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄扶助料ヲ停止ス但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキハ扶助料ハ之ヲ停止セス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ノ翌月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄之ヲ停止ス

前項ノ規定ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ刑ノ執行中又ハ其ノ執行前ニ在ル者ニ扶助料ヲ給スヘキ事由發生シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第七十八條　扶助料ヲ給セラルヘキ者一年以上所在不明ナルトキハ次順位者ノ申請ニ依リ裁定官廳ハ所在不明中扶助料ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第七十九條　前二條ノ扶助料停止ノ事由アル場合ニ次順位者アルトキハ停止期間中扶助料ハ之ヲ當該次順位者ニ轉給ス

第八十條　遺族左ノ各號ノ一ニ該當スルト

きハ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ失フ
一　其ノ家ヲ去リタルトキ但シ妻夫ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ遺族タル子ニシテ分家シタルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入リタルトキ及子父ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ妻若ハ子ニシテ分家シタルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入リタルトキハ此ノ限ニ在ラス
二　妻、子又ハ夫婚姻シタルトキ
三　不具廢疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキ夫又ハ成年ノ子ニ付其ノ事情止ミタルトキ

第八十一條　公務員又ハ之ニ準スヘキ者第七十三條第一項各號ノ一ニ該當シ兄弟姉妹以外ニ扶助料ヲ受クル者ナキトキハ其ノ兄弟姉妹未成年又ハ不具廢疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキ場合ニ限リ之ニ一時扶助料ヲ給ス
前項ノ一時扶助料ノ金額ハ兄弟姉妹ノ人員ニ拘ラス扶助料年額ノ一年分乃至五年分ニ相當スル金額トス

第八十二條　文官、教育職員若ハ待遇職員在職年一年以上十五年未滿ニシテ在職中死亡シ又ハ警察監獄職員在職年一年以上十年未滿ニシテ在職中死亡シタル場合ニハ其ノ遺族ニ一時扶助料ヲ給ス
前項ノ一時扶助料ノ金額ハ公務員ノ死亡ノ當時ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ其ノ公務員ノ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス
下士以上ノ軍人在職年一年以上十一年未滿ニシテ在職中死亡シタル場合ニハ其ノ遺族ニ一時扶助料ヲ給ス
前項ノ一時扶助料ノ金額ハ死亡者ノ階等及在職年ノ年數ニ依リ定メタル別表第四號表ノ金額トス

附　則

第八十三條　本法ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八十四條　左ノ法令ハ之ヲ廢止ス
一　官吏遺恩給法
一　官吏遺族扶助法
一　軍人恩給法
一　市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法
一　府縣立師範學校長俸給竝公立學校職員退隱料及遺族扶助料法
一　明治二十四年法律第四號
一　明治二十九年法律第十三號
一　官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則
一　明治二十三年法律第七十五號
一　明治三十三年法律第七十六號
一　明治三十三年法律第七十七號
一　巡査看守退隱料及遺族扶助料法
一　明治三十五年法律第二十九號
一　在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法
一　明治四十年法律第四十八號
一　明治四十年法律第四十九號
一　明治四十一年法律第三十五號
一　明治四十三年法律第三十號
一　明治四十四年法律第六十一號
一　明治四十四年法律第六十七號
一　明治四十五年法律第十一號
一　大正七年法律第三十二號
一　大正十年法律第三十五號
一　大正十一年法律第十八號
一　大正十一年法律第十九號
一　明治二十二年勅令第九十三號
一　明治二十三年勅令第九十八號
一　明治二十五年勅令第十八號
一　明治三十二年勅令第百九十六號
一　明治三十八年勅令第二百二十九號
一　明治四十年勅令第百八十八號
一　明治四十年勅令第百八十九號
一　明治四十一年勅令第七十一號
一　明治四十五年勅令第七十七號
一　大正七年勅令第六十二號
一　大正十年勅令第二百六十八號
一　大正十一年勅令第八十七號
一　大正十一年勅令第二百八十四號
一　明治九年第九十九號逓陸軍恩給令
一　明治十五年第四十一號逓巡査看守給助例

一　明治十六年第三十八號逓海軍恩給令
一　明治十七年第一號逓官吏恩給令

第八十五條　本法施行前給與事由ノ生シタル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノニ付テハ從前ノ規定ニ依ル
從前ノ規定ニ依ル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノハ之ヲ本法ニ依リ受クヘキ恩給ト看做ス
前項ノ場合ニ於テ從前ノ規定ニ依ル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノカ本法ニ依リ給與スル恩給ノ何レノ種類ニ屬スヘキカハ公務員及其ノ遺族ノ種類竝給與ノ事由ニ依リ之ヲ定ム
從前ノ規定ニ依ル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノニシテ本法ニ依ル恩給ニ該當セサルモノアルトキハ本法ニ依ル恩給中最近キ性質ヲ有スルモノニ依ル

第八十六條　第五條乃至第七條ノ規定ハ從前ノ規定ニ依リ生シタル恩給、退隱料、遺族扶助料、退官賜金、退職給與金、退職一時金、給助金、賑恤金、一時扶助金其ノ他之ニ準スヘキモノヲ受クヘキ權利ニシテ本法施行ノ日迄ニ從前ノ規定ニ依ル請求期間ヲ經過セサルモノニ付之ヲ適用ス

第八十七條　第十條ノ規定ハ本法施行前給與ノ事由ヲ生シタル恩給、退隱料、遺族扶助料、退官賜金、退職給與金、退職一時金、給助金、賑恤金、一時扶助金其ノ他之ニ準スヘキモノニ付本法施行後其ノ給與ヲ爲ス場合ニ付之ヲ適用ス

第八十八條　從前ノ規定ニ依リ內閣總理大臣ノ爲シタル裁定ハ具申、訴願又ハ行政訴訟ニ付テハ之ヲ本法ニ依ル內閣恩給局長ノ裁定ト看做シ從前ノ規定ニ依ル具申ノ裁決ハ之ヲ本法ニ依ル具申ノ裁決ト看做ス
本法施行ノ際現ニ具申中又ハ訴願中ノ事件ニ付テハ從前ノ手續規定ニ依リ之ヲ完結ス

第八十九條　府縣ニシテ本法施行ノ際市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第十四條ノ規定ニ依リ小學校教員恩給基金ヲ備フルモノハ本法施行後引續キ其ノ恩給基金ヲ備フル府縣ニ於テハ第十八條第二項ノ規定ニ依ル納金ハ之ヲ其ノ恩給基金ト爲スヘシ
恩給基金ハ其ノ利子ヲ以テ府縣カ給與スヘキ教育職員若ハ準教育職員又ハ其ノ遺族ノ恩給ニ充ツルノ外之ヲ支消スルコトヲ得ス
府縣ニ於テ給與スヘキ教育職員若ハ準教育職員竝其ノ遺族ノ恩給ハ恩給基金ノ利子及第十八條第三項ノ規定ニ依リ國庫ヨリ交付スル給與金其ノ他ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨シ不足アルトキハ府縣費ヲ以テ之ヲ補充スヘシ
恩給基金ノ管理ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九十條　本法施行前ノ在職ニ付在職年ヲ計算スル場合ハ從前ノ規定ニ依ル但シ本法施行ノ際現ニ在職スル者ニ付テハ其ノ在職ニ繼續スル在職ニ限リ本法施行前ノ在職ト雖加算年ニ關スル規定ヲ除クノ外本法ニ依リ其ノ在職年ヲ計算ス
前項但書ノ場合ニ於テ從前ノ規定ニ依リ特ニ通算シ得ヘキコトヲ定メラレタル年月數アルトキハ前項但書ノ規定ニ拘ラス之ヲ在職年ニ通算ス

第九十一條　內地人タル公務員其ノ職務ヲ以テ臺灣、朝鮮、關東州（關東廳及其ノ所屬官署職員ニ付テハ南滿洲鐵道附屬地ヲ含ム）、樺太又ハ南洋群島ニ一定ノ期間引續キ在勤シタルトキハ當分ノ內在勤期間ノ一月ニ付半月ヲ加算ス
前項ノ引續キ在勤スヘキ期間ハ軍人ニ在リテハ六月、警察監獄職員ニ在リテハ二年、其ノ他ノ公務員ニ在リテハ三年トス

第九十二條　公務員其ノ職務ヲ以テ國境警備又ハ理蕃ノ爲危險地域內ニ勤務シタルトキハ當分ノ內在勤期間ノ一月ニ付一月半ヲ加算ス
前項ノ危險地域及期間ハ勤裁ヲ以テ之ヲ定ム

ム

第四十條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第九十三條　海軍警吏補ヨリ海軍巡査ト爲リシ者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ現ニ南洋臨巡査ノ職ニ在ルモノニ付テハ其ノ海軍警吏補トシテノ在職年月數ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ巡査トシテ在職シタルモノト看做ス

第九十四條　朝鮮總督府巡査補ヨリ朝鮮總督府巡査ト爲リシ者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ在職スルモノニ付テハ其ノ續監府巡査補及朝鮮總督府巡査補トシテノ在職年月數ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ巡査トシテ在職シタルモノト看做ス

第九十五條　臺灣總督府巡査補ヨリ臺灣總督府巡査ト爲リシ者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ在職スルモノニ付テハ其ノ臺灣總督府巡査補トシテノ在職年月數ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ巡査トシテ在職シタルモノト看做ス

第九十六條　大正九年七月三十一日以前ニ休職若ハ待命ト爲リタル者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ休職若ハ待命中ノモノ又ハ其ノ遺族同日以前ノ俸給ニ基キ年金タル恩給ヲ受クヘキ場合ニ於テハ其ノ金額算出ノ基礎タル俸給年額ハ其ノ額ニ勅令ノ定ムル金額ヲ加ヘタル額トス

第九十七條　第四十六條第二項第三項及第五十四條第一項第三號第二項ノ規定ハ本法施行前退職シタル公務員ニ付之ヲ適用ス
前項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ規定ニ依リ給スル恩給ノ金額ハ本法施行前ノ分ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

第九十八條　第四十八條ノ規定ハ本法施行前傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ本法施行後退職シ本法施行後不具廢疾ト爲リタル者ニハ之ヲ適用セス仍從前ノ例ニ依ル

第九十九條　第五十八條ノ規定ハ教育職員及教官其ノ他教育事務ニ從事スル文官ニ付テハ當分ノ內之ヲ適用セス其ノ退隱料又ハ恩給ノ停止ハ仍從前ノ例ニ依ル但シ教育職員及教官其ノ他教育事務ニ從事スル文官學習院ノ職員ト爲リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ノ施行セラルル期間內ニ屬スル教育職員ノ在職年ト教官其ノ他教育事務ニ從事スル文官以外ノ公務員ノ在職年トハ互ニ之ヲ通算セス仍從前ノ例ニ依ル教育職員ノ在職年ト第四十二條第一項各號ニ揭クル在職年トノ間ニ付亦同シ但シ學習院ノ職員トシテノ在職年ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第一項ノ規定ノ施行セラルル期間內ニ文官ヨリ教育職員又ハ教官其ノ他教育事務ニ從事スル文官ニ轉任シタル者ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ場合ニ於テハ第五條ニ規定スル請求期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第百四條　第八十五條乃至前條ニ規定スルモノヲ除クノ外本法ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（別表）

第一號表

階等	在職年數	將官及相當官	佐尉官及相當官	下士	兵卒
親任官	一年	一、八〇〇圓	一、三〇〇圓	一、〇八〇圓	七八〇圓
	二年	一、八六〇	一、三四〇	一、一二〇	八〇四
	三年	一、九二〇	一、三八〇	一、一六〇	八三〇
	四年	一、九八〇	一、四二〇	一、二〇〇	八五六
	五年	二、〇四〇	一、四六〇	一、二四〇	八八二
高等官 一等	一年	二、一〇〇	一、五〇〇	一、二八〇	九一〇
	二年	二、一六〇	一、五四〇	一、三二〇	九三六
	三年	二、二二〇	一、五八〇	一、三六〇	九六二
	四年	二、二八〇	一、六二〇	一、四〇〇	九九八
	五年	二、三四〇	一、六六〇	一、四四〇	一、〇三四
二等	一年	二、四〇〇	一、七〇〇	一、四八〇	一、〇六〇
	二年	二、四六〇	一、七四〇	一、五二〇	一、〇八六
	三年	二、五二〇	一、七八〇	一、五六〇	一、一一二
	四年	二、五八〇	一、八二〇	一、六〇〇	一、一三八
	五年	二、六四〇	一、八六〇	一、六四〇	一、一六四
三等	一年	二、七〇〇	一、九〇〇	一、六八〇	一、一九〇
	二年	二、七六〇	一、九四〇	一、七二〇	一、二一六
	三年	二、八二〇	一、九八〇	一、七六〇	一、二四二
	四年	二、八八〇	二、〇二〇	一、八〇〇	一、二六八
	五年	二、九四〇	二、〇六〇	一、八四〇	一、二九四
四等	一年	三、〇〇〇	二、一〇〇	一、八八〇	一、三二〇
	二年	三、〇六〇	二、一四〇	一、九二〇	一、三四六
	三年	三、一二〇	二、一八〇	一、九六〇	一、三七二
	四年	三、一八〇	二、二二〇	二、〇〇〇	一、四〇〇
	五年	三、二四〇	二、二六〇	二、〇四〇	一、四二六

階等	在職年數	准士官	判任官	兵
一等	一年	一、〇〇〇圓	七八〇圓	五六〇圓
	二年	一、〇六〇	八二〇	五八八
	三年	一、一二〇	八六〇	六一三
	四年	一、一八〇	九〇〇	六四〇
	五年	一、二四〇	九四〇	六六八
二等	一年	一、三〇〇	九八〇	六九五
	二年	一、三六〇	一、〇二〇	七二三
	三年	一、四二〇	一、〇六〇	七五〇
	四年	一、四八〇	一、一〇〇	七七八
	五年	一、五四〇	一、一四〇	八〇五
三等	一年	一、六〇〇	一、一八〇	八三三
	二年	一、六六〇	一、二二〇	八六〇
	三年	一、七二〇	一、二六〇	八八八
	四年	一、七八〇	一、三〇〇	九一五
	五年	一、八四〇	一、三四〇	九四三
四等	一年	一、九〇〇	一、三八〇	九七〇
	二年	一、九六〇	一、四二〇	一、〇〇
	三年	二、〇二〇	一、四六〇	一、〇三
	四年	二、〇八〇	一、五〇〇	一、〇六
	五年	二、一四〇	一、五四〇	一、〇九

階等	在職年數	陸軍上等兵 海軍一等兵	陸軍一等卒 海軍二等兵	陸軍二等卒 海軍三等兵	陸軍四等卒 海軍四等兵
一等	一年	一、〇〇〇圓	九六〇圓	七八〇圓	五九〇圓
	二年	一、〇六	九九	七九	五九
	三年	一、一二	一、〇二	八一	六〇
	四年	一、一八	一、〇五	八三	六〇
	五年	一、二四	一、〇八	八五	六一
二等	一年	一、三〇	一、一一	八八	六二
	二年	一、三六	一、一四	九〇	六三
	三年	一、四二	一、一七	九二	六四
	四年	一、四八	一、二〇	九五	六五
	五年	一、五四	一、二三	九七	六六
三等	一年	一、六〇	一、二六	一、〇〇	六八
	二年	一、六六	一、二九	一、〇二	六九
	三年	一、七二	一、三二	一、〇五	七〇
	四年	一、七八	一、三五	一、〇八	七一
	五年	一、八四	一、三八	一、一〇	七二
四等	一年	一、九〇	一、四一	一、一三	七四
	二年	一、九六	一、四四	一、一六	七五
	三年	二、〇二	一、四七	一、一九	七六
	四年	二、〇八	一、五〇	一、二一	七七
	五年	二、一四	一、五三	一、二四	七八

十六年	二、七五〇	二、三八四	二、〇五四	一、六八六	一、四四九	一、一九一	八六一	六二四	五一四	四四〇	三二〇	二九〇	二六〇	二三〇	二一〇	一九五	一八〇
十七年	二、八〇〇	二、四二八	二、〇九二	一、七一七	一、四七六	一、二一三	八七七	六三六	五二四	四四八	三二七	二九七	二六七	二三六	二一六	二〇一	一八六
十八年	二、八五〇	二、四七一	二、一二九	一、七四七	一、五〇二	一、二三四	八九二	六四七	五三三	四五六	三三四	三〇四	二七四	二四二	二二二	二〇七	一九二
十九年	二、九〇〇	二、五一五	二、一六七	一、七七八	一、五二九	一、二五六	九〇八	六五九	五四三	四六四	三四一	三一一	二八一	二四八	二二八	二一三	一九八
二十年	二、九五〇	二、五五八	二、二〇四	一、八〇八	一、五五五	一、二七七	九二三	六七〇	五五二	四七二	三四八	三一八	二八八	二五四	二三四	二一九	二〇四
二十一年	三、〇〇〇	二、六〇二	二、二四二	一、八三九	一、五八二	一、二九九	九三九	六八二	五六二	四八〇	三五五	三二五	二九五	二六〇	二四〇	二二五	二一〇
二十二年	三、〇五〇	二、六四五	二、二七九	一、八六九	一、六〇八	一、三二〇	九五四	六九三	五七一	四八八	三六二	三三二	三〇二	二六六	二四六	二三一	二一六
二十三年	三、一〇〇	二、六八九	二、三一七	一、九〇〇	一、六三五	一、三四二	九七〇	七〇五	五八一	四九六	三六九	三三九	三〇九	二七二	二五二	二三七	二二二
二十四年	三、一五〇	二、七三二	二、三五四	一、九三〇	一、六六一	一、三六三	九八五	七一六	五九〇	五〇四	三七六	三四六	三一六	二七八	二五八	二四三	二二八
二十五年	三、二〇〇	二、七七六	二、三九二	一、九六一	一、六八八	一、三八五	一、〇〇一	七二八	六〇〇	五一二	三八三	三五三	三二三	二八四	二六四	二四九	二三四
二十六年	三、二五〇	二、八一九	二、四二九	一、九九一	一、七一四	一、四〇六	一、〇一六	七三九	六〇九	五二〇	三九〇	三六〇	三三〇	二九〇	二七〇	二五五	二四〇
二十七年	三、三〇〇	二、八六三	二、四六七	二、〇二二	一、七四一	一、四二八	一、〇三二	七五一	六一九	五二八	三九七	三六七	三三七	二九六	二七六	二六一	二四六
二十八年	三、三五〇	二、九〇六	二、五〇四	二、〇五二	一、七六七	一、四四九	一、〇四七	七六二	六二八	五三六	四〇四	三七四	三四四	三〇二	二八二	二六七	二五二
二十九年	三、四〇〇	二、九五〇	二、五四二	二、〇八三	一、七九四	一、四七一	一、〇六三	七七四	六三八	五四四	四一一	三八一	三五一	三〇八	二八八	二七三	二五八
三十年	三、四五〇	二、九九三	二、五七九	二、一一三	一、八二〇	一、四九二	一、〇七八	七八五	六四七	五五二	四一八	三八八	三五八	三一四	二九四	二七九	二六四
三十一年	三、五〇〇	三、〇三七	二、六一七	二、一四四	一、八四七	一、五一四	一、〇九四	七九七	六五七	五六〇	四二五	三九五	三六五	三二〇	三〇〇	二八五	二七〇
三十二年	三、五五〇	三、〇八〇	二、六五四	二、一七四	一、八七三	一、五三五	一、一〇九	八〇八	六六六	五六八	四三二	四〇二	三七二	三二六	三〇六	二九一	二七六
三十三年	三、六〇〇	三、一二四	二、六九二	二、二〇五	一、九〇〇	一、五五七	一、一二五	八二〇	六七六	五七六	四三九	四〇九	三七九	三三二	三一二	二九七	二八二
三十四年	三、六五〇	三、一六七	二、七二九	二、二三五	一、九二六	一、五七八	一、一四〇	八三一	六八五	五八四	四四六	四一六	三八六	三三八	三一八	三〇三	二八八
三十五年	三、七〇〇	三、二一一	二、七六七	二、二六六	一、九五三	一、六〇〇	一、一五六	八四三	六九五	五九二	四五三	四二三	三九三	三四四	三二四	三〇九	二九四
三十六年	三、七五〇	三、二五四	二、八〇四	二、二九六	一、九七九	一、六二一	一、一七一	八五四	七〇四	六〇〇	四六〇	四〇三	四〇〇	三五〇	三三〇	三一五	三〇〇
三十七年	三、八〇〇	三、二九八	二、八四二	二、三二七	二、〇〇六	一、六四三	一、一八七	八六六	七一四	六〇八	四六七	四三七	四〇七	三五六	三三六	三二一	三〇六
三十八年	三、八五〇	三、三四一	二、八七九	二、三五七	二、〇三二	一、六六四	一、二〇二	八七七	七二三	六一六	四七四	四四四	四一四	三六二	三四二	三二七	三一二
三十九年	三、九〇〇	三、三八五	二、九一七	二、三八八	二、〇五九	一、六八六	一、二一八	八八九	七三三	六二四	四八一	四五一	四二一	三六八	三四八	三三三	三一八
四十年	三、九五〇	三、四二八	二、九五四	二、四一八	二、〇八五	一、七〇七	一、二三三	九〇〇	七四二	六三二	四八八	四五八	四二八	三七四	三五四	三三九	三二四
四十一年	四、〇〇〇	三、四七二	二、九九二	二、四四九	二、一一二	一、七二九	一、二四九	九一二	七五二	六四〇	四九五	四六五	四三五	三八〇	三六〇	三四五	三三〇
四十二年	四、〇五〇	三、五一五	三、〇二九	二、四七九	二、一三八	一、七五〇	一、二六四	九二三	七六一	六四八	五〇二	四七二	四四二	三八六	三六六	三五一	三三六
四十三年	四、一〇〇	三、五五九	三、〇六七	二、五一〇	二、一六五	一、七七二	一、二八〇	九三五	七七一	六五六	五〇九	四七九	四四九	三九二	三七二	三五七	三四二
四十四年	四、一五〇	三、六〇二	三、一〇四	二、五四〇	二、一九一	一、七九三	一、二九五	九四六	七八〇	六六四	五一六	四八六	四五六	三九八	三七八	三六三	三四八
四十五年	四、二〇〇	三、六四六	三、一四二	二、五七一	二、二一八	一、八一五	一、三一一	九五八	七九〇	六七二	五二三	四九三	四六三	四〇四	三八四	三六九	三五四
四十六年	四、二五〇	三、六八九	三、一七九	二、六〇一	二、二四四	一、八三六	一、三二六	九六九	七九九	六八〇	五三〇	五〇〇	四七〇	四一〇	三九〇	三七五	三六〇
四十七年	四、三〇〇	三、七三三	三、二一七	二、六三二	二、二七一	一、八五八	一、三四二	九八一	八〇九	六八八	五三七	五〇七	四七七	四一六	三九六	三八一	三六六
四十八年	四、三五〇	三、七七六	三、二五四	二、六六二	二、二九七	一、八七九	一、三五七	九九二	八一八	六九六	五四四	五一四	四八四	四二二	四〇二	三八七	三七二
四十九年	四、四〇〇	三、八二〇	三、二九二	二、六九三	二、三二四	一、九〇一	一、三七三	一、〇〇四	八二八	七〇四	五五一	五二一	四九一	四二八	四〇八	三九三	三七八
五十年	四、四五〇	三、八六三	三、三二九	二、七二三	二、三五〇	一、九二二	一、三八八	一、〇一五	八三七	七一二	五五八	五二八	四九八	四三四	四一四	三九九	三八四

〔朝〕

第二號表

傷病原因	症狀等差	親任、勅任／勅任待遇／將官	奏任三等乃至五等／奏任待遇／佐官	奏任六等乃至九等／奏任待遇／尉官	判任一等／判任待遇／准士官	判任二等三等／下士	判任四等／兵卒
甲號 戰闘又ハ戰闘ニ準スヘキ公務	特別項	圓	圓	圓	圓	圓	圓
	第一項	二、四〇〇	一、八〇〇	一、二〇〇	一、〇八〇	九九〇	九〇〇
	第二項	二、〇〇〇	一、五〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	八二五	七五〇
	第三項	一、六〇〇	一、二〇〇	八〇〇	七二〇	六六〇	六〇〇
	第四項	一、二八〇	九六〇	六四〇	五七六	五二八	四八〇
	第五項	一、〇〇〇	七五〇	五〇〇	四五〇	四一三	三七五
	第六項	八〇〇	六〇〇	四〇〇	三六〇	三三〇	三〇〇
乙號 普通公務	特別項	圓	圓	圓	圓	圓	圓
	第一項	一、九二〇	一、四四〇	九六〇	八六四	七九二	七二〇
	第二項	一、六〇〇	一、二〇〇	八〇〇	七二〇	六六〇	六〇〇
	第三項	一、二八〇	九六〇	六四〇	五七六	五二八	四八〇
	第四項	一、〇二四	七六八	五一二	四六一	四二三	三八四
	第五項	八〇〇	六〇〇	四〇〇	三六〇	三三〇	三〇〇
	第六項	六四〇	四八〇	三二〇	二八八	二六四	二四〇

備考　特別項ハ各號第一項ノ金額ニ其ノ十分ノ五以內ヲ加ヘタルモノトス

第三號表

傷病原因	症狀等差	下士	兵卒
甲號 戰闘又ハ戰闘ニ準スヘキ公務	第一款	圓 一、六五〇	圓 一、五〇〇
	第二款	一、四八五	一、三五〇
	第三款	一、三二〇	一、二〇〇
	第四款	一、一五五	一、〇五〇
	第五款	九九〇	九〇〇
	第六款	八二五	七五〇
	第七款	六六〇	六〇〇
	第八款	四九五	四五〇
	第九款	三三〇	三〇〇
	第十款	一六五	一五〇
乙號 普通公務	第一款	圓 一、三二〇	圓 一、二〇〇
	第二款	一、一八八	一、〇八〇
	第三款	一、〇五六	九六〇
	第四款	九二四	八四〇
	第五款	七九二	七二〇
	第六款	六六〇	六〇〇
	第七款	五二八	四八〇
	第八款	三九六	三六〇
	第九款	二六四	二四〇
	第十款	一三二	一二〇

第四號表

階等	在職年數	一年	二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年	十年
高等官 將官及相當官	親任	圓						四、三七五	五、〇〇〇	五、六二五	六、二五〇
	一等	圓					三、二五〇	三、七九二	四、三三三	四、八七五	五、四一七
	二等	圓				二、三三三	二、八〇〇	三、二六七	三、七三三	四、二〇〇	四、六六七
	三等	圓			一、五三三	一、九一七	二、三〇〇	二、六八三	三、〇六七	三、四五〇	三、八三三
高等官 佐尉官及相當官	四等	圓		九八八	一、三一七	一、六四六	一、九七五	二、三〇四	二、六三三	二、九六三	三、二九二
	五等	圓	五四二	八一三	一、〇八三	一、三五四	一、六二五	一、八九六	二、一六七	二、四三八	二、七〇八
	六等	圓 一九六	三九二	五八八	七八四	九八〇	一、一七六	一、三七二	一、五六八	一、七六四	一、九六〇
	七等	圓 一四二	二八三	四二五	五六七	七〇八	八五〇	九九二	一、一三三	一、二七五	一、四一七
	八等	圓 一一七	二三三	三五〇	四六七	五八三	七〇〇	八一七	九三三	一、〇五〇	一、一六七
判任官 准士官	一等	圓 一〇〇	二〇〇	三〇〇	四〇〇	五〇〇	六〇〇	七〇〇	八〇〇	九〇〇	一、〇〇〇
判任官 下士	二等	圓 七一	一四三	二一四	二八五	三五六	四二八	四九九	五七〇	六四〇	七一三
	三等	圓 六四	一二八	一九一	二五五	三一九	三八三	四四六	五一〇	五七四	六三八
	四等	圓 五六	一一三	一六九	二二五	二八一	三三八	三九四	四五〇	五〇六	五六三

●恩給法施行令

大正十二年八月
勅令第三百六十七號

改正　大正一二年一二第五二〇號、一三年三第五一、一三年一二第四〇七號、一四年三第五三號

朕恩給法施行令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

恩給法施行令

第一條　恩給法第十條ノ規定ニ依リ恩給ノ支給ヲ受クヘキ遺族及其ノ順位ハ扶助料ヲ受クヘキ遺族及其ノ順位ニ依ル

同法第十條ノ恩給權者カ死亡ノ當時家族ナリシトキハ其ノ相續人ハ恩給權者死亡ノ當時之ト同一戸籍內ニ在リタルコトヲ要ス

第二條　恩給法第十條ノ場合ニ於テ死亡シタル恩給權者未タ恩給ノ請求ヲ爲サザリシトキハ恩給ノ支給ヲ受クヘキ遺族又ハ相續人ハ自己ノ名ヲ以テ死亡者ノ恩給ノ請求ヲ爲スコトヲ得

裁定ヲ經タル恩給ニ付テハ死亡者ノ遺族又ハ相續人ハ自己ノ名ヲ以テ其ノ恩給ノ支給ヲ受クルコトヲ得

第三條　恩給法第十二條ノ規定ニ依リ內閣恩給局長以外ノ者ニ於テ恩給ヲ受クルノ權利ヲ裁定スヘキ場合ハ左ノ區分ニ依ル

一　內地ニ於ケル公立ノ小學校、實業補習學校、幼稚園、盲啞學校其ノ他ノ小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員及準教育職員竝其ノ遺族ノ恩給ハ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府縣ニ在リテハ府縣知事之ヲ裁定ス

二　前號ニ掲クルモノヲ除クノ外內地ニ於ケル公立ノ學校又ハ圖書館ノ教育職員ニシテ文官ニ非サルモノノ一時恩給ハ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府縣ニ在リテハ府縣知事之ヲ裁定ス

三　朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於ケル公立ノ小學校、普通學校、公立學校、實業補習學校、幼稚園、盲啞學校、其ノ他ノ小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員及準教育職員竝其ノ遺族ノ恩給ハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官之ヲ裁定ス

四　朝鮮、臺灣、樺太、關東州(南滿洲鐵道附屬地ヲ含ム以下同シ)又ハ南洋群島ニ於テ國庫ヨリ俸給ヲ受クル警察監獄職員(陸海軍ニ屬スルモノ及樺太ニ於ケル刑務所ニ屬スルモノヲ除ク)及其ノ遺族ノ恩給ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督(道ノ警

第六十二條第四項又ハ同法第六十三條第八項ノ規定ニ依リ加給ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ加給セラルヘキ勤續在職年ノ一年ニ付六月

前三項ノ規定ハ恩給法第十七條第二項乃至第五項ノ分擔請求ニ付之ヲ準用ス

第六條　左ニ揭クルモノハ國庫ヨリ俸給ヲ給セサルモ恩給法第二十條ノ規定ノ適用ニ付之ヲ文官トス

一　都市計畫地方委員會ノ職員ニシテ官吏タルモノ

二　神宮司廳又ハ神宮皇學館ノ職員ニシテ官吏タルモノ

三　朝鮮道立醫院ノ職員ニシテ官吏タルモノ

四　朝鮮道立醫院ノ職員ニシテ官吏タルモノ

第七條　恩給法第二十一條第二項第二號ノ陸軍又ハ海軍ノ學生生徒トハ陸軍士官學校、陸軍幼年學校、陸軍戶山學校、陸軍工科學校、海軍兵學校、海軍機關學校及海軍經理學校ノ生徒、陸軍ノ士官候補生、海軍豫備生徒竝海軍豫備練習生ニシテ軍人ニ非サルモノヲ謂フ

第八條　恩給法第二十二條第二項ノ在外指定學校ハ外務大臣及文部大臣之ヲ指定ス但シ關東州ニ在リテハ關東長官之ヲ定ム

前項ノ指定ニ關スル規程ハ外務大臣及文部大臣又ハ關東長官之ヲ定ム

第九條　恩給法第二十二條第三項ノ準教育職員トハ教授心得、助教授心得、教諭心得、助教諭心得、准訓導及判任官ノ待遇ヲ受ケサル保姆ニシテ專任教員タルモノヲ謂フ

第十條　恩給法第二十四條第三號ノ待遇職員トハ左ニ揭クル者ヲ謂フ

一　道路管理職員制ニ依ル職員

二　地方土木職員制ニ依ル職員

三　地方産業職員制ニ依ル職員（市費ヲ以テ給スルモノヲ除ク）

四　地方衛生職員制ニ依ル職員

五　地方學校衛生職員制ニ依ル職員

六　防疫職員制第二十六條ノ規定ニ依ル職員

七　動員（之ニ準スルモノヲ含ム）部隊ニ編入セラレタル者ニ付テハ編入ノ月、動員（之ニ準スルモノヲ含ム）下令前ヨリ其ノ部隊ニ在リタル者ニ付テハ其ノ下命ノ月ヨリ加算ス

二　戰爭開始後戰務ニ服スヘキ地ニ到リタル者及戰爭中其ノ地ヨリ歸還シタル者ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス

前三項ノ規定ニ依リ加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ同法第四十條第二項ノ規定ニ依リ外務大臣及文部大臣ノ指定シタル現役ノ陸軍將校ノ在職年ハ其ノ在職年ニ付キ一年ヲ加算ス

第十三條　恩給法第三十五條ノ規定ニ依リ鐵道職員ニシテ官吏タルモノ

三　鐵道醫

四　北海道廳事業手

五　朝鮮ニ於ケル監獄ノ藥劑師及臺灣ニ於ケル警察醫

六　臺灣又ハ關東州ニ於ケル檢疫員及檢疫醫員

第十二條　恩給法第三十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ從軍加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ同法第四十條第二項ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ何レニ依ル

一　戰地ニ到ルヘキ事由ノ生シタル當時所在スル地ノ屬スル地域ヲ離レタル月ヨリ加算ス

二　戰爭中戰地ヨリ歸還シタル者ニ付テハ其ノ歸還スヘキ地ノ屬スル地域ニ到著シタル月迄加算ス

前項ノ地域トハ內地、朝鮮、臺灣、樺太、關東州、南洋群島及之ニ準スヘキ外國ノ地區ヲ謂フ

恩給法第三十二條第一項第二號ノ規定ニ依リ從軍加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ同法第四十條第二項ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ何レニ依ル

一　動員（之ニ準スルモノヲ含ム）部隊ニ編入セラレタル者ニ付テハ編入ノ月、動員（之ニ準スルモノヲ含ム）下令前ヨリ其ノ部隊ニ在リタル者ニ付テハ其ノ下命ノ月ヨリ加算ス

二　戰爭開始後戰務ニ服スヘキ地ニ到リタル者及戰爭中其ノ地ヨリ歸還シタル者ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス

前三項ノ規定ニ依リ加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ同法第四十條第二項ノ規定ニ依リ加算ス

第十三條　恩給法第三十五條ノ規定ニ依リ鐵道職員ニシテ官吏タルモノ

三　神宮司廳又ハ神宮皇學館ノ職員ニシテ官吏タルモノ

四　朝鮮道立醫院ノ職員ニシテ官吏タルモノ

第十四條　恩給法第三十六條ノ規定ニ依リ航空加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ左ノ區分ニ依ル

一　同月內ニ於テ飛行時數五時間以上飛行機ニ搭乘シ航空勤務ニ服シタルトキ又ハ航空機ニ搭乘シ特ニ危險ト認ムル航空試驗ニ從事シタルトキハ其ノ一月ニ付一月半

二　同月內ニ於テ飛行時數一時間以上飛行機ニ搭乘シ又ハ五時間以上航空船、航空中ノ艦船繫留ノ氣球若ハ自由氣球ニ搭乘シ航空勤務ニ服シタルトキハ其ノ一月ニ付一月

三　前二號ニ揭クルモノヲ除クノ外航空機ニ搭乘シ航空勤務ニ服シタルトキハ其ノ一月ニ付半月

第十五條　恩給法第三十八條ノ規定ニ依リ加算スヘキ邊陬又ハ不健康ノ地域及其ノ加算ノ程度ハ別表第二號表ニ依ル

第十六條　邊陬又ハ不健康ノ地域ノ加算ハ在勤地外ノ地ヨリ其ノ在勤地ニ赴任シタル者ニ付テハ在勤地ニ到著シタル月ヨリ、其ノ地ニ在リテ就職シタル者ニ付テハ就職ノ月ヨリ之ヲ起算シ其ノ在勤ヲ止メタル月ヲ以テ終ル

前項ノ地域ニ在勤中引續キ九十日以上其ノ地域ヲ離レタルトキハ全ク地域ヲ離レタル

部補、巡査及消防手竝其ノ遺族ノ恩給ハ道知事、臺灣ニ在リテハ臺灣總督（州又ハ廳ノ警部補及巡査竝其ノ遺族ノ恩給ハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、關東州ニ在リテハ關東長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ裁定ス

五　內地ニ於テ國庫以外ノ者ヨリ俸給ヲ受クル警察監獄職員及其ノ遺族ノ恩給ハ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府縣ニ在リテハ府縣知事（警視廳ニ在リテハ警視總監）、朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長之ヲ裁定ス

第四條　恩給法第十七條第一項ノ規定ニ依リ分擔スヘキ恩給ハ普通恩給及扶助料トシ國庫カ恩給金額ノ分擔ヲ請求スル場合ニ於テハ當該公務員ノ在職年中ニ恩給ノ負擔者タルコトヲ要スルモノニ付テハ在職年ヲ含ムトキハ各在職年ノ年數ヲ其ノ各官職ノ最終ノ俸給年額（下士以下ノ軍人及之ニ相當スル準軍人ニ付テハ別表第一號表ノ俸給年額ノ百分ノ二十ニ乘シタル數ニ比例シテ分擔請求額ヲ定ム

恩給法第四十五條ノ規定ニ依リテ普通恩給ヲ受クヘキ所定ノ年數ニ滿タサル在職年ノ者ニ給スル普通恩給及其ノ遺族ニ給スル扶助料ニ付テハ當該所定ノ年數ニ滿タサル年月數ニ加分擔請求額ヲ計算上之ヲ當該恩給ノ負擔者ニ歸スヘキ在職年ト看做ス

分擔請求額ニ付在職年數ヲ計算スル場合ニ於テハ左ノ割合ニ依リ其ノ基礎タル在職年月數ニ加算ス

一　恩給法第六十二條第三項ノ規定ニ依リ加給スヘキ場合ニ於テハ加給セラルヘキ勤續在職年ノ一年ニ付一年

二　恩給法第六十條第三項、第六十一條第四項、第六十二條第七項、第六十三條第五項又ハ第六十四條第三項ノ規定ニ依リ外國勤續ニ因ル加給ヲ爲スヘキ場合及同法第六十二條第四項又ハ同法第六十三條第八項ノ規定ニ依リ加給ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ加給セラルヘキ勤續在職年ノ一年ニ付六月

前三項ノ規定ニ依リ分擔請求ニ付之ヲ準用ス

第五條　恩給法第十七條第二項乃至第五項ノ分擔請求ニ付之ヲ準用ス

第六條　恩給法第十七條第一項ノ規定ニ依リ分擔スヘキ恩給ハ普通恩給及扶助料トシ國庫カ恩給金額ノ分擔ヲ請求スル場合ニ於テハ當該公務員ノ在職年中ニ恩給ノ負擔者タルコトヲ要スルモノニ付テハ在職年ヲ含ムトキハ各在職年ノ年數ヲ其ノ各官職ノ最終ノ俸給年額（下士以下ノ軍人及之ニ相當スル準軍人ニ付テハ別表第一號表ノ俸給年額ト看做ス）ニ乘シタル數ニ比例シテ分擔請求額ヲ定ム

恩給法第四十五條ノ規定ニ依リテ普通恩給ヲ受クヘキ所定ノ年數ニ滿タサル在職年ノ者ニ給スル普通恩給及其ノ遺族ニ給スル扶助料ニ付テハ當該所定ノ年數ニ滿タサル年月數ニ加分擔請求額ヲ計算上之ヲ當該恩給ノ負擔者ニ歸スヘキ在職年ト看做ス

分擔請求額ニ付在職年數ヲ計算スル場合ニ於テハ左ノ割合ニ依リ其ノ基礎タル在職年月數ニ加算ス

一　恩給法第六十二條第三項ノ規定ニ依リ加給スヘキ場合ニ於テハ加給セラルヘキ勤續在職年ノ一年ニ付一年

二　恩給法第六十條第三項、第六十一條第四項、第六十二條第七項、第六十三條第五項又ハ第六十四條第三項ノ規定ニ依リ外國勤續ニ因ル加給ヲ爲スヘキ場合及同法

第二十一條　恩給法第四十八條第一項第一號ニ規定スル流行病及地域ハ別表第三號表ニ依ル

第二十二條　恩給法第四十八條第一項第二號ノ流行病ノ種類左ノ如シ

一　猩紅熱

二　腦脊髓膜炎

三　コレラ

四　腳氣（戰地ニ限ル）

發疹チフス

六　腸チフス

七　パラチフス

八　ペスト

九　回歸熱

十　赤痢

十一　流行性腦脊髓膜炎

十二　流行性感冒

十三　肺ヂストマ病

十四　トリパノゾーム病

十五　ワイルス氏病

十六　カラアザール

十七　黃熱

第二十三條　恩給法第四十九條第二項ノ規定ニ依ル戰闘ニ準スヘキ公務ニ因ル傷痍疾病トハ左ニ揭クルモノヲ謂フ

一　戰地ニ於テ勤務中敵ノ設置若ハ遺棄シタル危險物ニ因ル又ハ敵對行動中ノ不可抗力ニ因ル傷痍疾病

二　暴徒鎭壓又ハ集團ヲ爲ス馬賊海賊掃蕩討伐中ノ敵對行動ニ因ル又ハ敵對行動中ノ不可抗力ニ因ル傷痍疾病

三　外國ノ交戰若ハ擾亂ノ地域ニ於テ勤務中又ハ該地域內ヲ職務ヲ以テ旅行中ニ於ケル該交戰又ハ擾亂ニ因ル傷痍疾病

四　航空機ニ乘シ航空勤務中又ハ潛水艦ニ乘シ潛航勤務中ノ不可抗力ニ因ル傷痍疾病

五　職務ヲ以テ兇賊又ハ監獄囚チ逮捕スルニ當リ危害チ加ヘラルヘキコトチ豫知シ得ルニ拘ラス危險チ冒シテ其ノ職務チ執行シタルヲ爲ハヘラレタル傷痍疾病

六　職務チ以テコレラ又ハペスト ノ防疫、診療又ハ看護ニ直接從事シ之カ爲罹リタル該疾病

第二十四條　恩給法第三十八條ノ規定ニ依リ不具癈疾ノ程度チ分チテ左ノ七項トス

特別項症

一　常ニ就床チ要シ且複雜ナル介護チ要スルモノ

二　重大ナル精神障碍ノ爲常ニ監視又ハ複雜ナル介護チ要スルモノ

三　身體諸部ノ障碍チ綜合シテ其ノ程度第一項症ニ第一項症乃至第六項症チ加ヘタルモノ

第一項症

一　複雜ナル介護チ要セサルモ常ニ就床チ要スルモノ

二　精神的又ハ身體的作業能力チ失ヒ僅ニ自用チ辨シ得ルニ過キサルモノ

三　咀嚼及言語ノ機能チ併セ癈シタルモノ

四　兩眼ノ視力カ視標〇・二チ〇・五メートル以上ニテ兩下肢チ失ヒタルモノ

五　肘關節以上ニテ兩上肢チ失ヒタルモノ

六　膝關節以上ニテ兩下肢チ失ヒタルモノ

第二項症

一　精神的又ハ身體的作業能力ノ大部チ失ヒタルモノ

二　咀嚼又ハ言語ノ機能チ癈シタルモノ

三　兩眼ノ視力カ視標〇・一チ一メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

四　兩耳全ク聾シタルモノ

五　腕關節以上ニテ兩上肢チ失ヒタルモノ

六　足關節以上ニテ兩下肢チ失ヒタルモノ

第三項症

一　咀嚼又ハ言語ノ機能ニ大ニ妨アルモノ

二　兩睾丸チ全ク失ヒタルモノ

三　肘關節以上ニテ一上肢チ失ヒタルモノ

四　膝關節以上ニテ一下肢チ失ヒタルモノ

五　兩耳ノ聽力カ耳聲ニ接セサレハ大聲チ解シ得サルモノ

第四項症

一　泌尿器ノ機能ニ大ニ妨アルモノ

二　兩眼ノ視力カ視標〇・一チ二メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

三　腕關節以上ニテ一上肢チ失ヒタルモノ

四　足關節以上ニテ一下肢チ失ヒタルモノ

第五項症

一　鼻チ失ヒ其ノ機能ニ大ニ妨アルモノ

二　頭部、顏面等ニ大ナル醜形チ殘シタルモノ

三　一眼ノ視力カ視標〇・一チ〇・五メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

四　一側總指チ全ク失ヒタルモノ

第六項症

一　頸部又ハ軀幹ノ運動ニ大ニ妨アルモノ

二　一眼ノ視力カ視標〇・一チ一メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

三　一側拇指及示指チ全ク失ヒタルモノ

四　前項ノ各症ニ該當セサル傷痍疾病ノ症項ハ前項ノ規定ニ準シ之チ査定ス

視力チ測定スル場合ニ於テハ屈折異常ノ有無ニ付テハ矯正視力ニ依リ視標ハ萬國共通視力標ニ依ル

第二十五條　準文官ノ公務傷病ニ關スル規定ノ適用ニ付テノ階等ハ左ノ區分ニ依ル

一　高等官ノ試補ハ判任官一等トシ判任官見習ハ同四等トス

二　國庫ヨリ俸給チ給セサル官ニ在ル者ニ付テハ其ノ官等等級ニ依ル

第二十六條　準軍人ノ公務傷病等ノ規定ノ適用ニ付テノ階等ハ左ノ區分ニ依ル

一　陸軍ノ見習士官及海軍ノ候補生ハ判任官一等トス

二 前號ニ揭ケサル陸軍ノ士官候補生、陸軍士官學校生徒、海軍兵學校生徒、海軍機關學校生徒、海軍經理學校生徒及海軍豫備生徒ハ判任官三等トス

三 前二號ニ揭ケサル陸海軍諸生徒及海軍豫備練習生ノ階等ハ兵卒ニ準ス

第二十七條 教育職員及準教育職員ノ公務傷病ノ規定ノ適用ニ付テノ階等ハ左ノ區分ニ依ル

一 教育職員ノ階等ハ其ノ官等等級又ハ待遇官等等級ニ依リ勅任官、奏任官又ハ判任官ノ待遇ヲ受クルモ官等等級ノ定ナキ者ハ各其ノ最下位ノ官等等級ニ依ル

二 準教育職員ノ階等ハ公立學校職員待遇官等等級令別表第二表ノ例ニ準ス

第二十八條 警察監獄職員ノ公務傷病ノ規定ノ適用ニ付テノ階等ハ判任官四等トス但シ警部補ハ其ノ等級ニ依ル

第二十九條 待遇職員ノ公務傷病ノ規定ノ適用ニ付テノ階等ハ其ノ待遇官等等級ニ依リ勅任官、奏任官又ハ判任官ノ待遇ヲ受クルモ官等等級ノ定ナキ者ハ各其ノ最下位ノ官等等級ニ依ル

第三十條 恩給法第六十二條第五項ニ規定スル中學校ト同等以下ノ程度ノ學校トハ左ニ揭クルモノヲ謂フ

一 師範學校

二 高等女學校

三 專門學校令ニ依ラサル實業學校（實業補習學校ヲ除ク）

四 中學校又ハ前二號ニ揭クル學校ニ準スヘキ學校

五 實業補習學校教員養成所

六 朝鮮又ハ臺灣ニ於ケル中學校又ハ第一號乃至第三號若ハ第五號ニ揭クルモノニ準スヘキモノ

七 在外指定學校ニシテ中學校又ハ第一號乃至第三號ニ揭クル學校ニ準スヘキモノ

第三十一條 恩給法第四十六條第四項ノ規定ニ依リ傷病ノ程度ヲ分チテ左ノ十款トス

第一款症

一 一側睾丸ヲ全ク失ヒタルモノ

二 一眼ノ視力カ視標〇・一ヲ二メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

三 一耳聾シタルモノ

四 一側拇指ヲ全ク失ヒタルモノ

第二款症

一 一耳ノ聽力カ耳殼ニ接セサレハ大聲ヲ解シ得サルモノ

二 一側拇指ノ機能ヲ廢シタルモノ

第三款症

一 一眼ノ視力カ視標〇・一ヲ三メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

二 一耳ノ聽力カ十センチメートル以上ニテハ尋常ノ話聲ヲ解シ得サルモノ

三 一側示指ヲ全ク失ヒタルモノ

四 一側第一趾ヲ全ク失ヒタルモノ

第四款症

一 一側中指ヲ全ク失ヒタルモノ

二 一側示指ノ機能ヲ廢シタルモノ

三 一側第二趾ヲ全ク失ヒタルモノ

四 一側第一趾ノ機能ヲ廢シタルモノ

第五款症

一 一眼ノ視力カ〇・一ニ滿タサルモノ

二 一側中指ノ機能ヲ廢シタルモノ

三 一側第二趾ノ機能ヲ廢シタルモノ

第六款症

一 一側環指ヲ全ク失ヒタルモノ

第七款症

一 一眼ノ視力カ〇・二ニ滿タサルモノ

二 一耳ノ聽力カ四十センチメートル以上ニテハ耳語ヲ解シ得サルモノ

三 一側環指ノ機能ヲ廢シタルモノ

四 一側第三趾乃至第五趾ノ中二趾ヲ全ク失ヒタルモノ

第八款症

一 一側小指ヲ全ク失ヒタルモノ

二 一側第三趾乃至第五趾ノ中二趾ノ機能ヲ廢シタルモノ

第九款症

一 一眼ノ視力カ〇・三ニ滿タサルモノ

二 一耳ノ聽力カ一メートル以上ニテハ耳語ヲ解シ得サルモノ

三 一側小指ノ機能ヲ廢シタルモノ

四 一側第三趾乃至第五趾ノ中一趾ヲ全ク失ヒタルモノ

第十款症

一 一側第三趾乃至第五趾ノ中一趾ノ機能ヲ廢シタルモノ

二 前款ノ各症ニ次ク症ヲ殘シタルモノ

第二十四條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ傷病ノ程度ノ查定ニ付之ヲ準用ス

第三十二條 第十六條ノ規定ハ恩給法第九十一條又ハ第九十二條ノ規定ニ依リ附スヘキ加算年ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第三十三條 恩給法第九十六條ノ規定ニ依リ在職最終俸給年額ニ增加スヘキ金額ハ別表第四號表ノ區分ニ依ル

第三十四條 恩給法第九十九條ノ教育事務ニ從事スル文官トハ左ニ揭クル者ヲ謂フ

一 官立ノ學校又ハ圖書館ノ職員

二 文部省官吏

三 教育事務從事ノ北海道廳、府、縣、郡、島廳、朝鮮總督府、朝鮮總督府道府郡島、臺灣總督府、臺灣總督府州廳郡市、樺太廳、關東廳又ハ南洋廳ノ官吏

四 臺灣公立學校ノ職員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受クルモノ

五 教育事務從事ノ從前ノ區、統監府又ハ關東都督府ノ官吏

第三十五條 廢官、廢職、廢廳、廢校又ハ官職名改定ノ際其ノ廢改ニ係ル官職ニ在ル者卽日又ハ翌日他ノ官職ニ任セラレタルトキハ恩給法ノ適用ニ付テハ之ヲ勤續ト看做ス

第三十六條 恩給法第百一條ノ規定ニ依ル增額ハ左ノ區分ニ依ル

一 軍人以外ノ公務員ノ普通恩給又ハ遺族ノ扶助料ノ年額ヲ更正スル場合ニ於テハ其ノ年額算出ノ基礎ト爲リタル俸給カ大正九年七月三十一日以前ノ俸給令ニ依ルモノナルトキハ別表第四號表ノ區分ニ依リ增加シタル金額ヲ俸給年額ト爲シ、其ノ他ノモノナルトキハ在職最終ノ俸給年額ヲ基礎トシテ恩給法第六十條、第六十二條、第六十三條及第七十五條ノ規定ニ依リ算出シタル年額ヲ以テ其ノ普通恩給又ハ扶助料ノ年額トス

二 軍人又ハ準軍人ノ普通恩給又ハ遺族ノ扶助料ノ年額ヲ更正スル場合ニ於テハ別表第五號表ニ依リ當該軍人又ハ準軍人ノ階等ヲ定メ恩給法第六十一條及第七十五條ノ規定ニ依リ算出シタル年額ヲ以テ其ノ普通恩給又ハ扶助料ノ年額トス

三 增加恩給ノ年額ヲ更正スル場合ニ於テハ退職當時ノ階等竝別表第六號表ニ依リ定メタル傷病ノ原因及不具廢疾ノ程度ニ從ヒ恩給法第六十五條ノ規定ニ依リ算出シタル年額ヲ以テ其ノ增加恩給ノ年額トス但シ陸海軍准士官ニシテ其ノ官ニ對スル最高俸ヲ受ケタルモノノ階等ハ之ヲ尉官トシ名譽進級ニ因リ階等ヲ進メラレタル軍人ノ階等ハ名譽進級ニ因ル階等トス

第二十五條乃至第二十九條ノ規定ハ增加恩給年額ノ更正ニ付之ヲ準用ス

四 執達吏ノ恩給年額ヲ更正スル場合ニ於テハ第一號ノ規定ニ依ラス六百圓ヲ俸給年額ト看做シ恩給法第六十條ノ規定ニ依リ算出シタル年額ヲ以テ其ノ普通恩給ノ年額トス

前項ノ增額ヲ爲ス場合ニ於テハ外國勤續ニ因ル加給ハ之ヲ爲サス

第三十七條 恩給法第百二條ノ規定ニ依リ普通恩給又ハ遺族ノ扶助料ノ年額ヲ增額スル場合ニ於テハ其ノ年額算出ノ基礎ト爲リタル退職又ハ死亡當時ノ俸給年額ヲ別表第七號表ニ依ル假定俸給年額ニ增加シ之ヲ退職又ハ死亡當時ノ俸給年額ト看做シ之ニ恩給法第百一條ノ規定ヲ適用ス

附 則

第三十八條 本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十九條 左ノ命令ハ之ヲ廢止ス

一明治二十四年勅令第二百四十八號
一明治二十七年勅令第八十一號
一明治二十七年勅令第百四十五號
一明治三十一年勅令第二百四十四號
一明治三十二年勅令第二百一號
一明治三十三年勅令第百七十三號
一明治三十三年勅令第四百四號
一巡査看守退隱料及遺族扶助料法施行令
一明治三十四年勅令第百五十號
一明治三十五年勅令第百五十七號
一明治四十一年勅令第百三十七號
一明治四十三年勅令第百二十七號
一明治四十四年勅令第七十號
一大正六年勅令第二百四十一號
一大正六年勅令第二百四十二號
一大正九年勅令第三百二十三號
一明治十八年第十五號達官吏恩給令附則
一明治十八年第十六號達文官傷痍疾病等差例
一明治十八年第四十號達陸軍恩給令附則

第四十條 第十條各號ニ揭クル官制ニ依リ廢止セラレタル官制又ハ其レニ依リ廢止セラレタル官制ニ依リテ判任官以上ノ待遇ヲ受ケタル職員ハ在職年通算ノ關係ニ於テハ之ヲ當該各號ニ揭クル官制ニ依ル職員ト看做ス

附 則（大正十二年十二月勅令第五百二十號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第四十條ノ規定ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ適用ス

附 則（大正十三年三月勅令第五十一號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從來ノ水雷艇乘員トシテノ勤務ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

（別表）

第一號表

下士	判任官	二等	七五六圓
		三等	六一二圓
		四等	四六八圓
兵卒			四一四圓

準軍人ニ付テハ其ノ階等ニ依リ右表ヲ準用ス

第二號表

（一）三分ノ二月ヲ加算スヘキモノ

内地	北海道 國後郡 安渡移矢岬 松前郡 小島 幌莚島 占守島
朝鮮	京畿道 富川郡 木德島、德積島 忠清南道 瑞山郡 瓮島、格烈飛島 全羅南道 務安郡 七發島、小黑山島 莞島郡 魚鼈島、港門島 珍島郡 竹島、下鳥島 慶尙北道 鬱陵島 黃海道 長淵郡 小青島 松禾郡 西島 平安南道 寧遠郡 平安北道 熙川郡 鐵山郡 大和島 朔州郡 昌城郡 碧潼郡 楚山郡 渭原郡 江界郡 慈城郡 厚昌郡 咸鏡南道 新興郡 長津郡 豐山郡 三水郡 甲山郡 咸鏡北道 茂山郡 會寧郡 鐘城郡 穩城郡 慶源郡 慶興郡 右ニ揭クル地方ニ屬スル地ト雖鐵道停車場ヨリ五里以内ニ在ル地ハ之ヲ除ク
臺灣	臺北州 基隆郡 基隆街ノ内彭佳嶼 羅東郡 清水、牛鬪及松羅溪駐在警察官管轄區域ヲ除キタル殘部 街庄ヲ置カサル蕃地中寒溪、四方林 蘇澳郡 街庄ヲ置カサル蕃地中大元山駐在警察官管轄區域ヲ除キタル殘部、蘇澳庄ノ内大南澳 文山郡 街庄ヲ置カサル蕃地中タンピア、ウライ、ラハウ及阿玉駐在警察官管轄區域ヲ除キタル殘部 新竹州 大溪郡 街庄ヲ置カサル蕃地中八結、ケイフイ、カウシヤウ、竹頭角、水流東、角板山、合脗坪、ウライ、ヨウハブン、シツケイ、カウボウ、ラハウ及斷崖駐在警察官管轄區域ヲ除キタル殘部 竹東郡 街庄ヲ置カサル蕃地中内灣、カラパイ、メカラン、内横屏山、錦屏山、ラハウ、シラツク、メホマン、シバジイ、マイバライ、シイガオ及大隘駐在警察官管轄區域ヲ除キタル殘部 大湖郡 街庄ヲ置カサル蕃地中八卦力、汶水、高熊峠及細道邦駐在警察官管轄區域ヲ除キタル殘部 臺中州 東勢郡 街庄ヲ置カサル蕃地中牛欄坑、稍來坪、白毛及中坑坪駐在警察官管轄區域ヲ除キタル殘部 新高郡 街庄ヲ置カサル蕃地全部 能高郡 街庄ヲ置カサル蕃地全部 臺南州 嘉義郡 街庄ヲ置カサル蕃地全部 高雄州 旗山郡 街庄ヲ置カサル蕃地全部 屏東郡 街庄ヲ置カサル蕃地中カウザン、サンテイモン、パクヒヨウ、マカザヤザヤ及カサギザン駐在警察官管轄區域ヲ除キタル殘部 潮州郡 街庄ヲ置カサル蕃地中カピヤン、アマワン、ボンガリイ、スボン、歸化門、炭頭、内獅頭、獅仔頭及四重溪駐在警察官管轄區域ヲ除キタル殘部 恒春郡 街庄ヲ置カサル蕃地全部 東港郡 琉球庄 臺東廳
樺太	散江郡 敷香郡 名好郡 名好村大字安別 留多加郡 西能登呂岬
南洋群島	各群島（パラオ列島中コロール島、サイパン島及ヤップ島ヲ除ク）
其ノ他	北樺太 ペトロパウロフスク ニコライウスク 農安 龍井村 琿春 百草溝 局子街 間島頭道溝 通化 海龍 赤峰 宜昌 沙市 重慶 成都 外蒙古 新疆 海防 西貢 盤谷 新嘉坡 マニラ ダヴァオ スラバヤ バタヴィア 蘭貢 カルカッタ コロンボ 孟買 ポートサイド ハヴアナ パナマ 里馬 リベロンプレート バウルー

（二）二分ノ一月ヲ加算スヘキモノ

内地	朝鮮	臺灣	樺太	關東州	南洋群島	其ノ他
北海道 厚岸大黒島 根室諸島（安渡移矢崎、幌筵島及占守島ヲ除ク） 東京府 小笠原島 長崎縣 西彼杵郡 大立島 北松浦郡 宮古島列島 八重山列島	京畿道 富川郡 八尾島、兒島 忠清北道 丹陽郡 全羅北道 沃溝郡 黑山島 全羅南道 所里島 海南郡 時下島 慶尙北道 英陽郡 奉化郡 黃海道 遂安郡 谷山郡 松禾郡 姊妹島 平安南道 陽德郡 孟山郡 德川郡 平安北道 寧邊郡 雲山郡 泰川郡 江原道 鐵原郡 金化郡 平康郡	臺北州 宜蘭郡 頭圍庄ノ內龜山庵羅東郡 清水、牛稠松羅溪駐在警察官管轄區域 臺中州 東勢郡 街庄ヲ置カサル蕃地中寨溪、四方林蕃澳郡 街庄ヲ置カサル蕃地中大元山駐在警察官管轄區域、蕃澳庄中東澳 文山郡 坪林庄中大字大舌湖、柑腳坑、鷺鷥脚、大粗坑、濶瀾、楣子寮、九芎林（字石槽ヲ除ク）、鷺子瀾、四堵ニ限ル）街庄ヲ置カサル蕃地中タンピア、ウライ、ハウライ、阿玉駐在警察官管轄區域 海山郡 街庄ヲ置カサル蕃地全部 新竹州 新竹郡 街庄ヲ置カサル蕃地全部 大溪郡 街庄ヲ置カサル蕃地中八結、ケイフヤカウジヤウ、竹頭角、水流東、角板山、合脚坪、ウライ、ケイカウポウ、シツヨハンヘンシツハウ、關崖駐在警	名好郡（名好村、大字安別ヲ除ク） 海洋島 島中コロールツクタ島 鳳鳴島 西中島 バラオ列島 オムスク イルクーツク ブラゴウエシチエンスク ハバロフスク 滿洲里 齊々哈爾 黑河 掏鹿 洮南 太原 西安 寧湖 冶江口 九漢口 大沙頭 長沙 福州 廈門 汕頭 廣東 雲南 ケープタウン 墨西哥市 サンパウロ リオデジヤネーロ	楊口郡 三陟郡 蔚珍郡 旌善郡 平昌郡 寧越郡 伊川郡 成鏡南道 北青郡 利原郡 成鏡北道 端川郡 鏡城郡 吉州郡 明川郡 城津郡（城津面ヲ除ク） 富寧郡 右ニ揭ケタル地方ニ鐵道停車場ヲ置キタルトキハ其ノ停車場ヲ含ム 内ニ在ル地ハ之ヲ除ク	竹東郡 街庄ヲ置カサル蕃地中內灣、カラバイ、メカラン、內橫屏山、錦屏山、ラハウシ、シラツク、メホマン、シバジイ、マバライ、シイカオ、大隘駐在警察官管轄區域 竹南郡 街庄ヲ置カサル蕃地全部 大湖郡 獅潭庄中大字獅潭、三灣庄ヲ置カサル蕃地中八卦力、汶水高熊峠、細道邦駐在警察官管轄區域 臺中州 街庄ヲ置カサル蕃地中牛欄坑、豬來坪、白毛、中坑坪駐在警察官管轄區域 能高郡 國姓庄中大字龜子頭、柑子林、墘溝 臺南州 嘉義郡 大埔庄、小梅庄中大字生毛樹、科子林 新化郡 南化庄（大字北寮ヲ除ク） 高雄州 旗山郡 甲仙庄 屏東郡 六龜庄（大字新威、潮州郡 枋山庄 恆春郡 街庄ヲ置キタル地域全部 澎湖郡 臺東廳 臺東街ヨリ里壠ニ至ル鐵道沿線二里以內ノ地域及其ノ	臺東廳管內中臺東街ヨリ里壠ニ至ル鐵道沿線二里以內ノ地域及其ノ以東ノ地域ヲ除キタル殘部 花蓮港廳 花蓮港廳管內中花蓮港街ヨリ玉里ニ至ル鐵道沿線二里以內ノ地域及其ノ以東ノ地域ヲ除キタル殘部

第三號表

地域	流行病
八重山列島	マラリヤ（黑水熱ヲ含ム以下同シ）、赤痢
朝鮮	猩紅熱、腸チフス、パラチフス、赤痢、肺ペストマ病
臺灣	マラリア、腸チフス、パラチフス、赤痢
南洋諸島	マラリア、腸チフス、パラチフス、赤痢、黃熱
滿洲 關東州	ペスト、腸チフス、パラチフス、赤痢
支那	マラリア、猩紅熱、コレラ、發疹チフス、腸チフス、パラチフス、ペスト、赤痢（滿洲ヲ除キ香港ヲ含ム）
露領西伯利亞	發疹チフス、腸チフス、パラチフス、ペスト、回歸熱、赤痢（薩哈嗹州ヲ含ム）
比律賓諸島	マラリア、コレラ、腸チフス、パラチフス、赤痢
陶領東印度諸島	マラリア、コレラ、ペスト、赤痢
佛領印度、暹羅、緬甸、馬來半島	マラリア、コレラ、發疹チフス、ペスト、赤痢
英領印度	マラリア、コレラ、ペスト、赤痢、カラアザール
中央亞米利加、南亞米利加	マラリア、腸チフス、パラチフス、赤痢、黃熱
墨西哥	マラリア、發疹チフス、黃熱
亞弗利加	マラリア、ペスト、回歸熱、赤痢、トリパノゾーム病、黃熱

第四號表

階級	在職最終俸給年額	增加スヘキ金額
將官及相當官	六千五百圓ヲ超エ七千五百圓未滿ノモノ	五百圓
佐尉官及相當官	五千五百圓ヲ超エ六千五百圓ヲ超エサルモノ	但シ在職最終俸給年額ニ百圓ヲ加ヘタル額ノ五分ノ一
准士官、下士兵卒	三千圓ヲ超エ五千圓ヲ超エサルモノ	在職最終俸給年額ノ五分ノ一
判任官	千二百圓ヲ超エ三千圓ヲ超エサルモノ	在職最終俸給年額ノ十三分ノ一相當スル金額ニ二十圓ヲ加ヘタル額
海軍一等卒 陸軍上等兵 陸軍一等卒 海軍二等兵 陸軍二等卒 海軍三等兵 陸軍一等兵 海軍四等兵	三百六十圓ヲ超エ千二百圓ヲ超エサルモノ	三百圓ヲ超エ三百六十圓ヲ超エサル下ノモノ 三百圓以內ノ金額ニ百圓ヲ加ヘタル額
陸軍一等兵 海軍一等卒 陸軍二等兵 海軍二等卒 陸軍三等兵 海軍三等卒 陸軍四等兵 海軍四等卒 陸軍五等兵 海軍五等卒	三百圓	在職最終俸給年額ノ十割ニ相當スル金額
憲兵上等卒 計看護長 會計看護卒 看護卒 馬醫 看護卒 一等卒二等卒 樂生	三百圓	在職最終俸給年額ノ十割ニ相當スル金額

第五號表

階級 ＼ 從前ノ法令	恩給法	給法
將官及相當官	親任一等	親任官
佐尉官及相當官	高等一等	高等官
准士官、下士兵卒	高等二等	判任官
判任官	高等三等	准士官
海軍一等兵 陸軍上等兵 陸軍一等卒 海軍二等兵 陸軍二等卒 海軍三等兵 陸軍三等兵 海軍四等兵	高等四等	下士兵卒
陸軍一等卒 海軍一等兵 陸軍二等卒 海軍二等兵 陸軍三等卒 海軍三等兵 陸軍四等卒 海軍四等兵 陸軍五等卒 海軍五等卒	高等五等	
憲兵上等兵 計看護長 會計看護卒 看護卒 馬醫 看護卒 一等卒二等卒 樂生	高等六等	
	高等七等	
	高等八等	
將官及相當官	判任官	准士官
佐尉官及相當官	一等一等	一等二等
准士官、下士兵卒	一等二等	一等三等
判任官	一等三等	一等四等
海軍一等兵 陸軍上等兵 陸軍一等卒 海軍二等兵 陸軍二等卒 海軍三等兵 陸軍三等兵 海軍四等兵	一等四等	
陸軍一等兵 海軍一等卒 陸軍二等兵 海軍二等卒 陸軍三等兵 海軍三等卒 陸軍四等兵 海軍四等卒 陸軍五等兵 海軍五等卒	一等五等	
憲兵上等兵 計看護長 會計看護卒 看護卒 馬醫 看護卒 一等卒二等卒 樂生	一等六等	
	一等七等	
	一等八等	

海軍恩給令	海軍退隱令
大將	大將
中將	中將
少將同相當官	少將同相當官
大佐同相當官	大佐同相當官
中佐同相當官	中佐同相當官
少佐同相當官	少佐同相當官
大尉同相當官	大尉同相當官
中尉同相當官	中尉同相當官
少尉同相當官	少尉同相當官
准士官	准士官
一等兵曹同相當官	機關士副
二等兵曹同相當官	水兵 次長 樂手
三等兵曹同相當官	大端舟長 機關長屬 火夫長屬 海軍九等屬
一等卒	一等水兵
二等卒	二等水兵
三等卒	三等水兵 三等鍛冶
四等卒	四等水兵
五等卒	一等若水兵 一等若火夫

備考

一　大正九年三月三十一日以前ニ海軍兵曹長同相當官タリシ者ニシテ最高ノ俸給ヲ受ケタルモノハ高等官六等トシ其ノ他ノモノハ高等官七等トス

一　大正十年三月三十一日以前ニ退職シタル陸軍一等樂長ニシテ最高ノ俸給ヲ受ケタルモノハ高等官六等トス

一　名譽進級ニ因リ階等ヲ進メラレタル軍人ノ階等ハ名譽進級ニ因ル階等トス

一　本表ニ該當セサルモノハ陸海軍武官官階及兵卒等級ノ例ニ依ル

第六號表

從前ノ法令		傷病原因・症狀等差	恩給法 甲號 特別項	甲號 第一項	甲號 第二項	甲號 第三項	甲號 第四項	甲號 第五項	甲號 第六項	乙號 特別項	乙號 第一項	乙號 第二項	乙號 第三項	乙號 第四項	乙號 第五項	乙號 第六項
官吏恩給法	第十四條第二項									症項ヲ査定ス						
官吏恩給法施行規則	第十二條										第一項	第二項	第三項	第四項	第五項	第六項
官吏恩給令附則	第五條										第一號	第二號	第三號	第四號	第五號	第六號
軍人恩給法	第三號表甲號			第一項	第二項	第三項	第四項	第五項	第六項							
軍人恩給法	第三號表乙號										第一項	第二項	第三項	第四項	第五項	第六項
軍人恩給法	第十條第二項		症項ヲ査定ス							症項ヲ査定ス						
明治四年兵部省達陸軍士官兵卒給俸諸定則											一等傷痍		二等傷痍			
陸軍武官傷痍扶助及ヒ死亡ノ者祭粢並ニ其家族扶助概則	第一條		戰闘ノ爲傷痍ヲ受ケタル者							戰闘以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者						
				第一項		第二項		第三項			第一項		第二項		第三項	
明治九年太政官達陸軍恩給令	第十一條		戰闘ノ爲傷痍ヲ受ケタル者							戰闘以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者						
				第一項		第二項		第三項			第一項		第二項		第三項	
明治十六年太政官達陸軍恩給令	第十九條		戰闘ノ爲傷痍ヲ受ケタル者							戰闘以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者						
				第一號	第二號	第三號	第四號	第五號	第六號		第一號	第二號	第三號	第四號	第五號	第六號
海軍退隱令	第十八條			第一號	第二號	第四號	第五號					第三號		第六號		
海軍恩給令	第二十條		戰闘ノ爲傷痍ヲ受ケタル者							戰闘以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者						
				第一號	第二號	第三號	第四號	第五號	第六號		第一號	第二號	第三號	第四號	第五號	第六號
市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料支給規則	第十五條										第一項	第二項	第三項	第四項	第五項	第六項
公立學校職員退隱料及遺族扶助料支給規則	大正十年閣令第八號第十五條									症項ヲ査定ス						
	明治二十五年文部省令第一號第十七條										第一項	第二項	第三項	第四項	第五項	第六項
	明治四十五年朝鮮總督府令第八十二號第十七條										第一項	第二項	第三項	第四項	第五項	第六項
臺灣ニ在勤スル學校職員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受ケサル文官判任以上ノ者ノ退隱料及遺族扶助料支給規則	第十六條										第一項	第二項	第三項	第四項	第五項	第六項
巡査看守退隱料及遺族扶助料法施行令	第一條										第一號	第二號	第三號	第四號	第五號	第六號
巡査看守給助例	第四條										第一號			第二號		

〔朝〕

備考　明治三十五年勅令第四十一號ニ定メタル事件ノ爲受ケタル傷痍ハ之ヲ戰闘ニ準スヘキ公務ニ因ル傷痍ト看做ス

第七號表

高等官及同待遇 退職又ハ死亡當時ノ俸給年額	高等官及同待遇 假定俸給年額
九、六〇〇	一二、〇〇〇
六、〇〇〇	八、〇〇〇
五、〇〇〇	六、〇〇〇
四、五〇〇	五、五〇〇
四、〇〇〇	五、〇〇〇
三、六〇〇	四、五〇〇
三、五〇〇	四、二〇〇
三、三〇〇	四、〇〇〇
三、〇〇〇	三、七〇〇
二、八〇〇	三、五〇〇
二、六〇〇	三、二〇〇
二、五〇〇	三、〇〇〇
二、四〇〇	
二、二〇〇	二、七〇〇
二、〇〇〇	二、五〇〇
一、八〇〇	二、二〇〇
一、六〇〇	二、〇〇〇
一、五〇〇	一、八〇〇
一、四〇〇	一、七〇〇

判任官及同待遇 退職又ハ死亡當時ノ俸給年額	判任官及同待遇 假定俸給年額
一、二〇〇	一、四四〇
九〇〇	一、一四〇
七二〇	九〇〇
六〇〇	七八〇
五四〇	六六〇
四八〇	六〇〇
四二〇	五一六
三百六十圓以下	八十四圓ヲ加ヘタル額
三百二十四圓以下	七十二圓ヲ加ヘタル額
二百七十六圓以下	六十圓ヲ加ヘタル額
二百二十八圓以下	四十八圓ヲ加ヘタル額
百八十圓以下	三十六圓ヲ加ヘタル額
百三十二圓以下	二十四圓ヲ加ヘタル額

一、三〇〇	一、六〇〇
一、二〇〇	一、五〇〇
一、一〇〇	一、三〇〇
一、〇〇〇	一、二〇〇
九〇〇	一、一〇〇
八〇〇	一、〇〇〇
七〇〇	八五〇
六〇〇	七五〇
五〇〇	六〇〇
四五〇	五五〇
四〇〇	五〇〇
三〇〇	四〇〇

備考

一　本表ノ俸給年額ニハ加俸ヲ包含セス恩給年額算出ノ基礎ト爲リタル加俸ハ其ノ實額ニ依ル

一　本表ニ該當セサル俸給ニ付テハ之ニ其ノ俸給年額ノ二割五分ニ相當スル金額ヲ加ヘタルモノヲ以テ假定俸給年額トス但シ其ノ額カ實俸給年額ニ最モ近キ本表中ノ上級俸給年額ニ對スル假定俸給年額ヲ超過スルトキハ之ヲ當該上級俸給年額ニ對スル假定俸給年額ニ止ム

●恩給給與規則

大正十二年八月
勅令第三百六十九號

朕恩給給與規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

恩給給與規則

第一章　恩給ノ請求

第一條　普通恩給又ハ増加恩給ヲ受ケムトスル者ハ普通恩給請求書又ハ増加恩給請求書ヲ退職當時ノ本屬廳ヲ經テ裁定官廳ニ差出スヘシ

第二條　前條ノ恩給請求書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　在職中ノ履歴書

二　戸籍抄本(之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ)(退職後請求迄ノ間ニ於テ作成セラレタルモノ)

増加恩給請求書ニハ前項各號ニ掲クル書類ノ外左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　傷痍疾病カ公務ニ起因シタルコトヲ認ムルニ足ルヘキ書類(例ヘハ現認者ノ現認證明書、所屬長ノ事實證明書等)

二　症狀ノ經過ヲ記載シタル書類

三　請求當時ニ於ケル診斷書

恩給ヲ改定スル場合ニ於テ前ニ恩給證書ヲ受ケタルコトアルトキハ前二項各號ニ掲クル書類ノ外其ノ恩給證書ヲ添附スヘシ

第三條　恩給法第五十條第二項ノ規定ニ依リ再審査ヲ請求スル者ハ再審査請求書ニ前條第二項第二號及第三號ニ掲クル書類ヲ添ヘ裁定官廳ニ之ヲ差出スヘシ

再審査ノ請求アリタル場合ニ於テ裁定官廳ハ必要ト認ムルトキハ其ノ指定スル醫師ノ現在症狀證明書ノ提出ヲ請求者ニ命スルコトヲ得

第四條　一時恩給ヲ受ケムトスル者ハ一時恩給請求書ニ在職中ノ履歴書ヲ添附シ退職當時ノ本屬廳ヲ經テ裁定官廳ニ之ヲ差出スヘシ

第五條　傷病賜金ヲ受ケムトスル者ハ傷病賜金請求書ニ第二條第二項各號ニ掲クル書類ヲ添附シ陸軍軍人ニ在リテハ陸軍大臣、海軍軍人ニ在リテハ海軍大臣ヲ經テ内閣恩給局長ニ之ヲ差出スヘシ

第六條　扶助料ヲ受ケムトスル者ハ扶助料請求書ヲ裁定官廳ニ差出スヘシ但シ第七條、第八條第一項第二號又ハ第十條第二項ノ規定ニ依リ扶助料請求書ニ公務員(公務員ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ)ノ在職中ノ履歴書ヲ添附スヘキ場合ニ於テハ公務員ノ本屬廳ヲ經テ之ヲ差出スヘシ

第七條　恩給法第七十三條第一項第一號ノ規定ニ依リ第一次ニ扶助料ヲ請求スルコトヲ得ル者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本(之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ)(公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ)

前項ノ場合ニ於テ公務員前ニ恩給證書ヲ受ケタルコトアルトキハ前項各號ニ掲クル書類ノ外其ノ恩給證書ヲ添附スヘシ

第八條　恩給法第七十三條第一項第二號ノ規定ニ依リ第一次ニ扶助料ヲ請求スルコトヲ得ル者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員カ既ニ普通恩給ノ裁定ヲ經タルトキハ其ノ恩給證書及請求者ノ戸籍謄本(公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ)

二　公務員カ未タ普通恩給ノ裁定ヲ經サルトキハ前條第一項各號ニ掲クル書類

前條第二項ノ規定ハ前項第二號ニ掲クル書類ヲ添附スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第九條　前二條ノ場合ニ於テ公務員ノ死亡カ公務ニ因ル傷痍疾病ニ起因スルトキハ前二條ノ規定ニ依ルノ外扶助料請求書ニ第二條第二項第一號及第二號ニ掲クル書類竝死亡者ノ死亡診斷書又ハ屍體檢案書ヲ添附スヘシ

前項ノ死亡診斷書又ハ屍體檢案書ヲ添附スルコトヲ得サル場合ニ於テハ死亡ノ事實ヲ證スル公ノ證明書ヲ添附スヘシ

第十條　恩給法第七十三條第一項各號ノ規定ニ依リ第二次以下ニ於テ扶助料ヲ請求スルコトヲ得ル者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　前扶助料權者カ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ失ヒタルコトヲ證スル書類

二　前扶助料權者ノ扶助料證書

三　請求者ノ戸籍謄本(公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ)

前項ノ場合ニ於テ前扶助料權者カ未タ扶助料ノ裁定ヲ經サルトキハ前項第一號ニ掲クル書類及前扶助料權者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ添附スルコトヲ要スル書類ヲ添附スヘシ

第十一條　恩給法第七十四條第二項ニ規定スル扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ第七條乃至前條ノ規定ニ依ルノ外扶助料請求書ニ不具癈疾ヲ證スル診斷書及生活資料ヲ得ルノ途ナク且扶養スル者ナキコトヲ證スル市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ證明書ヲ添附スヘシ

第十二條　恩給法第七十八條ノ規定ニ依リ扶助料ノ停止ヲ申請スル者ハ扶助料停止申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ裁定官廳ニ之ヲ差出スヘシ

一　扶助料權者ノ所在不明ナルコトヲ證スル公ノ證明書

二　請求者ノ戸籍謄本(公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ)

前項ノ場合ニ於テハ同時ニ恩給法第七十九條ノ規定ニ依ル扶助料轉給ノ請求ヲ爲スヘシ

第十三條　恩給法第七十九條ノ規定ニ依リ扶助料ノ轉給ヲ請求スル者ハ其ノ事由ヲ記載シタル扶助料轉給請求書ニ請求者ノ戸籍謄本(公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ)ヲ添附シ裁定官廳ニ之ヲ差出スヘシ但シ前條ノ規定ニ依リ請求者ノ戸籍謄本ヲ添附シタル場合ニ於テハ其ノ添附ヲ要セス

第十四條　恩給法第八十一條又ハ第八十二條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ受ケムトスル者ハ一時扶助料請求書ヲ裁定官廳ニ差出スヘシ但シ第十五條第二號又ハ第十六條ノ規定ニ依リ一時扶助料請求書ニ公務員ノ在職中ノ履歴書ヲ添附スヘキ場合ニ於テハ公務員ノ本屬廳ヲ經テ之ヲ差出スヘシ

第十五條　恩給法第八十一條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ一時扶助料請求書ニ不具癈疾ヲ證スル診斷書及生活資料ヲ得ルノ途ナク且扶養スル者ナキコトヲ證スル市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ證明書ノ外左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員カ既ニ普通恩給ノ裁定ヲ經タルトキハ其ノ恩給證書及請求者ノ戸籍謄本(公務員死亡當時ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ)

二　公務員カ未タ普通恩給ノ裁定ヲ經サルトキハ公務員ノ在職中ノ履歴書及請求者ノ戸籍謄本(公務員死亡當時ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ)

第十六條　恩給法第八十二條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ一時扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本(公務員死亡當時ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ)

第十七條　恩給法施行令第二條第一項ノ規定ニ依リ恩給ヲ請求スル者ハ恩給ノ請求書ヲ裁定官廳ニ差出スヘシ但シ死亡シタル恩給權者カ恩給ヲ請求ストセハ其ノ本屬廳ヲ經由スヘキ場合ニ於テハ其ノ本屬廳ヲ經テ之ヲ差出スヘシ

第十八條　前條ノ請求書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　死亡シタル恩給權者カ恩給ヲ請求ストセハ添附スルコトヲ要スヘキ書類

二　請求者ノ戸籍謄本(死亡シタル恩給權者ノ死亡當時ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ)

第十九條　一時扶助料ヲ給セラルヘキ者數人アルトキ又ハ恩給法施行令第二條第一項若ハ第二項ノ相續人數人アルトキハ其ノ中一人ヲ總代者トシテ恩給ノ請求又ハ恩給支給ノ請求ヲ爲スヘシ

第二十條　恩給ノ請求ニ付恩給證書ヲ添附スヘキ場合ニ於テ亡失其ノ他ノ事由ニ因リ之ヲ添附スルコトヲ得サルトキハ證據書類ヲ添ヘ其ノ事由ヲ屆出ツヘシ

第二十一條　經由廳カ廢止セラレタル場合ニ

（朝）

於テハ書類ハ其ノ廳ノ事務ヲ引繼キタル廳ヲ經由スヘシ

第二章　恩給ノ裁定

第二十二條　經由廳ニ於テ恩給請求書類ヲ受付ケタルトキハ之ヲ調査シ不備ノ點ナキコトヲ認メタルトキハ恩給金額計算書ヲ作リ履歴書、證明書其ノ他ノ添附書類ニ付其ノ廳ニ於テ證明シ得ヘキモノハ證明シ速ニ裁定官廳ニ之ヲ送付スヘシ

經由廳ニ於テ恩給請求書類ニ不備ノ點アルコトヲ認メタルトキハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ不備ヲ追完セシムルコトヲ得

請求者前項ノ期間内ニ不備ノ追完ヲ爲ササルトキ又ハ經由廳恩給請求理由ナシト認メタルトキハ經由廳ハ恩給金額計算書ノ作成ヲ省略シ意見ヲ具シ恩給請求書類ヲ裁定官廳ニ送付スヘシ

第二十三條　裁定官廳ニ於テ恩給請求書類ヲ受付ケタルトキハ之ヲ審査シ恩給請求書類ニ不備ノ點ナク且恩給ヲ受クルノ權利アリト認メタルトキハ年金タル恩給ニ付テハ恩給證書ヲ、一時金タル恩給ニ付テハ裁定通知書ヲ請求者ニ交付スヘシ但シ第十七條ニ規定スル恩給ノ請求ニ對シテハ裁定通知書ヲ交付ス

裁定官廳ニ於テ恩給請求書類ニ不備ノ點アルコトヲ認メタルトキハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ不備ヲ追完セシムルコトヲ得

請求者前項ノ期間内ニ不備ノ追完ヲ爲ササルトキ又ハ裁定官廳恩給ヲ受クルノ權利ナシト認メタルトキハ裁定官廳ハ理由ヲ附シテ其ノ請求ヲ却下スヘシ

第二十四條　權利者又ハ關係廳ニ於テ恩給證書又ハ裁定通知書ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ證據書類ヲ添附シ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第二十五條　裁定官廳ニ於テ恩給證書又ハ裁定通知書ニ誤謬アルコトヲ認メタルトキハ訂正ノ爲必要ナル手續ヲ爲シ其ノ旨ヲ關係廳ヲ經テ權利者ニ通知スヘシ

第二十六條　裁定官廳ハ審査上必要アリト認ムルトキハ請求者又ハ申請者ニ出頭ヲ命シ又ハ必要ナル書類ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第三章　恩給ノ支給

第二十七條　恩給ノ支給ヲ受ケムトスル者ハ其ノ恩給證書又ハ裁定通知書ヲ支給廳ニ呈示スヘシ

第二十八條　年金タル恩給ハ毎年一月、四月、七月、十月ノ四期ニ於テ各其ノ前月分迄ヲ支給ス但シ前支給期月ニ支給スヘカリシ恩給ハ支給期月ニ非サル時期ニ於テモ之ヲ支給ス

年金タル恩給ヲ受クルノ權利消滅シタル場合ニ於テノ其ノ期ノ恩給ノ支給時期ニ付テハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十九條　支給廳ハ年金タル恩給ヲ受クルノ權利ノ消滅シ又ハ停止セラルヘキ原因タル事實アルコトヲ知リタルトキハ其ノ支給ヲ止メ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第四章　異動通知

第三十條　普通恩給ヲ受クル者官職ニ就キ恩給法第五十八條第一項第一號ノ規定ニ依リ其ノ恩給ヲ停止セラルヘキ場合ニ於テハ其ノ就職當時ノ本屬廳ハ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第三十一條　年金タル恩給ヲ受クル者禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ(刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキヲ除ク)又ハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ其ノ宣告又ハ取消ヲ爲シタル裁判所ハ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第三十二條　年金タル恩給ヲ受クル者國籍ヲ失ヒ、死亡シ又ハ恩給法第八十條ノ規定ニ依リ其ノ恩給ヲ受クルノ權利ヲ失フ場合ニ於テハ本人、遺族又ハ緣故者ヨリ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第三十三條　年金タル恩給ヲ受クル者其ノ本籍又ハ現住所ヲ變更シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ屆出ツヘシ

第三十四條　第三十條乃至前條ノ場合ニ於テ裁定官廳ト支給廳ト異ルトキハ裁定官廳ニ對スル通知又ハ屆出ハ支給廳ヲ經由スヘシ

第五章　恩給證書ノ返還及再交付

第三十五條　年金タル恩給ヲ受クル者死亡シ又ハ恩給ヲ受クルノ權利ヲ失ヒタル場合ニ於テ恩給ヲ受クヘキ順位者ナキトキハ恩給證書ヲ占有スル者ハ速ニ裁定官廳ニ之ヲ返還スヘシ

前項ノ場合ニ於テ亡失其ノ他ノ事由ニ因リ恩給證書ヲ返還シ得サルトキハ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ屆出ツヘシ

第三十六條　恩給證書又ハ裁定通知書ヲ亡失シ又ハ毀損シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ證據書類ヲ添ヘ裁定官廳ニ其ノ再交付ヲ申請スルコトヲ得

第三十七條　恩給證書又ハ裁定通知書ノ再交付アリタルトキハ從前ノ恩給證書又ハ裁定通知書ハ其ノ效力ヲ失フ

亡失ヲ理由トシテ恩給證書又ハ裁定通知書ノ再交付アリタル後從前ノ恩給證書又ハ裁定通知書ヲ發見シタルトキハ速ニ裁定官廳ニ之ヲ返還スヘシ

第三十八條　年金タル恩給ヲ受クル者其ノ氏名ヲ變更シタルトキハ恩給證書及戸籍抄本ヲ添ヘ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ屆出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ裁定官廳ハ恩給證書ニ改氏名ノ事實ヲ記載シタル上之ヲ權利者ニ返付スヘシ此ノ場合ニ於テ裁定官廳ト支給廳トカ異ルトキハ支給廳ヲ經由スヘシ

第六章　具申及裁決

第三十九條　恩給法第十三條第一項ノ具申ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第四十條　具申書ニハ左ノ事項ヲ記載シ具申者記名捺印シ證據書類其ノ他必要ナル書類ヲ添附スヘシ

一　具申者ノ氏名、年齡及住所

二　對手者タル行政廳

三　具申ノ趣旨及理由

第四十一條　具申カ内閣恩給局長以外ノ者カ爲シタル行政處分ニ對スルモノナルトキハ具申書ハ其ノ處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シテ之ヲ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ行政廳ハ具申書ヲ受取リタル日ヨリ十四日内ニ辯明書及必要ナル書類ヲ添ヘ内閣恩給局長ニ之ヲ送付スヘシ

第四十二條　内閣恩給局長ハ必要アリト認ムルトキハ期限ヲ定メ辯明書ニ對スル辯駁書、再度辯明書其ノ他必要ナル書類ヲ差出サシメ又ハ具申者若ハ對手者タル行政廳ノ主任者ニ出頭ヲ求ムルコトヲ得

第四十三條　裁決ハ理由ヲ附シタル裁決書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

裁決書ハ具申者及對手者タル行政廳ニ之ヲ送付スヘシ

附　則

本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●國庫ノ支辨ニ屬スル恩給中内閣恩給局長ノ管掌ニ係ルモノノ給與細則

大正十二年十月　閣令第七號

國庫ノ支辨ニ屬スル恩給中内閣恩給局長ノ管掌ニ係ルモノノ給與細則左ノ通定ム

恩給給與細則

第一條　恩給請求書類ニシテ其ノ提出ニ付經由廳ノ定アルモノハ左ノ區分ニ從ヒ先ツ之ヲ經由廳ニ差出スヘシ

一　本屬廳ヲ經テ差出スヘキコトヲ定メタルモノハ高等文官、同待遇、高等官試補、軍人及準軍人ニ在リテハ所管大臣ニ、判任文官、同待遇ニ在リテハ其ノ身分進退ヲ取扱フ廳ノ長官ニ之ヲ差出スヘシ

二　陸軍大臣又ハ海軍大臣ヲ經テ差出スヘキコトヲ定メタルモノ及本屬長官カ陸軍大臣又ハ海軍大臣ナルトキハ聯隊區司令官又ハ所屬隊長ニ之ヲ差出スヘシ此ノ場合ニ於テ聯隊區司令官又ハ所屬隊長ハ順序ヲ經テ之ヲ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ進達スヘシ

三　在外指定學校職員ノ差出スヘキモノハ所管領事官ニ之ヲ差出スヘシ

第二條　裁定官廳ニ直接ニ差出スヘキコトヲ定メタル書類ハ之ヲ内閣恩給局ニ差出スヘシ

第三條　恩給請求書類ハ概ネ別紙樣式(第一號乃至第十五號書式)ニ準シ作成スヘシ

第四條　恩給給與規則第六條ノ規定ニ依リ扶助料請求書ヲ直接ニ裁定官廳ニ差出ス場合ニ於テ帝國外ニ居住スル者ハ所管領事官ノ現住證明ヲ受ケ書留郵便ヲ以テ之ヲ內閣恩給局ニ差出スヘシ

第五條　本屬廳其ノ他ノ經由廳ニ於テ恩給請求書類ヲ受付ケタルトキハ恩給金額計算書(第十六號乃至第二十一號書式)ヲ作リ證據書類ヲ添附シ內閣恩給局ニ送付スヘシ但シ數箇ノ經由廳アルトキハ最終ノ經由廳ニ於テ計算書ヲ作成スヘシ

第六條　內閣恩給局ニ於テ給與ノ裁定ヲ爲シタルトキハ貯金局ニ其ノ旨ノ通知ヲ爲シ共ニ恩給證書又ハ裁定通知書ヲ作リ請求者ニ之ヲ交付スヘシ

第七條　恩給ノ請求ヲ却下シタル場合ニ於テハ內閣恩給局長ハ請求者ニ對シ直接其ノ旨ヲ通知スルト共ニ其ノ要旨ヲ關係廳ニ通知スヘシ

第八條　內閣恩給局ニ於テ恩給給與規則第二十五條ノ規定ニ依リ誤謬ヲ訂正シ又ハ裁定ノ改訂ヲ爲シタル場合ニ於テハ貯金局ヲ經テ權利者ニ通知シ又ハ新證書ヲ交付スヘシ

第九條　恩給給與規則第三十一條ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ宣告又ハ取消ヲ爲シタル裁判所ハ別紙樣式(第二十二號乃至第二十三號ノ書式)ニ準シ貯金局ヲ經テ內閣恩給局ニ通知スヘシ

第十條　恩給給與規則第三十六條ノ規定ニ依リ恩給證書又ハ裁定通知書ノ再交付ヲ申請セムトスル者ハ概ネ別紙樣式(第二十四號書式)ニ準シ再交付申請書ヲ作リ左ノ書類ヲ添附シ之ヲ內閣恩給局ニ差出スヘシ

一　恩給證書又ハ裁定通知書ヲ亡失シタルモノナルトキハ亡失ノ顚末及亡失後ニ於テ執リタル措置ヲ記載シタル書類竝其ノ事實ヲ證スルニ足ルヘキ警察官署等ノ公ノ證明書但シ裁定通知書ヲ亡失シタル場合ニ於テハ警察官署等ノ公ノ證明書ヲ要セス

二　恩給證書又ハ裁定通知書ヲ毀損シタルモノナルトキハ其ノ顚末書及毀損シタル恩給證書又ハ裁定通知書

第十一條　恩給給與規則ニ依リ支給廳ヲ經テ內閣恩給局ニ差出スヘキ書類ハ支給郵便局ニ差出スヘシ

第十二條　恩給法施行令第十四條又ハ第十七條ノ規定ニ依ル加算ヲ爲スヘキ勤務ニ服シタルトキハ其ノ所屬長官ハ勤務日誌ヲ作リ恩給請求ニ際シ其ノ寫ヲ差出スヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ閣令ハ之ヲ廢止ス

官吏恩給法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

軍人恩給法施行規則

明治二十四年閣令第二號

明治二十四年法律第四號施行規則

官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則施行規則

明治三十四年閣令第一號

明治三十五年法律第四十五號施行手續

明治三十九年法律第二十號施行手續

明治四十三年閣令第九號

明治四十四年法律第五十九號施行手續

公立學校職員退隱料及遺族扶助料支給規則

明治二十九年法律第十三號施行規則

在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料等支給規則

大正十一年閣令第五號

別紙

第一號書式

普通恩給請求書

年　月　日(官職)ヲ退職致候ニ付普通恩給ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名

本籍地

現住所

內閣恩給局長氏名殿

支給郵便局　○○郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第二號書式

普通恩給請求書

增加恩給請求書

年　月　日(官職)ヲ退職致候ニ付普通恩給及增加恩給ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名

本籍地

現住所

氏　名印

內閣恩給局長氏名殿

支給郵便局　○○郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第三號書式

增加恩給請求書

年　月　日(官職)ヲ退職致候處在職中ノ傷痍(疾病)彌後重症ニ赴キ候ニ付增加恩給ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名

本籍地

現住所

氏　名印

內閣恩給局長氏名殿

支給郵便局　○○郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第四號書式

扶助料請求書

公務員又ハ普通恩給權者　氏　名

右者　年　月　日死亡候ニ付扶助料ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

本籍地

現住所

年　月　日

氏　名印

內閣恩給局長氏名殿

支給郵便局　○○郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第五號書式

扶助料請求書

前扶助料權者　氏　名

右者　年　月　日失權候ニ付扶助料ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

公務員又ハ普通恩給權者トノ身分關係

本籍地

現住所

年　月　日

氏　名印

內閣恩給局長氏名殿

支給郵便局　○○郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第六號書式

一時恩給請求書

年　月　日(官職)ヲ退職致候ニ付一時恩給ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名

本籍地

現住所

年　月　日

氏　名印

內閣恩給局長氏名殿

支給郵便局　○○郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第七號書式

一時扶助料請求書

(公務員又ハ普通退給權者ノ恩給證書時ノ官職名)

右者　年　月　日死亡候ニ付恩給法第八十一條ノ規定ニ依ル一時扶助料

ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

公務員又ハ普通恩給權者トノ身分關係

本籍地

現住所

年　月　日

氏　名印

內閣恩給局長氏名殿

支給郵便局　○○郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第八號書式

一時扶助料請求書

公務員ノ官職名

氏　名

右者　年　月　日在職中死亡候ニ付恩給法第八十二條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

公務員トノ身分關係

本籍地

現住所

年　月　日

氏　名印

內閣恩給局長氏名殿

支給郵便局　○○郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第九號書式

傷病賜金請求書

年　月　日○○○(官職)ヲ退職致候ニ付傷病賜金ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名

本籍地

現住所

年　月　日

丁　名印

內閣恩給局長氏名殿

支給郵便局　○○郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第十號書式

扶助料轉給請求書

扶助料轉給請求書

停止中ノ扶助料權者　氏　名

右者(犯罪所在不明)ニ因ル扶助料停止期間中扶助料ヲ轉給相成度證據書類相添ヘ請求候也

公務員トノ身分關係

本籍地

現住所

年　月　日

氏　名印

內閣恩給局長氏名殿

支給郵便局　○○郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第十一號書式

扶助料停止請求書

停止セラルヘキ扶助料權者　氏　名

右者　年　月　日以來所在不明ニ付扶助料ヲ停止相成度證據書類相添ヘ請求候也

公務員トノ身分關係

本籍地

現住所

年　月　日

申請者　氏　名印

內閣恩給局長氏名殿

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第十二號書式

再審査請求書

年　月　日退職ニ因リ普通恩給及增加恩給ヲ給セラレ候處未タ傷痍(疾病)同復セサルヲ以テ再審査相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名

本籍地

現住所

年　月　日

氏　名印

內閣恩給局長氏名殿

支給郵便局　○○郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第十三號書式

履歷書

退職當時ノ官職名

氏　名印

年月日生

年月日　記事　官公署名

右相違ナキコトヲ證明ス

年　月　日

(退職當時ノ所屬廳ノ長)

官職　氏　名印

備考

一履歷書ハ二通提出スヘシ

一學歷、位記、勳記、賞與等ノ記載ヲ要セス

一官職ノ任免、轉任、陞等、昇級等ハ順ヲ逐ヒ間隙ナキ樣ニ詳記スヘシ

一退職ノ事由ヲ明記スヘシ

一退職當時ノ所屬廳ノ長ハ他廳ニ關スル事項ニ付テハ照會ノ上之ヲ詳記スヘシ

第十四號書式

現認證明書

公務員ノ官職名

氏　名

右者　年　月　日午前(後)　時　地ニ於テ(何)ニ從事中(何)ニ因リ(何)ノ事情ノ下ニ負傷(罹病)シタルコトヲ現認候也

住所又ハ官職名

現認者　氏　名印

年　月　日

備考　本證明書ニハ傷病當時ノ狀況ヲ成ルヘク詳細ニ記載シ現認者多數アルトキハ二名以上連名スヘシ

第十五號書式

事實證明書

公務員ノ官職名

氏　名

右者　年　月　日ヨリ(何)ニ從事中　年　月　日(何)ノ狀況ニ於テ(何)ニ從事シ　月　日頃ヨリ(何)ノ症狀アルヲ訴ヘ彌後(何)ノ處置ヲ施シタリ

右證明ス

所屬長　氏　名印

年　月　日

備考　本證明書ニハ公務傷病ノ原因タル事實ヲ詳細ニ記載スヘシ

第十六號書式

前證書記號番號	前在職年	前職又ハ前階等	前恩給年額

普通増加恩給金額計算書

居住地地方廳名　　支給郵便局名　　局

請求者ノ退職當時ノ官職名　　氏名　　年月日生

項目	記入
退職年月日	
退職ノ事由	
在職年數	
退職當時ノ俸給年額	本俸　圓　錢 加俸　圓　錢 合計　圓　錢
退職當時ノ階等	
恩給年額算出率	百五十分ノ三百分ノ
公務傷病ノ原因	
傷病ニ罹リタル年月日	年　月　日
症狀等差	第　項

年額	普通恩給 増加恩給	金　圓　錢
毎期給額		金　圓　錢
初期支給額	大正　年　月　日ノ給額　箇月分	金　圓　錢

右取調候處相違無之ニ付給與相成度

年　月　日

官職氏名印

内閣恩給局長氏名殿

在職年内譯

實在職年		加算年		除算年	
始終期	年月數	始終期	事由　年月數	始終期	事由　年月數
自　年　月　日 至　年　月　日		自　年　月　日 至　年　月　日		自　年　月　日 至　年　月　日	
自　年　月　日 至　年　月　日		自　年　月　日 至　年　月　日		自　年　月　日 至　年　月　日	
自　年　月　日 至　年　月　日		自　年　月　日 至　年　月　日		自　年　月　日 至　年　月　日	
合計　年　月		合計　年　月		合計　年　月	

總計　年　月

第十七號書式

一時恩給金額計算書

支給郵便局名　　局

請求者ノ退職當時ノ官職名　　氏名

項目	記入
退職年月日	年　月　日
退職ノ事由	
在職年數	
退職當時ノ俸給年額	本俸　圓　錢 加俸　圓　錢 合計　圓　錢
退職當時ノ階等	
一時恩給金額	金　圓

右取調候處相違無之候ニ付給與相成度

年　月　日

官職氏名

内閣恩給局長氏名殿

在職年内譯

實在職年		加算年		除算年	
始終期	年月數	始終期	事由　年月數	始終期	事由　年月數
自　年　月　日 至　年　月　日		自　年　月　日 至　年　月　日		自　年　月　日 至　年　月　日	
自　年　月　日 至　年　月　日		自　年　月　日 至　年　月　日		自　年　月　日 至　年　月　日	
自　年　月　日 至　年　月　日		自　年　月　日 至　年　月　日		自　年　月　日 至　年　月　日	
合計　年　月		合計　年　月		合計　年　月	

總計　年　月

第十八號書式

扶助料金額計算書

居住地地方廳名　　支給郵便局名　　局

公務員トノ續柄　　氏名　　年月日生

公務員ニ關スル事項

項目	記入
退職(死亡)年月日	年　月　日
退職ノ事由又ハ死因	
在職年數	
退職(死亡)當時ノ俸給年額	本俸　圓　錢 加俸　圓　錢 合計　圓　錢
退職(死亡)當時ノ階等	
恩給證書ノ日附	年　月　日
恩給證書記號番號	第　號
普通恩給年額	金　圓
死亡年月日	年　月　日

前扶助料權者ニ關スル事項

項目	記入
公務員トノ續柄	
失權(停止)事由	
失權(停止)年月日	年　月　日
證書記號番號	第　號
扶助料年額	金　圓

氏名　　年月日生

扶助料額

項目	記入
年額	普通恩給ノ　分　金　圓
毎期給額	金　圓　錢
初期支給額	年月ヨリ給與　年月分ノ給額　ケ月分　金　圓　錢

右取調候處相違無之候ニ付給與相成度

年　月　日

官職氏名

内閣恩給局長氏名殿

在職年内譯

實在職年		加算年		除算年	
始終期	年月數	始終期	事由　年月數	始終期	事由　年月數
自　年　月　日 至　年　月　日		自　年　月　日 至　年　月　日		自　年　月　日 至　年　月　日	
自　年　月　日 至　年　月　日		自　年　月　日 至　年　月　日		自　年　月　日 至　年　月　日	
自　年　月　日 至　年　月　日		自　年　月　日 至　年　月　日		自　年　月　日 至　年　月　日	
合計　年　月		合計　年　月		合計　年　月	

總計　年　月

右取調候處相違無之候ニ付給與相成度

年　月　日

官職氏名印

内閣恩給局長氏名殿

在職年内譯

實在職年		加算年		除算年	
始終期	年月數	始終期	事由　年月數	始終期	事由　年月數
自　年　月　日 至　年　月　日		自　年　月　日 至　年　月　日		自　年　月　日 至　年　月　日	
自　年　月　日 至　年　月　日		自　年　月　日 至　年　月　日		自　年　月　日 至　年　月　日	
自　年　月　日 至　年　月　日		自　年　月　日 至　年　月　日		自　年　月　日 至　年　月　日	
合計　年　月		合計　年　月		合計　年　月	

總計　年　月

第十九號書式

恩給法第八十一條ノ一時扶助料金額計算書

支給郵便局名　　局

公務員トノ續柄　　氏名　　年月日生

公務員トノ續柄　　氏名　　年月日生

公務員ニ關スル事項

項目	記入
退職(死亡)年月日	年　月　日
退職ノ事由又ハ死因	
在職年數	
退職(死亡)當時ノ俸給年額	
退職(死亡)當時ノ階等	
恩給證書記號番號	第　號
普通恩給年額	金　圓

一時扶助料金額	金　圓 扶助料年額　年分

右取調候處相違無之ニ付給與相成度

年　月　日

官職氏名印

内閣恩給局長氏名殿

在職年内譯

第二十號書式

恩給法第八十二條ノ一時扶助料金額計算書

支給郵便局名　　局

公務員トノ續柄　　氏名

項目	記入
死亡年月日	年　月　日
死因	
在職年數	
死亡當時ノ俸給年額	本俸　圓　錢 加俸　圓　錢 合計　圓　錢
死亡當時ノ階等	
一時扶助料金額	金　圓

右取調候處相違無之候ニ付給與相成度

年　月　日

官職氏名印

内閣恩給局長氏名殿

在職年内譯

實在職年		加算年		除算年	
始終期	年月數	始終期	事由　年月數	始終期	事由　年月數
自　年　月　日 至　年　月　日		自　年　月　日 至　年　月　日		自　年　月　日 至　年　月　日	
自　年　月　日 至　年　月　日		自　年　月　日 至　年　月　日		自　年　月　日 至　年　月　日	
自　年　月　日 至　年　月　日		自　年　月　日 至　年　月　日		自　年　月　日 至　年　月　日	
合計　年　月		合計　年　月		合計　年　月	

總計　年　月

〔朝〕

第二十一號書式

傷病賜金額計算書

退職ノ事由	年月日	支給郵便局名	局
退職時ノ階等	退職當時ノ官職名	氏名	
傷病ニ罹リタル年月日	年　月　日		
公務傷病ノ原因	年　月　日		
症狀等		傷病賜金額	金　圓
差第　款			

右取調候處相違無之ニ付給與相成度

年　月　日

官職氏名印

內閣恩給局長氏名殿

第二十二號書式

年　月　日

內閣恩給局宛（貯金局經由）

氏名	
住所	
退職當時ノ官職名又ハ公務員トノ身分關係	
恩給證書ノ記號番號	第　號
罪名	
刑名	
刑期	
判決言渡年月日	年　月　日
判決確定年月日	年　月　日
刑期起算年月日	年　月　日
刑期滿了年月日	年　月　日
執行猶豫期間	年
執行猶豫言渡取消年月日	年　月　日

裁判所

第二十三號書式

年　月　日

內閣恩給局宛（貯金局經由）

氏名	
住所	
退職當時ノ官職名又ハ公務員トノ身分關係	
恩給證書ノ記號番號	第　號
罪名	
刑名	
刑期	
判決言渡年月日	年　月　日
判決確定年月日	年　月　日
刑期起算年月日	年　月　日
刑期滿了年月日	年　月　日
執行猶豫期間	年
執行猶豫言渡取消年月日	年　月　日

裁判所

第二十四號書式

恩給證書（裁定通知書）再交付申請書

一恩給證書ノ記號番號（裁定通知書ノ番號）

一恩給證書ノ日附（裁定通知書ノ日附）

一恩給金額

右恩給證書（裁定通知書）ヲ亡失（毀損）致候ニ付再交付相成度申請候

年　月　日

退職當時ノ官職名又ハ公務員トノ身分關係

本籍地

氏名印

朝鮮總督氏名殿

支給郵便局（所）〇〇郵便局（所）

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第四號書式

增加恩給請求書

年　月　日（官職）ヲ退職致候處在職中ノ傷痍（疾病）罹後重症ニ赴キ候ニ付增加恩給ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名

本籍地

現住所

年　月　日

氏名印

朝鮮總督氏名殿

支給郵便局（所）〇〇郵便局（所）

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第五號書式

扶助料請求書

公務員又ハ普通恩給權者　氏名

右者　年　月　日死亡候ニ付扶助料ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

本籍地

現住所

年　月　日

氏名印

朝鮮總督氏名殿

支給郵便局（所）〇〇郵便局（所）

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第六號書式

扶助料請求書

前扶助料權者　氏名

右者　年　月　日失權候ニ付扶助料

現住所

氏名印

內閣恩給局長氏名殿

支給郵便局　〇〇郵便局

●朝鮮總督ノ管掌ニ係ル恩給與細則

大正十二年十月

總令第百二十五號

朝鮮總督ノ管掌ニ係ル恩給與細則左ノ通定ム

第一條　警察監獄職員及其ノ遺族ノ恩給請求書類ニシテ其ノ提出ニ付經由廳ノ定アルモノハ左ノ區分ニ從ヒ先ツ之ヲ經由廳ニ差出スヘシ

一　警察職員及其ノ遺族ニ在リテハ警察官講習所長ニ之ヲ差出スヘシ

二　監獄職員及其ノ遺族ニ在リテハ監獄職員ノ退職當時ノ所屬刑務所長ニ之ヲ差出スヘシ

第二條　裁定官廳ニ直接ニ差出スヘキコトヲ定メタル書類ハ之ヲ朝鮮總督府ニ差出スヘシ

第三條　恩給請求書類ハ概ネ別紙樣式（第一號乃至第十五號書式）ニ準シ作成スヘシ

第四條　恩給給與規則第六條ノ規定ニ依リ扶助料請求書ヲ直接ニ裁定官廳ニ差出ス場合ニ於テ帝國外ニ居住スル者ハ所管領事官ノ現住證明ヲ受ケ書留郵便ヲ以テ之ヲ朝鮮總督府ニ差出スヘシ

第五條　恩給給與ノ裁定ヲ爲シタルトキハ貯金局ニ其ノ旨ノ通知ヲ爲スト共ニ恩給證書又ハ裁定通知書ヲ作リ請求者ニ之ヲ交付スヘシ

第六條　恩給ノ請求ヲ却下シタル場合ニ於テハ請求者ニ對シ直接其ノ旨ヲ通知スルト共ニ其ノ要旨ヲ關係廳ニ通知ス

第七條　恩給給與規則第二十五條ノ規定ニ依リ誤謬ヲ訂正シ又ハ裁定ノ改訂ヲ爲シタル場合ニ於テハ貯金局ヲ經テ權利者ニ通知シ又ハ新證書ヲ交付ス

第八條　恩給給與規則第三十一條ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ宣告又ハ取消ヲ爲シタル朝鮮總督府裁判所ハ別紙樣式（第十六號又ハ第十七號書式）ニ準シ貯金局ヲ經テ朝鮮總督府ニ通知スヘシ

第九條　恩給給與規則第三十六條ノ規定ニ依リ恩給證書又ハ裁定通知書ノ再交付ヲ申請セムトスル者ハ概ネ別紙樣式（第十八號書式）ニ準シ再交付申請書ヲ作リ左ノ書類ヲ添附シ之ヲ朝鮮總督府ニ差出スヘシ

一　恩給證書又ハ裁定通知書ヲ亡失シタルモノナルトキハ亡失ノ顚末及亡失後ニ於テ執リタル措置ヲ記載シタル書類竝其ノ事實ヲ證スルニ足ルヘキ警察官署等ノ公ノ證明書但シ裁定通知書ヲ亡失シタル場合ニ於テハ警察官署等ノ公ノ證明ヲ要セス

二　恩給證書又ハ裁定通知書ヲ毀損シタルモノナルトキハ其ノ顚末書及毀損シタル恩給證書又ハ裁定通知書

第十條　恩給給與規則ニ依リ支給廳ヲ經テ朝鮮總督府ニ差出スヘキ書類ハ支給郵便局又ハ支給郵便所ニ差出スヘシ

第十一條　恩給法施行令第十七條ノ規定ニ依ル加算ヲ爲スヘキ勤務ニ服シタルトキハ其ノ所屬長官ハ勤務日誌ヲ作リ恩給請求ニ際シ其ノ寫ヲ差出スヘシ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年朝鮮總督府令第七十一號及大正十一年法律第十八號施行手續ハ之ヲ廢止ス

（別紙）

第一號書式

普通恩給請求書

元（官職）氏名

右者　年　月　日（官職）ヲ退職ノ年　月　日死亡候ニ付普通恩給ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

本籍地

現住所

年　月　日

氏名印

朝鮮總督氏名殿

支給郵便局（所）〇〇郵便局（所）

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第二號書式

普通恩給請求書

年　月　日（官職）ヲ退職致候ニ付普通恩給ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名

本籍地

現住所

年　月　日

氏名印

朝鮮總督氏名殿

支給郵便局（所）〇〇郵便局（所）

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第三號書式

普通恩給請求書

增加恩給請求書

年　月　日（官職）ヲ退職致候ニ付普通恩給及增加恩給ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名

本籍地

現住所

年　月　日

氏名印

朝鮮總督氏名殿

支給郵便局（所）〇〇郵便局（所）

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第四號書式

增加恩給請求書

年　月　日（官職）ヲ退職致候處在職中ノ傷痍（疾病）罹後重症ニ赴キ候ニ付增加恩給ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名

本籍地

現住所

年　月　日

氏名印

朝鮮總督氏名殿

支給郵便局（所）〇〇郵便局（所）

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第五號書式

扶助料請求書

公務員又ハ普通恩給權者　氏名

右者　年　月　日死亡候ニ付扶助料ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

本籍地

現住所

年　月　日

氏名印

朝鮮總督氏名殿

支給郵便局（所）〇〇郵便局（所）

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第六號書式

扶助料請求書

前扶助料權者　氏名

右者　年　月　日失權候ニ付扶助料

ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

公務員又ハ普通恩給權者トノ身分關係
本籍地
現住所

年　月　日　　氏　名印

朝鮮總督府氏名殿
支給郵便局(所)〇〇郵便局(所)

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第七號書式

一時恩給請求書

年　月　日（官職）ヲ退職致候ニ付一時恩給ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名
本籍地
現住所

年　月　日　　氏　名印

朝鮮總督府氏名殿
支給郵便局(所)〇〇郵便局(所)

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第八號書式

一時扶助料請求書

公務員又ハ普通恩給權者ノ退職當時ノ官職名　氏　名

右者　年　月　日死亡候ニ付恩給法第八十一條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

公務員又ハ普通恩給權者トノ身分關係

本籍地
現住所

年　月　日　　氏　名印

朝鮮總督府氏名殿
支給郵便局(所)〇〇郵便局(所)

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第九號書式

一時扶助料請求書

公務員ノ官職名　氏　名

右者　年　月　日在職中死亡候ニ付恩給法第八十二條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

公務員トノ身分關係
本籍地
現住所

年　月　日　　氏　名印

朝鮮總督府氏名殿
支給郵便局(所)〇〇郵便局(所)

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第十號書式

扶助料轉給請求書

停止中ノ扶助料權者　氏　名

右者所在不明ニ因ル扶助料停止期間中扶助料ヲ轉給相成度證據書類相添ヘ請求候也

公務員トノ身分關係
本籍地
現住所

年　月　日　　氏　名印

朝鮮總督府氏名殿
支給郵便局(所)〇〇郵便局(所)

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第十一號書式

扶助料停止請求書

停止セラルヘキ扶助料權者　氏　名

右者　年　月　日以來所在不明ニ付扶助料ヲ停止相成度證據書類相添ヘ請求候也

公務員トノ身分關係
本籍地
現住所

年　月　日　　氏　名印

朝鮮總督府氏名殿
支給郵便局(所)〇〇郵便局(所)

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第十二號書式

再審査請求書

年　月　日退職ニ因リ普通恩給及增加恩給ヲ給セラレ候處未タ傷痍（疾病）同復セサルヲ以テ再審査相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名
本籍地
現住所

年　月　日　　氏　名印

朝鮮總督府氏名殿
支給郵便局(所)〇〇郵便局(所)

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第十三號書式

履歷書

退職當時ノ官職名　氏　名印
年月日生

年月日　記　事　官公署名

右相違ナキコトヲ證明ス

年　月　日
（退職當時ノ所屬廳ノ長）
官職　氏　名印

備考

一　履歷書ハ二通提出スヘシ

一　學歷、位記、勳記、賞與等ノ記載ヲ要セス

一　官職ノ任免、轉任、陞等、昇級等ハ順ヲ逐ヒ間隙ナキ樣ニ詳記スヘシ

一　退職ノ事由ヲ明記スヘシ

一　記載事項ノ末尾ニ「本履歷書記載ノ外他ノ公務員ノ職ニ就キタルコト無之候」旨附記スヘシ

一　退職當時ノ所屬廳ノ長ハ他廳ニ關スル事項ニ付テハ照會ノ上各事項毎ニ履歷書欄外ニ照合ノ印ヲ押捺スヘシ

第十四號書式

現認證明書

公務員ノ官職名　氏　名

右者　年　月　日午前（後）　時　地ニ於テ（何）ニ從事中（何）ニ因リ（何）ノ事情ノ下ニ負傷（罹病）シタルコトヲ現認候也

住所又ハ官職名
現認者　氏　名印

年　月　日

備考　本證明書ニハ傷病當時ノ狀況ヲ成ヘク詳細ニ記載シ現認者多數アルトキハ二名以上連名スヘシ

第十五號書式

事實證明書

公務員ノ官職名　氏　名

右者　年　月　日ヨリ（何）ニ從事中　年　月　日（何）ノ狀況ニ於テ（何）ニ從事シ　月　日頃ヨリ（何）ノ症狀アルヲ訴ヘ禦後（何）ノ處置ヲ施シタリ

右證明ス

年　月　日　　所屬長　氏　名印

備考　本證明書ニハ公務傷病ノ原因タル事實ヲ詳細ニ記載スヘシ

（朝）

第十六號書式

年　月　日

朝鮮總督府宛（貯金局經由）　　裁判所

氏　名
住　所
退職當時ノ官職名又ハ公務員トノ身分關係
恩給證書ノ記號番號　第　號
罪　名
刑　名
刑　期
刑　期
判決言渡年月日　年　月　日
判決確定年月日　年　月　日
刑期起算年月日　年　月　日
刑期滿了年月日　年　月　日

第十七號書式

年　月　日

朝鮮總督府宛（貯金局經由）　　裁判所

氏　名
住　所
退職當時ノ官職名又ハ公務員トノ身分關係
恩給證書ノ記號番號　第　號
罪　名
刑　名
刑　期
判決言渡年月日　年　月　日
判決確定年月日　年　月　日
刑期起算年月日　年　月　日
刑期滿了年月日　年　月　日
執行猶豫期間
執行猶豫言渡取消　年　月　日

第十八號書式

恩給證書（裁定通知書）再交付申請書

一　恩給證書ノ記號番號（裁定通知書ノ番號）

一　恩給證書ノ日附（裁定通知書ノ日附）

一　恩給金額

右恩給證書（裁定通知書）ヲ亡失（毀損）致候ニ付再交付相成度申請候

年　月　日

退職當時ノ官職名又ハ公務員トノ身分關係
本籍地
現住所

朝鮮總督府氏名殿
支給郵便局(所)　〇〇郵便局(所)

●恩給法施行令第十六條等ノ加算ヲ爲スヘキ者等ノ取扱方ノ件

大正十三年六月
總訓第九號
改正　大正一四年一二第五三號

本府各局部長
第一次所屬官署ノ長

恩給法施行令第十七條第一項ノ規定ニ依ル加算ヲ爲スヘキ者アルトキ竝同令第十六條第二項、第十七條第二項又ハ第三十二條ノ規定ニ依ル除算ヲ爲スヘキ者アルトキノ取扱方ノ件左ノ通定ム

第一條　恩給法施行令第十七條第一項ノ規定ニ依リ加算ヲ爲スヘキ者アルトキハ左ノ區分ニ從ヒ第一號樣式ノ勤務日誌ヲ調製スヘシ

一　本府ノ高等官ニ付テハ本府秘書課長、判任官ニ付テハ各局長、審議室首席事務官、官房各課長

二　本府看守ニ付テハ監獄ノ長、同巡査ニ付テハ警察官講習所長

三　所屬官署ノ高等官及判任官ニ付テハ第一次所屬官署ノ長

前項ノ勤務日誌中本府判任官、所屬官署ノ高等官及所屬官署ノ判任官ニシテ本府ニ於テ其ノ身分遷退ヲ取扱フモノニ係ルモノハ各其ノ所屬ニ從ヒ本部各局長、審議室首席事務官、官房各課長又ハ第一次所屬官署ノ長ニ於テ其ノ一年分ヲ取纏メ翌年一月末日迄ニ之ヲ本府ニ送付スヘシ但シ轉任、轉勤、退官又ハ退職シタル者ニ係ルモノハ其ノ都

度之ヲ送付スヘシ
勤務日誌ハ左ノ區分ニ從ヒ之ヲ保存スヘシ
一　高等官及本府ノ判任官ニ係ルモノハ本府秘書課長
二　本府看守ニ係ルモノハ監獄ノ長、同巡査ニ係ルモノハ警察官講習所長
三　所屬官署ノ判任官ニ係ルモノハ第一次所屬官署ノ長但シ本府ニ於テ其ノ身分進退ヲ取扱フモノニ係ルモノハ本府秘書課長

第二條　恩給法施行令第十六條第二項、第十七條第二項又ハ第三十二條ノ規定ニ依リ除算セラルヘキ者アルトキハ左ノ區分ニ從ヒ第二號又ハ第三號樣式ニ依リ之ヲ本府ニ報告スヘシ
一　本府ノ判任官ニ付テハ各局長、審議室首席事務官、官房各課長
二　所屬官署ノ高等官及所屬官署ノ判任官ニシテ本府ニ於テ其ノ身分進退ヲ取扱フモノニ付テハ第一次所屬官署ノ長

第三條　恩給法施行令第十六條第二項、第十七條第二項又ハ第三十二條ノ規定ニ依リ除算セラルヘキ者アルトキハ左ノ區分ニ從ヒ第四號樣式ニ準シ履歷書ニ其ノ記入ヲ爲スヘシ
一　高等官及本府ノ判任官ニ付テハ本府秘書課長
二　本府看守ニ付テハ監獄ノ長、同巡査ニ付テハ警察官講習所長
三　所屬官署ノ判任官ニ付テハ第一次所屬官署ノ長但シ本府ニ於テ其ノ身分進退ヲ取扱フモノニ付テハ本府秘書課長

第四條　本令ニ於テ本府各局長、官房各課長、第一次所屬官署及第一次所屬官署ノ長トハ左ノ諸官及官廳ヲ謂フ
一　本府各局長、官房各課長、內務局長、財務局長、殖產局長、法務局長、學務局長、警務局長、秘書課長、外事課長、文書課長、會計課長
二　第一次所屬官署
中樞院、遞信局、鐵道局、專賣局、高等法院、高等法院檢事局、覆審法院、覆審法院檢事局、地方法院、地方法院檢事局、供託局、監獄、感化院、醫院、濟生院、勸業模範場、中央試驗所、營林廠、林業試驗場、水產試驗場、稅關、獸疫血清製造所、警察官講習所、朝鮮史編修會、林野調查委員會、道、官立學校、圖書館
三　第一次所屬官署ノ長
中樞院議長、遞信局長、鐵道局長、專賣局長、高等法院長、高等法院檢事長、覆審法院長、覆審法院檢事長、地方法院長、地方法院檢事正、供託局長、監獄ノ長、感化院長、醫院長、濟生院長、勸業模範場長、中央試驗所長、營林廠長、林業試驗場長、水產試驗場長、稅關長、獸疫血清製造所長、警察官講習所長、朝鮮史編修會長、林野調查委員會委員長、道知事、官立學校ノ長、圖書館長

附　則

本令ハ大正十二年十月一日以降ノ事項ニ付之ヲ適用ス

第一號樣式

不健康業務勤務日誌

不健康業務ノ種類	業務ニ服シタル年月日	業務ヲ離レタル年月日	業務ニ復シタル年月日	事由	官（職）氏名

（注意）
法文中ノ「看護」トハ醫師カ單ニ檢診又ハ投藥ヲ爲シタルカ如キ場合ヲ含マス

第二號樣式

邊陬地不健康業務ヲ離レタル者ノ報告

邊陬地名又ハ不健康業務名	地域又ハ業務ヲ離レタル年月日	歸著又ハ業務ニ服シタル年月日	事由	官（職）氏名

右報告候也
大正　年　月　日
官　氏　名　印
朝鮮總督殿

（注意）
一　地域ヲ離レタル日又ハ歸著ノ日ハ事實邊陬地ヲ離レ又ハ其ノ地域ニ歸著シタル日ナリ
二　未タ加算要件タル期間在勤セサル者ト雖報告ヲ要ス
三　邊陬地在勤ノ者ニシテ朝鮮ヲ離レタル場合ハ第四號樣式ニ依リ報告スルコト

第三號樣式

朝鮮ヲ離レタル者ノ報告

在勤地名	朝鮮ヲ離レタル年月日	歸著ノ年月日	事由	官（職）氏名

右報告候也
大正　年　月　日
官　氏　名　印
朝鮮總督殿

（注意）
一　朝鮮ヲ離レタル年月日又ハ歸著年月日ハ事實朝鮮ヲ離レタル日又ハ朝鮮ニ歸著シタル日ナリ
一　未タ加算要件タル期間在勤セサル者ト雖報告ヲ要ス

第四號樣式

履歷書ノ記載例（朱書）

年月日	記事
大正十二年十一月一日	本府開催何何講習會出席ノ爲熙川郡ヲ離ル
大正十三年二月一日	同上講習會修了ニ付熙川郡ニ歸著

〔朝〕

●增額恩給中內閣恩給局長ノ管掌ニ係ルモノノ更正手續

大正十二年八月
閣令第五號

恩給法第百一條乃至第百三條ノ規定ニ依リ增額スヘキ恩給中內閣恩給局長ノ管掌ニ係ルモノノ更正手續左ノ通定ム

更正手續

第一條　恩給法第百一條又ハ第百二條ノ規定ニ依リ增額スヘキ恩給、扶助料等ニシテ大正十二年九月三十日以前ノ日附アル證書ニ依リ支給スルモノニ付テハ受給權者ノ請求ヲ俟タス之ヲ更正シ其ノ更正年額ヲ表示シタル新證書ヲ發行ス
前項ノ新證書ヲ交付スル迄ハ更正年額ヲ表示シタル支給額票（第一號樣式）ヲ貼附シタル從前ノ證書ニ依リ更正額ヲ支給ス

第二條　恩給法第百一條又ハ第百二條ノ規定ニ依リ增額スヘキ恩給、扶助料等ニシテ大正十二年十月一日以後裁定スヘキモノニ付テハ更正年額及從前ノ年額ヲ表示シタル證書ヲ發行ス

第三條　支給額票ハ受給權者ノ請求ヲ俟タス內閣恩給局ニ於テ之ヲ調製シ貯金局ヲ經テ之ヲ受給權者ニ交付ス

第四條　第一條ノ新證書ハ貯金局ヲ經テ之ヲ受給權者ニ交付ス

第五條　第一條ノ新證書ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ交付請求書（第二號樣式）ニ現住地ノ警察官署又ハ領事館ノ現住證明ヲ受ケ內閣恩給局ニ差出スヘシ但シ現住地ニ警察官署又ハ領事館ナキトキハ町村役場若ハ之ニ準スヘキモノノ現住證明ヲ受クヘシ
受給權者ハ內閣恩給局又ハ支給郵便局ヨリ前項ノ交付請求書ノ用紙ヲ受クルコトヲ得

第六條　前條ノ交付請求書提出後現住地ヲ變更シタルトキハ其ノ現住地ノ警察官署、領事館又ハ町村役場若ハ之ニ準スヘキモノノ現住證明書ヲ添ヘ速ニ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

第七條　第一條ノ新證書ヲ發行シタルトキハ交付請求書ヲ差出シタル者ニ對シ貯金局ヲ經テ其ノ旨ヲ通知ス
受給權者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ從前ノ證書ニ新證書ノ受領證印ヲ爲シ之ト引換ニ新證書ノ交付ヲ受クヘシ
前項ノ場合ニ於テ止ムコトヲ得サル事由ニ因リ從前ノ證書ヲ提出スルコトヲ得サルトキハ內閣恩給局ノ承認書ヲ以テ從前ノ證書ニ代フルコトヲ得
前項ノ承認書ヲ受ケムトスル者ハ恩給證書ヲ提出スルコトヲ得サル事由ヲ詳記シタル書面ヲ內閣恩給局ニ差出スヘシ

第八條　支給額票ヲ亡失シ又ハ毀損シタルトキハ貯金局ヲ經テ內閣恩給局ニ其ノ再交付ヲ請求スヘシ

第九條　大正九年七月三十一日以前ノ日附アル證書ハ大正十二年十月三十一日限リ其ノ效力ヲ失フ

第十條　大正九年八月一日以後大正十二年九月三十日迄ノ間ニ於ケル日附アル證書及之ニ貼附シタル支給額票ハ大正十四年三月三十一日限リ其ノ效力ヲ失フ

第十一條　恩給法第百三條ノ規定ニ依リ新ニ恩給又ハ扶助料ヲ請求スル者ハ恩給給與規則第一條及第二條又ハ第七條及第八條ノ規定ニ依ルノ外尙第七師團長及陸軍大臣ヲ經テ其ノ請求書ヲ差出スヘシ

第十二條　從前ノ規定ニ依リ給スル恩給又ハ扶助料ヲ恩給法第百一條乃至第百三條ノ規定ニ依リ更正增額スル場合ニ於テハ第一條乃至第七條ノ規定ニ依リ先ツ同法第百一條又ハ第百一條及第百二條ノ規定ニ依ル更正增額ヲ爲シ更ニ受給權者ノ請求ヲ俟ツテ同法第百三條ノ規定ニ依ル更正增額ヲ爲ス
前項ノ請求ヲ爲ス者ハ更正請求書（第三號樣式）ヲ第七師團長及陸軍大臣ヲ經テ內閣恩給局長ニ差出スヘシ

第十三條　陸軍大臣前條ノ更正請求書ヲ受付ケタルトキハ恩給金額計算書ヲ添附シ其ノ他恩給給與規則ノ例ニ依リ之ヲ內閣恩給局長ニ進達スヘシ

第十四條　恩給ノ更正ニ關シ本令ニ別段ノ規定ナキ事項ニ付テハ恩給給與規則ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式

大正十三年壹月渡以降更正支給額表

更正證書記號番號	更正年額
	圓
現證書記號番號	更正一期額
	圓
肩書及氏名	

（內閣恩給局）

注意（一）本票ハ證書表面金額ノ上部ニ貼附スヘシ
（二）更正額ニ對スル新證書ハ追テ交付スヘキニ付其ノ際現證書ハ之ヲ還納スヘシ

〔朝〕

第二號樣式（裏面）

交付請求書

證書記號番號	受給者氏名
受給郵便局名	現住地

恩給法ニ依ル更正證書及請求候也

現住地
受給者
氏名印

右現住者タルコトヲ證明ス

大正　年　月　日

警察（署長／分署長）

町村長

（表面）

Carte Postale

東京市
内
丸之
内
郵便局
中

（第三號樣式）

更正請求書

退職當時ノ官職　　氏名

一退職年月日　　年月日生
一證書ノ記號番號　　第　　號
一證書ノ日附　　年　　月　　日
一現恩給又ハ扶助料年額　　金　　圓

一支給郵便局名（又ハ新ニ支給ヲ受ケ又ハ其ノ官ヲ免セラレ恩給ヲ受クヘキ場合ニ於テハ其ノ官ヲ免セラレ恩給法中支官ノ普通恩給ニ關スル規定ニ依リ計算シタル年額ニ其ノ百分ノ三十ニ相當スル金額ヲ加ヘタルモノトス前項ノ規定ノ適用ニ付テハ判事檢事相互ニ轉任シタル場合ハ引續キ在職シタルモノト看做ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十二年九月勅令第四百三十二號ヲ以テ大正十二年十月一日ヨリ施行）

本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依ル恩給年額ヲ受ケ又ハ受クヘキ者ニハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依ル恩給年額ヲ給ス

恩給法附則ニ依ル增額恩給更正規則左ノ通定ム

恩給法附則ニ依ル增額恩給更正規則

大正十二年九月
遞令第五十七號

第一條　貯金局ニ於テ大正十二年閣令第五號其ノ他恩給法第百一條乃至第百三條ノ施行ニ關スル規定ニ依リ從前ノ恩給、扶助料等ノ證書ニ支給額票貼附ノ手續ヲ爲サムトスルトキハ其ノ旨ヲ受給者ニ通知ス

第二條　受給者前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ速ニ從前ノ恩給、扶助料等ノ證書ヲ支給郵便局ニ差出シ支給額票ノ貼附ヲ請求スヘシ

支給郵便局ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ當該證書ノ表面上部欄外ニ支給額票ヲ貼附シ日附印ヲ以テ契印シタル上之ヲ受給者ニ返付スヘシ

第三條　受給者現ニ年金恩給支給規則第十條ニ依リ從前ノ恩給、扶助料等ノ證書ヲ貯金局ニ寄託セルモノナルトキハ貯金局ニ於テ前條ニ準シ當該證書ニ對スル支給額票貼附ノ手續ヲ爲ス

前項ノ場合ニ於テハ新ニ保管證書ヲ作成シ支給郵便局ヲ經テ舊保管證書ト引換ニ之ヲ受給者ニ交付ス

第四條　受給者新證書交付ノ通知ヲ受ケタルトキハ支給額票ヲ貼附シタル從前ノ證書又ハ裁定官廳ノ承認書表面餘白ニ新證書ニ對スル受領證印ヲ爲シ之ヲ指定ノ郵便局ニ差出シ引換ニ新證書ノ交付ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ同時ニ支給郵便局ヲ改訂

一請求書ハ第七師團司令部ニ差出スヘシ
二請求書提出後本籍地又ハ現住地ヲ變更シタルトキハ速ニ內閣恩給局ニ屆出ツヘシ支給郵便局ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

定年ニ因ル退職判事檢事ノ恩給ニ關スル件

大正十年五月
法律第百二號
改正　大正二年四第四九號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル定年ニ因ル退職判事檢事ノ恩給ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

本法施行ノ際現ニ判事又ハ檢事ノ本官ニ在職スル者本法施行後引續キ判事又ハ檢事トシテ在職シ裁判所構成法第七十四條ノ二又ハ第八十條ノ二ニ規定スル年齡ニ達シタル後退職シ又ハ其ノ官ヲ免セラレ恩給ヲ受クヘキ場合ニ於テハ其ノ恩給年額ハ恩給法中支官ノ普通恩給ニ關スル規定ニ依リ計算シタル年額ニ其ノ百分ノ三十ニ相當スル金額ヲ加ヘタルモノトス前項ノ規定ノ適用ニ付テハ判事檢事相互ニ轉任シタル場合ハ引續キ在職シタルモノト看做ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十年五月勅令第二百二十七號ヲ以テ大正十年六月一日ヨリ施行）

附則（大正十二年四月法律第四十九號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十二年九月勅令第四百三十二號ヲ以テ大正十二年十月一日ヨリ施行）

本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依ル恩給年額ヲ受ケ又ハ受クヘキ者ニハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依ル恩給年額ヲ給ス

（注意）

（請求書樣式）

更正請求書

退職當時ノ官職　　氏名

一退職年月日　　年月日生
一證書ノ記號番號　　第　　號
一證書ノ日附　　年　　月　　日
一現恩給又ハ扶助料年額　　金　　圓

一支給郵便局所名（又ハ新ニ支給ヲ受ケムトスル郵便局所名）

恩給法第百三條ノ規定ニ依リ前記恩給扶助料年額更正相成度此段請求候

本籍地
現住地

年月日　　請求者　氏名㊞

朝鮮總督（又ハ道知事）氏名殿

（注意）

請求書提出後本籍地又ハ現住地ヲ變更シタルトキハ速ニ朝鮮總督（又ハ道知事）ニ屆出ツヘシ、支給郵便局所ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

恩給法第百三條ノ規定ニ依リ裁定又ハ改定スヘキ恩給中朝鮮總督又ハ道知事ノ管掌ニ係ルモノノ裁定又ハ改定ノ手續

大正十二年九月
總令第百十一號

恩給法第百三條ノ規定ニ依リ裁定又ハ改定スヘキ恩給中朝鮮總督又ハ道知事ノ管掌ニ係ルモノノ裁定又ハ改定ノ手續左ノ通定ム

第一條　恩給法第百三條ノ規定ニ依リ新ニ恩給又ハ扶助料ヲ請求スル者ハ恩給給與規則第二條及第二條ノ又ハ第七條及第八條ノ規定ニ依リ恩給法施行令第三條ノ區分ニ依リ朝鮮總督又ハ道知事ニ其ノ請求書ヲ差出スヘシ

第二條　從前ノ規定ニ依リ給スル恩給又ハ扶助料ヲ恩給法第百一條乃至第百三條ノ規定ニ依リ更正增額スル場合ニ於テハ大正十二年閣令第五號第一條乃至第七條ノ規定ニ依リ先ツ同法第百一條又ハ第百一條及第百二條ノ規定ニ依ル更正增額ヲ爲シ更ニ受給權者ノ請求ヲ俟ツテ同法第百三條ノ規定ニ依ル更正增額ヲ爲ス

前項ノ請求ヲ爲ス者ハ別紙樣式ニ依ル更正請求書ニ屯田兵ノ現役ニ就キタル年月日及現役ヲ離レタル年月日ヲ記載シタル履歷書並請求者ノ戶籍謄本ヲ添ヘ恩給法施行令第三條ノ區分ニ依リ朝鮮總督又ハ道知事ニ差出スヘシ

第三條　朝鮮總督又ハ道知事前二條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ屯田兵ノ現役ニ服シタル年月日數ヲ陸軍大臣ニ就キ調査スヘシ

附則

本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

恩給法第百一條又ハ第百二條ノ規定ニ依リ增額スヘキ恩給中朝鮮總督又ハ道知事ノ管掌ニ係ルモノノ更正手續

大正十二年九月
總令第百十號

恩給法第百一條又ハ第百二條ノ規定ニ依リ增額スヘキ恩給中朝鮮總督又ハ道知事ノ管掌ニ係ルモノノ更正手續左ノ通定ム

第一條　大正十二年閣令第五號ハ第十一條乃至第十三條ノ規定ヲ除クノ外恩給法第百一條又ハ第百二條ノ規定ニ依リ增額スヘキ恩給、扶助料等ニシテ朝鮮總督又ハ道知事ノ管掌ニ係ルモノノ取扱ニ付之ヲ準用ス

第二條　前條ノ閣令中內閣恩給局トアルハ恩給、扶助料等ニシテ朝鮮總督ノ管掌ニ係ルモノニ付テハ朝鮮總督府、道知事ノ管掌ニ係ルモノニ付テハ道トス

附則

本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

恩給法第九十二條第一項ノ規定ニ依ル加算ノ地域及期間

大正十二年十二月
內閣告示第二號

恩給法第九十二條第一項ノ規定ニ依ル加算ノ地域及期間左ノ通勅裁ヲ經タリ

國境警備及理事ノ加算ニ關スル件

大正十二年十月一日以後朝鮮ニ於ケル左ノ地ニ於テ國境警備ニ從事スル公務員ニ對シ恩給法第九十二條第一項ニ規定スル國境警備加算ヲ爲ス

道名	郡府名
平安北道	新義州府、龍川郡、義州郡、朔州郡、昌城郡、碧潼郡、楚山郡、渭原郡、江界郡、慈城郡、厚昌郡

咸鏡南道	三水郡、甲山郡
咸鏡北道	茂山郡、會寧郡、鐘城郡、穩城郡、慶源郡、慶興郡

大正十二年十月一日以後臺灣ニ於ケル左ノ地ニ於テ理蕃ニ從事スル公務員ニ對シ恩給法第九十二條第一項ニ規定スル理蕃加算ヲ爲ス

州廳名	郡、支廳名	駐在所、警戒所、分遣所名
臺北	羅東	タボー烏帽子山、カナウラン、シーセン、土場、十字路、ボンボン山、シキクン、西村、大内臺、源、太平山、岐路、小林、瀧ノ上、池ノ端、龜山、二高地、田丸、ルモアン、カラップ、日南、シキクン、地壘、水源地、漆崎、路邊、マナウヤン、米羅、ピヤナン、右岸、突稜、旗山道、バゴン、斷崖、鞍部、ムルロアフ、バゴン
	蘇澳	タビヤハン、コーコッス、キンノー、梅、檜合流、楠子、コーコリヨヘン、砲臺、ブター、茂邊、リヨヘン、月桃、望洋、矢櫃、クバボキンヤン、ルツキヨゴオンベレフン、大濁水、雅音、銅山、ピヤハク、山椒、クバボーキンヤンウ、クムヤ、バボカピヤハ、イカイウ、水源、二水山、脚鞍部、キヤン、ラワ
	大溪	カウボーラン、ハウ、斷崖、カウイラン、境、カギラン、李崠山、マリコワン、マメーウライ、ピヤワイ、シブナオ、タカサン、停車場、ララ溪、ガオガン、控溪、トンノフ、舟尾溪、マカシン、バツトル、サルツ、泰平、ソロ、萱原、一稜、第一高地、シボツケ、四稜、クル、佐澤、カラホン、ハカワ、タマン、見晴、合流、稜角、バロン山、ピヤサン、太滿山、タイヤ、ウラオ、萩坂、丁字、高臺、タイヤカン、チンシボ、タバホ、カス、タラツハ、ガ、霞、養老、馬鞍、武神、錦路、サカヤチン、見返、柘楠、朝日、檜山、道下、竹林、東稜、テンタナ、シパジイ、マイバライ、錦屛山、タコナン、島田、中田
新竹	竹東	メホマン、大隘、シイガオ、パスコワラン、井上、笠野、桃山、シヤカロー、瀬戸、松本、小林、田村臺、庄子、高橋、松下、草村、梅津、川端、大庭、油羅山、會見、西油羅、山脚、鬼澤、出會坂、大窩
	竹南	鹿場、鹿湖、溪ピリン、加里山、前石底、大園、東龍山
	太湖	司令、萩岡、日向、雪見、幸原、北坑、横龍山最高地、曙、鹿山、泉、中間、モギリ、二本松、象鼻、横龍山第一、横龍山第二、同第三、同第四、上ノ島、馬凹、打必曆、瀧見、洗水山第一、洗水山第二、同第三、同第四、同第五、馬母元、大湖溪、天狗、梅園、大安溪、大欠
臺中	東勢	八仙山、雪山坑、久保山、遠藤、神谷山、坂中、大棟、肥棟、横嶺山、出雲山、稍來、白冷、裡冷、久良栖、ウライ
	新高	カネトワン、丹大、卡社、カトグラン、イバホルン、マシタン、タモ、ホ、楠子脚万、東埔、樂々、對關、高、八通關、秀姑巒、明治、バロン、小澤臺
	能高	萬大、ホーゴー、マヘボン、ボアルン、トンバラ、尾上、立鷹、舊ハボン、溌仔欄、三角峰、能高、タウツア、トロツク、マシトバオン、カムジヤウ、カブープ、白狗、マレツパ、躑躅岡、シカヤウ、マリコワン、松嶺、櫻岡、太保久、平岩山、志良節、有勝、ビスタン、氣合達盤、佳陽、パクヒヨ、マカザヤ、下パイワ、サンテ、マヌル、トクブ、マガン、バリサ、ウザヤン、イモン、タマラカト、アカウ、雁爾、頭前山、上寶來、オ
		大津、草津、石部、水口、土山、坂下、關、龜山、庄野、石藥師、四日市、桑名、宮、鳴海、池鯉鮒、袋井、見付、濱松、舞坂、新井、白須賀、二川、吉田、御油、赤坂、藤川
高雄	屛東	岡崎、掛川、日坂、金谷、島田、藤枝、岡部、丸子、府中、江尻、興津、由井、蒲原、吉原、原、沼津、三島、箱根、小田原、大磯、平塚、藤澤、戸塚、程ヶ谷、川崎、品川、神奈川、日本橋、小年溪、美秀臺、美秀溪口、琉球臺、濁水溪、清水溪、ラックス
	潮州	竹坑、クワルス、アマワン、カビヤン、ライ社、クナナウ、獅仔頭、ボンガリ、リキリキ、歸化門、炭頭、大樹林、蕃、芒外、麻裡巴、牡丹路、内獅頭、鈴鹿、逢坂、新武路、不破、箱根、サクサク、ボクラブ、ハイトトワン、ビンカル、モイコル、ヒルナ、北絲鬮、ガイグラ、トグラン、二本松、取入口、溪頭、高臺、望都、老吧老吧、カアルマン

廳名	作業ノ場所	里壠
臺東	大島	背・馬スンヌスン
	大竹高	川端鹿寮山
	大溪	カナス泉
	トアバタリリ近黃	オイ
	ルク	高地チカソアンソン
	大武	茅坂カナテ
	ジヨモル瀧	カナロヒントハン
	虻仔嵓香	クン
	ピララウ蘭太麻里	月眉赤坂
	姑子嵓出水坡コリバ浸水營チヨカライ	榕樹カムテン
	タバカス	里壠山溪間
		アハブ岩見
		ロ紅石頭楠
		タコバ突角
		見晴瀧ノ下
		タハミ池上
		大埔網網
花蓮港	花蓮	銅門烏帽脚瀧見バトラン曲水萬兩林
	天長壽寒溪朝日聯帶	

廳名	作業ノ場所	
臺東	玉里	大仙山風佳心黃麻桃林清流馬里旺ヲバノ
		巒絲トトクン山陰カネカ十里
		三四溪石洞イホホルサトンシンカ鏡水
		抱崖ルルンレポスハハビルマスポ
		トミリタフェシラポンコ
		タフンラクラトーカツミンヤサ
		トマスサラビマザブソ
		大水窟
		シロバコノホタンタンホアカタバ溪
		石壁頭網網口

廳名	作業ノ場所	
臺東	巴聖衛第一	タツキリハロク臺サカダン突角ロチヤンシラカ
	巴聖衛第二	清水カナカシゲークツーキネボアヨン
		トモワン溪畔アロワンバタカ斷崖錐麓
	研海	ラウシバチガン合流ドヨンタビトカプラ
		シーバウシキリヤカルギロサオ萩坂見晴
		クバヤンセラオカカラバオルツピトボコ梅園
	山里川向	タウサクシラツイソワサル

◉恩給法施行令第十七條第一項第一號ニ規定スル勤務

大正十三年四月
內閣告示第二號

恩給法施行令第十七條第一項第一號ニ規定スル勤務左ノ通定メ恩給法施行ノ日以後ノ勤務ニ付適用ス

一　左ノ場所ニ於テ有毒ノ瓦斯若ハ蒸氣又ハ爆藥類ノ研究又ハ製造ニ直接從事スル勤務

廳名	作業ノ場所
內務省警保局	壓縮又ハ液化ノ鹽素、亞硫酸、「フオスゲン」等ノ瓦斯ノ研究室爆藥類ノ研
東京及大阪衛生試驗所	鹽素、「シアン」、「フオスゲン」、芳香系「アミド」化合物、亞硝酸、燐化水素、
廳府縣立ノ衛生試驗所	硫化水素等ノ有毒瓦斯ヲ多量ニ發生シ又ハ使用スル研究室又ハ作業室
	毒性化合物ノ製造及加工作業室
	硝化作業室
	硝酸製造及回收作業室
	硫酸製造作業室
	混酸作業室
	「ニトログリセリン」ノ製造及加工作業室
	無煙藥担和作業室
	無煙藥壓延作業室
	無煙藥截斷作業室
	無煙藥乾燥室
	依的兒ノ製造及回收作業室
	鉛ノ熔融作業室
	燐ノ加工作業室
	芳香系硝化物ノ研究及作業室

廳名	作業ノ場所	
陸軍技術本部		「ニトログリセリン」入爆藥ノ研究及作業室
		硝酸「アンモニア」爆藥ノ研究及作業室
		雷汞及窒化物ノ研究及作業室
		毒性化合物ノ研究室
		燐ノ加工作業室
		芳香系硝化物ノ研究及加工作業室
		硝酸「アンモニア」爆藥ノ研究及作業室
陸軍科學研究所		毒性化合物ノ研究室
		毒性化合物ノ製造及加工作業室
		硝化作業室
		混酸作業室
		「ニトログリセリン」ノ製造及加工作業室
		無煙藥担和作業室
		無煙藥壓延作業室
		無煙藥截斷作業室
		無煙藥乾燥作業室
		鉛ノ熔融作業室
		燐ノ加工作業室
		芳香系硝化物ノ研究及加工作業室
		硝酸「アンモニア」爆藥ノ研究及作業室
		雷汞及窒化物ノ研究及作業室
陸軍軍醫學校		毒性化合物ノ研究及製造作業室
陸軍獸醫學校		毒性化合物ノ研究室
		性質未知ノ爆藥類ノ研究室
		硝化作業室
		硝酸製造及回收作業室
		硫酸製造作業室
		混酸作業室
海軍火藥廠		「ニトログリセリン」ノ製造及作業室
		綿火藥乾燥及取扱作業室
		混和及担和作業室
		壓出作業室
		爆藥鑄造壓搾作業室
		無煙藥乾燥室
		鉛ノ熔融作業室

廳名	作業ノ場所及種類
海軍工廠	起爆劑ノ研究及製造作業室
	燐ノ加工作業室
	鉛ノ熔融作業室
	吳工廠龜ヶ首發射場ニ於ケル爆藥ノ實驗研究ノ場所
	吳工廠砲熕實驗部ニ於ケル性質未知ノ爆藥類ノ研究場所
海軍技術研究所	毒性化合物ノ研究及作業室
海軍軍醫學校	毒性化合物ノ研究室
	硫酸製造作業室
	硫酸「アンモニア」製造作業室
	酸洗作業室
	製鐵所　瓦斯發生爐室
	骸炭爐室
工業試驗所	毒性化合物ノ研究室
臨時窒素研究所	毒性化合物ノ研究室

二　危險ナル細菌ノ研究又ハ製造ニ直接從事スル勤務

廳名	作業ノ場所及種類
東京及大阪衛生試驗所	研究室又ハ作業室ニ於ケル「コラレ」、腸「チフス」、「パラチフス」及赤痢ノ
廳府縣立ノ衛生試驗所	各病原體ノ研究竝檢菌作業
廳府縣ノ港務部、臨時海港檢疫所及衛生試驗所	研究室又ハ作業室ニ於ケル「ペスト」、「コレラ」、發疹「チフス」、腸「チフス」、「パラチフス」、流行性腦脊髓膜炎、赤痢、狂犬病、炭疽及鼻疽ノ各病原體ノ研究竝檢菌作業
陸軍軍醫學校	防疫部ニ於ケル「ペスト」、「コレラ」、發疹「チフス」、腸「チフス」、「パラチフス」、流行性腦脊髓膜炎及赤痢ノ各病原體ノ研究竝豫防液ノ製造、細菌學教室ニ於ケル「ペスト」、「コレラ」、發疹「チフス」、腸「チフス」、「パラチフス」、流行性腦脊髓膜炎、赤痢及狂犬病ノ各病原體ノ研究竝檢菌作業
陸軍病院	病理試驗室ニ於ケル「ペスト」、「コレラ」、發疹「チフス」、腸「チフス」、「パラチフス」、流行性腦脊髓膜炎及赤痢ノ各病原體ノ研究竝檢菌作業
陸軍獸醫學校	細菌室ニ於ケル狂犬病、炭疽及鼻疽ノ各病原體ノ研究竝診斷液又ハ豫防液ノ製造
海軍軍醫學校	防疫學教室又ハ病的檢查室ニ於ケル「ペスト」、「コレラ」、發疹「チフス」、腸「チフス」、「パラチフス」、流行性腦脊髓膜炎及赤痢ノ各病原體ノ研究、檢菌作業竝豫防液ノ製造
海軍病院要港部病院	

傳染病研究所	實驗室、作業室又ハ附屬醫院ニ於ケル「ペスト」、「コレラ」、發疹「チフス」、「ヂフス」、流行性腦脊髓膜炎、赤痢、狂犬病、炭疽及鼻疽ノ各病原體ノ研究、檢菌作業並豫防液ノ製造
獸疫調査所	實驗室又ハ作業室ニ於ケル狂犬病、炭疽及鼻疽ノ各病原體ノ研究並診斷液又ハ豫防液ノ製造

第二款　宮内職員

●宮内省恩給令

大正十二年九月
皇室令第十六號

旹宮内省恩給令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

宮内省恩給令

第一章　總則

第一條　宮内職員タリシ者及其ノ遺族ハ本令ノ定ムル所ニ依リ恩給ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第二條　本令ニ於テ恩給トハ普通恩給、增加恩給、一時恩給、扶助料及一時扶助料ヲ謂フ

普通恩給、增加恩給及扶助料ハ年金トシ一時恩給及一時扶助料ハ一時金トス

第三條　年金タル恩給ノ給與ハ之ヲ給スヘキ事由ノ生シタル月ノ翌月ヨリ之ヲ始メ權利消滅ノ月ヲ以テ終ル

第四條　恩給年額竝一時恩給及一時扶助料ノ額ノ圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

第五條　恩給ヲ受クルノ權利ハ之ヲ給スヘキ事由ノ生シタル日ヨリ七年間請求セサルトキハ消滅ス

第六條　普通恩給又ハ增加恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル者退職後一年内ニ再就職スルトキハ前條ノ期間ハ再就職ニ係ル官職ノ退職ノ日ヨリ之ヲ計算ス

前項ノ規定ハ普通恩給又ハ增加恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル者退職後一年内ニ公務員又ハ公務員ニ準スヘキ者トシテ就職シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第七條　第五條ノ期間滿了前二十日内ニ於テ天災其ノ他避クヘカラサル事變ノ爲請求ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ防碍ノ止ミタル日ヨリ二十日内ハ期間滿了セス

期間滿了前六月内ニ於テ前權利者生死若ハ所在不明ノ爲又ハ未成年者若ハ禁治産者法定代理人ヲ有セサル爲請求ヲ爲スコト能ハサルトキハ請求ヲ爲スコトヲ得ルニ至リタル日ヨリ六月内ハ期間滿了セス

期間滿了前ニ適法ニ請求書ヲ發シタルコトノ通信官署ノ公證アルトキハ期間内ニ權限アル官署ニ到達セサルモ之ヲ期間内ニ到達シタルモノト看做ス

第八條　宮内職員又ハ其ノ遺族互ニ通算セラレ得ヘキ在職年又ハ同一ノ傷病ヲ理由トシテ二以上ノ恩給ヲ併給セラルヘキ場合ニ於テハ其ノ者ノ選擇ニ依リ其ノ一ヲ給ス但シ特ニ併給スヘキコトヲ定メタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

宮内職員又ハ其ノ遺族互ニ通算セラレ得ヘキ在職年又ハ同一ノ傷病ヲ理由トシテ本令ニ依ル恩給ト恩給法ニ依ル恩給トヲ給セラルヘキ場合ニ於テ恩給法ニ依ル恩給ヲ給セラレタルトキハ本令ニ依ル恩給ハ之ヲ給セス

第九條　年金タル恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ權利消滅ス

一　死亡シタルトキ

二　死刑又ハ無期若ハ六年以上ノ懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキ

三　國籍ヲ失ヒタルトキ

第十條　恩給權者死亡シタルトキハ其ノ生存中ノ恩給ニシテ給與ヲ受ケサリシモノハ之ヲ當該宮内職員ノ遺族ニ給シ遺族ナキトキハ死亡者ノ相續人ニ給ス

前項ノ遺族及其ノ順位ニ依ル恩給權者死亡當時家族ナリシトキハ第一項ノ相續人ハ其ノ死亡ノ當時之ト同一戸籍内ニ在リタルコトヲ要ス

第十一條　前條ノ場合ニ於テ死亡シタル恩給權者未タ恩給ノ請求ヲ爲ササリシトキハ恩給ノ支給ヲ受クヘキ遺族又ハ相續人ハ自己ノ名ヲ以テ死亡者ノ恩給ノ請求ヲ爲スコトヲ得

裁定ヲ經タル恩給ニ付テハ恩給ノ支給ヲ受クヘキ遺族又ハ相續人ハ自己ノ名ヲ以テ其ノ恩給ノ支給ヲ受クルコトヲ得

第十二條　恩給ヲ受クルノ權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ違反シタルトキハ恩給ノ支給ヲ停止ス

恩給ヲ受クルノ權利ハ宮内大臣之ヲ裁定ス

第十三條　前條ノ裁定ニ不服アル者ハ裁定ノ日ヨリ六月内ニ宮内大臣ニ具申シ其ノ再審査ヲ求ムルコトヲ得

第十四條　再審査ノ請求アリタルトキハ宮内大臣ハ宮内省恩給審査會ニ諮問シ之ヲ裁決ス

宮内省恩給審査會ニ關スル規程ハ勅裁ヲ經テ宮内大臣之ヲ定ム

第十五條　本令ニ於テ公務員、公務員ニ準スヘキ者、文官及軍人トハ恩給法ノ規定ニ依リ之ニ相當スルモノヲ謂フ

第二章　宮内職員

第一節　通則

第十六條　本令ニ於テ宮内職員トハ宮内官竝皇宮警手及勅裁ヲ經テ宮内大臣ノ指定スル其ノ他ノ判任待遇職員ヲ謂フ但シ女官及俸給ヲ受ケサル官職ニ在ル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條　本令ニ於テ就職トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ謂フ

一　宮内官ニ在リテハ任官

二　判任待遇職員ニ在リテハ任命

女官及俸給ヲ受ケサル職員ヨリ宮内職員ト爲リタルトキハ之ヲ就職ト看做ス

第十八條　本令ニ於テ退職トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ謂フ

一　宮内官ニ在リテハ免官、退官又ハ失官

二　判任待遇職員ニ在リテハ免職、退職又ハ失職

宮内職員ニシテ女官及俸給ヲ受ケサル職員トナリタルトキハ之ヲ退職ト看做ス

第十九條　本令ニ於テ退職トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ謂フ

一　宮内官ニ在リテハ免官、退官又ハ失官

二　判任待遇職員ニ在リテハ免職、退職又ハ失職

宮内職員ニシテ女官及俸給ヲ受ケサル職員トナリタルトキハ之ヲ退職ト看做ス

第二十條　在職年ハ就職ノ月ヨリ之ヲ起算シ退職又ハ死亡ノ月ヲ以テ終ル

退職シタル後再就職シタルトキハ前後ノ在職年月數ハ之ヲ合算ス但シ一時恩給ノ基礎ト爲リタル在職年ニ付テハ前ニ一時恩給ノ基礎ト爲リタル在職年ノ年月數ハ之ヲ合算セス

退職シタル月ニ於テ再就職シタルトキハ再在職ノ在職年ハ再就職ノ月ノ翌月ヨリ之ヲ起算ス

第二十一條　宮内職員ニ二以上ノ官職ヲ併有スル場合ニ於テ其ノ重複スル在職年ニ付テハ年數計算ニ關シ利益ナル一官職ノ在職年ニ依ル

前項ノ規定ハ宮内職員公務員タル官職ヲ併有スル場合ニ於ケル年數計算ニ付之ヲ準用ス

第二十二條　皇宮警手ノ恩給權ニ付其ノ在職年ヲ計算スル場合ニ於テハ十年ニ達スル迄ハ他ノ宮内職員トシテノ在職年ハ其ノ三分ノ二ニ當ル年月數ヲ以テ之ヲ計算ス軍人、警部補、巡査及判任官ノ待遇ヲ受クル消防手ノ在職年ヲ通算スル場合ヲ除クノ外第二十八條ノ規定ニ依リ通算セラルヘキ在職年ニ付亦同シ

第二十三條　宮内職員其ノ職務ヲ以テ從軍シタルトキハ左記各號ノ規定ニ依リ加算ス

一　戰地ニ在リテ戰務ニ服シタルトキハ從軍期間ノ一月ニ付三月

二　戰地外ニ在リテ戰務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月半

前項ノ規定ハ宮内職員ノ職務ヲ以テ戰爭ニ準スヘキ事變ニ際シ戰務ニ服シタル場合ニ付之ヲ準用ス

戰爭ノ期間及地域、戰務ノ範圍竝戰爭ニ準スヘキ事變ノ勅裁ヲ經テ宮内大臣之ヲ定ム

第二十四條　宮内職員戰地又ハ外國ノ交戰若ハ擾亂ノ地域内ニ於テ危險ヲ顧ミス其ノ職務ヲ以テ勤務シタルトキハ在勤期間ノ一月ニ付二月ヲ加算ス

前項ノ戰地又ハ外國ノ交戰若ハ擾亂ノ地域及期間ハ勅裁ヲ經テ宮内大臣之ヲ定ム

第二十五條　宮内職員戒嚴地境内ニ於テ危險ヲ顧ミス其ノ職務ヲ以テ勤務シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付二月ヲ加算ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ勤務ノ場所カ内國ナルトキハ加算年ハ其ノ二分ノ一トス

第二十六條　前三條ノ規定ニ依リ附スヘキ加算年ハ在職年ノ計算ニ付勅裁ヲ經テ宮内大臣ノ定ムル所ニ依リ實在職年ニ從ヒシテ之ヲ算入ス

加算年ヲ附スヘキ基礎在職年ハ加算事由ノ生シタル月ヨリ之ヲ起算シ其ノ事由ノ止ミタル月ヲ以テ終ル

二種以上ノ加算年ヲ附セラルヘキ期間ニ對シテハ最モ利益ナルモノニ依リ其ノ一ヲ附ス

第二十七條　左ニ揭クル年月數ハ在職年ヨリ之ヲ除算ス

一　普通恩給又ハ增加恩給ヲ受クルノ權利消滅シタル場合ニ於テ其ノ恩給權ノ基礎ト爲リタル在職年

二　第三十五條ノ規定ニ依リ宮内職員カ恩給ヲ受クルノ資格ヲ失ヒタル在職年

三　宮内職員ノ不法ニ其ノ職務ヲ離レタル月ヨリ職務ニ復シタル月迄ノ在職年月數

第二十八條　恩給法ニ依リ公務員ノ恩給權ノ基礎ト爲ルヘキ公務員及公務員ニ準スヘキ者トシテノ在職年月數ハ之ヲ宮内職員トシテノ在職年ニ通算ス

第二十九條　本令ニ於テ俸給トハ本俸年功加俸及精勤加俸ヲ謂フ

宮内職員ニ以上ノ官職ヲ併有シ各官職ニ付俸給ヲ給セラルル場合ニ於テハ其ノ俸給額ヲ合算シタルモノヲ以テ其ノ者ノ俸給額トス

第三十條　宮内職員所定ノ年數在職シ退職シタルトキハ之ニ普通恩給又ハ一時恩給ヲ給ス

第三十一條　宮内職員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癈疾ト爲リ失格原因ナクシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給及增加恩給ヲ給ス

宮内職員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ失格原因ナクシテ退職シタル後五年内ニ之カ爲不具癈疾ト爲リ又ハ其ノ程度增進シタルトキハ前三項ニ規定スル恩給ヲ給セス

第三十二條　宮内職員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノト看做ス

一　戰地勤務又ハ公務旅行中流行病ニ罹リタルトキ

二　宮内職員タル特別ノ事情ニ關聯シテ生シタル不慮ノ災厄ニ因リ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ宮内省恩給審査會ニ於テ公務ニ起因シタルト同視スヘキモノト議決セラレタルトキ

前項ノ流行病ノ種類ハ勅裁ヲ經テ宮内大臣之ヲ定ム

第三十三條　公務傷病ノ原因ヲ分チテ戰闘又ハ戰闘ニ準スヘキ公務ト普通公務トス

戰闘ニ準スヘキ公務ノ範圍及公務傷病ニ因ル不具癈疾ノ程度竝皇宮警手及其ノ他ノ判任待遇職員ノ公務傷病ニ關スル規定ノ適用ニ付テノ階等ハ勅裁ヲ經テ宮内大臣之ヲ定ム

第三十四條　宮内大臣ハ增加恩給ノ裁定ヲ爲スニ當リ將來不具癈疾ノ回復シ又ハ其ノ程度低下スルコトアルヘキコトヲ認メタルトキハ之ニ普通恩給又ハ一時恩給ヲ給ス

前項ノ期間滿了ノ六月前迄傷痍疾病回復セサル者ハ再審査ヲ請求スルコトヲ得再審査ノ結果恩給ヲ給スヘキモノナルトキハ之ニ相當ノ恩給ヲ給ス

第三十五條　宮内職員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ引續キタル在職ニ付恩給ヲ受クルノ資格ヲ失フ

一　懲戒處分ニ因リ退職シタルトキ

二　在職中陸軍刑法若ハ海軍刑法ニ依リ死刑、懲役刑若ハ一年以上ノ禁錮ニ處セラレ又ハ其ノ他ノ法令ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

第三十六條　廢官、廢職、廢廳又ハ官職名改定ノ際其ノ改廢ニ係ル官職ニ在ル者卽日又ハ翌日他ノ官職ニ任セラレタルトキハ之ヲ勤續ト看做ス

宮内職員ニシテ其ノ退職ノ當時仍他ノ宮内職員トシテ在職スルモノニ付テハ總テノ宮内職員ヲ退職スルニ非サレハ之ニ恩給ヲ給セス

第三十七條　宮内職員ニシテ其ノ退職ノ當時仍公務員トシテ在職スルモノニ付テハ本令ニ依ル恩給ハ之ヲ給セス但シ下士以下ノ軍人トシテ在職スル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十八條　普通恩給ヲ受クル者再就職シ失格原因ナクシテ退職シ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ恩給ヲ改定ス

一　再就職後在職一年以上ニシテ退職シタルトキ

二　再就職後公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癈疾ト爲リ退職シタルトキ

三　再就職後公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退職シタル後五年内ニ之カ爲不具癈疾ト爲リ又ハ其ノ程度增進シタル場合ニ於テハ其ノ期間内ニ請求シタルトキ

前項第三號ノ場合ニ於テハ第三十一條第三項及第四項ノ規定ヲ準用ス

第三十九條　前條ノ規定ニ依リ普通恩給ヲ改定スルニハ前後ノ在職年ヲ合算シ其ノ年額ヲ定メ增加恩給ヲ改定スルニハ前後ノ傷痍又ハ疾病ヲ合シタルモノヲ以テ不具癈疾ノ前項ノ場合ニ於テ其ノ年額ヲ定ムル場合ニ於テ其ノ年額從前ノ恩給年額ヨリ少キトキハ從前ノ恩給年額ヲ以テ改定恩給ノ年額トス

第四十一條　前三條ノ規定ハ恩給法ニ依ル恩給ヲ受クル者宮内職員ト爲リ退職シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第四十二條　普通恩給ヲ受クル者公務員又ハ公務員ニ準スヘキ者トシテ恩給法ニ依ル普通恩給ヲ給セラレタルトキハ本令ニ依ル普通恩給ハ之ヲ給セス

前項ノ規定ハ增加恩給ニ付之ヲ準用ス

第四十三條　普通恩給ハ之ヲ受クル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ間ニ之ヲ停止ス

一　宮内職員又ハ公務員トシテ就職スルトキハ就職ノ月ノ翌月ヨリ退職ノ月迄但シ實在職期間一月未滿ナルトキ又ハ下士以下ノ軍人トシテ就職スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條又ハ第三十八條第一項第二號若ハ第三號ノ規定ニ依リ在職年十年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

第三十四條ノ規定ニ依リ在職年一年以上十年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職當時ノ俸給月額ニ相當スル金額トス

第三章　遺族

第四十八條　本令ニ於テ遺族トハ宮内職員ノ祖父、祖母、父、母、夫、妻、子、孫及兄弟姉妹ニシテ宮内職員ノ死亡ノ當時ト同一戸籍内ニ在ルモノヲ謂フ

宮内職員ノ死亡ノ當時胎兒タル子出生シタルトキハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ宮内職員ノ死亡ノ當時其ノ戸籍内ニ在リタルモノト看做ス

第四十九條　宮内職員在職中死亡シ其ノ死亡ヲ退職ト看做ストキハ之ニ普通恩給ヲ給スヘキトキハ其ノ遺族ニハ妻、未成年ノ子、未成年ノ孫、夫、父、母、成年ノ子、祖父、祖母ノ順位ニ依リ扶助料ヲ給ス

前項ノ規定ニ依ル同順位ノ子數人アルトキハ死亡者ヲ被相續人トシタル家督相續ノ順位ニ準シ之ヲ定ム

父母ニ付テハ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニス祖父母ニ付テハ養父母ノ父母ヲ先ニシ實父母ノ父母ヲ後ニス

先順位者タルヘキ者後順位者タル者ヨリ後ニ生ルニ至リタルトキハ前三項ノ規定ハ當該後順位者ニ限リ之ヲ適用ス

第五十條　未成年ノ子ニ付テハ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニス祖父母ニ付テハ養父母ノ父母ヲ先ニシ實父母ノ父母ヲ後ニス

二　不具癈疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキトキ

三　孫又ハ夫婦姻シタルトキ

第五十一條　扶助料ノ年額ハ左ノ各號ニ依ル

一　宮内職員戰闘又ハ戰闘ニ準スヘキ公務ニ因ル傷痍疾病ノ爲死亡シタルトキハ其ノ普通恩給年額ノ十分ノ十二ニ相當スル金額

二　宮内職員普通公務ニ因ル傷痍疾病ノ爲死亡シタルトキハ其ノ普通恩給年額ノ金額

三　其ノ他ノ場合ニ於テハ宮内職員ニ給セラルル普通恩給年額ノ十分ノ五ニ相當スル金額

第五十二條　宮内職員ノ死亡後遺族左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ扶助料ヲ受クルノ資格ヲ失フ

一　子若ハ孫婚姻シ又ハ其ノ家ヲ去リタルトキ但シ父ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ宮内職員ノ妻若ハ子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　宮内職員女子ナル場合ニ於テ夫婚姻シ又ハ家ヲ去リタルトキ

三　父、母、祖父又ハ祖母其ノ家ヲ去リタルトキ

第五十三條　扶助料ヲ受ケル者六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ月ノ翌月ヨリ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄扶助料ノ執行ヲ停止ス但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ノ翌月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄之ヲ停止ス

前項ノ規定ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ刑ノ執行中又ハ其ノ執行前ニ在ル者ニ扶助料ヲ給スヘキ事由發生シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第五十四條　扶助料ヲ給セラルヘキ者一年以上所在不明ナルトキハ次順位者ノ申請ニ依リ宮内大臣ノ所在不明中扶助料ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第五十五條　前二條ノ扶助料停止ノ事由アル場合ニ次順位者アルトキハ停止期間中扶助料ハ之ヲ當該次順位者ニ轉給ス

第五十六條　遺族左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ失フ

一　子若ハ孫婚姻シ又ハ其ノ家ヲ去リタルトキ但シ妻夫ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ遺族タル子ニシテ分家シタル場合ニ於テ其ノ家ニ入リタルトキ及子父ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ宮内職員ノ妻若ハ子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　孫又ハ夫婚姻シタルトキ

三　不具癈疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキ夫又ハ成年ノ子ニ付其ノ事情止ミタルトキ

第五十七條　宮内職員第四十九條ノ規定ニ該當シ兄弟姉妹以外ニ扶助料ヲ受クル者ナキトキハ其ノ兄弟姉妹未成年又ハ不具癈疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキ場合ニ限リ之ニ一時扶助料ヲ給ス

前項ノ一時扶助料ノ金額ハ兄弟姉妹ノ人員ニ拘ラス扶助料年額ノ一年分乃至五年分ニ相當スル金額トス

第五十八條　宮内職員在職年一年以上十五年未滿ニシテ在職中死亡シ又ハ皇宮警手在職年一年以上十年未滿ニシテ在職中死亡シタルトキハ其ノ遺族ニ一時扶助料ヲ給ス

前項ノ一時扶助料ノ金額ハ宮内職員ノ死亡ノ當時ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ退職ノ年ニ於ケル俸給年額ノ百分ノ五ヲ乘シタル金額ヲ加ヘタル金額トス

第五十九條　本章ノ規定ハ前條ノ規定ヲ除クノ外普通恩給ヲ受クル者ノ遺族ニ之ヲ準用ス

附　則

第六十條　本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第六十一條　左ノ宮内省達及皇室令ハ之ヲ廢止ス

一　宮内省官吏恩給例、宮内省准官吏恩給例、宮内省官吏遺族扶助例

明治二十五年宮内省達甲第二號

明治二十六年宮内省達甲第一號

明治二十九年宮内省達甲第一號

明治三十年宮内省達甲第十一號

明治四十三年皇室令第四十一號

大正四年皇室令第四號

大正六年皇室令第十二號

皇宮警手恩給令

一　大正九年皇室令第七號

大正九年皇室令第十二號

第六十二條　本令施行前給與事由ノ生シタル恩給、退隠料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

從前ノ規定ニ依ル恩給、退隠料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノハ之ヲ本令ニ依リ受ケ又ハ受クヘキ恩給ト看做ス

前項ノ場合ニ於テ從前ノ規定ニ依ル恩給、退隠料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノカ本令ニ依リ給與スル恩給ノ何レノ種類ニ屬スヘキカハ宮内職員及其ノ遺族ノ種類竝給與ノ事由ニ依リ之ヲ定ム

第六十三條　第五條乃至第七條ノ規定ハ從前ノ規定ニ依リ生シタル恩給、退隠料、遺族扶助料、一時賜金、退職手當金、一時扶助金其ノ他之ニ準スヘキモノヲ受クヘキ權利ニシテ本令施行ノ日迄ニ從前ノ規定ニ依ル請求期間ヲ經過セサルモノニ付之ヲ適用ス

第六十四條　第十條及第十一條ノ規定ハ本令施行前給與ノ事由ヲ生シタル恩給、退隠料、遺族扶助料、一時賜金、退職手當金、一時扶助金其ノ他之ニ準スヘキモノニ付本令施行後其ノ給與ヲ爲ス場合ニ付之ヲ適用ス

二　六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ月ノ翌月ヨリ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄之ヲ停止ス但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ノ翌月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄之ヲ停止ス

前項第二號ノ規定ハ增加恩給ニ付之ヲ準用ス

第二節　恩給金額

第四十四條　宮内職員在職年十五年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十五年以上十六年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十二相當スル金額ヲ給シ在職年十六年以上一年ヲ增ス每ニ其ノ一年ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

在職年四十年ヲ超ユル者ニ給スヘキ恩給年額ハ之ヲ在職年四十年トシテ計算ス

第一項ノ在職年ハ宮内大臣トシテノ在職年五年以上ナルヲ以テ足ル

第三十一條又ハ前項ノ規定ニ依リ在職年十五年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十五年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

第四十五條　皇宮警手在職年十年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十年以上十一年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十二相當スル金額トシ十年以上一年ヲ增ス每ニ其ノ一年ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ皇宮警手トシテノ勤續在職年十年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤續在職年中十年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職當時ノ俸給年額ノ三百分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

第四十六條　宮内職員在職年十年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十年以上十一年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十二相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

在職年四十年ヲ超ユル者ニ給スヘキ恩給年額ハ之ヲ在職年四十年トシテ計算ス

第一項ノ在職年ハ宮内大臣トシテノ在職年五年以上ナルヲ以テ足ル

第三十一條又ハ前項ノ規定ニ依リ在職年十五年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十五年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

第四十七條　皇宮警手在職年十年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十年以上十一年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十二相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

在職年四十年ヲ超ユル者ニ給スヘキ恩給年額ハ之ヲ在職年四十年トシテ計算ス

第一項ノ在職年ハ宮内大臣トシテノ在職年五年以上ナルヲ以テ足ル

第三十一條又ハ前項ノ規定ニ依リ在職年十五年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十五年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

第四十八條　宮内職員在職年一年以上十五年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職當時ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第三章　遺族

第四十九條　本令ニ於テ遺族トハ宮内職員ノ祖父、祖母、父、母、夫、妻、子、孫及兄弟姉妹ニシテ宮内職員ノ死亡ノ當時ト同一戸籍内ニ在ルモノヲ謂フ

宮内職員ノ死亡ノ當時胎兒タル子出生シタルトキハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ宮内職員ノ死亡ノ當時其ノ戸籍内ニ在リタルモノト看做ス

第五十條　宮内職員在職中死亡シ其ノ死亡ヲ退職ト看做ストキハ之ニ普通恩給ヲ給スヘキトキハ其ノ遺族ニハ妻、未成年ノ子、未成年ノ孫、夫、父、母、成年ノ子、祖父、祖母ノ順位ニ依リ扶助料ヲ給ス

前項ノ規定ニ依ル同順位ノ子數人アルトキハ死亡者ヲ被相續人トシタル家督相續ノ順位ニ準シ之ヲ定ム

父母ニ付テハ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニス祖父母ニ付テハ養父母ノ父母ヲ先ニシ實父母ノ父母ヲ後ニス

先順位者タルヘキ者後順位者タル者ヨリ後ニ生ルニ至リタルトキハ前三項ノ規定ハ當該後順位者ニ限リ之ヲ適用ス

第五十一條　未成年ノ子ニ付テハ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニス祖父母ニ付テハ養父母ノ父母ヲ先ニシ實父母ノ父母ヲ後ニス

二　不具癈疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキトキ

三　孫又ハ夫婚姻シタルトキ

第五十二條　扶助料ノ年額ハ左ノ各號ニ依ル

一　宮内職員戰闘又ハ戰闘ニ準スヘキ公務ニ因ル傷痍疾病ノ爲死亡シタルトキハ其ノ普通恩給年額ノ十分ノ十二ニ相當スル金額

二　宮内職員普通公務ニ因ル傷痍疾病ノ爲死亡シタルトキハ其ノ普通恩給年額ノ金額

三　其ノ他ノ場合ニ於テハ宮内職員ニ給セラルル普通恩給年額ノ十分ノ五ニ相當スル金額

第五十三條　宮内職員ノ死亡後遺族左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ扶助料ヲ受クルノ資格ヲ失フ

一　子若ハ孫婚姻シ又ハ其ノ家ヲ去リタルトキ但シ父ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ宮内職員ノ妻若ハ子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　宮内職員女子ナル場合ニ於テ夫婚姻シ又ハ家ヲ去リタルトキ

三　父、母、祖父又ハ祖母其ノ家ヲ去リタルトキ

第五十四條　扶助料ヲ受ケル者六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ月ノ翌月ヨリ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄扶助料ノ執行ヲ停止ス但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ノ翌月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄之ヲ停止ス

前項ノ規定ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ刑ノ執行中又ハ其ノ執行前ニ在ル者ニ扶助料ヲ給スヘキ事由發生シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第五十五條　扶助料ヲ給セラルヘキ者一年以上所在不明ナルトキハ次順位者ノ申請ニ依リ宮内大臣ノ所在不明中扶助料ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第五十六條　前二條ノ扶助料停止ノ事由アル場合ニ次順位者アルトキハ停止期間中扶助料ハ之ヲ當該次順位者ニ轉給ス

第五十七條　遺族左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ失フ

一　子若ハ孫婚姻シ又ハ其ノ家ヲ去リタルトキ但シ妻夫ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ遺族タル子ニシテ分家シタル場合ニ於テ其ノ家ニ入リタルトキ及子父ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ宮内職員ノ妻若ハ子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　孫又ハ夫婚姻シタルトキ

三　不具癈疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキ夫又ハ成年ノ子ニ付其ノ事情止ミタルトキ

第五十八條　宮内職員第四十九條ノ規定ニ該當シ兄弟姉妹以外ニ扶助料ヲ受クル者ナキトキハ其ノ兄弟姉妹未成年又ハ不具癈疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキ場合ニ限リ之ニ一時扶助料ヲ給ス

前項ノ一時扶助料ノ金額ハ兄弟姉妹ノ人員ニ拘ラス扶助料年額ノ一年分乃至五年分ニ相當スル金額トス

第五十九條　宮内職員在職年一年以上十年未滿ニシテ在職中死亡シ又ハ皇宮警手在職年一年以上十年未滿ニシテ在職中死亡シタルトキハ其ノ遺族ニ一時扶助料ヲ給ス

前項ノ一時扶助料ノ金額ハ宮内職員ノ死亡ノ當時ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ退職ノ年ニ於ケル俸給年額ノ百分ノ五ヲ乘シタル金額ヲ加ヘタル金額トス

第六十條　本令施行前ノ在職年ニ付在職年ヲ計算スル場合ハ從前ノ規定ニ依ル但シ本令施行ノ際現ニ在職スル者ニ付テハ其ノ在職ニ繼續シテ在職ニ限リ本令施行前ノ在職ヲ雖加算年ニ關スル規定ヲ除クノ外本令ニ依リ其ノ在職年ヲ計算ス

前項但書ノ場合ニ於テ從前ノ規定ニ依リ特ニ通算シ得ヘキコトヲ定メラレタル年月數ノアルトキハ前項但書ノ規定ニ拘ラス之ヲ在職年ニ通算ス

判任待遇ノ皇宮警手ノ在職ハ之ヲ第十七條ニ規定シタル皇宮警手ノ在職年ト看做ス

第六十一條　內地人タル宮内職員其ノ職務ヲ以テ朝鮮ニ三年間引續キ在勤シタル者ニ付テハ當分ノ內在勤期間ノ一月ニ付半月ヲ加算ス

第二十六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第六十七條　第三十一條第二項乃至第四項及第三十八條第一項第三號第二項ノ規定ハ本令施行前退職シタル宮内職員ニ付之ヲ適用ス

前項ノ規定ニ依リ給與スル恩給ノ金額ハ本令施行前ノ分ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

第六十八條　第三十二條ノ規定ハ本令施行前傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ本令施行後退職シ本令施行後不具癈疾ト爲リタル者ニハ之ヲ適用セス仍從前ノ例ニ依ル

第六十九條　本令施行前死亡シタル者ノ遺族ノ扶助料ニシテ本令施行後轉給セラルヘキモノニ付テハ從前ノ規定ニ依ル恩給額ヲ標準トスルノ外本令ニ依リ之ヲ給ス

前項ノ規定ハ本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有スル者ニハ勳裁ヲ經テ宮内大臣ノ定ムル所ニ依リ恩給又ハ扶助料ヲ本令施行ノ日ヨリ增額若ハ改定セラレ又ハセラルル金額ニ依ル

第一項ノ規定ニ依ル增額ニ付テハ勳裁ヲ經テ宮内大臣之ヲ定ム

第七十一條　明治四十三年三月三十一日迄ニ退職、休職ト爲リ若ハ死亡シタル宮内職員又ハ其ノ遺族ニシテ明治四十三年四月改正前ノ俸給規程ニ依ル俸給ヲ基礎トシ恩給又ハ扶助料ヲ受ケ本法施行ノ際迄其ノ權利ヲ有スル者ニハ勳裁ヲ經テ宮内大臣ノ定ムル所ニ依リ恩給又ハ扶助料ヲ本令施行ノ日ヨリ增額給與ス

大正七年十二月十日前ノ皇宮警手ノ在職年月數ニシテ普通恩給ニ相當スル年金ヲ受クル權利ノ基礎タル在職年ニ通算セラレサルモノハ之ヲ皇宮警手ノ在職年ニ通算シ本令施行ノ日ヨリ其ノ者ノ受クル退隠料ヲ改定シ又ハ新ニ普通恩給ヲ給スル但シ普通恩給ニ相當スル年金ヲ受クヘカラサル事由ニ因リ退職シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ前項ニ規定スル者ノ遺族ノ年金タル扶助料ニ付之ヲ準用ス

第七十三條　第七十條第七十一條第七十三條及第七十四條ノ規定ハ宮内省准官吏又ハ其ノ遺族トシテ恩給又ハ扶助料ヲ受クル者ニ之ヲ準用ス但シ宮内官ノ恩給ト同一ノ算出率ニ依リ算出シタル恩給又ハ之ヲ基礎トシ六年未滿ノ者ニ給スル恩給年額ノ算出率ハ之ヲ退職若ハ死亡當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ四十ヒ十五年以上一年ヲ增ス每ニ其ノ一年ニ對スル增加率ハ之ヲ其ノ俸給年額ノ百五十分ノ一トシテ恩給額ヲ計算ス

第七十四條　前二條ノ場合ニ於テハ第五條ニ規定スル請求期間ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第七十五條　第七十條第七十一條第七十三條及第七十四條ノ規定ハ宮内省准官吏又ハ其ノ遺族トシテ恩給又ハ扶助料ヲ受クル者ニ之ヲ準用ス但シ宮内官ノ恩給ト同一ノ算出率ニ依リ算出シタル恩給又ハ之ヲ基礎トシ六年未滿ノ者ニ給スル恩給年額ノ算出率ハ之ヲ退職若ハ死亡當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ四十ヒ十五年以上一年ヲ增ス每ニ其ノ一年ニ對スル增加率ハ之ヲ其ノ俸給年額ノ百五十分ノ一トシテ恩給額ヲ計算ス

第七十六條　第六十二條乃至第六十四條ノ規定ハ本令ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ勳裁ヲ經テ宮内大臣之ヲ定ム

別表

階等 / 勳等 / 原因 / 症狀	親任		奏任				判任				任待遇
	三等	乃至五等	六等	乃至八等	一等	二等	三等	四等			

戰準	甲						乙					
	特別項	第一項	第二項	第三項	第四項	第五項	特別項	第一項	第二項	第三項	第四項	第五項
號	特別項	第一項又ハ第二項ニ	第三項ハキ	第四項戰公務	第五項關務	第六項	特別項	第一項	第二項通	第三項	第四項公	第五項第六項
備考	特別項ハ各號第一項ノ金額ニ其ノ十分ノ五以内ヲ加ヘタルモノトス											

◉宮内省恩給令施行規則

大正十二年九月
宮令第十二號

宮内省恩給令施行規則左ノ通定ム

宮内省恩給令施行規則

第一條　宮内省恩給令第十七條ノ判任待遇職員トハ判任待遇宮内職員職制第九條ニ規定スル職員ヲ謂フ

前項ノ職員中前ニ他ノ判任待遇職員タリシ者ニ付テハ之ニ宮内省恩給令第三十六條第一項ノ規定ヲ適用スルトキハ勤續ト看做サルル場合ニ限リ前後ノ在職年ヲ通シ前項ノ職員トシテ勤續シタル者ト看做ス但シ前ニ雇員タリシ者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二條　宮内省恩給令第二十三條第一項第一號ノ規定ニ依リ從軍加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ同令第二十六條第二項ノ規定ニ依ル外左ノ各號ノ例ニ依ル

一　戰爭開始後戰地ニ到リタル者ニ付テハ戰地ニ到ルヘキ事由ノ生シタル當時所在スル地ノ屬スル地域ヲ離レタル月ヨリ加算ス

二　戰爭中戰地ヨリ歸還シタル者ニ付テハ其ノ歸還スヘキ地ノ屬スル地域ニ到著シタル月迄加算ス

前項ノ地域トハ內地、朝鮮、臺灣、樺太、關東州、南洋群島及之ニ準スヘキ外國ノ地區ヲ謂フ

宮内省恩給令第二十三條第一項第二號ノ規定ニ依リ從軍加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ同令第二十六條第二項ノ規定ニ依ル

一　動員(之ニ準スルモノヲ含ム)部隊ニ編入セラレタル者ニ付テハ編入ノ月、動員(之ニ準スルモノヲ含ム)下令前ヨリ其ノ部隊ニ在リタル者ニ付テハ其ノ下令ノ月ヨリ加算ス

一　戰爭開始後戰務ニ服スヘキ地ニ到リタル者及戰爭中其ノ地ヨリ歸還シタル者ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス

前三項ノ規定ハ宮内省恩給令第二十三條第二項ノ規定ニ依リ加算ニ付之ヲ準用ス

第三條　宮内省恩給令第三十二條第一項第一號ノ流行病ノ種類左ノ如シ

一　マラリヤ(黑水熱ヲ含ム)
二　猩紅熱
三　コレラ
四　腳氣(戰地ニ限ル)
五　發疹チフス
六　腸チフス
七　パラチフス
八　ペスト
九　回歸熱
十　赤痢
十一　流行性腦脊髓膜炎
十二　流行性感冒
十三　肺ヂストマ病
十四　トリパノゾーム病
十五　ワイルス氏病
十六　カラアザール
十七　黃熱

第四條　宮内省恩給令第三十三條第二項ノ規定ニ依ル戰闘ニ準スヘキ公務ニ因ル傷痍疾病トハ左ニ揭クルモノヲ謂フ

一　戰地ニ於テ勤務中敵ノ設置若ハ遺棄シタル危險物ニ因ル又ハ敵對行動中ノ不可抗力ニ因ル傷痍疾病

二　暴徒鎭壓又ハ集團ヲ爲ス馬賊海賊等人等討伐中ノ敵對行動ニ因ル又ハ敵對行動中ノ不可抗力ニ因ル傷痍疾病

三　外國ノ交戰若ハ擾亂ノ地域內ニ於テ勤務中又ハ該地域內ヲ職務ヲ以テ旅行中ニ於ケル該交戰又ハ擾亂ニ因ル傷痍疾病

四　警護ノ任務ヲ有スル宮內職員危險ヲ顧ミス其ノ職務ヲ執行スルニ因リテ加ヘラレタル傷痍疾病

五　職務ヲ以テコレラ又ハペストノ防疫、診療又ハ看護ニ直接從事シ之カ爲罹リタル該疾病

第五條　宮内省恩給令第三十三條第二項ノ規定ニ依リ不具癈疾ノ程度ヲ分チテ左ノ七項トス

特別項症

一　常ニ就床ヲ要シ且複雜ナル介護ヲ要スルモノ

二　重大ナル精神障碍ノ爲常ニ監視又ハ第一項症ニ第一項症乃至第六項症ヲ加ヘタルモノ

第一項症

一　複雜ナル介護ヲ要セサルモ常ニ就床ヲ要スルモノ

二　精神的又ハ身體的作業能力ヲ失ヒ僅ニ自用ヲ辨シ得ルニ過キサルモノ

三　咀嚼及言語ノ機能ヲ併セ癈シタルモノ

四　兩眼ノ視力カ視標〇・一ヲ〇・五メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

五　肘關節以上ニテ兩上肢ヲ失ヒタルモノ

六　膝關節以上ニテ兩下肢ヲ失ヒタルモノ

第二項症

一　精神的又ハ身體的作業能力ノ大部ヲ失ヒタルモノ

二　咀嚼又ハ言語ノ機能ヲ癈シタルモノ

三　兩眼ノ視力カ視標〇・一ヲ一メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

四　兩耳全カ聾シタルモノ

五　腕關節以上ニテ兩上肢ヲ失ヒタルモノ

六　足關節以上ニテ兩下肢ヲ失ヒタルモノ

第三項症

一　咀嚼又ハ言語ノ機能ニ大ニ妨アルモノ

二　兩睾丸ヲ全ク失ヒタルモノ

三　肘關節以上ニテ一上肢ヲ失ヒタルモノ

四　膝關節以上ニテ一下肢ヲ失ヒタルモノ

五　兩耳ノ聽力カ耳殼ニ接セサレハ大聲ヲ解シ得サルモノ

第四項症

一　泌尿器ノ機能ニ大ニ妨アルモノ

二　兩眼ノ視力カ視標〇・一ヲ二メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

三　腕關節以上ニテ一上肢ヲ失ヒタルモノ

四　足關節以上ニテ一下肢ヲ失ヒタルモノ

第五項症

一　鼻ヲ失ヒ其ノ機能ニ大ニ妨アルモノ

二　頭部、顏面等ニ大ナル醜形ヲ殘シタルモノ

三　一眼ノ視力カ視標〇・一ヲ〇・五メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

四　一側ノ總指ヲ全ク失ヒタルモノ

第六項症

一　頸部又ハ軀幹ノ運動ニ大ニ妨アルモノ

二　一眼ノ視力カ視標〇・一ヲ一メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

三　一側拇指及示指ヲ全ク失ヒタルモノ

四　一側總趾ヲ全ク失ヒタルモノ

前項ノ各症ニ該當セサル傷痍疾病ノ症項ハ前項ノ規定ニ準シ之ヲ査定ス

視力ヲ測定スル場合ニ於テハ屈折異常ノモノニ付テハ矯正視力ニ依リ視標ハ萬國共通視力標ニ依ル

第六條　判任待遇職員ノ公務傷病ノ規定ノ適用ニ付テハ判任官四等トス

第七條　宮内省恩給令第六十六條ノ規定ニ依ル內地人タル宮內職員ノ朝鮮在勤加算ハ朝鮮以外ノ地ヨリ朝鮮ニ赴任シタル者ニ付テハ朝鮮ニ到著シタル月ヨリ朝鮮ニ在リテ就職シタル者ニ付テハ就職ノ月ヨリ之ヲ起算シ其ノ在勤ヲ止メラレタル月ヲ以テ終ル

四　前項ノ各症ニ該當セサル傷痍疾病ノ症項ハ前項ノ規定ニ準シ之ヲ査定ス

朝鮮ニ在勤中引續キ九十日以上朝鮮ヲ離レタルトキハ全ク朝鮮ヲ離レタル月ニ對シテハ在勤加算ヲ爲サス

第八條　宮内省恩給令第七十條ノ規定ニ依ル增額ハ左ノ區分ニ依ル

一　普通恩給又ハ遺族ノ扶助料ノ年額ヲ更正スル場合ニ於テハ其ノ年額算出ノ基礎ト爲リタル俸給額カ大正九年七月三十一日以前ノ俸給規程ニ依ルモノナルトキハ別表第一號表ノ區分ニ依リ增加シタル金額ヲ俸給年額ト爲シ其ノ他ノモノナルトキハ在職最終ノ俸給年額ヲ基礎トシテ宮內省恩給令第四十四條、第四十五條及第五十一條ノ規定ニ依リ算出シタル年額ヲ以テ其ノ普通恩給又ハ扶助料ノ年額トス

二　增加恩給ノ年額ヲ更正スル場合ニ於テハ退職當時ノ階等竝別表第二號表ニ依リ定メタル不具癈疾ノ程度ニ從ヒ宮內省恩給令第四十六條ノ規定ニ依リ算出シタル年額ヲ以テ其ノ增加恩給ノ年額トス

第六條ノ規定ハ增加恩給年額ノ更正ニ付之ヲ準用ス

第九條　宮內省恩給令第七十一條ノ規定ニ依リ普通恩給又ハ遺族ノ扶助料ノ年額ヲ增加スル場合ニ於テハ其ノ年額算出ノ基礎ト爲リタル退職、休職又ハ死亡當時ノ俸給年額ヲ別表第三號表ニ依ル假定俸給年額ニ增加シ之ヲ退職、休職又ハ死亡當時ノ俸給年額ト看做シ之ニ宮內省恩給令第七十條ノ規定ヲ適用ス

第十條　前二條ノ規定ハ宮內省恩給令第七十五條ノ規定ニ依リ普通恩給又ハ遺族ノ扶助料ノ年額ヲ更正スル場合ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

別表

第一號表

在職最終俸給年額	增加スヘキ金額
千圓ト七百圓トノ差額	五百圓但シ在職最終俸給年額ニ百圓ヲ加ヘタル額カ千五百圓ヲ超エサルトキハ在職最終俸給年額ト千五百圓トノ差額
千五百圓	在職最終俸給年額ノ十分ノ三ニ相當スル金額ニ二百圓ヲ加ヘタル額
三百圓	在職最終俸給年額ノ十分ノ五ニ相當スル金額

第二號表

宮內省恩給令 症狀等 / 從前ノ規定	增加恩給年額
特別項	在職最終俸給年額ノ三十分ノ十三ニ相當スル金額ニ二百圓ヲ加ヘタル額
第一項	在職最終俸給年額ノ十分ノ五ニ相當スル金額
第二項	在職最終俸給年額ノ十分ノ三ニ相當スル金額
第三項	在職最終俸給年額ノ十分ノ二ニ相當スル金額
第四項	在職最終俸給年額ノ十分ノ一ニ相當スル金額
第五項	在職最終俸給年額ノ二十分ノ一ニ相當スル金額
第六項	在職最終俸給年額ノ二十分ノ一ニ相當スル金額ニ百圓ヲ加ヘタル額

第三號表

高等官

從前ノ規定	退職休職又ハ死亡當時ノ俸給年額	假定俸給年額
第一項	六、〇〇〇	八、〇〇〇
第二項	五、〇〇〇	六、〇〇〇
第三項	四、五〇〇	五、〇〇〇
第四項	四、〇〇〇	四、二〇〇
第五項	三、五〇〇	三、九〇〇
第六項	三、〇〇〇	三、七〇〇
第七項	二、八〇〇	三、五〇〇
第八項	二、六〇〇	三、二〇〇
第九項	二、五〇〇	二、七〇〇
第十項	二、四〇〇	二、五〇〇
第十一項	二、二〇〇	二、三〇〇
第十二項	二、〇〇〇	二、二〇〇
第十三項	一、八〇〇	二、〇〇〇
第十四項	一、六〇〇	一、八〇〇
第十五項	一、四〇〇	一、六〇〇
第十六項	一、二〇〇	一、四〇〇
第十七項	一、〇〇〇	一、二〇〇
第十八項	八〇〇	一、〇〇〇
第十九項	六〇〇	八〇〇
第二十項	四〇〇	六〇〇
第二十一項	二〇〇	四〇〇

判任官及皇宮警手

從前ノ規定	退職休職又ハ死亡當時ノ俸給年額	假定俸給年額
第一項	九六〇	一、二〇〇
第二項	九〇〇	一、一四〇
第三項	八四〇	一、〇八〇
第四項	七八〇	九六〇
第五項	七二〇	九〇〇
第六項	六六〇	八四〇
第七項	六〇〇	七八〇
第八項	五四〇	六六〇
第九項	四八〇	六〇〇
第十項	四二〇	五一六
第十一項	三八四	四八〇
第十二項	三百六十圓ヲ超エ三百六十二圓ヲ超エサルモノ	八十四圓ヲ加ヘタル額
第十三項	三百圓以下ノモノ	三百二十四圓ヲ超エサルモノ

一、六〇〇	二、〇〇〇
一、四〇〇	一、七〇〇
一、二〇〇	一、五〇〇
一、一〇〇	一、三〇〇
一、〇〇〇	一、二〇〇
九〇〇	一、一〇〇
八〇〇	一、〇〇〇
七〇〇	八五〇
六六〇	八〇〇
六〇〇	七五〇
五〇〇	六〇〇
四〇〇	五〇〇
二〇〇	二五〇
一五〇	二〇〇

圓以下	加ヘタル額
二百七十六圓以下	六十圓ヲ加ヘタル額
二百二十八圓以下	四十八圓ヲ加ヘタル額
百八十圓以下	三十六圓ヲ加ヘタル額
百三十二圓以下	二十四圓ヲ加ヘタル額

備考

一 本表ノ俸給年額ニハ加俸ヲ包含セス恩給年額算出ノ基礎ト爲リタル加俸ハ其ノ實額ニ依ル

一 本表ニ該當セサル俸給ニ付テハ之ニ其ノ俸給年額ノ二割五分ニ相當スル金額ヲ加ヘタルモノヲ以テ假定俸給年額トス但シ其ノ額カ實俸給年額ニ最モ近キ本表中ノ上級俸給年額ニ對スル假定俸給年額ヲ超過スルトキハ之ヲ當該上級俸給年額ニ對スル假定俸給年額ニ止ム

●宮內省恩給給與規則

大正十二年十月　宮令第十四號

宮內省恩給給與規則左ノ通定ム

宮內省恩給給與規則

第一章　恩給ノ請求

第一條　普通恩給又ハ增加恩給ヲ受ケムトスル者ハ普通恩給請求書又ハ增加恩給請求書ヲ宮內大臣ニ差出スヘシ

第二條　前條ノ恩給請求書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 在職中ノ履歷書

二 戶籍抄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（退職後請求迄ノ間ニ於テ作成セラレタルモノ）

增加恩給請求書ニハ前項各號ニ揭クル書類ノ外左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 傷痍疾病カ公務ニ起因シタルコトヲ認ムルニ足ルヘキ書類（例ヘハ現認者ノ現認證明書、所屬長ノ事實證明書等）

二 症狀ノ經過ヲ記載シタル書類

三 請求當時ニ於ケル診斷書

恩給ヲ改定スル場合ニ於テ前ニ恩給證書ヲ受ケタルコトアルトキハ前二項各號ニ揭クル書類ノ外其ノ恩給證書ヲ添附スヘシ

第三條　宮內省恩給令第三十四條第二項ノ規定ニ依リ再審査ヲ請求スル者ハ再審査請求書ニ前條第二項第二號及第三號ニ揭クル書類ヲ添ヘ宮內大臣ニ之ヲ差出スヘシ

再審査ノ請求アリタル場合ニ於テ宮內大臣ハ必要ト認ムルトキハ其ノ指定スル醫師ノ現在症狀證明書ノ提出ヲ請求者ニ命スルコトヲ得

第四條　一時恩給ヲ受ケムトスル者ハ一時恩給請求書ニ在職中ノ履歷書ヲ添附シ宮內大臣ニ之ヲ差出スヘシ

第五條　扶助料ヲ受ケムトスル者ハ扶助料請求書ヲ宮內大臣ニ差出スヘシ

第六條　宮內省恩給令第四十九條第一項ノ規定ニ依リ第一次ニ扶助料ヲ請求スルコトヲ得ル者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 宮內職員ノ在職中ノ履歷書

二 請求者ノ戶籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（宮內職員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ以下同シ）

前項ノ場合ニ於テ宮內職員前ニ恩給證書ヲ受ケタルコトアルトキハ前項各號ニ揭クル書類ノ外其ノ恩給證書ヲ添附スヘシ

第七條　宮內省恩給令第五十九條ノ規定ニ依リ第一次ニ扶助料ヲ請求スルコトヲ得ル者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 宮內職員カ已ニ普通恩給ノ裁定ヲ經タルトキハ其ノ恩給證書及請求者ノ戶籍謄本

二 宮內職員カ未タ普通恩給ノ裁定ヲ經サルトキハ前條第一項各號ニ揭クル書類

前條第二項ノ規定ハ前項第二號ニ揭クル書類ヲ添附スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第八條　前二條ノ場合ニ於テ宮內職員ノ死亡カ公務ニ因ル傷痍疾病ニ起因スルトキハ前二條ノ規定ニ依ルノ外扶助料請求書ニ第二條第二項第一號及第二號ニ揭クル書類竝死亡者ノ死亡診斷書又ハ屍體檢案書ヲ添附スヘシ

前項ノ死亡診斷書又ハ屍體檢案書ヲ添附スルコトヲ得サル場合ニ於テハ死亡ノ事實ヲ證スル公ノ證明書ヲ添附スヘシ

第九條　宮內省恩給令第四十九條第一項又ハ第五十九條ノ規定ニ依リ第二次以下ニ於テ扶助料ヲ請求スルコトヲ得ル者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 前扶助料權者カ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ失ヒタルコトヲ證スル書類

二 前扶助料權者ノ扶助料證書

三 請求者ノ戶籍謄本

前項ノ場合ニ於テ前扶助料權者カ未タ扶助料ノ裁定ヲ經サルトキハ前項第一號ニ揭クル書類及前扶助料權者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ添附スルコトヲ要スル書類ヲ添附スヘシ

第十條　宮內省恩給令第五十條第二項ニ規定スル扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ第六條乃至前條ノ規定ニ依ルノ外扶助料請求書ニ不具癈疾ヲ證スル診斷書及生活資料ヲ得ルノ途ナク且扶養スル者ナキコトヲ證スル市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ證明書ヲ添附スヘシ

第十一條　宮內省恩給令第五十四條ノ規定ニ依リ扶助料ノ停止ヲ申請スル者ハ扶助料停止申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ宮內大臣ニ之ヲ差出スヘシ

一 扶助料權者ノ所在不明ナルコトヲ證スル公ノ證明書

二 請求者ノ戶籍謄本

前項ノ場合ニ於テハ同時ニ宮內省恩給令第五十五條ノ規定ニ依ル扶助料轉給ノ請求ヲ爲スヘシ

第十二條　宮內省恩給令第五十五條ノ規定ニ依リ扶助料ノ轉給ヲ請求スル者ハ其ノ事由ヲ記載シタル扶助料轉給請求書ニ請求者ノ戶籍謄本ヲ添附シ宮內大臣ニ之ヲ差出スヘシ但シ前條ノ規定ニ依リ請求者ノ戶籍謄本ヲ添附シタル場合ニ於テハ其ノ添附ヲ要セス

第十三條　宮內省恩給令第五十七條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ受ケムトスル者ハ一時扶助料請求書ヲ宮內大臣ニ差出スヘシ

第十四條　宮內省恩給令第五十七條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ一時扶助料請求書ニ不具癈疾ヲ證スル診斷書及生活資料ヲ得ルノ途ナク且扶養スル者ナキコトヲ證スル市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ證明書ノ外左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 宮內職員カ已ニ普通恩給ノ裁定ヲ經タルトキハ其ノ恩給證書及請求者ノ戶籍

謄本

二 宮內職員カ未タ普通恩給ノ裁定ヲ經サルトキハ宮內職員ノ在職中ノ履歷書及請求者ノ戶籍謄本

第十五條　宮內省恩給令第五十八條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ一時扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 宮內職員ノ在職中ノ履歷書

二 請求者ノ戶籍謄本

第十六條　宮內省恩給令第十一條第一項ノ規定ニ依リ恩給ヲ請求スル者ハ恩給ノ請求書ヲ宮內大臣ニ差出スヘシ

第十七條　前條ノ請求書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 死亡シタル恩給權者カ恩給ヲ請求ストセハ添附スルコトヲ要スヘキ書類

二 請求者ノ戶籍謄本

第十八條　一時扶助料ヲ給セラルヘキ者數人アルトキ又ハ宮內省恩給令第十一條第一項若ハ第二項ノ相續人數人アルトキハ其ノ中一人ヲ總代者トシテ恩給ノ請求又ハ恩給支給ノ請求ヲ爲スヘシ

第十九條　恩給ノ請求ニ付恩給證書ヲ添附スヘキ場合ニ於テ亡失其ノ他ノ事由ニ因リ之ヲ添附スルコトヲ得サルトキハ證據書類ヲ添ヘ其ノ事由ヲ屆出ツヘシ

第二章　恩給ノ裁定

第二十條　恩給請求書ノ提出アリタルトキハ宮內大臣官房文書課長ハ之ヲ審査シ權利ノ有無ヲ決定シ宮內大臣ノ裁定ヲ請フヘシ

前項ノ場合ニ於テ權利アリト裁定アリタルトキハ宮內大臣官房文書課長ハ年金タル恩給ニ付テハ恩給證書ヲ、一時金タル恩給ニ付テハ裁定通知書ヲ請求者ニ交付スヘシ但シ第十六條ニ規定スル恩給ノ請求ニ對シテハ裁定通知書ヲ交付ス

恩給請求書類ニ不備ノ點アルコトヲ認メタルトキハ相當ノ期間ヲ定メ不備ヲ追完セシムルコトヲ得

請求者前項ノ期間內ニ不備ノ追完ヲ爲ササルトキ又ハ第一項ノ場合ニ於テ權利ナシト裁定シタルトキハ宮內大臣ハ理由ヲ附シテ其ノ請求ヲ却下スヘシ

第二十一條　前條第二項ノ場合ニ於テ宮內大臣官房文書課長ハ之ヲ內藏頭及帝室會計審査局長官ニ通知スヘシ但シ一時金タル恩給ニ付テハ帝室會計審査局長官ニ通知スルコトヲ要セス

第二十二條　第二十條第二項ノ規定ニ依リ年金タル恩給證書ノ下付ヲ受ケタル者ハ速ニ受領書ヲ宮內大臣官房文書課長ニ差出シ恩給請求書ニ押捺セル印章ヲ以テ作成シタル氏名ヲ記載シタル印鑑ヲ內藏頭ニ差出スヘシ

第二十三條　權利者ニ於テ恩給證書又ハ裁定通知書ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ證據書類ヲ添附シ其ノ旨ヲ宮內大臣官房文書課長ニ通知スヘシ

第二十四條　宮內大臣ハ恩給證書又ハ裁定通知書ニ誤謬アルコトヲ認メタルトキハ訂正ノ爲必要ナル手續ヲ爲シ其ノ旨ヲ權利者ニ通知スヘシ

第二十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條　宮內大臣ハ審査上必要アリト認ムルトキハ請求者又ハ申請者ニ出頭ヲ命シ又ハ必要ナル書類ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第三章　恩給ノ支給

第二十六條　年金タル恩給ノ支給ヲ受ケムトスル者ハ內藏寮ヨリ交付スル用紙ニ依リテ作成シタル恩給支給請求書ヲ內藏頭ニ差出スヘシ但シ東京市外ニ居住スル者ニシテ年金タル恩給ノ送付ヲ受ケムトスルモノハ支給期月ノ日迄ニ恩給支給請求書ヲ內藏頭ニ送付スヘシ

第二十七條　年金タル恩給ハ毎年三月、六月、九月、十二月ノ四期ニ於テ各其ノ月分迄ヲ支給ス但シ前支給期月ニ支給スヘカリシ恩給又ハ權利消滅若ハ停止ノ場合ニ於ケル其ノ月迄ノ恩給ハ支給期月ニ非サル時期ニ於テモ之ヲ支給ス

第二十八條　內藏頭ハ年金タル恩給ヲ受クルノ權利消滅シ又ハ停止セラルヘキ原因タル事實アルコトヲ知リタルトキハ其ノ支給ヲ止メ速ニ其ノ旨ヲ宮內大臣官房文書課長ニ通知スヘシ

第四章　異動通知

第二十九條　普通恩給ヲ受クル者宮內職員ト爲リタル場合ニ於テハ宮內大臣官房祕書課長ハ速ニ其ノ旨ヲ宮內大臣官房文書課長ニ通知スヘシ退職シタルトキ亦同シ

普通恩給ヲ受クル者公務員ト爲リ宮內省恩給令第四十三條第一項第一號ノ規定ニ依リ其ノ恩給ヲ停止セラルヘキ場合ニ於テハ本人ヨリ其ノ旨ヲ宮內大臣官房文書課長ニ通知スヘシ恩給停止ノ事由止ミタルトキ亦同シ

第三十條　年金タル恩給ヲ受クル者禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ（刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキヲ除ク）又ハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ本人又ハ緣故者ヨリ其ノ旨ヲ宮內大臣官房文書課長ニ通知スヘシ

第三十一條　年金タル恩給ヲ受クル者國籍ヲ失ヒ死亡シ又ハ宮內省恩給令第四十二條若ハ第五十六條ノ規定ニ依リ其ノ恩給ヲ受クルノ權利ヲ失フ場合ニ於テハ本人、遺族又ハ緣故者ヨリ速ニ其ノ旨ヲ宮內大臣官房文書課長ニ通知スヘシ

第三十二條　宮內大臣官房文書課長前三條ノ規定ニ依リ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ內藏頭及帝室會計審査局長官ニ通知スヘシ

第三十三條　年金タル恩給ヲ受クル者其ノ本籍又ハ現住所ヲ變更シタルトキ若ハ改印シタルトキハ速ニ之ヲ宮內大臣官房文書課長ニ屆出ツヘシ

前項ノ屆出アリタルトキハ宮內大臣官房文書課長ハ之ヲ內藏頭ニ通知スヘシ

第五章　恩給證書ノ返還及再交付

第三十四條　年金タル恩給ヲ受クル者死亡シ又ハ恩給ヲ受クルノ權利ヲ失ヒタル場合ニ於テ恩給ヲ受クヘキ順位者ナキトキハ恩給證書ヲ占有スル者ハ速ニ宮內大臣官房文書課長ニ之ヲ返還スヘシ

前項ノ場合ニ於テ亡失其ノ他ノ事由ニ因リ恩給證書ヲ返還シ得サルトキハ速ニ其ノ旨ヲ宮內大臣官房文書課長ニ屆出ツヘシ

第三十五條　恩給證書又ハ裁定通知書ヲ亡失シ又ハ毀損シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ證據書類ヲ添ヘ宮內大臣ニ再交付ヲ申請スルコトヲ得

第三十六條　恩給證書又ハ裁定通知書ノ再交付アリタルトキハ從前ノ恩給證書又ハ裁定通知書ハ其ノ效力ヲ失フ

亡失ヲ事由トシテ恩給證書又ハ裁定通知書ノ再交付アリタル後從前ノ恩給證書又ハ裁定通知書ヲ發見シタルトキハ速ニ宮內大臣官房文書課長ニ之ヲ返還スヘシ

第三十七條　年金タル恩給ヲ受クル者其ノ氏名ヲ變更シタルトキハ恩給證書及戶籍抄本ヲ添ヘ其ノ旨ヲ宮內大臣官房文書課長ニ屆出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ宮內大臣官房文書課長ハ恩給證書ニ改氏名ノ事實ヲ記載シタル上之ヲ權利者ニ返付スヘシ

前項ノ場合ニ於テ宮內大臣官房文書課長ハ之ヲ內藏頭及帝室會計審査局長官ニ通知スヘシ

第六章　具申及裁決

第三十八條　宮內省恩給令第十四條ノ具申ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第三十九條　具申書ニハ左ノ事項ヲ記載シ具申者記名捺印シ證據書類其ノ他必要ナル書類ヲ添附スヘシ

一 具申者ノ氏名、年齡及住所

二 具申ノ趣旨及理由

第四十條　宮內大臣ハ必要アリト認ムルトキハ期限ヲ定メ必要ナル書類ヲ差出サシメ又ハ具申者ニ出頭ヲ求ムルコトヲ得

第四十一條　裁決ハ理由ヲ附シタル裁決書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

裁決書ハ具申者ニ之ヲ送付スヘシ

附　則

本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●宮內省恩給令ノ規定ニ依

リ増額スヘキ恩給ノ更正手續

大正十二年十月
宮令第十五號

宮内省恩給令第七十條乃至第七十五條ノ規定ニ依リ増額スヘキ恩給ノ更正手續左ノ通定ム

更正手續

第一條 宮内省恩給令第七十條又ハ第七十一條ノ規定ニ依リ増額スヘキ恩給、扶助料等ニシテ大正十二年九月三十日以前ノ裁定ニ係ルモノニ付テハ受給權者ノ請求ヲ俟タスシテ之ヲ更正シ其ノ更正年額ヲ表示シタル新證書ヲ發行ス

第二條 宮内省恩給令第七十條又ハ第七十一條ノ規定ニ依リ増額スヘキ恩給扶助料等ニシテ大正十二年十月一日以後裁定スヘキモノニ付テハ更正年額及從前ノ年額ヲ表示シタル證書ヲ發行ス

第三條 第一條ノ規定ニ依ル新證書ハ受給權者ノ請求ヲ俟タス宮内大臣官房文書課ニ於テ之ヲ調製シ受給權者ニ交付ス

第四條 第一條ノ新證書ノ交付ヲ受ケタル受給權者ハ受領書ニ從前ノ證書ヲ添附シ宮内大臣官房文書課ニ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ證書ヲ添附スルコトヲ得サルトキハ證據書類ヲ添ヘ其ノ事由ヲ屆出ツヘシ

第五條 宮内省恩給令第七十二條又ハ第七十三條ノ規定ニ依リ新ニ恩給又ハ扶助料ヲ請求スル者ハ宮内省恩給給與規則第一條及第二條又ハ第六條及第七條ノ規定ニ依リ其ノ請求書ヲ差出スヘシ

第六條 從前ノ規定ニ依リ給スル恩給又ハ扶助料ヲ宮内省恩給令第七十條乃至第七十三條ノ規定ニ依リ更正増額スル場合ニ於テハ第一條乃至第五條ノ規定ニ依リ先ツ同令第七十條及第七十一條ノ規定ニ依ル更正増額ヲ爲シ更ニ受給權者ノ請求ヲ俟ツテ同令第七十二條又ハ第七十三條ノ規定ニ依ル更正増額ヲ爲ス

第七條 恩給ノ更正ニ關シ本會ニ別段ノ規定ナキ事項ニ付テハ宮内省恩給給與規則ヲ準用ス

第八條 宮内省恩給令第七十五條ノ規定ニ依ル恩給又ハ扶助料ヲ増額又ハ新ニ恩給ヲ給スヘキ場合ニ付テハ本令ノ規定ヲ準用ス

附 則

本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三款 文官

●恩給扶助料等ノ増額ニ關スル件

大正九年七月
法律第十號

改正 大正一〇年四第七二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル恩給扶助料等ノ増額ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 大正九年七月三十一日現在ニ於テ國庫ヨリ軍人恩給以外ノ恩給、退隱料又ハ扶助料ヲ受ケ又ハ受クヘキ者ノ恩給、退隱料又ハ扶助料ノ年額ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ年額ニ其ノ十割以内ニ相當スル金額ヲ加ヘタルモノトス但シ七千五百圓以上ノ年俸ニ基ク恩給又ハ扶助料ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

本法施行ノ際休職、非職、待命中ノ者又ハ其ノ遺族本法施行前ノ俸給ニ基キ國庫ヨリ軍人恩給以外ノ恩給、退隱料又ハ扶助料ヲ受クヘキ場合ニ於テハ其ノ金額算出ノ基礎タル俸給年額又ハ月俸額ハ其ノ額ニ勅令ノ定ムル金額ヲ加ヘタル額トス

第二條 大正九年七月三十一日現在ニ於テ軍人恩給(給助金及賑恤金ヲ除ク)ヲ受ケ若ハ受クヘキ者又ハ本法施行後軍人恩給ヲ受クヘキ事由ノ生シタル者ノ恩給金額ハ軍人恩給法第一號表乃至第四號表ノ金額ニ左ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ヲ加ヘタルモノトス

官等			加給割合
將官及相當官	高等官	一等	二割
將官及相當官	高等官	二等	三割
佐尉官及相當官	高等官	三等	四割七
佐尉官及相當官	高等官	四等	三割五
佐尉官及相當官	高等官	五等	五割七
佐尉官及相當官	高等官	六等	六割四
佐尉官及相當官	高等官	七等	七割
佐尉官及相當官	高等官	八等	七割
准士官	判任官	一等	七割
下士及卒	判任官	二等以下	一〇割

第三條 前二條ノ規定ハ恩給、軍人恩給、退隱料又ハ扶助料ニ準スヘキモノニ之ヲ準用ス

第四條 第一條ノ規定ハ大正二年法律第七號ニ依リ休職ヲ命セラレタル判事及檢事竝大正二年法律第十二號ニ依リ休職ヲ命セラレタル會計檢査院及行政裁判所ノ高等官ノ休職給ニ付之ヲ準用ス

第五條 第一條及第三條ノ規定ハ大正九年七月三十一日現在ニ於テ市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法、明治二十九年法律第十三號、巡査看守給助例、巡査看守退隱料及遺族扶助料法又ハ明治四十三年法律第三十號ニ依リ北海道地方費又ハ府縣ヨリ退隱料、扶助料又ハ之ニ準スヘキモノヲ受ケ又ハ受クヘキ者ニ付之ヲ準用ス

第五條ノ二 本法ニ依リ退隱料ノ増額ヲ受クル者公務ニ就キ又ハ在外指定學校ノ職員ト爲リ退隱料ノ支給ヲ停止セラルル場合ニ於テハ其ノ増額ノ基礎ト爲リタル俸給額ヲ以テ退職當時ノ俸給額トス

第六條 本法ニ依ル加給金額圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

附 則

本法ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ大正九年七月三十一日現在ニ於テ恩給、軍人恩給、退隱料、扶助料又ハ之ニ準スヘキモノヲ受ケ又ハ受クヘキ者ニ付テハ大正九年七月一日以後ノ分ヨリ之ヲ適用ス

名譽進級ニ因リ階等ヲ進メラレタル軍人又ハ其ノ遺族ニシテ大正九年七月三十一日現在ニ於テ進級前ノ階等ニ應スル恩給(給助金及賑恤金ヲ除ク)又ハ之ニ基ク扶助料ヲ受ケ又ハ受クヘキ者ハ大正九年七月一日ヨリ名譽進級ニ因ル階等ニ應スル恩給又ハ之ニ基ク扶助料ヲ受クルノ權ヲ有スルモノトス

附 則(大正十年四月法律第七十二號)

本法ハ大正九年七月一日以後ノ分ヨリ之ヲ適用ス

●恩給扶助料等ノ増額及明治二十三年勅令第二百五十四號ニ依ル休職給ノ増額ニ關スル件

大正九年八月
勅令第二百七十八號

朕大正九年法律第十號ニ依ル恩給扶助料等ノ増額及明治二十三年勅令第二百五十四號ニ依ル休職給ノ増額ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 大正九年法律第十號第一條第一項、第三條及第五條ノ規定ニ依リ恩給、退隱料、扶助料又ハ之ニ準スヘキモノノ年額ヲ増額スル場合ニ於テハ其ノ年額算出ノ基礎ト爲リタル俸給年額ニ付左ノ區分ニ依リ増額シタル金額ヲ俸給年額ト爲シ之ヲ基礎トシテ算出シタル年額ヲ以テ其ノ恩給、退隱料、扶助料又ハ之ニ準スヘキモノノ年額トス

基礎俸給年額	增額俸給年額
六千五百圓ヲ超エ七千五百圓未滿ノモノ	基礎年額ニ五百圓ヲ加ヘタル額但シ七千五百圓ヲ超ユルトキハ七千五百圓トス
五千五百圓ヲ超エ六千五百圓ヲ超エサルモノ	七千圓
三千圓ヲ超エ五千五百圓ヲ超エサルモノ	基礎年額ニ千五百圓ヲ加ヘタル額
千二百圓ヲ超エ三千圓ヲ超エサルモノ	基礎年額ニ其ノ三十分ノ十三ニ相當スル金額及二百圓ヲ加ヘタル額
三百六十圓ヲ超エ千二百圓ヲ超エサルモノ	基礎年額ニ其ノ五割ニ相當スル金額及百二十圓ヲ加ヘタル額
三百圓ヲ超エ三百六十圓ヲ超エサルモノ	基礎年額ニ三百圓ヲ加ヘタル額
三百圓以下ノモノ	基礎年額ニ其ノ十割ニ相當スル金額ヲ加ヘタル額

退隱料、扶助料又ハ之ニ準スヘキモノニシテ月俸額ヲ其ノ年額算出ノ基礎ト爲スモノニ付テハ前項ノ基礎俸給年額及增額俸給年額ヲ十二等分シ前項ノ規定ヲ準用ス

退隱料又ハ扶助料ニ準スヘキモノニシテ俸給額ヲ其ノ年額算出ノ基礎ト爲ササルモノニ付テハ前項ノ規定ニ準シ算出シタル金額ヲ以テ其ノ退隱料又ハ扶助料ニ準スヘキモノノ年額トス

第二條 大正九年法律第十號第一條第二項ノ規定ニ依リ加算スヘキ金額ハ左ノ區分ニ依ル

在職最終俸給年額	加算金額
六千五百圓ヲ超エ七千五百圓未滿ノモノ	五百圓但シ在職最終俸給年額ニ五百圓ヲ加ヘタル額カ七千五百圓ヲ超ユルトキハ在職最終俸給年額ト七千五百圓トノ差額トス
五千五百圓ヲ超エ六千五百圓ヲ超エサルモノ	在職最終俸給年額ト七千圓トノ差額
三千圓ヲ超エ五千五百圓ヲ超エサルモノ	千五百圓
千二百圓ヲ超エ三千圓ヲ超エサルモノ	在職最終俸給年額ノ三十分ノ十三ニ相當スル金額ニ二百圓ヲ加ヘタル額
三百六十圓ヲ超エ千二百圓ヲ超エサルモノ	在職最終俸給年額ノ五割ニ相當スル金額ニ百二十圓ヲ加ヘタル額
三百圓ヲ超エ三百六十圓ヲ超エサルモノ	三百圓
三百圓以下ノモノ	在職最終俸給年額ノ十割ニ相當スル金額

退隱料又ハ扶助料ニシテ月俸額ヲ其ノ年額算出ノ基礎ト爲スモノニ付テハ前項ノ加算金額ヲ十二等分シ前項ノ規定ヲ準用ス

第三條 第一條第一項ノ規定ハ大正九年法律第十號第四條ノ休職給ニ付之ヲ準用ス

第四條 大正九年七月三十一日現在ニ於テ明治二十三年勅令第二百五十四號ニ依ル休職判事ノ受クル休職給ハ第一條ノ規定ニ準シ算出シタル金額ヲ以テ其ノ休職給トス

附 則

本令ハ大正九年七月一日以後ノ分ヨリ之ヲ適用ス但シ第三條及第四條ノ規定ハ大正九年八月一日以後ノ分ヨリ之ヲ適用ス

●大正九年法律第十號施行手續

大正九年九月
總令第百四十八號

大正九年法律第十號施行手續左ノ通定ム

大正九年法律第十號施行手續

第一條 大正九年閣令第八號ハ第八條ヲ除クノ外大正九年法律第十號ニ依リ增額ヲ受クヘキ退隱料又ハ扶助料ニシテ朝鮮總督ノ管掌ニ係ルモノノ取扱ニ付之ヲ準用ス

第二條 前條ノ閣令中內閣總理大臣又ハ內閣恩給局長トアルハ朝鮮總督、內閣恩給局トアルハ朝鮮總督府トス

第三條 本令中別段ノ規定ナキモノニ付テハ公立學校職員及在外指定學校職員ニ係ルモノハ公立學校職員退隱料及遺族扶助料支給規則ヲ、巡査看守女監取締及警部補ニ係ルモノハ明治四十四年朝鮮總督府令第七十一號ヲ準用ス

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●同上

大正九年八月
閣令第八號

改正 大正九年一一第一六號

大正九年法律第十號施行手續左ノ通定ム

大正九年法律第十號施行手續

第一條 大正九年法律第十號ニ依リ增額ヲ受クヘキ恩給、軍人恩給、退隱料、扶助料又ハ之ニ準スヘキモノニシテ內閣總理大臣又ハ內閣恩給局長ノ管掌ニ係ルモノノ內大正九年七月三十一日以前ノ日附アル證書ニ依リ給セラルルモノニ付テハ受給權者ノ請求ヲ俟タス更正年額ヲ表示シタル更正證書ヲ發行ス

大正九年七月三十一日現在ニ於テ受クヘキ恩給、軍人恩給、退隱料、扶助料又ハ之ニ準スヘキモノニシテ內閣總理大臣又ハ內閣恩給局長ノ管掌ニ係ルモノノ內大正九年八月一日以後裁定セラルルモノニ付テハ從前ノ例ニ依ル證書ニ代ヘ更正年額及從前ノ年額ヲ表示シタル證書ヲ發行ス

第二條 前條第一項ノ更正證書ヲ交付スル迄ハ更正支給額票ヲ貼附シタル從前ノ證書ニ依リ更正年額ヲ給ス

第三條 更正支給額表ハ內閣恩給局ニ於テ之ヲ調製シ貯金局ニ送付ス

第四條 更正證書ハ軍人恩給又ハ之ニ準スヘキモノニ係ルモノニ付テハ陸軍省又ハ海軍省ヲ經由シ其ノ他ノモノニ付テハ直ニ貯金局ヲシテ之ヲ受給權者ニ交付セシム

更正證書ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ交付請求書ニ居住地ノ市區町村長又ハ之ニ準スヘキ官公署ヨリ當該市區町村又ハ之ニ準スヘキ地域ノ居住者タルコトノ奧書證印ヲ受ケ戶籍抄本ヲ添附シ現支給郵便局又ハ新ニ支給ヲ受ケムトスル郵便局ヲ經由シテ貯金局ニ之ヲ提出スヘシ但扶助料又ハ之ニ準スヘキモノニ係ルトキハ戶籍抄本ニ代ヘ戶籍謄本ヲ添附スヘシ

第五條 更正證書ノ交付請求書ハ遞信大臣ノ定ムル期限ニ至ル迄ハ現支給郵便局又ハ新ニ支給ヲ受ケムトスル郵便局ヲ經由シテ貯金局ニ之ヲ提出シ其ノ期限後ハ郵便官署ヲ經由シ內閣恩給局ニ之ヲ提出スヘシ

第六條 更正證書ヲ交付シタルトキハ舊證書ハ其ノ效力ヲ失フ

更正證書ノ交付ヲ受ケタルトキハ舊證書ハ速ニ郵便官署ヲ經テ內閣恩給局ニ之ヲ返納スヘシ

第七條 更正支給額票亡失毀損シタルトキ其ノ他之ニ準スヘキトキハ利害關係者ノ請求ニ因リ內閣恩給局ハ更ニ之ヲ交付スヘシ

前項ノ請求ハ郵便官署ヲ經由スヘシ

第八條 本令中別段ノ規定ナキモノニ付テハ官吏恩給法施行規則ヲ準用ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●同上

大正九年八月
文部省令第二十號

大正九年法律第十號施行手續左ノ通定ム

大正九年法律第十號施行手續

第一條 大正九年法律第十號ニ依リ增額ヲ受クヘキ退隱料又ハ扶助料ニシテ文部大臣又ハ地方長官ノ管掌ニ係ルモノノ內大正九年七月三十一日以前ノ日附アル證書ニ依リ給セラルルモノニ付テハ受給權者ノ請求ヲ俟タス更正年額ヲ表示シタル更正證書ヲ發行ス

大正九年七月三十一日現在ニ於テ受クヘキ退隱料又ハ扶助料ニシテ文部大臣又ハ地方長官ノ管掌ニ係ルモノノ內大正九年八月一日以後裁定セラルルモノニ付テハ從前ノ例ニ依ル證書ニ代ヘ更正年額及從前ノ年額ヲ

表示シタル證書ヲ發行ス

第二條　前條第一項ノ更正證書ヲ交付スル迄ハ更正支給額票ヲ貼附シタル從前ノ證書ニ依リ更正年額ヲ給ス

第三條　更正支給額票ハ文部省ニ於テ之ヲ調製シ爲替貯金局ヲ經テ受給權者ニ交付ス但シ地方長官ノ管掌ニ係ルモノニ付テハ地方廳ニ於テ之ヲ調製シ受給權者ノ居住地市區町村長又ハ之ニ準スヘキ者ヲ經之ヲ受給權者ニ交付ス

更正證書ハ左ノ書式ニ準シ之ヲ調製スヘシ

書式

曲尺約三寸

票額給支正更隊以渡月十年九正大

意注	額年正更	號番書證
證ノ新其ノ表スヘスル付ノ引 額ヲ貼ニ對ニ交付ト書證ハ票ニ本部上(一)ノ更正額而追ハ書現際(二)	圓 額一期更 圓	

文部省（地方廳）印

職官

氏名

四約尺曲

第四條　更正證書ハ爲替貯金局ヲ經テ之ヲ受給權者ニ交付スル但シ地方長官ノ管掌ニ係ルモノニ付テハ受給權者居住地市區町村長又ハ之ニ準スヘキ者ヲ經テ之ヲ受給權者ニ交付ス

更正證書ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ交付請求書ニ居住地ノ市區町村長又ハ之ニ準スヘキ官公署ヨリ當該市區町村又ハ之ニ準スヘキ地域ノ居住者タルコトノ奥書證印ヲ受ケ戸籍抄本ヲ添付シ（扶助料ニ係ルトキハ戸籍抄本ニ代ヘ戸籍謄本ヲ添付シ）現支給郵便局又ハ新ニ支給ヲ受ケムトスル郵便局ヲ經由シテ爲替貯金局ニ之ヲ提出スヘシ但シ地方長官ノ管掌ニ係ルモノニ在リテハ受給權者ヨリ地方長官ニ提出スヘシ

第五條　文部大臣ノ管掌ニ係ル退隱料又ハ扶助料ノ更正證書ノ交付請求書ハ遞信大臣ノ定ムル期限ニ至ル迄ハ現支給郵便局又ハ新ニ支給ヲ受ケムトスル郵便局ニ之ヲ提出シ其ノ期限後ハ郵便官署ヲ經由シ文部大臣ニ之ヲ提出スヘシ

第六條　更正證書ヲ交付シタルトキハ舊證書ハ其ノ效力ヲ失フ

更正證書ノ交付ヲ受ケタルトキハ舊證書ハ遞ニ郵便官署ヲ經テ文部大臣ニ之ヲ返納スヘシ但シ地方長官ノ管掌ニ係ルモノニ在リテハ受給者ヨリ地方長官ニ提出スヘシ

第七條　本規則ハ於テ別段ノ規定ナキモノニ付テハ年金恩給支給規則ノ定ムル所ニ依ル

附　則

本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則

大正十二年十月

勅令第四百三十九號

朕恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則

第一條　恩給法第五十九條ノ規定ニ依リ恩給金額ノ分擔ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ分擔額ハ左ノ區分ニ依ル

一　現役十一年未滿ノ者ニ在リテハ別表第一表甲ノ金額

二　現役十一年以上ノ者ニ在リテハ別表第一表乙ノ金額

第二條　朝鮮軍人ニシテ現役中公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リテ其ノ症第五條第三號ノ症ヨリ輕キ者之カ爲職務ニ堪ヘス現役ヲ離レタルトキハ賜恤金ヲ給ス其ノ額ハ別表第三表ニ依ル

第三條　朝鮮軍人現役中十一年以上ニ達シ現役中死歿シ又ハ現役十一年未滿ナルモ公務ノ爲現役中死歿シタルトキハ其ノ遺族ニ賜恤金ヲ給ス其ノ額ハ別表第三表ニ依ル

第四條　朝鮮軍人及朝鮮軍人遺族扶助令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

朝鮮軍人及朝鮮軍人遺族扶助令

第一條　朝鮮軍人及其ノ遺族ニハ本令ノ定ムル所ニ依リ扶助金ヲ給ス

第二條　扶助金ハ左ノ四種トス

一　服役年金

二　傷病年金

三　賜恤金

四　葬祭料

第三條　服役年金及傷病年金ハ終身之ヲ給シ賜恤金及葬祭料ハ一時限リ之ヲ給ス

第四條　朝鮮軍人ニシテ現役十一年以上ニ達シタル者現役ヲ離レタルトキハ服役年金ヲ給ス其ノ年額ハ別表第一表ニ依ル但シ傷病年金ヲ給スルトキハ之ヲ給セス

第五條　朝鮮軍人ニシテ現役中公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル之カ爲恩給法施行令第二十四條ニ揭ケル程度ノ不具廢疾ト爲リ現役ヲ離レタル者ニハ傷病年金ヲ給ス

第六條　傷病年金ノ年額ハ左ノ區分ニ依ル

一　現役十一年以上ノ者ニ在リテハ別表第一表甲ノ金額

二　現役十一年未滿ノ者ニ在リテハ別表第一表乙ノ金額

第七條　朝鮮軍人ニシテ現役中公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ現役ヲ離レタル者ニシテ其ノ傷痍又ハ疾病カ現役中ノ公務ノ爲ノモノニ非サルトキハ賜恤金ヲ給ス其ノ額ハ別表第三表ニ依ル

第八條　朝鮮軍人現役中十一年以上ニ達シ現役ヲ離レタル者又ハ現役中十一年未滿ニシテ現役中公務ノ爲死歿シ又ハ現役ヲ離レタル者ニシテ其ノ死歿カ現役中ノ公務ノ爲ノモノニ非サルトキハ賜恤金ヲ給ス其ノ額ハ別表第三表ニ依ル

第九條　本令中別段ノ規定ナキモノニ付テハ公立學校職員退隱料及遺族扶助料支給規則並市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料支給規則ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●大正九年法律第十號ニ依リ更正ニ係ル恩給等支給規則

大正　九年　九月

遞信省令第八十號

大正九年法律第十號（改正　大正九年一〇第一〇四號）ニ依リ更正ニ係ル恩給等支給規則左ノ通定ム

大正九年六月

第一條　貯金局ニ於テ大正九年閣令第八號、同年文部省令第二十號其ノ他大正九年法律第十號施行ニ關スル規定ニ依リ給與ニ關スル證書ニ其ノ金額ニ對スル更正支給額票貼付ノ手續ヲ爲サムトスルトキハ其ノ旨ヲ受給者ニ通知ス

第二條　受給者前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ遠ニ給與ニ關スル證書ヲ支給郵便局ニ差出シ更正支給額票ノ貼付ヲ請求スヘシ

支給郵便局ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ給與ニ關スル證書ノ表面上部欄外ニ更正支給額票ヲ貼付シ日附印ヲ以テ契印シ

第三條　前條ノ場合ニ於テ受給者カ現ニ年金恩給支給規則第十條ニ依リ給與ニ關スル證書ヲ貯金局ニ寄託スルモノナルトキハ貯金局ニ於テ前條ノ手續ヲ爲シ新ニ保管證書ヲ作成シ支給郵便局ニ於テ舊保管證書ト引換ニ之ヲ受給者ニ交付ス

第四條　貯金局ニ於テ大正九年法律第十號ニ依リ更正ニ係ル給與ニ關スル證書ヲ受給者ニ交付セムトスルトキハ其ノ旨ヲ受給者ニ通知ス

前項ノ場合ニ於テ受給者年金恩給支給規則第十條ニ依リ給與ニ關スル證書ヲ貯金局ニ寄託スルモノナルトキハ新證書ハ一般ノ例ニ依リ之ヲ保管ス

第五條　受給者前條第一項ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ通知書受領證ノ部ニ記名調印ノ上之ヲ指定ノ郵便局ニ差出シ舊證書ト引換ニ新證書ノ交付ヲ受ケヘシ但シ止ムヲ得サル事由ニ依リ舊證書ヲ提出スルコト能ハサルトキハ其ノ事由書ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ新ニ支給郵便局ヲ定ムルモノナルトキハ郵便局ノ交付スル用紙ニ依リ印鑑届ヲ作成シ之ヲ新支給郵便局ニ差出スヘシ

第六條　大正九年法律第十號ニ依リ更正證書ノ交付請求書ヲ受給者ヨリ爲替貯金局ニ提出スヘキ終期ハ追テ之ヲ告示ス

第七條　本規則ハ於テ別段ノ規定ナキモノニ付テハ年金恩給支給規則ノ定ムル所ニ依ル

附　則

本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則

大正十二年十月

勅令第四百三十九號

朕恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則

第一條　恩給法第五十九條ノ規定ニ依リ恩給金額ノ分擔ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ分擔額ヲ左ノ區分ニ依ル

一　現役十一年未滿ノ者ニ在リテハ別表第一表甲ノ金額

二　現役十一年以上ノ者ニ在リテハ別表第一表乙ノ金額

第二條　朝鮮軍人ニシテ現役中公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ現役ヲ離レタル者ニシテ其ノ傷痍又ハ疾病カ現役中ノ公務ノ爲ノモノニ非サルトキハ賜恤金ヲ給ス其ノ額ハ別表第三表ニ依ル

第三條　朝鮮軍人現役中十一年以上ニ達シ現役中死歿シ又ハ現役十一年未滿ナルモ公務ノ爲現役中死歿シタルトキハ其ノ遺族ニ賜恤金ヲ給ス其ノ額ハ別表第三表ニ依ル

第四條　朝鮮軍人及朝鮮軍人遺族扶助令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

朝鮮軍人及朝鮮軍人遺族扶助令

第一條　朝鮮軍人及其ノ遺族ニハ本令ノ定ムル所ニ依リ扶助金ヲ給ス

第二條　扶助金ハ左ノ四種トス

一　服役年金

二　傷病年金

三　賜恤金

四　葬祭料

第三條　服役年金及傷病年金ハ終身之ヲ給シ賜恤金及葬祭料ハ一時限リ之ヲ給ス

第四條　朝鮮軍人ニシテ現役十一年以上ニ達シタル者現役ヲ離レタルトキハ服役年金ヲ給ス其ノ年額ハ別表第一表ニ依ル但シ傷病年金ヲ給スルトキハ之ヲ給セス

第五條　朝鮮軍人ニシテ現役中公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ現役ヲ離レタル者ニシテ其ノ傷痍又ハ疾病カ現役中ノ公務ノ爲ノモノニ非サルトキハ賜恤金ヲ給ス其ノ額ハ別表第三表ニ依ル

第六條　傷病年金ノ年額ハ左ノ區分ニ依ル

一　現役十一年以上ノ者ニ在リテハ別表第一表甲ノ金額

二　現役十一年未滿ノ者ニ在リテハ別表第一表乙ノ金額

第七條　朝鮮軍人ニシテ現役中公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ現役ヲ離レタル者ニシテ其ノ傷痍又ハ疾病カ現役中ノ公務ノ爲ノモノニ非サルトキハ賜恤金ヲ給ス其ノ額ハ別表第三表ニ依ル

第八條　朝鮮軍人現役中十一年以上ニ達シ現役ヲ離レタル者又ハ現役中十一年未滿ニシテ現役中公務ノ爲死歿シ又ハ現役ヲ離レタル者ニシテ其ノ死歿カ現役中ノ公務ノ爲ノモノニ非サルトキハ賜恤金ヲ給ス其ノ額ハ別表第三表ニ依ル

第九條　本令中別段ノ規定ナキモノニ付テハ公立學校職員退隱料及遺族扶助料支給規則並市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料支給規則ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●大正九年法律第十號ニ依リ更正ニ係ル恩給等支給規則

大正　九年　九月

遞信省令第八十號

大正九年法律第十號（改正　大正九年一〇第一〇四號）ニ依リ更正ニ係ル恩給等支給規則左ノ通定ム

大正九年六月

第一條　貯金局ニ於テ大正九年閣令第八號、同年文部省令第二十號其ノ他大正九年法律第十號施行ニ關スル規定ニ依リ給與ニ關スル證書ニ其ノ金額ニ對スル更正支給額票貼付ノ手續ヲ爲サムトスルトキハ其ノ旨ヲ受給者ニ通知ス

第二條　受給者前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ遠ニ給與ニ關スル證書ヲ支給郵便局ニ差出シ更正支給額票ノ貼付ヲ請求スヘシ

支給郵便局ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ給與ニ關スル證書ノ表面上部欄外ニ更正支給額票ヲ貼付シ日附印ヲ以テ契印シ

第一條　內閣恩給局長ハ國庫ヨリ府縣其ノ他國庫以外ノ經濟ニ對シ請求スヘキ各經濟別恩給金額分擔額ヲ前年四月一日ヨリ其ノ年三月三十一日迄ノ間ニ於ケル恩給支給義務額ニ依リ調查シ各經濟每ニ仕譯書二通ヲ作成シ每年七月三十一日迄ニ分擔金額ノ請求ヲ爲スヘキ當該經濟ニ對シ仕譯書一通ヲ添附シタル恩給金額分擔請求通知書ヲ發シ同時ニ仕譯書一通ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二條　府縣其ノ他國庫以外ノ經濟前條ノ規定ニ依ル恩給金額分擔請求通知書ノ送付ヲ受ケタルトキハ翌年三月三十一日迄ニ其ノ分擔額ヲ日本銀行ニ拂込ムヘシ

第三條　府縣其ノ他國庫以外ノ經濟ハ國庫ニ對シ請求スヘキ恩給金額分擔額ヲ前年四月一日ヨリ其ノ年三月三十一日迄ノ間ニ於ケル恩給支給義務額ニ依リ調查シ仕譯書ヲ作成シ之ヲ恩給金額分擔請求書ニ添附シ每年七月三十一日迄ニ內閣恩給局長ニ送付スヘシ

內閣恩給局長前項ノ分擔請求書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調查シ同年九月三十日迄ニ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四條　大藏大臣前條ノ恩給金額分擔請求書ノ送付ヲ受ケタルトキハ翌年三月三十一日迄ニ其ノ分擔額ヲ當該經濟ニ交付スヘシ

第五條　府縣其ノ他國庫以外ノ經濟ハ國庫以外ノ他ノ經濟ニ對シ請求スヘキ恩給金額分擔額ヲ前年四月一日ヨリ其ノ年三月三十一日迄ニ內閣恩給局長ニ分擔金額ノ請求ヲ爲スヘシ

第六條　前條ノ恩給金額分擔請求書ノ送付ヲ受ケタル經濟ハ翌年三月三十一日迄ニ其ノ分擔額ヲ之カ請求ヲ爲シタル當該經濟ニ交付スヘシ

第七條　國庫ト府縣其ノ他國庫以外ノ經濟トノ間又ハ國庫以外ノ經濟相互間ニ於ケル分擔ノ請求ヲ爲ストキ普通恩給又ハ扶助料ノ裁定ヲ爲シタル官廳ハ裁定後直ニ普通恩給又ハ扶助料ノ分擔請求ヲ受ケヘキ經濟ニ當該公務員ノ履歷書ヲ添附シ其ノ裁定ヲ爲ス當該官吏又ハ之ニ準スヘキ者ヲ經テ之ヲ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テ國庫ニ對スル通知ハ內閣恩給局長ニ宛テ之ヲ爲スモノトス

第八條　內閣恩給局長以外ノ官廳カ國庫ヨリ支給スヘキ普通恩給又ハ扶助料ノ裁定ヲ爲シタルトキハ當該公務員ノ履歷書ヲ添附シ直ニ其ノ要項ヲ內閣恩給局長ニ通知スヘシ

內閣恩給局長カ國庫以外ノ經濟ヨリ支給スヘキ普通恩給又ハ扶助料ノ裁定ヲ爲シタルトキハ當該公務員ノ履歷書ヲ添附シ直ニ其ノ要項ヲ當該經濟ニ通知スヘシ

第九條　前二條ノ規定ニ依リ通知シタル裁定ノ要項ニ變更生シタル場合ニ於テハ前二條ノ規定ニ準シ之ヲ通知スヘシ

普通恩給又ハ扶助料權ノ消滅シタル場合亦前項ニ同シ此ノ場合ニ於テハ履歷書ノ添附ヲ要セス

第十條　文官、教育職員又ハ待遇職員ニシテ國庫ヨリ俸給ノ支給ヲ受クル者ノ恩給法第五十九條規定ニ依リ國庫ニ納付スヘキ金額ハ俸給ノ支拂ヲ爲ス際支出官之ヲ控除スヘシ但シ出納官吏俸給ノ支拂ヲ爲ス場合ニ於テハ當該出納官吏之ヲ控除スヘシ

前項ノ規定ニ依リ控除シタル金額ヲ歲入ニ組入レムトスル場合ニ於テハ當該支出官之カ歲入徵收官トシテ徵收ノ手續ヲ爲スヘシ

第十一條　文官又ハ教育職員ニシテ國庫ヨリ俸給ノ支給ヲ受ケサル者ノ恩給法第五十九條ノ規定ニ依リ國庫ニ納付スヘキ金額ハ俸給ノ支拂ヲ爲ス際其ノ支拂ヲ爲ス當該官吏又ハ吏員之ヲ控除スヘシ

前項ノ規定ニ依リ國庫納金ヲ控除シタルトキハ之ニ其ノ計算ヲ明ニシタル仕譯書ヲ添附シ每翌月十日迄ニ之ヲ歲入徵收官ノ定ムル出納官吏ニ納付スヘシ

第十二條　待遇職員ニシテ國庫ヨリ俸給ノ支給ヲ受ケサル者ノ恩給法第五十九條ノ規定ニ依リ府縣其ノ他國庫以外ノ經濟ニ納付スヘキ金額ハ俸給ノ支拂ヲ爲ス際其ノ支拂ヲ爲ス當該官吏又ハ吏員之ヲ控除スヘシ

前項ノ規定ニ依リ控除シタル納金ハ當該經濟ノ規定ニ依リ收入ノ手續ヲ爲スヘシ

第十三條　轉任、轉職、休職又ハ死亡等ニ因リ過渡俸給ノ返納ヲ要スルトキハ其ノ百分ノ一ヲ返納者ニ於テ控除スヘシ

第十四條　國庫ヨリ恩給ヲ給スル恩給法第十八條第三項ノ規定ニ依リ國庫ヨリ交付スル金額ハ當該經濟カ恩給法第十八條第二項ノ規定ニ依リ納金ヲ收入シタル年度ノ翌翌年度ニ於テ之ヲ交付スルモノトス

第十五條　本令施行ニ關シ必要ナル規定ハ其ノ收入支出ニ關スルモノ外大藏大臣其ノ他ノ主務大臣之ヲ定ム

第十六條　府縣其ノ他國庫以外ノ經濟ヨリ恩給ヲ給スル恩給法第十八條第三項ノ規定ニ依リ國庫ヨリ交付スル金額ハ當該經濟カ恩給法第十八條第二項ノ規定ニ依リ納金ヲ收入シタル年度ノ翌翌年度ニ於テ之ヲ交付スルモノトス

第十七條　本令施行ニ關シ必要ナル規定ハ其ノ收入支出ニ關スルモノ外大藏大臣其ノ他ノ主務大臣之ヲ定ム

第十八條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

一　官吏遺族扶助法勅令收入規則

一　府縣立師範學校長俸給竝公立學校職員退隱料及遺族扶助料法納金收入規則

明治四十五年勅令第七十一號

本令施行前內閣總理大臣以外ノ廳カ裁定シタル國庫支辨ノ年金タル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノニシテ本令施行ノ際現ニ其ノ權利ノ存續スルモノニ付テハ當該裁定官廳ハ遲滯ナク裁定ノ要項ヲ內閣恩給局長ニ通知スヘシ

第九條ノ規定ハ前項ノ恩給、退隱料、遺族扶助料ノ他之ニ準スヘキモノ付之ヲ準用ス

第四款　軍人軍屬

●朝鮮軍人及朝鮮軍人遺族扶助令

大正　七年　七月

勅令第二百九十九號

改正　大正一〇年三第四四號　一五年三第二七號

朕朝鮮軍人及朝鮮軍人遺族扶助令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

朝鮮軍人及朝鮮軍人遺族扶助令

第一條　朝鮮軍人及其ノ遺族ニハ本令ノ定ムル所ニ依リ扶助金ヲ給ス

第二條　扶助金ハ左ノ四種トス

一　服役年金

二　傷病年金

三　賜恤金

四　葬祭料

第三條　服役年金及傷病年金ハ終身之ヲ給シ賜恤金及葬祭料ハ一時限リ之ヲ給ス

第四條　朝鮮軍人ニシテ現役十一年以上ニ達シタル者現役ヲ離レタルトキハ服役年金ヲ給ス其ノ年額ハ別表第一表ニ依ル但シ傷病年金ヲ給スルトキハ之ヲ給セス

第五條　朝鮮軍人ニシテ現役中公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ現役ヲ離レタル者ニシテ其ノ傷痍又ハ疾病カ現役中ノ公務ノ爲ノモノニ非サルトキハ賜恤金ヲ給ス其ノ額ハ別表第三表ニ依ル

第六條　傷病年金ノ年額ハ左ノ區分ニ依ル

一　現役十一年以上ノ者ニ在リテハ別表第一表甲ノ金額

二　現役十一年未滿ノ者ニ在リテハ別表第一表乙ノ金額

第七條　朝鮮軍人ニシテ現役中公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ現役ヲ離レタル者ニシテ其ノ傷痍又ハ疾病カ現役中ノ公務ノ爲ノモノニ非サルトキハ賜恤金ヲ給ス其ノ額ハ別表第三表ニ依ル

第八條　朝鮮軍人現役中十一年以上ニ達シ現役ヲ離レタル者又ハ現役中十一年未滿ニシテ現役中公務ノ爲死歿シ又ハ現役ヲ離レタル者ニシテ其ノ死歿カ現役中ノ公務ノ爲ノモノニ非サルトキハ賜恤金ヲ給ス其ノ額ハ別表第三表ニ依ル

第九條　本令中別段ノ規定ナキモノニ付テハ公立學校職員退隱料及遺族扶助料支給規則並市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料支給規則ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●大正九年法律第十號ニ依リ更正ニ係ル恩給等支給規則

大正　九年　九月

遞信省令第八十號

大正九年法律第十號（改正　大正九年一〇第一〇四號）ニ依リ更正ニ係ル恩給等支給規則左ノ通定ム

大正九年六月

第一條　貯金局ニ於テ大正九年閣令第八號、同年文部省令第二十號其ノ他大正九年法律第十號施行ニ關スル規定ニ依リ給與ニ關スル證書ニ其ノ金額ニ對スル更正支給額票貼付ノ手續ヲ爲サムトスルトキハ其ノ旨ヲ受給者ニ通知ス

第二條　受給者前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ遠ニ給與ニ關スル證書ヲ支給郵便局ニ差出シ更正支給額票ノ貼付ヲ請求スヘシ

支給郵便局ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ給與ニ關スル證書ノ表面上部欄外ニ更正支給額票ヲ貼付シ日附印ヲ以テ契印シ

第九條 前條ノ賑恤金ヲ給スル場合ヲ除クノ外朝鮮軍人現役中死歿シタルトキハ其ノ遺族ニ葬祭料ヲ給ス其ノ額ハ別表第四表ニ依ル

第十條 前二條ノ遺族ナキトキハ死歿者ノ葬祭ヲ行フ者ニ葬祭料ヲ給スルコトヲ得其ノ額ハ別表第四表ニ依ル

第十一條 服役年金傷病年金及第七條ノ賑恤金ハ現役ヲ離レタル時、第八條ノ賑恤金及葬祭料ハ死歿ノ時ニ於ケル官階等級ニ從ヒ之ヲ給ス

第十二條 服役年金及傷病年金ノ支給ハ現役ヲ離レタル月ノ翌月ニ始リ死歿ノ月ニ終ル

第十三條 服役年金又ハ傷病年金ヲ受ケ又ハ受クヘキ者現役ヲ離レタル月ニ於テ又ハ其ノ翌月ヨリ六月内ニ於テ死歿シタルトキハ現役ヲ離レタル月ノ翌月ヨリ六月間ニ對スル分ノ年金ヲ一時限リ其ノ遺族ニ給ス但シ既ニ死歿者ニ支給シタル金額ハ之ヲ控除ス

前項ノ規定ハ年金支給停止中死歿シタル者ノ遺族ニハ之ヲ適用セス

第十四條 第八條、第九條及前條ニ於テ遺族ト稱スルハ朝鮮軍人ノ配偶者、子、父、母、祖父及祖母ニシテ朝鮮軍人死歿ノ時其ノ家ニ在ル者ヲ謂フ

扶助金ヲ受クヘキ遺族ノ順位ハ前項ニ掲クル順序ニ依リ同順位内ニ在リテハ家督相續人ハ其ノ他ノ者ニ、男ハ女ニ、長ハ幼ニ先ツ

第十五條 現役年數ハ任官又ハ採用ノ月ヨリ起算シ現役ヲ離レタル月ヲ以テ終トス但シ明治四十三年八月二十八日以前舊韓國政府ニ於テ任官又ハ採用シタル朝鮮人タル軍人ニシテ明治三十九年二月前任官又ハ採用ノ者ニ在リテハ明治三十九年二月ヨリ、其ノ以後任官又ハ採用ノ者ニ在リテハ任官又ハ採用ノ月ヨリ起算ス

第十六條 第十八條各號ノ一ニ該當シテ現役ヲ離レタル場合ニ於ケル其ノ現役月數ハ再ヒ現役ニ就キタル場合ニ於テ現役年數ニ之ヲ通算セス

第十七條 服役年金ヲ受ケタル後再ヒ現役ニ就キタル者其ノ現役ヲ離レタルトキハ後ノ官階等級ニ對スル現役年金又ハ傷病年金ト既得ノ服役年金トヲ比較シ其ノ多キ方ヲ給ス但シ服役年金ヲ比較スヘキ場合ハ後ノ現役ノ期間一年以上ノトキニ限ル

第十八條 朝鮮軍人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ扶助金ヲ給セス

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルニ因リ現役ヲ離レタルトキ

二 自己ノ便宜又ハ懲戒ノ處分ニ因リ現役ヲ離レタルトキ

第十九條 服役年金又ハ傷病年金ヲ受ケ又ハ受クヘキ者六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ以後ノ年金ハ之ヲ給セス

第二十條 服役年金又ハ傷病年金ヲ受ケ又ハ受クヘキ者再ヒ現役ニ就キ又ハ文官ニ任セラレタルトキハ其ノ現役中又ハ在官中年金ノ支給ヲ停止ス

六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル時ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ間亦前項ニ同シ

第二十一條 服役年金又ハ傷病年金ヲ受ケ又ハ受クヘキ者恩給法ニ依リ文官トシテ年金ヲ受クルトキハ服役年金又ハ傷病年金ハ恩給受給ノ月ヨリ之ヲ給セス但シ服役年金又ハ傷病年金ノ額恩給ノ額ヨリ多キトキハ其ノ差額ニ相當スル額ヲ給ス

第二十二條 扶助金ヲ受クヘキ順位ニ在ル遺族左ノ各號ノ一ニ該當スル者ナルトキハ扶助金ハ次順位者ニ之ヲ給ス

一 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレ刑ノ執行中又ハ刑ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ間ノ者

三 所在不明中ノ者

前項ノ規定ニ依リ扶助金ヲ受クヘキ者ナキトキハ葬祭料ヲ除クノ外ノ扶助金ハ前項第二號又ハ第三號ニ該當スル者ニ刑ノ執行ヲ終リ若ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタルトキ又ハ所在分明ト爲リタルトキ之ヲ給スルコトアルヘシ

第二十三條 扶助金ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル日ヨリ三年内ニ請求セサルトキハ之ヲ受クル資格ヲ失フ但シ前條第二項ノ場合ニ在リテハ刑ノ執行ヲ終リ若ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル日又ハ所在分明ト爲リタル日ヨリ請求期間ヲ起算スルモノトス

第二十四條 扶助金ノ支給ハ朝鮮總督之ヲ管掌ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ明治四十三年八月二十九日以後本令施行前ニ於テ第四條、第五條、第七條又ハ第八條ニ該當シタル朝鮮軍人又ハ其ノ遺族ニシテ本令施行ノ際現ニ生存スル者ニ對シ之ヲ適用シ本令施行ノ日ヨリ扶助金ヲ給ス

前項ノ規定ニ依リ扶助金ヲ受クル資格アル者本令施行ノ日ヨリ三年内ニ請求セサルトキハ其ノ資格ヲ失フ

附 則（大正十年三月勅令第四十四號）

本令ハ大正九年七月一日以後ノ分ヨリ之ヲ適用ス

附 則（大正十五年三月勅令第二十七號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十四年一月一日以後本令施行ノ日迄ノ間ニ於テ從前ノ規定ニ依リ服役年金ヲ受ケ又ハ受クヘキ資格ヲ有シタル者ニハ其ノ受クヘキ金額ニ其ノ金額ト本令所定ノ金額トノ差額ニ相當スル金額ヲ同年一月一日以後ノ分ヨリ増給ス

（別表）

第一表 服役年金表

官階	金額
副將	一、七三四圓
參將	一、四九四圓
正領同相當官	一、三六八圓
副領同相當官	一、〇五四圓
參領同相當官	八六八圓
正尉同相當官	六二八圓
副尉同相當官	四五四圓
參尉同相當官	三七四圓
特務正校	三〇〇圓
正校同相當官	二〇〇圓
副校同相當官	一七九圓
參校同相當官	一五八圓
上等兵	一三六圓
一等卒	一二六圓
二等卒	一〇五圓

第二表 傷病年金表

		准士官	下士	卒
甲	第二項症以上	八四〇圓	六六二圓以內	五四六圓以內
甲	第三項症及第四項症	六四六	四九六	三九五
甲	第五項症及第六項症	五一六	三八五	二九四
乙	第二項症以上	六四六	四九六	三九五
乙	第三項症及第四項症	五一六	三八五	二九四
乙	第五項症及第六項症	三〇〇	二〇〇	一二六

備考 本表ノ症項ハ恩給法施行令第二十四條ノ規定ニ依ル

第三表 賑恤金表

准士官	下士	卒
一五〇圓	一〇〇圓以內	六三圓以內

第四表 葬祭料

准士官	下士	卒
七五圓	五〇圓以內	三二圓以內

●朝鮮軍人及朝鮮軍人遺族扶助令施行規則

大正七年八月
總令第七十八號

朝鮮軍人及朝鮮軍人遺族扶助令施行規則左ノ通定ム

朝鮮軍人及朝鮮軍人遺族扶助令施行規則

第一條 朝鮮軍人及朝鮮軍人遺族扶助令ニ依リ扶助金ヲ受クヘキ者ハ其ノ請求書ヲ朝鮮總督ニ差出スヘシ

第二條 服役年金、傷病年金又ハ朝鮮軍人及朝鮮軍人遺族扶助令第七條ニ依ル賑恤金ノ請求書ニハ左ニ掲クル書類ヲ添附スヘシ但シ賑恤金ノ請求書ニハ民籍謄本ノ添附ヲ要セス

一 履歷書

二 民籍謄本

三 傷病年金又ハ賑恤金ヲ請求スル者ハ朝鮮軍人及朝鮮軍人遺族扶助令第五條又ハ第七條ノ事實ヲ證スル朝鮮軍司令官又ハ朝鮮憲兵隊司令官ノ書面

朝鮮軍人及朝鮮軍人遺族扶助令第十七條ニ該當スルトキハ前項ノ書類ノ外年金證書ヲ添附スヘシ

第三條 朝鮮軍人及朝鮮軍人遺族扶助令第八條ニ依ル賑恤金又ハ葬祭料ノ請求書ニハ左ニ掲クル書類ヲ添附スヘシ

一 朝鮮軍司令官又ハ朝鮮憲兵隊司令官ヨリ下付セラレタル履歷書

二 民籍謄本

三 公務ノ爲受ケタル傷痍疾病ニ起因シ現役中死歿シタル者ノ遺族ニ在リテハ其ノ事實ヲ證スル朝鮮軍司令官又ハ朝鮮憲兵隊司令官ノ書面

第四條 朝鮮軍人及朝鮮軍人遺族扶助令第十三條ニ規定スル年金ノ請求書ニハ民籍謄本及年金ヲ受ケタル者ニ在リテハ年金證書ヲ、年金ヲ受クヘキ者ニ在リテハ履歷書ヲ添附スヘシ

傷病年金ヲ受クヘキ者ニ在リテハ前項ニ規定スル書類ノ外朝鮮軍人及朝鮮軍人遺族扶助令第五條ノ事實ヲ證スル朝鮮軍司令官又ハ朝鮮憲兵隊司令官ノ書面ニ添附スヘシ

第五條 朝鮮軍人及朝鮮軍人遺族扶助令第二十二條ニ依リ扶助金ヲ請求スル者ハ請求書ニ扶助金ヲ受クヘキ者タルコトヲ證スルニ足ル書類ヲ添附スヘシ

第六條 朝鮮總督ニ於テ扶助金ノ請求ヲ許可シタルトキハ朝鮮軍人及朝鮮軍人遺族扶助令第十三條ニ規定スル年金以外ノ年金ニ在リテハ年金證書ヲ其ノ他ノ扶助金ニ在リテハ辭令書ヲ交付ス

第七條 朝鮮軍人及朝鮮軍人遺族扶助令第二十一條但書ノ規定ニ依リ年金ヲ受クヘキ者ハ恩給證書寫及年金證書ヲ添ヘ其ノ旨朝鮮總督ニ届出ツヘシ

前項ノ届出アリタル場合ニ於テ年金ヲ支給スヘキモノナルトキハ支給スヘキ金額及事由ヲ年金證書ノ裏面ニ記載シ記名捺印ノ上之ヲ交付ス

第八條 年金ハ年額ヲ四分シ四月、七月、十月、一月ニ於テ其ノ前三月分ヲ支給ス但シ年金ヲ受クル資格ヲ喪ヒ又ハ其ノ支給ヲ停止シタルトキハ期月ニ拘ラス之ヲ支給ス

第九條 年金ヲ受ケ又ハ受クヘキ者六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ裁判確定ノ日ヲ以テ年金ノ支給ヲ終ル

年金ヲ受ケ又ハ受クヘキ者現役ニ就キ又ハ文官ニ任セラレタルトキハ俸給ノ支給ヲ始ムル日ノ前日ヲ以テ年金ノ支給ヲ終ル

年金ヲ受ケ又ハ受クヘキ者現役ヲ離レ又ハ退官シタルトキハ俸給ノ支給ヲ終リタル日ノ翌日ヨリ年金ノ支給ヲ復ス但シ恩給ヲ受クル場合ハ此ノ限ニ在ラス

年金ヲ受ケ又ハ受クヘキ者六年未滿ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレ又ハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキハ裁判確定ノ日又ハ言渡ヲ受ケタル日ヲ以テ年金ノ支給ヲ終リ刑ノ執行ヲ終リタル日ノ翌日又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル日ヨリ年金ノ支給ヲ復ス

第十條 朝鮮軍人及朝鮮軍人遺族扶助令第五條各號ニ規定スル傷痍疾病ノ等差ニ關シテハ陸軍軍人ノ例ニ準ス

第十一條 年金ヲ受ケ又ハ受クヘキ者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ本人又ハ遺族ヨリ其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ届出ツヘシ

一 死歿ノトキ

二 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三 年金ト同額又ハ年金ヨリ多額ノ恩給ヲ受ケタルトキ

四 六年未滿ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタルトキ又ハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキ及其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタルトキ

第十二條 前條第一號乃至第三號ノ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ同時ニ年金證書ヲ返納スヘシ但シ朝鮮軍人及朝鮮軍人遺族扶助令第十三條ニ規定スル年金ヲ受クヘキ者アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 年金ヲ受クヘキ者現役ニ就キ又ハ文官ニ任セラレタルトキハ十四日内ニ其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ届出ツヘシ其ノ現役ヲ離レタルトキ又ハ退官シタルトキ亦同シ

第十四條 年金證書ヲ亡失シタル者ハ其ノ事實ヲ朝鮮總督ニ届出ツヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ其ノ事實ヲ調査シ年金證書ノ謄本ヲ交付ス

前項ノ謄本ハ本證書ト同一ノ效力ヲ有ス

第十五條 年金ヲ受クル者氏名ヲ改メタルトキハ民籍謄本及年金證書ヲ添ヘ朝鮮總督ニ届出ツヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ證書ノ裏面ニ其ノ事實ヲ記載シ記名捺印ノ上之ヲ交付ス

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●憲兵補ノ恩給ニ關スル件

大正十年四月
法律第三十三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル憲兵補ノ恩給ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 憲兵補及其ノ遺族ニ關シテハ恩給ヲ給ス

第二條 前條ノ恩給ニ關シテハ憲兵補ヲ陸軍軍人ト看做シ其ノ該當スヘキ軍人ノ等級ハ勅令ヲ以テ之ヲ定メ軍人恩給法ニ依ル

第三條 憲兵補助員ノ明治四十三年九月十二日ヨリ大正八年八月十九日迄ノ勤務日數ハ憲兵補ノ勤務年數ニ之ヲ通算ス

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法ハ大正八年八月二十日以後本法施行前ニ於テ軍人恩給法第五條又ハ第九條ニ規定スル所ニ該當シタル憲兵補又ハ其ノ憲兵補ノ遺族ニシテ本法施行ノ際現ニ生存スルモノニ付及憲兵補ニシテ同法第二十七條第一號又ハ第二號ニ規定スル所ニ該當シタルモノノ遺族ニシテ本法施行ノ際現ニ生存スルモノニ付テモ亦之ヲ適用シ其ノ本法施行ノ際恩給ヲ受クル資格アル者ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ恩給ヲ給ス

前項ニ規定スル本法施行ノ際恩給ヲ受クル資格アル者ハ本法施行ノ日ヨリ起算シ七年以内ニ恩給ヲ請求セサルトキハ其ノ資格ヲ失フ

●憲兵補ノ等級ニ關スル件

大正十年四月
勅令第七十號

朕大正十年法律第三十三號第二條ニ規定スル憲兵補ノ等級ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣、陸軍大臣副署）

憲兵補ノ該當スヘキ軍人ノ等級ハ別表ニ依ル

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

軍人恩給法ノ官等		憲兵補ノ等級
判任官	二等	監督憲兵補
判任官	三等	上等憲兵補
判任官	四等	一等憲兵補
卒	陸軍上等兵	二等憲兵補
卒	陸軍一等卒	三等憲兵補
卒	陸軍二等卒	四等憲兵補

●隆熙三年勅令第六十八號ニ依ル恩給ノ増給ニ關スル件

大正十年三月
勅令第四十三號

隊隆熙三年勅令第六十八號ニ依ル恩給ノ增給ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

隆熙三年勅令第六十八號ニ依リ同年布達第九號ノ定ムル所ニ從ヒ大正九年七月一日現ニ恩給ヲ受クル者ニハ其ノ年額ニ別表第一號表ニ規定スル金額ノ年額ヲ增給ス

隆熙三年布達第九號ハ前項ノ規定ニ依ル增給ニ付之ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正九年七月一日以後ノ分ヨリ之ヲ適用ス

（別表）

五四圓	四七六圓	二八〇圓	二二〇圓	一四〇圓	七六圓	四八圓	四〇圓	
副將	參將	正領	副領	參領	正尉	副尉	參尉	
同相當官	同相當官	同相當官	同相當官	同相當官	同相當官	同相當官	同相當官	

●軍部廢止、親衞府新設及之ニ附帶ノ件

隆熙三年七月
勅令第六十八號

陸軍部廢止、親衞府新設及之ニ附帶ノ件ヲ裁可シ玆ニ頒布セシム

第一條　軍部ヲ廢止シ宮中ニ親衞府ヲ置ク

親衞府官制ハ之ヲ定ム

第二條　從來軍部ニ屬シタル歲入歲出預算金額及財產ハ總テ宮內府ニ移屬シ現ニ不用ニ屬スル財產ハ度支部所管ニ移屬ス

第三條　陸軍武官學校ハ之ヲ廢止ス其時期ハ別ニ之ヲ定ム

武官ノ養成ハ日本國ニ委託スルモノトス

第四條　現在ノ將校竝ニ將來日本軍隊ニ派遣シ軍事ノ研究ヲ爲サシム

第五條　將校ハ休職ト爲ル時ハ其俸給ノ半額ヲ受ク停職ト爲ル時ハ其俸給ノ三分ノ一ヲ受ク

第六條　將校ハ現役ヲ離ルル時ハ別ニ定メタル所ニ依リ恩給ヲ受ク

附　則

本令ハ頒布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●隆熙三年勅令第六十八號ニ依リ恩給ヲ受クル者ノ恩給增給及隆熙三年勅令第六十八號施行ノ際休職ト爲リタル舊韓國將校同相當官ニシテ休職期間滿了ニ因リ現役ヲ退キタル者ノ扶助金給與ニ關スル件

大正十五年三月
勅令第二十八號

隆熙三年勅令第六十八號ニ依リ恩給ヲ受クル者ノ恩給增給及隆熙三年勅令第六十八號施行ノ際休職ト爲リタル舊韓國將校同相當官ニシテ休職期間滿了ニ因リ現役ヲ退キタル者ノ扶助金ノ支給ヲ受クヘキ者法令ニ依リ同一ノ原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ其ノ金額ハ扶助金ノ支給ハ傭人ヲ解雇スルモ變更スルコトナシ

第二條　扶助金ハ療治料、休業扶助料、障害扶助料、一時扶助料、遺族扶助料及葬祭料ノ六種トシ左ノ區別ニ從ヒ別表ニ依リ之ヲ支給ス

一　療治料ハ負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養ヲ要スル者ニシテ官費治療ヲ受ケサルモノニ之ヲ支給ス

二　休業扶助料ハ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルニ因リ賃金ヲ受ケサル者ニ之ヲ支給ス

三　障害扶助料ハ負傷又ハ疾病ノ治癒シタル時ニ於テ仍身體ニ障害ヲ存スル者ニ之ヲ支給ス

四　一時扶助料ハ療養開始後三年ヲ經過スルモ負傷又ハ疾病ノ治癒セサル者ニ之ヲ支給ス

五　遺族扶助料ハ死亡シタル者ノ遺族ニ之ヲ支給ス

六　葬祭料ハ葬祭ヲ行フ遺族ニ之ヲ支給ス葬祭ヲ行フ者ニ之ヲ支給スルコトヲ得

一時扶助料ヲ支給スルトキハ以後本令ニ依ル他ノ扶助金ハ之ヲ支給セス

第三條　障害扶助料、一時扶助料、遺族扶助料又ハ葬祭料ノ額ハ別表金額ノ範圍內ニ於テ負傷、疾病又ハ死亡ノ原因、身體障害ノ程度、勞務ノ種類、勞務不能ノ期間其ノ他各種ノ事情ヲ斟酌シ代人タルコトヲ證明シ且記名調印ヲ要スル書類ニハ代人タルノ肩書ヲ附シ記名調印スヘシ

前項ノ委任狀ハ本人ニ於テ當該書類ニ委任文ヲ記載シ記名調印シ之ヲ作成スルコトヲ得

第二章　繼續支給

第七條　繼續支給セラルヘキ給與ニ關スル證書ヲ受領シタル者ハ支給ヲ受ケムトスル郵便局ニ就キ其ノ交付スル用紙ニ依リ印鑑ヲ作成シ之ヲ差出スヘシ但シ年金タル恩給ヲ受クル者ハ其ノ恩給請求書ニ記載シタル支給郵便局ニ之ヲ差出スコトヲ要ス

受給者印章ヲ改メタルトキハ適宜ノ用紙ニ依リ改印屆ヲ作成シ支給郵便局ニ差出スヘシ

第八條　受給者給與金ノ支給ヲ受ケムトスルトキハ年金證書、恩給證書其ノ他給與ニ關スル證書ヲ支給郵便局ニ呈示シ權利者タルコトヲ證明シタル上郵便局ノ交付スル用紙ニ依リ作成シタル給與金受領證書ヲ現金ト引換ニ差出スヘシ

前項給與金受領證書ノ用紙ハ郵便局ノ交付スル用紙ト同一樣式ノモノニ限リ之ヲ私製シ使用スルコトヲ得

第九條　受給者支給用月ヲ經過シタル後ニ於テ給與金ノ支給ヲ受ケムトスルトキハ給與ニ關スル證書ノ種類及記號番號、給與金高竝支給郵便局名等ヲ記載シタル支給請求書ヲ貯金局ニ差出スヘシ

受給者前項ノ請求ニ對シ貯金局ヨリ支給ノ通知ヲ受ケタルトキハ前條第一項ノ例ニ依リ現金受領ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條　受給者ハ給與ニ關スル證書ヲ豫メ貯金局ニ寄託シ其ノ給與金ヲ支給期每ニ自己ノ郵便貯金ニ振替預入ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ給與金ハ其ノ支給期每ニ貯金局ニ於テ之ヲ受給者ノ郵便貯金ニ組入ノ手續ヲ爲ス

第十一條　受給者振替預入ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ振替預入ヲ受ケムトスル郵便貯

酌シテ之ヲ定ム

第四條　療治料又ハ休業扶助料ハ每月一回以上之ヲ拂渡スモノトス

第五條　負傷又ハ疾病ノ再發ニ因リ身體障害ノ程度ヲ加重シタル場合ニ於テハ障害扶助料ノ額ハ新ニ之ヲ定メ既ニ支給シタル障害扶助料ノ金額ヲ控除シテ之ヲ支給ス

第六條　遺族扶助料ノ支給ヲ受クヘキ者ニ關シテハ工場法施行令第十條乃至第十二條ノ規定ヲ準用ス

第七條　負傷又ハ疾病カ傭人ノ解雇後ニ再發シタル場合ニ於テハ扶助金ハ之ヲ支給セス

第八條　解雇後一年ヲ經過シタルトキハ本令ニ依ル扶助金ハ之ヲ請求スルコトヲ得ス但シ解雇前ニ又ハ解雇後一年內ニ請求シタル扶助ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ扶助金ヲ請求スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條　扶助金算出ノ標準タル賃金ノ額ヲ定ムル方法ニ關シテハ工場法施行令第十六條第一號及第二號ノ規定ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依リテ金額ヲ算出スルコトヲ得サル場合ニ於テハ主務官廳之ヲ定ム

第十條　政府ヨリ給與金ヲ受クル相互救濟ヲ目的トスル組合ノ組合員タル傭人ニハ本令ヲ適用セス

附　則

本令ハ大正八年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際官役職工人夫扶助令ニ依リ療治料又ハ給助料チ受ケ又ハ受クヘキ者ニハ本令施行ノ日ヨリ本令ニ依ル扶助金ヲ支給ス

官役職工人夫扶助令ハ之ヲ廢止ス

●武官恩給ニ關スル件

隆熙三年七月
布達第九號

第一條　隆熙三年勅令第六十八號施行ノ時ニ現役ヲ離レタル將校及同相當官ハ本則ノ定ムル所ニ依リ恩給ヲ受クルモノトス

第二條　恩給ノ別表ニ依リ終身之ヲ給ス

第三條　恩給ノ支給ハ現役ヲ離レタル翌月ヲ以テ始マリ死亡シタル月ニ終ハルモノトス

第四條　恩給ヲ受ケタル者重罪刑ニ處セラルルカ或ハ帝國臣民タル分限ヲ失フ時ハ恩給ハ剝奪ス

第二號表

五〇二圓	三七三圓	二九九圓	
正尉同相當官	副尉同相當官	參尉同相當官	

（別表）

第一號表

三六三圓	二九九圓	三四二圓	三二一圓	二四六圓	一七一圓	一三九圓			
副將	參將	正領同相當官	副領同相當官	參領同相當官	正尉同相當官	副尉同相當官	參尉同相當官		

●年金恩給支給規則

大正十二年十一月
遞令第九十二號

年金恩給支給規則左ノ通改正ス

年金恩給支給規則

第一章　總則

第一條　國庫ノ支辨ニ屬スル左ノ給與金ノ支給手續ニ關シテハ本規則ノ定ムル所ニ依ル

一　明治二十七年勅令第百七十三號金鵄勳章年金令ニ依ル給與金

二　大正十二年法律第四十八號恩給法ニ依ル給與金

三　特ニ賜與ニ係ル年金、恩給ノ給與金

第二條　前條ノ給與金ハ特別ノ場合ヲ除クノ外受給者ノ指定シタル郵便局ニ於テ支給ス

第三條　給與金ノ支給期日ハ當該支給期月ノ十一日ヨリ二十日迄トス

一時限ノ給與金ニ付テハ前項ノ期日ニ拘ハラス之ヲ支給ス

第四條　受給者居所ヲ變更シタルトキハ其ノ屆書ニ給與ニ關スル證書ノ種類、記號番號ヲ附記シ支給郵便局ニ差出スヘシ

第五條　受給者轉居又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ支給郵便局ヲ變更セムトスルトキハ給與ニ關スル證書ノ種類、記號番號及新舊支給郵便局名ヲ記載シタル變更請求書ヲ作成シ新支給郵便局又ハ舊支給郵便局ニ差出スヘシ

郵便局ニ於テ支給郵便局變更ノ手續ヲ了シタルトキハ其ノ旨ヲ受給者ニ通知ス

第六條　代人ニ於テ本規則ニ依リ各種ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ本人ノ委任狀ヲ差出

（別表）

種別	金額
療治料	實費
休業扶助料	
休業三月以內一日ニ付	賃金日額二分ノ一
休業三月ヲ超ユル日數一日ニ付	賃金日額三分ノ一
終身自用ヲ辨スルコト能ハサル者	賃金百七十日分以上三百日分以下
終身勞務ニ服スルコト能ハサル者	賃金百五十日分以上三百五十日分以下
障害扶助料	
從來ノ勞務ニ服スルコト能ハサル者、健康舊ニ復スルコト能ハサル者又ハ女子ニシテ其ノ外貌ニ醜痕チ殘シタル者	賃金百日分以上二百日分以下
身體ニ障害ヲ存スト雖引續キ從來ノ勞務ニ服スルコトヲ得ル者	賃金三十日分以上百二十日分以下
一時扶助料	賃金百七十日分以上三百日分以下
遺族扶助料	賃金百七十日分以上三百日分以下
葬祭料	十圓以上三十圓以下

第六款　年金恩給支給

●郵便官署ヲシテ年金、恩給等ノ支給事務ヲ取扱ハシムル件

明治四十三年三月
勅令第二十五號
改正　大正二年四月第一二三號

第五輯

文書　統計　國勢調査

金通帳ノ記號番號、給與ニ關スル證書ノ種類及記號番號竝請求ノ要旨ヲ記載シタル請求書ニ給與ニ關スル證書ヲ添ヘ之ヲ支給郵便局ニ差出スヘシ

第十二條　貯金局ニ於テ前條ノ請求ニ依リ給與ニ關スル證書ノ寄託ヲ受ケタルトキハ其ノ保管證書ヲ當該受給者ニ交付ス

第十三條　前條ニ依リ保管證書ノ交付ヲ受ケタル受給者ハ給與金ノ支給期毎ニ郵便貯金通帳ヲ支給郵便局ニ差出シ之ニ振替預入金ノ記入ヲ受クヘシ

第十四條　受給者第十條ニ依ル振替預入ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨ヲ記載シタル屆書ニ保管證書ヲ添ヘ之ヲ貯金局ニ差出スヘシ

貯金局ニ於テ前項ノ屆書ヲ受ケタルトキハ其ノ保管スル給與ニ關スル證書ハ之ヲ受給者ニ還付ス

第十五條　受給者保管證書ヲ亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ、之ヲ毀損シタルトキハ保管證書ヲ添ヘ貯金局ニ其ノ再交付ヲ請求スルコトヲ得

保管證書ノ再交付ヲ爲シタルトキハ從前ノ保管證書ハ其ノ效力ヲ失フ

第三章　一時支給

第十六條　一時限ノ給與金ヲ受クル者ニハ貯金局ヨリ支給郵便局ヲ經由シテ支給通知書ヲ送付ス

第十七條　受給者前條ノ支給通知書ニ依リ給與金ヲ受領セムトスルトキハ裁定官廳ノ裁定通知書ヲ支給郵便局ニ呈示シテ權利者タルコトヲ證明シタル上支給通知書ノ受領證ノ部ニ記名調印シ現金ト引換ニ之ヲ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ支給郵便局ハ必要ニ依リ受給者ニ對シ市區町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ作成シタル印鑑證明書ノ提出ヲ求ムルコトアルヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五輯　文書　統計　國勢調査

第一章　文書

第一款　公文書　請願　願屆

○請願令（大正六、四、勅令三七）……一
○朝鮮總督府ニ提出スル願屆書經由ニ關スル件（明治四三、一〇、總令五）……一
○朝鮮總督府公文書規程（明治四五、三、總訓三六）……一
○朝鮮總督府裁判所及檢事局處務規程（明治四五、三、總訓二八）……四
○朝鮮總督府裁判所書記課處務規程（大正六、一二、總訓五一）……四
○朝鮮總督府裁判所及檢事局書類保存規程（大正七、一、總訓一）……六
○朝鮮總督府監獄書類保存規程（明治四四、一二、總訓九三）……一〇

第二款　署名印章

○官印寸法（明治三一、八、閣令五）……一一
○印鑑證明規則（大正三、七、總令一一〇）……一一

第二章　官報

○朝鮮總督府官報編纂規程（大正九、二、總訓一〇）……一二
○朝鮮總督府官報ノ發賣竝廣告ニ關スル件（大正一一、三、總告九三）……一三
○官報通牒ニ同文通牒揭載ニ關スル件（明治四四、一二、總訓一三）……一四

第三章　統計　報告

○統計事務ニ關スル件（大正五、五、內閣訓令一）……一四
○朝鮮總督府統計事務取扱方（大正七、九、總訓四七）……一四
○朝鮮總督府報告例（大正元、一一、總訓二〇）……一四
○司法警察事務報告ニ關スル件（大正一五、四、總訓一二）……一四
○公證規則ニ依ル報告取扱方（大正三、三、警訓甲九）……一五

第四章　國勢調査

○國勢調査ニ關スル件（明治三五、一二、法律四九）……一六
○國勢調査施行令（大正七、九、勅令三五八）……一六
○朝鮮ニ於ケル國勢調査ニ關スル件（大正九、八、法律三五）……一七
○簡易國勢調査ニ關スル件（大正一四、五、總令六六）……一七
○簡易國勢調査特別地域調査ニ關スル件（大正一四、五、總令六七）……一九

第五輯　文書　統計　國勢調査

第一章　文書

第一款　公文書　請願　願届

●請願令

大正六年四月
勅令第三十七號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ請願令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

請願令

第一條　請願ハ法律勅令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外本令ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第二條　請願ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
請願書ニハ侮辱誹毀ニ渉リ又ハ秩序風俗ヲ紊ル文辭ヲ用ウルコトヲ得ス

第三條　請願書ノ文字ハ端正鮮明ナルコトヲ要ス

第四條　請願書ニハ請願ノ要旨、理由、年月日、請願者ノ族稱、職業、住所、年齡ヲ記載シ請願者各自之ニ署名捺印スヘシ

第五條　法人請願者ナルトキハ其ノ名稱及住所ヲ記載シ法定ノ代表者各自請願書ニ署名捺印スヘシ

第六條　法人ハ其ノ目的ノ遂行ニ關係アル事項ニ非サレハ請願ヲ爲スコトヲ得ス

第七條　未成年者及禁治産者ノ請願ハ其ノ法定代理人ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ請願書ニ代理ノ事由及法定代理人ノ族稱、職業、住所、年齡ヲ記載シ法定代理人之ニ署名捺印スヘシ

第八條　署名スルコト能ハサル者ハ他人ヲシテ代署セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ代署者請願書ニ其ノ事由ヲ附記シ且其ノ族稱、職業、住所、年齡ヲ記載シ之ニ署名捺印スヘシ

第九條　請願ハ第七條ノ場合ヲ除クノ外代理人ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得ス

第十條　天皇ニ奉呈スル請願書ハ封皮ニ請願ノ二字ヲ朱書シ內大臣府ニ宛テ其ノ他ノ請願書ハ請願ノ事項ニ付職權ヲ有スル官公署ニ宛テ郵便ヲ以テ差出スヘシ

第十一條　左ニ揭クル事項ニ付テハ請願ヲ爲スコトヲ得ス
一　皇室典範及帝國憲法ノ變更ニ關スル事項
二　裁判ニ干預スル事項

第十二條　相當ノ敬禮ヲ守ラス又ハ本令ノ規定ニ違反スル請願書ハ之ヲ却下ス但シ官公署ニ對スル請願書ハ第三條乃至第五條、第七條第二項又ハ第八條ノ規定ニ違反スルモ之ヲ却下セサルコトヲ得

第十三條　請願ニ對シテハ指令ヲ與ヘス

第十四條　天皇ニ奉呈スル請願書ハ內大臣奏聞シ旨ヲ奉シテ之ヲ處理ス

第十五條　請願ニ關シ官公署ノ職員ニ强テ面接ヲ求メタル者ハ二月以下ノ禁錮若ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス
二人以上共ニ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ六月以下ノ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條　行幸ノ際沿道又ハ行幸地ニ於テ直願ヲ爲サムトシタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス行啓ノ際沿道又ハ行啓地ニ於テ直願ヲ爲サムトシタル者亦同シ

第十七條　請願ヲ爲サシムル爲他人ヲ誘惑若ハ煽動シ又ハ名義ノ何タルヲ問ハス請願ニ關スル運動ノ爲金錢其ノ他ノ利益ヲ收受シ、要求シ若ハ其ノ收受ヲ約束シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

●朝鮮總督府ニ提出スル願届書經由ニ關スル件

明治四十三年十月
總令第五號

朝鮮總督府ニ提出スル願届書等ハ法令ニ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外ハ總テ其ノ管轄地方長官ヲ經由スヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮總督府公文書規程

明治四十五年三月
總訓第三十六號

改正　大正元年一一第二二號、四年三第一〇號、五年三第一四號、九年一二第七三號、二年一二第四八號、一四年四第一九號

朝鮮總督府及所屬官署

朝鮮總督府公文書規程左ノ通定ム

第一條　朝鮮總督府及所屬官署ニ於ケル文書ノ取扱ハ特ニ規定シタルモノヲ除クノ外此ノ規程ニ依ル

第二條　文書ハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外官署又ハ官署ノ長ノ名ヲ以テ施行スヘシ
但シ總督府職員ニシテ朝鮮總督府委任事項規程ニ依リ專行ノ委任ヲ受ケタル者竝中樞院、遞信局、鐵道局、專賣局及道ノ職員ニシテ專行ノ委任ヲ受ケタル者ハ當該事項ニ關シ其ノ名ヲ以テ通牒、照覆ヲ爲スコトヲ得

第二條ノ二　定例ニ依リ提出スル計算書統計等ノ報告ニハ送付書ヲ省略スルコトヲ得

第三條　所屬官署ヨリ總督府ヘ提出スル文書ハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外其ノ監督官署ヲ經由スヘシ但シ至急ヲ要スル場合ニ於テハ直ニ總督府ニ提出シ監督官署ニ其ノ旨ヲ報告スルコトヲ得

第三條ノ二　經由官署ハ上級官署ニ文書ヲ進達スル場合ニ於テハ文書ノ相當欄ニ其ノ意見ヲ附スルノ必要ナキトキハ番號、經由年月日、官署名ノミヲ記入シ之ニ捺印スヘシ

第四條　單ニ文書ノ寫ヲ以テ通報スル場合ニ於テハ特ニ送付書ヲ附セス寫ノ欄外ニ「寫送付」ノ記號ヲ附シ番號年月日及官署名ヲ記入シ其ノ長之ニ檢印スヘシ

第五條　削除

第六條　一事件ニ關係スル文書ハ其ノ處分ノ完結ニ至ル迄總テ同一番號ヲ用ウヘシ
番號ハ每年之ヲ新ニスヘシ

第七條　文書ノ發行者名及宛名ハ職名ノミヲ記載シ氏名ヲ省略スルコトヲ得但シ部外ニ發スル文書ハ此ノ限ニ在ラス

第八條　部內ニ對シ發スル指令ニハ發行者ノ氏名ヲ省略シ職印ノミヲ用ウヘシ

第九條　同文文書ヲ印刷配付スル場合ニ於テハ發行者名ノ下ニ職印ヲ省略スルコトヲ得

第十條　文書ハ簡明ヲ旨トシ平易ニ記述スヘシ
主文ノ理由ヲ詳述スル爲長文ニ亙ルモノハ之ヲ別紙ト爲スヘシ

第十一條　文書ノ記載例ハ別紙樣式ニ依ル

第十二條　文書ノ淨書ハ上奏書類、指令等ヲ除キ可成タイプライター又ハペンヲ使用シ指書又ハ行書ニ限リ明瞭ニ書シ字句ヲ加除シタルトキハ主任課長又ハ之ニ準スヘキ者之ニ檢印スヘシ

第十三條　文書ハ例規アルモノ及圖表等ヲ除ク外所定ノ罫紙ヲ用ウヘシ但シ印刷ニ附シ又ハタイプライターヲ用ウル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條　祕密ヲ要スル文書ノ封筒ニハ職員ノ進退賞與及懲戒ニ關スルモノニ在リテハ「人祕」其ノ他ノモノニ在リテハ「祕」ノ記號ヲ附スヘシ
職員ノ進退、賞與及懲戒ニ關スル電報ハ暗號ヲ用ウル場合ト雖親展電報ト爲スヘシ

第十五條　文書ニ添附スヘキ物品ヲ別途發送スルトキハ文書ノ欄外及封筒ニ物品添附ノ記號ヲ附シ物品ニ本書ノ番號ヲ記スヘシ

第十六條　多數ノ同文通牒ヲ發スル場合ニ於テハ之ヲ官報又ハ公報ニ揭載スルコトヲ

得
第十六條ノ二　部内ニ發著スル電報ニハ電信略符號ヲ使用スヘシ
第十七條　遞信局、鐵道局及專賣局ヨリ總督府ニ提出スヘキ上申、申請及伺ハ朝鮮總督府處務規程第二章ノ規定ニ準シ議案ノ形式ニ依リ總督ノ決裁ヲ受ケ報告ハ供覽ノ形式ニ依リ取扱フヘシ

附　則
本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

（様式一）指令

番　號　　職

（大正何年）何月何日附何第、、、、號上申（申請又ハ伺又ハ願）何、、、、、ノ件（左記條件ヲ附シ又ハ左記ノ通更正ノ上）認可ス（許可ス又ハ承認ス又ハ詮議シ難シ）（何ノ通（左ノ通）心得ヘシ）（何何スヘシ）

大正　年　月　日

職印

（様式二）指令ノ二

番　號　　（何總代）　氏　名（外　名）
（何府）（何組合）（何會議所）（何會社）

何年月日（何第　號）願（申請）何、、、、、ノ件許可ス（但シ左記（別記）命令ヲ遵守スヘシ）（認可シ（國庫ヨリ）（地方費ヨリ）金、、、、圓補助ス又ハ寄附ノ件採納ス）

大正　年　月　日　　職氏名印

（様式三）命令ノ一

番　號　　職氏名

何、、、、、ノ件

何、、、、スヘシ（其ノ官ハ（何、、、、ニ付）何、、、、ヲ調査報告スヘシ）（何、、、、ハ何、、、、ニ付此ノ旨（左ノ通）心得ヘシ）

（様式四）命令ノ二　　大正　年　月　日

何、、、、勤務ヲ命ス　　職印
（何、、、出張ヲ命ス）　　（官）氏　名
（除服出仕）
（雇員ヲ命シ月給（日給）何、、、、ヲ給ス）
（願ニ依リ（事務ノ都合ニ依リ）（御用濟ニ付）雇員ヲ免ス（月給（日給）何、、、、ヲ給ス）

大正　年　月　日　　官署名
職印

（様式五）照會　　（何總代）

番　號　　氏　名（外　名）
（何府）（何組合）（何會議所）（何會社）

何、、、、ノ件通牒（通報）又ハ（通知）

何、、、何、、、スル儀ト御承知相成度（何、、、ニ依リ何、、、相成度）（何、、、爲念（依命）及通牒（通報）（通知）候也

（様式六）照會　　職氏名

番　號

大正　年　月　日

職殿

何、、、、ノ件照會

何、、、、御意見承知致度（至急回答有之度）候也

（様式七）回答

番　號　　職氏名

大正　年　月　日

職殿

何、、、、ノ件回答

（明治何年）何月何日附何第、、、、號照會ノ趣異存無之（夫夫取計置）（御意見ノ通ニ）（承諾致ス）（左ノ通御承知相成度又ハ依命及回答ス）候也

（様式十二）

備　考
一　宛先ヘ直接發送スル場合ニ用ユ
二　美濃版ハ十行及十三行トシ半紙版ハ十行トス

（番　號）
大正　年　月　日　　（職　印）
（職　殿）
（何、、、、、ノ件ノ（上申）

官署名

（様式十三）

備　考
一　他官署ヲ經テ宛先ヘ發送スル場合ニ用ユ
二　美濃版ハ十行及十三行トシ半紙版ハ十行トス

經由官官署長意見

（番　號）
大正　年　月　日　　（職　印）
（職　殿）
（何、、、、、ノ件ノ又ハ（上申）

官署名

●朝鮮總督府裁判所及檢事局處務規程

明治四十五年三月 總訓第二十八號

改正 大正元年一一第二一號、五年三第一一號、九年五第二一號、一〇年四第一六號、一一年一二第六八號

朝鮮總督府裁判所及檢事局

朝鮮總督府裁判所及檢事局處務規程左ノ通定ム

朝鮮總督府裁判所及檢事局處務規程

第一條 削除

第二條 裁判所及檢事局ノ長ト中央官廳及在外國日本官廳トノ間ニ往復スル文書ハ別段ノ例規アルモノヲ除ク外朝鮮總督ヲ經由スヘシ

第三條 裁判所及檢事局ノ長ハ左ノ文書中重要ナルモノニ署名捺印スヘシ

一 監督上官ニ差出スヘキ文書

二 中央官廳及地方廳、在外國日本官廳トノ往復文書

檢事局ノ長ハ上訴、再審申立書ハ亦署名捺印スヘシ

第四條 裁判所及檢事局ニ出勤簿ヲ備置クヘシ

第五條 裁判所及檢事局ノ職員病氣忌服其ノ他ノ事故ニ因リ闕勤スルトキハ各其ノ所屬ノ長官ニ屆書ヲ差出スヘシ

病氣八日以上ニ渉ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添附シ更ニ屆出ツヘシ

第六條 裁判所及檢事局ノ長ハ其ノ判任官ニ宿直ノ勤務ヲ命スヘシ但シ地方法院出張所ニ在リテハ雇員ニモ亦宿直勤務ヲ爲サシムルコトヲ得

第七條 裁判所及檢事局ノ長其ノ廳又ハ書記課ノ執務細則ヲ設クルトキハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ但シ書記課ノ執務細則ハ裁判所及檢事局ノ長協議シテ之ヲ定ムヘシ

第八條 第一條乃至第四條及第六條ノ規定ハ地方法院支廳ノ一人ノ判事、檢事又ハ上席ノ判事、檢事ニ之ヲ準用ス

附 則

本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

（大正十一年十二月總訓第六十八號ハ大正十二年一月一日ヨリ施行）

●朝鮮總督府裁判所書記課處務規程

大正六年十二月 總訓第五十一號

改正 大正七年一〇第五三號、九年五第二三號、一二年一二第五三號

朝鮮總督府裁判所書記課處務規程左ノ通改正シ大正七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮總督府裁判所書記課處務規程

第一條 書記課ニ於ケル事務ノ分配ハ長官（地方法院支廳ノ一人ノ判事及檢事又ハ上席ノ判事及檢事ヲ含ム以下同シ）之ヲ定ム

第二條 書記ハ文書ノ作成、書類ノ送達、記錄簿册ノ整理竝其ノ保存、金品ノ徵收、保管竝其ノ處分及庶務、會計其ノ他ノ事務ニ從事ス

第三條 書記長及監督書記ハ主トシテ行政ニ關スル事務ヲ掌リ官印ヲ保管シ書記課諸般ノ事務ヲ總括シ隨時記錄簿册ヲ査閲シ押收金品ヲ點檢シ課員ニ執務上必要ナル注意ヲ爲スヘシ

書記長又ハ監督書記事故アルトキハ長官ノ命ヲ承ケタル書記其ノ事務ヲ取扱フ

第四條 事務ハ速ニ之ヲ處理スルコトヲ要ス若速ニ處理シ難キ場合ハ其ノ事務ノ種類ニ依リ上官ノ指揮ヲ承クヘシ

第五條 發收ニ係ル文書及物件ハ之ヲ文書件名簿ニ登錄スヘシ

電話ヲ以テ照會、回答又ハ報告等ヲ受ケタルトキハ重要ナル事項ニ付テハ電話聽取書ヲ作リテ其ノ要領ヲ記載シ前項ノ登錄ヲ爲スヘシ

事件簿又ハ押收票ニ登錄スヘキモノ及送達ニ關スル書類ハ第一項ノ登錄ヲ要セス

第六條 文書件名簿ニ登錄ヲ爲シタルトキハ文書ニ付テハ適當ノ箇所ニ接受年月日及番號ヲ記入シ物件ニ付テハ接受年月日及番號ヲ記載シタル紙片又ハ木札ヲ附シ其ノ行政事務ニ關スルモノハ書記長又ハ監督書記ニ交付シ裁判事務及檢察事務ニ關スルモノハ主任書記ニ交付スヘシ

電報ハ歐文ノモノヲ除クノ外交付前一定ノ用紙ニ改寫スヘシ但シ簡單ナルモノハ送達紙ノ餘白ニ改寫スルコトヲ得

第一項ニ依リ交付ヲ受ケタル文書又ハ物件ハ直ニ之ヲ長官又ハ主任官ニ提出スヘシ但シ書記限リ處理シ得ヘキモノハ此ノ限ニ在ラス

第六條ノ二 文書ニ金券、郵便切手、印紙其ノ他ノ物件ヲ添附セルモノアルトキハ文書欄外及文書件名簿備考欄ニ其ノ品目及數量ヲ記入スヘシ

文書カ添附物ノ提出又ハ送付ニ關スルモノナルトキハ前項ニ規定スル文書欄外ノ記入ヲ要セス

第七條 親展文書ハ直ニ名宛人ニ提出スヘシ

名宛人ヨリ前項ノ文書ノ交付ヲ受ケタルトキハ前二條ノ手續ヲ爲スヘシ

第八條 郵便切手ノ豫納ヲ受ケタルトキハ主任書記之ヲ保管シ其ノ受拂計算表ヲ事件記錄ニ添附シ其ノ受拂ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テ事件完結シタル後受拂殘アルトキハ速ニ還付ノ手續ヲ爲スヘシ

第九條 削除

第十條 主任書記訴狀其ノ他事件記錄ノ交付ヲ受ケタルトキハ其ノ種類ニ從ヒ各相當ノ事件簿ニ登錄シタル後之ヲ主任官ニ提出スヘシ

檢事ニ提出スヘキ事件ハ提出前長官ノ檢閲ヲ受クヘシ

第十一條 發送文書ハ原案ヲ作成シ行政事務ニ關スルモノハ長官ノ決裁ヲ受ケ裁判事務及檢察事務ニ關スルモノハ長官又ハ主任官ノ決裁ヲ受ケタル後淨書校合シ其ノ文書ニ番號ヲ記入シテ發送スヘシ但シ重要ナラサル照會、回答又ハ報告等ノ文書ハ本項ノ手續ヲ省略シテ之ヲ發送スルコトヲ得

文書ノ發送ニ代ヘ電話ヲ以テ照會、回答又ハ報告等ヲ爲ス場合ニ於テハ前項ニ準シ長官又ハ主任官ノ決裁ヲ受クヘシ

物件ヲ發送スルトキハ其ノ物件ニ關係文書ノ番號ヲ記入シタル紙片又ハ木札ヲ附シ送致文書ノ欄外ニ物件添附ノ記號ヲ附スヘシ

前二項ノ手續ヲ爲シタル場合ニ於テ原案アルトキハ之ニ發送ノ年月日ヲ記入スヘシ

第十二條 發送文書ノ原案ハ關係書類ニ之ヲ合綴スヘシ原案ナキトキハ其ノ文書ノ要領ヲ關係書類ノ餘白ニ、關係書類ナキトキハ文書件名簿ニ摘錄スヘシ

第十三條 朝鮮人ニ交付シ又ハ開示スヘキ文書ニシテ必要アリト認ムルモノニ付テハ之ニ懸註ヲ施シ又ハ譯文ヲ添附スヘシ

第十四條 文書又ハ物件ノ授受ハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外送付簿ヲ以テ之ヲ明ニスヘシ

第十五條 文書又ハ物件ハ長官又ハ主任官ノ命令若ハ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ廳外ニ持出スルコトヲ得ス

第十六條 記錄ヲ接受又ハ作成シタルトキハ表紙及目錄ヲ附シテ之ヲ編綴シ其ノ後ノ接受又ハ作成ニ係ルモノハ其ノ順序ニ從ヒ之ヲ加綴シテ目錄ニ記入スヘシ但シ督促事件、和解事件、假差押事件、假處分事件、非訟事件及刑事申請事件ノ記錄ニハ表紙及目錄ヲ附セサルコトヲ得

收入印紙ヲ貼用シタル文書ヲ記錄ニ編綴シタルトキハ目錄備考欄ニ其ノ印紙額ヲ記載スヘシ

記錄ハ毎葉表面左肩ニ丁數ヲ附スヘシ

第十七條 行政事務ニ關スル記錄ヲ庶務記錄トシ裁判及檢察事務ニ關スル記錄ヲ事件記

錄トス

第十八條 庶務記錄ハ左ノ區別ニ依リ分類スヘシ

一 例規ニ關スル記錄
二 裁判所ノ構成ニ關スル記錄
三 機密事項ニ關スル記錄
四 監督事務ニ關スル記錄
四ノ二 戶籍事務ノ監督ニ關スル記錄
五 監獄ノ監督事務ニ關スル記錄
六 現在職員履歷書綴
七 非現在職員履歷書綴
八 職員ノ進退其ノ他身分ニ關スル記錄
九 辯護士ノ身分ニ關スル記錄
十 公證人及官吏ニ非サル執達吏職務取扱者ノ身分ニ關スル記錄
十一 典禮及交際ニ關スル記錄
十二 判事懲戒處分ニ關スル記錄
十三 公證人懲戒處分ニ關スル記錄
十四 會同、巡回、出張ニ關スル記錄
十五 民事ニ關スル記錄
十六 刑事ニ關スル記錄
十七 檢察事務ニ關スル記錄
十八 死刑執行ニ關スル記錄
十九 恩赦ニ關スル記錄
二十 統計ニ關スル記錄
二十一 會計ニ關スル記錄
二十二 雜事ニ關スル記錄

別項ノ記錄ハ長官ノ認可ヲ得テ更ニ之ヲ細別スルコトヲ得

第十九條 事件記錄ニ編綴スヘキ文書ハ半紙判十行罫紙ヲ用ウヘシ

第二十條 事件記錄ハ毎事件別册ト爲スヘシ

反訴ノ記錄ハ本訴ノ記錄ニ、訴訟上救助ノ申請、强制執行ノ停止續行又ハ取消申請、忌避申請、刑事事件ニ付裁判所ノ管轄又ハ訴訟手續ニ關シ判決前ニ爲シタル裁判事件、刑ヲ定ムヘキ請求、刑ノ執行猶豫取消ノ請求、刑ノ言渡ニ付テノ疑義及刑ノ執行ニ付テノ異議ニ關スル記錄ハ本案記錄ニ、假差押又ハ假處分ニ對スル取消、異議若ハ起訴命令ニ關スル記錄ハ假差押又ハ假處分事件ノ記錄ニ併合スヘシ

私訴ニ關スル記錄ハ公訴ニ關スル記錄ニ併合スルコトヲ得

第二十一條 事件記錄ニハ記錄號ヲ附スヘシ

記錄號ハ各事件簿ノ符號文字及進行番號ニ年號及年數ヲ加ヘテ之ヲ作ル（例ヘハ大正六民第一號、大正七非第二號、大正八刑第三號、大正九公刑第四號ト記スルカ如シ）

第二十二條 事件ニ付最初ニ附シタル記錄及事件標目號ハ其ノ終局ニ至ル迄之ヲ用ウヘシ

第二十三條 缺席判決ニ對スル故障事件ハ之ヲ別號ト爲サス朱書ヲ以テ新ニ事件簿ニ登錄シ且記錄ノ表紙ニ故障事件ナルコトヲ表示スヘシ

第二十四條 支拂命令ニ對スル異議事件、執行命令ニ對スル故障事件、反訴、差戾ヲ受ケタル事件、委任ヲ受ケタル抗告事件及本廳ト支廳又ハ支廳相互ノ間ニ於テ移付又ハ送致ニ因リ受理シタル民事事件ハ新ニ事件簿ニ登錄スヘシ

第二十五條 破產廢止ノ決定ノ取消及强制和議取消ノ決定確定シタルトキハ更ニ事件簿ニ登錄シテ新ニ記錄號ヲ附シ相互ノ備考欄ニ續行ノ旨及其ノ年月日ヲ註記スヘシ

第二十六條 刑事訴訟法第八條ノ規定ニ依リ牽連スル事件ハ之ヲ一件トシテ記錄號ヲ附スヘシ但シ豫審及公判ニ於テ同時ニ審理スルニ便ナラサルトキハ之ヲ別件ト爲スコトヲ得

第二十七條 左ニ記載シタル刑事事件モ記錄號ヲ附シ之ヲ事件簿ニ登錄スヘシ

一 犯人ノ誰タルヲ知ルコト能ハサル犯罪事件ニシテ檢事ニ於テ檢證ヲ爲シ又ハ司法警察官ヲシテ之ヲ爲サシメタルモノ
二 本廳ト支廳又ハ支廳相互ノ間ニ於テ移付又ハ送致シタルモノ
三 支廳ノ豫審終結決定ニ因リ本廳又ハ他ノ支廳ノ公判ニ付セラレタルモノ
四 上級裁判所又ハ同等裁判所ノ移送又ハ送致ニ係ルモノ

第二十八條 不起訴事件、豫審免訴事件及公訴棄却事件ヲ再起スルトキ又ハ他管送致後更ニ其ノ事件ノ送致ヲ受ケタルトキハ新ニ事件簿ニ登錄シテ記錄號ヲ附シ備考欄ニ其ノ旨ヲ註記スヘシ

第二十九條 書記課ニハ他ノ法令ノ規定ニ依ルモノヲ除クノ外其ノ取扱フヘキ事務ノ種類ニ從ヒ左ノ簿册ヲ備フヘシ

一 文書件名簿
二 宿直日誌
三 送付簿
四 簿册及庶務記錄保存簿
五 事件記錄保存簿
六 保存記錄簿册出入簿
七 閲覽謄寫簿
八 民事事件簿
九 民事控訴事件簿
十 民事上告事件簿
十一 民事抗告事件簿
十二 民事再審事件簿
十三 和議事件簿
十四 破產事件簿
十五 和解事件簿
十六 督促事件簿
十七 民事申請事件簿
十八 非訟事件簿
十九 民事執行事件簿
二十 民事共助事件簿
二十一 民事期日簿
二十二 民事期日通知簿
二十三 執達吏送達簿
二十四 郵便送達簿
二十五 刑事事件簿
二十六 刑事被疑者（被告人）索引簿
二十七 檢視事件簿
二十八 探査事件簿
二十九 令狀原簿
三十 押收票
三十一 上訴結果簿
三十二 不起訴處分抗告事件簿
三十三 記錄及證據物送付簿
三十四 豫審事件簿
三十五 刑事公判事件簿
三十六 刑事申請事件簿
三十七 刑事期日簿
三十八 刑事期日通知簿
三十九 過料事件簿
四十 在監人召喚簿
四十一 在監人起訴通知簿
四十二 刑事準抗告事件簿
四十三 刑事共助事件簿
四十四 刑事控訴事件簿
四十五 刑事控訴公判事件簿
四十六 刑事抗告事件簿
四十七 刑事上告事件簿
四十八 刑事上告公判事件簿
四十九 執行原簿
五十 逮捕狀原簿
五十一 刑執行停止人名簿
五十二 指揮書送付簿
五十三 受刑人名索引簿
五十四 受刑人名簿
五十五 刑事再審事件簿
五十六 非常上告事件簿
五十七 私訴事件簿
五十八 勳章褫奪簿
五十九 假出獄人名票
六十 執達吏職務取扱者名簿
六十一 判事懲戒事件簿
六十二 公證人懲戒事件簿

簿册ハ第四號乃至第六號、第五十三號、第五十四號及第六十號ヲ除クノ外毎年之ヲ更新スヘシ但シ必要アルトキハ累年繼續使用スルコトヲ得

第三十條 削除

第三十一條 書記ハ長官ノ認可ヲ得テ補助ノ簿册ヲ設クルコトヲ得

第三十二條 簿册ノ記事ニ進行番號ヲ附スヘキモノニ付テハ登錄ノ順序ニ從ヒ之ヲ記載シ毎年其ノ番號ヲ更新スヘシ

第三十三條 記錄、證據物其ノ他書類ノ閲覽又ハ謄寫ハ一定ノ場所ニ於テ相當取締ノ下ニ之ヲ爲サシムヘシ

第三十四條 書記ハ當日開廷スヘキ事件表ヲ

作り法廷ノ入口又ハ適當ノ場所ニ掲示スヘシ

第三十五條　檢事ノ立會フヘキ民事事件ニ付期日ノ指定アリタルトキハ書記ハ速ニ之ヲ檢事ニ通知スヘシ事件終局シタルトキ其ノ結果ニ付亦同シ

第三十五條ノ二　在監中ノ被告人ニ對スル辯護人ノ選任、選任ノ取消又ハ辭任アリタルトキハ書記ハ速ニ之ヲ監獄ノ長ニ通知スヘシ

第三十六條　民事保證金、民事豫納金、證寶保證金及證寶代金等ノ受領又ハ其ノ拂渡ハ主任官タル判事ノ命ニ依リ之カ手續ヲ爲スヘシ

第三十七條　供託受領證書ノ提出アリタルトキハ主任官タル判事ノ檢閱ヲ經タル後供託者ニ下戻シテ之ヲ保管セシメ其ノ謄本ヲ徵シテ之ヲ事件記錄ニ編綴スヘシ

第三十八條　民事事件ニ付官廳又ハ公署ヨリ取寄ヲ爲シ又ハ當事者ヨリ提出シタル證書ニシテ卽日還付スルコト能ハサルモノニ付テハ本規程中證據物件ニ關スル規定ヲ準用ス

第三十九條　裁判ノ執行ニ關シ檢事ノ指揮ヲ要スルモノニ付テハ速ニ其ノ裁判ノ謄本又ハ抄本ヲ檢事ニ送付スヘシ

第四十條　證據物件ハ押收票ニ登錄シ主任官タル檢事ト共ニ認印ヲ爲シ其ノ物件ニ押收番號、記錄號及被告人又ハ被疑者氏名ヲ記シタル紙片又ハ木札ヲ附シ遲滯ナク之ヲ留置物取扱主任ニ交付スヘシ

證據物件ニシテ領置ノ必要ナキモノハ主任官タル檢事ノ命ニ依リ還付又ハ假還付ヲ爲シ又ハ保管ヲ爲サシムルコトヲ得

證據物件保存ニ困難ナルカ又ハ無價物ニシテ前二項ニ依リ難キ場合ニ於テハ主任官タル檢事ノ命ニ依リ公賣又ハ廢棄ノ處分ヲ爲スヘシ

押收物ノ保管ニ付テハ滅失毀損ヲ防止スヘキ方法ヲ講スルノ外原狀ヲ變セサル程度ニ於テ相當ノ手入ヲ爲スヘシ

第四十一條　公判又ハ豫審ニ於テ押收シタル證據物件ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外書記ハ遲滯ナク之ヲ主任官タル檢事ニ交付スヘシ

第四十二條　主任官ヨリ證據物件假出ノ命アリタルトキハ押收物受領票ニ依リテ其ノ手續ヲ爲シ授受ヲ明ニスヘシ

第四十三條　事件完結シタルトキハ主任官タル檢事ノ命ヲ承ケ證據物件ノ沒收、還付、廢棄又ハ移送ノ處分ヲ爲スヘシ

刑事訴訟法第五百六十條ニ依ル公告ハ裁判所ノ揭示場ニ公告シテ之ヲ爲スヘシ

上訴完結シタルトキハ其ノ訴訟記錄ハ上訴審ニ於テ爲シタル裁判ノ謄本ト共ニ原裁判所ニ之ヲ返還スヘシ

第四十四條　保釋保證金ノ受領又ハ其ノ沒取若ハ還付ハ主任官タル檢事ノ命ニ依リ之カ手續ヲ爲スヘシ

第四十五條　地方法院又ハ地方法院支廳ノ書記ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判確定シタルトキハ直ニ受刑人名簿ニ記入ヲ爲スヘシ

上訴審ニ於テ有罪ノ判決アリタルモノニ付テハ記錄ノ返還ヲ受ケタル地方法院又ハ地方法院支廳ノ書記前項ノ手續ヲ爲シタル後速ニ受刑人名簿中刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ欄外上部ニ猶豫ノ符號ヲ附シ猶豫期間滿了シタルトキハ氏名ニ朱線ヲ施シ其ノ旨備考欄ニ註記スヘシ

第四十六條　地方法院又ハ其ノ支廳ノ書記ハ前條第一項及第二項ノ手續ヲ爲シタル後速ニ受刑人名票ヲ作リ左ノ各所ニ送付スヘシ

一　住所地ヲ管轄スル地方法院檢事局及地方法院支廳檢事分局

二　本籍地ヲ管轄スル地方法院檢事局及地方法院支廳檢事分局、地方裁判所檢事局又ハ地方法院檢察局

三　本籍地ノ府尹、市長、市區町村長、廳長、支廳長、並ニ相當スル者及住所地ノ府尹、市長

四　關東州ニ居住スル支那人ニ付テハ地方法院檢察官及居住地ヲ管轄スル民政署長又ハ民政支署長

五　本籍地及住居地ヲ管轄スル警察署長

地方法院支廳ノ書記ハ前項ノ外其ノ本廳檢事局ニ受刑人名票ヲ送付スヘシ

第四十七條　刑ノ執行猶豫ノ取消アリタルトキ、再審開始ノ決定ニ依リ更ニ裁判ヲ爲シタルトキ、非常上告ニ依リ原判決ヲ破毀シテ判決ヲ爲シタルトキ又ハ大赦、特赦、減刑、復權アリタルトキハ地方法院又ハ地方法院支廳ノ書記ハ受刑人名票ノ送付ヲ爲シタル箇所ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第四十八條　第四十五條乃至第四十七條ノ規定ハ高等法院ノ特別權限ニ屬スル事件ニ付裁判アリタルモノニ之ヲ準用ス

第四十九條　破產又ハ復權許可ノ決定確定シタルトキハ其ノ決定ヲ爲シタル裁判所ノ書記ハ其ノ裁判ヲ受ケタル者ノ本籍地ノ府尹、市長、町村長、廳長、支廳長並ニ相當スル者及住所地ノ府尹、市長、廳長、支廳長並ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

破產ノ宣告ヲ受ケタル者辯護士ナルトキハ其ノ所屬地方法院檢事局ニ亦前項ノ通知ヲ爲スヘシ

附　則（大正十二年十二月總訓第五十三號）

本規程ハ大正十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

㊙朝鮮總督府裁判所及檢事局書類保存規程

大正七年一月總訓第一號

改正　大正十二年一二第五七號

朝鮮總督府裁判所　同檢事局

朝鮮總督府裁判所及檢事局書類保存規程左ノ通改正シ大正七年一月十日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮總督府裁判所及檢事局書類保存規程

第一條　朝鮮總督府裁判所及檢事局ニ於ケル記錄、簿册ノ整理及保存ハ別ニ規定アルモノヲ除クノ外本規程ニ依ル

第二條　記錄及簿册ノ保存期間左ノ如シ

甲種　永久

乙種　二十年

丙種　十年

丁種　五年

戊種　二年

第三條　記錄簿册ノ保存種別左ノ如シ

甲種

一　民事及非訟事件ニ關スル左ノ裁判ノ原本

(イ)本案ノ終局判決及終局判決ト看做サルル（訴訟條件ニ關スルモノヲ除ク）判決

(ロ)執行命令但シ權利拘束ノ效力ヲ失ヒタル事件ニ關スル本案ノ裁判

(ハ)人事ニ關スル本案ノ裁判

(ニ)破產、復權及和議ニ關スル本案ノ裁判

(ホ)其ノ他各審級ニ於テ事件ヲ終局スル裁判

二　刑事ニ關スル左ノ裁判ノ原本

(イ)判決

(ロ)刑法第五十二條又ハ第五十八條ニ依リ刑ヲ定ムル決定、刑ノ執行猶豫取消ノ決定、公訴棄却ノ決定及豫審免訴ノ決定

三　略式命令

四　和解調書

五　仲裁判廷ノ原本

六　破產事件及和議事件ノ債權表竝破產事件ノ配當表

七　例規ニ關スル記錄

八　恩赦ニ關スル記錄

九　裁判所ノ構成ニ關スル記錄

十　機密事項ニ關スル記錄

十一　職員ノ履歷書綴

判任官以上職員ノ進退其ノ他身分ニ關スル記錄

十二　辯護士ノ身分ニ關スル記錄

十三　公證人及官吏ニ非サル執達吏職務取

報者ノ身分ニ關スル記錄

十四　判事懲戒處分ニ關スル記錄

十五　公證人懲戒處分ニ關スル記錄

十六　統計ニ關スル記錄但シ雜表及統計材料ヲ除ク

十七　簿册及庶務記錄保存簿

十八　事件記錄保存簿

十九　事件簿

二十　上訴結果簿

二十一　刑事被疑者（被告人）索引簿

二十二　執行原簿

二十三　徵收金原簿

二十四　逮捕狀原簿

二十五　受刑人名簿

二十六　勳章褫奪簿

二十七　執達吏職務取扱者名簿

二十八　公證人名簿

二十九　辯護士名簿

三十　乙種

一　非現在ノ職員履歷書綴

二　請求ノ認諾又ハ拋棄ニ關スル調書

三　强制和議又ハ和議認可ノ決定原本但シ破產手續ヲ續行シタル場合ヲ除ク

四　死刑執行ニ關スル記錄

五　死刑又ハ無期刑ノ言渡アリタル刑事事件ノ記錄

六　死刑ニ該ル罪ニ付無罪、免訴、刑ノ免除又ハ公訴棄却ノ裁判アリタル刑事事件ノ記錄

七　刑執行停止人名簿

八　假出獄人名簿

丙種

一　改廢ニ屬シタル例規ニ關スル記錄

二　監嘗事務ニ關スル記錄但シ出張認可、請暇、受驗許可、忌服等輕微ナル文書ヲ除ク

三　戶籍事務ノ監督ニ關スル記錄

四　監獄ノ監督事務ニ關スル記錄

五　雇員以下職員ノ進退其ノ他身分ニ關スル記錄

六　典禮及突際ニ關スル記錄

七　出張巡回及會同ニ關スル記錄

八　檢察事務ニ關スル記錄但シ犯罪報告、訓誡放免報告及控訴意見書案等輕微ナル文書ヲ除ク

九　會計ニ關スル記錄

十　民事訴訟事件記錄

十一　禁治產、準禁治產事件記錄

十二　失踪事件記錄

十三　破產事件記錄

十四　和議事件記錄

十五　和解事件記錄

十六　六年以上ノ有期刑ノ言渡アリタル刑事事件ノ記錄

十七　無期刑又ハ長期五年以上ノ有期刑ニ該ル罪ニ付無罪、免訴、刑ノ免除又ハ公訴棄却ノ裁判アリタル刑事事件ノ記錄

十八　死刑ニ該ル罪ニ付罪ト爲ラストノ理由ニ由リ不起訴處分ヲ爲シタル刑事件記錄

十九　押收票

二十　徵收金處分簿

二十一　徵收金整理簿

二十二　負擔額通知簿

二十三　出勤簿

二十四　起訴猶豫人名簿

二十五　起訴中止人名簿

二十六　刑執行猶豫人名簿

丁種

一　民事ニ關スル記錄

二　刑事ニ關スル記錄

三　檢察事務ニ關スル記錄ニシテ犯罪報告、訓誡放免報告及控訴意見書案等經徵ナルモノ

四　統計材料及雜表ニ關スル記錄

五　民事執行事件記錄

六　非訟事件記錄

七　民事申請事件記錄

八　刑事申請事件記錄

九　六年未滿ノ懲役、禁錮又ハ罰金ノ言渡アリタル刑事事件ノ記錄

十　長期五年未滿ノ懲役、禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付無罪、免訴、刑ノ免除又ハ公訴棄却ノ裁判アリタル刑事事件記錄

十一　公證人懲戒處分ニ關スル記錄

十二　統計ニ關スル記錄但シ雜表及統計材料ヲ除ク

十三　簿册及庶務記錄保存簿

十四　事件記錄保存簿

十五　事件簿

十六　上訴結果簿

十七　刑事被疑者（被告人）索引簿

十八　執行原簿

十九　徵收金原簿

二十　逮捕狀原簿

二十一　受刑人名簿

二十二　勳章褫奪簿

二十三　執達吏職務取扱者名簿

二十四　公證人名簿

二十五　辯護士名簿

乙種

一　非現在ノ職員履歷書綴

二　請求ノ認諾又ハ拋棄ニ關スル調書

三　强制和議又ハ和議認可ノ決定原本但シ破產手續ヲ續行シタル場合ヲ除ク

四　死刑執行ニ關スル記錄

五　死刑又ハ無期刑ノ言渡アリタル刑事事件ノ記錄

六　死刑ニ該ル罪ニ付無罪、免訴、刑ノ免除又ハ公訴棄却ノ裁判アリタル刑事事件ノ記錄

七　刑執行停止人名簿

八　假出獄人名簿

丙種

一　改廢ニ屬シタル例規ニ關スル記錄

二　監嘗事務ニ關スル記錄但シ出張認可、請暇、受驗許可、忌服等輕微ナル文書ヲ除ク

三　戶籍事務ノ監督ニ關スル記錄

四　監獄ノ監督事務ニ關スル記錄

五　雇員以下職員ノ進退其ノ他身分ニ關スル記錄

十　長期五年未滿ノ懲役、禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付無罪、免訴、刑ノ免除又ハ公訴棄却ノ裁判アリタル刑事事件記錄

十一　公證人懲戒處分ニ關スル記錄

十二　統計ニ關スル記錄但シ雜表及統計材料ヲ除ク

十三　簿册及庶務記錄保存簿

十四　事件記錄保存簿

十五　事件簿

十六　上訴結果簿

十七　刑事被疑者（被告人）索引簿

十八　執行原簿

十九　徵收金原簿

二十　逮捕狀原簿

二十一　受刑人名簿

二十二　勳章褫奪簿

二十三　執達吏職務取扱者名簿

二十四　公證人名簿

二十五　辯護士名簿

丁種

一　民事ニ關スル記錄

二　刑事ニ關スル記錄

三　檢察事務ニ關スル記錄ニシテ犯罪報告、訓誡放免報告及控訴意見書案等經徵ナルモノ

四　統計材料及雜表ニ關スル記錄

五　民事執行事件記錄

六　非訟事件記錄

七　民事申請事件記錄

八　刑事申請事件記錄

九　六年未滿ノ懲役、禁錮又ハ罰金ノ言渡アリタル刑事事件ノ記錄

十　長期五年未滿ノ懲役、禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付無罪、免訴、刑ノ免除又ハ公訴棄却ノ裁判アリタル刑事事件記錄

十一　公證人懲戒處分ニ關スル記錄

十二　統計ニ關スル記錄但シ雜表及統計材料ヲ除ク

十三　簿册及庶務記錄保存簿

十四　事件記錄保存簿

十五　事件簿

十六　上訴結果簿

十七　刑事被疑者（被告人）索引簿

十八　執行原簿

十九　徵收金原簿

二十　逮捕狀原簿

二十一　受刑人名簿

二十二　勳章褫奪簿

二十三　執達吏職務取扱者名簿

二十四　公證人名簿

二十五　辯護士名簿

戊種

一　監督事務ニ關スル記錄ニシテ出張認可、請暇、受驗許可、忌服等輕微ナルモノ

二　雜事ニ關スル記錄

三　督促事件記錄

四　拘留又ハ科料ノ言渡アリタル刑事事件ノ記錄

五　管轄違、無罪、免訴、刑ノ免除又ハ公訴棄却ノ裁判アリタル刑事事件ノ記錄但シ罰金以上ノ刑ニ該ル罪ニ付無罪、免訴、刑ノ免除又ハ公訴棄却裁判アリタルモノヲ除ク

六　公訴權ナシトノ理由ニ由リ又ハ長期五年未滿ノ懲役若ハ禁錮又ハ罰金、拘留、科料ニ該ル罪ニ付罪ト爲ラストノ理由ニ因リ不起訴處分ヲ爲シタル事件記錄

七　文書件名簿

八　宿直日誌

九　送付簿

十　保存記錄簿册出入簿

十一　期日簿

十二　期日通知簿

十三　在監人召喚簿

十四　在監人起訴通知簿

十五　記錄及證據物送付簿

十六　指揮書送付簿

十七　執達吏送達簿

十八　郵便送達簿

十九　閱覽謄寫簿

二十　令狀原簿

起訴中止、起訴猶豫又ハ犯罪ノ嫌疑ナシトノ理由ニ由リ不起訴處分ヲ爲シタル事件記錄ハ其ノ公訴時效完成ニ至ル迄之ヲ保存ス

ルモノトス但シ保存期間二年ヲ下ルコトヲ得ス

前二項ニ揭ケサル記錄及簿册ノ保存種別ハ其ノ性質ニ從ヒ前二項ニ準シ之ヲ定ムヘシ

第四條　裁判ヲ更正シ又ハ補充スル裁判ノ原本ハ基本タル裁判ノ原本ト共ニ之ヲ保存スヘシ

第五條　裁判、和解調書又ハ請求ノ認諾、拋棄ニ關スル調書ノ內容ヲ明ニスル爲必要ナル書類ハ其ノ裁判又ハ調書ノ原本ト共ニ保存スヘシ事件ニ付上級審ニ於テ爲シタル終局裁判又ハ和解調書ノ謄本ノ送付アリタルモノノ亦同シ

前項ノ規定ハ裁判確定ノ事實ヲ明ニスル爲必要ナル書類ニ之ヲ準用ス但シ裁判ノ原本ニ其ノ事實ヲ明ニスル爲必要ナル事項ヲ附記シ裁判所書記之ニ署名捺印シテ之ヲ附屬書類ノ保存ニ代フルコトヲ得

第六條　第三條及第四條ニ揭クルモノヲ除クノ外裁判ノ原本ハ事件記錄ノ保存期間之ヲ保存スヘシ

第七條　特別ノ事由ニ因リ保存ノ必要アル記錄又ハ書類ハ保存期間經過後ト雖其ノ事由ノ存スル間之ヲ保存スヘシ

第八條　保存期間ハ事件ノ終局、完結又ハ記入ヲ了シタル翌年ヨリ之ヲ起算ス

保存期間ヲ異ニスル關聯書類ハ其ノ期間ノ長キモノニ從フ

第九條　庶務記錄及簿册ハ其ノ種類ニ依リ區分シ樣式第一號ノ簿册及庶務記錄保存簿ニ登錄スヘシ

第十條　事件記錄ハ事件簿ノ種類ニ依リ區分シ各事件每ニ樣式第二號ノ事件記錄保存簿ニ登錄スヘシ但シ豫メ進行番號ニ從ヒ記錄號及當事者、被疑者又ハ被告人ノ氏名ヲ記載シ置キ事件完結ノ上相當ノ記入ヲ爲スヘシ

書記課處務規程第二十四條、第二十五條及第二十八條ニ依リ更ニ事件ヲ登錄シタルトキハ事件記錄保存簿中舊記錄號ヲ登錄シタル部ノ備考欄ニ其ノ旨ヲ記載シ終局以下ノ

各欄ヲ閉鎖スヘシ同第二十條ニ依リ記錄ヲ併合シタル場合亦同シ

第十一條　保存ニ付シタル記錄及簿册ヲ他ノ書記ニ交付シ又ハ他廳ノ照會ニ依リ送付スルトキ及其ノ返還ヲ受ケタルトキハ樣式第三號ノ保存記錄簿册出入簿ニ登錄スヘシ

第十二條　庶務記錄ハ曆年每ニ編纂スヘシ但シ會計ニ屬スル文書其ノ他特別ノ事由ニ因リ曆年ニ從ヒ難キモノ及累年編册ヲ便宜トスルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　庶務記錄ハ事件完結ノ順序ニ依リ之ヲ編纂スヘシ

各事件ニ屬スル文書ノ順序ハ其ノ經過ノ順序ニ依ル

第十四條　祕密ヲ要スル庶務記錄ハ其ノ表紙ニ祕ノ記號ヲ附スヘシ

第十五條　事件記錄ト保存期間ヲ異ニスル裁判原本、和解調書、請求ノ認諾、拋棄ニ關スル調書及上級審ノ認證アル裁判又ハ和解調書ノ謄本ハ事件完結後速ニ之ヲ記錄ヨリ分離シ事件簿ノ區別ニ從ヒ事件完結ノ順序ニ依リ類聚編纂シ樣式第五號ノ表紙及同第六號又ハ同第七號ノ目錄ヲ附スヘシ但シ民事ノ再審ニ關スルモノハ不服ヲ申立テラレタル裁判原本ト共ニ之ヲ編纂スヘシ

上級審ノ認證アル裁判又ハ和解調書ノ謄本ハ第一審裁判原本ノ次ニ編綴スヘシ

第十六條　前條ノ規定ハ高等法院及覆審法院ニ於ケル裁判原本及和解調書ニ之ヲ準用ス

第十七條　既濟事件記錄ハ事件簿及保存期間ノ區別ニ從ヒ類聚シ事件完結ノ順序ニ依リ帙入ト爲シ帙ニハ樣式第八號ノ目錄ヲ貼附シ其ノ背部ニ樣式第五號ノ標記ヲ爲スヘシ但シ記錄ノ種類ニ依リテハ之ヲ合册シ帙入ト爲ササルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ樣式第五號ノ表紙及同第九號ノ目錄ヲ附スヘシ

順次番號ハ帙又ハ册每ニ之ヲ更新ス

第十五條第一項但書ノ規定ハ本條ノ記錄ニ之ヲ準用ス

第十八條　不起訴處分ニ因リ終局シタルモノハ前條ノ規定ニ依ルノ外尙起訴猶豫、起訴中止、通常不起訴ニ區分シテ類聚スヘシ但シ記錄寡少ナルトキハ本條ノ區分ヲ爲ササルコトヲ得

第十九條　民事、刑事ノ記錄ニシテ事件完結ノ時期ヲ豫測シ難キモノハ完結記錄ノ例ニ倣ヒ假ニ保存ニ付スヘシ

第二十條　保存ニ付シタル記錄及簿册ニハ其ノ表紙ニ保存ノ終了年度ヲ朱書スヘシ帙入ト爲シタル事件記錄ニハ其ノ帙ノ番號及順次番號ヲ表示スヘシ

第二十一條　記錄及簿册ハ之ヲ一定ノ場所ニ藏置スヘシ

第二十二條　保存期間ヲ經過シタル記錄及簿册ハ民事ニ關スルモノハ裁判所ノ長（地方法院支廳ノ判事ヲ以テ之ニ充テラレタルトキハ地方法院支廳ノ判事ヲ以テ之ニ充テラレタル地方法院支廳ノ判事及檢事ヲ以テ之ニ充テラレタル地方法院支廳ノ判事及檢事ヲ含ム）、刑事ニ關スルモノハ檢事局ノ長（地方法院支廳ノ判事ヲ以テ之ニ充テラレタルトキハ地方法院支廳ノ判事及檢事ヲ以テ之ニ充テラレタル地方法院支廳ノ判事及檢事ヲ含ム）、庶務ニ關スルモノハ裁判所及檢事局ノ長（地方法院支廳ノ判事ヲ以テ之ニ充テラレタルトキハ地方法院支廳ノ判事及檢事ヲ以テ之ニ充テラレタル地方法院支廳ノ判事及檢事ヲ含ム）ノ認可ヲ得テ速ニ之ヲ廢棄スヘシ

前項ノ認可ハ廢棄スヘキ記錄及簿册ヲ檢閱シタル後當該保存簿ニ證印シテ之ヲ爲スヘシ

第二十三條　從前ノ規程ニ依リ既ニ保存ニ付シタル記錄及簿册ハ廢棄手續ヲ除クノ外本規程ニ依ラサルコトヲ得

樣式第一號（用紙美濃版）

保存記錄簿册出入簿

記錄號册數　當事者若ハ被告人ノ交付又ハ交付又ハ受領　返戻　受領
氏名又ハ記錄ノ名稱　送付月日　送付先　者印　月日　者印　備考
月日　月日

樣式第二號（用紙美濃版）

簿册及庶務記錄保存簿

進行番號	年度	記錄簿册名稱	册數	保存所	保存種別	保存始期年度	保存終了年度	廢棄認可印	廢棄年月日	備考
	大正年		册			大正年	大正年		大正年月日	

樣式第三號（用紙美濃版）

保存記錄簿册出入簿

記錄號册數　當事者若ハ被告人ノ交付又ハ交付又ハ受領　返戻　受領
氏名又ハ記錄ノ名稱　送付月日　送付先　者印　月日　者印　備考
月日　月日

樣式第四號（用紙板目紙）

庶務記錄

年度	名稱	保存種別
大正年		

樣式第五號（用紙板目紙）（半紙版大）

事件記錄

年度	名稱	保存種別
大正年	第（册）（帙）	保存種別　保存終期　大正年

備考　帙ノ背部ニ用ウルモノハ和紙トシ各欄ヲ便宜縮少スルコトヲ得

樣式第六號（用紙半紙）

民事裁判原本目錄

事件記錄保存簿

記錄號	事件標目	當事者又ハ被告人	終局區別	終局年月日	帙號	裁判原本等編册號	保存種別	保存了年度	廢棄認可印	廢棄年月日	備考
				大正年月日	帙			大正年		大正年月日	

様式第七號（用紙半紙）

丁數記錄號	事件標目	當事者	備考

様式第八號

順次番號	記錄號	備考	順次番號	記錄號	備考

様式第九號（用紙半紙版）

刑事裁判原本目錄

丁數記錄號	事件標目	被告人	備考

順次番號　記錄號　備考

規程

明治四十四年十二月
總訓第九十三號

朝鮮總督府監獄書類保存規程左ノ通定ム

朝鮮總督府監獄書類保存規程

第一條　完結書類ハ左ノ三種ニ分チ之ヲ保存スヘシ

甲部書類　永久保存
乙部書類　十年保存
丙部書類　三年保存

第二條　書類ハ左ノ事項ニ分類スヘシ

一　吏員
二　名籍
三　統計
四　會計
五　領置
六　敎誨及敎育
七　衞生及醫療
八　拘禁及戒護
九　作業
十　營繕
十一　用度
十二　給養
十三　釋放及死亡
十四　指紋
十五　雜件

秘密文書ハ前條ノ種別ニ從ヒ便宜相當ノ分類ヲ爲スヘシ

第三條　書類編製ノ方法ハ曆年ヲ以テ分界トシ前條ノ分類ニ從ヒ類別收綴スヘシ但シ會計ニ關スル書類ハ會計年度ヲ以テ分界トス

編綴書類ニ附屬スル繪畫書籍附圖等ノ類ハ別冊トシテ編綴スルコトヲ得

繼續事業又ハ一事件ニシテ夥多ノ文書アルモノハ一件書類トシテ編綴スルコトヲ得

各部書類ハ厚キ表紙ヲ用ヒ其ノ分類ノ番號、類名及編製ノ年次ヲ記載シ且件名ヲ數ヲ記載シタル目錄ヲ附スヘシ

同一文書ニシテ二類以上ニ渉リ分割シ難キ

（大正十二年十二月總訓第五十七號ハ大正十三年一月一日ヨリ施行）

朝鮮總督府監獄書類保存

順次番號　記錄號　備考

第七條　帳簿ノ種類區分ハ左ノ標準ニ依ルヘシ

甲部書類ニ準スヘキモノ

一　官吏身分ニ關スル帳簿
一　在監人名目錄
一　死亡帳
一　入監簿
一　出監簿
一　滿期曆簿
一　在監人身分帳
一　監獄沿革誌
一　官有財產ニ關スル帳簿
一　典獄命令及訓示ニ關スル帳簿
一　懲戒委員會決議ニ關スル帳簿
一　辭令原簿
一　監獄日誌
一　其ノ他重要ナル諸帳簿

乙部書類ニ準スヘキモノ

一　會計ニ關スル諸帳簿
一　醫務ニ關スル諸帳簿
一　共犯簿
一　領置金品ニ關スル諸帳簿
一　作業ニ關スル諸帳簿
一　其ノ他前各項ニ準スヘキ諸帳簿

丙部書類ニ準スヘキモノ

一　監房檢査簿
一　監督簿
一　控訴申立ニ關スル帳簿
一　文書逃付簿
一　發送簿
一　其ノ他前各項ニ準スヘキ諸帳簿

第八條　前各條ニ規定ナキモノハ典獄ノ定ムル所ニ依ル

第九條　本規程ハ統監府監獄ヨリ繼受シタル完結書類ニ之ヲ準用ス

第二款　署名印章

官印寸法

明治三十一年八月
開令第五號

明治八年太政官第百十號達ヲ左ノ通改正ス

公務ニ關シ長官或ハ主任ノ名ヲ以テ上申下達モノハ一類ニ其ノ原本ヲ編綴シ他ノ一類ニハ其ノ所在ヲ目錄中ニ記載スヘシ

指紋原紙ハ編綴スルヲ要セス數字順ニ從ヒ便宜數箇ニ區劃シタル棚ニ整頓スヘシ

第四條　前條ニ依リ成冊ト爲シタルモノハ公文目錄ヲ設ケ之ニ登錄スヘシ

第五條　保存期間ハ其ノ完結シタル翌年ヨリ起算ス

保存期間ヲ經過シタル書類ハ典獄又ハ分監長ニ於テ之ヲ點檢シ廢毀ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條　書類ノ種類區分ハ左ノ標準ニ依ルヘシ

甲部書類ニ編製スヘキモノ

一　永久保存ノ類
一　上級官廳ノ訓令、指令、通牒、告示ノ類
一　上級官廳ニ對スル稟申ノ類
一　外國人ニ關スル重要ナル稟議申牒ノ類
一　職員ノ進退賞罰及給助ノ類
一　官吏定規恩給及退官賜金支給ノ類
一　大赦、特赦、假出獄及假出場等ノ類
一　統計諸表ノ類
一　監獄地所建物ニ關スル類
一　在監人ノ逃走、反獄及非常事變報告ノ類
一　指紋ニ關スル類
一　其ノ他前項ニ準スヘキ重要ノ書類

乙部書類ニ編製スヘキモノ

一　監獄作業增設等ノ類
一　地所建物ノ修繕等ノ類
一　物品ノ購入修繕等ノ類
一　製作品ノ註文保管及賣却ノ類
一　諸契約書ノ類
一　領置金處分ノ類
一　決算ヲ了シタル金錢出納ニ關スル書類
一　在監人ノ作業日課表ノ類
一　其ノ他前各項ニ準スヘキ書類

丙部書類ニ編製スヘキモノ

一　甲乙部ニ屬セサル書類

モノハ一類ニ其ノ原本ヲ編綴シ他ノ一類ニハ其ノ所在ヲ目錄中ニ記載スヘシ

指紋原紙ハ編綴スルヲ要セス數字順ニ從ヒ便宜數箇ニ區劃シタル棚ニ整頓スヘシ

第四條　前條ニ依リ成冊ト爲シタルモノハ公文目錄ヲ設ケ之ニ登錄スヘシ

第五條　保存期間ハ其ノ完結シタル翌年ヨリ起算ス

保存期間ヲ經過シタル書類ハ典獄又ハ分監長ニ於テ之ヲ點檢シ廢毀ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條　書類ノ種類區分ハ左ノ標準ニ依ルヘシ

甲部書類ニ編製スヘキ諸規則ノ類
一　永久依據スヘキ諸規則ノ類
一　上級官廳ニ對スル稟申ノ類
一　外國人ニ關スル重要ナル稟議申牒ノ類
一　職員ノ進退賞罰及給助ノ類
一　官吏定規恩給及退官賜金支給ノ類
一　大赦、特赦、假出獄及假出場等ノ類
一　統計諸表ノ類
一　監獄地所建物ニ關スル類
一　在監人ノ逃走、反獄及非常事變報告ノ類
一　指紋ニ關スル類
一　其ノ他前項ニ準スヘキ重要ノ書類

乙部書類ニ編製スヘキモノ

一　監獄作業增設等ノ類
一　地所建物ノ修繕等ノ類
一　物品ノ購入修繕等ノ類
一　製作品ノ註文保管及賣却ノ類
一　諸契約書ノ類
一　領置金處分ノ類
一　決算ヲ了シタル金錢出納ニ關スル書類
一　在監人ノ作業日課表ノ類
一　其ノ他前各項ニ準スヘキ書類

丙部書類ニ編製スヘキモノ

一　甲乙部ニ屬セサル書類

及往復スル書類ニ用ヰル印章ハ勅任官ハ方九分（曲尺）奏任官ハ方七分（曲尺）判任官ハ方六分（曲尺）トシ官名ノミヲ彫刻スヘシ但シ現ニ使用ノ分ハ改刻スルニ及ハス

印鑑證明規則

大正三年七月
總令第百十號

印鑑證明規則左ノ通定ム

第一條

印鑑ノ證明ヲ受ケムトスル者ハ豫メ其ノ住所ヲ管轄スル府廳又ハ面事務所ニ印鑑ノ屆出ヲ爲スヘシ

第二條

府廳及面事務所ニハ第一號樣式ノ印鑑臺帳ヲ備フヘシ

第三條

印鑑ノ屆出ハ屆出人出頭シテ之ヲ爲スヘシ但シ出頭スルコト能ハサルトキハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ屆書ニハ府廳又ハ面事務所ニ印鑑ノ屆出ヲ爲シタル成年者二人以上連署スルコトヲ要ス

第四條

印鑑ノ屆出アリタルトキハ出頭シタル者カ屆出ノ本人ナルコトヲ確メタル後其ノ住所、本籍地、氏名及出生ノ年月日ヲ印鑑臺帳ノ相當欄ニ記入シ屆出人ヲシテ印章ヲ提出セシメ其ノ面前ニ於テ之ヲ印鑑欄ニ押捺シタル上直ニ屆出人ニ返付シ屆出ノ順序ヲ追フテ印鑑ニ番號ヲ附シ且屆出ノ年月日ヲ記入スヘシ

第一號樣式

印鑑臺帳

何府縣（何面事務所）

第五條

書面ヲ以テ印鑑ノ屆出ヲ爲スニハ屆書ニ屆出人ノ住所、本籍地、氏名及出生ノ年月日ヲ記載シ且特別ノ事由アルモノヲ除クノ外方一寸ノ白紙ニ屆出ヲ爲ス印章ヲ鮮明ニ押捺シタル印鑑ヲ添附スヘシ

前項ノ屆出アリタルトキハ其ノ屆書ニ依リ印鑑臺帳ニ相當ノ記入ヲ爲シタル上屆書ニ添附シタル印鑑ヲ印鑑臺帳ノ印鑑欄ニ貼附シ臺帳ト印鑑トニ掛ケ契印ヲ爲スヘシ

第六條

印鑑ノ屆出ヲ爲シタル者其ノ氏名、住所又ハ本籍地ヲ變更シタルトキハ其ノ旨ヲ府廳又ハ面事務所ニ屆出ツヘシ

印鑑ノ屆出ヲ爲シタル者死亡シ又ハ失踪ノ宣告ヲ受ケタルトキハ相續人ハ其ノ旨ヲ府廳又ハ面事務所ニ屆出ツヘシ

第七條

印鑑臺帳ハ永久ニ之ヲ保存スヘシ

第八條

印鑑ノ證明ヲ受ケムトスル者ハ特別ノ事由アルモノヲ除クノ外第二號樣式ニ依ル印鑑ヲ貼附シタル願書ヲ府廳又ハ面事務所ニ提出スヘシ

印鑑ノ證明ヲ爲スニハ願書ノ末尾ニ左ノ證明文及年月日ヲ記載シテ署名捺印シ且願書ト之ニ貼附シタル印鑑トニ掛ケ契印ヲ爲スヘシ

印鑑臺帳ニ照シ右印鑑ノ相違ナキコトヲ證明ス

第九條

第一條、第三條乃至第五條ノ規定ハ改印ノ屆出ニ、前條ノ規定ハ改印ノ證明ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

印鑑番號	第　號	第　號	第　號	第　號	第　號	第　號	第　號
	届出ノ年月日 改印	届出ノ年月日 改印	届出ノ年月日 改印	届出ノ年月日 改印	届出ノ年月日 改印	届出ノ年月日 改印	届出ノ年月日 改印
	年月日 改印	年月日 改印	年月日 改印	年月日 改印	年月日 改印	年月日 改印	年月日 改印
	備考	備考	備考	備考	備考	備考	備考
	住所 本籍地 氏名及出生ノ年月日 年月日生	住所 本籍地 氏名及出生ノ年月日 年月日生	住所 本籍地 氏名及出生ノ年月日 年月日生	住所 本籍地 氏名及出生ノ年月日 年月日生	住所 本籍地 氏名及出生ノ年月日 年月日生	住所 本籍地 氏名及出生ノ年月日 年月日生	住所 本籍地 氏名及出生ノ年月日 年月日生

印鑑臺帳　丁

（備考　用紙ハ厚紙ヲ用ヒ印鑑欄ヲ方一寸トスルコト）

第二號樣式（用紙厚紙竪五寸横一寸）

住所
㊞印鑑　氏名
何年何月何日生

第二章　官報

●朝鮮總督府官報編纂規程

大正九年二月
總訓第十號
改正　大正一〇年六月三九號、一二年一二號
四六號

朝鮮總督府官報編纂規程左ノ通改正ス

朝鮮總督府官報編纂規程

第一條　官報ハ官房文書課ニ於テ之ヲ編纂ス

第二條　官報登載事項及其ノ登載欄ノ順序左ノ如シ

詔書欄
皇室令欄
法律欄（朝鮮ニ施行スルモノ又ハ一般周知ヲ必要トスルモノ）（同上）
勅令欄（同上）
軍令欄（同上）
條約欄（同上）
豫算欄（同上）
制令欄
府令欄
閣令欄（朝鮮ニ施行スルモノ又ハ一般周知ヲ必要トスルモノ）
省令欄（同上）
訓令欄（各省訓令ニ付テハ同上）
告示欄（各省告示ニ付テハ同上）
達欄（同上）
諡告欄
頒賜欄
軍事公文欄
高等土地調査委員會公文欄
林野調査委員會公文欄
專賣局公文欄
地方廳公文欄
會計檢査欄
敍任及辭令欄
彙報欄
土地收用公告欄
廣告欄
朝鮮譯文欄

第三條　制令、府令、訓令及告示改正ノ場合ハ參照トシテ舊規定其ノ他關係條項ヲ抄錄揭載ス

第四條　敍任及辭令欄ニハ左ノ事項ヲ登載ス

一　判任官及判任待遇以上職員ノ敍位竝勳功
二　奏任官及奏任待遇以上職員ノ任免、陞等、增俸、退職、休職、復職、懲戒及勤務本府高等官竝所屬官署ノ長ノ出張
三　委員ノ命免
四　前四號ノ外登載ヲ要スト認メタル事項

第五條　彙報欄ニハ左ノ事項中必要アリト認ムルモノヲ登載シ各般ノ狀況ヲ蒐錄ス

一　宮廷事項
二　王公族事項
三　官廳事項
（一）開廳、休廳、廢廳、廳舍移轉、其ノ他ノ事項
（二）奏任官及奏任待遇以上ノ職員ノ死亡、休職、復職、失官、氏名變更

（三）朝鮮貴族ニ關スル事項
（四）外國領事官ノ認可及發著等
（五）死刑執行、大赦、特赦、減刑、辯護士名簿登錄、辯護士懲戒處分及破產管財人任免
（六）軍事
（七）官職
（八）褒恤
（九）神社、寺院竝朝鮮寺刹及布敎規則ニ依ル許可又ハ認可

四　調査及報告ニ關スル事項

（一）人口ニ關スル調査及統計
（二）住職、住持及布敎者ノ異動竝布敎所ノ廢止等
（三）私立專門學校私立高等普通學校私立實業學校設置認可、敎員免許狀下付、敎員功績者表彰、官立學校卒業者、濟生院盲啞本科速成卒業者、講習會狀況、學事統計及報告、陳物館狀況
（四）道警部考試合格者、道巡査部長試驗合格者、警察官吏ノ功勞記章授與、道巡査、看守、女監取締ニ對スル精勤證書授與及其ノ沒收、看守長任用考試合格者、請願警察官ノ配置許可及配置期間內ノ廢止、警察官敎養ニ關スル狀況、訴訟代理業者屆出、其ノ變更及取消
（五）民事、刑事及監獄ニ關スル統計
（六）貿易、貨幣、課稅物件ニ關スル統計、經濟狀況、地方金融概況、煙草產業其ノ他財源調査涵養ニ關スル施設狀況、酒造及煙草耕作組合概況、金融機關警業概況、金融機關ノ設置、廢止及移轉、金融機關役員ノ異動、諸稅令等ニ關スル申請、申告上ノ手續ニ付一般ニ周知セシムヘキ事項
（七）人蔘耕作許可及取消、人蔘植付檢査及收穫查定期日、人蔘耕作狀況、水蔘收納狀況、紅蔘製造成績、紅蔘輸出數量及日時、蔘業統計、鹽輸移出統計、官廳製造高統計
（八）產業統計、官廳製造高統計
（九）商工業調査、市場及一般商工業概況、商品陳列館狀況、度量衡ニ關スル調査、其ノ他產業ノ保護奬勵上重要ナル事項
（十）會社ニ關スル許可及許可取消、會社事業ノ停止、禁止、支店ノ閉鎖又ハ會社ノ解散命令
（十一）鑛業ニ關シ豫防命令又ハ停止命令、鑛業權ノ設定、移轉、變更及消滅、鑛業登錄ノ更正、變更、抹消及回復、共同鑛業權者脫退、鑛業權代表者ノ指定、改定、鑛業權ノ回復、其ノ他鑛業ニ關スル屆出、鑛業登錄及請求事件數及鑛業狀況
（十二）漁業免許及取消、水產業狀況、水產組合業務成績
（十三）朝鮮公有水面埋立令、同施行規則、河川取締規則及大正九年府令第四十一號ニ依ル許可、取消及失效
（十四）船舶統計、命令航路ニ於ケル汽船發著日時刺、航海開始及休止、鐵道及附帶營業ノ開始、廢止、運賃及列車運轉時刻ノ改正其ノ他重要ナル事項、私設鐵道及軌道ニ關スル許可及許可失效、取消、業務ノ停止、運轉開始ノ認可、鐵道、私設鐵道、軌道、通信ニ關スル統計及報告
（十五）總督府醫院及各道慈惠醫院患者科別表、醫師、齒科醫師、醫生、限地醫業、產婆、入廓營業、藥劑師及種痘認許員等ノ免許證下付、廢業、死亡、取消、停止及禁止、醫師藥劑師試驗合格者、痘苗製造配付狀況、傳染病患者表
（十六）氣象、觀測
地方行政ニ關スル事項
地方費豫算決算臨時恩賜金ニ關スル事項、同經理方法、面費豫算、決算、面基本財產、面積立金、指定面、面長異動、面吏員及篤行者選奬、府協議員異動、水利組合長及學校組合管理者異動
前各號ノ外登載ヲ要スト認メタル事項

第六條　廣告欄ニハ左ノ事項ヲ登載ス

一　朝鮮鑛業令施行規則第六條ヲ適用ノ場合
二　森林令施行規則第六條ヲ適用ノ場合
三　漁業令施行規則第六條ヲ適用ノ場合
四　國有未墾地ノ處分ニ關スル命令送達不能ノ場合ニ於ケル取消又ハ無效
五　檢定敎科用圖書ノ書目、冊數、定價、著作者、發行者ノ住所、氏名及其ノ變更等、總府出版敎科用圖書ノ書目、發賣代價、發賣人許可及其ノ取消、業務廢止、住所、氏名及其ノ變更等
六　朝鮮總督府官報發賣手續
七　官公立學校生徒募集
八　船舶登錄
九　旅券、酒、煙草、船等ノ免許狀、許可證及認許證ノ無效
十　工事及物件ノ供給入札及入札拂下
十一　商業及法人登記、公示催告、除權判決
十二　住所不明ノ行旅死亡者
十三　前各號ノ外法令ノ規定ニ依リ登載ヲ要スル各種ノ廣告

連載廣告ハ三回ヲ限定トス

第七條　本府各局部長、官房各課長、審議室首席事務官及各所屬官署ノ長ハ部下職員ノ中ニ就キ官報主任ヲ命スヘシ

第八條　官報主任ハ其ノ局部課室ノ管掌ニ係ル事項ニシテ官報登載事項ニ該當スルモノナキヤ否ヲ注意シ該當事項ハ遲滯ナク原稿作成ノ上封筒ニ官報原稿ノ文字ヲ朱書シ文書課ニ送付スヘシ但シ法令及告示ニシテ文書課ヲ經由スル決裁文書ニ「官報揭載」ノ記號ヲ附シタル場合ニ於テハ別ニ送付ヲ要セス

第九條　前條但書ノ場合及法令、告示ノ官報原稿ニハ第三條ノ參照事項ヲ添附スルヲ要ス

第十條　官報原稿ハ別ニ配付スル官報原稿用紙又ハ美濃形罫紙ニ楷書ニテ記入スヘシ但シ統計、圖表類及印刷ニ係ルモノハ便宜美濃形白紙ニ記入シ又ハ其ノ印刷物ヲ美濃形白紙ニ貼付シテ之ヲ代用スルコトヲ得

第十一條　官報原稿ノ締切時刻ハ正午トス但シ號外ヲ發刊スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　官報ニ登載シタル事項ハ特ニ必要アル場合ヲ除クノ外總督ニ報告シ又ハ他官廳ニ通知スルコトヲ要セス

附　則

大正二年朝鮮總督府訓令第五十七號ハ之ヲ廢止ス

●朝鮮總督府官報ノ發賣竝廣告ニ關スル件

大正十二年三月
總告第九十三號
改正　大正一二年九月二九號、一三年一二號
第九二號

朝鮮總督府官報ノ發賣竝廣告掲載ニ關スル件左ノ通改正シ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一條　朝鮮總督府官報ハ朝鮮書籍印刷株式會社ヲシテ印刷竝發賣セシム

第二條　官報ノ定價ハ左ノ如シ

一箇月分（月ノ初日ヨリ末日迄送達賣）　金七十錢

二 一部(送達費共) 金三錢五厘

第三條 官報ヲ購求セムトスル者ハ官廳ヲ除クノ外其ノ定價ヲ朝鮮書籍印刷株式會社ニ前納スヘシ

第四條 各官廳又ハ公署ノ廣告ハ朝鮮總督府官報ニ掲載スルコトヲ得

第五條 銀行會社等ノ報告類ニシテ法令又ハ其ノ定款ニ依リ廣告ヲ要スルモノハ朝鮮總督府官報ニ掲載ヲ請フコトヲ得學術技藝又ハ發明特許、實用新案若ハ產業奬勵ニ關スル事項ニシテ支障ナシト認メタルモノ亦同シ

第六條 官報廣告料ハ左ノ如シ

四號活字 一行一回 四十五錢

五號活字 一行一回 四十錢

六號活字 一行一回 三十錢

登記ニ關スル公告 五號活字一行一回三十錢 六號活字一行一回二十錢

前項ニ據リ難キモノハ掲載面ニ應シ六號活字ノ割合ヲ以テ行數ニ見積リ計算ス

各官廳ノ廣告ハ登記ニ關スル公告ヲ除クノ外廣告料ヲ要セス

第七條 官報廣告ノ掲載ハ原稿ヲ添ヘ朝鮮總督官房文書課ニ請求スヘシ

廣告ノ體裁、活字ノ種類等ハ朝鮮總督官房文書課ニ於テ之ヲ定ム

第八條 官報廣告料ハ朝鮮書籍印刷株式會社之ヲ徵收ス

(大正十二年九月總告第二百二十九號ハ大正十二年十月一日ヨリ施行)

●官報通牒ニ同文通牒掲載ニ關スル件

明治四十四年二月 總訓第十三號

本府各部局課又ハ其ノ職員ノ名ヲ以テ多數ノ所屬官署又ハ其ノ職員等ニ對シ同文通牒等ヲ發スル場合ニ於テハ祕密ヲ要スルモノヲ除クノ外別ニ公文ヲ用キス朝鮮總督府官報通牒欄ニ掲載スヘシ

第三章 統計報告

●統計事務ニ關スル件

大正五年五月 內閣訓令第一號 各官廳

統計ハ國家社會各般ノ現象ヲ觀察シ其ノ發達消長ノ跡ヲ表顯スルモノニシテ將來施設ノ指針トスヘキモノナルノミナラス又學術研究ノ基礎タルヘキモノトス單ニ計數ヲ列ネ體裁ヲ整フルヲ以テ能事ト爲スヘキニアラス其ノ調査ハ迅速精確ニシテ實用ニ適スルモノタルヲ要ス官廳各種ノ統計報告年報等ヲ調製スルニ當リテハ特ニ此ノ點ニ留意スヘシ

歐米諸强國ノ狀態ヲ視ルニ皆能ク各般ノ統計ヲ整備シ恒ニ畫策ノ周到ヲ期セサルナシ顧フニ歐洲今次ノ戰亂終熄ノ期ニ至ラハ必スヤ各國相競フテ戰後ノ經營ヲ策シ自他ノ情勢ヲ探討シテ民力ノ恢復ト國運ノ發展トヲ圖ルヘシ我邦亦各般ノ統計調査ヲ的確ニシ以テ列國駢進ノ大勢ニ適應スルノ方途ヲ講スルニ於テ遺算ナカラムコトヲ要ス

局ニ當ル者益益力ヲ統計ノ事ニ致シ堪能ノ吏員ヲシテ之ヲ掌ラシメ調査ノ杜撰ヲ革メ報告ノ精確ヲ期シ務メテ統計ノ進歩改善ヲ圖リ以テ國務ノ實用ニ資セムコトヲ望ム

●朝鮮總督府統計事務取扱方

大正七年九月 總訓第四十七號

改正 大正一一年一〇第五二號、一三年一二第四七號

朝鮮總督府及所屬官署

朝鮮總督府統計事務取扱方左ノ通改定ス

朝鮮總督府統計事務取扱方

第一條 朝鮮總督官房文書課ニ統計臺帳ヲ備フ

統計臺帳調製ニ關スル事項ハ別ニ之ヲ定ム

第二條 文書課長ハ統計臺帳ニ依リ每年朝鮮總督府統計年報ヲ編纂スヘシ

第三條 文書課長ハ統計事務ニ關シ統計主任ト直接交渉ヲ爲スコトヲ得

第四條 朝鮮總督府各部局ヨリ統計事項ニ關シ外部ト往復ヲ要スル場合ニ於テハ之ヲ文書課長ニ合議スヘシ

第五條 朝鮮總督府所屬官署ニ統計主任ヲ置キ統計ノ檢査及整理ヲ擔任セシム

第六條 統計主任ハ所屬官署ノ長ニ於テ奏任官又ハ判任官ノ中ニ就キ之ヲ命シ其ノ官氏名ヲ文書課長ニ通知スヘシ之ヲ免シタルトキ亦同シ

第七條 主務課、係ニ於テ作成シタル統計ハ之ヲ統計主任ニ回付スヘシ

統計主任ハ前項ノ統計ヲ檢査シ誤謬アリト認メタルトキハ再調ヲ請求スルコトヲ得

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮總督府報告例

大正元年十一月 總訓第二十號

改正 大正二年一二第六二號、三年九第五四號、四年一一第五九號、五年一二第四七號、六年一二第五四號、七年一二第六五號、八年一二第五五號、九年一二第七二號、一〇年一〇第五六號、一一年一〇第四九號、一四年一二第五四號

朝鮮總督府所屬官署

朝鮮總督府報告例左ノ通定ム

朝鮮總督府報告例

第一條 朝鮮總督府道知事ハ別冊甲號、其ノ他ノ所屬官署ノ長ハ別冊乙號ニ定ムル所ニ依リ朝鮮總督ニ報告ヲ爲スヘシ

第二條 報告ハ別段ノ定アル場合ノ外左ノ期限內ニ提出スヘシ

即報 即時

日報 即日

月報 翌月十五日

季報 四月、七月、十月及翌年一月ノ末日

半年報 十月及翌年四月ノ末日

年報 曆年調ハ翌年二月末日、年度調ハ翌年五月末日

第三條 報告ニシテ重大且急ヲ要スルモノハ電信、電話其ノ他急速ノ方法ヲ以テ其ノ概略ヲ報シタル後詳細ノ報告ヲ爲スヘシ

裁判所、同檢事局ノ長及監獄又ハ分監ノ長ヨリ提出スヘキ統計報告ハ總テ監督上官ヲ經由スルニ及ハス

第四條 報告ニ掲記スヘキ道、府、郡、島ハ別表ノ順序ニ依ルヘシ

第五條 統計表ニシテ二頁以上ニ亙ルトキハ各頁ノ一行目ニ項目ノ欄ヲ設クヘシ

第六條 統計表中數位ハ金額ニ在リテハ單位其ノ他ニ在リテハ單位以下三位迄ヲ掲ケ單位ニ「・」ヲ附シ其ノ右傍ニ圓、斤、噸等單位ノ種類ヲ記入シ千位、百萬位等三位每ニ「、」ヲ附スヘシ但シ特別ノ定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七條 統計表中計數未詳ノ欄ニハ「?」、計數ナキ欄ニハ「—」、計數ノ單位ニ達セサル欄ニハ「〇」、比較減ノ場合ニハ「△」ヲ記入スヘシ

第八條 統計表中ノ數ニシテ前回ニ比シ著シキ增減アリタルトキハ其ノ理由ヲ備考欄ニ詳記スヘシ

第九條 報告期ニ至リ調査未濟等ノ爲報告ノ延期ヲ要スルモノハ其ノ都度其ノ理由及豫定期日ヲ稟申スヘシ

第十條 報告事項中報告スヘキ事實ナク又ハ調査シ難キ事故アルトキハ報告期ニ於テ其ノ旨ヲ報告スヘシ

第十一條 本令ニ定ムルモノノ外所屬官署ノ長ニ於テ特ニ重大ナリト認ムル事項ハ適宜之ヲ報告スヘシ

附 則

本令ハ大正二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別冊略)別冊ハ大正九年十二月總訓第七十二號ニテ改正シ大正十年一月一日ヨリ施行シ大正十年十月總訓第五十六號ニテ改正シ大正十一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス大正十一年十月總訓第四十九號ニテ改正シ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●司法警察事務報告ニ關スル件

大正十五年四月 總訓第十二號

道知事 警察署長

司法警察事務報告ニ關スル件左ノ通定ム

司法警察事務ノ報告ハ大正十五年四月以降每月本府報告例(甲號)第六十三號犯罪檢擧事件處分表並同第六十四號犯罪件數及檢擧表ノ樣式ニ準シ製表シ翌月十五日迄ニ所轄地方法院檢事正ニ提出スヘシ但シ警察署管內司法警察官ノ取扱ヒタル事件ハ之ヲ取纏メ製表スヘシ

大正元年朝鮮總督府訓令第四號ハ之ヲ廢止ス

●公醫規則ニ依ル報告取扱方

大正三年三月 警訓甲第九號

警務部 警察署 警察分署 憲兵分隊(警察署ノ事務ヲ取扱フ) 同 憲兵分遣所

公醫規則第七條ノ報告ハ左記樣式ニ依リ調製セシメ警務部ヲ經由シ當部ニ進達スヘシ

(用紙半紙罫紙)

大正 年 月 取扱事項報告表

道 郡 配置 公醫 何 某 印

(第一) 一般公務關係

種別	內地人	朝鮮人	外國人	計
種痘施術人員				
健康診斷ヲ行ヒタル藝妓、娼妓、酌婦延人員				
診斷、檢案ヲ行ヒタル傳染病患者、死體數				
診療ヲ行ヒタル行旅病者數				
同上貧民患者數				
檢案ヲ行ヒタル傳染病以外ノ死體數				

備考 記載例

一 本表ニハ公務即チ官命ニ依リテ取扱ヒタル事項ノミヲ掲クルモノトス

二 「健康診斷ヲ行ヒタル藝妓、娼妓、酌婦延人員」ノ欄ニハ當月中定期又ハ臨時ニ診斷ヲ行ヒタル人員ヲ延數ニテ掲クヘシ例ヘハ同一人ニ對シ當月中三回診斷ヲ行ヒタルトキハ三ト計上スルカ如シ

三 「診斷、檢案ヲ行ヒタル傳染病患者、死體數」ノ欄ニハ診斷セシ患者數ハ右側ニ墨書シ檢案セシ死體數ハ左側ニ朱書スヘシ

四 「診療ヲ行ヒタル行旅病者數」ノ欄及「同上貧民患者數」ノ欄ニハ當月中診療ヲ行ヒタル人員ヲ計上スヘシ故ニ同一人ニ對シ二回以上診療ヲ爲スモ其ノ間繼續ノ事實アルモノハ最初ノ診療ノミヲ計上スルヲ要ス而シテ前月ヨリ繼續診療セシ患者ハ其ノ數ヲ左側ニ朱書スヘシ

五 地方病ノ調査、學校衞生、工場衞生及ヒ特命ニ依リ取扱ヒタル事項其ノ他特ニ參考トナルヘキ事項ハ備考ニ概記スヘシ

(第二) 藝妓、娼妓、酌婦等ノ健康診斷成績

(用紙半紙罫紙)

健康診斷場所	(地名)						計		
種別	內地人	朝鮮人	外國人	內地人	朝鮮人	外國人	內地人	朝鮮人	外國人
檢診回數									
受診延人員									
治療ヲ命シタル延人員 黴毒									
治療ヲ命シタル延人員 淋疾									
治療ヲ命シタル延人員 軟性下疳									
治療ヲ命シタル延人員 横痃									
治療ヲ命シタル延人員 其ノ他									
治療ヲ命シタル延人員 計									
一回平均 受診人員									
一回平均 治療ヲ命シタル人員									
同上百分比例									
藝妓娼妓酌婦月末現員									

備考 記載例

一 本表ハ官命ニ依リ施行シタル藝妓、娼妓、酌婦等ノ健康診斷狀況ヲ記載スルモノトス

二 「治療ヲ命シタル延人員」ノ欄ニハ其ノ月間每回ノ當該數ヲ積算掲記スヘシ

三 治療狀況例ヘハ入院治療ナルカ又ハ自宅治療ナルカ等ハ健康診斷場所每ニ備考ニ記述スヘシ

四　健康診斷及治療上ニ關スル一般狀況ハ備考ニ記述スヘシ

（第三）診療患者病類別　（用紙半紙竪紙）

病類別	內地人			朝鮮人			外國人			計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
計										

備考

記載例

一　本表ハ開業醫トシテ診療ジタル患者ノミニ就キ計上スルモノトス

二　人員ハ延人員ニ非スシテ實際ノ患者數ヲ記載スヘシ

三　前月ヨリノ繼續診療患者ハ左側ニ其ノ數ヲ朱書スヘシ

四　本表中ノ病類別ハ警察報告例末尾參照ニ據ルヘシ

第四章　國勢調査

●國勢調査ニ關スル件

明治三十五年十二月
法律第四十九號
改正　明治三八年二第二三號、一一年四第五一號

脫帝國議會ノ協贊ヲ經タル國勢調査ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　國勢調査ハ各〻十箇年每ニ一回帝國版圖內ニ施行ス

前項ノ規定ニ依ル調査後五年ニ該ル年ニ於テ簡易ナル國勢調査ヲ施行ス

第二條　國勢調査ノ範圍、方法及經費ノ國庫ト地方分擔トノ割合其ノ他必要ノ事項ハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條　第一回國勢調査ヲ行フヘキ時期ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●國勢調査施行令

大正七年九月
勅令第三百五十八號

脫國勢調査施行令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

國勢調査施行令

第一條　第一回國勢調査ハ大正九年十月一日午前零時ノ現在ニ依リ之ヲ行フ

第二條　第一回國勢調査ハ前條ノ時期ニ於テ帝國版圖內ニ現在スル者ニ付左ノ事項ヲ調査ス

一　氏名
二　世帶ニ於ケル地位
三　男女ノ別
四　出生ノ年月日
五　配偶ノ關係
六　職業及職業上ノ地位
七　出生地
八　民籍別又ハ國籍別

前條ノ時期前ニ帝國ノ港灣ヲ發シ途中寄港セスシテ前條ノ時期後四日以內ニ始メテ帝國ノ港灣ニ入リタル者ハ大正九年十月一日午前零時ニ帝國版圖內ニ現在シタル者ト看做ス

第三條　前條ノ調査ハ各世帶ニ就キ之ヲ執行ス

本令ニ於テ世帶ト稱スルハ住居及家計ヲ共ニスル者ヲ謂フ

一人ニシテ住居ヲ有シ家計ヲ立ツル者亦一世帶トス

家計ヲ共ニスルモ別ニ住居ヲ有スル者又ハ住居ヲ共ニスルモ別ニ家計ヲ立ツル者ハ一世帶トス其ノ一人ナル場合亦同シ

寄宿舍、病院、旅店、下宿屋其ノ他家計ヲ共ニセサル者ノ集合スル場屋又ハ船舶ニ在ル者ニシテ其ノ家計ヲ共ニセサルモノハ一場屋又ハ一船舶每ニ一世帶ニ準ス

第四條　世帶主又ハ世帶ノ管理者ハ其ノ世帶ニ現在スル者ニ就キ左ノ事項ヲ申告スヘシ但シ特別ノ事情アルトキハ府縣知事ノ認可ヲ經テ一町村ヲ以テ一調査區ト爲スコトヲ得

第十一條　內閣總理大臣ハ府縣知事ノ具申ニ依リ船舶ノ輻湊スル水面ノ調査ヲ府縣知事ヲシテ直接ニ管掌セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ其ノ直接ニ管掌スル府縣知事ノ直接ニ管掌スル水面ノ調査ニ關シテハ府縣知事ノ關係官公署ノ職員及實況ニ通シタル者ニ囑託シテ其ノ事務ヲ補助セシムルコトヲ得

第五條　國勢調査ハ各世帶ニ就キ之ヲ執行スル期間ハ九月二十一日ヨリ十月五日迄トス但シ蒐集シタル國勢調査申告書ノ記載事項ニ關シ質問ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六條　國勢調査申告書及附屬書類ハ府縣知事ノ定メタル期限迄ニ町村長ハ之ヲ郡長ニ、郡長及市長ハ之ヲ府縣知事ニ提出シ府縣知事ハ內閣總理大臣ノ定メタル期限迄ニ之ヲ內閣總理大臣ニ提出スヘシ

第七條　天災事變ノ爲國勢調査員第十六條ノ期間內ニ其ノ職務ヲ執行シ又ハ之ヲ完結スルコト能ハサルトキハ府縣知事ハ直ニ其ノ旨ヲ內閣總理大臣ニ報告スヘシ此ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ內閣總理大臣ノ認可ヲ經テ區域ヲ限リ別ニ期間ヲ定メ又ハ其ノ期間ヲ延長ス

府縣知事別ニ期間ヲ定メ又ハ期間ヲ延長シタルトキハ之ヲ告示ス

第八條　內閣總理大臣ノ要求アリタルトキハ各省大臣ハ所管ノ官廳、官吏及吏員ニ命シ內閣總理大臣又ハ其ノ指定シタル職員ノ指揮ヲ承ケ國勢調査ノ事務ニ服セシムヘシ

第九條　本令中府縣府縣知事ニ關スル規定ハ北海道ニ在リテハ北海道廳北海道廳長官

府縣知事ノ直接ニ管掌スル水面ノ調査ニ關シテハ府縣知事ハ內閣總理大臣ノ認可ヲ經テ調査區ノ分劃及調査ニ關スル手續ヲ定ム

第十條　國勢調査ノ事務ヲ執行セシムル爲市町村ニ國勢調査員ヲ置ク

府縣知事直接ニ調査ヲ管掌スル場合ニ於テハ尙府縣ニ國勢調査員ヲ置ク

第十一條　國勢調査員ハ府縣知事ノ推薦ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

國勢調査員ハ名譽職トス

第十二條　國勢調査員ニハ別ニ定ムル徽章ヲ交付シ職務執行ノ際之ヲ佩用セシム

第十三條　國勢調査員ハ府縣知事又ハ市町村長ノ指揮監督ヲ承ケ擔當調査區內ニ於ケル國勢調査申告書用紙ノ配付、國勢調査申告書ノ蒐集其ノ他之ニ伴フ諸般ノ事務ヲ執行ス

第十四條　國勢調査員各世帶ニ就キ前條ノ職務ヲ執行スル期間ハ九月二十一日ヨリ十月五日迄トス但シ蒐集シタル國勢調査申告書ノ記載事項ニ關シ質問ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　國勢調査申告書及附屬書類ハ府縣知事ノ定メタル期限迄ニ町村長ハ之ヲ郡長ニ、郡長及市長ハ之ヲ府縣知事ニ提出シ府縣知事ハ內閣總理大臣ノ定メタル期限迄ニ之ヲ內閣總理大臣ニ提出スヘシ

第十六條　天災事變ノ爲國勢調査員第十六條ノ期間內ニ其ノ職務ヲ執行シ又ハ之ヲ完結スルコト能ハサルトキハ府縣知事ハ直ニ其ノ旨ヲ內閣總理大臣ニ報告スヘシ此ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ內閣總理大臣ノ認可ヲ經テ區域ヲ限リ別ニ期間ヲ定メ又ハ其ノ期間ヲ延長ス

府縣知事別ニ期間ヲ定メ又ハ期間ヲ延長シタルトキハ之ヲ告示ス

第十七條　國勢調査申告書及附屬書類ハ府縣知事ノ定メタル期限迄ニ町村長ハ之ヲ郡長ニ、郡長及市長ハ之ヲ府縣知事ニ提出シ府縣知事ハ內閣總理大臣ノ定メタル期限迄ニ之ヲ內閣總理大臣ニ提出スヘシ

第十八條　天災事變ノ爲國勢調査員第十六條ノ期間內ニ其ノ職務ヲ執行シ又ハ之ヲ完結スルコト能ハサルトキハ府縣知事ハ直ニ其ノ旨ヲ內閣總理大臣ニ報告スヘシ此ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ內閣總理大臣ノ認可ヲ經テ區域ヲ限リ別ニ期間ヲ定メ又ハ其ノ期間ヲ延長ス

府縣知事別ニ期間ヲ定メ又ハ期間ヲ延長シタルトキハ之ヲ告示ス

第十九條　內閣總理大臣ノ要求アリタルトキハ各省大臣ハ所管ノ官廳、官吏及吏員ニ命シ內閣總理大臣又ハ其ノ指定シタル職員ノ指揮ヲ承ケ國勢調査ノ事務ニ服セシムヘシ

第二十條　本令中府縣府縣知事ニ關スル規定ハ北海道ニ在リテハ北海道廳北海道廳長官

セスシテ前條ノ時期後四日以內ニ始メテ朝鮮ノ港灣ニ入リタル者ハ大正十四年十月一日午前零時ニ朝鮮內ニ現在シタル者ト看做ス

第三條　前條ノ調査ハ各世帶ニ就キ之ヲ執行ス

本令ニ於テ世帶ト稱スルハ住居及家計ヲ共ニスル者ヲ謂フ

一人ニシテ住居ヲ有シ家計ヲ立ツル者亦一世帶トス

家計ヲ共ニスルモ別ニ住居ヲ有スル者又ハ住居ヲ共ニスルモ別ニ家計ヲ立ツル者ハ一世帶トス其ノ一人ナル場合亦同シ

寄宿舍、病院、旅店、下宿屋其ノ他家計ヲ共ニセサル者ノ集合スル場屋又ハ船舶ニ在ル者ニシテ其ノ家計ヲ共ニセサルモノハ一場屋又ハ一船舶每ニ一世帶ニ準ス

第四條　世帶主又ハ世帶ノ管理者ハ其ノ世帶ニ現在スル者ニ就キ左ノ事項ヲ申告スヘシ但シ特別ノ事情アルトキハ府縣知事ノ認可ヲ經テ一町村ヲ以テ一調査區ト爲スコトヲ得

第五條　國勢調査申告書用紙ハ之ヲ各世帶ニ配付ス

第六條　府縣知事ハ內閣總理大臣ノ命ヲ承ケ府縣內ノ調査ノ執行ヲ指揮監督ス

第七條　郡長ハ府縣知事ノ命ヲ承ケ郡內ノ調査ノ執行ヲ指揮監督ス

第八條　市長ハ府縣知事ノ指揮監督ヲ承ケ市內ノ調査ノ執行ヲ管掌ス

第九條　町村長ハ郡長ノ指揮監督ヲ承ケ町村內ノ調査ノ執行ヲ管掌ス

第十條　市町村長ハ調査ヲ執行スル爲府縣知事ノ認可ヲ經テ市町村ノ區域ヲ調査區ニ分劃ス但シ特別ノ事情アルトキハ府縣知事ノ認可ヲ經テ一町村ヲ以テ一調査區ト爲スコトヲ得

第十一條　簡易國勢調査ノ事務ヲ執行セシムル爲府及面ニ簡易國勢調査員ヲ置ク

第十二條　簡易國勢調査員ハ道知事ノ推薦ニ依リ朝鮮總督之ヲ命ス

簡易國勢調査員故障ノ爲調査ニ從事シ難キ場合ニ於テ已ムヲ得サルトキハ府尹又ハ面長ハ適當ノ者ヲシテ之ニ代ラシムルコトヲ得

簡易國勢調査員ハ名譽職トス

第十三條　簡易國勢調査員ニハ所定ノ徽章ヲ交付シ職務執行ノ際之ヲ佩用セシム

第十四條　簡易國勢調査員ハ府尹又ハ面長ノ指揮監督ヲ承ケ擔當調査區內ニ於ケル簡易國勢調査申告書ノ調査事項ノ記入其ノ他之ニ伴フ諸般ノ事務ヲ執行ス

簡易國勢調査申告書ハ樣式第一號ニ依ル

第十五條　簡易國勢調査員各世帶ニ就キ前條ノ職務ヲ執行スル期間ハ大正十四年九月二十一日ヨリ同年十月五日迄トス但シ期間經過後ト雖簡易國勢調査申告書ノ記載事項ニ關シ質問ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十六條　府尹又ハ面長ハ府又ハ面內ノ簡易國勢調査申告書ト共ニ郡守又ハ島司ニ提出シ郡守又ハ島司ハ道知事ノ定ムル期限迄ニ面ノ結果表ト共ニ郡又ハ島ノ結果表ヲ道知事ニ提出シ道知事ハ朝鮮總督ノ定ムル期限迄ニ府、郡及島ノ結果表ヲ朝鮮總督ニ提出スヘシ

第十七條　天災事變ノ爲簡易國勢調査員第十五條ノ期間內ニ其ノ職務ヲ執行シ又ハ之ヲ完結スルコト能ハサルトキハ道知事ハ直ニ其ノ旨朝鮮總督ニ報告スヘシ此ノ場合ニ於テハ道知事ハ朝鮮總督ノ認可ヲ經テ區域ヲ限リ別ニ期間ヲ定メ又ハ其ノ期間ヲ延長ス

道知事別ニ期間ヲ定メ又ハ期間ヲ延長シタルトキハ之ヲ直ニ之ヲ告示ス

第十八條　左ニ揭ケル場所ニ於ケル調査ノ手續ハ別ニ之ヲ定ム

様式第一號

申告書様式

目一月十年四十正大　書告申査調勢國易簡

調査員記入

町洞里	番地帯第　號	種帯世類別	朝鮮總督府
(一)又氏ハ姓名		(二)男女ノ別	男　女
(三)生ノ年月	年　月	(滿)歳	
(四)配偶ノ關係	未婚　有配偶　死別　離別	(五)ハ本國籍又	

島郡府面　道　府尹又ハ面長記入

調査區第　號

普通世帯　準世帯

(六)申告者ト戸主トノ關係

(七)世帯主又ハ管理者ノ氏名ト世帯ノ番號

檢調査員印

注意

(二)(一)「滿歳」ハ府尹又ハ面長ニ於テ記入スルコト

(二)申告書ハ戸主ニ於テ之ヲ記入スルコトヲ得サルトキハ申告書ノ番號順ニ重ネテ綴ルコト

様式第二號

結果表様式

年齢別	順序	總數			未婚			有配偶			死別			離別		
		總數	男	女	總數	男	女	總數	男	女	總數	男	女	總數	男	女
		イ	ロ	ハ	ニ	ホ	ヘ	ト	チ	リ	ヌ	ル	ヲ	ワ	カ	ヨ
總數	1															
0—4歳	2															
0歳	3															
1歳	4															
2歳	5															
3歳	6															
4歳	7															
5—9歳	8															
5歳	9															
6歳	10															
7歳	11															
8歳	12															
9歳	13															
以下各歳別																

様式第二號ノ一

I　世帯及人口　（官署名）

世帯種別	順序	世帯	人口 總數	人口 男	人口 女
		イ	ロ	ハ	ニ
總數	1				
普通世帯	2				
準世帯	3				

様式第二號ノ二

II　年齢及配偶關係別人口　（官署名）

年齢別	順序	總數			未婚			有配偶			死別			離別		
		總數	男	女	總數	男	女	總數	男	女	總數	男	女	總數	男	女
		イ	ロ	ハ	ニ	ホ	ヘ	ト	チ	リ	ヌ	ル	ヲ	ワ	カ	ヨ
總數	1															
0—4歳	2															
0歳	3															
1歳	4															
2歳	5															
3歳	6															
4歳	7															
5—9歳	8															
5歳	9															
6歳	10															
7歳	11															
8歳	12															
9歳	13															
以下各歳別																

様式第二號ノ三

III　本籍及國籍別人口　（官署名）

第一條　大正十四年簡易國勢調査特別地域調査ハ國勢調査ニ關スル件左ノ通定ム

第二條　本令ニ規定スル事項ハ大正十四年朝鮮總督府令第六十六號第一條ノ現在ニ於ケル狀況ニ依リ調査スヘシ

第三條　調査ハ朝鮮ニ在ル一般人口ニ付之ヲ行フヘシ

第四條　前條ノ調査ハ大正十四年朝鮮總督府令第六十六號第一條ノ現在ニ於ケル狀況ニ依リ調査スヘシ

第五條　調査ハ左ノ事項ニ付之ヲ行フヘシ

一　各人ニ付テハ其ノ最初ノ調査ニ於ケル調査ノ現在ニ於ケル狀況

二　各人ニ付テハ其ノ最初ノ調査ニ於ケル調査ノ現在ニ於ケル狀況ニ變更ヲ生シタル事項

第六條　調査ハ大正十四年朝鮮總督府令第六十六號第一條ノ現在ニ於ケル狀況ニ依リ調査スヘシ

第七條　本令ニ依ル調査ニ付必要ナル事項ハ簡易國勢調査員ニ關スル規程ヲ以テ之ヲ定ム

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

一　王公族ノ戸籍
二　陸海軍ノ部隊及艦船
三　刑務所
四　行動中ノ列車
五　仁川、群山、木浦、釜山、鎮南浦、新義州、龍巖浦、元山、清津、羅津、雄基各港ノ水面

第十九條　簡易國勢調査ニ關シ必要ナル場合ハ戸主ニ代リ其ノ家族又ハ同居者ヲシテ申告セシムルコトヲ得

第二十條　簡易國勢調査ニ關シ知事ハ其ノ管内ニ於ケル調査ノ事務ヲ分掌セシムヘキ者ヲ指定スルコトヲ得

第二十一條　虚偽ノ申告ヲ爲シタル者又ハ申告ヲ爲サヽル者ニ對シテハ金二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條　簡易國勢調査ニ關シ必要ナル細則ハ朝鮮總督之ヲ定ム

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六輯

外事

第六輯　外事

第一章　條約

○在朝鮮各國居留民地制度廢止ニ關スル議定書〔大正三、四、總告一〇三〕……一
○在朝鮮支那共和國居留地廢止ニ關スル協定〔大正三、四、總告一〇四〕……一
○逃亡犯罪人引渡條約〔明治四四、九、條約一二〕……二
○日米兩國犯罪人引渡條約〔明治一九、一〇、勅令〕……三
○千九百年十二月十四日菲律悉及千九百十一年六月二日華盛頓ニ於テ改正セラレタル工業所有權保護ニ關スル千八百八十三年三月二十日ノ巴里同盟條約及附屬議定書〔大正二、四、條約二〕……四
○工業所有權保護ニ關スル巴里同盟條約及同附屬最終議定書ノ效力〔大正二、八、農告二六四〕……八
○工業所有權相互保護ニ關スル日露條約〔大正元、一一、條約一〕……八
○清國ニ於ケル工業所有權相互保護ニ關スル日露條約〔大正元、一一、條約二〕……九
○支那ニ於ケル工業所有權相互保護ニ關スル日本瑞典條約〔大正六、九、條約一〕……九
○瞿絡哥カ工業所有權保護ニ關スル巴里同盟條約ニ加入〔大正六、九、農告二六二〕……一〇
○鑄寸製造ニ於ケル黃燐使用ノ禁止ニ關スル國際條約〔大正一〇、一〇、條約五〕……一〇
○日墺混合仲裁裁判所手續準則〔大正一〇、一〇、外告三二〕……一一
○常設國際司法裁判所規程〔大正一〇、一一、條約六〕……一二
○萬國郵便條約及最終議定書〔大正一四、九、條約一一〕……一六
○萬國郵便條約施行規則〔大正一四、九、遞告一四一〕……二九
○價格表記書狀及箱物ニ關スル約定竝最終議定書〔大正一四、九、條約一二〕……四六
○價格表記書狀及箱物ニ關スル約定施行規則〔大正一四、九、遞告一四一二〕……五一
○小包郵便物ニ關スル約定及最終議定書〔大正一四、九、條約一三〕……五五
○小包郵便物ニ關スル約定施行規則〔大正一四、九、遞告一四一三〕……六四
○郵便爲替ニ關スル約定〔大正一四、九、條約一四〕……七三
○郵便爲替ニ關スル約定施行規則〔大正一四、九、遞告一四一四〕……七七
○郵便振替ニ關スル約定及最終議定書〔大正一四、九、條約一五〕……八一
○郵便振替ニ關スル約定施行規則〔大正一四、九、遞告一四一五〕……八四
○日丁兩國間船舶積量測度證書互認〔大正一、五、外告一八〕……八六

第二章　開港〔第十七輯ニ收ム〕

第三章　渡航　在留

○移民保護法〔光武一〇、七、法二〕……八六
○移民保護法施行細則〔光武一〇、七、農令四〕……八七
○外國旅券規則〔明治四三、一〇、總令二七〕……八八
○同ノ旅券ヲ以テ數次往復シ得ヘキ地〔明治四三、一〇、總告二三〕……八八
○外國旅券規則取扱手續〔明治四三、一〇、總訓四八〕……八八

第六輯　外事

第一章　條約

●在朝鮮各國居留民地制度廢止ニ關スル議定書

大正三年四月
總告第百三號

在朝鮮各國居留地制度廢止ニ關シ大正二年四月二十一日朝鮮總督府外事局長カ京城駐在各國領事官ト共ニ署名シタル議定書左ノ如シ

在朝鮮各國居留地制度廢止ニ關スル朝鮮總督府外事局長及當該締約國領事官協議會議定書

一　在朝鮮各國居留地即チ仁川、鎭南浦、群山、木浦、馬山浦及城津各國居留地ハ各其ノ所屬ノ新定朝鮮地方區域ニ之チ編入スヘシ

二　右編入ノ上ハ當該地方廳ハ從來各國居留地會ニ於テ擔任シタル土木、衞生其ノ他地方行政上一切ノ責任及義務チ引受クヘシ

三　前記各國居留地會ニ屬スル共有資金及財產アルトキハ該共有資金及財產ハ之チ當該地方廳ニ引繼クヘシ

四　前記各國居留地ノ地域內ニ於テ永代借地權チ有スルモノハ自己ノ選擇ニ依リ該永代借地權チ所有權ニ變更スルチ得ヘシ右所有權ハ在朝鮮日本國臣民ノ有スルモノト同一ノ基礎ニ置カルルモノトス

五　右ノ變更チ爲シ且之チ登記シタルトキハ前記土地ノ所有者ハ右土地及其ノ上ニ在ル家屋ノ使用及享有ニ關スル一切ノ事項竝右土地及家屋ニ對スル賦課金、租稅及公課ニ關スル事項ニ付帝國臣民及最惠國民ト同一ノ取扱チ受クヘシ前記ノ變更及登記チ爲スニハ何等ノ租稅、手數料又ハ取立金チ納ムルコトチ要セサルモノトス

六　右ノ任意變更チ爲ササル場合ニ於テハ永代借地券ニ因リ設定シタル諸權利ニシテ本議定書ニ於テ協定シタル措置ニ牴觸セサルモノハ引續キ適當ニ尊重セラルヘシ前記地券第二項ニ依リ該借地及其ノ上ニ在ル家屋ニ對シ徵收セラルヘキ賦課金、租稅及公課ニ關スル事項ニ付テハ左ノ通整理スルモノトス

(イ)　當該永代借地ニ關シ納付スヘキ借地料中右借地カ所有地タル場合ニ該借地及其ノ上ニ在ル家屋ニ對シ賦課セラルヘキ國稅タル地租及家屋稅ニ相當スル金額ハ其ノ借地料額チ限度トシテ之チ右地租及家屋稅ニ充當スヘシ

(ロ)　前記借地料ノ殘額アル場合ニ於テ該殘額カ右永代借地カ所有地タル場合ニ該借地及其ノ上ニ在ル家屋ニ對シ賦課セラルヘキ地方的租稅及公課ニ等シキトキハ該借地及家屋ニ對シテハ右ノ地方的租稅及公課チ一切免除スヘシ

(ハ)　前記借地料ノ殘額カ右永代借地カ所有地タル場合ニ該借地及其ノ上ニ在ル家屋ニ對シ賦課セラルヘキ地方的租稅及公課チ超過スルトキハ該超過額ハ之チ還付スヘシ

(ニ)　右永代借地カ所有地タル場合ニ該借地及其ノ上ニ在ル家屋ニ對シ賦課セラルヘキ地方的租稅及公課カ前記借地料ノ殘額チ超過スルトキハ右借地及家屋ニ對スル地方的租稅及公課チシテ右借地カ所有地タル場合ニ該借地及其ノ上ニ在ル家屋ニ對シ賦課セラルヘキ地方的租稅及公課ニ等シカラシムルニ足ル程度迄該借地及家屋ニ對シ租稅及公課チ賦課スヘシ

七　前記永代借地權者ハ賦課金、租稅及公課ニ關スル事項ニ付テハ本議定書ニ定メタルモノチ除クノ外種類及性質ノ如何チ問ハス又國家的タルト地方的タルトノ別ナク總テ帝國臣民及最惠國民ト同一ノ取扱チ受クヘシ

八　朝鮮ニ於ケル當該登記官署ハ前記永代借地權及之ニ關スル附隨的權利ノ登記チ爲スヘシ此ノ登記ハ法令ノ規定ニ從ヒ第三者ニ對抗スルコトチ得前記附隨的權利ニ關スル支那共和國領事館ニ現存スル登記ノ正本又ハ適法ナル謄本ハ之チ當該登記官署ニ引繼クモノトス此ノ引繼チ爲シタル登記ハ帝國法規ニ依リ其ノ效力チ認ムヘシ

第六條　支那共和國居留地ニ屬スル支那共和國官吏ニ於テ有シタルト同一ノ效力及價値チ有スルモノトス

永代借地權ニシテ各國居留地制度廢止ノ當時當該領事館ノ登記ニ於テ之ニ對スル抵當權ノ存在スルモノニ付テハ該永代借地權者又ハ其ノ委任チ受ケタル代理人ヨリ其ノ所屬國領事官ノ證明チ經タル願書チ提出スルニ非サレハ右永代借地權チ第三者ニ移轉スル登記若ハ所有權ニ變更スル登記又ハ之ニ關スル附隨的權利ノ消滅ノ登記チ爲ササルモノトス但シ借地料、租稅又ハ公課ノ納付チ怠リタル爲又ハ法律上ノ手續ニ依リ永代借地權チ處分スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

九　各國居留地內ニ現存スル公園ハ當該官吏ニ於テ其ノ良好ナル秩序及狀態チ維持スヘシ又各其ノ面積ハ公共ノ目的ニ供スル場合チ除クノ外之チ縮少セサルモノトス

十　各國居留地內ニ現存スル外國人墓地ハ地方在留外國人ニ於テ墓地、火葬場、埋葬、火葬等ニ關スル法令ニ從ヒ之チ管理スヘシ右墓地ニ對シテハ一切ノ租稅及公課チ課セサルモノトス仁川各國居留地會ニ屬スル財產中金二萬圓又ハ其ノ以內ニ於テ必要ナル金額ハ之チ前記ノ目的ニ充當スルモノトス

千九百十三年四月二十一日朝鮮京城ニ於テ之チ作成ス

朝鮮總督府外事局長　小松綠

獨逸國總領事　ドクトル、クリューダル

白耳義國總領事　ジエー、ブリポジア

亞米利加合衆國總領事　ジョージ、エッチ、シドモール

露西亞國總領事　ルッチュ

大不列顚國總領事　ジエー、エム、チャーマース

佛蘭西國領事代理　アール、アンドレー

伊太利國利益代表者大不列顚國總領事　エー、エム、チャーマース

●在朝鮮支那共和國居留地廢止ニ關スル協定

大正三年四月
總告第百四號

在朝鮮支那共和國居留地廢止ニ關シ大正二年十一月二十二日朝鮮總督府外事局長カ京城駐在支那共和國總領事ト共ニ記名調印シタル協定左ノ如シ

在朝鮮支那共和國居留地廢止ニ關スル協定

第一條　在仁川釜山及元山支那共和國居留地ハ各其ノ所屬ノ新定朝鮮地方區域ニ編入スヘシ

第二條　前記支那共和國居留地ノ行政事務ハ當該地方官廳ニ於テ總テ之チ擔任スヘシ

第三條　前記支那共和國居留地ノ地域內ニ於テ永代借地權チ有スル者ハ自己ノ選擇ニ依リ該永代借地權チ所有權ニ變更スルコトチ得但シ右ノ變更チ爲ササルトキハ永代借地權者ハ其ノ永代借地ニ對シ各國居留地內ノ同種ノ永代借地ニ準シ一百米突ニ付年額一等地及二等地金六圓三等地金貳圓ノ借地料チ納付スヘシ該借地及其ノ上ニ在ル家屋ニ對スル賦課金租稅及公課ニ關スル事項ニ付テハ各國居留地內ノ永代借地ニ關スルモノト全然同一ノ取扱チ爲スモノトス

第四條　永代借地權チ所有權ニ變更シタルトキハ其ノ土地及其ノ上ニ在ル家屋ニ對スル賦課金租稅及公課ニ關シテハ帝國臣民及最惠國民ト同一ノ取扱チ爲スモノトス前記ノ變更ニ付テハ何等ノ租稅手數料又ハ取立金チ納ムルコトチ要セス

第五條　當該登記官署ハ前記永代借地權及之ニ關スル附隨的權利ノ登記チ爲スヘシ此ノ登記ハ法令ノ規定ニ從ヒ第三者ニ對抗スルコトチ得前記附隨的權利ニ關スル支那共和國領事館ニ現存スル登記ノ正本又ハ適法ナル謄本ハ之チ當該登記官署ニ引繼クモノトス此ノ引繼チ爲シタル登記ハ帝國法規ニ依リ其ノ效力チ認ムヘシ

第六條　支那共和國居留地ニ屬スル支那共和

國人民專用墓地ハ地方在留支那共和國人民ニ於テ當該帝國法規ノ規定ニ從ヒ之ヲ管理スルモノトス但シ右墓地ニ對シテハ何等ノ租稅及公課ヲ徵收セサルヘシ

本協定ハ兩國政府ノ承認ヲ經タル後實施スルモノトス

本協定ハ日本文支那文各二通ヲ作リ各本國政府ヨリ相當委任ヲ受ケタル下名ニ於テ之ニ記名調印スルモノナリ

大正二年十一月二十二日朝鮮京城ニ於テ

大日本帝國朝鮮總督府外事局長
小　松　綠　印

中華民國二年十一月二十二日朝鮮京城ニ於テ

大中華民國駐劄朝鮮總領事
富　士　英　印

●逃亡犯罪人引渡條約

明治四十四年九月
條約第十二號

脫福密願問ノ諮詢ヲ經テ明治四十四年六月一日東京ニ於テ日露兩國全權委員ノ署名調印シタル逃亡犯罪人引渡條約ヲ批准シ玆ニ之ヲ公布セシム

逃亡犯罪人引渡條約

日本國皇帝陛下及全露西亞國皇帝陛下ハ逃亡犯罪人ノ引渡ニ關スル條約ヲ締結スルコトニ決定シ日本國皇帝陛下ハ外務大臣正三位勳一等侯爵小村壽太郎ヲ全露西亞國皇帝陛下ハ日本國駐劄特命全權大使「メートル、ド、ラ、クールル」「セナトウル」「ニコラ、マレウスキー、マレウイツチ」テ其ノ全權委員ニ任命セリ因テ各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ其ノ良好妥當ナルヲ認メ以テ左ノ諸條ヲ協定セリ

第一條

締約國ノ一方ノ法權内ニ於テ第二條ニ規定セル犯罪アリタルカ爲刑事被告人ト爲リ又ハ有罪ノ判決ヲ受ケタル者他ノ一方ノ版圖内ニ於テ發見セラレタルトキハ兩締約國ハ本條約ニ規定セル事由、條件及制限ニ從ヒ互ニ之ヲ引渡スコトヲ約ス

第二條

引渡請求ノ原因タル犯罪カ締約國雙方ノ法令ニ依リ長期一年ヲ超ユル禁錮懲役以上ノ刑ニ該ルモノナルトキハ犯罪人ノ引渡ヲ爲ス但シ右ノ犯罪ニ付有罪ノ判決ヲ受ケタル者ニ在リテハ引渡請求國ニ於テ言渡シタル刑カ一年ノ禁錮懲役以上ナルトキニ限ル

第三條

締約國ハ互ニ自國ノ臣民及刑事司法一切ノ關係ニ於テ自國ノ臣民ト同視スル者ヲ引渡スノ義務ナシ

第四條

逃亡犯罪人引渡請求ノ原因タル行爲カ政治上ノ性質ヲ有スル犯罪ナルトキハ其ノ引渡ヲ爲サス但シ君主又ハ皇族ノ身體又ハ名譽ニ對スル行爲ハ政治上ノ性質ヲ有スル犯罪ト認メス

前項ノ場合ニ該當スルト否トニ付疑アルトキハ被請求國官憲ノ決定ヲ以テ最終トス

第五條

左ノ場合ニ於テハ逃亡犯罪人ノ引渡ヲ爲サス

一　被請求國ニ於テ引渡請求ノ原因タル犯罪ニ付審判ヲ經テ處罰若ハ釋放セラレタルトキ又ハ審判中ナルトキ

二　引渡ノ請求ヲ受クルニ先チ締約國ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル後ニ非サレハ其ノ引渡ヲ爲サス

第六條

締約國ノ一方ヨリ引渡ノ請求アリタル者引渡請求ノ原因タル行爲ト異ナル行爲ニ付他ノ一方ノ版圖内ニ於テ審判中ナルトキ又ハ刑ノ言渡アリタルトキハ法令ノ定ムル所ニ從ヒ刑ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル後ニ非サレハ其ノ引渡ヲ爲サス

第七條

締約國ノ一方ヨリ引渡ノ請求アリタル者引渡請求ノ原因タル行爲ト異ナル行爲ニ付他ノ一方ノ版圖内ニ於テ審判中ナルトキ又ハ刑ノ言渡アリタルトキハ法令ノ定ムル所ニ從ヒ刑ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル後ニ非サレハ其ノ引渡ヲ爲サス

第八條

犯罪人引渡ノ請求ハ外交機關ヲ經テ之ヲ爲ス

第九條

締約國ノ一方ヨリ引渡ノ請求アリタル者引渡請求ノ原因タル行爲ニ付他ノ一方ノ版圖内ニ於テ審判中ナルトキハ被請求國ノ引渡ニ關スル法令ニ依リ最先ノ順位ニ在ル國ニ引渡ヲ爲スヘシ

第十條

本條約ニ依リ引渡サレタル者ハ引渡請求ノ原因タル行爲ニ異ナル刑罰ニ處セラレ又ハ其ノ國ヨリ第三國ニ引渡サルルコトナカルヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

一　犯罪カ本條約ニ依リ引渡ノ原因タルヘキモノニシテ引渡國カ訴追及處罰又ハ第三國ヘノ引渡ニ同意シタルトキ

二　引渡サレタル者カ引渡ヲ受ケタル國ノ版圖ヲ去ルノ自由ヲ得タル後一月内ニ去ラサルトキ

第十二條

引渡サルヘキ者カ引渡請求ノ原因タル犯罪ニ付審判シ若クハ處刑セントスルノ目的ヲ以テ引渡ヲ請求シタリト認ムルトキハ其引渡ヲ爲ササルヘシ又引渡サレタル人ハ其引渡前ニ犯シタル政事上ノ犯罪ニ付審判若クハ處刑セラルルコト無ルヘシ

第十三條

引渡ノ請求ハ締約國相互ノ外交官ヲ經テ之ヲ爲スヘシ若シ外交官其國内又ハ其政府所在ノ地ニ駐留セサルトキハ高等領事官之ヲ爲スヘシ

已ニ有罪ノ宣告ヲ受ケタル逃亡人ノ引渡ヲ請求スルニハ其宣告ヲ爲シタル裁判所ノ證印アル宣告文寫其裁判官ノ職權ニ付相當行政官ノ證明書及ヒ其行政官ノ職權ニ付日本又ハ合衆國ノ公使若クハ領事ノ證明書ヲ添フヘシ若シ逃亡人告訴告發ヲ受ケタルノミナルトキハ請求國ニ於テ發シタル逮捕狀ノ公寫及其逮捕狀ヲ發スルノ根據トナリタル證據書類ノ公寫ヲ添フヘシ

逃亡人ノ引渡ハ之ヲ發見シタル國ニ於テ本罪ヲ犯シタルモノトセハ該國ノ法律ニ遵ヒ之ヲ逮捕シ及ヒ審判ニ付スヘキ刑事上ノ證據充分ナル場合ニ限ルモノトス

第六條　本條約第二條ニ揭ケル犯罪ニ付告訴ヲ受ケタル逃亡人逮捕ノ爲メ相當官吏ヨリ逮捕狀ヲ發シタル旨外交官ヲ經由シ電報ヲ以テ通知アリ且該逃亡人引渡ノ請求ハ追テ本條約ノ條款ニ從ヒ之ヲ爲スヘキ旨該外交官ヨリ保證シタルトキハ締約國政府ハ假ニ之ヲ逮捕シ相當ノ期限内卽チ二月ヲ超過セサル間之ヲ監禁シ其引渡請求ノ根據ト爲ルヘキ書類ノ提出ヲ待ツヘシ

第七條　締約國ハ本條約ノ條款ニ因リ互ニ其臣民ヲ引渡スノ義務ナキモノトス但其引渡

之ヲ交付スヘシ但シ其ノ物件ニ關スル第三者ノ權利ハ相當ニ尊重セラルヘシ

前項ノ物件ハ刑事被告人又ハ有罪ノ判決ヲ受ケタル者ノ死亡又ハ逃走ニ因リ其ノ既ニ決定アリタル引渡ヲ實行スルコト能ハサル場合ニ於テモ亦之ヲ交付スヘシ

第十三條

締約國ノ一方ハ他ノ一方ノ請求アリタルトキハ右他ノ一方カ第三國ヨリ引渡ヲ受ケタル犯罪人ノ版圖内通過ヲ許スヘシ但シ其ノ請求ヲ受ケタル國ニ於テ自國ノ版圖内ニ該犯罪人カ發見セラレタリトセハ本條約ニ依リ其ノ引渡ヲ爲スコトヲ要スヘキ場合ニ限ル

通過ノ請求ハ外交機關ヲ經テ之ヲ爲ス其ノ請求書ニハ前項但書ノ要件ヲ具備セルコトヲ言明スヘク且第三國ヨリ引渡ヲ爲スニ付發シタル引渡狀ノ公正謄本ヲ添附スヘシ

通過中ノ犯罪人ハ通過國官吏ノ管束ニ屬ス

第十四條

引渡及通過ニ關スル一切ノ費用ハ請求國ノ負擔トス

第十五條

本條約ハ批准書交換後二月ヲ經テ實施セラルヘシ兩締約國ノ一方ハ少クトモ六月以前ノ豫告ニ因リ之ヲ廢棄スルコトヲ得

本條約ハ之ヲ批准シ其ノ批准書ハ成ルヘク速ニ聖彼得堡ニ於テ交換セラルヘシ

右證據トシテ各全權委員ハ本條約ニ署名調印ス

明治四十四年六月一日卽露曆千九百十一年五月十九日(六月一日)東京ニ於テ本書二通ヲ作ル

小　村　壽　太　郎　印

ニコラ、マレウスキー、マレウイツチ

締約國ノ一方ハ他ノ一方ノ請求アリタルトキハ右他ノ一方カ第三國ヨリ引渡ヲ受ケタル犯罪人ノ版圖内通過ヲ許スヘシ但シ其ノ請求ヲ受ケタル國ニ於テ自國ノ版圖内ニ該犯罪人カ發見セラレタリトセハ本條約ニ依リ其ノ引渡ヲ爲スコトヲ要スヘキ場合ニ限ル

通過ノ請求ハ外交機關ヲ經テ之ヲ爲ス其ノ請求書ニハ前項但書ノ要件ヲ具備セルコトヲ言明スヘク且第三國ヨリ引渡ヲ爲スニ付發シタル引渡狀ノ公正謄本ヲ添附スヘシ

通過中ノ犯罪人ハ通過國官吏ノ管束ニ屬ス

第十四條

引渡及通過ニ關スル一切ノ費用ハ請求國ノ負擔トス

第十五條

本條約ハ批准書交換後二月ヲ經テ實施セラルヘシ兩締約國ノ一方ハ少クトモ六月以前ノ豫告ニ因リ之ヲ廢棄スルコトヲ得

本條約ハ之ヲ批准シ其ノ批准書ハ成ルヘク速ニ聖彼得堡ニ於テ交換セラルヘシ

右證據トシテ各全權委員ハ本條約ニ署名調印ス

明治四十四年六月一日卽露曆千九百十一年五月十九日(六月一日)東京ニ於テ本書二通ヲ作ル

小　村　壽　太　郎　印

ニコラ、マレウスキー、マレウイツチ

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル日本國皇帝(御名)此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕明治四十四年六月一日東京ニ於テ帝國全權委員カ露西亞國全權委員ト共ニ署名調印シタル日露逃亡犯罪人引渡條約ヲ閱覽點檢シ之ヲ嘉納批准ス

神武天皇卽位紀元二千五百七十一年明治四十四年七月十一日東京宮城ニ於テ親ラ名ヲ署シ

璽ヲ鈐セシム

御　名　國　璽

外務大臣　侯爵小村壽太郎

附屬宣言書

本日日本國露西亞國間逃亡犯罪人引渡條約ノ調印ヲ爲スニ當リ下名ノ全權委員ハ左ノ宣言ヲ協定セリ

一　前記逃亡犯罪人引渡條約中版圖トアルハ締約國ノ主權又ハ專屬的管治ノ下ニ在ル地域ヲ謂ヒ法權内トアルハ右版圖及締約國ノ裁判權ヲ行フ領圍ヲ謂フ

二　前記條約ニ於テ刑事被告人トアルハ裁判確定前ノ逃亡犯罪人ヲ謂ヒ有罪ノ判決ヲ受ケタル者トアルハ判決確定後ノ逃亡犯罪人ヲ謂フ

三　此ノ宣言ハ之ヲ以テ補充セル逃亡犯罪人引渡條約ト效力、價値及存續期間ヲ同シクシ右條約ノ批准セラレタルトキハ此ノ宣言ハ別ニ正式ノ批准ヲ要セシテ亦均シク承認セラレタルモノト看做サルヘシ

右證據トシテ各全權委員ハ本宣言書ニ署名調印ス

明治四十四年六月一日卽露曆千九百十一年五月十九日(六月一日)東京ニ於テ本書二通ヲ作ル

小　村　壽　太　郎　印

ニコラ、マレウスキー、マレウイツチ

●日米兩國犯罪人引渡條約

明治十九年十月
勅　令

脫帝國ト亞米利加合衆國トノ間ニ締結シタル兩國犯罪人引渡條約ヲ批准シ玆ニ之ヲ公布セシム

日本國亞米利加合衆國犯罪人引渡條約譯文

日本皇帝陛下及ヒ亞米利加合衆國大統領ハ兩國內竝ニ其管轄內ニ於テ司法事務ヲ益周到ナラシメ及ヒ犯罪ヲ防止センカ爲メ下ニ揭クル犯罪ニ付有罪ノ宣告若クハ告訴告發ヲ受ケ未タ處分ヲ經スシテ逃亡スル者ハ其情狀ニ據リ互ニ之ヲ引渡スノ便宜アルヲ認メ之ヲレカ爲メ條約ヲ締結スルコトニ決シ日本皇帝陛下ハ外務大臣伯爵井上馨ヲ亞米利加合衆國大統領ハ日本駐劄特命全權公使リチセード、ピー、ハッパートヲ各其全權委員ニ命セリ因テ雙方全權委員ハ互ニ其委任狀ヲ示シ誠實適式ナルヲ認メ左ノ條條ヲ議定ス

第一條　締約國一方ノ管轄內ニ於テ第二條ニ揭クル犯罪ニ付有罪ノ宣告若クハ告訴告發ヲ受ケタルノミナルトキハ其引渡ヲ爲スヘシ

第二條

一　謀殺、謀殺未遂犯、其ノ他殺人罪

二　貨幣ノ僞造若クハ變造、僞造若クハ變造貨幣ノ發行或ハ行使、公債證書、其利札、銀行紙幣、其他公衆ノ信用ヲ受クヘキ證書類ノ僞造竝ニ其ノ發行若クハ行使

三　文書ノ僞造若クハ變造竝ニ其行使

四　監守盜卽チ官吏又ハ監守人締約國一方ノ管轄內ニ於テ公金ヲ私用スル罪竝ニ傭主ノ損害トナルヘキ被傭人ノ監守盜

五　强盜若クハ五拾弗以上ノ竊盜

六　重刑ニ當ル罪ヲ犯ス目的ヲ以テ夜間若クハ晝間他人ノ家宅ヲ破壞シ之ニ侵入スル罪

七　重刑ニ當ル罪ヲ犯ス目的ヲ以テ夜間若クハ晝間他人ノ家宅ヲ破壞シ之ニ侵入スル罪

八　僞證及僞證敎唆

九　强姦

十　放火

十一　國際法ニ於テ海賊ト認ムル罪

十二　引渡ヲ請求スル國ノ旗章ヲ揭ケタル船舶大洋航行中其ノ船內ニ於テ犯シタル謀殺、謀殺未遂犯、及ヒ其他殺人罪

十三　惡意ヲ以テ鐵道、馬車鐵路、船舶、橋梁、家屋及ヒ公用建物竝ニ其他ノ建物ヲ破壞若クハ破壞セント謀リ其所爲人命ニ危害ヲ生スヘキモノ

十四　銀行營業者、受托人、銀行若クハ財產管理會社ノ頭取役員ノ詐僞ニシテ現行法律ニ據リ罪トナルヘキモノ

第三條　請求ニ係ル人引渡ノ請求ヲ受ケタル國ニ於テ審判中ナルトキハ之ヲ引渡スト雖キ之ヲ審判ノ結果ニ因リ其犯罪ニ付無罪ト判決セラレタルトキ又ハ其刑ノ執行ヲ免除セラレタルトキハ此限ニ在ラス

第四條　請求ニ係ル人引渡ノ請求ヲ受ケタル國ニ於テ其人ノ犯罪ニ付審判若クハ處刑セントスルノ目的ヲ以テ引渡ヲ請求シタリト認ムルトキハ其引渡ヲ爲ササルヘシ又引渡サレタル人ハ其引渡前ニ犯シタル政事上ノ犯罪ニ付審判若クハ處刑セラルルコト無ルヘシ

第五條　引渡ノ請求ハ締約國相互ノ外交官ヲ經テ之ヲ爲スヘシ若シ外交官其國內又ハ其政府所在ノ地ニ駐留セサルトキハ高等領事官之ヲ爲スヘシ

已ニ有罪ノ宣告ヲ受ケタル逃亡人ノ引渡ヲ請求スルニハ其宣告ヲ爲シタル裁判所ノ證印アル宣告文寫其裁判官ノ職權ニ付相當行政官ノ證明書及ヒ其行政官ノ職權ニ付日本又ハ合衆國ノ公使若クハ領事ノ證明書ヲ添フヘシ若シ逃亡人告訴告發ヲ受ケタルノミナルトキハ請求國ニ於テ發シタル逮捕狀ノ公寫及其逮捕狀ヲ發スルノ根據トナリタル證據書類ノ公寫ヲ添フヘシ

逃亡人ノ引渡ハ之ヲ發見シタル國ニ於テ本罪ヲ犯シタルモノトセハ該國ノ法律ニ遵ヒ之ヲ逮捕シ及ヒ審判ニ付スヘキ刑事上ノ證據充分ナル場合ニ限ルモノトス

第六條　本條約第二條ニ揭クル犯罪ニ付告訴ヲ受ケタル逃亡人逮捕ノ爲メ相當官吏ヨリ逮捕狀ヲ發シタル旨外交官ヲ經由シ電報ヲ以テ通知アリ且該逃亡人引渡ノ請求ハ追テ本條約ノ條款ニ從ヒ之ヲ爲スヘキ旨該外交官ヨリ保證シタルトキハ締約國政府ハ假ニ之ヲ逮捕シ相當ノ期限內卽チ二月ヲ超過セサル間之ヲ監禁シ其引渡請求ノ根據ト爲ルヘキ書類ノ提出ヲ待ツヘシ

第七條　締約國ハ本條約ノ條款ニ因リ互ニ其臣民ヲ引渡スノ義務アルモノトス但其引渡ヲ至當ト認ムルトキハ之ヲ引渡スコトヲ得ヘシ

第八條　被告人ノ逮捕監禁訊問及ヒ送致ノ費用ハ其引渡ヲ請求シタル政府ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

第九條　本條約ハ其批准交換後六十日ヲ經テ效力ヲ有スヘシ而シテ締約國ノ一方ニ於テ之ヲ廢止スルコトヲ得ヘシ雖モ其廢止ノ通知ヲ爲シタル後六月間ハ仍ホ其效力ヲ存スヘシ

本條約ハ可成速ニ批准シ華聖頓府ニ於テ其批准ヲ交換スヘシ

右確證トシテ雙方ノ全權委員ハ各本條約二通ニ署名調印スルモノナリ

明治十九年四月二十九日卽チ西曆第一千八百八十六年四月二十九日東京ニ於テ書ス

井　上　馨

リチヤード、ピー、ハッパード

亞米利加合衆國政府ハ前條約ニ左ノ修正ヲ爲サンコトヲ請求セリ

第二條第一項「謀殺、謀殺未遂犯、其他殺人罪」トアルヲ「謀殺殺及ヒ其未遂犯」ト改ム

同條第四項「私用スル罪」ノ下「竝ニ傭主云云」ノ十九字ヲ削除ス

同條第五項「强盜」ノ下「若クハ五拾弗以上ノ竊盜」ノ十一字ヲ削除

同條第十四項全文ヲ削除ス

第四條中「其引渡前ニ犯シタル政事上ノ犯罪」ノ下「若クハ其引渡ヲ許シタル犯罪ノ外」十五字ヲ追加ス

第六條中「相當官吏ヨリ」ノ下「妥當ノ證據ヲ以テ」ノ十三字竝ニ「電報」ノ下「又ハ其他書面」ノ六字及ヒ「締約國政府ハ」ノ下「法律ノ範圍內ニ於テ」ノ九字ヲ追加ス

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル日本國皇帝此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

帝國及亞米利加合衆國兩全權委員ノ締結記名調印シタル兩國犯罪人引渡條約及ヒ亞米利加合衆國政府ノ發議ニ係ル該條約ノ修正事項ヲ朕親シク閱覽點檢セシニ能ク朕カ意ニ適シ間然スル所ナキヲ以テ總テ之ヲ嘉納批准シ日本

帝國ニ於テ該修正ヲ加ヘタル兩國犯罪人引渡條約ヲ履行遵奉セシムルコトヲ玆ニ約ス

神武天皇即位紀元二千五百四十六年明治十九年九月二十五日東京帝宮ニ於テ親カラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名御璽

外務大臣　伯爵井上　馨

西曆千八百八十六年四月二十九日東京ニ於テ日本帝國及ヒ亞米利加合衆國ノ兩全權委員カ調印シタル犯罪人引渡條約ニ華聖頓府ニ於テ其批准ヲ交換スヘキノ明文アリト雖モ兩締約國ハ其批准ヲ東京ニ於テ交換スルコトニ議定シ又條約ノ末文ニ西曆第一千八百八十六年四月二十九日東京ニ於テ書スト明文アリト雖モ兩締約國ハ之ヲ西曆千八百八十六年四月二十九日東京ニ於テ書スト解スルコトニ議定シタリ因テ今下ニ連署シタル兩名ハ本件ニ關シ各其政府ヨリ委任ヲ受ケ右條約批准交換ノ爲メ互ニ相會同シ雙方ノ批准ヲ精密ニ比照セシニ孰レモ能ク符合スルヲ以テ定式ニ隨ヒ本日之ヲ交換セリ

右證トシテ下ニ連署シタル兩名ハ此交換證書ニ其名ヲ記シ印ヲ鈐ス

西曆千八百八十六年九月二十七日東京ニ於テ

井上　馨

リチヤード、ビー、ハツバード

明治三十九年九月十一日

勅令

朕明治三十九年五月十七日東京ニ於テ朕カ全權委員ト亞米利加合衆國全權委員ノ記名調印シタル日米間追加犯罪人引渡條約ヲ批准シ玆ニ之ヲ公布セシム

日本國皇帝陛下及亞米利加合衆國大統領ハ兩國ノ領土内竝其ノ管轄内ニ於テ司法事務ヲ一層周到ナラシメ且犯罪ヲ防止セムカ爲明治十九年四月二十九日即西曆千八百八十六年四月二十九日兩國間ニ締結セル條約ニ依リ犯罪人引渡ヲ爲スヘキ犯罪ノ項目中ニ委託ニ係ル私人ノ金錢又ハ財產ヲ費消シタル罪及竊盜罪ヲ追加セムト欲シ之カ爲追加條約ヲ締結スルコトニ決シ日本國皇帝陛下ハ外務大臣正二位勳一等侯爵西園寺公望ヲ亞米利加合衆國大統領ハ日本國駐劄臨時代理公使「ハンチングトン、ウヰルソン」ヲ各其ノ全權委員ニ任命セリ因テ各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ其ノ良好妥當ナルヲ認メ以テ左ノ條項ヲ協議決定セリ

前記明治十九年四月二十九日即西曆千八百八十六年四月二十九日ノ條約第二條第一項乃至第十三項ニ列擧セラレタル犯罪人引渡ヲ爲スヘキ犯罪ノ項目ニ左ノ犯罪ヲ追加ス

一　費消ニシテ其ノ費消ニ係ル金額又ハ財產ノ價格四百圓又ハ貳百弗ヨリ少カラサルモノ

一　一年以上ノ禁錮ニ處セラルヘキ竊盜又ハ一年以上ノ禁錮ニ處スルノ宣告アリタル竊盜

本條約ハ之ヲ批准シ其ノ批准ハ成ルヘク速ニ東京ニ於テ交換スヘシ

本條約ハ其ノ批准交換後十日ヲ經テ效力ヲ生シ前記明治十九年四月二十九日即西曆千八百八十六年四月二十九日ノ條約ト同樣ニ繼續終了ス

右證據トシテ各全權委員ハ本條約各二通ニ記名調印スルモノナリ

明治三十九年五月十七日即西曆千九百六年五月十七日東京ニ於テ日本文及英文ニテ認メタル本書各二通ヲ作ル

侯爵西園寺公望印

ハンチングトン、ウヰルソン印

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル日本國皇帝（御名）此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕帝國ト亞米利加合衆國トノ間ニ日米間犯罪人引渡ニ關シ明治三十九年五月十七日東京ニ於テ兩國全權委員ノ記名調印シタル追加條約ノ各條目ヲ親シク閱覽點檢シタルニ善ク朕ノ意ニ適シ間然スル所ナキヲ以テ右條約ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百六十六年明治三十九年九月二十二日東京宮城ニ於テ親ラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名御璽

外務大臣　子爵林董印

勅令

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ明治四十四年六月二日亞米利加合衆國ニ於テ帝國全權委員カ關係各國全權委員ト共ニ署名シタル千九百年十二月十四日菲律悉及千九百十一年六月二日華盛頓ニ於テ改正セラレタル工業所有權保護ニ關スル千八百八十三年三月二十日ノ巴里同盟條約及附屬議定書ヲ批准シ玆ニ之ヲ公布セシム

千九百年十二月十四日菲律悉及千九百十一年六月二日華盛頓ニ於テ改正セラレタル工業所有權保護ニ關スル千八百八十三年三月二十日ノ巴里同盟條約及附屬議定書ヲ批准シ玆ニ之ヲ公布セシム

大正二年四月

條約第二號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ明治四十四年六月二日亞米利加合衆國ニ於テ帝國全權委員カ關係各國全權委員ト共ニ署名シタル千九百年十二月十四日菲律悉及千九百十一年六月二日華盛頓ニ於テ改正セラレタル工業所有權保護ニ關スル千八百八十三年三月二十日ノ巴里同盟條約及附屬議定書ヲ批准シ玆ニ之ヲ公布セリ

前記明治十九年四月二十九日即西曆千八百八十六年四月二十九日ノ條約第二條第一項乃至第十三項ニ列擧セラレタル犯罪人引渡ヲ爲スヘキ犯罪ノ項目ニ左ノ犯罪ヲ追加ス

一　費消ニシテ其ノ費消ニ係ル金額又ハ財產ノ價格四百圓又ハ貳百弗ヨリ少カラサルモノ

一　一年以上ノ禁錮ニ處セラルヘキ竊盜又ハ一年以上ノ禁錮ニ處スルノ宣告アリタル竊盜

本條約ハ之ヲ批准シ其ノ批准ハ成ルヘク速ニ東京ニ於テ交換スヘシ

本條約ハ其ノ批准交換後十日ヲ經テ效力ヲ生シ前記明治十九年四月二十九日即西曆千八百八十六年四月二十九日ノ條約ト同樣ニ繼續終了ス

右證據トシテ各全權委員ハ本條約各二通ニ記名調印スルモノナリ

明治三十九年五月十七日即西曆千九百六年五月十七日東京ニ於テ日本文及英文ニテ認メタル本書各二通ヲ作ル

侯爵西園寺公望印

ハンチングトン、ウヰルソン印

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル日本國皇帝（御名）此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕帝國ト亞米利加合衆國トノ間ニ日米間犯罪人引渡ニ關シ明治三十九年五月十七日東京ニ於テ兩國全權委員ノ記名調印シタル追加條約ノ各條目ヲ親シク閱覽點檢シタルニ善ク朕ノ意ニ適シ間然スル所ナキヲ以テ右條約ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百六十六年明治三十九年九月二十二日東京宮城ニ於テ親ラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名御璽

外務大臣　伯爵井上　馨

千九百年十二月十四日菲律悉及千九百十一年六月二日華盛頓ニ於テ改正セラレタル工業所有權保護ニ關スル千八百八十三年三月二十日ノ巴里同盟條約及附屬議定書ヲ批准シ玆ニ之ヲ公布セシム

大正二年四月

條約第二號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ明治四十四年六月二日亞米利加合衆國ニ於テ帝國全權委員カ關係各國全權委員ト共ニ署名シタル千九百年十二月十四日菲律悉及千九百十一年六月二日華盛頓ニ於テ改正セラレタル工業所有權保護ニ關スル千八百八十三年三月二十日ノ巴里同盟條約及附屬議定書ヲ批准シ玆ニ之ヲ公布セシム

馬德里技術學校長ドン、ブアシ、ブロレス、ポサダ

亞米利加合衆國大統領

特許局長エドワード、プリュース、ムーア

合衆國高等法院及紐育州高等法院附辯護士フレデリック、ヒー、ブイツシュ

前特許局長前「コロンビア」州控訴院判事合衆國高等法院及紐育州高等法院附辯護士チャールス、エッチ、デュエル

合衆國高等法院及「イリノイス」州高等法院附辯護士ロバート、エッチ、バーキンソン

合衆國高等法院附辯護士メルヴィル、チヤーチ

佛蘭西共和國大統領

米國駐劄大使館參事官ル　フェーヴルポンタリ

工業所有權局長ジョールジュ、ブルトン

羅馬馬德里及菲律悉工業所有權保護同盟會議代表者巴里控訴院附辯護士ミジエル、ベルテイエ

巴里控訴院附辯護士ジョールジュ、マイヤール

大不列顚愛蘭聯合王國大不列顚海外領土皇帝印度皇帝陛下

米國駐劄大使館參事官アルフレッド、ミッチエル、メインネス

前商業勞働及統計局長「サー」アルフレッド、ペートマン

特許意匠及商標長官ダブルユ、テンプル、フランクス

伊太利國皇帝陛下

米國駐劄大使館參事官ラザロ、デー、マルケシ、ネグロット、カンピアソ

農工商務省監督官技師「エミリオ、ヴェネチアン

米國駐劄大使館附商務官「ドクトル」ジオヴァンニ、パティスタ、ツエツカ

日本國皇帝陛下

米國駐劄大使館參事官松井慶四郎

特許局長中松盛雄

墨西哥合衆國大統領

特許局長技師ホセ、デラス、ブエンテス

諾威國皇帝陛下

米國駐劄公使館書記官エル、アウベルト

和蘭國皇帝陛下

工業所有權局長司法省參事官「ドクトル」エフ、ドブルヴェ、ジエ、スニーデル、ファン、ウィッセンケルケ

葡萄牙國假政府大統領

米國駐劄特命全權公使子爵ド、アルト

塞爾比亞國皇帝陛下

瑞典國皇帝陛下

米國駐劄特命全權公使伯爵アルベルト、エーレンスヴェルド

瑞西聯邦政府

米國駐劄特命全權公使パウル、リッテル

「ベルヌ」聯邦智能所有權局次長ド　ブルヴェ、クラフト

米國駐劄公使館書記官アンリー、マルタン

佛蘭西共和國大統領

米國駐劄大使館一等書記官ド、ペレッティ、ド、ロッカ（突尼斯國ノ爲）

因テ各全權委員ハ互ニ其委任狀ヲ示シ之カ良好妥當ナルヲ認メタル後左ノ諸條ヲ協定セリ

第一條

締約國ハ工業所有權保護ノ爲玆ニ同盟ヲ組織スヘシ各締約國ノ臣民又ハ人民ハ他ノ總テノ同盟國ノ臣民又ハ人民ニ對シ不正競爭ノ取締ニ關シ各其ノ國法カ内國人ニ對シ現ニ許與シ又ハ將來許與スヘキ利益ヲ享受スヘシ故ニ該臣民又ハ人民ハ内國人ノ遵由スヘキ手續及條件ヲ遵守スルニ於テハ内國人ト同一ノ保護ヲ受ケ其ノ權利ノ侵害ニ對シテモ亦總テ内國人ト同一ノ訴權ヲ有スヘシ但シ保護ヲ受ケムトスル國内ニ住所又ハ營業所ヲ有スヘキ何等ノ義務ヲモ同盟國人ニ課スルコトヲ得ス

第三條

同盟ニ加入セサル國ノ臣民又ハ人民ニシテ同盟國中ノ一國ノ版圖内ニ住所ヲ有シ又ハ現實且眞誠ナル工業的若ハ商業的營業所ヲ有スル者ハ締約國ノ臣民又ハ人民ニ準スヘキモノトス

第四條

甲　締約國中ノ一國ニ於テ合式ニ發明ノ特許出願、實用新案、工業的意匠若ハ雛形又ハ製造標若ハ商標ノ登錄出願ヲ爲シタル者又ハ其ノ承繼人ハ他ノ締約國ニ於テ出願ヲ爲スニ當リ第三者ノ權利ヲ留保シテ下ニ定ムル期間優先權ヲ享有スヘシ

乙　故ニ右期間滿了前他ノ締約國ニ於テ爲シタル後ノ出願ハ其ノ中間ニ於テ遂行セラレタル事實殊ニ他ノ出願アリタルコト、其ノ發明ヲ公ニシ若ハ實施シタルコト、意匠若ハ雛形ノ模本ヲ發賣シタルコト又ハ標章ヲ使用シタルコトニ因リ無效ト爲ルコトナシ

丙　前記優先權ノ期間ハ發明特許及實用新案ニ在リテハ十二月、工業的意匠又ハ雛形及製造標又ハ商標ニ在リテハ四月トス

丁　先ノ出願ニ基ク優先權ヲ主張セムトスル者ハ該出願ノ日附及國名ヲ示シタル宣言ヲ爲スノ義務ヲ有ス各國ハ何時迄ニ右ノ宣言ヲ爲スヘキカヲ定ムヘシ其ノ宣言事項ハ當該官廳ヨリ發行スル刊行物殊ニ特許及其ノ明細書ニ關スル刊行物ニ揭載スヘシ各締約國ハ優先權ノ宣言ヲ爲ス者ニ對シ當該官廳ノ認許ヲ經タル後ニ非サレハ其ノ效ヲ認メサルコトヲ得

第五條

特許證主カ他ノ同盟國ニ於テ製造シタル物品ニ對シ特許ヲ得タル國ニ輸入スルモ之カ爲ニ特許失權ヲ來スコトナシ

然レトモ特許證主ハ其ノ特許品ヲ輸入スル國ノ法律ニ從ヒ其ノ特許ヲ實施スルノ義務アルモノトス但シ特許ハ同盟國中ノ一國ニ於テハ其ノ國ニ出願ヲ爲シタル日ヨリ起算シテ三年ヲ經過シ且特許證主カ其ノ不作爲ノ事由ヲ疏明セサル場合ノ外ハ不實施ヲ理由トシテ失權ヲ受クルコトナシ

第六條

總テ本國ニ於テ合式ニ登錄ヲ受ケタル製造標又ハ商標ハ他ノ同盟國ニ於テモ其ノ儘出願ヲ許容シ且保護ヲ與フヘシ

然レトモ左ニ揭クル標章ハ之ヲ拒絕シ又ハ無效ト爲スコトヲ得

（朝）

内ニ於テ發明特許、實用新案、工業的意匠又ハ雛形、製造標又ハ商標、商號、原產地ノ表示及不正競爭ノ取締ニ關シ各其ノ國法カ内國人ニ對シ現ニ許與シ又ハ將來許與スヘキ利益ヲ享受スヘシ故ニ該臣民又ハ人民ハ内國人ノ遵由スヘキ手續及條件ヲ遵守スルニ於テハ内國人ト同一ノ保護ヲ受ケ其ノ權利ノ侵害ニ對シテモ亦總テ内國人ト同一ノ訴權ヲ有スヘシ但シ保護ヲ受ケムトスル國内ニ住所又ハ營業所ヲ有スヘキ何等ノ義務ヲモ同盟國人ニ課スルコトヲ得ス

第三條

同盟ニ加入セサル國ノ臣民又ハ人民ニシテ同盟國中ノ一國ノ版圖内ニ住所ヲ有シ又ハ現實且眞誠ナル工業的若ハ商業的營業所ヲ有スル者ハ締約國ノ臣民又ハ人民ニ準スヘキモノトス

第四條

甲　締約國中ノ一國ニ於テ合式ニ發明ノ特許出願、實用新案、工業的意匠若ハ雛形又ハ製造標若ハ商標ノ登錄出願ヲ爲シタル者又ハ其ノ承繼人ハ他ノ締約國ニ於テ出願ヲ爲スニ當リ第三者ノ權利ヲ留保シテ下ニ定ムル期間優先權ヲ享有スヘシ

乙　故ニ右期間滿了前他ノ締約國ニ於テ爲シタル後ノ出願ハ其ノ中間ニ於テ遂行セラレタル事實殊ニ他ノ出願アリタルコト、其ノ發明ヲ公ニシ若ハ實施シタルコト、意匠若ハ雛形ノ模本ヲ發賣シタルコト又ハ標章ヲ使用シタルコトニ因リ無效ト爲ルコトナシ

丙　前記優先權ノ期間ハ發明特許及實用新案ニ在リテハ十二月、工業的意匠又ハ雛形及製造標又ハ商標ニ在リテハ四月トス

丁　先ノ出願ニ基ク優先權ヲ主張セムトスル者ハ該出願ノ日附及國名ヲ示シタル宣言ヲ爲スノ義務ヲ有ス各國ハ何時迄ニ右ノ宣言ヲ爲スヘキカヲ定ムヘシ其ノ宣言事項ハ當該官廳ヨリ發行スル刊行物殊ニ特許及其ノ明細書ニ關スル刊行物ニ揭載スヘシ各締約國ハ優先權ノ宣言ヲ爲ス者ニ對シ當該官廳ノ認許ヲ經タル後ニ非サレハ其ノ效ヲ認メサルコトヲ得

第五條

特許證主カ他ノ同盟國ニ於テ製造シタル物品ニ對シ特許ヲ得タル國ニ輸入スルモ之カ爲ニ特許失權ヲ來スコトナシ

然レトモ特許證主ハ其ノ特許品ヲ輸入スル國ノ法律ニ從ヒ其ノ特許ヲ實施スルノ義務アルモノトス但シ特許ハ同盟國中ノ一國ニ於テハ其ノ國ニ出願ヲ爲シタル日ヨリ起算シテ三年ヲ經過シ且特許證主カ其ノ不作爲ノ事由ヲ疏明セサル場合ノ外ハ不實施ヲ理由トシテ失權ヲ受クルコトナシ

第六條

總テ本國ニ於テ合式ニ登錄ヲ受ケタル製造標又ハ商標ハ他ノ同盟國ニ於テモ其ノ儘出願ヲ許容シ且保護ヲ與フヘシ

然レトモ左ニ揭クル標章ハ之ヲ拒絕シ又ハ無效ト爲スコトヲ得

一　保護ヲ受ケムトスル國ニ於ケル第三者ノ既得權ヲ害スヘキ性質ノ標章

二　特別顯著ノ性質ヲ具備セサル標章及商品ノ種類、品質、分量、用途、價格、出所若ハ製產ノ時期ヲ示ス爲商業上使用スルコトヲ得ル記號若ハ表示ヲ以テ專ラ組成シタル記號若ハ表示ヲ以テ專ラ組成シタル標章

標章ノ特別顯著ナル性質ヲ判別スルニ當リテハ事實上ノ一切ノ事情殊ニ標章ノ使用期間ヲ斟酌スヘシ

三　道德又ハ公ノ秩序ニ反スル標章

出願人ノ主タル營業所ノ所在國ハ之ヲ其ノ本國ト看做ス

主タル營業所カ同盟國中ノ一國ニ在ラサルトキハ出願人ノ屬スル國ヲ以テ本國ト看做ス

第七條

製造標又ハ商標ヲ附スヘキ製產物ノ性質ハ如何ナル場合ニ於テモ標章出願ノ妨害ト爲ルコトナシ

第七條ノ二

締約國ハ團體ニシテ其ノ存在カ本國法ニ違反セサルモノニ屬スル標章ノ出願ヲ許容シ且保護ヲ與フヘキヲ約スル其ノ工業的又ハ商業的營業所ヲ有セサルモノト雖亦同シ

團體カ其ノ標章ノ保護ヲ受クルニ必要ナル特別條件ハ各其ノ國ノ定ムル所ニ依ル

第八條

商號ハ製造標又ハ商標ノ一部ヲ成スト否トニ拘ラス出願ヲ要スルコトナクシテ各同盟國內ニ於テ保護セラルヘシ

第九條

製造標若ハ商標又ハ商號ヲ不正ニ附シタル製產物ハ其ノ標章又ハ商號カ法律上ノ保護ヲ受クヘキ同盟國內ニ輸入ノ際之ヲ差押ヲ許サルル國ニ於テハ各締約國ハ右期限後一月ヲ經テ批准ヲ爲シタル國ノ間ニ實施セラルヘシ

本條約ハ批准ヲ要ス其ノ批准書ハ遲クトモ千九百十三年四月一日迄ニ華盛頓ニ之ヲ寄託スヘク本條約ハ右期限後一月ヲ經テ批准ヲ爲シタル國ノ間ニ實施セラルヘシ

本條約及最終議定書ハ之ヲ批准シタル國ノ間ニ於テハ千八百八十三年三月二十日ノ巴里條約同附屬最終議定書、萬國事務局ノ經費分擔ニ關スル千八百九十一年四月十五日ノ馬德里議定書及千九百年十二月十四日ノ菲律悉追加條約ニ代ハルモノトス但シ本條約ノ批准ヲ爲ササル國ノ間ニ於テハ前記諸條約ハ仍其ノ效力ヲ有ス

第十九條

本條約ハ一通ノ正本ニ署名シテ之ヲ合衆國記錄局ニ寄託シ合衆國政府ハ其ノ認證謄本一通ヲ各同盟國政府ニ交付ス

右證據トシテ各全權委員本條約ニ署名ス

千九百十一年六月二日華盛頓ニ於テ本書一通ヲ作ル

獨逸國
ハニエール、フォン、ハイム　ハウセン

ハー、ロボルスキ

アルベルト、オステルリート

埃地利國及洪牙利國
埃地利洪牙利國大使男爵ド、ヘンダルミュルラー

埃地利國
部長及發明特許局長「ドクトル」ボール、シュヴァリエー、ベック、ド、マンナゲッタ、エ、レルケナウ

洪牙利國
發明特許局參事官エルメール、ド、ボンペリー

白耳義國
ジェ、ブリュネ
ジョールジュ、ド、ロー

佰剌西爾國
エル、デ、リマ、エ、シルヴァ

玖瑪國
アントニオ、マルティン、リヴェロ

丁抹國
ジェ、クラン

「ドミニカ」共和國
エミリオ、セ、ジューベル

西班牙國
ファン、リアニョ、イ、ガイヤンゴス
ジェ、フロレス、ポサダ

亞米利加合衆國
エドワード、デュリュース、ムーア
メルヴィル、チャーチ
チャールス、エッチ、デュエル
ロバート、エッチ、パーキンソン
フレデリック、ピー、フィッシュ

佛蘭西國
ピエール、ルフェーヴルポンタリ
ジ、ブルトン
ミシエル、ペルテイエ
ジョールジュ、マイーヤール

大不列顛國
エ、ミッチェル、インネス
エ、イ、ペートマン
ダブルユ、テンプル、フランクス

伊太利國
ラザロ、ネグロット、カンピアソ
エミリオ、ヴェネチアン
ジ、ピ、ツエッカト

日本國
松井慶四郎
中松盛雄

墨西哥合衆國
ジェ、デラス、フエンテス

諾威國
ルードウィッグ、ブウベルト

和蘭國
スニーデル、ファン、ウィッセンケルケ

葡萄牙國
カピテース

子爵ジェ、エフ、アッシュ、エム、ダ、フランカ、ド、アルト

塞爾比亞國
……

瑞典國
アルベルト、エーレンスヴェルド

瑞西國
ペ、リッテル

ドアルヴェングラフト
アンリー、マルダン

突尼斯國
エ、ド、ベレッティ、ド、ラ、ロッカ

最終議定書

本日締結シタル本條約ニ署名スルニ當リ下ニ署名シタル全權委員ハ左ノ事項ヲ協定セリ

第一條ニ付

「工業所有權」ナル語ハ其ノ最廣キ意味ニ解スヘク農產業（葡萄酒、穀物、果實、畜類其ノ他）及採取產業（鑛物、鑛泉其ノ他）ノ範圍ニ屬スル一切ノ生產物ニモ及フモノトス

第二條ニ付

甲　發明特許ナル名稱ノ中ニハ製造方法ニ關スルト生產物ニ關スルトヲ問ハス締約國ノ國法ニ依リ許與セラレタル諸種ノ工業的特許卽チ輸入特許改良特許等ヲ包含ス

乙　同盟國民ニ對シ住所及營業所ヲ有スル義務ヲ免除スル第二條ノ規定ハ解釋的性質ヲ有スルモノトス從テ該規定ハ本條約ノ實施前千八百八十三年三月二十日ノ條約ニ基キ發生シタル一切ノ權利ニ適用スルモノトス

丙　第二條ノ規定ハ訴訟手續及裁判管轄竝特許法、實用新案法、商標法等ニ於テ必要トスル住所ノ選定又ハ代理人ノ選任ニ關スル各締約國ノ法律ニ何等ノ影響ヲ及ホササルモノトス

第四條ニ付

實用新案ノ出願ニ基ク優先權ニ依リ一國ニ於テ工業的意匠又ハ雛形ノ出願ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ優先期間ハ工業的意匠及雛形ニ付第四條ニ定メタル優先期間ニ同ス

第六條第一項ノ規定ハ出願人ヲシテ本國ノ當該官廳ヨリ受領シタル書類ヲ參照シ同盟ノ目的ニ關スル諸問題ヲ佛蘭西語ニテ記載シタル定期刊行物ヲ編纂スヘシ

右刊行物及萬國事務局ニ於テ發行スル他ノ一切ノ書類ハ下ニ記載スル經費分擔額ニ比例スル部數ヲ同盟國ノ官廳ニ配付スヘシ但シ右ノ部數以外ニ定期刊行物其ノ他ノ書類ヲ請求スル場合ニ於テハ前記官廳タルト團體又ハ個人タルトヲ問ハス別ニ代價ヲ支拂フヘキモノトス

萬國事務局ハ常ニ工業所有權ニ關スル國際事務問題ニ付同盟國ノ爲必要アル特殊報告ヲ供スルコトヲ怠ラサルヘク又其ノ所管事務ニ付每年報告書ヲ作リ之ヲ總テノ同盟國ニ報告スヘシ

萬國事務局ノ公用語ハ佛蘭西語トス

萬國事務局ノ經費ハ締約國ノ共同負擔トシ如何ナル場合ニ於テモ每年總額六萬法ヲ超過スルコトヲ得ス

經費總額ニ對シ各國ノ醵出割合ヲ定ムル爲締約國及將來同盟ニ加入スヘキ國ヲ六等ニ區分シ各等ノ醵出スヘキ部數ノ比例ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一等	二十五部
第二等	二十部
第三等	十五部
第四等	十部
第五等	五部
第六等	三部

右ノ系數ニ各等ノ國數ヲ乘シテ得タル積ノ和ヲ部ノ總數トシ之ヲ以テ經費總額ヲ除シタルモノヲ一部ニ對スル經費分擔額トス

各締約國ハ加入ノ際自國ノ加ハラムトスル等級ヲ指定スヘシ

瑞西聯邦政府ハ萬國事務局ノ支出ヲ監督シ必要ナル立替ヲ爲シ且每年出納ヲ計算シテ之ヲ他ノ總テノ締約國ノ官廳ニ報告スヘシ

第十四條

本條約ハ同盟制度ヲ完全ナラシムヘキ改良ヲ加ヘムカ爲時々改正ヲ施スヘシ

右ノ目的ヲ達スル爲締約國ノ委員ハ逐次其ノ一國ニ於テ會議ヲ開クヘキ國ノ官廳ハ萬國事務局ノ協力ニ依リ該會議ノ準備ヲ爲スヘシ

萬國事務局長ハ會議ニ列席シテ討議ニ加ハルコトヲ得ルモ表決權ヲ有セス

第十五條

締約國ハ本條約ノ規定ニ牴觸セサル限リ各國間互ニ工業所有權ノ保護ニ關スル特殊ノ取極ヲ爲スノ權利ヲ留保スルモノトス

第十六條

本條約ニ加入セサル國ハ其ノ請求ニ依リ之ニ加入スルコトヲ得

右ノ加入ハ外交上ノ手續ニ依リ瑞西聯邦政府ニ之ヲ通告シ該政府ハ更ニ之ヲ他ノ締約國ニ通告スヘシ

新ニ加入スル國ハ當然本條約ノ全部ニ贊同シタルモノトシ本條約ニ規定スル一切ノ利益ヲ享受スヘシ該加入ハ瑞西聯邦政府カ他ノ締約國ニ對シテ爲シタル通告ノ發送ヨリ一月ヲ經タル後其ノ效力ヲ生ス但シ加入國ニ於テ其ノ以後ノ日付ヲ指定シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十六條ノ二

締約國ハ其ノ殖民地、領土、屬地、保護領又ハ其ノ中ノ一部ノ爲何時ニテモ本條約ニ加入スルノ權利ヲ有ス

締約國ハ之カ爲其ノ總テノ殖民地、領土、屬地及保護領ヲ概括的ノ宣言ヲ以テ加入セシメ又ハ加入セシメルル部分ヲ明示的ニ指定シ若ハ加入セシメサル部分ノミヲ指定スルコトヲ得

右ノ宣言ハ書面ヲ以テ之ヲ瑞西聯邦政府ニ通告シ該政府ハ之ヲ他ノ總テノ同盟國ニ通告スヘシ

締約國ハ前同樣ノ條件ヲ以テ其ノ殖民地、領土、屬地、保護領又ハ其ノ中ノ一部ヲ爲本條約ヲ廢棄スルコトヲ得

第十七條

本條約ノ相互的約束ノ履行ニ付必要アルトキハ締約國ノ各其ノ憲法所定ノ條規ニ從ヒ成ルヘク速ニ相當ノ手續ヲ爲スヘシ

第十七條ノ二

本條約ハ廢棄ヲ爲シタル日ヨリ一年ノ期間滿了ニ至ルマテ其ノ效力ヲ有ス

右廢棄ハ瑞西聯邦政府ニ之ヲ通知スヘシ廢棄ハ之ヲ爲シタル國ニ對シテノミ其ノ效力ヲ生シ其ノ他ノ締約國間ニ於テハ本條約ハ仍其ノ效力ヲ有ス

第十八條

本條約ハ批准ヲ要ス其ノ批准書ハ遲クトモ千九百十三年四月一日迄ニ華盛頓ニ之ヲ寄託スヘク本條約ハ右期限後一月ヲ經テ批准ヲ爲シタル國ノ間ニ實施セラルヘシ

本條約及最終議定書ハ之ヲ批准シタル國ノ間ニ於テハ千八百八十三年三月二十日ノ巴里條約同附屬最終議定書、萬國事務局ノ經費分擔ニ關スル千八百九十一年四月十五日ノ馬德里議定書及千九百年十二月十四日ノ菲律悉追加條約ニ代ハルモノトス但シ本條約ノ批准ヲ爲ササル國ノ間ニ於テハ前記諸條約ハ仍其ノ效力ヲ有ス

第十九條

本條約ハ一通ノ正本ニ署名シテ之ヲ合衆國記錄局ニ寄託シ合衆國政府ハ其ノ認證謄本一通ヲ各同盟國政府ニ交付ス

右證據トシテ各全權委員本條約ニ署名ス

千九百十一年六月二日華盛頓ニ於テ本書一通ヲ作ル

獨逸國
ハニエール、フォン、ハイム　ハウセン

ハー、ロボルスキ

アルベルト、オステルリート

埃地利國及洪牙利國
埃地利洪牙利國大使男爵ド、ヘンダルミュルラー

埃地利國
部長及發明特許局長「ドクトル」ボール、シュヴァリエー、ベック、ド、マンナゲッタ、エ、レルケナウ

洪牙利國
發明特許局參事官エルメール、ド、ボンペリー

白耳義國
ジェ、ブリュネ
ジョールジュ、ド、ロー

佰剌西爾國
エル、デ、リマ、エ、シルヴァ

玖瑪國
アントニオ、マルティン、リヴェロ

丁抹國
ジェ、クラン

「ドミニカ」共和國
エミリオ、セ、ジューベル

西班牙國
ファン、リアニョ、イ、ガイヤンゴス
ジェ、フロレス、ポサダ

亞米利加合衆國
エドワード、デュリュース、ムーア
メルヴィル、チャーチ
チャールス、エッチ、デュエル
ロバート、エッチ、パーキンソン
フレデリック、ピー、フィッシュ

佛蘭西國
ピエール、ルフェーヴルポンタリ
ジ、ブルトン
ミシエル、ペルテイエ
ジョールジュ、マイーヤール

大不列顛國
エ、ミッチェル、インネス
エ、イ、ペートマン
ダブルユ、テンプル、フランクス

伊太利國
ラザロ、ネグロット、カンピアソ
エミリオ、ヴェネチアン
ジ、ピ、ツエッカト

日本國
松井慶四郎
中松盛雄

墨西哥合衆國
ジェ、デラス、フエンテス

諾威國
ルードウィッグ、ブウベルト

和蘭國
スニーデル、ファン、ウィッセンケルケ

葡萄牙國
カピテーヌ

子爵ジェ、エフ、アッシュ、エム、ダ、フランカ、ド、アルト

塞爾比亞國
……

瑞典國
アルベルト、エーレンスヴェルド

瑞西國
ペ、リッテル

ドアルヴェングラフト
アンリー、マルダン

突尼斯國
エ、ド、ベレッティ、ド、ラ、ロッカ

最終議定書

本日締結シタル本條約ニ署名スルニ當リ下ニ署名シタル全權委員ハ左ノ事項ヲ協定セリ

第一條ニ付

「工業所有權」ナル語ハ其ノ最廣キ意味ニ解スヘク農產業（葡萄酒、穀物、果實、畜類其ノ他）及採取產業（鑛物、鑛泉其ノ他）ノ範圍ニ屬スル一切ノ生產物ニモ及フモノトス

第二條ニ付

甲　發明特許ナル名稱ノ中ニハ製造方法ニ關スルト生產物ニ關スルトヲ問ハス締約國ノ國法ニ依リ許與セラレタル諸種ノ工業的特許卽チ輸入特許改良特許等ヲ包含ス

乙　同盟國民ニ對シ住所及營業所ヲ有スル義務ヲ免除スル第二條ノ規定ハ解釋的性質ヲ有スルモノトス從テ該規定ハ本條約ノ實施前千八百八十三年三月二十日ノ條約ニ基キ發生シタル一切ノ權利ニ適用スルモノトス

丙　第二條ノ規定ハ訴訟手續及裁判管轄竝特許法、實用新案法、商標法等ニ於テ必要トスル住所ノ選定又ハ代理人ノ選任ニ關スル各締約國ノ法律ニ何等ノ影響ヲ及ホササルモノトス

第四條ニ付

實用新案ノ出願ニ基ク優先權ニ依リ一國ニ於テ工業的意匠又ハ雛形ノ出願ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ優先期間ハ工業的意匠及雛形ニ付第四條ニ定メタル優先期間ニ同ス

第六條第一項ノ規定ハ出願人ヲシテ本國ノ當該官廳ヨリ下付セラレタル合式ナル登錄ノ證明書ヲ提出セシムルノ權利ヲ除外セサルモノトス

當該官憲ノ承認ヲ受ケサル公ノ紋章、徽章若クハ勳章ノ使用又ハ同盟國ノ監督用若ハ證明用ノ官ノ記號及刻印ノ使用ハ之ヲ以テ第六條第三號ノ意味ニ於ケル公ノ秩序ニ反スルモノト看做スコトヲ得

然レトモ當該官憲ノ承認ヲ受ケテ公ノ紋章、勳章又ハ徽章ノ複製ヲ包含セシメタル標章ハ公ノ秩序ニ反スルモノト看做サス

標章カ商標法ノ規定ニ適合セサルヲ唯一ノ理由トシテ公ノ秩序ニ反スルモノト看做スコトヲ得ス但シ其ノ規定カ公ノ秩序ニ關スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

本議定書ハ本日締結シタル本條約ト同時ニ批准セラルヘキモノニシテ右條約ノ一部ヲ成シ且之ト同一ノ效力、價値及期間ヲ有スルモノトス

右證據トシテ各全權委員本議定書ニ署名ス

千九百十一年六月二日華盛頓ニ於テ本書一通ヲ作ル

獨逸國
ハニエール、フォン、ハイム　ハウセン

ハー、ロボルスキ

アルベルト、オステルリート

男爵ド、ヘンダルミュルラー

「ドクトル」ボール、シュヴァリエー、ベック、ド、マンナゲッタ、エ、レルケナウ

エルメール、ド、ボンペリー

ジュ、ブリュネ
ジョールジュ、ド、ロー

カピテーヌ

エル、デ、リマ、エ、シルヴァ

ファン、リアニョ、イ、ガイヤンゴス

ファン、フロレス、ポサダ

エドワード、デュリュース、ムーア

メルヴィル、チャーチ

チャールス、エッチ、デュエル

フレデリック、ピー、フィッシュ
ロバート、エッチ、パーキンソン
エミリオ、セ、ジーユベル
ピエール、ルフェーヴルポンタリ
ミシェル、ペルティエ
ジ、プルトン
ジョールジュ、マイヤール
エ、ミッチェル、インネス
エ、イ、ベートマン
ダブルユ、テンプル、フランクス
ラザロ、ネグロット、カンピアソ
エミリオ、ヴェネチアン
ジ、ピ、ツェッカト
松井慶四郎
中松盛雄
ジェ、デ、ラス、フエンテス
スニーデル、ファン、ウィッセンケルケ
子爵ジュ、エフ、アッシュ、エム、ダ、フランカ、ド、アルト
アルベルト、エーレンスヴェルド
ペ、リッテル
ドブルヴェ、クラフト
アンリー、マルタン
エ、ド、ペレッティ、ド、ラ、ロッカ
ルードウィッグ、アウベルト
アントニオ、マルティン、リヴェロ

天祐ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル日本國皇帝（御名）此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕明治四十四年六月二日亞米利加合衆國華盛頓ニ於テ帝國全權委員カ關係各國全權委員ト共ニ署名シタル千九百年十二月十四日菲律悉及千九百十一年六月二日華盛頓ニ於テ改正セラレタル工業所有權保護ニ關スル千八百八十三年三月二十日ノ巴里同盟條約及附屬議定書ヲ閲覽點檢シ之ヲ嘉納批准ス

神武天皇卽位紀元二千五百七十三年大正二年二月二十八日青山離宮ニ於テ親ラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名　國璽

外務大臣　男爵牧野伸顯

●工業所有權保護ニ關スル巴里同盟條約及同附屬最終議定書ノ效力

大正二年八月　農商務省告示第二百六十四號

大正二年四月十日條約第二號ヲ以テ公布セラレタル千九百年十二月十四日菲律悉、千九百十一年六月二日華盛頓ニ於テ改正セラレタル工業所有權保護ニ關スル千八百八十三年三月二十日ノ巴里同盟條約及同附屬最終議定書ハ白耳義、伯剌西爾、玖瑪、丁抹及瑞典ノ五國ヲ除キ他ノ署名國間ニ於テ本年五月一日ヨリ其效力ヲ生シタリ

大正二年八月　農商務省告示第二百六十五號

大不列顛國ハ其ノ領土「ニュージーランド」、「錫蘭」竝「トリニダット」及「トバゴ」ノ爲千九百年十二月十四日菲律悉、千九百十一年六月二日華盛頓ニ於テ改正セラレタル工業所有權保護ニ關スル千八百八十三年三月二十日ノ巴里同盟條約ニ加入スヘキ旨申込タルヲ以テ同改正條約第十六條ノ規定ニ基キ本年六月二十日ヨリ加入ノ效力ヲ生スヘキ旨瑞西聯邦政府ヨリ通知アリタリ

大正三年九月　農商務省告示第二百四十九號

白耳義國ハ千九百年十二月十四日菲律悉、千九百十一年六月二日華盛頓ニ於テ改正セラレタル工業所有權保護ニ關スル千八百八十三年三月二十日ノ巴里同盟條約ニ加入スヘキ旨申込タルヲ以テ右加入ハ同改正條約第十六條ノ規定ニ基キ大正三年八月八日ヨリ其效力ヲ生スヘク且白耳義國ハ該加入申込ト共ニ改正條約第四條ノ二ニ規定スル特許ノ絶對的獨立ハ優先權ノ期間滿了後ニ出願シタル特許ニ適用セサルモノト解釋シ從テ外國ニ於テ既ニ特許ヲ受ケ優先權ノ期間滿了後白耳義國ニ出願シタルモノニシテ白耳義國特許法第十四條ニ依リ許與セラレタル特許ノ存續期間ハ外國ニ於テ與ヘラレタル特許ノ最長期間ヲ超ユルコトヲ得ス又優先權ノ期間滿了前ニ出願シタル特許ハ二十箇年ノ普通存續期間ヲ有スル特許ト看做シ原特許トハ絶對ニ獨立ノモノタルヘシトノ宣言ヲ爲シタル旨瑞西聯邦政府ヨリ通知アリタリ

大正三年十月　農商務省告示第二百九十八號

丁抹國ハ千九百年十二月十四日菲律悉、千九百十一年六月二日華盛頓ニ於テ改正セラレタル工業所有權保護ニ關スル千八百八十三年三月二十日ノ巴里同盟條約ニ加入スル旨申込タルヲ以テ右加入ハ同改正條約第十六號ノ規定ニ基キ大正三年九月二十六日ヨリ其效力ヲ生スヘク而シテ丁抹國ハ該同盟條約ニ「フェロエ」島ヲ加入セシメ「イスランド」、「グリーンランド」及丁抹領「アンチィユ」諸島ハ加入セシメサル旨ノ宣言ヲ爲シタル旨瑞西聯邦政府ヨリ通知アリタリ

大正四年一月　農商務省告示第二十六號

伯剌西爾合衆國ハ千九百年十二月十四日菲律悉、千九百十一年六月二日華盛頓ニ於テ改正セラレタル工業所有權保護ニ關スル千八百八十三年三月二十日ノ巴里同盟條約ニ加入スル旨申込ミタルヲ以テ右加入ハ同改正條約第十六條ノ規定ニ基キ大正三年十二月十七日ヨリ其ノ效力ヲ生スヘキ旨瑞西聯邦政府ヨリ通知アリタリ

●工業所有權相互保護ニ關スル日露條約

大正元年十一月　條約第一號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ明治四十四年六月二十三日東京ニ於テ日露兩國全權委員ノ署名調印シタル工業所有權相互保護ニ關スル日露條約ヲ批准シ玆ニ之ヲ公布セシム

工業所有權相互保護ニ關スル日露條約

日本國皇帝陛下及全露西亞國皇帝陛下ハ工業所有權ノ相互保護ヲ確保セムコトヲ欲シ之カ爲明治四十年七月二十八日（一千九百七年七月十五日）兩國ノ間ニ締結セラレタル通商航海條約第十六條ノ規定ニ依リ條約ヲ締結スルコトニ決定シ日本國皇帝陛下ハ外務大臣正三位勳一等侯爵小村壽太郎ヲ全露西亞國皇帝陛下ハ日本國駐箚特命全權大使「メートル、ド、ラ、クール」「セナトゥル」ニコラ、マレウスキー、マレウィッチヲ各其ノ全權委員ニ任命セリ因テ各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ之カ良好妥當ナルヲ認メタル後左ノ諸條ヲ協定セリ

第一條

締約國ノ一方ノ臣民ハ發明特許（改良特許ヲ含ム）、意匠（雛形ヲ含ム）及商標（製造標ヲ含ム）ノ權利ニ關シ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ其ノ國法ノ規定スル手續及條件ヲ遵由スルニ於テハ其ノ内國臣民ト同一ノ保護ヲ受クヘシ右手續及條件ハ如何ナル場合ニ於テモ其ノ内國臣民ニ適用セラルルモノヨリモ苛重ナルコトヲ得ス

第二條

締約國ノ一方ノ臣民カ其ノ本國ニ於テ正當ニ特許ヲ受ケタル發明又ハ登錄ヲ受ケタル意匠若ハ商標ハ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ其ノ本國ニ於ケルヨリモ廣汎又ハ長期ナル保護ヲ受クルコトヲ得ス

締約國ノ一方ノ臣民ニシテ他ノ一方ノ版圖内ニ住所又ハ居所ヲ有セサル者ハ發明、意匠又ハ商標ニ關スル出願、請求其ノ他一切ノ手續ヲ爲スニ付其ノ國ノ版圖内ニ住所又ハ居所ヲ有スル代理人ニ依ルコトヲ要ス

第三條

本條約ノ利益ヲ受クヘキ者締約國ノ一方ニ於テ合式ニ發明ノ特許又ハ意匠若ハ商標ノ登錄ヲ出願シタルトキハ締約國ノ他ノ一方ニ於テ合式ニ其ノ出願ヲ爲スニ付第三者ノ權利ヲ妨ケサル限リ第二項ニ定ムル期間優先權ヲ有ス該期間滿了前右他ノ一方ニ於テ爲シタル出願ハ其ノ間ニ於テ生シタル事實殊ニ他ノ出願アリタルコト、其ノ發明ノ公ニセラレ若ハ實施セラレタルコト、意匠品ノ發賣セラレタルコト又ハ商標ノ使用セラレタルコトニ因リ無效トナルコトナシ

前項ノ優先權ノ期間ハ各本國ニ於ケル出願ノ日附ヨリ起算シ發明ノ特許ニ在リテハ十二

月、意匠又ハ商標ニ在リテハ四月トス

第四條

特許權者カ締約國ノ一方ノ版圖内ニ於テ特許品ヲ製造シ特許ヲ與ヘタル他ノ一方ノ版圖内ニ之ヲ輸入スルモ之カ爲特許ノ效力ヲ失フコトナシ

然レトモ特許權者ハ特許品ヲ輸入スル國ノ法律ニ依リ其ノ特許ヲ實施スルノ義務ヲ負フ

第五條

締約國ノ一方ニ於テ合式ニ出願ヲ爲シタル一切ノ商標ハ其ノ形又ハ組立ヲ變更スルコトナクシテ締約國ノ他ノ一方ニ於テ其ノ登錄ヲ受クルコトヲ得但シ風俗又ハ公安ニ害アルモノト認メラレタルトキハ此ノ限ニ在ラス

右ノ登錄ハ既ニ出願アリタル他ノ商標ト充分ニ區別スルコト能ハサル商標ニ付テハ之ヲ拒絶スルコトヲ得

第六條

締約國ノ一方ハ發明、意匠及商標ノ保護ニ關シ其ノ版圖内ニ於テ最惠國ノ臣民又ハ人民ニ現ニ許與シ又ハ今後許與スルコトアルヘキ待遇ヲ同一ノ條件ヲ以テ他ノ一方ノ臣民ニ許與スルコトヲ約ス

第七條

本條約ハ批准書交換後四月ヲ經テ之ヲ實施シ第二項ノ條件ニ依リテ消滅スル迄引續キ效力ヲ有ス

締約國ノ一方ハ明治四十九年六月二十三日卽千九百十六年六月十日（二十三日）以後ハ何時ニテモ本條約ヲ消滅セシムルノ意思ヲ他ノ一方ニ通告スルノ權利ヲ有ス其ノ通告ヲ爲シタル後十二月ヲ經過シタルトキハ本條約ハ全ク消滅ニ歸スヘキモノトス

第八條

本條約ハ批准ヲ要ス其ノ批准書ハ成ルヘク速ニ東京ニ於テ交換スヘシ

右證據トシテ各全權委員本條約ニ署名調印ス

明治四十四年六月二十三日卽千九百十一年六月十日（二十三日）東京ニ於テ本書二通ヲ作ル

小村壽太郎　印

ニコラ、マレウスキー、マレウィッチ　印

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル日本國皇帝（御名）此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕明治四十四年六月二十三日東京ニ於テ帝國全權委員カ露西亞國全權委員ト共ニ署名調印シタル工業所有權相互保護ニ關スル日露條約ヲ閲覽點檢シ之ヲ嘉納批准ス

神武天皇卽位紀元二千五百七十一年明治四十四年七月二十四日東京宮城ニ於テ親ラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名　國璽

外務大臣　侯爵小村壽太郎

大正元年十一月　外務省告示第一號

明治四十四年六月二十三日東京ニ於テ調印セラレタル工業所有權相互保護ニ關スル日露條約ノ批准書ハ本月四日東京ニ於テ之カ交換ヲ了セリ因テ該條約ハ其ノ第七條ノ規定ニ依リ右交換ノ日ヨリ四月ヲ經タル後實施セラル

●清國ニ於ケル工業所有權相互保護ニ關スル日露條約

大正元年十一月　條約第二號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ明治四十四年六月二十三日東京ニ於テ日露兩國全權委員ノ署名調印シタル清國ニ於ケル工業所有權相互保護ニ關スル日露條約ヲ批准シ玆ニ之ヲ公布セシム

清國ニ於ケル工業所有權相互保護ニ關スル日露條約

日本國皇帝陛下及全露西亞國皇帝陛下ハ清國ニ於テ各其ノ臣民ノ工業所有權ノ相互保護ヲ確保セムコトヲ欲シ之カ爲條約ヲ締結スルコトニ決定シ日本國皇帝陛下ハ外務大臣正三位勳一等侯爵小村壽太郎ヲ全露西亞國皇帝陛下ハ日本國駐箚特命全權大使「メートル、ド、ラ、クール」「セナトゥル」ニコラ、マレウスキー、マレウィッチヲ各其ノ全權委員ニ任命セリ因テ各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ之カ良好妥當ナルヲ認メタル後左ノ諸條ヲ協定セリ

第一條

締約國ノ一方ノ臣民カ他ノ一方ノ當該官衙ニ於テ特許ヲ受ケタル發明又ハ登錄ヲ受ケタル意匠若ハ商標ハ清國各地ニ於テ右他ノ一方ノ臣民ノ侵害ニ對シ右他ノ一方ノ版圖内ニ於ケルト同一ノ保護ヲ享受スヘシ

第二條

兩締約國ノ一方ノ臣民カ本條約ニ依リ保護ヲ受クヘキ發明、意匠又ハ商標ヲ侵害シタルトキハ被害者ハ右締約國ノ當該領事裁判所ニ於テ其ノ國ノ臣民ト同一ノ權利及保護ヲ享有スヘシ

第三條

兩締約國ハ其ノ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル他國ニ關シ成ルヘク本條約ノ規定ヲ準用スヘキコトヲ約ス

本條約ヨリ生スル一切ノ權利ハ兩締約國ノ所屬地及租借地ニ於テモ尊重セラルヘク右權利ノ侵害ニ對スル法律上ノ救濟ハ當該裁判所ニ於テ正當ニ之ヲ與フルモノトス

第四條

本條約ノ適用ヲ受クヘキ者本條約實施ノ際其ノ保護スル他人ノ商標ヲ模擬シタル商標ヲ附シタル商品ヲ有スルトキハ右實施後六月以内ニ其ノ模擬商標ヲ除去シ若ハ抹消シ又ハ該商品ヲ清國市場ヨリ撤去スルコトヲ要ス

第五條

本條約ハ批准ヲ要ス其ノ批准書ハ成ルヘク速ニ東京ニ於テ交換スヘシ

本條約ハ批准書交換ノ日ヨリ四月ヲ經タル後之ヲ實施ス

右證據トシテ各全權委員本條約ニ署名調印ス

明治四十四年六月二十三日卽千九百十一年六月十日（二十三日）東京ニ於テ本書二通ヲ作ル

小村壽太郎　印

ニコラ、マレウスキー、マレウィッチ　印

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル日本國皇帝（御名）此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕明治四十四年六月二十三日東京ニ於テ帝國全權委員カ露西亞國全權委員ト共ニ署名調印シタル清國ニ於ケル工業所有權相互保護ニ關スル日露條約ヲ閲覽點檢シ之ヲ嘉納批准ス

神武天皇卽位紀元二千五百七十一年明治四十四年七月二十四日東京宮城ニ於テ親ラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名　國璽

外務大臣　侯爵小村壽太郎

大正元年十一月　外務省告示第二號

明治四十四年六月二十三日東京ニ於テ調印セラレタル清國ニ於ケル工業所有權相互保護ニ關スル日露條約ノ批准書ハ本月四日東京ニ於テ之カ交換ヲ了セリ因テ該條約ハ其ノ第五條ノ規定ニ依リ右交換ノ日ヨリ四月ヲ經タル後實施セラル

●支那ニ於ケル工業所有權相互保護ニ關スル日本瑞典條約

大正六年九月　條約第一號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ大正五年八月二十四日東京ニ於テ日本瑞典兩國全權委員ノ署名調印シタル支那ニ於ケル工業所有權相互保護ニ關スル日本瑞典條約ヲ批准シ玆ニ之ヲ公布セシム

日本國皇帝陛下及瑞典國皇帝陛下ハ支那ニ於テ各其ノ臣民ノ工業所有權ノ相互保護ヲ確保セムコトヲ欲シ之カ爲條約ヲ締結スルコトニ決シ日本國皇帝陛下ハ外務大臣從三位勳一等子爵石井菊次郎ヲ瑞典國皇帝陛下ハ日本國駐箚特命全權公使「グラン、クロワ、ド、レトワル、ポーレール」グスターフ、オスカール、ワーレンベルグヲ各其ノ全權委員ニ任命セリ因テ各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ之カ良好妥當ナルヲ認メタル後左ノ諸條ヲ協定セリ

第一條

締約國ノ一方ノ臣民カ他ノ一方ノ當該官衙ニ於テ正當ニ特許ヲ受ケタル發明又ハ登錄ヲ受ケタル意匠、製造標若ハ商標ハ支那各地ニ於テ右他ノ一方ノ臣民ノ侵害ニ對シ右他ノ一方ノ版圖内ニ於ケルト同一ノ保護ヲ享受スヘシ

第二條

兩締約國ノ一方ノ臣民カ本條約ニ依リ保護ヲ受クヘキ發明、意匠、製造標又ハ商標ヲ支那ニ

於テ侵害シタルトキハ被害者ハ右締約國ノ當該裁判所又ハ當該領事裁判所ニ於テ其ノ國ノ臣民ト同一ノ權利ヲ有シ同一ノ救濟ヲ受クヘシ

第三條

各締約國ハ商號ノ保護ニ付千八百八十三年三月二十日巴里ニ於テ調印ノ萬國工業所有權保護同盟條約及同條約ヲ改正セル千九百年十二月十四日華盛頓ニ於テ調印ノ追加條約ニ依リ其ノ版圖内ニ於テ對手國ノ臣民カ受クルト同一ノ取扱ヲ支那ニ於テ右對手國ノ臣民ニ付與スヘキコトヲ約ス

第四條

本條約ハ批准ヲ要ス其ノ批准書ハ成ルヘク速ニ東京ニ於テ交換スヘシ

本條約ハ批准書交換後六月ヲ經テ之ヲ實施シ締約國ノ一方カ之ヲ廢棄スルノ意思ヲ表示シタル日ヨリ一年ノ期間ノ滿了ニ至ル迄引續キ效力ヲ有ス

右證據トシテ各全權委員本條約ニ署名調印ス

大正五年八月二十四日即千九百十六年八月二十四日東京ニ於テ之ヲ作ル

石井菊次郎印

ダー、オー、ローレンベルグ印

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル日本國皇帝（御名）此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕大正五年八月二十四日東京ニ於テ帝國全權委員カ瑞典國全權委員ト共ニ署名調印シタル支那ニ於ケル工業所有權相互保護ニ關スル日本瑞典條約ヲ閲覽點檢シ之ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百七十七年大正六年八月十五日日光ニ於テ親ラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名　國璽

外務大臣　法學博士子爵本野一郎

大正六年九月

外務省告示第三十二號

大正五年八月二十四日東京ニ於テ調印セラレタル支那ニ於ケル工業所有權相互保護ニ關スル日本瑞典條約ノ批准書ハ八月二十三日東京ニ於テ之カ交換ヲ了セリ因テ該條約ハ其ノ第四條ノ規定ニ依リ右交換ノ日ヨリ六月ヲ經タル後實施セラルヘキモノトス

●麻絡哥カ工業所有權保護ニ關スル巴里同盟條約ニ加入

大正六年九月

農商務省告示第二百六十二號

麻絡哥（佛國保護權ニ服スル領域）カ千九百年十二月十四日菲律悉及千九百十一年六月二日華盛頓ニ於テ改正セラレタル工業所有權保護ニ關スル千八百八十三年三月二十日ノ巴里同盟條約ニ加入スル旨佛國政府ヨリ瑞西聯邦政府ヘノ通告ニ依リ瑞西聯邦政府ハ更ニ千九百十七年六月三十日附ヲ以テ帝國ニ對シ其ノ加入ノ通告ヲ發シタルヲ以テ右加入ハ同改正條約第十六條ノ規定ニ基キ大正六年七月三十日ヨリ其ノ效力ヲ生シタリ

●燐寸製造ニ於ケル黄燐使用ノ禁止ニ關スル國際條約

大正十年十月

條約第五號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國ノ加入シタル西曆千九百六年九月二十六日「ベルヌ」ニ於テ署名セラレタル燐寸製造ニ於ケル黄燐使用ノ禁止ニ關スル國際條約ヲ玆ニ公布セシム

獨逸皇帝普魯西國皇帝陛下、丁抹國皇帝陛下、佛蘭西共和國大統領、伊太利國皇帝陛下、盧森堡國大公「ナッソー」公殿下、和蘭國皇帝陛下、瑞西聯邦政府ハ

共通ノ規定ヲ採用シ以テ勞働者保護ノ發達ヲ容易ナラシメムコトヲ希望スルカ爲燐寸製造業ニ於ケル白（黄）燐使用ニ關スル條約ヲ締結スルコトニ決定シ各左ノ全權委員ヲ任命セリ

獨逸皇帝普魯西國皇帝陛下

「ジアンベラン、エ、コンセイエー、アンティーム、アクチュエル」瑞西國駐劄特命全權公使「アルフレッド、ド、ピュー

帝國内務省局長「カスパル」

「コンセイエー、アンティーム、シュペリウール、ド、グヴェルヌマン」普魯西國商工務省「コンセイエー、ラッポルトウール」「フリッグ」

「コンセイエー、ド、レカシオン、アクチュエル」帝國外務省「コンセイエー、ラッポルトウール」「エッカルト」

丁抹國皇帝陛下

内務省局長「ヘンリック、ヴェデル」

佛蘭西共和國大統領

瑞西國駐劄特命全權大使「ポール、レヴォアル」

商工勞務省勞働局長「アルテュール、フォンテース」

伊太利國皇帝陛下

瑞西國駐劄特命全權公使伯爵「ロベルト、マイアーノ、ディ、ヴィラール、サン・マルコ」

農商務省勞働局長教授「ジョヴァンニ、モンテマルティーニ」

盧森堡國大公「ナッソー」公殿下

「コンセイエー、デク」「アンリー、ノイマン」

和蘭國皇帝陛下

「ジアンベラン」瑞西國駐劄辨理公使伯爵「ド、レヒテレン、リンブルグ、アルメロ」

國會第一院議員「ドクトル、ルハウト」

瑞西聯邦政府

前聯邦國務大臣「エミール、フレー」

聯邦商工農務省工務部長「ドクトル、フランツ、カウフマン」

前聯邦國務大臣聯邦議會議員「アドリエン、ラジェナル」

國民議會議員「ジョセフ、ジョーヒンゲル」

國民議會議員「アンリー、シェルレル」

瑞西紡織業組合長「ジョン、ジーツ」

右各員ハ其ノ全權委任狀ヲ示シ之カ良好妥當ナルヲ認メタル後左ノ如ク協定セリ

第一條

締約國ハ白（黄）燐ヲ含有スル燐寸ノ製造、輸入及販賣ヲ其ノ領土内ニ於テ禁止スルコトヲ約ス

第二條

各締約國ハ本條約ノ規定ノ屬行ヲ其ノ領土内ニ於テ確保スルニ付必要ナル行政上ノ措置ヲ執ルノ義務ヲ有ス

各國政府ハ本條約ノ事項ニ關スル法令及規則ニシテ自國内ニ於テ既ニ實施シ又ハ將來實施スルコトアルヘキモノヲ竝右法令及規則ノ適用ニ關スル報告ヲ外交上ノ手續ニ依リ相互ニ通知スヘシ

第三條

本條約ノ規定ノ殖民地、屬地又ハ保護國ニ適用アルヤ右ノ名ニ於テ本國政府カ其ノ旨瑞西聯邦政府ニ通告シタル場合ニ限ル

第四條

本條約ハ批准ヲ要ス批准書ハ遲クモ千九百八年十二月三十一日ニ瑞西聯邦政府ニ之ヲ寄託スヘシ

右寄託ニ付テハ調書ヲ作成スヘク其ノ認證謄本ハ外交上ノ手續ニ依リ各締約國ニ之ヲ交付スヘシ

本條約ハ寄託調書ノ閉鎖後三年ヲ經テ之ヲ實施スヘシ

第五條

本條約ニ署名セサル諸國ハ瑞西聯邦政府宛ノ書面ヲ以テ其ノ加入ヲ宣言スルコトヲ得該聯邦政府ハ他ノ各締約國ニ右ノ加入ヲ通知スヘシ

本條約ノ實施ニ關シ第四條ニ定ムル期間ハ署名セサル諸國ニ付テハ其ノ加入ノ通告ノ時ヨリ五年ヲ殖民地、屬地又ハ保護國ニ付亦同シ

第六條

本條約ハ署名國タルト後ニ加入シタル國、殖民地、屬地又ハ保護國タルトヲ問ハス批准書寄託調書ノ閉鎖後五年ノ期間滿了前ニ於テハ之ヲ廢棄スルコトヲ得ス

本條約ハ爾後何時タリトモ之ヲ廢棄スルコトヲ得

廢棄ハ當該政府ヨリ又ハ殖民地、屬地若ハ保護國ニ付テハ本國政府ヨリ瑞西聯

邦政府ニ之ヲ通告シタル時ヨリ一年後ニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス聯邦政府ハ他ノ各締約國ノ政府ニ直ニ之ヲ通知スヘキモノトス

廢棄ハ其ノ名ニ於テ通告アリタル國、殖民地、屬地又ハ保護國ニ關シテノミ效力ヲ生スヘシ

右證據トシテ各全權委員ハ本條約ニ署名ス

千九百六年九月二十六日「ベルヌ」ニ於テ本書一通ヲ作成シ之ヲ瑞西聯邦ノ記錄ニ寄託保存ス其ノ認證謄本ハ外交上ノ手續ニ依リ之ヲ各締約國ニ交付スヘシ

（署名）

●日埃混合仲裁裁判所手續準則

大正十年十月

外務省告示第三十二號

同盟及聯合國ト埃地利國トノ平和條約第二百五十六條ニ依リ帝國ト埃地利國トノ間ニ設置シタル混合仲裁裁判所ニ於テ左ノ手續準則ヲ定メタリ

日埃混合仲裁裁判所手續準則

日埃混合仲裁裁判所ハ同盟及聯合國ト埃地利國トノ平和條約第二百五十六條（二）及同條附屬書二ノ規定ニ從ヒ左ノ手續準則ヲ定ム

第一條　訴ハ左ノ期間内ニ本裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

一　第二百四十九條ノ規定ニ依ル請求ニ付テハ請求者ノ所屬國ニ於テ本則ヲ告示シタル日ヨリ十二月

但シ此ノ期間ハ其ノ滿了前請求者カ自己ノ財産、權利又ハ利益ニ付損害ヲ受ケタルコトヲ知リタル時ヨリ六月内ニ滿了セス

二　第二百五十七條ノ規定ニ依ル請求ニ付テハ請求者ノ所屬國ニ於テ本則ヲ告示シタル日ヨリ十二月

但シ此ノ期間ハ其ノ滿了前請求者カ判決アリタルコトヲ知リタル時ヨリ六月内ハ滿了セス

三　其ノ他請求ニ付テハ請求者ノ所屬國ニ於テ本則ヲ告示シタル日ヨリ十二月

第二條　裁判所ハ前條ニ揭ケル期間滿了後ニ提起シタル訴ト雖正當ノ理由アリト認ムル場合ニ於テハ之ヲ受理スルコトヲ得

第三條　訴ノ提起ハ書面ニ依リ之ヲ爲スコトヲ要ス

請求書ハ請求者ノ之ヲ裁判所ニ差出スヘシ但シ裁判所カ日本特殊權利審査會ヨリ請求書ノ移送ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四條　請求書ニハ左ノ事項ヲ揭クヘシ

一　各當事者及其ノ代理人ノ氏名、國籍、職業及住所

二　請求ノ趣旨

三　請求ノ原因タル事實

四　證據方法特ニ書證ニ付テハ其謄本又ハ抄本ノ添附

第五條　請求書ニハ被請求者ノ數ニ應スル通數ノ外三通ノ謄本ヲ添附スヘシ

第六條　請求書ハ英語又ハ日本語ヲ以テ記載スヘシ

日本語ヲ以テ記載スル場合ニ於テハ之ニ英譯文ヲ添附スヘシ

第七條　書記局ハ請求書ヲ受領シタルトキハ之ニ受領ノ日附ヲ記載シ且請求者ニ對シ受領ノ通知ヲ爲スヘシ

第八條　書記局ハ請求書ノ謄本ヲ被請求者ニ送達スヘシ

第九條　被請求者ハ請求書ノ謄本ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ六十日内ニ答辯書ヲ裁判所ニ差出スヘシ

第十條　答辯書ニハ左ノ事項ヲ揭クヘシ

一　各當事者及其ノ代理人ノ氏名、國籍、職業及住所

二　答辯ノ趣旨

三　請求者ノ事實上ノ主張ニ對スル陳述

四　證據方法特ニ書證ニ付テハ其ノ謄本又ハ抄本ノ添附

第十一條　請求者カ被請求者ノ答辯ニ對シ陳述ヲ爲サムトスルトキハ答辯書受領ノ日ヨリ六十日内ニ辯駁書ヲ裁判所ニ差出スヘシ

被請求者カ辯駁ニ對シ陳述ヲ爲サムトスルトキハ辯駁書受領ノ日ヨリ六十日内ニ再辯駁書ヲ裁判所ニ差出スヘシ

第十二條　第五條乃至第八條ノ規定ハ答辯書、辯駁書及再辯駁書ニ之ヲ準用ス

第十三條　繫屬中ノ訴訟ニ付利害關係ヲ有スル第三者ハ當事者ノ一方ヲ輔助スル爲裁判所ノ許可ヲ得テ其ノ指示スル方法ニ從ヒ參加ヲ爲スコトヲ得

參加申請書ニハ事件及當事者ヲ表示シ且一定ノ利害關係ヲ開示スヘシ

參加ヲ許可シタルトキハ書記局ハ當事者及參加人ニ其ノ旨ヲ通知シ且各當事者ニハ參加申請書ノ謄本ヲ送達スヘシ

第十四條　前數條ニ揭ケル書面手續終了シタルトキハ書記局ハ其ノ旨ヲ當事者ニ通知スヘシ

第十五條　當事者ハ前條ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ六十日内ニ證人訊問ノ申立ヲ爲スコトヲ得

證人訊問ノ申立書ニハ證人ノ氏名、國籍、住所及證スヘキ事實ヲ表示スヘシ其ノ當事者カ證人訊問ヲ裁判所ニ於テ爲スヘキヤ又ハ囑託シテ爲スヘキヤニ付特別ノ希望アルトキハ其ノ理由ヲ記載スヘシ

第十六條　裁判所證人訊問ヲ許可シタルトキハ證人訊問申立當事者ニ對シ必要ナル費用ノ豫納ヲ命スヘシ豫納ノ金額及期間ハ裁判所之ヲ定ム

證人訊問申立當事者前項ノ期間内ニ費用ヲ豫納セサルトキハ證人訊問ヲ爲サス

第十七條　證人訊問申立當事者費用ヲ豫納シタルトキハ書記局ハ當事者竝證スヘキ事實ヲ表示シ且出頭スヘキ場所及日ヲ記載シタル呼出狀ヲ證人ニ送達スヘシ

證人訊問ノ場所及日ハ之ヲ當事者ニ通知スヘシ

第十八條　囑託ニ依ル證人訊問ハ訊問ヲ爲スヘキ國ノ裁判所ニ囑託シテ之ヲ爲スコトヲ得

第十一條　請求者カ被請求者ノ答辯ニ對シ陳述ヲ爲サムトスルトキハ答辯書受領ノ日ヨリ六十日内ニ辯駁書ヲ裁判所ニ差出スヘシ

前項ノ裁判所ハ自國ノ法令ニ依リ證人ノ訊問ヲ爲ス

第十九條　裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ鑑定ヲ命シ又ハ檢證ヲ爲スコトヲ得

鑑定又ハ檢證ニ付テハ證人訊問ニ關スル規定ヲ準用ス

第二十條　裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ當事者ノ所持スル書類ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第二十一條　裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ當事者所屬國ノ官公署ニ對シ其ノ保管ニ係ル書類ノ提出又ハ當該請求ニ關スル報告ヲ求ムルコトヲ得

第二十二條　裁判所ハ必要ナリト認ムルトキハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス職權ヲ以テ證據ノ申立ヲ促シ又ハ證據調ヲ爲スコトヲ得

第二十三條　裁判所ハ必要ナリト認ムルトキハ當事者本人ヲ證人トシテ訊問スルコトヲ得

前項ノ訊問ハ囑託ニ依リ之ヲ爲スコトヲ妨ケス

第二十四條　裁判所ハ證據及參考資料ノ蒐集ニ關シ第三國ノ助力ヲ必要ナリト認ムルトキハ日本國及埃地利國ノ政府ニ適當ナル措置ヲ執ルコトヲ請求スヘシ

第二十五條　日本特殊權利審査會ノ爲シタル證據調ハ裁判所ニ於テ證據トシテ之ヲ使用スルコトヲ得

第二十六條　當事者ハ辯論整理書ヲ提出セムトスルトキハ書面手續終了後少クトモ開廷期日十日前迄ニ之ヲ爲スヘシ但シ辯論整理書ニ於テ主張セル事實ニノミ基クコトヲ要ス

第二十七條　開廷ノ日及場所ハ審判長之ヲ定メ當事者ノ呼出ハ書記局之ヲ爲ス

開廷ノ日ハ第十四條ニ定ムル通知ヨリ六十日ノ期間ヲ存スルコトヲ要ス

第二十八條　審問ハ之ヲ公開ス

第二十九條　裁判所ハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス事件カ其ノ權限ニ屬セサルモノト思料シタルトキハ被請求者ニ於テ異議ナキトキト雖先ツ其ノ點ニ付判定ヲ爲スコトヲ得

第三十條　裁判所ハ訴ノ併合若ハ分離ヲ命シ又ハ辯論ヲ或ル爭點ニ制限スルコトヲ得

第三十一條　當事者カ故意又ハ重大ナル過失ニ因リ時期ニ遅レテ防禦方法ヲ提出又ハ證據調ノ申立ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ之ヲ却下スルコトヲ得

第三十二條　裁判所ハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス訴ノ全部又ハ一部ニ付和解ヲ試ムルコトヲ得

和解ハ當事者又ハ特別ノ委任ヲ受ケタル代理人ノ署名シタル書面ヲ裁判所ニ提出シテ之ヲ爲ス

和解書ハ裁判所之ヲ確認スヘシ裁判所ノ確認シタル和解書ハ判定ト同一ノ效力ヲ有ス

第三十三條　裁判所ハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス仲裁人ヲシテ仲裁判斷ヲ爲サシムヘキコトヲ當事者ニ勸告スルコトヲ得

且此ノ場合ニ當事者ノ出願ヲ俟テモ審理及判定ヲ爲スコトヲ得

第三十四條　仲裁人カ仲裁判斷ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク仲裁判斷書ヲ裁判所ニ提出スヘシ

仲裁判斷書ハ判定ト同一ノ效力ヲ有ス

第三十五條　裁判所ハ合式ニ呼出ヲ受ケタル當事者カ出頭セサル場合ニ於テモ審理及判定ヲ爲スコトヲ得

第三十六條　裁判所ハ辯論ノ全趣旨、證據、參考資料其ノ他ノ事情ヲ斟酌シ自由ナル心證ヲ以テ判斷ヲ爲スヘシ

第三十七條　判定ハ之ヲ公開延ニ於テ言渡スヘシ

第三十八條　判定ニハ理由ヲ附シ審判長及審判員署名スヘシ

審判長又ハ審判員ノ中一名差支アリテ署名スルコト能ハサルトキハ其ノ旨ヲ附記シテ他ノ二名署名スルヲ以テ足ル

第三十九條　判定ニハ手續費用ニ關スル定ヲ爲スヘシ手續費用ノ制定ハ其ノ執行ニ關シテハ之ヲ本案ノ判定ノ一部ト看做ス

第四十條　判定ノ正本ハ當事者、日本特殊權利審査會及埃地利國政府代表者ニ之ヲ送達スヘシ

第四十一條　裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ判定ノ署シキ誤謬ヲ更正スルコトヲ得

第四十二條　第四十條ノ規定ハ和解書及仲裁判斷書ニ之ヲ準用ス

第四十三條　裁判所ニ提出セムトスル書類ハ在倫敦「セント、ジェームス」街二十一號本裁判所書記局ニ之ヲ差出スヘシ

第四十四條　訴訟ニ關スル書類ノ送達ハ囑託ニ依リテ之ヲ爲ス

裁判所ハ當事者所屬國ノ裁判所ニ送達ヲ囑託シ且送達濟ノ報告ヲ求ムヘシ

第四十五條　本則及同盟及聯合國ト埃地利國トノ平和條約ニ規定ナキ事項ニ付テハ裁判所ハ正義及衡平ニ依リ措置スルモノトス

大正十年七月八日

審判長　ボーレル

嘉山幹一

ローセンベルグ

●常設國際司法裁判所規程

大正十年十一月

條約第六號

脫稿密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國全權委員カ瑞西國「ジュネーヴ」ニ於テ大正九年十二月十七日署名シ大正十年一月二十八日迄ニ衙蒴牙國外二十四國ノ全權委員カ署名シタル常設國際司法裁判所規程ニ關スル署名議定書ヲ批准シ玆ニ同署名議定書附屬ノ常設國際司法裁判所規程ト共ニ之ヲ公布セシム

常設國際司法裁判所規程ニ關スル署名議定書

正當ノ委任ヲ受ケタル下名ノ者ハ裁判官ニ依リ代表セラレタル國際聯盟ノ聯盟國ハ千九百二十年十二月十三日「ジュネーヴ」ニ於ケル聯盟總會ニ於テ全員一致ニテ可決セラレタル添附ノ常設國際司法裁判所規程ヲ受諾スルコトヲ宣言スル

依テ右諸國ハ前記規程ノ條項及條件ニ從ヒ裁判所ノ管轄ヲ受諾スルコトヲ玆ニ宣言ス

千九百二十年十二月十三日ノ國際聯盟總會ノ爲シタル決定ニ從ヒ作成セラレタル本議定書ハ批准ヲ要スル各國ハ其ノ批准書ヲ國際聯盟事務總長ニ送付ス事務總長ハ右批准ヲ他ノ署名國ニ通告スル爲必要ナル手續ヲ執ルヘシ批准書ハ國際聯盟ノ事務局ノ記錄中ニ寄託セラルヘシ

本議定書ハ國際聯盟ノ聯盟國及聯盟規約附屬書所載ノ諸國ノ署名ノ爲開キ置クヘシ

裁判所規程ハ前記ノ決定ニ定ムル所ニ從ヒ之ヲ實施ス

「ジュネーヴ」ニ於テ本書一通ヲ作成ス佛蘭西語及英吉利語ノ本文ヲ以テ共ニ正文トス

千九百二十年十二月十六日

衙蒴牙國　アフォンソ、コスタ

日本國　林權助

希臘國　ポリティス

「パラグアイ」國　アッチェ、ゲラスケス

「ウルグアイ」國　ホータ、セー、ブランコ

ベー、フェルナンデス、イ、メディナ

新西蘭　ジェー、アルレン

濕縫國　シアルーン

諾威國　エフ、ハーゲルプ

瑞典國　ヤルマール、ブランティング

瑞西國　モッタ

丁抹國　ヘルルフ、ザーレ

「サルヴァドール」國　ホータ、グスターヴォ、グエレロ

アルトゥーロ、エレ、アヴィラ

和蘭國　ジェー、ラウドン

南阿弗利加　アール、エー、ブランケンバーグ（南阿弗利加聯邦政府ノ承認ヲ條件トシテ署名ス）

印度　ダアリュー、エス、メイヤー

伊太利國　カルロ、スカンツェル

支那國　顧維鈞

唐在復

佛蘭西國　レオン、アルジョア

波蘭國　イー、ジェー、パデレフスキー

大不列顛國　アーサー、ジェームス、バルフォア

伯剌西爾國　ロドリゴ、オクタヴィオ

ガスタオ、ガルニア

ラウル、フェルナンデス

巴奈馬國　アルモディオ、アリアス

「コスタ、リカ」國　マヌエル、エメ、デ、ペラルタ

玖馬國　アリスティデス、デ、アゲロ

ラファエル、マルティーネス、オルティス

エセキエル、ガルシーブ

「ヴェネズエラ」國　マヌエル、ディアス、ロドリダス

サンティアゴ、ケー、アイアーラ

ディオヘネス、エスカランテ

哥倫比亞國　フランシスコ、ホセ、ウルティア

アー、ホータ、レストレーポ

選擇條項

正當ノ委任ヲ受ケタル下名ノ者ハ裁判所規程第三十六條第二項ニ基キ左ノ條件ニ於テ裁判所ノ管轄ヲ當然ニ且特別ノ合意ナクシテ義務的ナリト自今認ムルコトヲ其ノ本國政府ノ爲ニ尙宣言ス

衙蒴牙國ノ名ニ於テ余ハ裁判所ノ管轄ヲ同一ノ義務ヲ受諾スル他ノ聯盟國又ハ國ニ對スル關係ニ於テ當然ニ且特別ノ合意ナクシテ義務的ナリト無條件ニテ五年間認ムルコトヲ宣言ス

ヘルルフ、ザーレ

相互的ナルコトヲ留保シテ

ホータ、グスターヴォ、グエレロ

アルトゥーロ、エレ、アヴィラ

相互的ナルコトヲ留保シテ

マヌエル、エメ、デ、ペラルタ

「ウルグアイ」國政府ノ名ニ於テ余ハ裁判所ノ管轄ヲ同一ノ義務ヲ受諾スル他ノ聯盟國又ハ國ニ對スル關係ニ於テ當然ニ且特別ノ合意ナクシテ義務的ナリト無條件ニテ五年間認ムルコトヲ宣言ス

ベー、フェルナンデス、イ、メディナ

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル日本國皇帝（御名）此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕大正九年十二月十七日署名シ大正十年一月二十八日迄ニ衙蒴牙國外二十四國全權委員カ署名シタル常設國際司法裁判所規程ニ關スル署名議定書ヲ閱覽點檢シ之ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百八十一年大正十年八月十三日日光ニ於テ親ラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

常設國際司法裁判所規程

第一條

國際聯盟規約第十四條ニ依リ玆ニ常設國際司法裁判所ヲ設ク本裁判所ハ千八百九十九年及千九百七年ノ海牙條約ニ依リ構成セラレタル仲裁裁判所並各國カ其ノ紛爭ノ解決ヲ委スルノ自由ヲ有スル特別仲裁裁判所トハ別ニ存スルモノトス

留保シテ余ハ裁判所ノ管轄ヲ同一ノ義務ヲ受諾スル他ノ聯盟國又ハ國ニ對スル關係ニ於テ即チ相互條件ヲ以テ當然ニ且特別ノ合意ナクシテ義務的ナリト無條件ニテ五年間認ムルコトヲ宣言ス

モッタ

丁抹國政府ノ名ニ於テ且批准ヲ留保シテ余ハ裁判所ノ管轄ヲ同一ノ義務ヲ受諾スル他ノ聯盟國又ハ國ニ對スル關係ニ於テ即チ相互條件ヲ以テ當然ニ且特別ノ合意ナクシテ義務的ナリト無條件ニテ五年間認ムルコトヲ宣言ス

ヘルルフ、ザーレ

相互的ナルコトヲ留保シテ

ホータ、グスターヴォ、グエレロ

アルトゥーロ、エレ、アヴィラ

相互的ナルコトヲ留保シテ

マヌエル、エメ、デ、ペラルタ

「ウルグアイ」國政府ノ名ニ於テ余ハ裁判所ノ管轄ヲ同一ノ義務ヲ受諾スル他ノ聯盟國又ハ國ニ對スル關係ニ於テ即チ相互條件ヲ以テ當然ニ且特別ノ合意ナクシテ義務的ナリト無條件ニテ五年間認ムルコトヲ宣言ス

ベー、フェルナンデス、イ、メディナ

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル日本國皇帝（御名）此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕大正九年十二月十七日署名シ大正十年一月二十八日迄ニ衙蒴牙國外二十四國全權委員カ署名シタル常設國際司法裁判所規程ニ關スル署名議定書ヲ閱覽點檢シ之ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百八十一年大正十年八月十三日日光ニ於テ親ラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

常設國際司法裁判所規程

第一條

國際聯盟規約第十四條ニ依リ玆ニ常設國際司法裁判所ヲ設ク本裁判所ハ千八百九十九年及千九百七年ノ海牙條約ニ依リ構成セラレタル仲裁裁判所並各國カ其ノ紛爭ノ解決ヲ委スルノ自由ヲ有スル特別仲裁裁判所トハ別ニ存スルモノトス

第一章　裁判所ノ構成

第二條

常設國際司法裁判所ハ德望高ク且各其ノ國ニ於テ最高ノ司法官ニ任セラルニ必要ナル資格ヲ有スル者又ハ國際法ニ堪能ノ名アル法律家ノ中ヨリ其ノ國籍ノ如何ヲ問ハス選擧セラレタル獨立ノ裁判官ノ一團ヲ以テ之ヲ構成ス

第三條

裁判所ハ裁判官十一名及豫備裁判官四名ノ十五名ヲ以テ之ヲ構成ス裁判官及豫備裁判官ノ數ハ聯盟理事會ノ申出ニ依リ聯盟總會ニ於テ裁判官十五名及豫備裁判官六名ニ至ル迄今後之ヲ增加スルコトアルヘシ

第四條

裁判所ノ裁判官ハ裁判所ノ國別裁判官團ニ依リ指名セラレタル者ノ名簿ヨリ次ノ規定ニ從ヒ聯盟總會及聯盟理事會之ヲ選擧ス

常設仲裁裁判所ニ代表セラレサル聯盟國ニ付テハ候補者名簿ハ國際紛爭平和的處理ニ關スル千九百七年ノ海牙條約ノ第四十四條ニ依リ常設仲裁裁判所裁判官ニ付規定スル條件ト同一ノ條件ニ依リ其ノ政府カ之ヲ爲指名シタル國別團之ヲ作成スヘシ

第五條

選擧ノ日ヨリ少クトモ三月前國際聯盟事務總長ハ聯盟規約附屬書所載ノ諸國又ハ爾後聯盟ニ加入シタル諸國ノ屬スル仲裁裁判所裁判官ニ及第四條第二項ニ依リ指定セラレタル者ニ裁判所ノ裁判官ノ任務ヲ諮フコトアルヘキ者ノ指名ヲ一定ノ期間內ニ國別團毎ニ爲スヘキコトヲ書面ヲ以テ依囑ス

國別團ハ如何ナル場合ニ於テモ四名ヨリ多クモ二名ヨリ少カラサル指名ヲ爲スコトヲ得ス右ノ者ハ第四條及第五條ニ揭クル指名名簿中ニ加ヘラレサリシト雖右名簿中ニ加ヘラルルコトヲ得

選擧ヲ完行スルニ付テハ本條ニ定ムル條件ニ從フノ外之ヲ適用セス

第六條

國別團ハ右指名ヲ爲スニ先チ自國ノ最高司法裁判所、自國ノ法律大學及法律學校竝法律研究ニ從事スル自國ノ學士院及國際學士院ノ自國ノ部ノ意見ヲ徵スルコトヲ慫慂セラルヘシ

第七條

國際聯盟事務總長ハ斯ノ指名セラレタル一切ノ者ノ名簿ヲ「アルファベット」順ニ依リ作成スヘシ第十二條第二項ノ場合ヲ除クノ外右ノ者ニ限リ選擧セラレ得ルモノトス

事務總長ハ右名簿ヲ聯盟總會及聯盟理事會ニ交付スヘシ

第八條

聯盟總會及聯盟理事會ハ各別ニ先ツ裁判官ノ、次ニ豫備裁判官ノ選擧ヲ行フヘシ

第九條

各選擧ニ於テ選擧人ハ裁判所ノ裁判官トシテ指定セラルル一切ノ者カ必要ナル資格ヲ各自具備スヘキノミナラス總體トシテ重ナル文明ノ形態及世界ノ主タル法律ノ系統ヲ代表スヘキコトニ留意スヘシ

第十條

聯盟總會及聯盟理事會ニ於テ投票ノ絕對多數ヲ得タル候補者ハ之ヲ當選シタルモノトス

聯盟總會及聯盟理事會雙方ノ投票ニ依リ同一聯盟國ノ國民二名以上當選シタル場合ニ於テハ最年長者ノミ當選シタルモノトス

第十一條

選擧ノ爲開カレタル第一回ノ會ノ後尙充スヘキ一以上ノ席アル場合ニ於テハ第二回ノ、若シ必要アルトキハ第三回ノ會ヲ開クヘシ

第十二條

第三回ノ會ノ後一以上ノ席尙充サレサルトキハ聯盟總會及聯盟理事會各別ノ採擇ニ付スル爲尙空闕ノ各席ニ付一名ヲ選出スル目的ヲ以テ三名ノ聯盟總會ヨリノ、三名ノ聯盟理事會ヨリ指定セラレタル計六名ヨリ成ル連合協議會ヲ聯盟總會又ハ聯盟理事會ノ何レカノ請求ニ依リ何時ニテモ設クルコトヲ得

必要ナル條件ヲ充ス者ニ付連合協議會カ全會一致ヲ以テ合意シタルトキハ右ノ者ハ第四條及第五條ニ揭クル指名名簿中ニ加ヘラレサリシト雖右名簿中ニ加ヘラルルコトヲ得

選擧ヲ完行スルニ付テハ本條ニ定ムル條件ニ從フノ外之ヲ適用セス

第十三條

裁判所ノ裁判官ノ任期ハ九年トス

裁判官ハ再選セラルルコトヲ得

裁判官ハ其ノ更任ニ至ル迄職務ノ執行ヲ繼續スヘシ更任後ト雖既ニ着手シタル事件ハ之ヲ完了スヘシ

第十四條

空闕ヲ生シタルトキハ第一回ノ選擧ニ付規定シタルト同一ノ方法ニ依リ之ヲ補充ス任期ノ未タ滿了セサル裁判官ニ更ニ爲選擧セラレタル裁判所裁判官ハ前任者ノ殘任期間其ノ任ニ在ルモノトス

第十五條

豫備裁判官ハ名簿ニ揭クル順序ニ依リ職務ニ就カシメラルルモノトス

該名簿ハ先ツ選擧ノ順ヲ、次ニ年齡ヲ參酌シ裁判所之ヲ作成ス

第十六條

裁判所ノ裁判官ハ政治上又ハ行政上ノ一切ノ職務ヲ行フコトヲ得ス本規定ハ豫備裁判官ニハ裁判所ニ於テ其ノ職務執行中ノ場合ヲ除クノ外之ヲ適用セス

右ニ關スル疑義ハ裁判所ノ裁判ニ依リ之ヲ決定ス

第十七條

裁判所ノ裁判官ハ國際的性質ヲ有スル一切ノ事件ニ於テ代理人、輔佐人又ハ辯護人トシテ行動スルコトヲ得ス本規定ハ豫備裁判官カ裁判所ニ於テ其ノ職務ヲ行ハシメラレタル事件ニ關シテノミ豫備裁判官ニ之ヲ適用ス

裁判所ノ裁判官ハ係爭當事國ノ一方ノ代理人、輔佐人若ハ辯護人、國內ノ若ハ國際ノ裁判所ノ裁判官又ハ審査委員トシテ其ノ他一切ノ資格ニ於テ嘗テ干與シタル一切ノ事件ノ裁判ニ參與スルコトヲ得ス

右ニ關スル疑義ハ裁判所ノ裁判ニ依リ之ヲ決定ス

第十八條

裁判所ノ裁判官ハ他ノ裁判官ノ全員一致ノ意

見ニ依リ必要ナル條件ヲ充サザルニ至リタル場合ヲ除クノ外解任セラルルコトナシ
右ノ正式ノ通告ハ裁判所書記ヨリ國際聯盟事務總長ニ之ヲ爲スヘシ
右ノ通告ハ席ヲ空闕ナラシムルモノトス

第十九條
裁判所ノ裁判官ハ裁判所ノ事務ニ從事スル間外交官ノ特權及免除ヲ享有スヘシ

第二十條
裁判所ノ各裁判官ハ職務ヲ執ルニ先チ公平且誠實ニ其ノ職權ヲ行使スヘキコトヲ公開廷ニ於テ嚴肅ニ宣言スヘシ

第二十一條
裁判所ハ任期ヲ三年トスル裁判所長及裁判所次長ヲ選擧スヘシ裁判所長及裁判所次長ハ再選セラルルコトヲ得
裁判所ハ裁判所書記ヲ指定スヘシ
裁判所書記ノ職務ハ常設仲裁裁判所事務總長ノ職務ト之ヲ兼ヌルコトヲ妨ケス

第二十二條
裁判所ノ所在地ハ海牙ニ之ヲ設定ス
裁判所長及裁判所書記ハ裁判所ノ所在地ニ居住スヘシ

第二十三條
裁判所ハ毎年一回開廷ス
裁判所ノ規則ニ別段ノ定ナキ限リ右開廷ハ六月十五日ニ始リ件名簿ノ案件ノ完了スルニ必要ト認ムル期間繼續ス
裁判所長ハ必要アルトキハ裁判所ノ臨時開廷ヲ爲スコトヲ得

第二十四條
裁判所ノ裁判官ハ特別ノ理由ニ因リ特定ノ事件ノ裁判ニ參與スヘカラスト自ラ認メタルトキハ裁判所長ニ其ノ旨申出ツヘシ
裁判所長ハ裁判所ノ裁判官カ特別ノ理由ニ因リ特定ノ事件ニ參與スヘカラスト認メタルトキハ其ノ者ニ其ノ旨通告スヘシ
右何レノ場合ニ於テモ裁判所ノ裁判官及裁判所長ノ意見一致セサルトキハ裁判所ノ裁判ニ依リ之ヲ決定スヘシ

第二十五條
別段ノ明文アル場合ヲ除クノ外裁判所ハ全員出席シテ之ヲ開廷スヘシ
十一名ノ裁判官カ出席スルコト能ハサルトキハ豫備裁判官ヲ出席セシメテ數ヲ充スヘシ
尤モ十一名ノ裁判官ヲ得ルコト能ハサルトキハ九名ノ裁判官ノ定足數ハ之ヲ以テ裁判所ヲ成立セシムルニ足ルモノトス

第二十六條
勞働事件殊ニ「ヴェルサイユ」條約第十三編(勞働)及他ノ平和條約ノ之ニ對當スル部分ニ掲クル事件ハ裁判所左ノ條件ニ依リ之ヲ裁判スヘシ
裁判所ハ能フ限リ第九條ノ規定ヲ參酌シテ選定セラレタル五名ノ裁判官ヨリ成ル特別ノ部ヲ三年毎ニ設ク出席スルコト能ハサル裁判官ニ更フル爲尙二名ノ裁判官ヲ選定スヘシ事件ハ當事國ノ請求アルトキ本部之ヲ裁判ス右ノ請求ナキトキハ裁判所ハ第二十五條ニ定ムル數ノ裁判官ヲ以テ開廷ス一切ノ場合ニ於テ裁判官ハ之ニ陪席スル四名ノ專門補佐員ノ助力ヲ受ク右專門補佐員ハ係爭利益カ正當ニ代表セラルルコトヲ保障スル爲選出セラルルモノニシテ表決權ヲ有セス
前項ニ掲クル部ニ於テ當事國ノ單ニ一方ノ國民カ裁判官トシテ出席スル場合ニ於テハ裁判所長ハ他ノ裁判官中ノ一名ニ對シ第三十一條ニ依リ當事國ノ他方ノ選出シタル裁判官ノ爲ニ席ヲ讓ルヘキコトヲ求ムヘシ
專門補佐員ハ國際聯盟ノ各聯盟國ノ指名スル二名及國際勞働事務局理事會ノ指名スル同數ノ者ヨリ成ル「勞働事件補佐員」ノ名簿ヨリ第三十條ノ手續規則ニ依リ各特定事件ニ付之ヲ選出スヘシ右理事會ハ「ヴェルサイユ」條約第四百十二條及他ノ平和條約ノ之ニ對當スル諸條ニ掲クル名簿ヨリ半數ハ勞働者ノ代表者ヲ及半數ハ使用者ノ代表者ヲ指名スヘシ
勞働事件ニ付テハ國際勞働事務局ハ一切ノ關係アル報告ヲ裁判所ニ供給スルノ自由ヲ有ス之カ爲同事務局長ハ書面ニセラレタル一切ノ手續書類ノ謄本ヲ受クルモノトス

第二十七條
通過及交通ニ關スル事件特ニ「ヴェルサイユ」條約第十二編(港、水路及鐵道)及他ノ平和條約ノ之ニ對當スル部分ニ掲クル事件ハ裁判所左ノ條件ニ依リ之ヲ裁判スヘシ
裁判所ハ能フ限リ第九條ノ規定ヲ參酌シテ選定セラレタル五名ノ裁判官ヨリ成ル特別ノ部ヲ三年毎ニ設ク出席スルコト能ハサル裁判官ニ更フル爲尙二名ノ裁判官ヲ選定スヘシ事件ハ當事國ノ請求アルトキ本部之ヲ裁判ス右ノ請求ナキトキハ裁判所ハ第二十五條ニ定ムル數ノ裁判官ヲ以テ開廷ス當事國ノ請求アルトキ又ハ裁判所ノ決定ニ依リ裁判官ハ之ニ陪席シ表決權ヲ有セサル四名ノ專門補佐員ノ助力ヲ受ク
前項ニ掲クル部ニ於テ當事國ノ單ニ一方ノ國民カ裁判官トシテ出席スル場合ニ於テハ裁判所長ハ他ノ裁判官中ノ一名ニ對シ第三十一條ニ依リ當事國ノ他方ノ選出シタル裁判官ノ爲ニ席ヲ讓ルヘキコトヲ求ムヘシ
專門補佐員ハ國際聯盟ノ各聯盟國ノ指名スル二名ヨリ成ル「通過及交通事件補佐員」ノ名簿ヨリ第三十條ノ手續規則ニ依リ各特定事件ニ付之ヲ選出スヘシ

第二十八條
第二十六條及第二十七條ニ定ムル特別ノ部ハ係爭當事國ノ合意ヲ以テ海牙以外ノ地ニ之ヲ開廷スルコトヲ得

第二十九條
事務ノ迅速處理ノ爲裁判所ハ當事國ノ請求ニ依リ簡易手續ヲ以テ事件ノ裁判ヲ爲スコトヲ得ル三名ノ裁判官ヨリ成ル部ヲ毎年設クヘシ

第三十條
裁判所ハ其ノ手續ヲ定ムル爲規則ヲ制定ス殊ニ簡易手續ノ規則ヲ定ムヘシ

第三十一條
各係爭當事國ノ國籍ヲ有スル裁判官ハ裁判所ニ繋屬スル事件ニ付出席スルノ權ヲ保有ス
裁判所カ其ノ裁判官席ニ當事國ノ單ニ一方ノ國籍ヲ有スル裁判官ヲ有スル場合ニ於テハ當事國ノ他方ハ豫備裁判官中ヨリ若シ其ノ中ニ自國ノ國籍ヲ有スル者アルトキハ自國ノ國籍ヲ有スル裁判官ヲ選定スルコトヲ得若シ其ノ中ニ自國ノ國籍ヲ有スル者ナキトキハ當事國ハ成ルヘク第四條及第五條ニ依リ候補者トシテ指名セラレタル者ノ中ヨリ一名ノ裁判官ヲ選出スルコトヲ得
裁判所カ裁判官席ニ係爭當事國ノ國籍ヲ有スル裁判官ヲ有セサル場合ニ於テハ各當事國ハ前項ニ依リ裁判官ノ選定又ハ選出ヲ爲スコトヲ得
同一利害關係ニ數當事國アル場合ニ於テハ其ノ數當事國ハ右ノ規定ノ適用ニ關シテハ之ヲ單ナル一當事國ト看做ス右ニ關スル疑義ハ裁判所ノ裁判ニ依リ之ヲ決定ス
本條第二項及第三項ノ定ムル所ニ依リ選定又ハ選出セラレタル裁判官ハ本規程第二條、第十六條、第十七條、第二十條及第二十四條ノ條件ヲ充スヘシ右裁判官ハ其ノ同僚ト平等ノ立場ニ於テ裁判ニ參與ス

第三十二條
裁判官ハ國際聯盟總會カ聯盟理事會ノ申出ニ依リ定ムル年手當ヲ受ク右ノ手當ハ裁判官ノ任期中之ヲ減スルコトヲ得ス
裁判所長ハ同樣ノ方法ニ依リ定メラルヘキ特別手當ヲ任期間受ク
裁判所次長、裁判官及豫備裁判官ハ同樣ノ方法ニ依リ定メラルヘキ手當ヲ其ノ職務ノ實行ニ對シ受ク
裁判所ノ所在地ニ居住セサル裁判官及豫備裁判官ハ其ノ職務ヲ行フニ付要シタル旅費ノ償還ヲ受ク
第三十一條ニ依リ選定又ハ選出セラレタル裁判官ノ受クヘキ手當ハ同樣ノ方法ニ依リ之ヲ定ム
裁判所書記ノ俸給ハ裁判所ノ申出ニ依リ聯盟理事會之ヲ定ム
國際聯盟總會ハ裁判所職員カ恩給ヲ受クルコトヲ得ルノ條件ヲ定ムル特別ノ規定ヲ聯盟理事會ノ申出ニ依リ定ムヘシ

第三十三條
裁判所ノ費用ハ聯盟總會カ聯盟理事會ノ申出ニ依リ定ムル方法ニ依リ國際聯盟之ヲ負擔ス

第二章　裁判所ノ管轄

第三十四條
國又ハ國際聯盟ノ聯盟國ノミ裁判所ニ於ケル事件ノ當事國タルコトヲ得

第三十五條
裁判所ハ聯盟國及聯盟規約附屬書所載ノ諸國ニ對シ開カル
現行諸條約ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外裁判所ヲ他ノ國ニ對シ開クノ條件ハ聯盟理事會之ヲ定ム但シ如何ナル場合ト雖當事國ヲ裁判所ニ於テ不平等ノ地位ニ置クコトナカルヘシ
國際聯盟ノ聯盟國ニ非サル國カ係爭當事國ナル場合ニ於テハ裁判所ハ其ノ當事國カ裁判所費用ニ付負擔スヘキ額ヲ定ム

第三十六條
裁判所ノ管轄ハ當事國カ裁判所ニ付託スル一切ノ事件及現行諸條約ニ特ニ規定スル一切ノ事項ニ及フ
國際聯盟ノ聯盟國及聯盟規約附屬書所載ノ諸國ハ左ニ關スル法律的紛爭ノ全種類又ハ各種類ニ付裁判所ノ管轄ヲ同一ノ義務ヲ受諾スル他ノ聯盟國又ハ國ニ對スル關係ニ於テ當然ニ且特別ノ合意ナクシテ義務的ナリト認ムルコトヲ本規程ノ添附セラルル議定書ノ調印若ハ批准ノ時又ハ其ノ後ニ於テ宣言スルコトヲ得
(イ)條約ノ解釋
(ロ)國際法上ノ問題
(ハ)國際義務ノ違反ト爲ルヘキ事實ノ存否
(ニ)國際義務ノ違反ニ對スル賠償ノ性質又ハ範圍
前記宣言ハ無條件ニテ、多數若ハ或聯盟國若ハ國トノ相互條件ニテ又ハ一定ノ期間ヲ附シテ之ヲ爲スコトヲ得
裁判所カ管轄ヲ有スルヤ否ヤニ付爭アル場合ニ於テハ裁判所ノ裁判ニ依リ之ヲ決定ス

第三十七條
現行條約ニ於テ國際聯盟ノ設クル裁判所ニ事項ヲ付託スルコトヲ規定スル場合ニ於テハ本裁判所ハ其ノ裁判所トス

第三十八條
裁判所ハ左ノ適用ヲ爲ス
一　係爭國ニ依リ明ニ認メラレタル規則ヲ確立スル一般又ハ特別ノ國際條約
二　法トシテ認メラレタル一般慣行ノ證トシテノ國際慣習
三　文明國ニ依リ認メラレタル法ノ一般原則
四　法則決定ノ補助手段トシテノ裁判上ノ判決及諸國ノ最優秀ノ公法學者ノ學說但シ第五十九條ノ規定ハ之ヲ留保ス
本規定ハ當事國ノ合意アルトキハ裁判所カ衡平ト善トニ基キ裁判ヲ爲スノ權限ヲ害スルコトナシ

第三章　手續

第三十九條
裁判所ノ公用語ハ佛蘭西語及英吉利語トス事件カ佛蘭西語ヲ以テ行ハルルコトニ當事國カ同意シタルトキハ判決ハ佛蘭西語ヲ以テ之ヲ爲スヘシ事件カ英吉利語ヲ以テ行ハルルコトニ當事國カ同意シタルトキハ判決ハ英吉利語ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
何レノ言語ヲ使用スルカニ付合意ナキトキハ各當事國ハ其ノ選擇スル言語ヲ爭訟ニ於テ使用スルコトヲ得裁判所ノ裁判ハ佛蘭西語及英吉利語ヲ以テ之ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ同時ニ右兩正文中何レヲ以テ有權的ノモノト爲スヘキカヲ決定スヘシ
裁判所ハ當事國ノ請求ニ依リ佛蘭西語又ハ英吉利語以外ノ言語ノ使用ヲ許可スルコトヲ得

第四十條
裁判所ニ對スル事件ノ提起ハ場合ニ依リ或ハ特別ノ合意ノ通告ヲ以テ或ハ書面ニシタル請求ニ依リ裁判所書記ニ宛テ之ヲ爲ス何レノ場合ニ於テモ紛爭ノ目的及係爭當事國ハ之ヲ表示スルコトヲ要ス
裁判所書記ハ直ニ右請求ヲ一切ノ利害關係者ニ通知スヘシ
裁判所書記ハ事務總長ヲ經テ國際聯盟ノ聯盟國ニ又通告スヘシ

第四十一條
裁判所ハ事情ニ依リ必要ト認ムルトキハ各當事國ノ夫々ノ權利ヲ保全スル爲執ルヘキ假措置ヲ指示スルノ權能ヲ有ス
終結判決アル迄示サレタル措置ノ通告ハ直ニ當事國及聯盟理事會ニ之ヲ爲スヘシ

第四十二條
當事國ハ代理人ニ依リ代表セラルヘシ
當事國ハ裁判所ニ於テ輔佐人又ハ辯護人ノ幇助ヲ受クルコトヲ得

第四十三條
手續ハ書面及口頭ノ二部分ヨリ成ル
書面手續ハ申述書、答辯書及必要アルトキハ抗辯書並援用ノ一切ノ文書及書類ヲ裁判所及當事國ニ送達スルコトヨリ成ル
右ノ送達ハ裁判所ノ定ムル順序及時期內ニ於テ裁判所書記ヲ經テ之ヲ爲ス
一方當事國ヨリ提出シタル一切ノ書類ノ認證シタル謄本ハ他方當事國ニ之ヲ送達スヘシ
口頭手續ハ證人、鑑定人、代理人、輔佐人及辯護人ニ付裁判所ノ爲ス聞取ヨリ成ル

第四十四條
代理人、輔佐人及辯護人以外ノ者ヘノ一切ノ通告ヲ爲スニハ裁判所ハ其ノ通告ノ爲サルヘキ地ノ國ノ政府ニ直接申出ツヘシ
右ノ規定ハ實地ニ就キ證據ヲ蒐集スル爲手續ヲ行フヘキ一切ノ場合ニ付之ヲ適用ス

第四十五條
辯論ハ裁判所長、其ノアラサルトキハ裁判所次長、其ノ何レモアラサルトキハ年長ノ裁判官之ヲ指揮ス

第四十六條
裁判所ニ於ケル辯論ハ之ヲ公開ス但シ裁判所カ別段ノ決定ヲ爲シタルトキ又ハ公開セラレサルヘキ旨ヲ兩當事國カ請求シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十七條
辯論毎ニ調書ヲ作成シ裁判所書記及裁判所長之ニ署名スヘシ
右調書ヲ以テ唯一ノ公正ノ記錄トス

第四十八條
裁判所ハ事件ノ進行ニ付命令ヲ發シ各當事國カ辯述ヲ完結スヘキ方式及時期ヲ定メ且證據調ニ關スル一切ノ措置ヲ執ル

第四十九條
裁判所ハ辯論ノ開始前ト雖一切ノ書類ヲ提出シ又ハ一切ノ說明ヲ爲スヘキコトヲ代理人ニ要求スルコトヲ得拒絕アリタルトキハ其ノ旨ヲ記錄ニ留ムヘシ

第五十條
裁判所ハ取調ヲ行フコト又ハ鑑定ヲ爲スコトヲ何時ニテモ一切ノ個人、團體、公廳、委員會又ハ其ノ他ノ機關ニ其ノ選擇スル所ニ依リ囑託スルコトヲ得

第五十一條
辯論中ニハ關係アル一切ノ質問ハ證人及鑑定人ニ對シ第三十條ニ掲クル手續規則ニ於テ裁判所ノ定ムル條件ニ依リ爲サルヘシ

第五十二條
裁判所ハ證據及證言ヲ之カ爲定メラレタル時期內ニ受理シタル後ハ一方當事國カ提出セムト欲スル新ナル一切ノ人證又ハ書證ヲ他方當事國ノ同意アルニ非サレハ受理スルコトヲ拒ムコトヲ得

第五十三條
當事國ノ一方カ出廷セス又ハ其ノ事件ヲ防禦スルコトヲ爲ササル場合ニ於テハ當事國ノ他方ハ自己ノ請求ニ有利ナル裁判ヲ爲スヘキコトヲ裁判所ニ要求スルコトヲ得
裁判所ハ右ノ裁判ヲ爲スニ先チ其ノ第三十六條及第三十七條ニ從ヒ管轄ヲ有スルコトノミナラス請求カ事實上及法律上充分根據アルコトヲ認ムルコトヲ要ス

第五十四條
裁判所ノ指揮ノ下ニ代理人、辯護人及輔佐人カ事件ノ主張ヲ完了シタルトキハ裁判所長ハ辯論ノ終結ヲ言渡スヘシ
裁判所ハ判決ヲ議スル爲退クヘシ
裁判所ノ評議ハ公開セス且祕密タルモノトス

第五十五條
一切ノ問題ノ決定ハ辯論ニ出席シタル裁判官ノ多數決ヲ以テ之ヲ爲ス
可否同數ナルトキハ裁判所長又ハ之ニ代ルヘキ者ハ決定投票權ヲ有ス

第五十六條
判決ニハ其ノ基礎タル理由ヲ掲クヘシ
判決ニハ裁判ニ參與シタル裁判官ノ氏名ヲ掲

第十五條　大會議期則
第十六條　小會議
第十七條　委員會
第三章　會議ヨリ會議ニ至ル間ニ於ケル提議
第十八條　提議ノ提出
第十九條　提議ノ審査
第二十條　同意ノ條件
第二十一條　決議ノ通知
第二十二條　決議ノ實施
第四章　總理局
第二十三條　一般職務
第二十四條　總理局ノ經費
第二編　一般法則
單一章
第二十五條　繼越ノ自由
第二十六條　聯合ノ業務ヲ利用スル權利
第二十七條　規定セサル料金ノ禁止
第二十八條　業務ノ一時停止
第二十九條　基準貨幣
第三十條　相當額
第三十一條　式紙、用語
第三十二條　本人票
第三編　通常郵便物ニ關スル規定
第一章　總則
第三十三條　通常郵便物
第三十四條　料金及一般條件
第三十五條　料金前納
第三十六條　料金ノ未納又ハ不足ノ場合ノ料金
第三十七條　聯合外ノ通常郵便物
第三十八條　增料金
第三十九條　特別料金
第四十條　別配達郵便物
第四十一條　禁制
第四十二條　料金前納ノ方法
第四十三條　郵便料ノ免除
第四十四條　返信切手券
第四十五條　取戻、名宛變更
第四十六條　轉送、不能配達
第四十七條　取消請求
第四十八條　料金
第四十九條　到達證
第五十條　責任ノ範圍
第五十一條　責任ノ原則ニ對スル例外
第五十二條　責任ノ消滅
第五十三條　賠償金ノ支拂
第五十四條　支拂期間
第五十五條　責任ノ決定
第五十六條　差立郵政廳ニ對スル賠償金ノ償還
第五十七條　聯合ノ境域外ノ書留郵便物ニ關スル責任
第三章　料金及條件、清算
第五十八條　料金及條件ノ清算
第五十九條　代金引換金額ノ取消
第六十條　郵便物亡失ノ場合ノ責任
第六十一條　正當ニ取立テタル金額ノ保證
第六十二條　不取立、不足取立又ハ詐欺取立ノ場合ノ賠償金
第六十三條　正當ニ取立テタル金額、賠償金、支拂及求償
第六十四條　支拂期間
第六十五條　責任ノ決定
第六十六條　前拂金額ノ償還
第六十七條　代金引換爲替
第六十八條　代金引換金額ノ分配
第四章　料金ノ歸屬、繼越料及保管料
第六十九條　料金ノ歸屬
第七十條　繼越料
第七十一條　保管料
第七十二條　繼越料ノ免除
第七十三條　特殊業務
第七十四條　航空業務
第七十五條　支拂及差引計算
第七十六條　聯合外ノ國トノ關係ニ於ケル繼越料
第七十七條　軍艦トノ閉塞ノ交換
第七十八條　諸種ノ規定
第七十九條　繼越ノ自由ノ不遵守
第八十條　最終規定

クヘシ

第五十七條

判決カ其ノ全部又ハ一部ニ付裁判官ノ全員一致ノ意見ヲ表セサルトキハ意見ヲ異ニスル裁判官ハ個別ノ意見ヲ表示スルノ權利ヲ有ス

第五十八條

判決ニハ裁判所長及裁判所書記之ニ署名ス判決ハ代理人ニ對シ正當ノ通告ヲ爲シ公開廷ニ於テ之ヲ朗讀ス

第五十九條

裁判所ノ裁判ハ當事國間ニ於テ及其ノ特定ノ事件ニ付テノ外ハ拘束力ヲ有セス

第六十條

判決ハ終結ト上訴セサル判決ノ意義又ハ範圍ニ付爭アル場合ニハ裁判所ハ當事國ノ要求ニ依リ之ヲ解釋ス

第六十一條

判決ノ再審ノ請求ハ決定的要素タルヘキ性質ヲ有スル事實ニシテ判決アリタル際裁判所及再審請求當事國ニ知ラレサリシモノノ發見ヲ理由トスル場合ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得但シ之ヲ知ラサリシコトカ過失ニ因ラサリシ場合ニ限ル

再審ノ手續ハ新事實ノ存在ヲ確認シ、右新事實カ事件ヲ再審ニ付スヘキ性質ヲ有スルモノナルコトヲ認メ且其ノ請求カ此ノ理由ニ依リ許スヘキモノナルコトヲ宣言スル裁判所ノ判決ヲ以テ之ヲ開始ス

裁判所ハ再審ニ於ケル手續ヲ許スニ先チ判決ノ條項ニ拘ハラス之ヘキコトヲ命スルコトヲ得

再審ノ請求ハ新事件ノ發見ノ時ヨリ遲クトモ六月以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

判決ノ日ヨリ十年ヲ經過シタル後ニ於テハ再審ノ請求ハ一切之ヲ爲スコトヲ得ス

第六十二條

事件ノ裁判ニ依リ影響セラルルコトアルヘキ法律的性質ノ利害關係ヲ有スト認ムル國ハ第三當事者トシテ參加スルヲ許可セラルルコト裁判所ハ右請求ニ付決定ヲ爲ス

第六十三條

事件ニ關係スル國以外ノ國カ當事國タル條約ノ解釋カ問題タル場合ニ於テハ裁判所書記ハ直ニ一切ノ此等ノ國ニ通告スヘシ

斯ク通告ヲ受ケタル一切ノ國ハ手續ニ參加スルノ權利ヲ有スル尤モ右權利ヲ行使シタル場合ニハ判決ニ依リ與ヘラレタル解釋ハ該國ヲモ均シク拘束ス

第六十四條

裁判所カ別段ノ決定ヲ爲スニ非サレハ各當事國ハ各自ノ費用ヲ負擔ス

萬國郵便條約及最終議定書

大正十四年九月
條約第十一號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ大正十三年八月二十八日瑞典國「ストックホルム」ニ於テ帝國全權委員カ關係各國全權委員ト共ニ署名シタル萬國郵便條約及最終議定書ヲ批准シ玆ニ之ヲ公布セシム

萬國郵便聯合

萬國郵便條約

目次

第一編　萬國郵便聯合

第一章　聯合ノ組織及境域

第一條　聯合ノ構成
第二條　新加入、手續
第三條　聯合ノ條約及約定
第四條　施行規則
第五條　特別條約及限定聯合、隣接區域
第六條　內國法制
第七條　聯合外ノ國トノ關係
第八條　殖民地、保護領等
第九條　聯合ノ境域
第十條　仲裁
第十一條　聯合ヨリノ脫退、約定參加ノ取消

第二章　大會議、小會議、委員會

第十二條　大會議
第十三條　批准、大會議ノ條規ノ實施及存續期間

第一條　通常郵便物ノ取扱

第二條　相當額、最高限及最低限

第三條　料金前納ノ義務ヲ規定スル權能

第四條　外國ニ於ケル通常郵便物ノ差出

第五條　常衡「オンス」

第六條　返信切手券

第七條　書留料

第八條　保管料

第九條　代表セラレサル國ニ對シ加入ノ條

第十條　地ヲ存スル議定書

第十一條　代表セラレタル國ニ對シ署名及加入ノ爲ニ餘地ヲ存スル議定書

代表セラレサル聯合國ノ加入通知期間

萬國郵便聯合

南阿弗利加聯邦、「アルバニア」國、獨逸國、亞米利加合衆國、「フイリツピン」諸島ヲ除ク亞米利加合衆國屬島全體、「フイリツピン」諸島、「アルゼンテイン」共和國、「オーストラリア」聯邦、墺地利國、白耳義國、白耳義國「コンゴー」殖民地、「ボリヴイア」國、「ブラジル」國、「ブルガリア」國、「カナダ」、「チリ」國、支那國、「コロンビア」共和國、「コスタ、リカ」共和國、「キユバ」共和國、丁抹國、「ダンチツヒ」自由市、「ドミニカ」共和國、「エジプト」國、「エクアドル」國、西班牙國、西班牙國殖民地、「エストニア」國、「エシオピア」國、「フインランド」國、佛蘭西國、「アルジエリー」、印度支那ノ佛蘭西國殖民地及保護領、其ノ他ノ佛蘭西國殖民地全體、「グレート、ブリテン」國竝英國諸殖民地及保護領、希臘國、「グヮテマラ」國、「ハイチ」共和國、「ホンデユラス」共和國、「ハンガリー」國、英領印度、「アイルランド」自由國、「アイスランド」國、伊太利國、伊太利國殖民地全體、日本國、朝鮮、其ノ他ノ日本國屬地全體、「ラトヴイア」國、「リベリア」共和國、「リスアニア」國、「ルクセンブルグ」國、「モロツコ」國（西班牙地帶ヲ除ク）、「モロツコ」國（西班牙地帶）、「メキシコ」國、「ニカラグア」國、諸威國、「ニユージーランド」、「パナマ」共和國、「パラグアイ」國、和蘭國、蘭領印度、亞米利加ニ於ケル和蘭國殖民地、「ペルー」國、「ペルシア」國、「ポ・ランド」國、「ポルトガル」國、阿弗利加ノ「ポルトガル」國殖民地、亞細亞及太洋洲ノ「ポルトガル」國殖民地、「ルーマニア」國、「サン、マリノ」共和國、「サルヴアドル」國、「ザール」河地方「セルブ、クロアート、スロヴエーヌ」王國、還羅王國、瑞典國、瑞西國、「チエツコ、スロヴアキア」國、「テユニス」國、土耳其國、「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦「ウルグアイ」國及「ヴエネズエラ」合衆國ノ間ニ締結シタル萬國郵便條約

前揭諸國ノ全權委員タル下ニ署名スル者ハ千九百二十年十一月三十日「マドリツド」ニ於テ締結シタル萬國郵便條約第二十七條ニ依リ「ストックホルム」ニ於テ大會議ヲ開催シ協議ヲ遂ケ批准ヲ受クヘキモノトシテ右條約ヲ以下規定ノ通改正シタリ

第一編　萬國郵便聯合

第一章　聯合ノ組織及境域

第一條　聯合ノ構成

本條約ヲ締結スル諸國ハ通常郵便物ノ相互交換ノ爲萬國郵便聯合ノ名稱ノ下ニ單一ノ郵便境域ヲ形成ス郵便聯合ハ亦國際郵便諸業務ノ組織及完成ヲ保障スル目的ヲ有ス

第二條　新加入、手續

聯合ノ一員タラサル國ハ何時ニテモ條約ニ加入スルコトヲ得

其ノ加入ノ申込ハ外交上ノ手續ニ依リ之ヲ瑞西聯邦政府ニ通知シ且同政府ヨリ總テノ聯合國政府ニ通知スルコトヲ要ス

第三條　聯合ノ條約及約定

通常郵便ノ業務ハ條約ノ規定ニ依リ之ヲ規律ス

其ノ他ノ業務殊ニ價格表記ノ書狀及箱物、小包郵便物、郵便爲替、郵便振替、現金取立竝新聞紙及定期刊行物竝ニ業務ノ類ハ聯合國間ノ約定ノ目的ヲ成ス

右約定ハ之ニ加入シタル國ニ對シテノミ拘束力ヲ有ス

右約定ノ一箇又ハ數箇ヘノ加入ハ前條ノ規定ニ從フ

第四條　施行規則

聯合郵政廳ハ協議ヲ以テ條約及約定ノ施行ニ必要ナル細目手續ヲ施行規則ニ於テ定ム

第五條　特別條約及限定聯合、隣接區域

一　聯合國ハ料金ヲ引下ケ其ノ他總テ郵便關係ヲ改善スル爲特別條約ヲ維持締結シ及限定聯合ヲ維持設立スル權利ヲ有ス

二　聯合ノ條規ニ規定セラレタルモノニ比シ不利ナル規定ヲ挿入セサル留保ノ下ニ郵政廳モ亦聯合ノ全體ニ關セサル事項ニ付其ノ間ニ必要ナル協定ヲ爲スコトヲ得殊ニ郵政廳ハ通常郵便物ニ關シ半徑三十「キロメートル」ノ區域內ニ於ケル引下料金ノ採用ニ付其ノ間ニ協議スルコトヲ得

第六條　內國法制

聯合ノ條約及約定ノ條款ハ該條規ニ明瞭ニ規定セサル事項ニ付テハ各國ノ法制ニ影響ヲ及ホスコトナシ

第七條　聯合外ノ國トノ關係

聯合外ノ國ト關係ヲ有スル聯合ノ郵政廳ハ通常郵便物ノ交換ヲ爲該關係ヲ他ノ郵政廳ノ用ニ供スヘキモノトス

條約ノ規定ハ聯合國ト聯合外ノ國トノ間ニ於ケル通常郵便物ノ交換ニ付テハ該交換カ少クトモ締約國二國ノ業務ニ依ル總テノ場合ニ之ヲ適用ス

第八條　殖民地、保護領等

左ニ揭クルモノハ條約及約定ノ適用上殊ニ大會議、小會議及會議ヨリ會議ニ至ル間ニ於ケル其ノ投票權竝萬國郵便聯合總理局ノ經費ノ分擔ニ關シテハ場合ノ一國又ハ一郵政廳ヲ形成スルモノト看做ス

一　白耳義國「コンゴー」殖民地

二　「フイリツピン」諸島ヲ除キ「ハワイ」、「ポルト、リコ」、「グアム」及亞米利加合衆國ノ「ヴアージニア」諸島ヲ包含スル亞米利加合衆國屬島全體

三　「フイリツピン」諸島

四　西班牙國殖民地全體

五　「アルジエリー」

六　印度支那ノ佛蘭西國殖民地及保護領

七　其ノ他ノ佛蘭西國殖民地全體

八　伊太利國殖民地全體

九　朝鮮

十　其ノ他ノ日本國屬地全體

十一　屬領印度

十二　亞米利加ニ於ケル和蘭國殖民地

十三　阿弗利加ノ「ポルトガル」國殖民地

十四　亞細亞及太洋洲ノ「ポルトガル」國殖民地

第九條　聯合ノ境域

左ニ揭クルモノハ萬國郵便聯合ニ屬スルモノト看做ス

(イ)　聯合國カ聯合外ノ國ニ設置シタル郵便局

(ロ)　瑞西國郵政廳ニ從屬スルモノトシテ「リヒテンスタイン」公國

(ハ)　丁抹國ノ一部ヲ成スモノトシテ「フエロウ」諸島及「グリーンランド」

(ニ)　西班牙國ノ一部ヲ成スモノトシテ阿弗利加北海岸ノ西班牙國領地、西班牙國郵政廳ニ從屬スルモノトシテ「アンドラ」共和國

(ホ)　佛蘭西國郵政廳ニ從屬スルモノトシテ「モナコ」公國

(ヘ)　南阿弗利加聯邦ノ一部ヲ成スモノトシテ「ウオルフイツシユ、ペイ」、南阿弗利加聯邦郵政廳ニ從屬スルモノトシテ「バストランド」

(ト)　諸威國郵政廳ニ從屬スルモノトシテ「スピツツベルゲン」諸島ニ設置シタル諸威郵便局

第十條　仲裁

一　條約及約定ノ解釋又ハ該條規ノ適用ニ依リ郵政廳ノ負擔スヘキ責任ノ解釋ニ關シ聯合ノ二員以上ノ間ニ異見ヲ生シタル場合ニハ係爭問題ハ仲裁ニ依リ之ヲ裁決スル爲當該各郵政廳ハ其ノ事件ニ直接ノ關係ヲ有セサル聯合ノ他ノ一員ヲ選定スル一致セサル郵政廳ノ一カ仲裁ノ提議ニ對シ六月又海外諸國ニ在リテハ九月ノ期間內ニ措置ヲ執ラサル場合ニハ總理局ハ請求ニ因リ懈怠郵政廳ニ對シ仲裁者

ノ指定ヲ促シ又ハ職權ヲ以テ自ラ仲裁者ヲ指定スルコトヲ得

二　仲裁者ノ判定ハ投票ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス

三　投票同數ナル場合ニハ仲裁者ハ紛議ヲ解決スル爲等シク爭議ニ關係ナキ他ノ一郵政廳ヲ選定ス

四　仲裁者ハ爭議ノ生シタル約定ヲ施行スル郵政廳ノ外ヨリ之ヲ指定スルコトヲ得ス

第十一條　聯合ヨリノ脫退、約定參加ノ取消

各締約國ハ其ノ政府ヨリ瑞西聯邦政府ニ一年前ニ通告シテ聯合ヨリ脫退シ又ハ約定ノ參加ヲ取消ス權能ヲ有ス

第二章　大會議、小會議、委員會

第十二條　大會議

一　聯合國委員ハ前回大會議ノ條規實施ノ日ヨリ遲クトモ五年內ニ必要ニ應シ條規ヲ改正シ又ハ補足スル爲大會議ヲ開催ス

各國ハ其ノ政府ニ於テ必要ナル權限ヲ付與シタル一人又ハ數人ノ全權委員ヲシテ大會議ニ代表セシムル各國ハ必要アルトキハ他國ノ委員ヲシテ代表セシムルコトヲ得但シ一委員ハ最初之ニ委員タルコトヲ命シタル國ヲ合シ二國ヲ超エ代表スルコトヲ得サルモノトス

二　各國ハ討議ニ於テ一箇ノ投票權ヲ行使ス

各大會議ハ次回大會議ノ開催地ヲ定ム此ノ大會議ハ總理局ト協議ノ上開催國政府ニ於テ之ヲ招集ス該政府ハ亦大會議ノ決議ヲ聯合ノ總テノ政府及國ニ通知スヘキモノトス

第十三條　批准、大會議ノ條規ノ實施及存續期間

大會議ノ條規ハ成ルヘク速ニ之ヲ批准シ且批准ハ大會議開催地ノ國ノ政府ニ之ヲ通報ス

締約國ノ一國又ハ數國カ其ノ署名シタル條規ノ何レカヲ批准セサル場合ニ於テモ右條規ハ之ヲ批准スル國ニ對シテハ其ノ效力ヲ害セラルルコトナカルヘシ

右條規ハ同時ニ實施セラレ且同一存續期間ヲ有ス

大會議ニ於テ採擇シタル條規ノ實施ノ爲定メタル日ヨリ前回大會議ノ總テノ條規ハ反對ノ規定アリ又ハ之ヲ廢止スル場合ノ外ハ引續キ有效ナリトス

第十四條　臨時大會議

臨時大會議ハ締約國ノ少クトモ三分ノ二カ之ヲ請求シ又ハ請求ニ同意シタルトキハ總理局ト協議ノ上之ヲ開催ス

第十二條及第十三條ニ定ムル規定ハ臨時大會議ノ委員、討議及條規ニ之ヲ適用ス

第十五條　大會議規則

各大會議ハ其ノ事務及討議ニ必要アル規則ヲ定ム

第十六條　小會議

純然タル事務上ノ問題ヲ審査スヘキ小會議ハ聯合郵政廳ノ少クトモ三分ノ二ノ請求ニ因リ之ヲ開催スルコトヲ得

小會議ハ總理局ト協議ノ上之ヲ招集ス

小會議ハ其ノ規則ヲ定ム

第十七條　委員會

大會議又ハ小會議ニ依リ一箇又ハ數箇ノ一定ノ問題ノ研究ヲ委任セラレタル委員會ハ該委員會ヲ開催スヘキ國ノ郵政廳ト場合ニ依リ協議ノ上總理局之ヲ招集ス

第三章　會議ヨリ會議ニ至ル間ニ於ケル提議

第十八條　提議ノ提出

各郵政廳ハ會議ヨリ會議ニ至ル間ニ於テ總理局ノ媒介ニ依リ條約及其ノ施行規則ニ關スル提議ヲ他ノ郵政廳ニ爲ス權利ヲ有ス

約定加入國郵政廳ハ約定及其ノ施行規則ニ關シ同一ノ權利ヲ有ス

會議ヨリ會議ニ至ル間ニ於テ提出セラレタル總テノ提議ハ之ヲ討議ニ付スルニハ發議郵政廳ヲ除キ少クトモ二郵政廳ノ贊成ヲ得ルコトヲ要ス總理局ニ於テ同時ニ贊成宣言ノ必要數ヲ受取ラサルトキハ該提議ハ效果ヲ生セス

第十九條　提議ノ審査

各提議ハ次ノ手續ニ從ヒ之ヲ取扱フ

提議ヲ審査シ且意見アル場合ハ之ヲ總理局ニ送付スル爲郵政廳ニ六月ノ期間ヲ與フ修正ハ之ヲ許サス回答ハ總理局ニ於テ之ヲ取纏メ可否ノ宣言ノ催告ト共ニ郵政廳ニ通報ス提出セラレタル意見ヲ郵政廳ニ通知スル總理局ノ第二回章ノ日附ヨリ起算シ六月ノ期間內ニ投票ヲ送付セサル郵政廳ハ棄權シタルモノト看做ス

提議カ約定又ハ其ノ施行規則ニ關スルトキハ該約定ニ加入シタル郵政廳ノミ前記ノ措置ヲ與ルコトヲ得

第二十條　同意ノ條件

一　提議カ實施力ヲ有スルニハ左ノ票數ヲ得ルコトヲ要ス

(イ)　新規定ノ追加又ハ條約第一編、第二編、第三十三條乃至第三十六條、第三十八條、第四十八條乃至第五十三條、第五十五條、第五十六條、第五十八條、第六十條乃至第六十三條、第六十五條乃至第七十五條、第七十七條乃至第八十條若ハ其ノ施行規則第一條、第四條、第十七條、第五十三條、第六十六條ノ規定ノ修正ニ關スルトキハ投票ノ全體

(ロ)　前節ニ記載スル規定以外ノ規定ノ修正ニ關スルトキハ投票ノ三分ノ二

(ハ)　條約又ハ其ノ施行規則、規定ノ解釋ニ關スルトキハ第十條ニ規定スル仲裁ニ付スヘキ異見ノ場合ヲ除キ過半數

二　約定ニ關スル提議ノ同意ニ付テノ條件ハ約定ノ定ムル所ニ依ル

第二十一條　決議ノ通知

條約及約定ニ對スル追加及修正ハ總理局ノ請求ニ因リ瑞西聯邦政府ニ於テ作成シ且締約國政府ニ送付スヘキ外交上ノ宣言ニ依リ確定ス施行規則ニ對スル追加及修正ハ總理局ニ於テ之ヲ確認シ且郵政廳ニ通知ス前條(ハニ掲クルモノニ三月ノ後ニ非サレハ實施力ヲ生セス

第四章　總理局（第二十二條乃至第二十三條）

一　萬國郵便聯合總理局ノ名稱ノ下ニ「ベルヌ」ニ於テ執務シ且瑞西國郵政廳ノ監督チ受クル中央局ハ聯合國ニ對シ聯絡、通知及諮問ノ機關ニ任ス

總理局ハ殊ニ國際郵便業務ニ關スル各種ノ報告ヲ蒐集シ、整理シ、發行シ及配付スルコト、當事者ノ請求ニ因リ係爭問題ニ關シ意見ヲ發表スルコト、大會議ノ條規ノ修正ニ關スル請求ヲ通達スルコト、採擇シタル變更及其ノ施行規則ニ依リ同ニ負ハシメラレ又ハ同局カ聯合ノ利益ノ爲ニ委囑セラルル研究及編纂又ハ記錄ニ關スル事務ヲ行フコトヲ任務トス

二　總理局ハ其ノ關與ヲ請求スル郵政廳間ニ相殺事務局ノ名義ニテ國際郵便業務ニ關スル各種ノ計算ノ清算ニ關與ス

第二十四條　總理局ノ經費

一　各大會議ハ總理局ノ經常費年額ノ最高限ヲ定ム

右經費竝大會議、小會議又ハ委員會ノ開催ニ要スル臨時費用及總理局ニ委託セラレタル特殊ノ事務ヨリ生スル費用ハ總テノ聯合國ニ於テ共同ニ之ヲ負擔ス

二　之カ爲聯合國ヲ七等ニ分チ各等左ノ割合ヲ以テ右經費ノ支拂ヲ爲ス

一等　二十五單位
二等　二十單位
三等　十五單位
四等　十單位
五等　五單位
六等　三單位
七等　一單位

三　新加入ノ場合ニハ瑞西聯邦政府ハ當該國政府ト協議ヲ遂ケ總理局ノ費用ノ分擔ニ關シ同國ノ列スヘキ等級ヲ決定ス

第二編　一般法則

單一章

第二十五條　繼越ノ自由

一　繼越ノ自由ハ聯合ノ全境域ニ於テ之ヲ保障ス

小包郵便物ノ繼越ノ自由ハ聯合ノ全境域ニ於テ之ヲ保障ス

スル國ノ領域內ニ限ル價格表記郵便物ハ此ノ種ノ郵便物ニ關スル約定ニ加入セサル國ノ領域ヲ通過シ閉塞ニテ之ヲ繼越スコトヲ得但シ該國ノ責任ハ書留郵便物ニ付規定セラルルモノヲ以テ限度トス

第二十六條　聯合ノ業務ヲ利用スル權利

聯合國ハ何人ニ對シテモ條約及約定ノ目的ヲ成ス業務ヲ利用スル權利ヲ認ム

第二十七條　規定セサル料金ノ禁止

郵便料金ハ條約及約定ニ規定スルモノヲ除クノ外如何ナル種類タルヲ問ハス之ヲ徵收スルコトヲ禁ス

第二十八條　業務ノ一時停止

非常ナル事情ニ因リ郵政廳カ他ノ郵政廳ヨリ交付セラレタル通常郵便物ノ差立又ハ一箇若ハ數箇ノ特別業務ノ施行ヲ全部又ハ一部一時停止スルノ已ムヲ得サルニ至リタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ關係郵政廳ニ通知スヘキモノトス

必要アルトキハ電信ニ依ル

第二十九條　基準貨幣

條約及約定ノ規定ニ於テ貨幣單位トシテ採用スル「フラン」ハ重量三十一分ノ十「グラム」ニシテ品位千分ノ九百ナル百「サンチーム」ノ金「フラン」トス

第三十條　相當額

聯合各國ニ於テハ料金ハ其ノ國ノ現行貨幣ニテ「フラン」ノ値ニ成ルヘク正確ニ相當スル額ニ依リ之ヲ定ム

第三十一條　式紙、用語

一　郵政廳カ其ノ相互ノ關係ニ於テ使用スル式紙ハ關係郵政廳カ直接ノ協議ニ依リ別段ノ取極ヲ爲ス場合ニ非サレハ他國語ノ行間對譯ヲ附シ又ハ附セスシテ佛蘭西語ニテ記載スルコトヲ要ス

二　佛蘭西語ニテ印刷セサル公衆用ノ式紙ニハ佛蘭西語ノ行間對譯ヲ附スルコトヲ要ス

第一項及第二項ノ式紙ハ條約及約定ノ施行規則ニ定ムルモノニ成ルヘク近似スルヲ有スルコトヲ要ス

三　郵政廳ハ其ノ相互ノ關係ニ於ケル業務上

四　本人票ハ其ノ發行ノ日ヨリ起算シ三年間有效トス

第三編　通常郵便物ニ關スル規定

第一章　總則

第三十三條　通常郵便物

通常郵便物ナル名稱ハ書狀、通常郵便葉書、往復郵便葉書、業務用書類、商品見本及盲人用點字印刷物ヲ含ム各種印刷物ニ適用セラル

第三十四條　料金及一般條件

一　聯合ノ全境域ニ於ケル通常郵便物ノ遲送ニ對スル前納料金ハ左表ノ指示ノ通之ヲ定ム該遲送ニハ配達業務ヲ施設シ又ハ施設スルコトアルヘキ國ニ於ケル名宛人ノ住所ヘノ配達ヲ包含ス

ノ通信ノ爲使用スル國語ニ付協議スルコトヲ得

第三十二條　本人票

一　各郵政廳ハ本人票ヲ認メサル旨ヲ通知セサル國ノ郵便局ノ總テノ取扱ニ付證據書類トシテノ效力ヲ有スル本人票ヲ其ノ請求者ニ交付スルコトヲ得

二　本人票ヲ交付スル郵政廳ハ之カ爲一「フラン」ヲ超エサル料金ヲ徵收スルコトヲ得

三　郵便物ノ交付又ハ爲替ノ支拂カ正當ノ本人票ノ呈示ニ依リ爲サレタルコト立證セラレタルトキハ郵政廳ハ總テノ責任ヲ免カル

郵政廳ハ亦正當ノ本人票ノ亡失、盜取又ハ詐欺使用ニ因リ生スルコトアルヘキ結果ニ付其ノ責ニ任セス

郵便物		重量ノ單位	料金	制限重量	制限寸尺
書狀	最初ノ重量階段	「グラム」二〇	一五	二「キログラム」	各面四五「センチメートル」及長サ又ハ直徑ノ和一〇〇「センチメートル」
	追加ノ各階段	「サンチーム」一五	一五	二「キログラム」	
郵便葉書	通常	—	一五	二「キログラム」	各面四五「センチメートル」及長サ又ハ直徑ノ和一〇〇「センチメートル」
	往復	—	三〇	二「キログラム」	
印刷物		五〇	五	二「キログラム」	巻物ニ在リテハ長サ四五「センチメートル」及直徑七五「センチメートル」
盲人用點字印刷物		一〇〇〇	三	三「キログラム」	
業務用書類		五〇	五	二「キログラム」	
業務用書類最低料金		—	二五	—	最小限　長「一五「センチメートル」　幅一〇「センチメートル」
商品見本		五〇	五	五〇〇「グラム」	最大限　長「一五「センチメートル」　幅一〇「センチメートル」
商品見本最低料金		—	一〇	—	長サ又ハ幅又ハ厚サ四五「センチメートル」及直徑一五「センチメートル」

(一)　此ノ重量ハ冊別ニ差出スモノニ付テハ三「キログラム」トス

各面四五「センチメートル」及長サ又ハ直徑七五「センチメートル」ノ巻物ニ在リテハ一〇〇「センチメートル」ヲ超エサルモノトス

四　聯合各國ハ各表ノ指示ニ從ヒ通常郵便物ニ付徵收スヘキ料金ヲ定ム

書狀ハ名宛人又ハ名宛人ト住居ヲ共ニスル人以外ノ人ニ宛テタル書狀、文書又ハ書類ヲ包有スヘカラス

業務用書類、商品見本及各種印刷物ハ現實的且對人的ノ通信ノ性質ヲ有スル文書又ハ書狀ヲ包有スヘカラス該郵便物ハ施行規則ニ規定スル例外ヲ除クノ外容易ニ檢査シ得ル樣之ヲ包裝スルコトヲ要ス

本條第一項ニ定ムル重量及寸尺ノ制限ハ第四十三條第一項ノ郵便業務ニ關スル通常郵便物ニハ之ヲ適用セス

商品見本ノ包束物ハ市價ヲ有スル物品ヲ包有スルコトヲ得ス

異ナル種類ノ通常郵便物ヲ單一ノ郵便物（合裝郵便物）トシテ合括スルコトハ施行規則ニ定ムル條件ニ於テ之ヲ許ス

條約及其ノ施行規則ニ規定スル例外ヲ除クノ外郵便物ニシテ其ノ所要條件ヲ具備セサルモノハ之ヲ郵送セス

誤テ引受ケラレタル郵便物ハ之ヲ差出郵政廳ニ返送スルコトヲ得名宛郵政廳カ之ヲ名宛人ニ交付スルトキハ場合ニ依リ該郵便物ノ實際屬スル種類ノ通常郵便物ニ付規定スル料金及增料金ヲ之ニ適用スルコトヲ要ス

書狀ノ料金率ニテ料金ヲ前納シタル郵便物ハ名宛國カ關稅ヲ課スヘキ物品ヲ書狀トシテ輸入スルコトヲ許ストキハ該物品ヲ包有スルコトヲ得

右郵便物ニハ表記面ニ施行規則ノ規定ニ適合スル票符ヲ貼附スルコトヲ要ス

名宛國郵政廳ハ其ノ法制ニ規定スル方式

ニ依リ右郵便物ヲ税關ノ檢査ニ付シ、職權ヲ以テ開披シ及輸入税ヲ徵收スルコトヲ得

第三十五條　料金前納

書狀及通常郵便葉書以外ノ郵便物ハ完全ニ料金ヲ前納スルコトヲ要ス

往復郵便葉書ニシテ差出ノ際完全ニ其ノ兩部ノ料金ヲ前納セサルモノハ之ヲ郵送セス

第三十六條　料金ノ未納又ハ不足ノ場合ノ料金

料金ノ未納又ハ不足ノ場合ニハ或種類ノ轉送郵便物ニ付施行規則第三十九條ニ規定スル例外ヲ除クノ外各種ノ通常郵便物ニ付名宛人ヨリ未納又ハ不足額ノ二倍ノ料金ヲ徵收ス該料金ハ十「サンチーム」ヲ下ルコトヲ得ス

第三十七條　聯合外ノ通常郵便物

一　聯合外ノ國ニ宛ツル通常郵便物ノ料金ハ聯合ノ普通料金率ヲ下ルコトヲ得ス

二　聯合外ノ國ヨリ發シ聯合ノ一國ニ交付スル料金未納又ハ不足ノ通常郵便物ニ付テハ配達郵政廳ハ該通常郵便物ノ差出國ニ宛ツル同樣ノ郵便物ニ付自廳ノ業務ニ於テ適用スヘキ規則ニ從ヒ料金ヲ徵收ス

第三十八條　增料金

聯合外ノ郵政廳ニ屬スル業務又ハ特別ノ費用ヲ要スル聯合内ノ特殊業務ニ依リ遞送スル各郵便物ニ對シテハ第三十四條及第三十七條ニ定ムル料金ノ外其ノ費用ニ相應スル增料金ヲ徵收スルコトヲ得

通常郵便葉書ノ前納料金率カ前節ニ認ムル增料金ヲ包含スルトキハ同一料金率ハ往復郵便葉書ノ各部ニ之ヲ適用ス

第三十九條　特別料金

一　郵政廳ハ最終締切時間ニ其ノ差立業務ニ差出ス郵便物ニ對シ其ノ法制ノ規定ニ從ヒ附加料金ヲ徵收スルコトヲ得

二　關税ヲ課スヘキ物品ヲ包有スル郵便物ヲ法制上交付シ得ル名宛國ハ該郵便物ノ通關ノ爲郵便物一箇ニ付最高五十「サンチーム」ノ料金ヲ徵收スルコトヲ得

三　名宛國ハ留置郵便物ニ付其ノ法制ニ從ヒ特別料金ヲ徵收スルコトヲ得

第四十條　別配達郵便物

一　通常郵便物ハ郵政廳カ其ノ相互ノ關係ニ於テ別配達業務ヲ擔當スルコトヲ承諾スル國ニ於テハ差出人ノ請求ニ因リ到著後直ニ特使ヲ以テ之ヲ住所ニ配達ス

二　右郵便物ハ之ヲ別配達ト稱シ普通郵便料ノ外最低普通書狀第一通分ノ前納料金ノ二倍乃至最高一「フラン」ノ特別料金ヲ課ス該料金ハ差出人ニ於テ完全ニ之ヲ前納スルコトヲ要ス

三　名宛人ノ住所カ名宛局ノ無料配達區域外ニ在ルトキハ別配達ニ付テハ内國業務ニ於テ定ムル補充料金ニ達スル迄ノ補充料金ヲ徵收スルコトヲ得

尤モ右ノ場合ニ於テハ別配達ハ義務的ニ非ス

四　前納スヘキ料金ノ全額ヲ完納セサル別配達郵便物ハ差出局ニ於テ別配達トシテ取扱ヒタルモノニ非サレハ普通ノ方法ニ依リ之ヲ配達ス

第四十一條　禁制

左ノモノハ之ヲ發送スルコトヲ禁ス

一

（イ）性質上又ハ包裝上吏員ニ危害ヲ及ホシ又ハ通常郵便物ヲ汚染シ若ハ毀損スヘキ物品

（ロ）爆發性、發火性又ハ危險性ノ物質

（ハ）蜜蜂及蠶ヲ除キ生キタル動物

（ニ）第三十四條第九項ニ規定スル例外ヲ除クノ外關税ヲ課スヘキ物品及關税ノ徵收ヲ避クル目的ヲ以テ多數發送スル見本

（ホ）阿片「モルヒネ」「コカイン」其ノ他ノ痲醉劑

（ヘ）猥褻又ハ不道德ナル物品

（ト）如何ナルモノタルヲ問ハス差出國又ハ名宛國ニ於テ輸入又ハ流布ヲ禁スル物品

二　尚書留ニ非サル郵便物トシテ硬貨、銀行券及紙幣、金銀、寶石、珠玉其ノ他ノ貴重品ヲ發送スルコトヲ禁ス

右物品ニシテ誤テ引受發送シタルモノハ名宛國郵政廳カ其ノ内國ノ法律又ハ規則ニ依リ別ニ處分スルコトヲ得ル場合ヲ除クノ外之ヲ差出郵政廳ニ返送スルコトヲ要ス

尤モ爆發性、發火性又ハ危險性ノ物質及猥褻又ハ不道德ナル物品ハ差出郵政廳ニ返送セス之ヲ發見シタル郵政廳ニ於テ即時毀棄ス

三　誤テ引受發送シタル物品カ差出元ニ返送セラレス又名宛人ニ配達セラレサル場合ニ於テハ差立郵政廳ハ必要ナル處置ヲ臨機執リ得ル爲之ニ關シ通知ヲ受クルモノトス

又聯合各國ハ料金ノ低減ヲ受クル郵便物ニシテ其ノ國内ニ於ケル發行又ハ流布ノ條件ヲ規定スル法律又ハ命令ニ牴觸スルモノヲ其ノ領域内ニ於テ開嚢ニテ繼越遞送セス又ハ配達セサル權利ヲ有ス

右郵便物ハ差出郵政廳ニ之ヲ返送スルコトヲ要ス

第四十二條　料金前納ノ方法

一　料金前納ハ個人ノ通常郵便物ニ付差出國ニ於テ效力ヲ有スル郵便切手ヲ以テ之ヲ爲シ又ハ公ニ採用セラレ且郵政廳ノ直接監督ノ下ニ使用セラルル料金前納用機械ニ依ル印影ヲ以テ之ヲ爲ス

二　往復郵便葉書ノ返信部ニシテ其ノ發行國ノ郵便切手ヲ印刷シ又ハ貼附シアルモノ、郵便物ニシテ最初ノ遞送ニ對シ正當ニ料金ヲ前納シ且補充料金カ轉送前支拂ハレタルモノ竝新聞紙又ハ新聞紙ノ包束物及定期刊行物ニシテ表記ニ「Abonnement-poste」又ハ之ニ相當スル記載ヲ有シ且新聞紙及定期刊行物豫約ニ關スル約定ニ依リ發送スルモノハ正當ニ料金ヲ前納シタルモノト看做ス

三　公海ニ於テ郵船ノ郵便函ニ投入シ又ハ乘組郵便吏員若ハ船長ニ交付スル通常郵便物ハ關係郵政廳間ニ反對ノ協定アルニ非サレハ該郵船ノ所屬國又ハ維持國ノ郵便切手ヲ以テ同國ノ料金率ニ從ヒ料金ヲ前納スルコトヲ得航路ノ兩極點又ハ寄港地ノ一ニ碇泊中船内ニ於テ郵便物ヲ差出ストキハ郵船碇泊國ノ郵便切手ヲ以テ同國ノ料金率ニ從ヒ料金ヲ納付スルニ非サレハ料金前納ノ效力ナシ

第四十三條　郵便料ノ免除

一　郵便業務ニ關スル通常郵便物ニシテ郵政廳相互間、郵政廳及總理局間、聯合國ノ郵便局相互間、郵便局及郵政廳間ニ交換スルモノ竝條約、約定及其ノ施行規則ノ規定ニ依リ無料遞送ヲ明定スルモノニ付テハ郵便料ヲ免除ス

二　俘虜ニ宛テ又ハ俘虜ヨリ差出ス通常郵便物ニ付テモ亦代金引換郵便物ヲ除キ差出國、名宛國及媒介國ニ於テ總テノ郵便料金ヲ免除ス

俘虜ニ關スル通常郵便物ニシテ交戰國内ニ又ハ交戰者ヲ其ノ領域ニ收容シタル中立國内ニ此等ノ人ノ爲設置セラルルコトアルヘキ情報局カ直接ニ又ハ媒介ノ名義ニテ發受スルモノニ付亦同シ

中立國内ニ收容留置セラルル交戰者ハ前記規定ノ適用ニ關シテハ之ヲ俘虜ト看做ス

第四十四條　返信切手券

返信切手券ハ聯合國ニ於テ之ヲ賣捌ク其ノ賣價ハ當該郵政廳之ヲ決定ス但シ四十「サンチーム」又ハ發賣國ノ貨幣ニ於ケル該金額ノ相當額ヲ下ルコトヲ得ス

各切手券ハ聯合各國ニ於テ其ノ國ヲ發シ外國ニ宛ツル書狀第一通分ノ料金前納ヲ表示スル一枚又ハ數枚ノ郵便切手ニ引換フ但シ引換ハ發行ノ月ノ翌月ヨリ六月ノ期間滿了前ニ之ヲ行フコトヲ要ス

尚各國ハ返信切手券ト該切手券ノ引換ニ依リテ料金ヲ前納スヘキ通常郵便物トヲ同時ニ差出スコトヲ要求スル權能ヲ有ス

第四十五條　取戻、名宛變更

一　通常郵便物ノ差出人ハ郵便物カ名宛人ニ交付セラレサル間ハ之ヲ取戻シ又ハ其ノ名宛ヲ變更スルコトヲ得

二　之カ爲ニ爲ス請求ハ差出人ノ費用ヲ以テ郵便又ハ電信ニ依リ之ヲ送達ス差出人ハ郵便ニ依ル各請求ニ付テハ書留書狀第一通分ニ適用スル料金、電信ニ依ル各請求

ニ付テハ電報料金（名宛變更ニ關スルトキハ郵便料金ヲ加フ）ヲ支拂フコトヲ要ス

第四十六條　轉送、不能配達

一　聯合内ニ於ケル通常郵便物ノ轉送ニ付テハ施行規則ニ規定スル例外ヲ除クノ外何等ノ追加料金ヲ徵收セス

二　不能配達ト爲リタル郵便物ヲ差出人ニ還付スル場合亦同シ

轉送セラレ又ハ不能配達ト爲リタル通常郵便物ハ差立若ハ到著ノ際ニ又ハ最初ノ遞送以外ニ轉送ノ爲途中ニ於テ賦課セラレタル料金ノ支拂ト引換ニ之ヲ名宛人又ハ差出人ニ交付ス

三　何等ノ原因ヲ問ハス不能配達ト爲リタル通常郵便物ハ直ニ差出國ニ返送スルコトヲ要ス

依頼ニ依リ名宛人ノ爲ニ保管スル通常郵便物又ハ留置通常郵便物ノ保管期間ハ名宛國ノ規定ニ依リ之ヲ定ム但シ該期間ハ海外諸國トノ關係ニ於テハ六月其ノ他ノ關係ニ於テハ二月ヲ超ユルコトヲ得ス差出國ヘノ返送ハ差出人カ名宛國ニ於テ通スル國語ヲ以テ表記面ニ爲シタル記載ニ依リ之ヲ請求シタルトキハ更ニ短キ期間内ニ爲スコトヲ要ス

四　値ナキ印刷物ハ差出人カ郵便物ノ外部ニ爲シタル記載ニ依リ返送ヲ請求セサル限リ之ヲ返送セス

五　第三十九條ニ規定スル留置郵便ノ料金ハ轉送又ハ不能配達ノ場合ニハ郵便物ニ附隨セス

六　第四十條第三項ニ規定スル補充料金ハ別配達郵便物ノ轉送又ハ不能配達ノ場合ニモ之ヲ徵收ス

第四十七條　取調請求

一　各郵便物ノ取調請求ニ付テハ最高一「フラン」ノ一定料金ヲ徵收スルコトヲ得

書留郵便物ニ關シテハ差出人カ到達證ヲ受クル爲既ニ特別料金ヲ支拂ヒタルトキハ何等ノ料金ヲモ徵收セス

二　取調請求ハ郵便物差出ノ翌日ヨリ起算シ一年ノ期間内ニ非サレハ之ヲ許サス

第二章　書留郵便物

第四十八條　料金

一　第三十三條ニ掲クル通常郵便物ハ之ヲ書留トシテ發送スルコトヲ得

尤モ往復郵便葉書ノ返信部ハ其ノ郵便物ノ原差出人ニ於テ之ヲ書留ト爲スコトヲ得ス

二　各書留郵便物ノ料金ハ之ヲ前納スルコトヲ要ス該料金ハ左ノモノヨリ成ル

（イ）郵便物ノ種類ニ從フ普通ノ前納郵便料

（ロ）最高四十「サンチーム」ノ一定書留料

三　書留郵便物ノ差出人ニハ差出ノ際無料ニテ受領證ヲ交付スルコトヲ要ス

四　不可抗力ニ因リテ生スルコトアルヘキ危險ヲ負擔スル國ハ各書留郵便物ニ付最高四十「サンチーム」ノ特別料金ヲ徵收スルコトヲ得

第四十九條　到達證

書留郵便物ノ差出人ハ差出ノ際最高四十「サンチーム」ノ一定料金ヲ支拂ヒ到達證ヲ受クルコトヲ得

到達證ハ郵便物差出後ニ於テモ取調請求ニ付第四十七條ニ定ムル期間内ニ於テ前節ニ規定スル料金ノ二倍ヲ超エサル料金ヲ支拂ヒ之ヲ請求スルコトヲ得

第五十條　責任ノ範圍

次條ニ規定スル場合ヲ除クノ外郵政廳ハ書留郵便物ノ亡失ニ付其ノ責ニ任ス

差出人ハ之カ爲賠償金ヲ請求スル權利ヲ有ス其ノ額ハ郵便物一箇ニ付五十「フラン」トス

差出人カ取調請求料ヲ支拂ヒ且其ノ取調請求カ業務ニ過失アリタルコトニ因リテ爲サレタルモノナルトキハ該料金モ亦之ヲ還付ス

第五十一條　責任ノ原則ニ對スル例外

左ノ場合ニハ郵政廳ハ書留郵便物ノ亡失ニ付總テノ責任ヲ免ル

（イ）不可抗力ノ場合但シ不可抗力ノ危險ヲ引受クルコトヲ承認シタル差立郵政廳ニ在リテハ責任ハ存續ス（第四十八條第四項）

（ロ）不可抗力ニ基ク業務書類ノ毀損ニ因リ郵政廳カ郵便物ニ付調査スルコト能ハサルトキ

（ハ）包有品カ第四十一條第一項ニ規定スル禁制ニ觸ルル郵便物ニ關スルトキ

（ニ）差出人カ第四十七條ニ規定スル期間内ニ何等ノ請求ヲ爲ササリシトキ

第五十二條　責任ノ消滅

郵政廳ハ其ノ内國規則ニ規定スル條件ニ於テ配達ヲ了シタル書留郵便物ニ付テハ責任ヲ免ル

留置郵便物又ハ依頼ニ依リ名宛人ノ爲ニ保管スル郵便物ニ付テハ名宛國ニ於ケル現行規則ニ從ヒ本人タルコトヲ證明シ且氏名及身分カ名宛ノ指示ニ符合スル人ニ交付シタルトキハ責任ハ消滅ス

第五十三條　賠償金ノ支拂

賠償金支拂ノ義務ハ責任郵政廳ニ對スル求償ノ權利ヲ留保シ郵便物差立局ノ從屬スル郵政廳之ヲ負擔ス

第五十四條　支拂期間

一　賠償金ノ支拂ハ成ルヘク速ニ遲クトモ請求ノ日ノ翌日ヨリ起算シ六月ノ期間内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス該期間ハ海外諸國トノ關係ニ於テハ九月トス

二　差出郵政廳ハ正當ニ照會ヲ受ケ事件ヲ解決スルコトナク六月ヲ經過セシメタル媒介郵政廳又ハ名宛郵政廳ノ計算ニ於テ差出人ニ賠償ヲ爲スコトヲ得該期間ハ海外諸國トノ關係ニ於テハ九月トス

郵便物ノ亡失カ不可抗力ニ因ルカ否ノ決定セサルトキハ例外トシテ差立郵政廳ハ前項ニ規定スル期間ヲ超エ賠償金ノ決濟ヲ延期スルコトヲ得

第五十五條　責任ノ決定

一　郵便物ヲ異議ナク受取リ且總テノ成規ノ取調資料ヲ受領シタル郵政廳ハ名宛人ニ交付シタルコト又次ノ郵政廳ニ遞送ノ場合ニハ正當ニ遞送シタルコトヲ立證シ得サルトキハ反對ノ證據アル迄書留郵便物ノ亡失ニ付責任ヲ有ス

亡失カ遞送中ニ起リ其ノ事實カ何國ノ領域又ハ業務ニ於テ生シタルカヲ立證スルコト能ハサルトキハ關係郵政廳ハ平等ニ其ノ損害ヲ負擔ス但シ支拂フヘキ賠償金ノ全部ハ請求ヲ受ケタル郵便物ヲ相手業務ニ正當ニ遞送シタルコトヲ立證シ得サル最初ノ郵政廳ヨリ差出郵政廳ニ之ヲ拂込ムコトヲ要ス拂込ヲ爲シタル郵政廳ハ權利者ヘノ損害賠償ニ付他ノ責任郵政廳ヨリ各自ノ分擔額ヲ回收ス

二　書留郵便物カ不可抗力ニ因リテ亡失シタルトキハ其ノ領域又ハ業務ニ於テ亡失ノ生シタル郵政廳ハ雙方ノ國カ不可抗力ニ因リテ生スル危險ヲ負擔スルトキニ限リ差立郵政廳ニ對シ其ノ責ニ任ス

三　責任郵政廳ハ賠償金支拂ノ事實ニ因リ名宛人、差出人又ハ第三者ニ對シ爲スコトアルヘキ總テノ請求ノ權利ニ付其ノ賠償金額ニ達スル迄賠償金ヲ受取リタル人ニ代位ス

第五十六條　差立郵政廳ニ對スル賠償金ノ償還

責任郵政廳又ハ第五十四條ニ依リ支拂カ自廳ノ計算ニ於テ爲サレタル郵政廳ハ支拂ノ通知後三月ノ期間内ニ差立郵政廳ニ賠償金額ヲ償還スヘキモノトス

右償還ハ貸方郵政廳ニ費用ヲ負擔セシムルコトナク郵便爲替、手形又ハ貸方國ニ於テ流通スル貨幣ヲ以テ之ヲ行フ三月ノ期間經過シタルトキハ差立郵政廳ニ支拂フヘキ金額ハ該期間滿了ノ日ヨリ起算シ年七分ノ割合ヲ以テ利子ヲ生ス

責任アルコトヲ確證セラレタル郵政廳ニシテ最初賠償金ノ支拂ヲ拒ミタルモノハ支拂ノ不當ノ遲延ヨリ生スル總テノ附隨ノ費用ヲ負擔スルコトヲ要ス

尤モ郵政廳ハ差出人ニ支拂ヒタル賠償金ニシテ理由アリト認メタルモノニ付テハ定期ニ清算スル爲協議スルコトヲ得

第五十七條　聯合ノ境域外ノ書留郵便物ニ關スル責任

聯合外ノ國ニ宛テ若ハ聯合外ノ國ヨリ發シ又

ハ該國ノ繼越スル書留郵便物ニ關スル責任ハ左ノ規定ニ從フ

(イ) 聯合ノ境域內ノ遞送ニ付テハ條約ノ條款ニ依ル

(ロ) 聯合ノ境域外ノ遞送ニ付テハ媒介ヲ爲ス聯合郵政廳ヨリ通知スル條件ニ依ル

第三章　代金引換郵便物

第五十八條　料金及條件、清算

一　書留通常郵便物ハ郵政廳カ代金引換業務ヲ施行スルコトヲ協定スル諸國間ノ關係ニ於テハ代金引換トシテ之ヲ發送スルコトヲ得

反對ノ協定アルニ非サレハ代金引換金額ハ郵便物差出國ノ貨幣ニテ之ヲ表示ス

代金引換金額ノ最高限ハ郵便物ノ差出國ニ宛ツル郵便爲替ニ付定ムル最高限ト同一トス

代金引換郵便物ハ書留郵便物ノ要件及料金ニ從フ

尙差出人ハ二十「サンチーム」ヲ下ラス五十「サンチーム」ヲ超エサル一定料金及代金引換金額ノ二百分ノ一ノ比例料金ヲ支拂フヘシ差立郵政廳ハ其ノ貨幣制度ノ便宜ニ從ヒ該料金ヲ全數ト爲ス權能ヲ有ス

二　名宛人ヨリ取立テタル代金額ハ郵便爲替ニ爲シタル上ハ第六十二條ノ保證

名宛人ヨリ正當ニ取立テタル金額ハ郵便爲替ニ爲シタル上ハ第六十二條ノ保證

(イ) 名宛人ヨリ正當ニ取立テタル金額ハ郵便爲替ニ爲シタル上ハ第六十二條ノ保證

(ロ) 聯合ノ境域內ノ遞送ニ付テハ條約ノ條款ニ依ル

(ハ) 聯合ノ境域外ノ遞送ニ付テハ媒介ヲ爲ス聯合郵政廳ヨリ通知スル條件ニ依ル

第三章　代金引換郵便物

第五十八條　料金及條件、清算

一　書留通常郵便物ハ郵政廳カ代金引換業務ヲ施行スルコトヲ協定スル諸國間ノ關係ニ於テハ代金引換トシテ之ヲ發送スルコトヲ得

反對ノ協定アルニ非サレハ代金引換金額ハ郵便物差出國ノ貨幣ニテ之ヲ表示ス

代金引換金額ノ最高限ハ郵便物ノ差出國ニ宛ツル郵便爲替ニ付定ムル最高限ト同一トス

代金引換郵便物ハ書留郵便物ノ要件及料金ニ從フ

尙差出人ハ二十「サンチーム」ヲ下ラス五十「サンチーム」ヲ超エサル一定料金及代金引換金額ノ二百分ノ一ノ比例料金ヲ支拂フヘシ差立郵政廳ハ其ノ貨幣制度ノ便宜ニ從ヒ該料金ヲ全數ト爲ス權能ヲ有ス

二　名宛人ヨリ取立テタル金額ハ無料ニテ振出ス代金引換證ト之ヲ交付ス

郵政廳ハ取立テタル金額ノ清算ニ付他ノ方法ヲ協議スルコトヲ得殊ニ郵政廳ハ協定條件ニ於テ郵便物ノ名宛國ニ於ケル郵便振替口座ニ該金額ノ拂込ヲ擔當スルコトヲ得

第五十九條　代金引換金額ノ取消

代金引換書留郵便物ノ差出人ハ代金引換金額ノ全部又ハ一部ノ取消ヲ請求スルコトヲ得

此ノ種ノ請求ハ取戻又ハ名宛變更ノ請求ニ於ケルト同一ノ規定ニ從フ(第四十五條)

第六十條　郵便物亡失ノ場合ノ責任

代金引換書留郵便物ノ亡失ニ付テハ第五十條及第五十一條ニ定ムル條件ニ於テ郵便業務其ノ責任ヲ負フ

第六十一條　正當ニ取立テタル金額ノ保證

正當ニ取立テタル金額ハ郵便爲替ニ爲シタル上ハ第六十二條ノ保證

名宛人ヨリ正當ニ取立テタル金額ハ郵便爲替ニ爲シタル上ハ第六十二條ノ保證

一　代金引換金額ヲ取立テシテ郵便物ヲ名宛人ニ交付シタルトキハ差出人ハ第四十七條第二項ニ規定スル期間內ニ請求ヲ爲シ且不取立カ自己ノ過失若ハ懈怠ニ因ラス又郵便物ノ包有品カ第四十一條ニ規定スル禁制ニ觸レサル限リ賠償金ヲ請求スル權利ヲ有ス

名宛人ヨリ取立テタル金額カ指示セラレタル代金引換金額ニ達セサルカ又ハ取立カ詐欺ニ依リ爲サレタルトキ亦同シ

賠償金ハ如何ナル場合ニモ代金引換金額ヲ超ユルコトヲ得ス

二　責任郵政廳ハ賠償金支拂ノ事實ニ因リ且其ノ金額ニ達スル迄名宛人又ハ第三者ニ對シ爲スコトアルヘキ總テノ請求ノ權利ニ付差出人ニ代位ス

第六十三條　正當ニ取立テタル金額、賠償金、支拂及求償

正當ニ取立テタル金額及前條ノ賠償金ノ支拂ノ義務ハ責任郵政廳ニ對スル求償ノ權利ヲ留保シ郵便物差立局ノ從屬スル郵政廳之ヲ負擔ス

第六十四條　支拂期間

書留郵便物ノ亡失ニ對スル賠償金ノ支拂期間ニ關スル第五十四條ノ規定ハ取立テタル金額又ハ代金引換郵便物ニ對スル賠償金ノ支拂ニ之ヲ適用ス

第六十五條　責任ノ決定

正當ニ取立テタル金額ノ差立郵政廳ニ依ル支拂及第六十二條ニ規定スル賠償金ノ支拂ハ名宛郵政廳ニ於テ之ヲ爲ス名宛郵政廳ハ過失カ差立郵政廳ノ成規ニ違背ニ因ルコトヲ證明シ得サル限リ其ノ責ニ任ス

第六十八條　代金引換ノ料金ノ分配

第五十八條第一項末節ニ規定スル料金ハ差出郵政廳及名宛國郵政廳間ニ施行規則ニ規定スル條件ニ於テ之ヲ等分ス

兩郵政廳カ同額ノ代金引換ノ一定料金ヲ徵收セサル場合ニ於テハ相手郵政廳ニ對當ツヘキ分配額ハ最少料金ヲ基礎トシテ之ヲ算出ス

第四章　料金ノ歸屬、繼越料及保管料

第六十九條　料金ノ歸屬

條約ニ明瞭ニ規定スル場合ヲ除クノ外各郵政廳ハ其ノ徵收シタル金額ヲ全部收得ス

第七十條　繼越料

一　聯合ノ二郵政廳間ニ他ノ一箇又ハ數箇ノ郵政廳ノ業務(第三業務)ニ依リ閉襲ニテ交換スル通常郵便物ニ付テハ各通過國ノ利益ノ爲又ハ業務カ遞送ニ關與スル各國ノ利益ノ爲左表ニ指示スル繼越料ヲ支拂フ

一「キログラム」毎ニ	書狀及郵便葉書	其ノ他ノ物品
「フラン」	「サンチーム」	「サンチーム」
〇、一五	七五	一五
〇、二〇	一、〇〇	二〇
〇、三〇	一、五〇	三〇
〇、四〇	二、〇〇	四〇
〇、五〇	二、五〇	五〇
〇、七五	三、五〇	七五
一、〇〇	四、〇〇	一、〇〇
一、二五	四、五〇	一、二五
一、四〇	五、〇〇	一、四〇
一、五〇	六、〇〇	一、五〇

一　陸路

一、〇〇〇「キロメートル」迄

一、〇〇〇「キロメートル」ヲ超エ二、〇〇〇「キロメートル」迄

二、〇〇〇「キロメートル」ヲ超エ三、〇〇〇「キロメートル」迄

三、〇〇〇「キロメートル」ヲ超エ六、〇〇〇「キロメートル」迄

六、〇〇〇「キロメートル」ヲ超エ九、〇〇〇「キロメートル」ヲ超エサルトキ

二　海路

三〇〇海里迄

三〇〇海里ヲ超エ一、五〇〇海里迄

歐羅巴及北亞米利加間

一、五〇〇海里ヲ超エ六、〇〇〇海里迄

六、〇〇〇海里ヲ超エサルトキ

二　三百海里ヲ超エサル航程ノ海路遞送ニ對スル繼越料ハ關係郵政廳カ遞送郵便物ニ付館ニ陸路繼越ニ對スル報酬ヲ受取リタルトキハ前項ニ規定スル金額ノ三分ノ一トス

三　二箇以上ノ郵政廳カ行フ海路遞送ノ場合ニハ全遞送ノ料金ハ書狀及郵便葉書一「キログラム」毎ニ六「フラン」其ノ他ノ物品ニ「キログラム」毎ニ七十五「サンチーム」ヲ超エルコトヲ得ス該料金ノ合計カ夫夫六「フラン」及七十五「サンチーム」ヲ超エルトキハ遞送ニ關與スル郵政廳間ニ遞送距離ニ應シ之ヲ分配ス但シ關係郵政廳間ニ別段ノ協定ヲ爲スコトヲ妨ケス

四　二國間ニ直接行フ海路遞送ニシテ其ノ一國ニ屬スル船舶ニ依ルモノ及同一國ノ二局間ニ他國ニ屬スル業務ノ媒介ニ依リ行フ遞送ハ反對ノ協定アルニ非サレハ第三業務ト看做ス

五　聯合ノ二郵政廳間ニ開襲ニテ交換スル通常郵便物ニ付テハ重量及名宛地ニ拘ラス左ノ繼越料ヲ支拂フ

書狀　一箇　六「サンチーム」

郵便葉書　一箇　二「サンチーム」半

其ノ他ノ物品　一箇　二「サンチーム」半

尤モ郵政廳ハ重量二百五十「グラム」ヲ超ユル開襲ニテ差立ツル郵便物ヲ閉襲郵便物ト看做スコトヲ得

六　新開紙及定期刊行物豫約ニ關スル約定ニ依リ差立ツル新聞紙又ハ新聞紙ノ包束物及定期刊行物並價格表記ノ書狀及箱物ニ關スル約定ニ依リ差立ツル郵便物ヲ閉襲郵便物ト看做ス

七　郵政廳ハ實際ト著シク相違スト思料スル統計ノ結果ヲ仲裁委員會ノ評定ニ付スルコトヲ得該仲裁ハ第十條ニ規定スル所ニ從ヒ之ヲ組織ス

第七十一條　保管料

郵船ノ齎ラタル閉襲ニシテ他ノ郵船ニ積換ヘラルヘキモノノ港ニ於ケル保管ニ付テハ保管

地ノ郵政廳ハ陸路又ハ海路ノ繼越業務ニ對シ支拂ヲ受ケサルトキハ其ノ利益ノ爲行襲一箇ニ付五十「サンチーム」ノ報酬ノ支拂ヲ受ク

第七十二條　繼越料ノ免除

第四十三條ニ記載スル郵便物ノ通常郵便物、差出國ニ返送スル往復郵便葉書ノ返信部、轉送郵便物、不能配達郵便物、到達證、郵便爲替其ノ他郵便業務ニ關スル總テノ書類殊ニ郵便振替ニ關スル郵便物ニ付テハ陸路又ハ海路ノ全繼越料ヲ免除ス

課送ノ郵便物ハ繼越料及保管料ノ支拂ニ關シテハ普通ノ線路ヲ經由シタルモノト看做ス

第七十三條　特殊業務

第七十條ニ揭クル繼越料ハ郵政廳カ他ノ一箇又ハ數箇ノ郵政廳ノ依頼ニ依リ特ニ開設シ又ハ維持スル特殊業務ニ依リテ爲ス聯合內ノ遞送ニハ之ヲ適用セス此ノ種ノ遞送ニ關スル條件ハ關係郵政廳間ニ協議ヲ以テ之ヲ定ム

第七十四條　規定

第七十條ニ規定スル繼越料ハ二國以上ノ間ニ於ケル通常郵便物ノ遞送ノ爲施設スル航空業務ニハ之ヲ適用セス

航空路ニ依リテ爲ス各遞送ニ對スル遞送料ハ事業費ヲ分擔セシテ業務ヲ使用スル總テノ郵政廳ニ對シ均一トス

航空業務ノ直接連絡アル國ノ郵政廳ハ當該會社ト協議ヲ遂ケ其ノ會社ノ航空機ニ依リテ行フ遞送ニ對シ其ノ各領域ノ發著場ニ於テ搭載スル郵便物ニ付遞送料ヲ決定スル但シ航空業務ノ屬スル各郵政廳ハ該業務ニ依ル全遞送ニ對スル遞送料ヲ之カ使用ヲ爲ス各郵政廳ヨリ直接徵收スル權利ヲ有ス

逐次數箇ノ各別ナル航空業務ニ依ル郵便物ノ途中ノ積換ノ行ハルル國ノ郵政廳ノ媒介ニ依リ之ヲ爲スヘキモノトス本規定ハ該積換カ同一業務ノ連續スル區間ヲ航空スル航空機ノ間ニ於テ行ハルルトキハ之ヲ適用セス

第七十五條　支拂及差引計算

繼越料及保管料ハ差出國郵政廳ノ負擔トス

右料金ノ總差引計算ハ五年毎ニ一回施行規則ニ於テ定ムル二十八日ノ期間內ニ調査作成スル統計資料ニ從ヒ之ヲ爲ス

二　郵政廳間ニ於ケル繼越料及保管料ノ差引計算ノ年差額カ千「フラン」ヲ超エサルトキハ借方郵政廳ハ之ニ關シ總テノ支拂ヲ免除セラル

第七十六條　聯合外ノ國トノ關係ニ於ケル繼越料

一　聯合外ニ在ル國ト關係ヲ有スル郵政廳ハ聯合ノ境域內ニ於ケルト同樣聯合外ニ於テモ第七十條ニ定ムル繼越料ヲ通常郵便物ニ適用スル爲他ノ總テノ聯合郵政廳ニ幇助ヲ與フルコトヲ要ス

尤モ聯合內及聯合外ノ海路ノ繼越料ノ總額ハ書狀及郵便葉書一「キログラム」毎ニ十五「フラン」其ノ他ノ物品一「キログラム」毎ニ一「フラン」ヲ超ユルコトヲ得ス該料金ハ場合ニ依リ遞送ニ關與スル郵政廳間ノ距離ニ應シ之ヲ分配ス

本條ヲ適用スル通常郵便物ノ陸路又ハ海路ノ繼越料ハ聯合ノ境域內ニ於ケルト同樣聯合ノ境域外ニ於テモ聯合ノ他國ノ業務ニ依リ聯合國間ニ交換スル通常郵便物ニ對スル繼越料ト同一ノ方式ニ依リ之ヲ算定ス

第七十七條　軍艦ト閉襲ノ交換

閉襲ハ締約國ノ一國ノ郵便局ト外國ニ在ル同國ノ軍艦若ハ軍艦ノ指揮官トノ間又ハ該軍艦若ハ軍艦ノ指揮官ト同國ノ他ノ軍艦若ハ軍艦ノ指揮官トノ間ニ他國ニ屬スル陸路又ハ海路ノ業務ノ媒介ニ依リ之ヲ交換スルコトヲ得

二　右閉襲ニ納ムル各種ノ通常郵便物ハ閉襲ノ名宛艦又ハ差立艦ノ將校及乘組員ノ發受スルモノニ限ル該郵便物ニ適用スヘキ郵送ノ料金率及條件ハ軍艦ノ屬スル國ノ郵政廳其ノ內國規則ニ依リ之ヲ定ム

三　關係郵政廳間ニ反對ノ協定アルニ非サレハ右閉襲ノ差立郵政廳又ハ名宛郵政廳ハ媒介郵政廳ニ對シ第七十條ノ規定ニ依リ算出スル繼越料ヲ負擔ス

諸種ノ規定

第七十八條　繼越ノ自由ノ不遵守

繼越ノ自由ニ關スル第二十五條ノ規定ヲ遵守セサル國アルトキハ郵政廳ハ同國トノ郵便業務ヲ廢止スル權利ヲ有ス該郵政廳ハ其ノ處置ニ付豫メ電報ニ依リ關係郵政廳ニ通知スルコトヲ要ス

第七十九條　約束

締約國ハ左ノ目的ノ爲必要ナル處置ヲ執リ又ハ之ヲ其ノ夫夫ノ立法機關ニ提議スルコトヲ約ス

(イ) 國際返信切手券ノ僞造及詐欺使用竝郵便物ノ料金前納ノ爲ニスルヲ僞造シ又ハ既ニ使用シタル郵便切手及僞造シ又ハ既ニ使用シタル料金前納用機械ニ依ル印影ノ詐欺使用ヲ處罰スルコト

(ロ) 加入國ノ一國ノ郵政廳ニ於テ發行スル切手類ト混同シ易キ樣僞造シ又ハ模造シタル郵便業務ニ於テ使用スル切手類ノ製造、販賣、行商又ハ頒布ノ詐欺行爲ヲ禁遏スルコト

(ハ) 郵便本人票ノ製造及洗布ノ詐欺行爲竝本人票ノ詐欺使用ヲ處罰スルコト

(ニ) 聯合ノ條約及約定ニ依リ挿入スルコトヲ明瞭ニ許サルル場合ヲ除クノ外阿片、「モルヒネ」、「コカイン」其ノ他ノ痲醉劑ヲ郵便物ニ挿入スルコトヲ防止シ且場合ニ依リ之ヲ處罰スルコト

最終規定

第八十條　條約ノ實施及存續期間

本條約ハ千九百二十五年十月一日ヨリ之ヲ實施シ無期限ニ其ノ效力ヲ有スヘシ

右證據トシテ前揭諸國ノ全權委員ハ瑞典國政

府ノ記錄ニ寄託保存セラルヘキ本條約一通ニ署名シタリ其ノ謄本一通ハ各締約國ニ交付セラルヘシ

千九百二十四年八月二十八日「ストックホルム」ニ於テ之ヲ作成ス

南阿弗利加聯邦
イー、エー、スターマン代理ディー、ジェー、オーケリー

「アルバニア」國
デーヴィット、ジアーストレオム

獨逸國
ヴェーシェンク
カー、オルト

亞米利加合衆國
ジヨセフ、ステユアート
ユージェーヌ、アール、ホワイト
エドウィン、サンズ

「フイリッピン」諸島ヲ除ク亞米利加合衆國屬島全體
ジヨセフ、ステユアート
ユージェーヌ、アール、ホワイト
エドウィン、サンズ

「グレート、ブリテン」國竝英國諸殖民地及保護領
エフ、エッチ、ウイリアムソン
イー、エル、アッシュレー、フォークス
ダブリュー、ジー、ギルバート

希臘國
ペンセルーダキス
ジェー、ラクニダキス

「グアテマラ」國

「ハイティ」共和國
カール、シュリター

「ホンデュラス」共和國

「ハンガリー」國
オード、フェイエル
ジー、バロン、サライ

英領印度
ジヨツフレー、クラーク
ヘマンタ、クンマル、ラハ

「アイルランド」自由國
マメルト、ウリオラヴイティア、イホ

「ブラジル」國
アー、デ、アルメイダ、ブランダン
ジー、エンリーケ、アデルネ

「ブルガリア」國
エヌ、ポシイユナコフ
セント、イヴアノフ

「カナダ」
ピーター、ティー、クーリカン

「チリ」國
セサル、レオン
エレ、ターグレ、サリーナス
セー、ヴエルネウィール

支那國
戴陳林

「コロンビア」共和國
ルイス、セラーノ、ブランコ

「コスタ、リカ」共和國
ヴエー、アンデルソン

「キユバ」共和國
ホセー、デー、モラーレス、ディアス
セサル、カルヴアーリヨ

丁抹國
ツエー、モンドルプ
ホルムブラード

「ダンチッヒ」自由市
ドクトル、アルフレッド、ウイソッキー
ドクトル、マージアン、ブラッシアー

「ドミニカ」共和國
シー、ジー、エフ、ハゲストレオム

「エジプト」國
エッチ、マズルーム
イー、マッギアー
ロー、ペイプラヒム

「エクアドル」國

西班牙國
エル、コンデ、デ、サン、エステーバン、デ、
デ、カニヨンヅ
ホセー、モレーノ、ビネーダ
アー、カマーチヨ
西班牙國殖民地

「エストニア」國
エドワード、ウィルゴ

「エシオピア」國
ペー、マルコス
アー、ブッソン

「フインランド」國
ゲー、エー、エファルプレヒト

佛蘭西國
エム、ルポン、
ロベール、イッゲ
アー、ボディー
ドゥアルシュ
ジェー、ペシェル

「アルジエリー」
アッシュ、トルーイエ

印度支那ノ佛蘭西國殖民地及保護領
アンドレ、トウーゼ

其ノ他ノ佛蘭西國殖民地全體
ジェー、ピリアス
ジネストウー

「グレート、ブリテン」國竝英國諸殖民地及保護領
エフ、エッチ、ウイリアムソン
イー、エル、アッシュレー、フォークス
ダブリュー、ジー、ギルバート

希臘國
ペンセルーダキス
ジェー、ラクニダキス

「グアテマラ」國

「ハイティ」共和國
カール、シュリター

「ホンデュラス」共和國

「ハンガリー」國
オード、フェイエル
ジー、バロン、サライ

英領印度
ジヨツフレー、クラーク
ヘマンタ、クンマル、ラハ

「アイルランド」自由國
マルティン、ヴイセンテ、サルト

「エストニア」國
エドワード、ウィルゴ

「エシオピア」國
ペー、マルコス
アー、ブッソン

「フインランド」國
ゲー、エー、エファルプレヒト

佛蘭西國
エム、ルポン、
ロベール、イッゲ
アー、ボディー
ドゥアルシュ
ジェー、ペシェル

「アルジエリー」
アッシュ、トルーイエ

印度支那ノ佛蘭西國殖民地及保護領
アンドレ、トウーゼ

其ノ他ノ佛蘭西國殖民地全體
ジェー、ピリアス
ジネストウー

「グレート、ブリテン」國竝英國諸殖民地及保護領
エフ、エッチ、ウイリアムソン
イー、エル、アッシュレー、フォークス
ダブリュー、ジー、ギルバート

希臘國
ペンセルーダキス
ジェー、ラクニダキス

「グアテマラ」國

「ハイティ」共和國
カール、シュリター

「ホンデュラス」共和國

「ハンガリー」國
オード、フェイエル
ジー、バロン、サライ

英領印度
ジヨツフレー、クラーク
ヘマンタ、クンマル、ラハ

「アイルランド」自由國

ホセー、モレーノ、ビネーダ

アー、カマーチヨ

「メキシコ」國
ホセー、ヴエー、チアーヴエス

エレ、ニエート

「ニカラグア」國

諸威國
クラウス、ヘルシング
オスカー、ホンメ

「ニユージーランド」
エー、ティー、マークマン

「パナマ」共和國
ホセー、デー、モラーレス
セサル、カルヴアーリヨ

「パラグアイ」國
グンナル、ラングボルグ

和蘭國
シユロイデル
ジー、エス、ファン、ヘルダー
ジー、エム、ラメルス

蘭領印度
イー、ジー、ミルボルン
エム、ウエ、エフ、ヘルデス、オーステル
ベーク代理イー、ジー、ミルボルン
亞米利加ニ於ケル和蘭國殖民地
イー、ジー、ミルボルン
エム、ウエ、エフ、ヘルデス、オーステル
ベーク代理イー、ジー、ミルボルン

「ペルー」國
エミール、エクトール

「ペルシア」國
ファヒメッド、ドウレー
イー、バイアー

「ポーランド」國
ドクトル、アルフレッド、ウイソッキー
ドクトル、マージアン、ブラッシアー

「ポルトガル」國
エンリーケ、ムーシニヨ、ダルブケルケ
アダルベルト、ダ、コスタ、ヴエイガ

「ポルトガル」國殖民地
阿弗利加ノ「ポルトガル」國殖民地
ジユヴエナル、エルヴアス、プロリアード、

サンタ、バルバーラ

亞細亞及太洋洲ノ「ポルトガル」國殖民地
ジヨアキム、ビーレス、フェレイラ、シアーヴエス

「ルーマニア」國
ジヨージ、レツカ

「サン、マリノ」共和國
ベルチヴアル、カリンガ

「サルヴアドル」國

「ザール」河地方
ペー、グールティ

「セルブ、クロアート、スロヴエーヌ」王國
ドラグーティン、ディミトリエヴイツチ
サヴア、トウドウンジツチ
ミロス、コヴアチエヴイツチ
ストイザ、クルバヴアック

暹羅王國
フイア、サンバキッチ、プリーチア

瑞典國
ユリウス、ユーリン
グスタフ、キールマルク
グンナル、ラーゲル
トーレ、ウエンクヴイスト

瑞西國
ペー、デュボア
セー、ロシユ

「チエッコ、スロヴアキア」國
ジユドル、オトカール、ルージチカ
ジヨセフ、ザブロドスキー

「テュニス」國
エフ、ジアンティ

バルバラ

土耳其國
メーメード、サブリ代理ベハ、タリー
ベハ、タリー

「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦
ヴエー、オッシンスキー
ヴエー、ドヴゴレエフスキー
エー、ヒルシュヘルド
エー、シレウィッチ

カテイフス

ヴエー、チッチッナドセー

「ウルグアイ」國
アドルフォ、アゴーリオ

「ヴエネズエラ」合衆國
ルイス、アレハンドロ、アギラール

條約ノ最終議定書
下ニ署名スル全權委員ハ本日附ヲ以テ締結シタル萬國郵便條約ニ署名スルニ際シ左ノ通協定シタリ

一　通常郵便物ノ取戻

書狀	最初ノ各階段	最低限（金ニ於ケル値）「サンチーム」	最高限（金ニ於ケル値）「サンチーム」
郵便葉書	通常	二〇	四〇
	往復	一二	二四
印刷物（五十「グラム」毎ニ）		一二	二四
盲人用點字印刷物（千「グラム」毎ニ）		四	四八
業務用書類（五十「グラム」毎ニ）		四	八
業務用書類（最低料金）		四	八
商本見本（五十「グラム」毎ニ）		二〇	四〇
商品見本（最低料金）		四	八

（續）

條約第四十五條ノ規定ハ內國法制ニ於テ差出人ノ請求ニ因ル通常郵便物ノ取戻ヲ許サル「グレート、ブリテン」國竝英國諸自治領、殖民地及保護領ニ之ヲ適用セス

一　相當額、最高限及最低限

各國ハ左表ノ指示ノ通第三十四條第一項ニ規定スル料金ニ付其ノ百分ノ六十迄ヲ引上ケ又ハ該料金ヨリ其ノ百分ノ二十迄ヲ引下ケル權能ヲ有ス

選定シタル料金ハ成ルヘク其ノ間ニ基本料金ノ間ニ於ケル同一ノ割合ヲ保持スルコトヲ要ス各郵政廳ハ其ノ貨幣制度ノ便宜ニ從ヒ其ノ料金ヲ全數ト爲ス權能ヲ有ス

二　各國ハ通常郵便葉書ノ料金ヲ十「サンチーム」ニ又往復郵便葉書ノ料金ヲ二十「サンチーム」ニ引下クルコトヲ得

三　印刷物ノ料金ハ例外トシテ五十「グラム」ノ階段毎ニ之ヲ三「サンチーム」ニ引下クルコトヲ得

四　各國ハ其ノ國民ニ支拂フヘキ金額ニ關シテハ第五十條ニ規定スル賠償金ヲ隨意ニ定ムルコトヲ得

尤モ關係郵政廳間ノ計算ノ決濟ハ五十「フラン」ノ金額ニ基キ之ヲ爲ス

五　一國ニ於テ採用シタル料金率ハ料金ノ未納又ハ不足ニ因リテ到著ノ際徵收スヘキ料金ニ之ヲ適用ス

三　料金前納ノ義務ヲ規定スル權能

一國カ其ノ料金ヲ書狀ノ最初ノ重量階段ニ付テハ二十「サンチーム」未滿、郵便葉書及其ノ他ノ物品ニ付テハ相當金額未滿ニ下ル儘ニ爲シ置クトキハ他國ハ該國宛ノモノニ關シテハ義務的料金前納ヲ適用スルコトヲ得且該國ヨリ發スル料金ノ未納又ハ不足ノ通常郵便物ハ料金ヲ課スルコトナク之ヲ配達スルコトヲ得該國モ亦料金前納ノ義務ヲ規定スル權利ヲ有ス

倘各國ハ二國ノ料金ニ差異アル爲公衆ニ於テ往復郵便葉書ヲ濫用スルコトヲ得ルトキハ相手國トノ關係ニ於テ往復郵便葉書ヲ許ササル權能ヲ有ス